愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第 196 集

モリ下遺跡

2015

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛 知 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第 196 集

モリ下遺跡

2015

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛 知 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー

序

愛知県新城市は、織田・徳川連合軍が鉄砲隊によって武田軍をしりぞけた長篠・設楽原の戦いによって、全国の歴史ファンにその名が知られています。

モリ下遺跡は、その長篠・設楽原の戦いを溯ることおよそ1300年前に栄えた古墳時代前期の集落であることが、今回の発掘調査によってわかりました。

このように重要な調査成果が収められた本報告書が、この地域の歴史研究、そして全国の古墳時代研究に寄与することを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査ならびに報告書作成に際し、多大なご協力を賜りました原因者をはじめとする多くの方々に感謝いたします。

平成27年3月

公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団

理事長　伊藤克博

例　言

1.　本書は、愛知県新城市八束穂に所在するモリ下遺跡（もりしたいせき：県遺跡番号 760286）の発掘調査報告書である。遺跡の所在地は、北緯 34 度 55 分 33 秒、東経 137 度 32 分 4 秒（世界測地系）である。

2.　調査は、第二東海自動車道横浜名古屋線建設にともなう事前調査として、愛知県埋蔵文化財センターが愛知県教育委員会を通じて委託を受けて実施した。調査対象面積は 6,600 ㎡である。

3.　発掘調査は、平成 20 年 9 月から平成 21 年 3 月および平成 21 年 6 月から 11 月にかけて実施し、整理および報告書作成作業は平成 25 年 4 月から平成 27 年 3 月にかけて実施した。

4.　現地における発掘調査は、平成 20 年度は朝日航洋（株）の支援を受けて、宮腰健司（現・統括専門員）・樋上　昇（調査研究専門員）・岡久雅浩（調査研究主事―現・愛知県立岡崎北高等学校教諭）が、平成 21 年度は大成エンジニアリング（株）の支援を受けて、松田　訓（調査研究専門員）・亀甲真史（調査研究主事―現・愛知教育大学付属特別支援学校教諭）が担当しておこなった。

5.　調査にあたっては、愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室、愛知県埋蔵文化財調査センター、新城市教育委員会、中日本高速道路（株）をはじめとして、多くの関係諸機関のご協力を得た。

6.　本書の執筆は、伊藤　茂・尾嵜大真・安　昭炫・佐藤正教・丹生越子・廣田正史・山形秀樹・小林紘一・Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjliani・小林克也・中村賢太郎・佐々木由香・バンダリ スダルシャン（以上、（株）パレオ・ラボ）、井上　巌（（株）第四紀　地質研究所）、蔭山誠一・川添和暁・鬼頭　剛・樋上　昇（以上、愛知県埋蔵文化財センター）が分担し、 編集は樋上がおこなった。執筆分担については、目次に執筆者名を記した。

7.　整理作業は、樋上　昇が担当した。作業にあたっては次の方々、諸機関の助力を得た。
瀧　智美・時田典子、（整理補助員）、金子知久（写真工房　遊）、アルケーリサーチ（株）、国際文化財（株）、ナカシャクリエイティブ（株）、（株）ラング

8.　本書に示す座標数値は、国土交通省に定められた平面直角座標第 VII 系に準拠する。海抜表記は東京湾平均海面（T.P.）の数値である。ただし、表記は旧測地系（日本測地系）とした。

9.　本書に示す土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帳』による。

10. 遺物の登録は、本書図版の掲載番号を元に整理をおこなった。

11. 本書中の各遺構番号については、以下のアルファベットによる分類記号を調査時のまま使用した。
SA：柵列、SB：掘立柱建物、SD：溝、SK：土坑、SI：竪穴建物、SX：その他の遺構

10. 写真および図面などの調査にかかわる記録類は、愛知県埋蔵文化財センターで保管している。
（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
〒 498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24（0567-67-4161）

11. 出土遺物は、愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。
愛知県埋蔵文化財調査センター
〒 498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24（0567-67-4164）

12. 本書を作成するにあたり、次の方々、諸機関から多くのご指導とご助言を得た。記して感謝したい。
伊藤正人・岩山欣司・大塚達朗・長田友也・城ヶ谷和広・都築暢也・増子康眞・松本泰典・村上　昇・渡辺　誠（敬称略、50 音順）

目 次

挿図 目次

表　目次

図版　目次

写真図版

第１章　調査の概要

1. 調査に至る経緯と調査の経過

モリ下遺跡は新城市八束穂字宮脇に所在している。地形的には標高 628.3m の雁峰山から南に伸びる低丘陵の末端に位置している。本遺跡が立地する丘陵は最高所で標高 103.3m を測り、その南方には神明神社が鎮座する。神明神社の南斜面は比高差が 15m 近い急斜面で、そこから南西方向に開けた標高約 81m の緩斜面にモリ下遺跡が展開している。遺跡の西側には豊川の支流である五反田川によって形成された狭い谷筋が南北方向に伸びている。

本遺跡は第二東海自動車道横浜名古屋線（新東名高速道路）建設の事前調査で、中日本高速道路株式会社豊川工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成 20 年度と平成 21 年度の２カ年にわたっておこなった。

平成 20 年度は調査予定地の西側 3100 ㎡を西から 08A 区・B 区の２調査区に分けて掘削し、翌年度はその東を 09 区として 3500 ㎡調査した。

調査担当者は平成 20 年度が宮腰健司･樋上 昇･岡久雅浩の３名で、平成 21 年度は松田 訓・亀甲真史の２名。

入札による支援業者は平成 20 年度が朝日航洋株式会社で、調査体制は以下の通り。

現場代理人　浅田良治
調査補助員　城前喜英
測量技師　尾崎祐司
測量補助員　安藤貢一

平成 21 年度は大成エンジニアリング株式会社で、調査体制は以下の通りである。

現場代理人　浅見克己
調査補助員　村田道博→村上孝司
測量技師　大川康裕

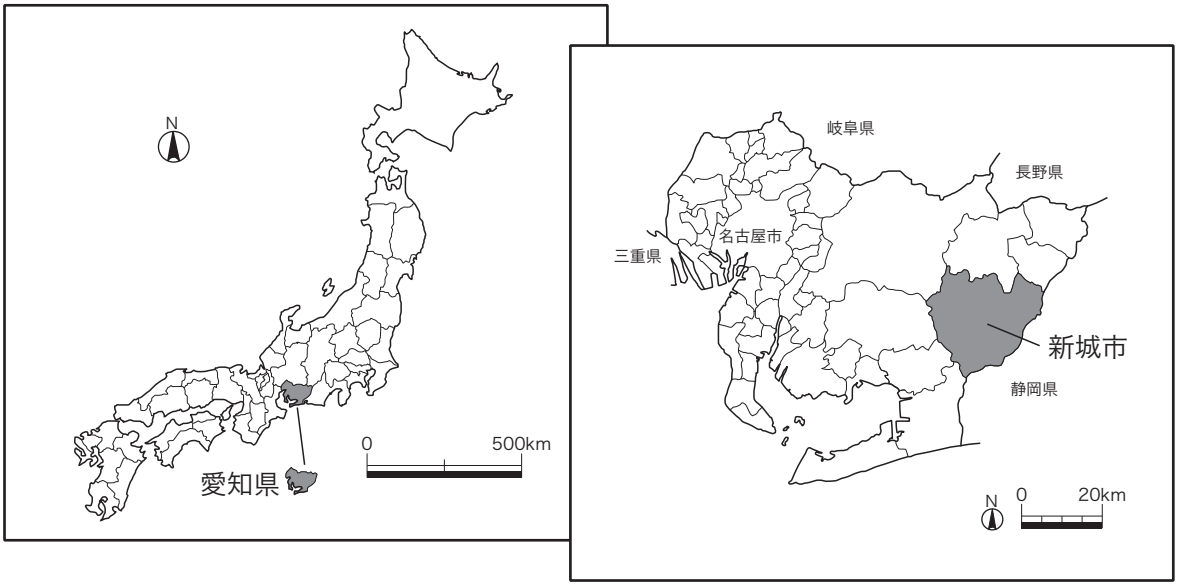


図 1-1　新城市位置図（須長 10 号墳報告書より転載）

調査期間は、平成20年度は同年9月16日よりフェンス設置等の準備工を開始し、9月24日にA区より重機による表土はぎの開始。10月3日より遺構検出と掘削。全景撮影が12月12日。1週間の補足調査を経て埋め戻しと共に平成21年1月6日よりB区の表土はぎ開始。1月13日より遺構検出と掘削。2月28日に地元説明会(参加者75名)。3月2日に全景撮影をおこない、3月9日より補足調査。3月12日に調査終了。3月16日より埋め戻しを開始し、3月18日に調査完了。

平成21年度は6月2日より表土はぎ開始。6月10日より上面の遺構検出と掘削。8月20日に上面遺構の全景撮影。8月24日より下面遺構の検出と掘削。10月17日に地元説明会（参加者38名)。11月20日に下面遺構の全景撮影をおこなう。補足調査ののち、11月26日より埋め戻しを開始し、12月4日に調査を完了。

遺物整理業務は樋上を担当者として、平成25・26年度の2カ年で、コンテナ38箱の出土遺物は愛知県埋蔵文化財センターにおいて瀧 智美・時田典子（整理補助員）が選別・接合・復元作業をおこなった。また、土器の実測・デジタルトレースはナカシャ･クリエイティブ株式会社に、石器の実測･デジタルトレースは株式会社ラング、金属器のデジタルトレースは国際文化財株式会社に委託した。

遺物の写真撮影は写真工房遊の金子知久氏に依頼し、遺構図の編集作業および遺構・遺物写真のレイアウトは有限会社アルケリサーチに委託した。

2．歴史的環境

本遺跡の西750mの石岸遺跡では縄文時代中期から後期の遺構・遺物が、同じく西約1.4kmにある石座神社遺跡では縄文時代早期から晩期の遺構・遺物、南約1.5kmの萩平遺跡では旧石器～縄文時代早期の遺構・遺物、南西約2.6kmの夜燈遺跡で縄文時代早期の遺構・遺物、南約1.2kmの上ノ風呂遺跡で縄文時代後期の遺物、西約1.5kmの大ノ木遺跡でも縄文時代後・晩期の遺構・遺物が確認されている。

本遺跡の南西約1.3kmの南貝津遺跡、西約1.8kmの吉竹遺跡のほか、前述の石岸遺跡、石座神社遺跡などから弥生時代中期の土器が出土している。

弥生時代終末期から古墳時代前期には、石座神社遺跡で300棟を超える数の竪穴建物のほか、大型掘立柱建物、鏡片なども確認されており、当地域における中心的な大集落であることがわかっている。また、石座神社遺跡が所在する丘陵の南端に位置する断上山10号墳は同時期の前方後方墳として知られる。吉竹遺跡においても、当該期の竪穴建物5棟が確認されており、うち1棟からは石製紡錘車が出土している。

石岸遺跡では飛鳥時代から平安時代にかけての竪穴建物のほか、柱掘り方が1mを超える大型の掘立柱建物2棟が確認されており、この地域における古代の公的な施設である可能性が高い。このほか、本遺跡の西約1kmにある加原遺跡で平安から鎌倉時代、西約2kmにある柿下遺跡で鎌倉時代､石座神社遺跡で奈良から鎌倉時代の遺構･遺物が確認されている。

引用文献

愛知県埋蔵文化財センター 2012『柿下遺跡』
2014『須長10号墳』

図 1-2　遺跡周辺地形図（国土地理院 1：20 万地勢図「豊橋」 須長 10 号墳報告書第 2 図を改変）

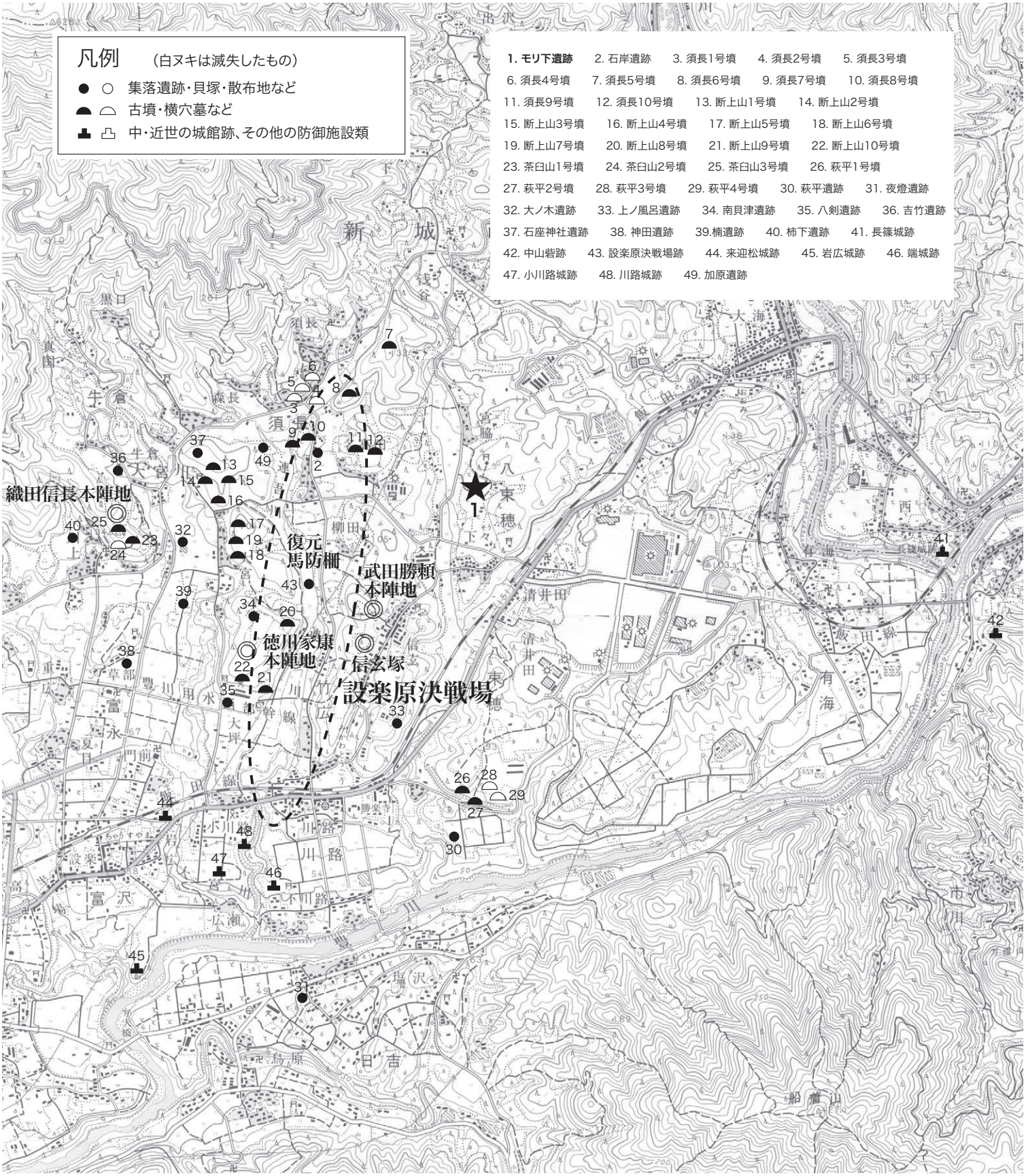


図 1-3　周辺遺跡分布図（国土地理院 1：25,000「三河富岡」「三河大野」 須長 10 号墳報告書第 3 図を改変）

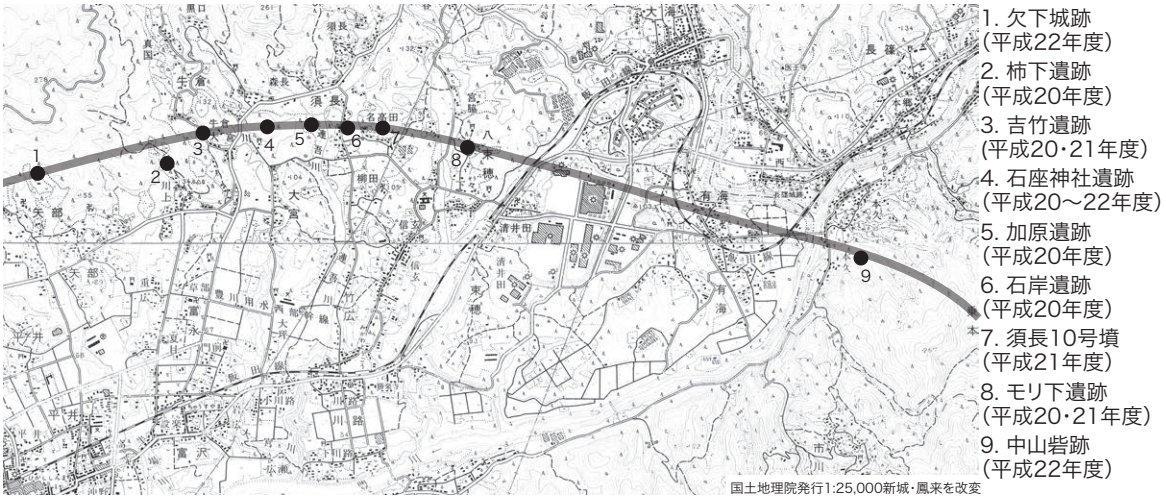


図 1-4　関連遺跡位置図（柿下遺跡報告書より転載）

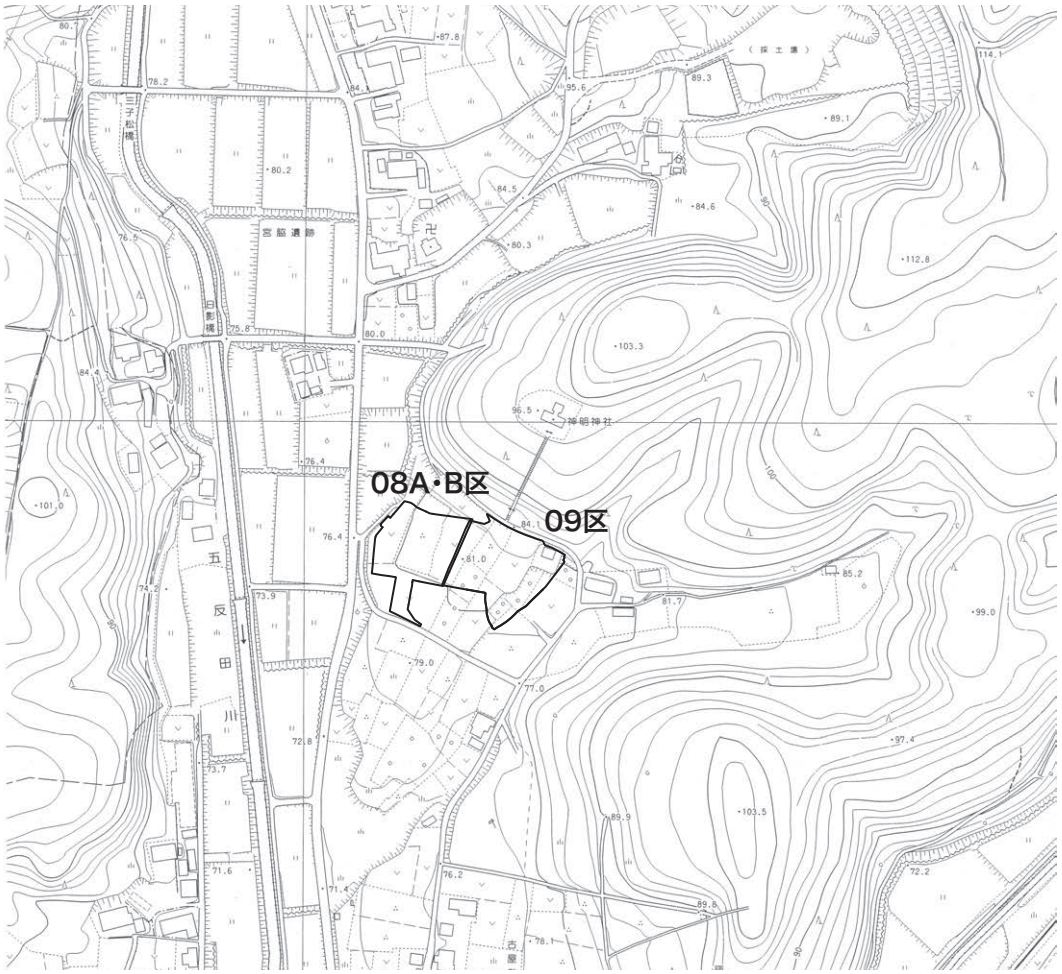


図 1-5　調査区位置図（新城市都市計画図を 1:5,000 に改変）

第２章　遺構

1．概要と基本層序

モリ下遺跡は、巨視的ににみれば雁峰山から伸びる尾根の末端の低い丘陵上に位置している。西には五反田川によって幅 15m ほどの狭い谷状地形が形成され、本遺跡が乗る低丘陵は標高 103m の神明神社がある丘陵部から明確に一段落ちた緩斜面となっている。

遺構検出面での標高は最高所で約 79m。調査区は西から 08A 区・08B 区・09 区の 3 調査区に分けて 2 年間で調査をおこなった。

本遺跡の基盤面（地山）は黄褐色シルトで、この上に黒褐色シルトが載っている。遺構の埋土はこの黒褐色シルトと黄褐色シルトが混じった土からなっている。

遺跡の立地が南に向かって下がる起伏の少ない緩斜面であるため、調査前まで茶畑として利用されていた。その茶畑の植え替えにともなう天地返しによって 08A 区西側～南側と 09 区は黄褐色シルトの基盤面まで掘削されており、浅い竪穴建物は周溝と柱穴しか遺存していなかった。一方、08A 区東側～ 08B 区は小さな浅谷があったため、遺構面の上部を覆う遺物包含層である黒褐色シルトが厚く堆積していた。遺構掘削面・遺構埋土・遺物包含層ともに黒褐色シルトを基本とするため、基盤面の黄褐色シルト層が露出していない箇所での遺構検出は困難を極め、結果的に調査区の境界付近では、検出した遺構の掘り方に不整合を起こしている。

本遺跡において確認した遺構は、

1 期：縄文時代（早期・中期・後期）
2 期：古墳時代前期前半
3 期：古代（7 世紀後半・8 世紀後半）
4 期：中世（12 ～ 13 世紀・15 ～ 16 世紀）

を主体とする。

ただし 08B 区東壁セクション（図 2-2）をみても明らかなように、古墳時代以降はおおむね同一遺構面から掘削されている。それゆえ 09 区の空撮写真にみるように、下面遺構としたなかにも中世の遺構がかなり混じっていることが遺物整理段階で判明した。

遺構は、1 期は土坑が主体で調査区内に散在する。ただし縄文土器そのものは 2 期以降の遺構からも多数出土することから、確実に 1 期と断定しうる遺構は少ない。

2 期が本遺跡の中心となる時期で、08A 区から 09 区の西半部にかけて広く展開する。主体は竪穴建物だが、周溝のみが遺存するものまで含めると 150 棟以上におよぶ。本章での記述は遺物の出土している遺構を中心に主要なもののみにとどめ、他の詳細事項は添付の CD-ROM の遺構一覧表に記載する。

3 期の遺構は 09 区の土坑 2 基ほかごくわずかである。

4 期は 2 期同様、本遺跡の中心となる時期。08B 区から 09 区には区画溝をめぐらし、それぞれの区画内には竪穴状遺構・柵列・土坑群を配置する。この時期についても、遺構の数がおびただしいために記述は主要遺構に限ることとする。

2．1 期の遺構

図 2-1 は 1・2 期の遺構である。なお、このうち赤線（+ 赤色トーン）+ 赤字が 1 期の遺構、黒線（+ 赤色トーン）+ 赤字は 1 期の遺物が出土している 2 期の遺構、黒線（+ 灰色トーン）+ 黒字は 2 期の遺構を示している。

08A 区 450SK は直径約 70cm、深さ約 25cm の円筒状の土坑。縄文時代後期初頭の深鉢などが

出土している。

08A 区 771SK は長軸約 90cm、短軸約 65cm、深さ約 10cm の浅い皿状の土坑。縄文時代後期初頭～前葉の深鉢などが出土している。

08A 区 772SK は 771SK のすぐ南に位置する直径約 70cm、深さ約 20cm の土坑で、石皿(S-73)が据え置かれている。

08A 区 773SK は直径約 90cm、深さ約 15cm の皿状の土坑で、772SK 同様、石皿などの石器が出土している。この土坑を取り囲むように直径約 4.2m の円形の溝がめぐっており、1 期の住居（1703SI）である可能性が高い。

08A 区 774SK は直径約 1.5m、深さ約 70cm の円筒状の土坑。縄文時代後期初頭～前葉の土器のほか、石器も多数出土している。

08A 区 1719SK は直径約 90cm、深さ約 50cm の円筒状の土坑。深鉢が出土している。

08B 区 3299SK は直径約 80cm、深さ約 20cm の皿状の土坑。縄文時代中期後葉の深鉢が出土している。

08B 区 3403SK は長軸が約 95cm、短軸が約 85cm、深さが約 35cm の土坑。下面には石が、上面には縄文時代後期初頭～前葉の深鉢が出土している。

08B 区 3834SX は 2 期の竪穴建物 2209SI の西に広がる不整形の遺構。縄文時代早期の押型文土器が出土している。

その他、08A 区 1476SI、08B 区 2061SI、09 区 7285・7316SK などからも縄文土器の出土が認められる。

3．2 期の遺構

200SI は 08A 区の西端で丘陵部の落ち際に築かれた竪穴建物。東西方向の規模は不明だが、南北方向の一辺は約 5.7m を測る。検出面からの掘り方までの深さは 30 ～ 40cm で、壁溝を埋め立てて厚さ 10 ～ 20cm の黒オリーブ色シルトの貼り床を施す。東側の壁溝近くに貯蔵穴 1665SK を有する。時期は廻間Ⅲ式期併行。

232SI は 08A・B 区の境に位置する。南北辺が約 3.9m で東西辺は 3m 以上。検出面からの深さは約 15cm と浅く、周溝・主柱穴はない。廻間Ⅲ式期前半～中葉併行の低脚高杯が出土している。

252SI も 08A・B 区の境に位置する。南北辺が約 4.8m、東西辺が約 2.6m のいびつな台形の平面で、深さは約 10cm。壁溝・主柱穴はない。壺の底部が出土。

253SI は 252SI のすぐ西に位置する。長軸 4.4m、短軸 4.0m で周溝を有する。

265SI は 08A 区の中央やや北寄りに位置する。長軸 4.0m で短軸は 2.6m の平面は台形で、全集する壁溝を有する。

290SI は 08A 区中央やや南寄りに位置する。3.65×3.5m と小型で北辺および西辺に壁溝をめぐらす。南東コーナー付近の貯蔵穴 1701SK から廻間Ⅲ式前半併行期の壺が出土している。

291SI は 290SI に切られており、3.3×3.2m 以上の規模を有する。壁溝あり。

08A 区 872SI（08B 区 3699SI）は東側の辺を茶畑による撹乱で欠損している。検出面から掘り方までの深さが 40cm を測るきわめて遺存状況の良い竪穴建物で、壁板の痕跡まで確認できる。規模は 4.3×4m 以上で、掘り方には北西・南西・南東の 3 辺に幅 1 ～ 1.5m、深さ 10cm ほどのいわゆる幅広周溝を掘削し、オリーブ色シルトの貼り床でこれを埋め立てる。次に幅 30cm、深さ 10 ～ 20cm の壁溝を掘削し、ここに厚さ 5cm ほどの板を立ててその下部を埋めている。主柱穴は北と西の 2 箇所で確認でき、直径 45cm の柱掘り方に径 15cm の柱を立てている。床面中央部で確認した炉跡には炉石が遺存していた。この竪穴建物からは加飾壺の胴部が出土している。

08A 区 889SK は 1.5×1.5m の不整形の三角形の平面で深さ 20cm の土坑。弥生時代中期の台付甕脚部が出土している。

1051SI は 08A 区やや南東よりに位置する。4.0×3.9m の平面が台形を呈し、深さは 10cm。壁溝・主柱穴はない。廻間Ⅲ式期前半併行の土器が出土している。

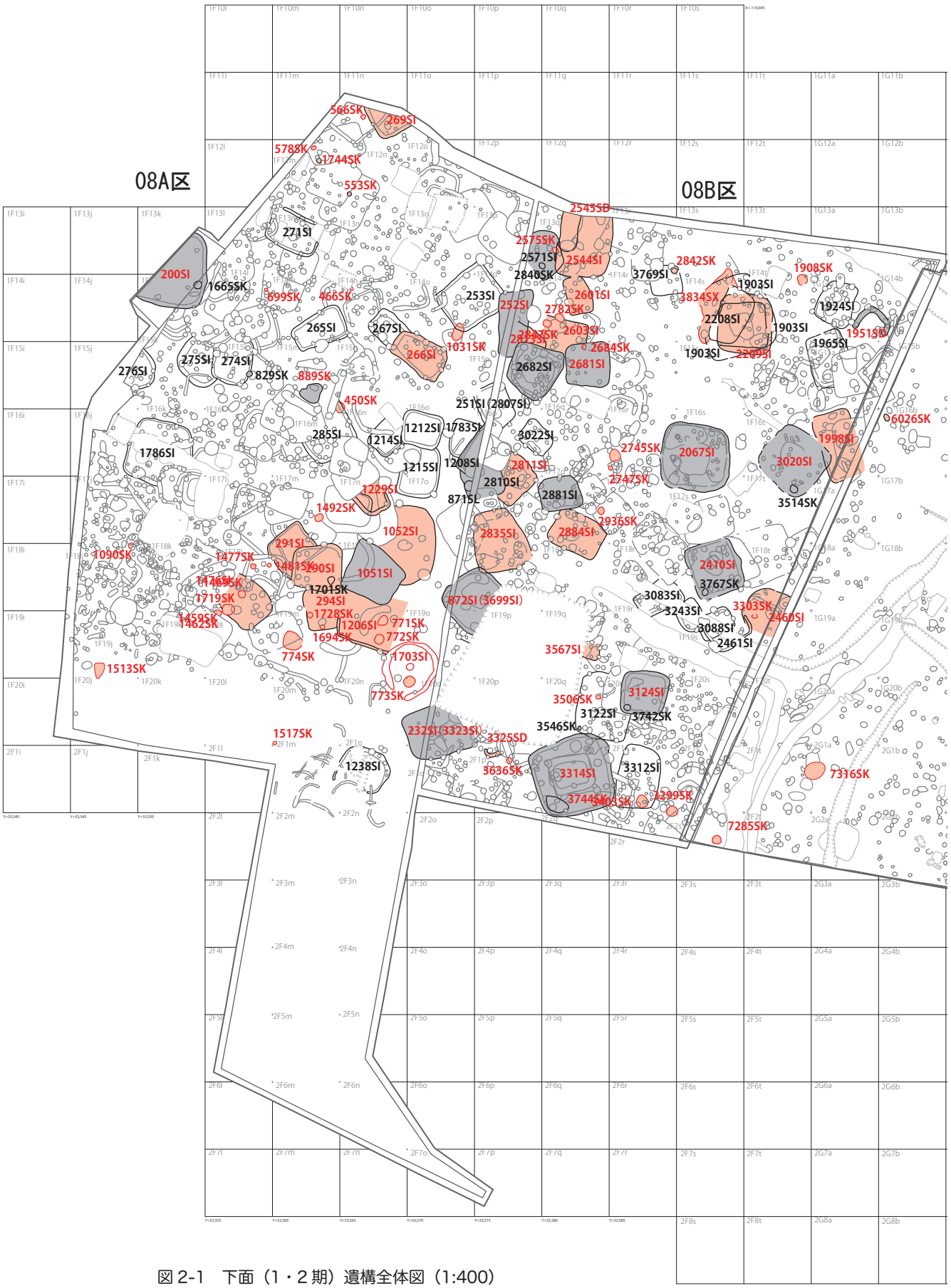
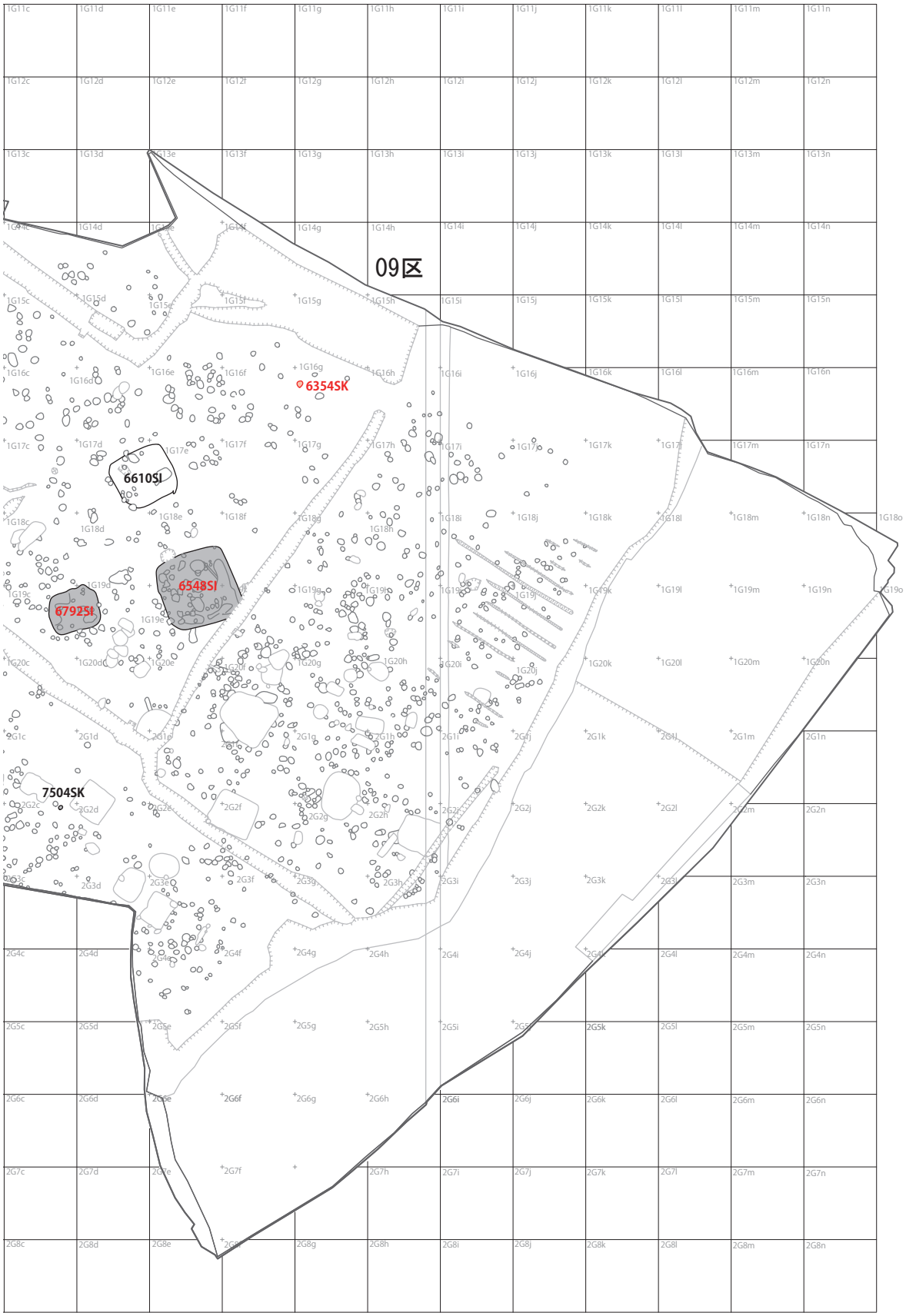


図 2-1　下面（1・2 期）遺構全体図（1:400）


09区
6354SK
6610SI
6548SI
6792SI
7504SK

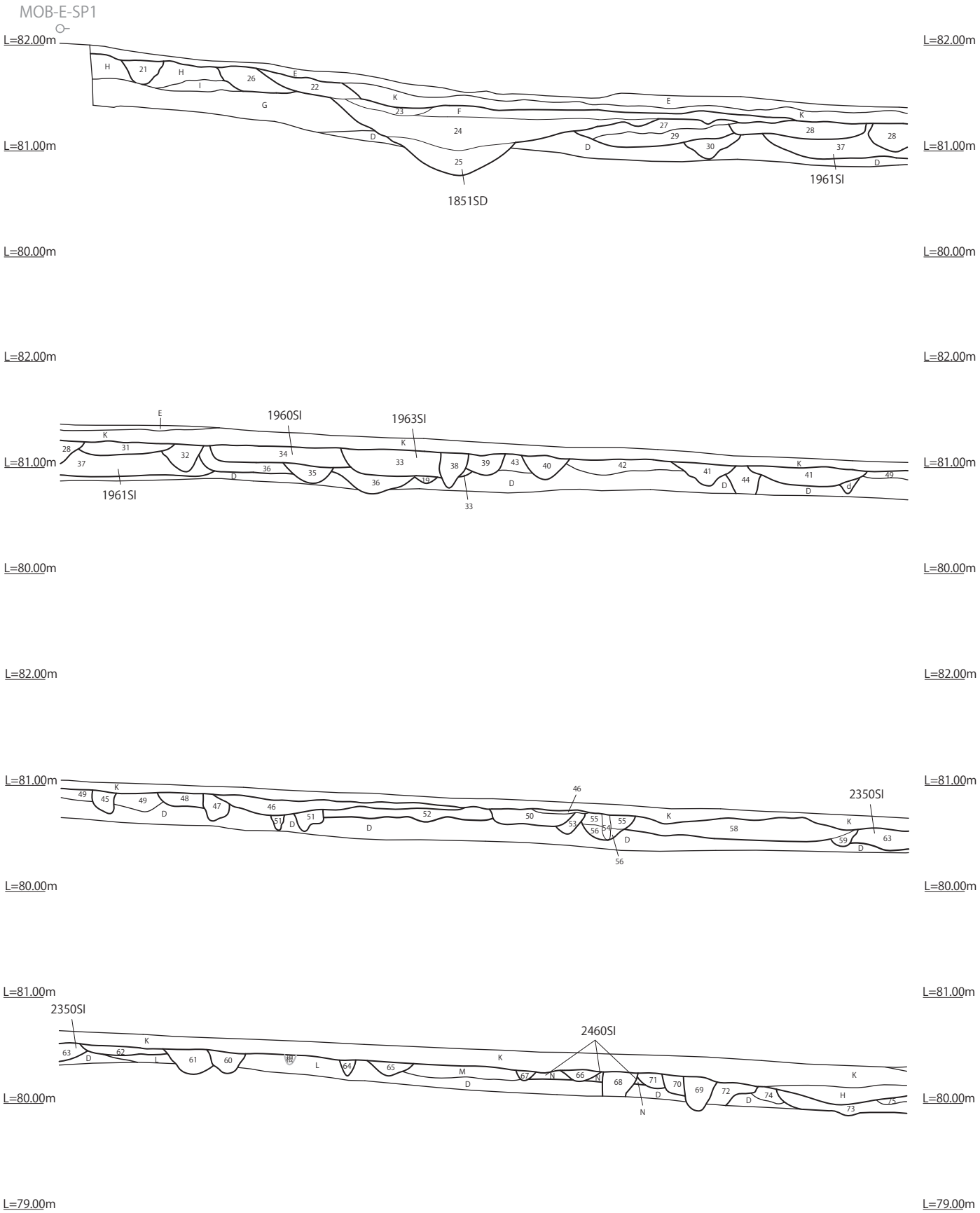
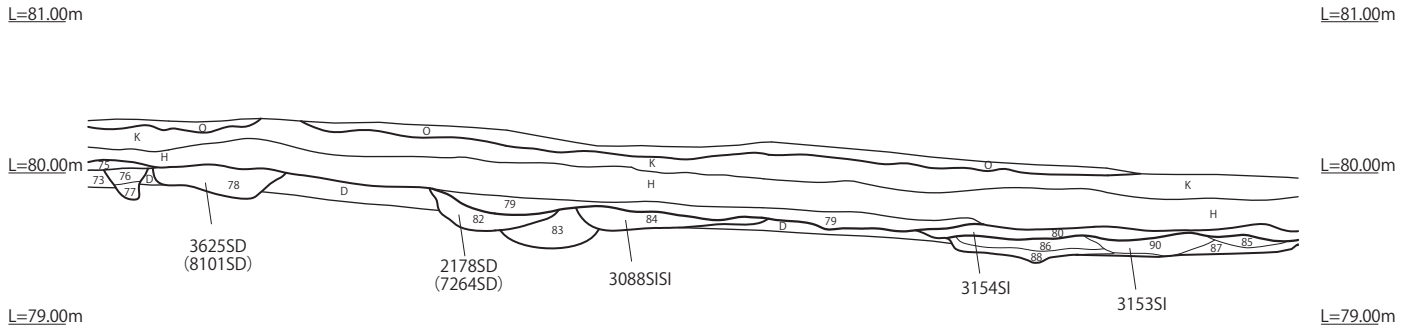
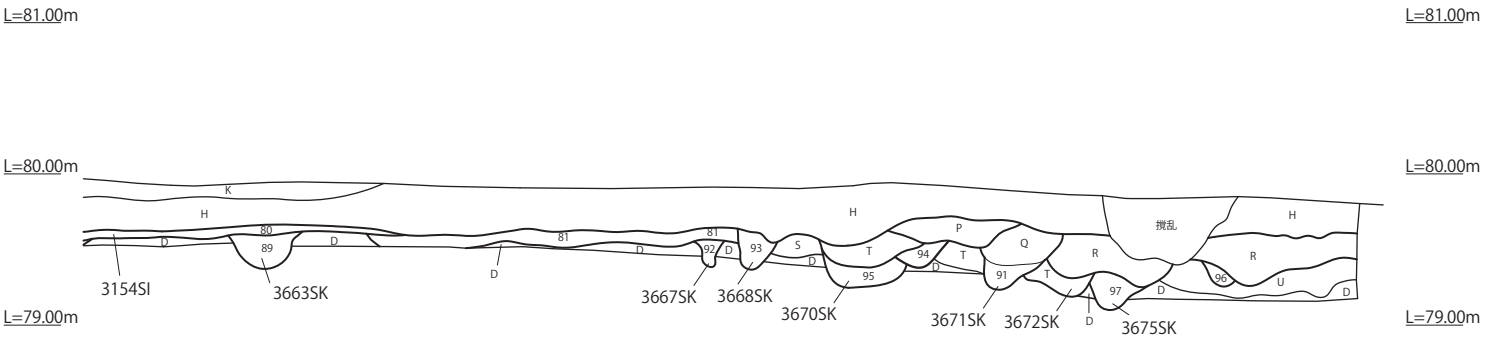
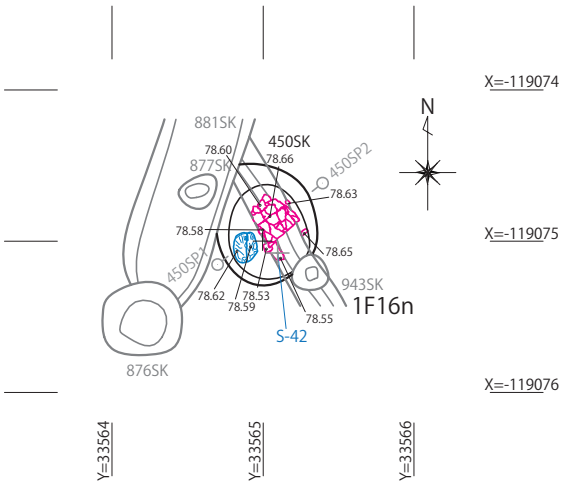


図 2-2　08B 区東壁土層断面図（1:50）

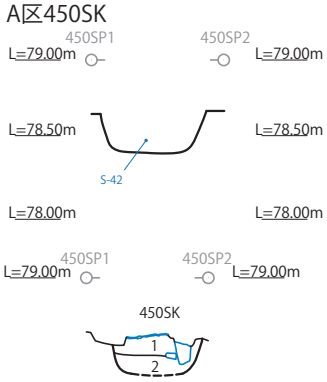




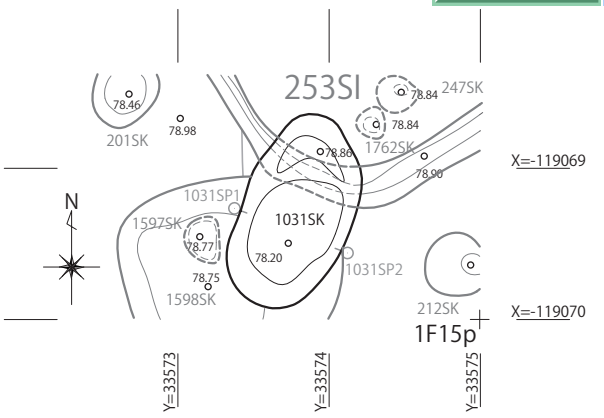
19. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 軟質　黄褐色土やや強い斑状に含む
20. 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト やや軟質
21. 7.5YR3/4 暗褐色 シルト 軟質　褐色土斑状に含む
22. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 硬質　褐色土強い斑状に含む
23. 10YR4/4 褐色 シルト やや硬質　粘性ややあり
24. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 軟質　褐色土斑状に含む
25. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 軟質　黄褐色土やや強い斑状に含む
26. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト 褐色土斑状に含む
27. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト やや軟質　耕作土斑状に含む
28. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト 粘性やや弱い　褐色土斑状に含む
29. 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性ややあり　黄褐色土斑状に含む
30. 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト 粘性ややあり　黄褐色土やや強い斑状に含む
31. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト やや軟質　粘性やや弱い　褐色土やや強い斑状に含む
32. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト やや軟質　粘性やや弱い　褐色土斑状に含む
33. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト 粘性やや弱い　褐色土まばらに含む
34. 10YR3/1 黒褐色 シルト 褐色土斑状に含む
35. 2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト 粘性ややあり　黄褐色土やや強い斑状に含む
36. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 褐色土・黄褐色土斑状に少し含む
37. 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト やや硬質　黄褐色土所々斑状に含む
38. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト やや軟質　褐色土斑状に含む
39. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト やや軟質　褐色土・黄褐色土少し含む
40. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト 黄褐色土・褐色土やや強い斑状に含む
41. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト 黄褐色土やや強い斑状に含む
42. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト 黄褐色土やや強い斑状に含む
43. 10YR3/1 黒褐色 シルト やや硬質
44. 10YR2/2 黒褐色 シルト やや軟質　黄褐色土少し含む
45. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト やや硬質　黄褐色土強い斑状に含む
46. 7.5YR4/3 褐色 シルト 硬質　焼土・炭化物わずかに含む
47. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質　黄褐色土・黒色土強い斑状に含む
48. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 黄褐色土やや強い斑状に含む
49. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト 褐色土・黄褐色土やや強い斑状に含む
50. 5Y3/2 オリーブ黒色 シルト やや軟質　黄褐色土斑状に含む
51. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト やや硬質　黄褐色土・褐色土強い斑状に含む
52. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト やや硬質　黄褐色土・褐色土・黒色土斑状に含む
53. 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト やや硬質　粘性ややあり　黄褐色土やや強い斑状に含む
54. 2.5Y5/4 黄褐色 シルト 粘性ややあり　黄褐色土強い斑状に含む
55. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト やや硬質　黄褐色土斑状に含む
56. 2.5Y6/6 明黄褐色 シルト やや硬質　粘性あり　暗灰黄色土やや強い斑状に含む
57. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト やや硬質　粘性ややあり　黄褐色土強い斑状に含む
58. 5Y3/2 オリーブ黒色 シルト やや硬質　黄褐色土強い斑状に含む
59. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 黄褐色土斑状に含む
60. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト 褐色土斑状に含む
61. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 褐色土やや強い斑状に含む
62. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト やや硬質　黄褐色土やや強い斑状に含む
63. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト 黄褐色土斑状に含む
64. 5Y4/2 灰オリーブ色 シルト 黄褐色土斑状に含む
65. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト やや硬質　粘性ややあり　褐色土斑状に含む
66. 2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト やや硬質
67. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 軟質
68. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 粘性ややあり　黄褐色土斑状に含む
69. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト 粘性ややあり　褐色土やや強い斑状に含む
70. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト やや硬質　粘性ややあり　黄褐色土やや強い斑状に含む
71. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 粘性ややあり　黄褐色土斑状に含む
72. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト やや硬質　黄褐色土やや強い斑状に含む
73. 2.5Y5/4 黄褐色 シルト やや硬質　粘性あり　黄褐色土強い斑状に含む
74. 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト やや硬質　粘性ややあり　黄褐色土まばらに含む
75. 2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト 硬質　粘性ややあり　黄褐色土やや強い層～斑状に含む
76. 10YR5/3 にぶい黄褐色 シルト やや硬質　黄褐色土強い斑状に含む
77. 5Y3/1 オリーブ黒色 シルト やや軟質　粘性ややあり　黄褐色土強い斑状に含む
78. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 黄褐色土やや強い斑状に含む
79. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト やや軟質　粘性ややあり　黄褐色土所々斑状に含む
80. 5Y5/3 灰オリーブ色 砂質シルト やや硬質　黄褐色土やや強い斑状に含む
81. 5Y4/2 灰オリーブ色 シルト 黄褐色土・褐色土斑状に少し含む
82. 10YR3/3 暗褐色 シルト やや硬質　黒色土流～層状に含む　黄褐色土まばらに含む
83. 2.5Y5/4 黄褐色 シルト やや硬質　粘性やや強い　黄褐色土強い斑状に含む　黒色土斑状に少し含む
84. 5Y5/3 灰オリーブ色 砂質シルト やや硬質　粘性あり　黄褐色土強い斑状に含む　黒色土斑状に少し含む
85. 2.5Y4/2 暗灰黄色 細砂質シルト やや硬質　粘性あり
86. 5Y4/2 灰オリーブ色 シルト やや硬質　黄褐色土まばらに含む　焼土少し含む
87. 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト やや硬質　粘性ややあり　黄褐色土やや強い斑状に含む　焼土少し含む
88. 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト 粘性ややあり　黄褐色土まばらに含む　焼土少し含む
89. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト 黄褐色土やや強い斑状に含む
90. 10YR4/3 にぶい黄褐色 細砂質シルト 粘性やや弱い　焼土流状に含む
91. 5Y4/2 灰オリーブ色 シルト 粘性ややあり　黄褐色土斑状に含む
92. 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト やや硬質　粘性あり　黄褐色土強い斑状に含む
93. 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト やや硬質　黄褐色土やや強い斑状に含む
94. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト やや硬質
95. 5Y3/2 オリーブ黒色 シルト やや硬質　粘性あり　黄褐色土やや強い斑状に含む
96. 5Y4/2 灰オリーブ色 シルト 硬質　粘性ややあり
97. 5Y4/2 灰オリーブ色 シルト 硬質　粘性ややあり　黄褐色土斑状に含む
D. 2.5Y6/4 にぶい黄色 シルト 所々オリーブ～明黄褐色の軽石等粗砂質あり
E. 7.5YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質
F. 10YR3/2 黒褐色 シルト やや硬質
G. 10YR4/4 褐色 シルト 硬質
H. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト 褐色土斑状に少し含む
I. 10YR3/2 黒褐色 シルト やや硬質　褐色土斑状に少し含む
J. 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト やや硬質　褐色土斑状に含む
K. 10YR3/2 黒褐色 シルト やや硬質
L. 2.5Y5/3 黄褐色 シルト やや硬質　粘性あり　黄褐色土やや強い斑状に含む
M. 2.5Y5/4 黄褐色 シルト やや硬質　黄褐色土少し含む　黒色土斑状に含む
N. 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト やや硬質　黒色土斑状に少し含む
O. 表土
P. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト やや硬質　粘性やや弱い
Q. 5Y3/1 オリーブ黒色 シルト やや硬質　褐色土斑状に少し含む
R. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト やや硬質　褐色土斑状に含む
S. 5Y5/2 灰オリーブ色 シルト 黄褐色土斑状に含む
T. 5Y5/2 灰オリーブ色 シルト 黒色土・黄褐色土斑状に含む
U. 5Y4/2 灰オリーブ色 シルト やや硬質　黄褐色土所々斑状に含む
d. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 極めて軟質　粘性弱い



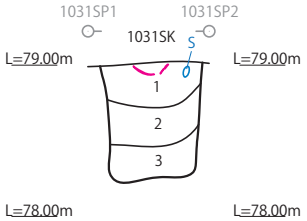
A区450SK



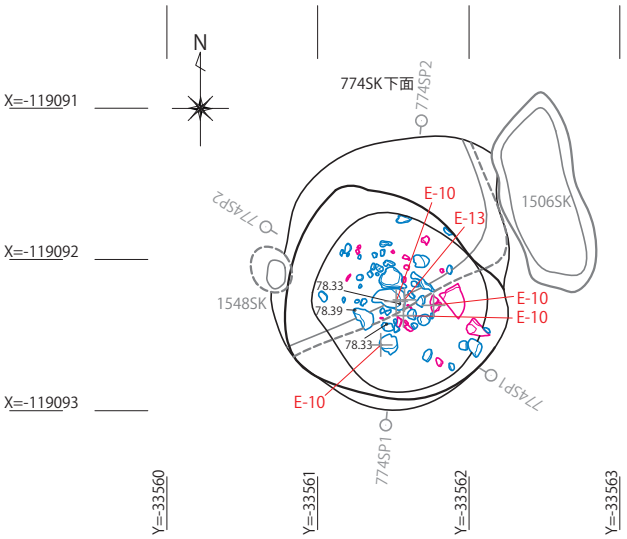
1. 10YR3/3 暗褐色 シルト やや軟質 粘性やや弱い 褐色土斑状に含む
2. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト やや硬質 粘性ややあり 黄褐色土・褐色土やや強い斑状に含む



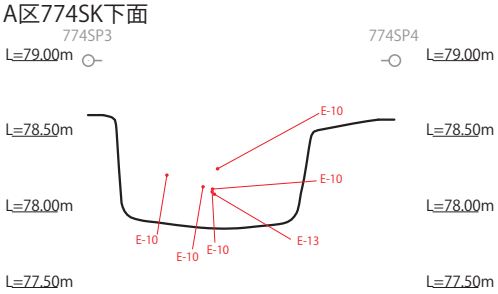
A区1031SK



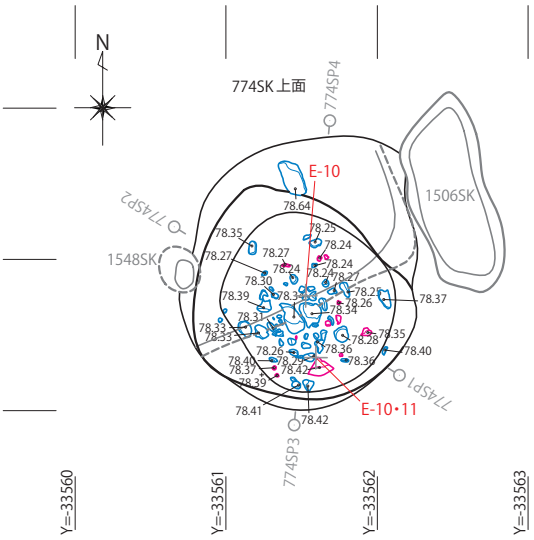
1. 5Y3/1 オリーブ黒色 シルト やや軟質 粘性弱い 褐色土斑状に含む
2. 5Y2/1 黒褐色 シルト やや硬質 粘性弱い 褐色土やや強い斑状に含む
3. 5Y2/2 オリーブ黒色 シルト やや軟質 粘性弱い 黄褐色土やや強い斑状に含む 褐色土少し含む



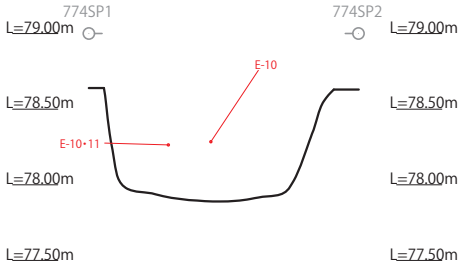
A区774SK下面



1. 10YR2/2 黒褐色 シルト やや硬質 粘性弱い 黄褐色土まばらに含む 褐色土斑状に含む
2. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト やや軟質 粘性弱い 黄褐色土まばらに含む
3. 5Y2/2 オリーブ黒色 シルト やや軟質 粘性弱い 黄褐色土斑状に含む



A区774SK上面



A区774SK

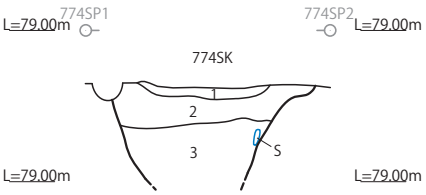


図 2-3 08A 区 450・774・1031SK 遺構平面図・土層断面図・遺物出土状態図（1:50）

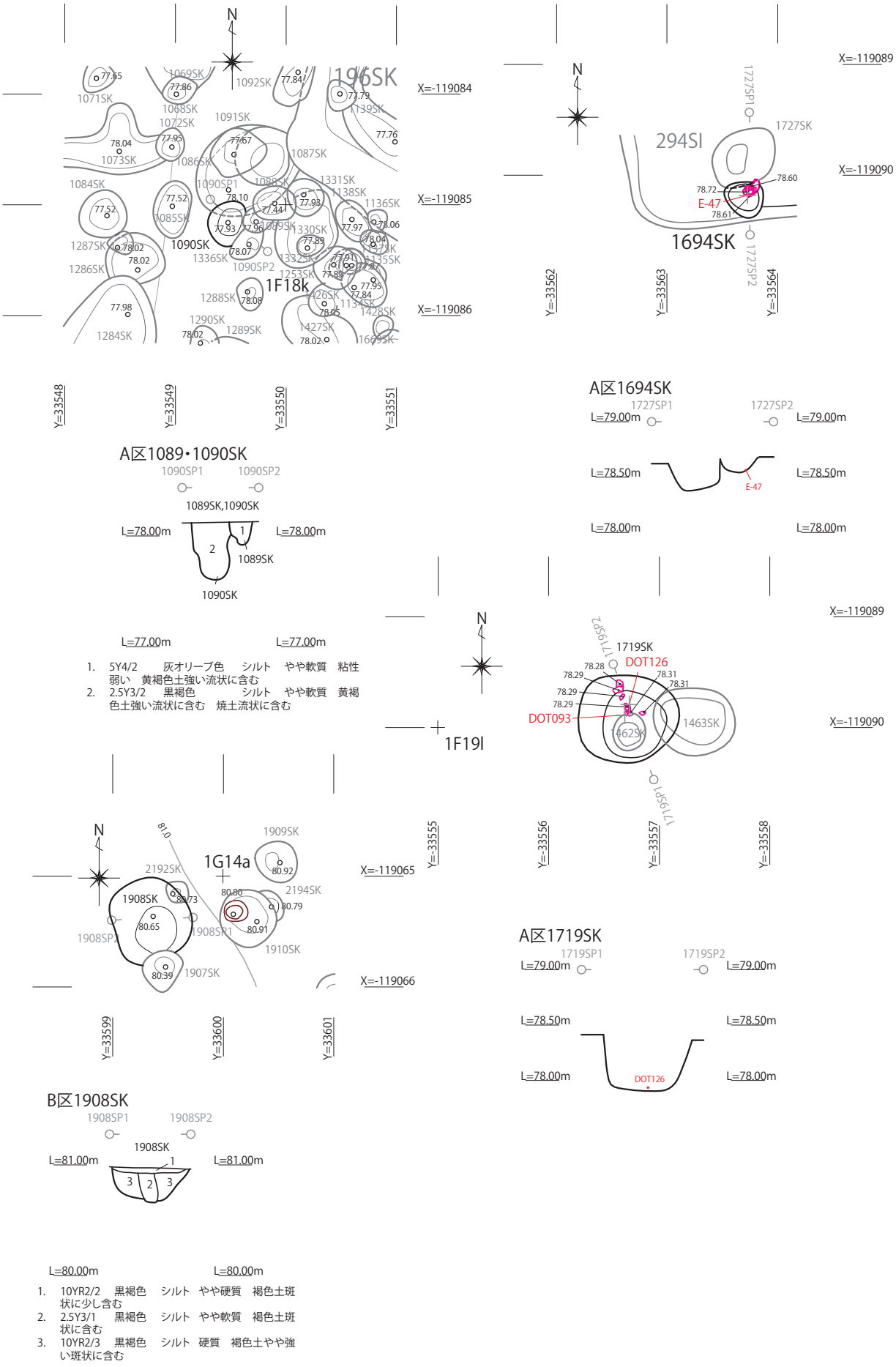
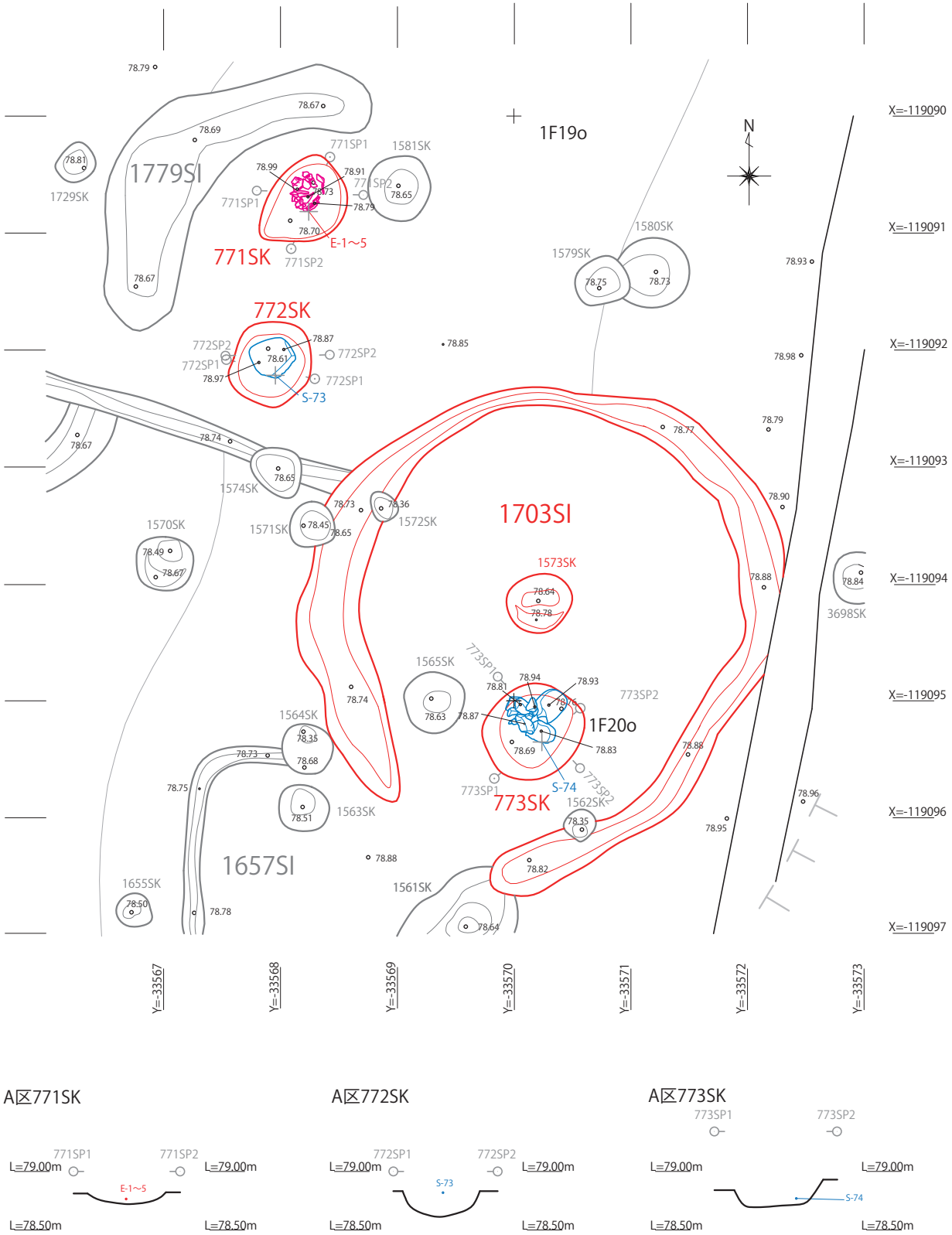


図 2-4 08A 区 1089・1090・1694・1719・1908SK 遺構平面図・土層断面図・遺物出土状態図（1:50）



A区771SK

A区772SK

A区773SK

図 2-5　08A 区 1703SI・771・772・773SK 遺構平面図・土層断面図・遺物出土状態図（1:50）

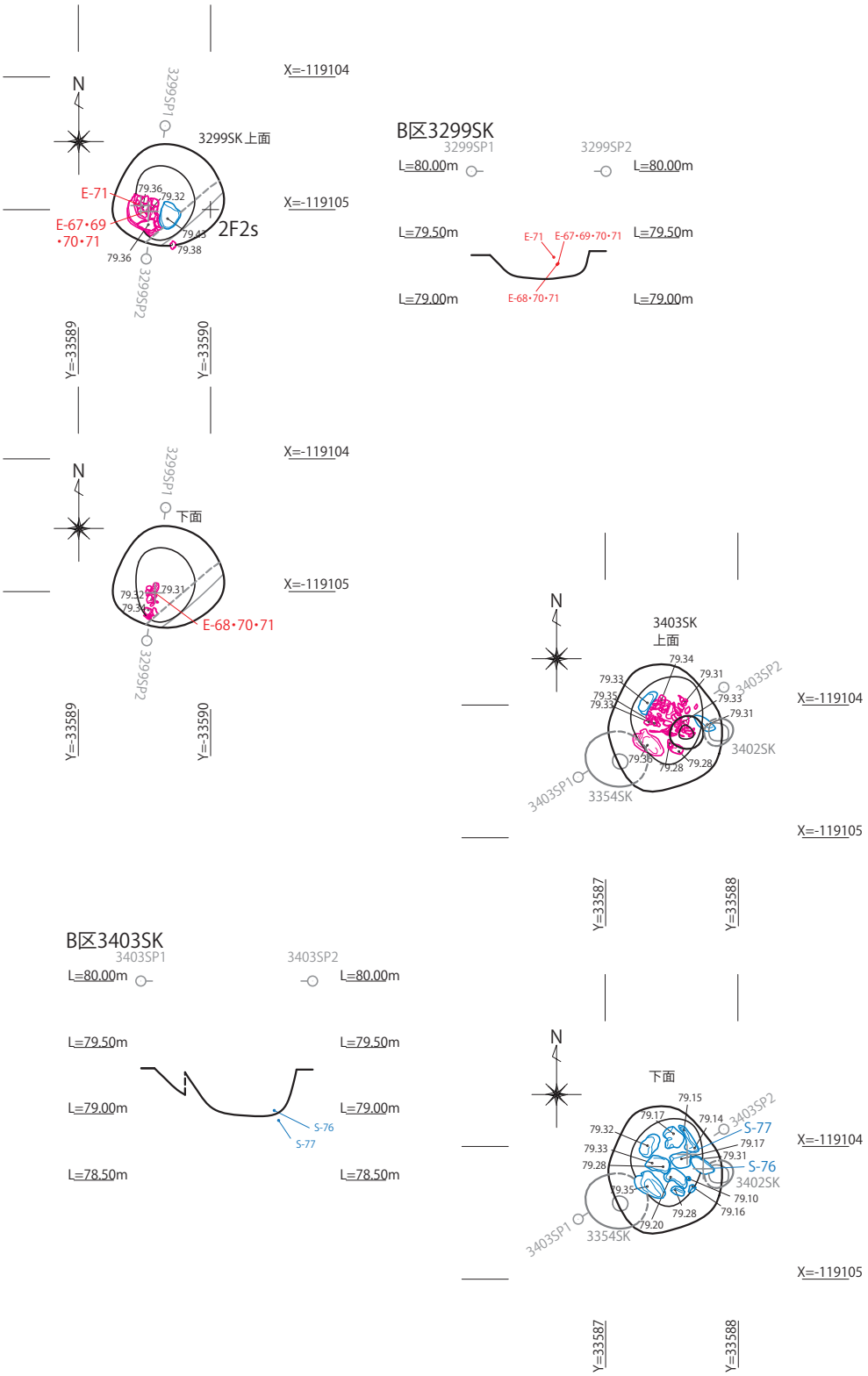
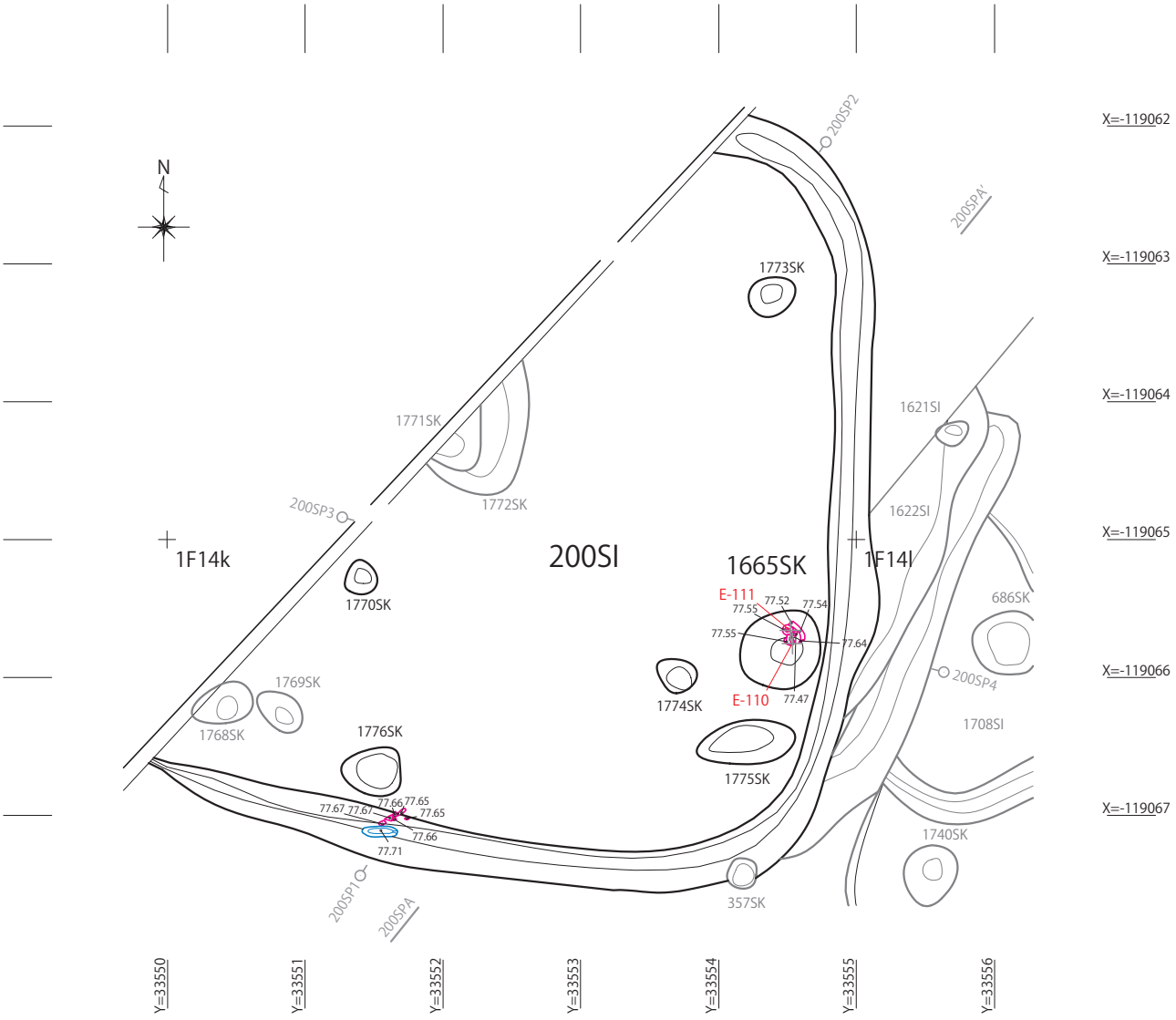
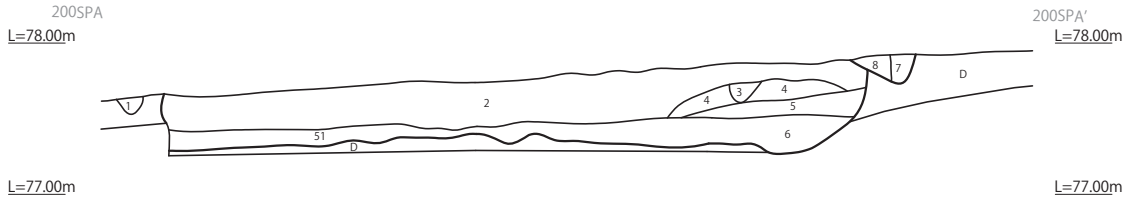


図 2-6　08B 区 3299・3403SK 遺構平面図・土層断面図・遺物出土状態図（1:50）



A区200SI

A区200SI・1665SK



1.	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	やや軟質	粘性ややあり	7.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	軟質	粘性ややあり
2.	7.5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	やや軟質	粘性ややあり	8.	7.5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	軟質	粘性弱い
3.	7.5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	やや軟質	粘性弱い						
4.	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	やや軟質	粘性弱い	D.	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト	所々オリーブ～明黄褐色の軽石等粗砂質あり	
5.	5Y2/2	オリーブ黒色	シルト	やや硬質	粘性ややあり						
6.	5Y2/2	オリーブ黒色	シルト	やや硬質	粘性やや弱い						

図 2-7　08A 区 200SI 遺構平面図・土層断面図・遺物出土状態図（1:50）

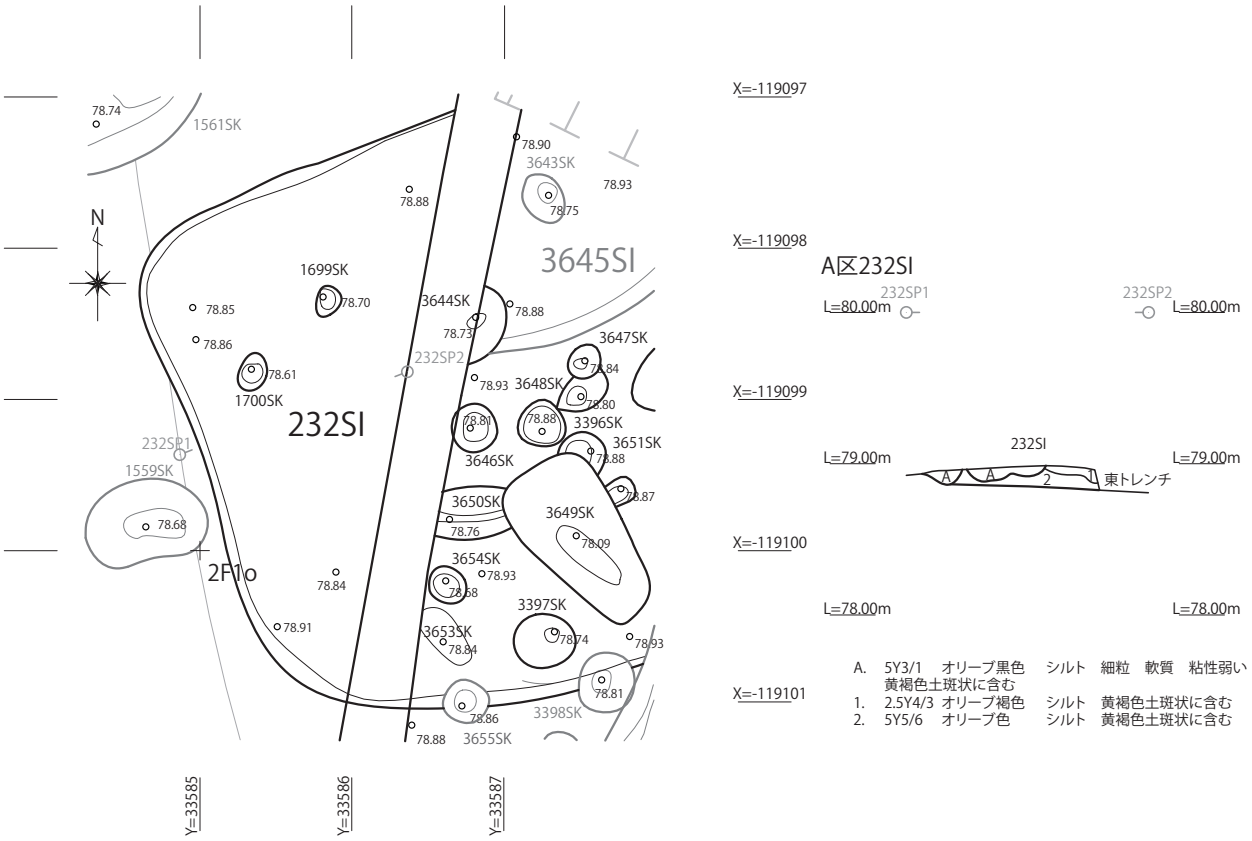


図 2-8　08A 区 232SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）

1208SI は 08A・B 区の境に位置し、08B 区ではその痕跡を確認することができなかった。4×2m 以上の規模で、掘り方よりやや内側に壁溝を設ける。台付甕の脚部が出土している。

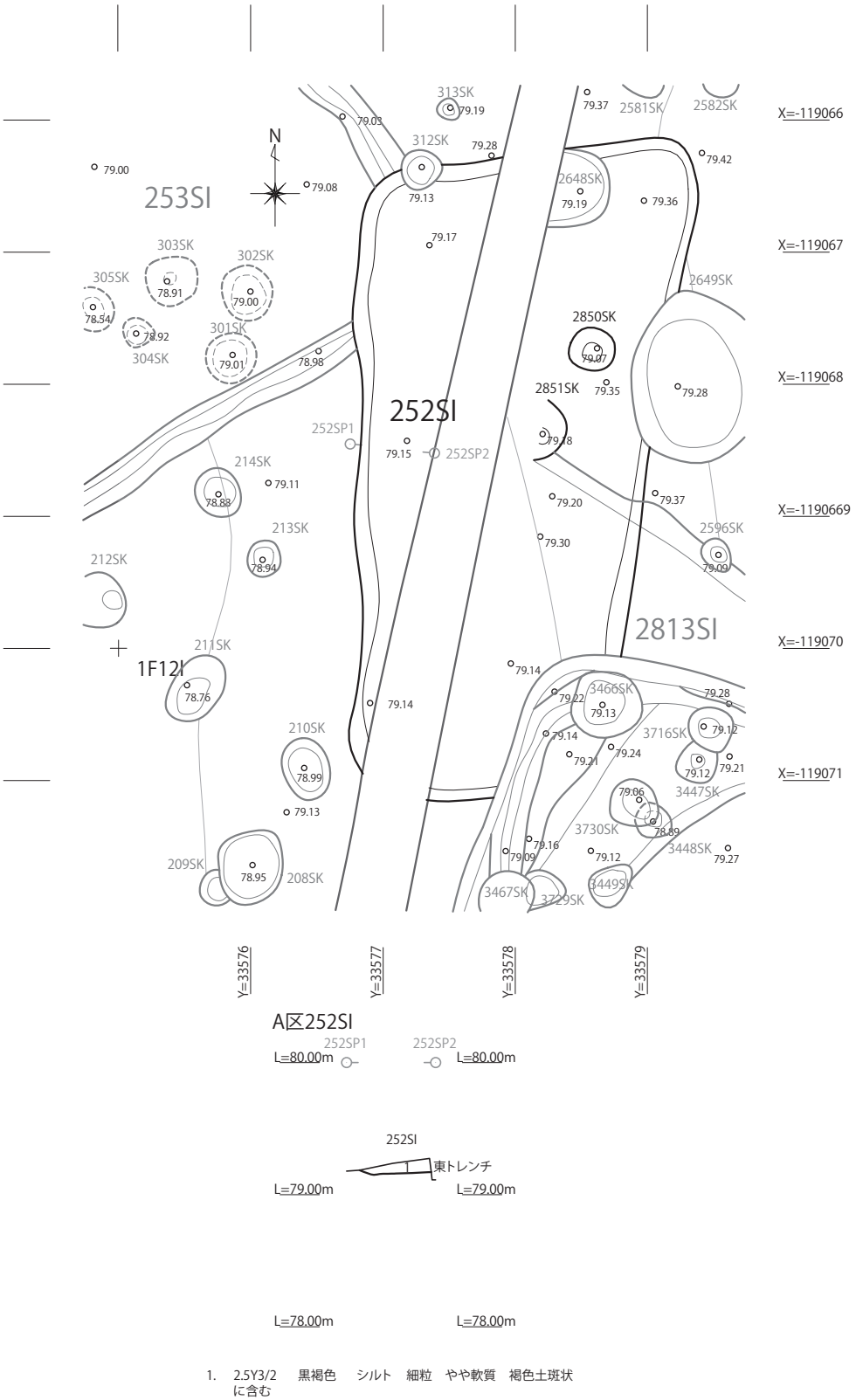
1212SI は 1208SI の西に位置する 3.0×2.6m のきわめて小型の竪穴建物。壁溝は全周するが、主柱穴はない。

2067SI は 08B 区のほぼ中央に位置する。5.2×5.0m のほぼ正方形で、床面下には幅 1 ～ 1.5m、深さ 15cm ほどの幅広周溝を全周させる。この竪穴建物の幅広周溝は、北西コーナーが特に深く掘られており、逆に南東コーナーは浅い。貼り床後に壁溝を掘削している。床面直上からは完形に近い土器が多数出土しており、廻間Ⅱ式期後半～Ⅲ式期前半併行に属する。

08B 区 2209SI は 4.5×4.0m の規模をもつ竪穴建物で、周壁からやや離れた位置の掘り方底面に幅約 90cm m深さ約 10cm の幅広周溝をめぐらせた後、これを埋め立てて床面を貼っている。主柱穴はコーナーに 4 箇所。柱掘り方は直径 30cm 程度。この 2209SI の廃絶後、4.15×2.3m の 2208SI、さらに 5.9×5.3m の 1903SI がこの位置に築かれる。1903SI は中央に炉の痕跡を確認している。

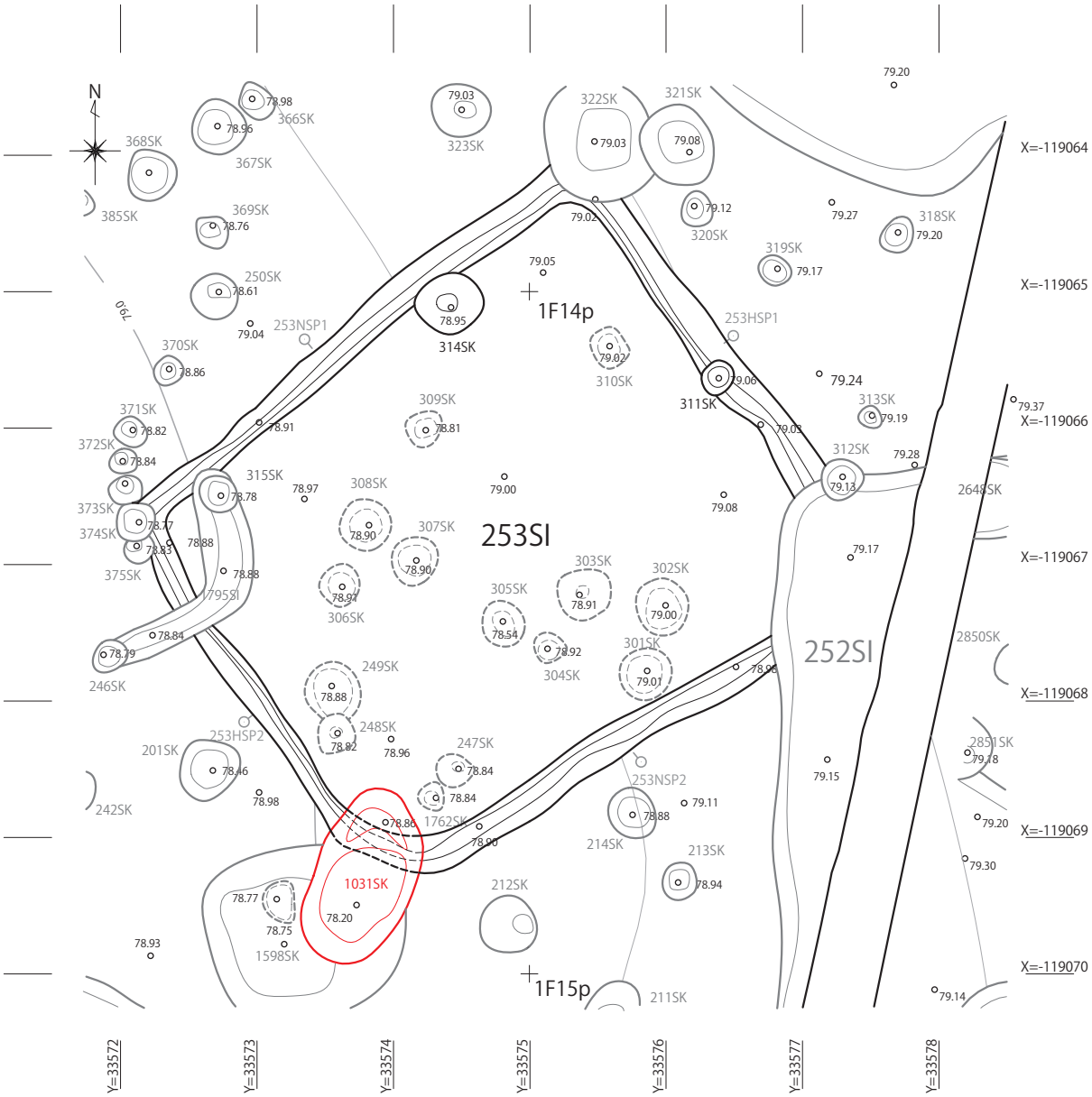
08B 区 2410SI は 2067SI の南に位置している。4.0×3.7m と平面形はやや小型だが、検出面から掘り方底面までの深さは 60cm と遺存状況はきわめて良好。この竪穴建物は床面下の幅広周溝が特に広く、掘り残し部分は中央の直径 1.3m の範囲程度。貼り床後に壁溝を掘削している。主柱穴は四隅にあり、柱掘り方は直径約 30cm。床面には炉跡があり、炉石も遺存していた。遺物も多く、時期は廻間Ⅱ式期後半併行。

2571SI は 08B 区の北西隅に位置する。3.3×



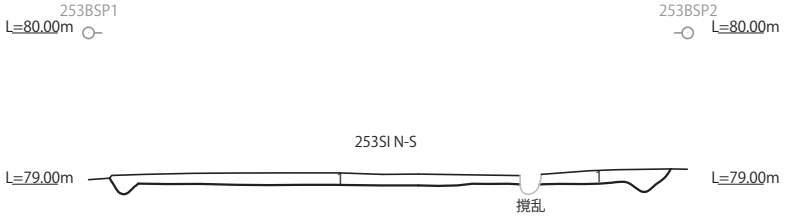
1. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 細粒 やや軟質 褐色土斑状に含む

図 2-9 08A 区 252SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）



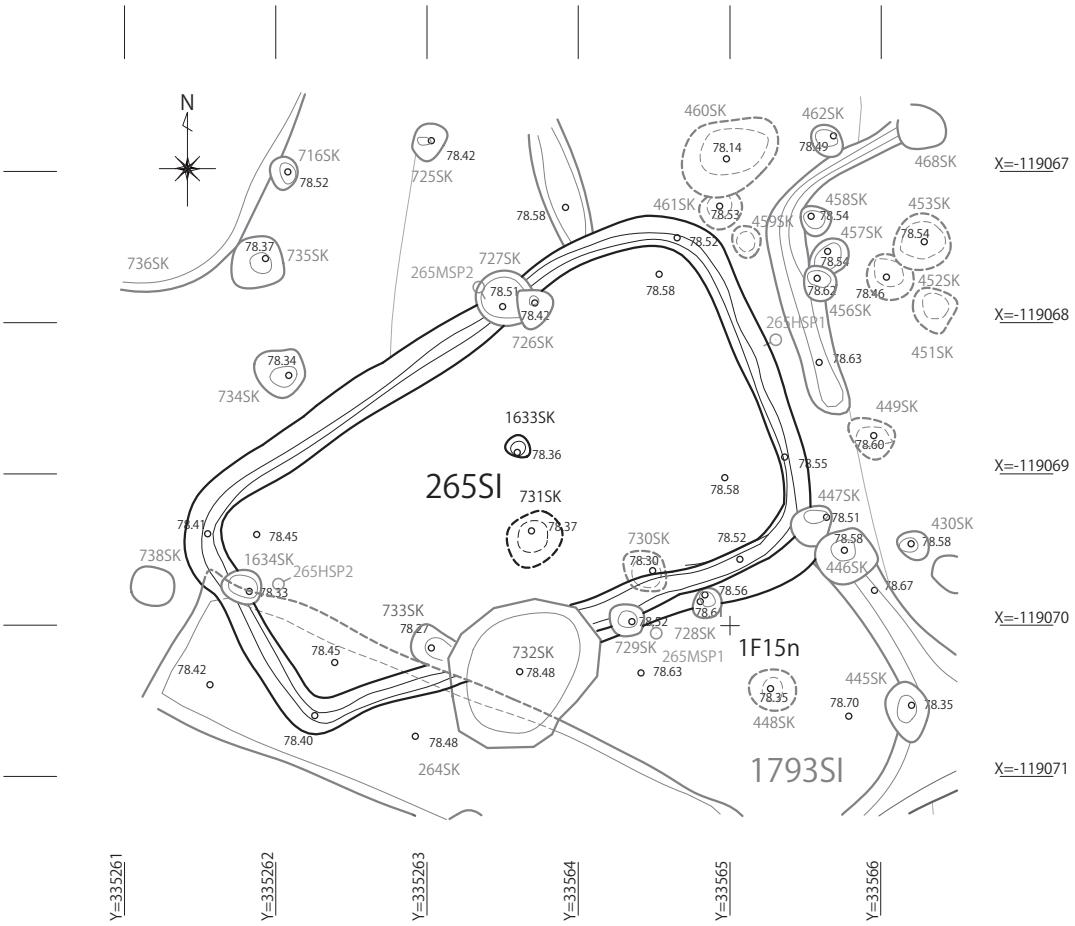
A区253SI東西セクション

A区253SI南北セクション



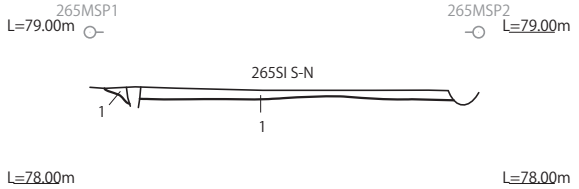
1. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト やや硬質 褐色土斑状に含む

図 2-10 08A 区 253SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）



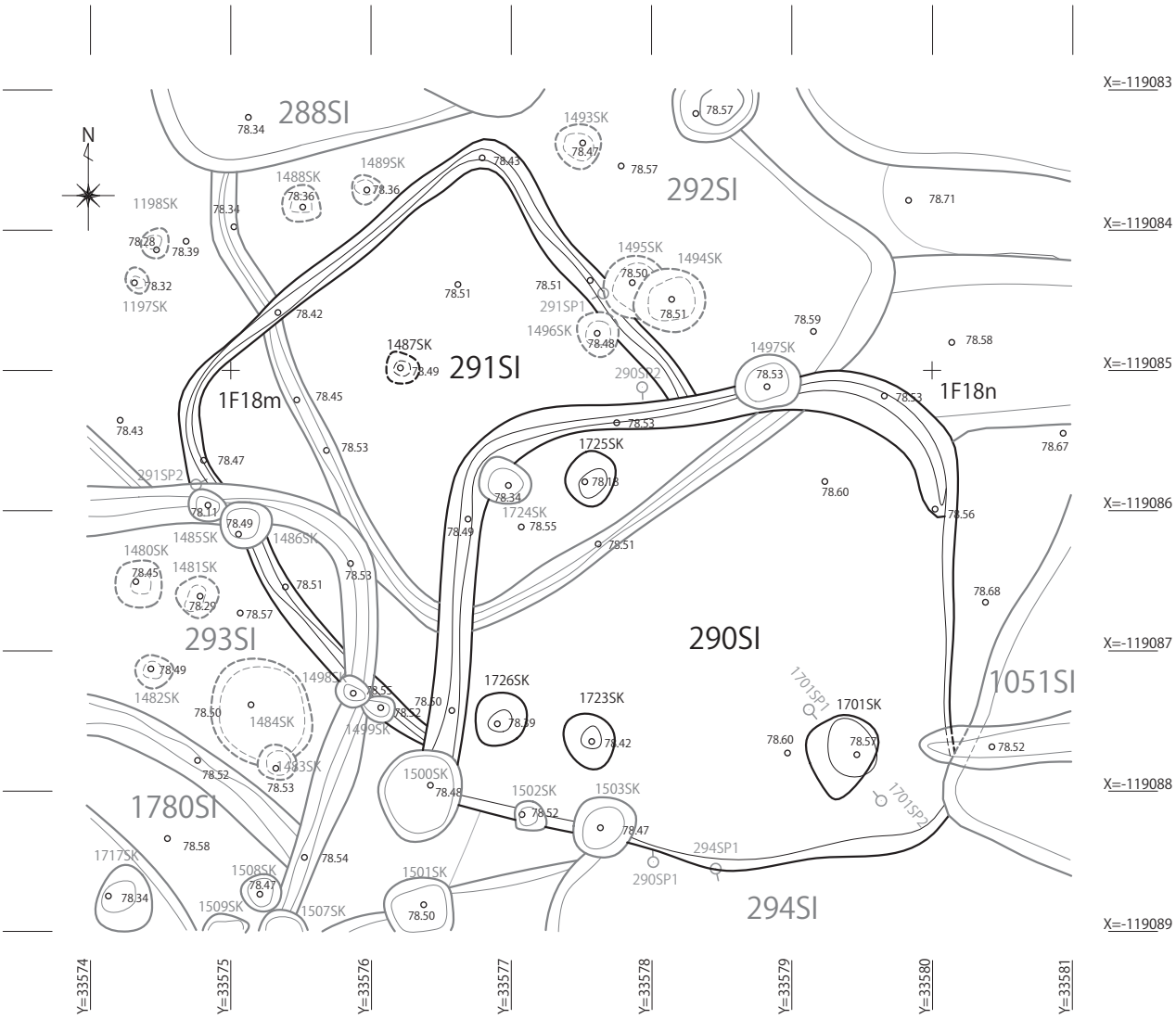
A区265SI東西セクション

A区265SI南北セクション

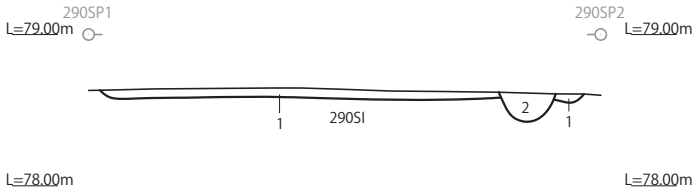


1. 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト 粘性ややあり 黄褐色土やや強い斑状に含む

図 2-11 08A 区 265SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）

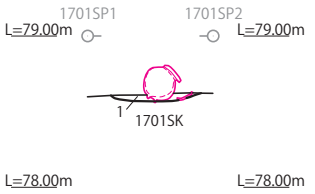


A区290SI



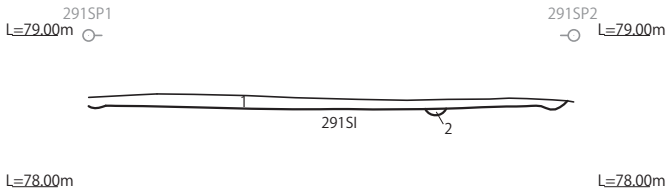
1. 5Y2/2 オリーブ黒色 シルト やや軟質 褐色土やや強い斑状に含む
2. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト やや軟質 褐色土斑状に含む

A区1701SK



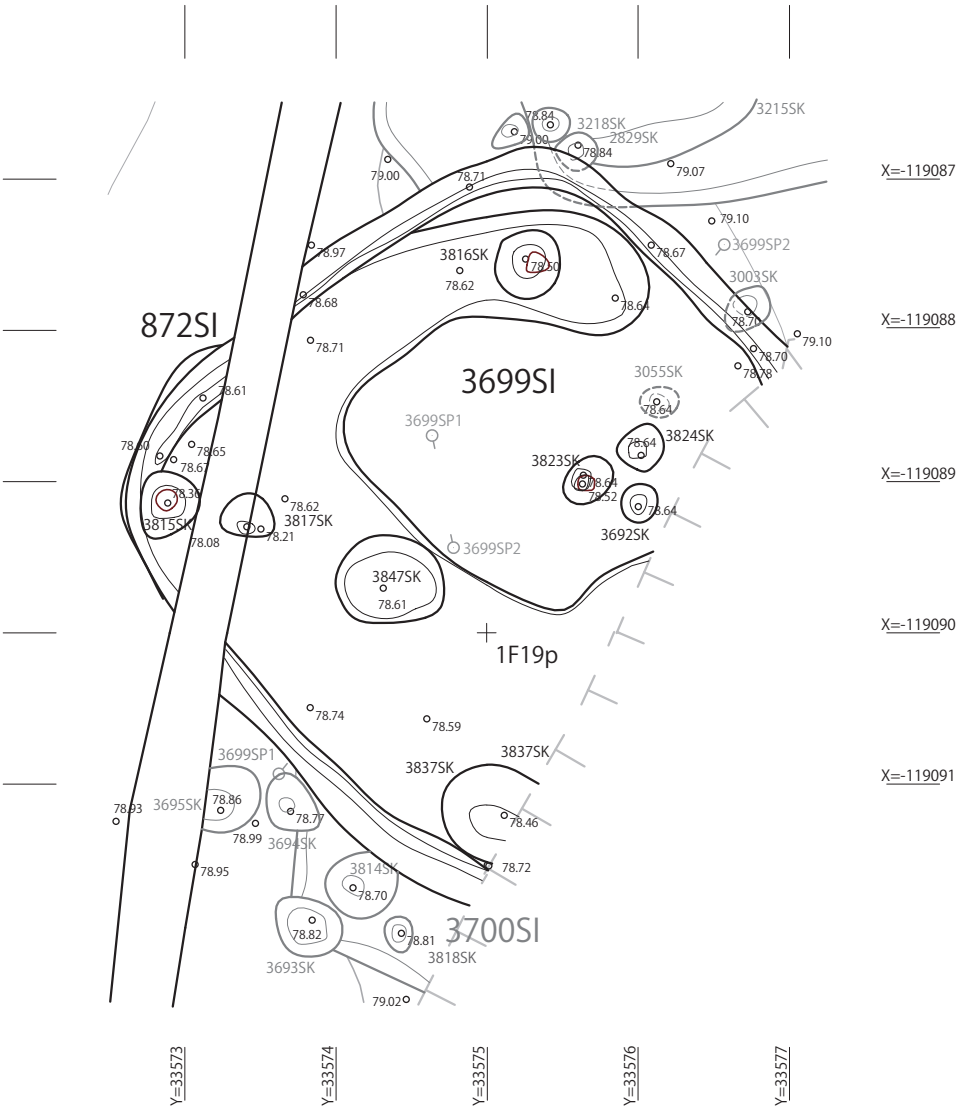
1. 5Y2/2 オリーブ黒色 シルト やや軟質 粘性弱い 黄褐色土・褐色土斑状に含む

A区291SI

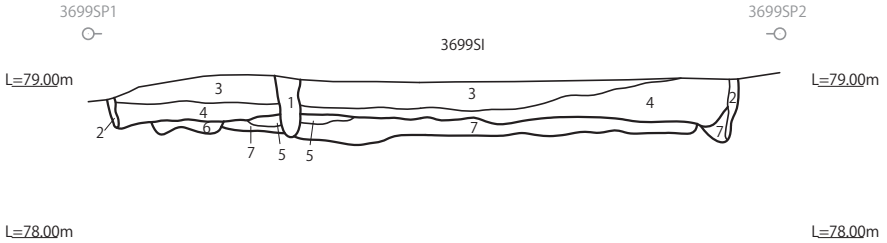


1. 5Y3/1 オリーブ黒色 シルト 軟質 褐色土斑状に含む
2. 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性ややあり 褐色土斑状に含む

図 2-12 08A 区 290・291SI・1701SK 遺構平面図・土層断面図（1:50）



B区3699SI

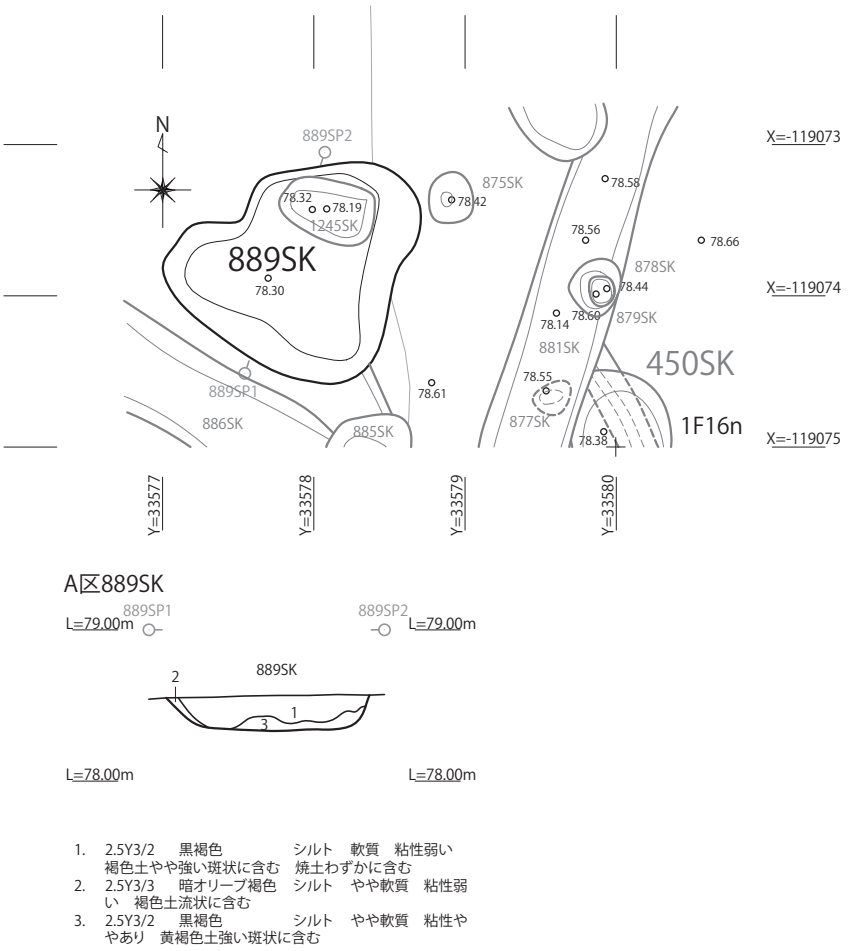


1. 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト 極めて軟質 粘性やや弱い 黄褐色土強い流状に含む
2. 5Y3/1 オリーブ黒色 シルト 軟質 粘性弱い 黄褐色土やや強い流状に含む
3. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 粘性やや弱い 褐色土斑状に少し含む
4. 5Y3/1 オリーブ黒色 シルト 褐色土斑状に含む
5. 5Y4/2 灰オリーブ色 シルト やや硬質 黄褐色土強い流状に含む
6. 10Y2/1 黒色 シルト やや軟質 黄褐色土斑状に少し含む
7. 5Y5/4 オリーブ色 シルト 硬質 粘性ややあり 黄褐色土強い斑状に含む 黒色土斑状に含む

B区3699SI炉

1. 2.5Y5/4 黄褐色 シルト 黄褐色土強い流～斑状に含む
焼土わずかに含む

図 2-13 08A・B 区 872（3699）SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）



1. 2.5Y3/2　黒褐色　シルト　軟質　粘性弱い　褐色土やや強い斑状に含む　焼土わずかに含む
2. 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　やや軟質　粘性弱い　褐色土流状に含む
3. 2.5Y3/2　黒褐色　シルト　やや軟質　粘性ややあり　黄褐色土強い斑状に含む

図 2-14　08A 区 889SK 遺構平面図・土層断面図（1:50）

2.8m のやや不正な台形を呈する小型の竪穴建物。南西隅の貯蔵穴 2840SI から器高の低い鉢が出土している。

2681SI は 08B 区の北西寄りに位置する 3.2m 四方の小型竪穴建物で、北辺と東辺のみに幅広周溝を有し、これを貼り床で埋める。台付甕が出土。

2682SI は 2681SI の西隣。4.0×3.6m の台形の平面で、掘り方よりかなり内側に深さ 15cm の幅広周溝をしたのちこれを埋めて壁溝を掘削する。この壁溝もまた、南西隅と北東隅では壁面よりも 40cm 近く内側をめぐるのが特徴。北壁に接して炉を有する。

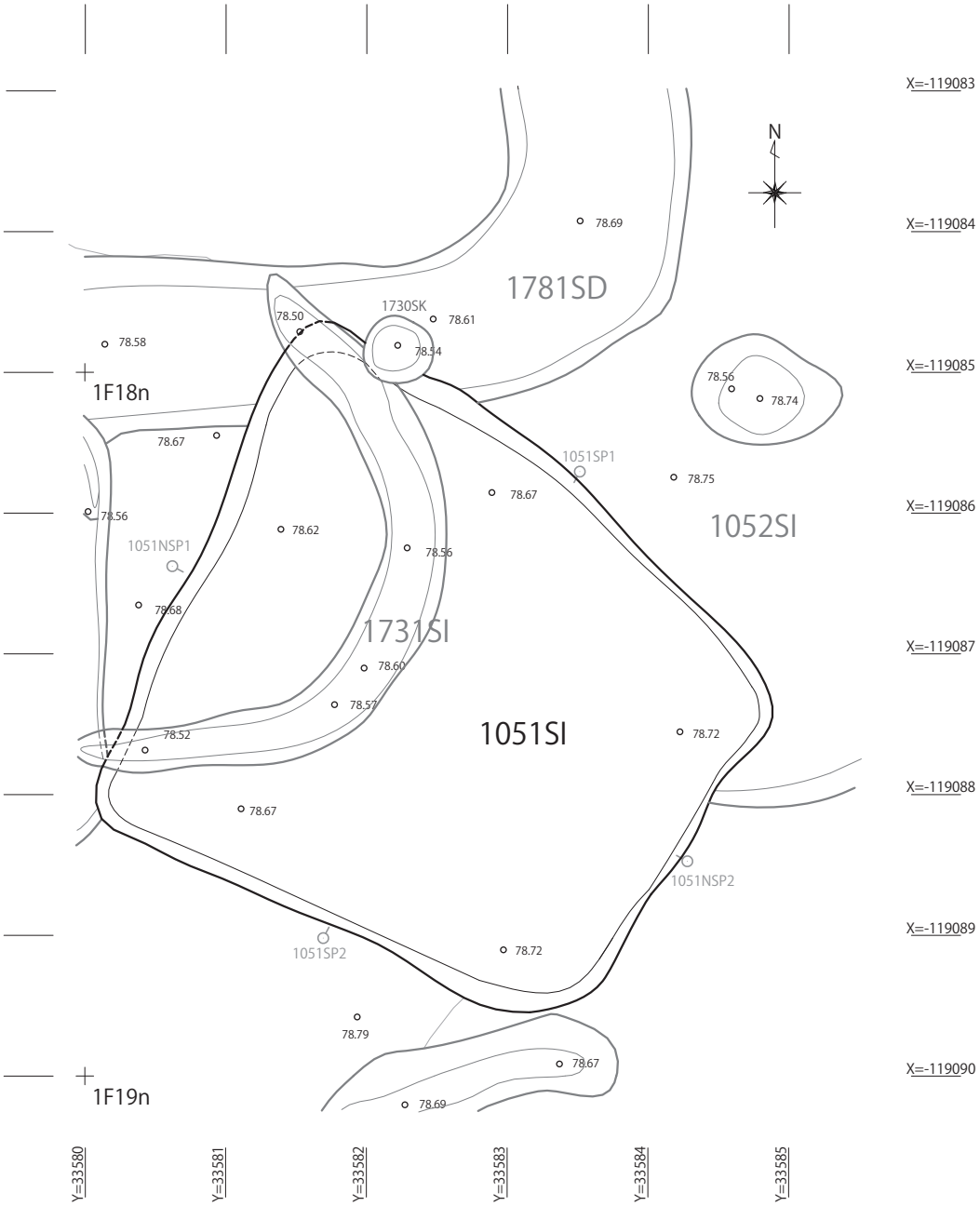
2810SI は 08A・B 区の境に位置する 3.0×2.3m 以上の小型の竪穴建物で、西壁際に炉跡 871SL を有する。

3020SI は 08B 区の北東寄りに位置する。4.6m 四方で、遺構検出面から掘り方底面までの深さは 35cm ほど。掘り方は中央部を直径 1.5m ほど掘り残して幅広周溝を掘削し、これを埋めてから壁溝を掘る。台付甕の脚部が出土。

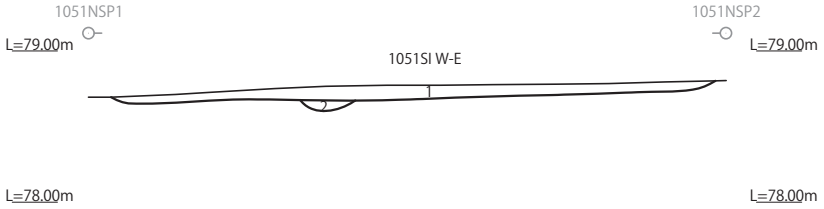
3083・3243SI は 4 期の区画溝によって中央を破壊された小型の竪穴建物。一辺が 2 ～ 3m の規模だが壁溝を有する。

3124SI もまた 3.4×3.3m の小型竪穴建物だが、遺構検出面から掘り方底面までの深さは 30cm と深く、貼り床をほどこしたのち、中央に炉を作る。廻間Ⅱ式期後半の遺物が出土している。

3314SI は 08B 区の南端に位置する。掘り方は 6.0×5.8m と本遺跡内では最大規模で、深さも検出面から 50cm を測る。この竪穴建物の最大の



A区1051SI東西セクション



1. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト やや軟質 褐色土やや強い斑状に含む
2. 5Y3/1 オリーブ黒色 シルト 軟質 黄褐色土斑状に含む

A区1051SI南北セクション

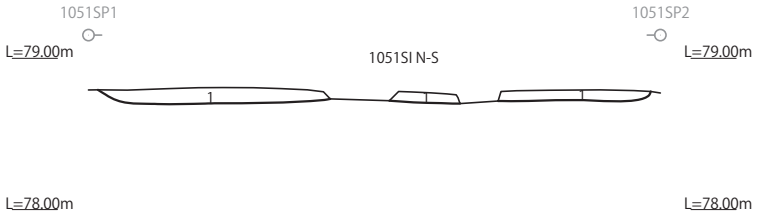
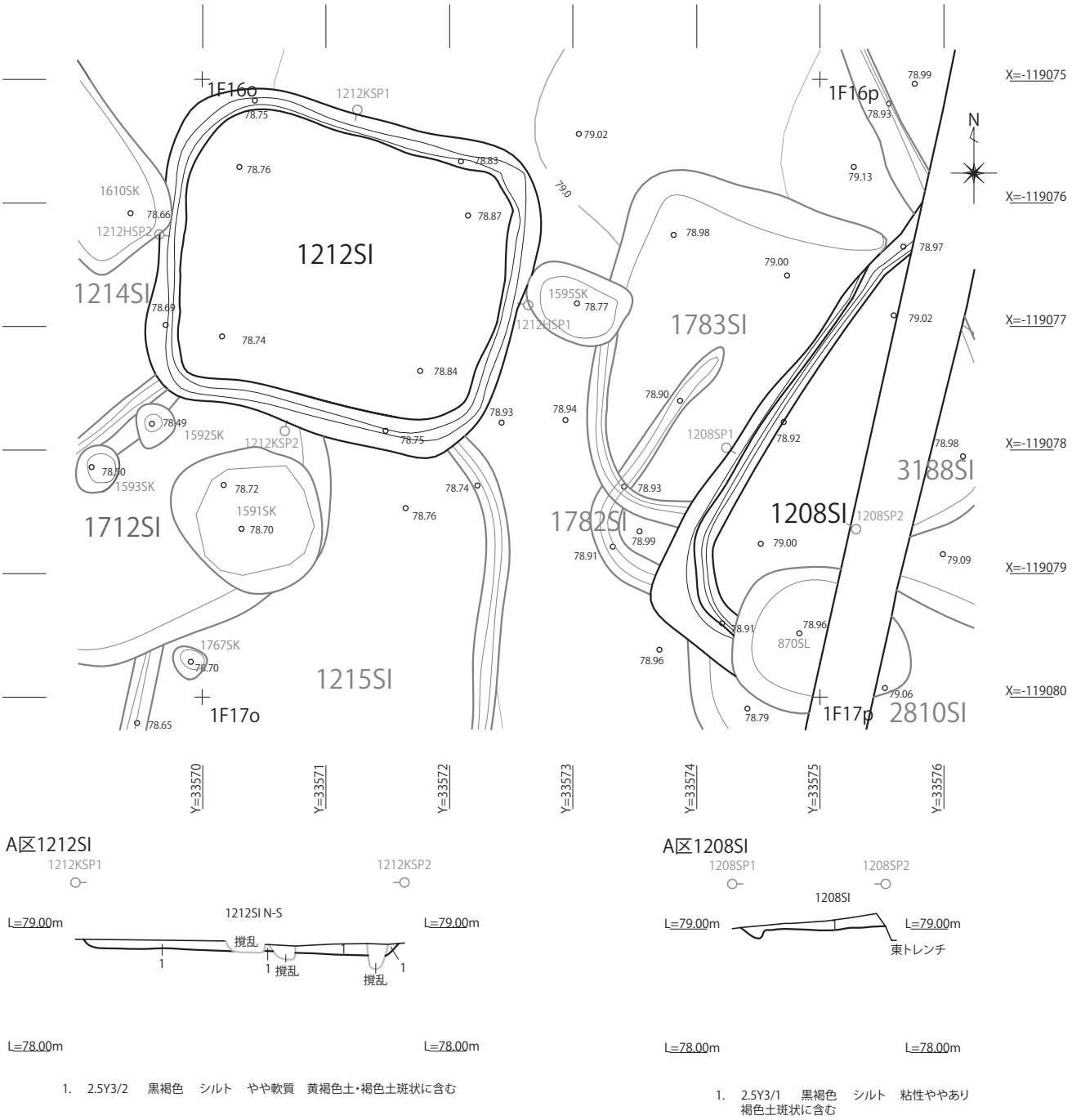


図 2-15 08A 区 1051SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）



1. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト やや軟質 黄褐色土・褐色土斑状に含む

1. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト 粘性ややあり 褐色土斑状に含む

図 2-16 08A 区 1208・1212SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）

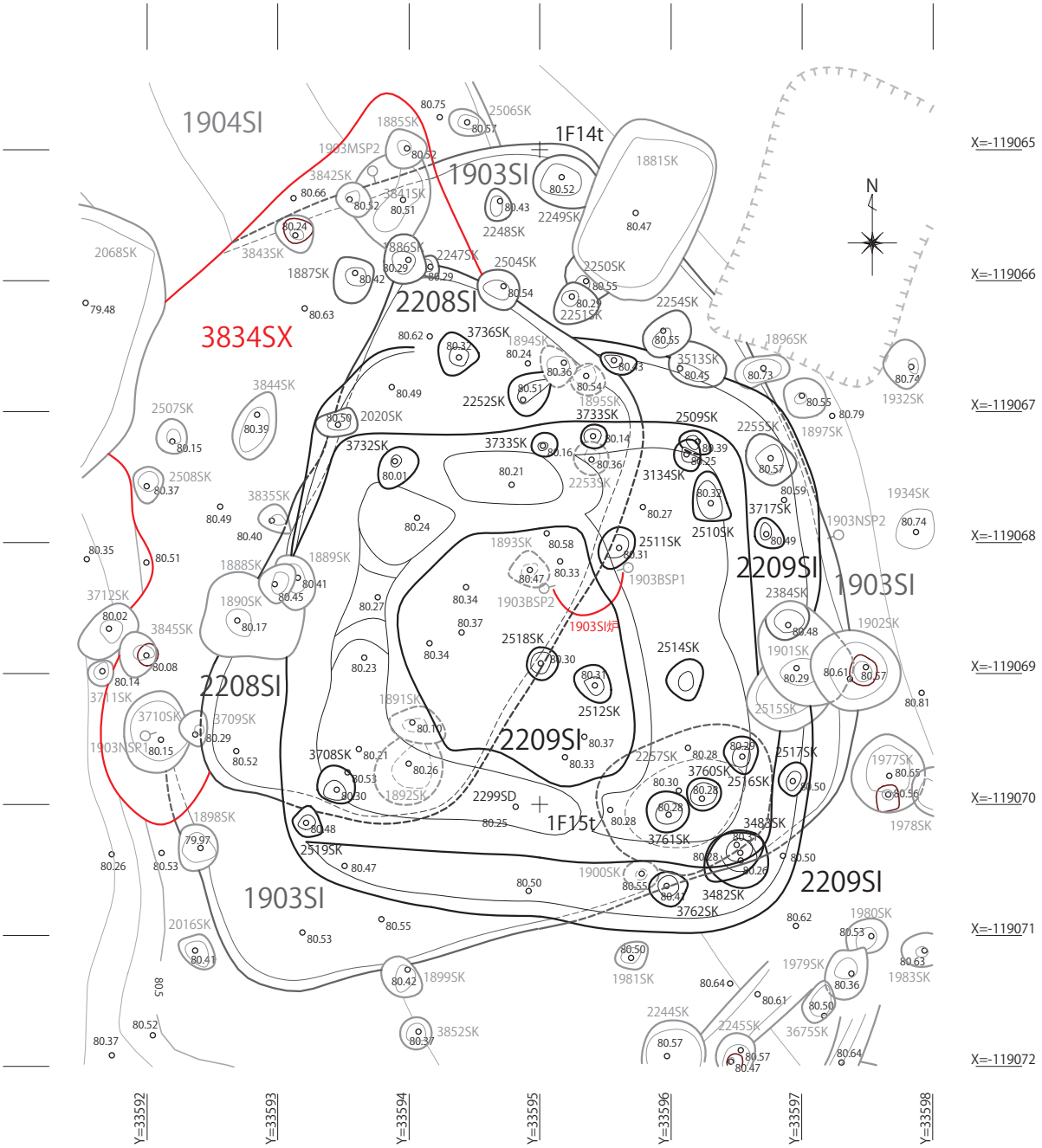
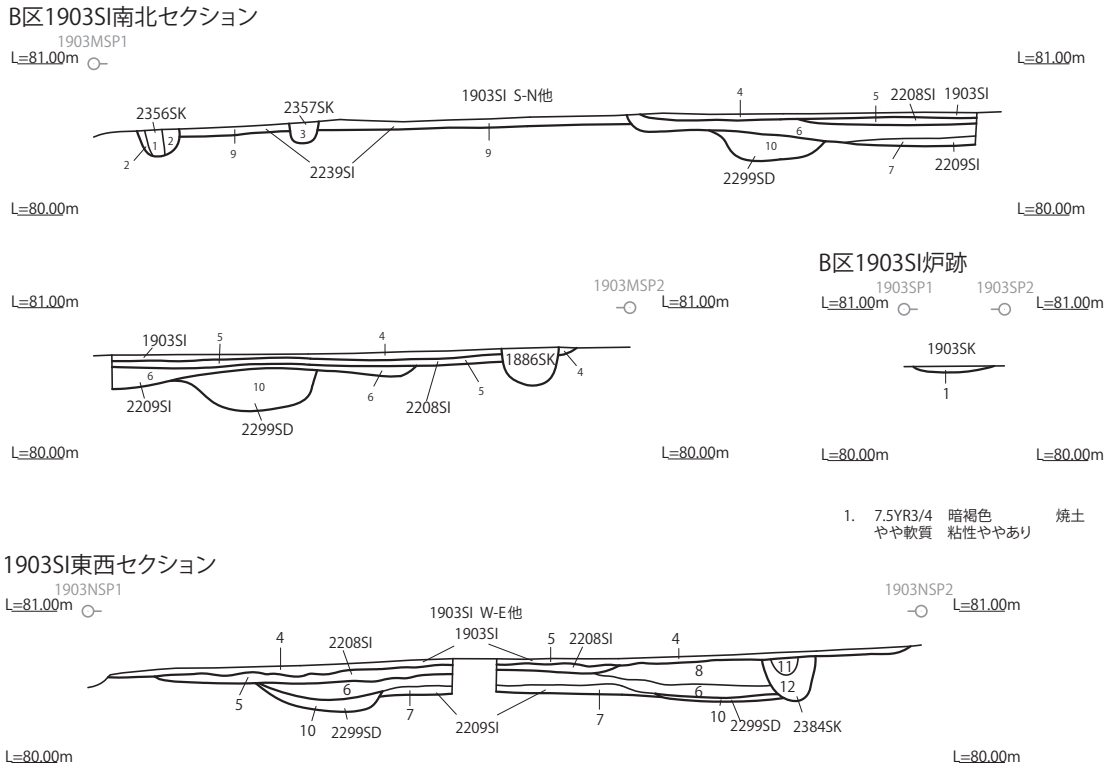


図 2-17　08B 区 1903・2208・2209SI・3834SX 遺構平面図（1:50）



1.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	粘性ややあり　黄褐色土斑状に含む
2.	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	やや硬質　粘性やや弱い
3.	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	軟質　粘性弱い　焼土わずかに含む　黄褐色土強い流状に含む
4.	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト	やや軟質　粘性弱い　黄褐色土斑状に含む
5.	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト	黄褐色土斑状に含む
6.	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト	やや硬質　黄褐色土やや強い流状に含む
7.	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	やや硬質　粘性ややあり　黄褐色土強い流～斑状に含む
8.	10YR3/2	黒褐色	シルト	やや硬質　褐色土少し含む
9.	5Y4/2	灰オリーブ色	シルト	やや硬質　黄褐色土やや強い流状に含む
10.	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト	やや軟質　黄褐色土下半にやや強い斑状に含む
11.	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	やや硬質　淡桃灰黄灰質土強い流状に含む
12.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	灰質土少し含む　炭少し含む

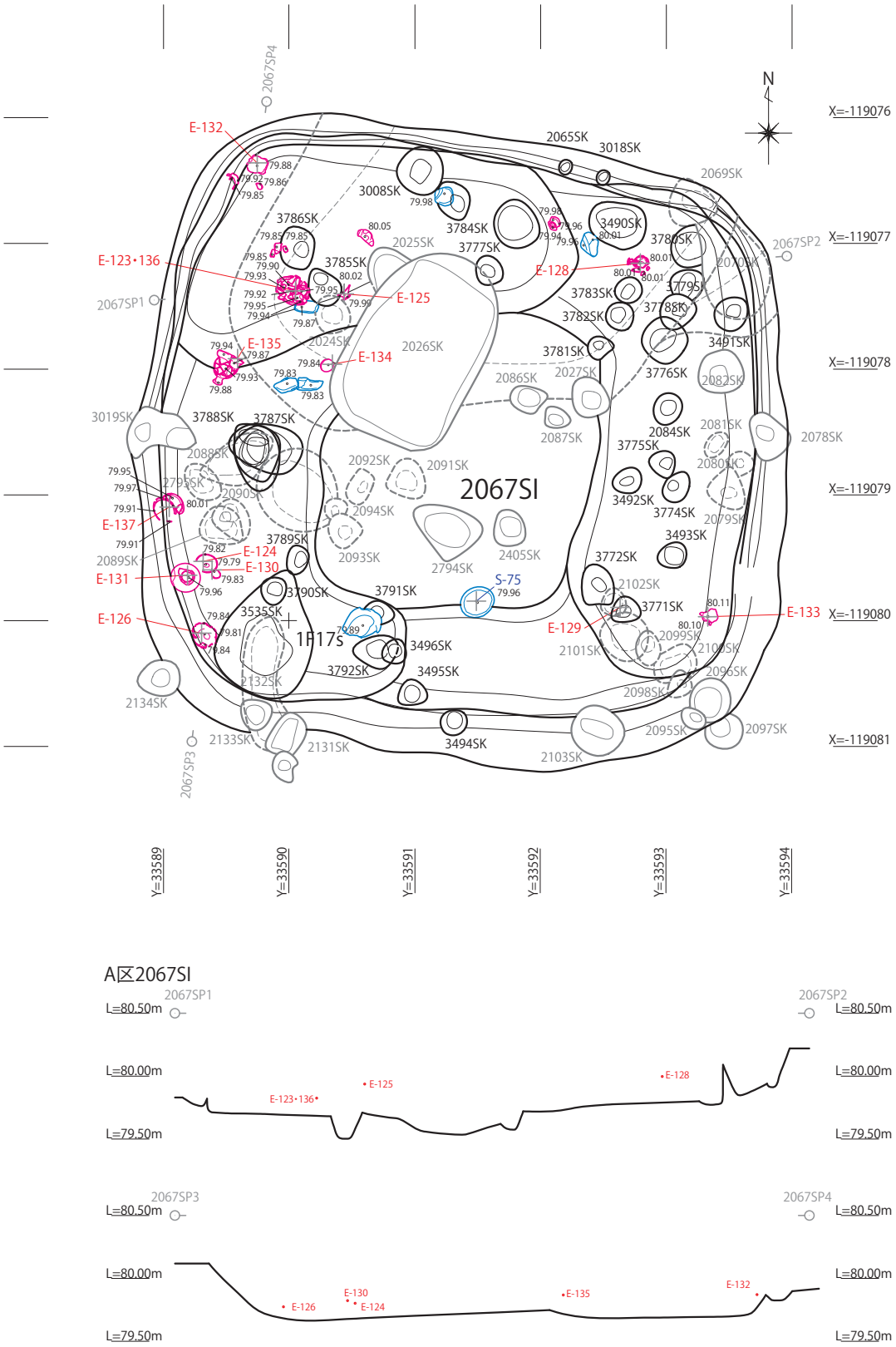
図 2-18　08B 区 1903・2208・2209SI 土層断面図（1:50）

特徴は、掘り方に二重の幅広周溝を掘削している点である。この竪穴建物もまた、壁溝には壁板の痕跡が遺存していた。貯蔵穴を含めて多数の土器が出土しており、廻間Ⅲ式期前半～中葉併行に属する。

6548SI は 09 区のほぼ中央に位置している。5.2m 四方の規模で、遺構検出面から掘り方底面までの深さは 30cm。東辺と南辺にのみ幅広周溝を有し、これを埋め立てて貼り床をした後、壁溝を掘削する。この竪穴建物は 3 期に再掘削されており、7 世紀後半の三河型甕がまとまって出土している。

6610SI は 09 区のやや北寄りに位置している。4.1×3.8m の規模で、東辺にのみ壁溝をもつ。この竪穴建物にも古代の土坑（6001・6002SK）が重なって築かれている。

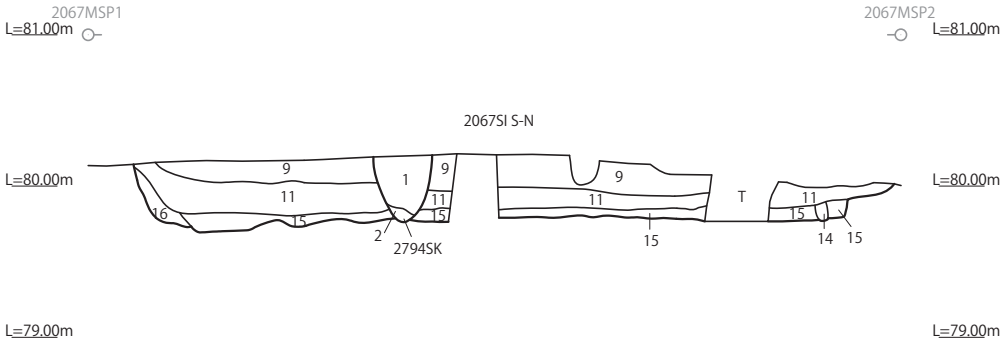
6792SI は 6548SI の西に位置する 3.5×2.9m の小型竪穴建物。壁溝を有し、廻間Ⅲ式期前半～中葉併行の土器が多数出土している。



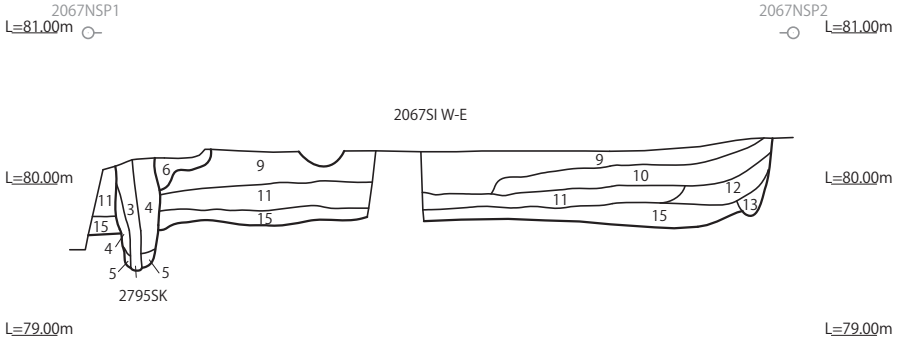
A区2067SI

図 2-19　08B 区 2067SI 遺構平面図・遺物出土状態図（1:50）

B区2067SI南北セクション

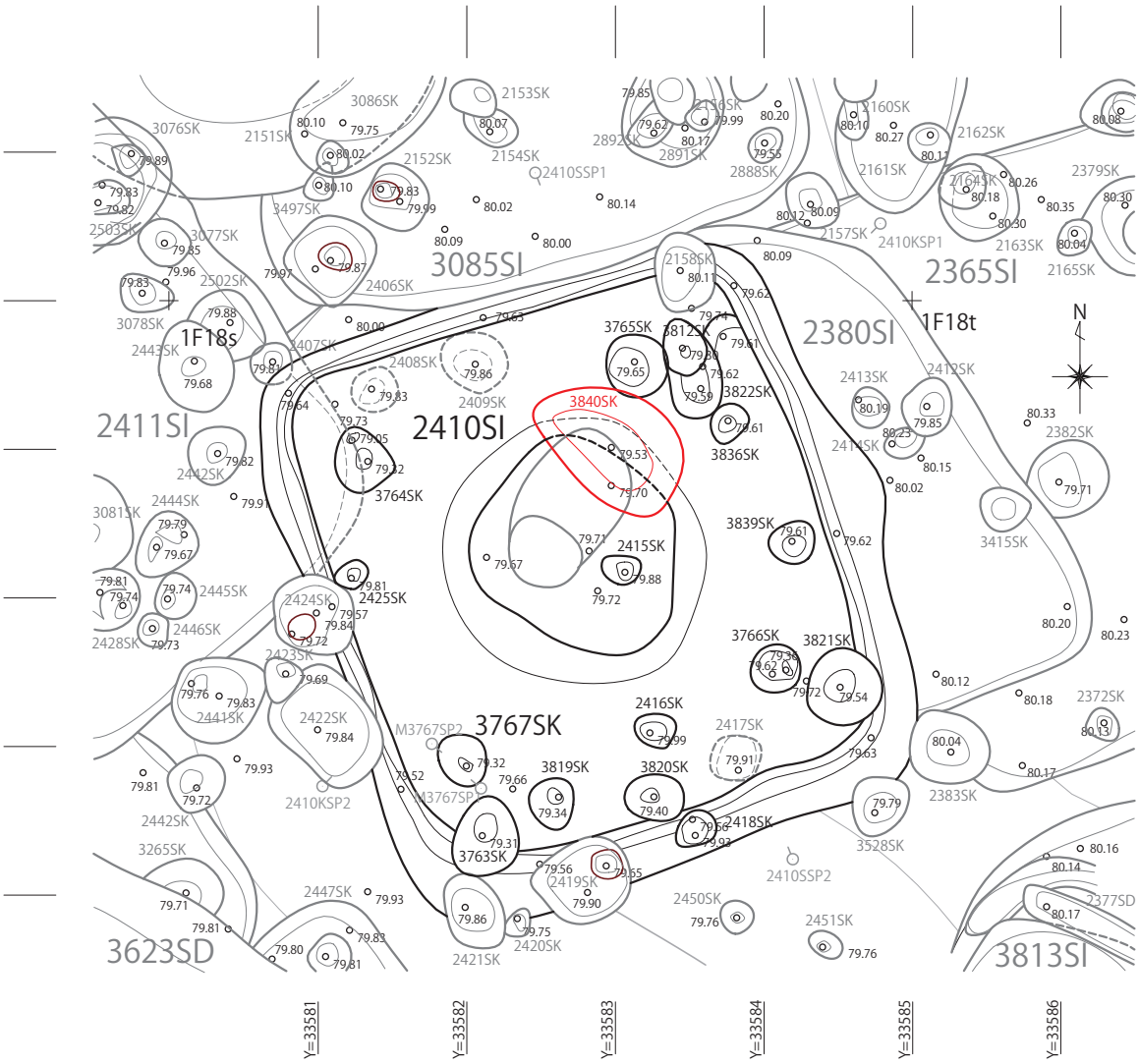


B区2067SI東西セクション

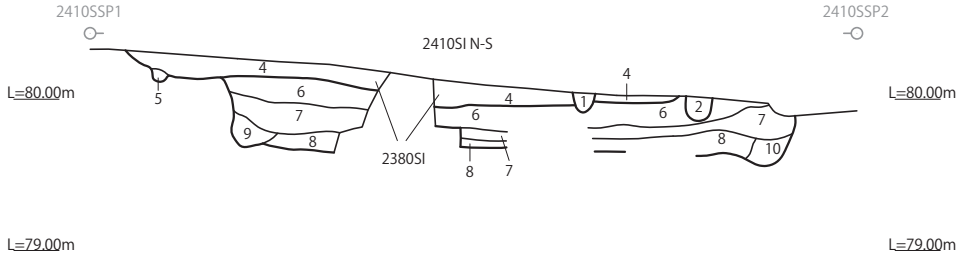


1.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	軟質　粘性ややあり
2.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	粘性あり　黄褐色土斑状に含む
3.	10YR4/4	褐色	シルト	軟質　粘性弱い　炭まばらに含む　黄褐色土斑状に含む　炭質土やや強い斑状に含む
4.	10YR4/4	褐色	シルト	硬質　粘性弱い　黄褐色土やや強い流状に含む　焼土・炭わずかに含む
5.	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	硬質　粘性あり　黄褐色土強い流状に含む
6.	10YR4/4	褐色	シルト	硬質　焼土まばらに含む　炭質土やや強い斑状に含む
9.	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	黄褐色土流状に含む
10.	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	やや硬質　黄褐色土強い流状に含む
11.	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	黄褐色土強い流状に含む
12.	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト	やや軟質　粘性ややあり　黄褐色土やや強い流状に含む
13.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	軟質　粘性ややあり　黄褐色土強い流状に含む
14.	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト	軟質　粘性あり　黄褐色土流～斑状に含む
15.	5Y4/3	暗オリーブ色	シルト	やや硬質　粘性あり　黄褐色所々強い斑状に含む
16.	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト	軟質　粘性ややあり　黄褐色土強い流状に含む

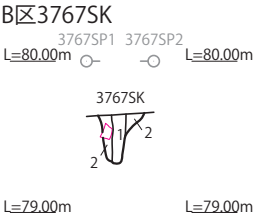
図 2-20　08B 区 2067SI 土層断面図（1:50）



B区2410SI南北セクション

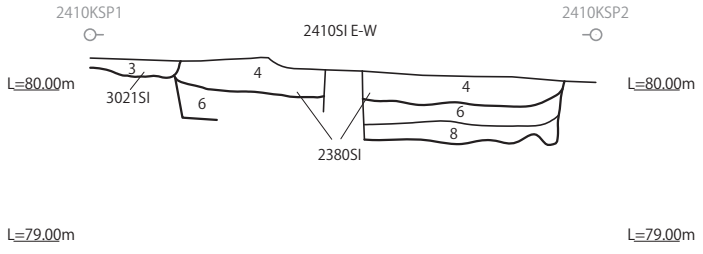


B区3767SK



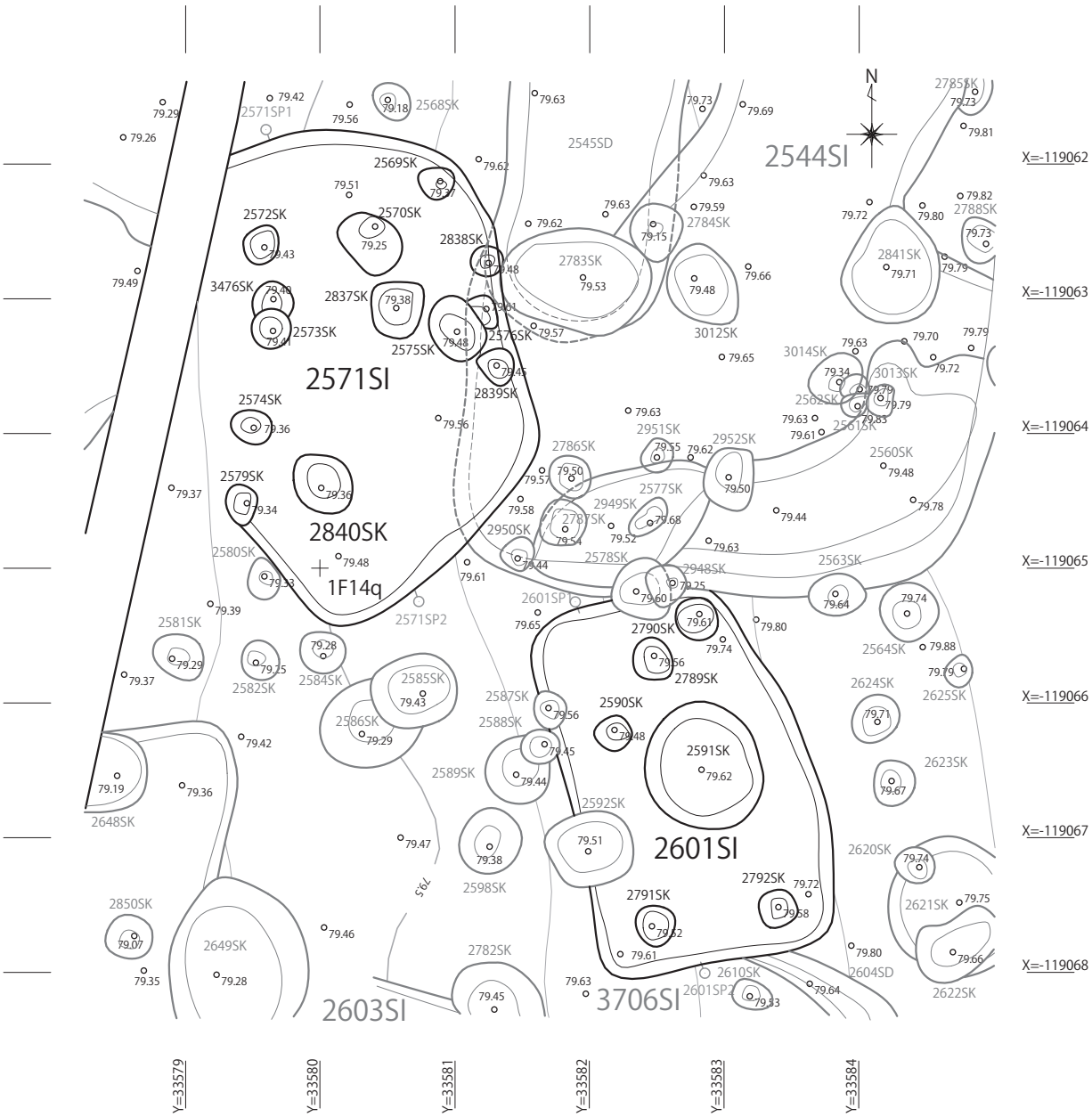
1. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト
軟質 黄褐色土流～斑状に含む
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト
黄褐色土流～斑状に含む

B区2410SI東西セクション

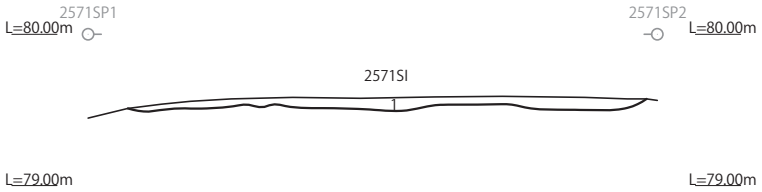


1.	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	やや硬質 黄褐色土強い流～斑状に含む
2.	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	軟質 褐色土斑状に含む
3.	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	硬質 褐色土斑状に含む
4.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	やや硬質 褐色土斑状に含む
5.	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	軟質 粘性ややあり 黄褐色土・褐色土斑状に少し含む
6.	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	黄褐色土所々斑状に含む
7.	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	やや軟質
8.	5Y3/2	オリーブ黒色	砂質シルト	やや硬質 黄褐色土強い斑～流状に含む
9.	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	細粒 軟質 褐色土斑状に含む
10.	2.5Y5/4	黄褐色	砂質シルト	軟質 黄褐色土強い流～斑状に含む

図 2-21 08B 区 2410SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）

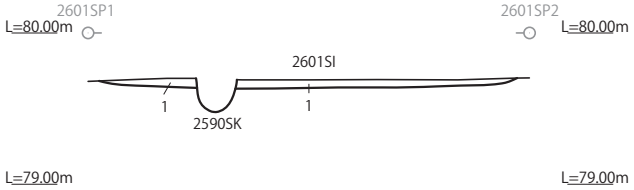


B区2571SI



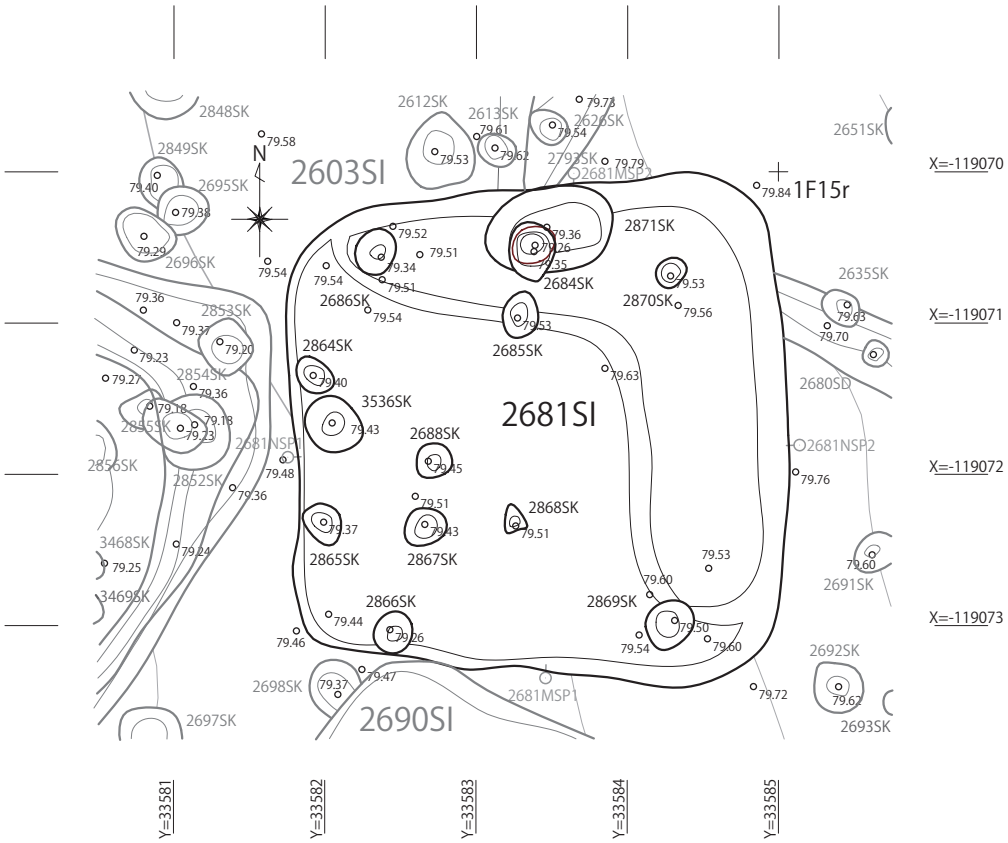
1. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト 褐色土やや強い斑状に含む

B区2601SI

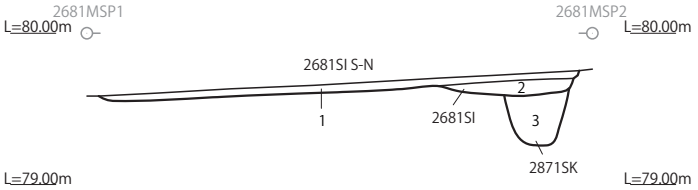


1. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト 褐色土やや強い斑状に含む

図 2-22 08B 区 2571・2601SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）



B区2681SI南北セクション



1.	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	褐色土斑状に含む
2.	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	やや硬質　黒色土・褐色土斑状に含む
3.	10YR3/3	暗褐色	シルト	やや硬質　粘性ややあり
A.	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	軟質　黄褐色土・褐色土斑状に少し含む

B区2681SI東西セクション

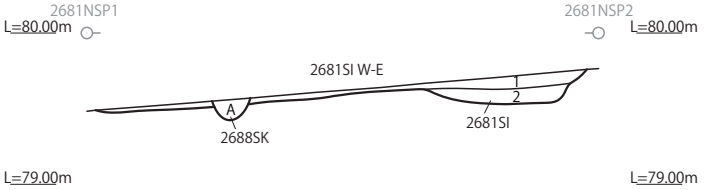
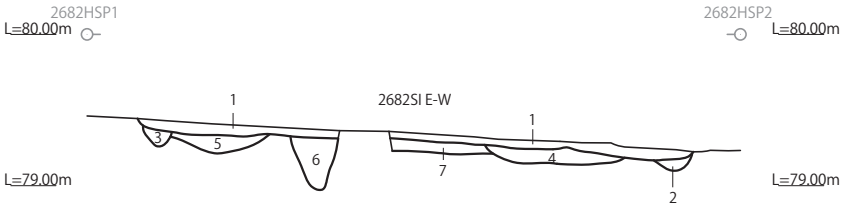
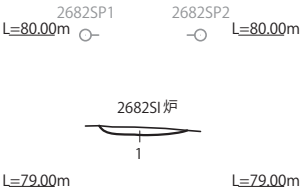


図 2-23　08B 区 2681SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）

B区2682東西セクション

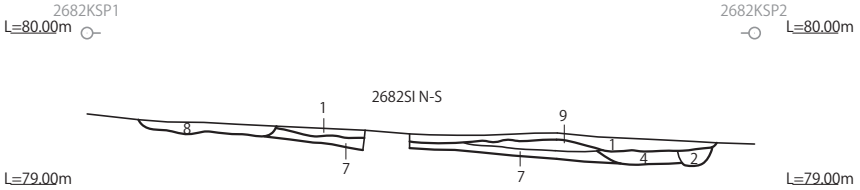


B区2682SI炉



1. 10YR3/2 黒褐色 焼土 やや硬質 黒色土・暗褐色土斑状に含む

B区2682南北セクション



1. 5Y3/1 オリーブ黒色 シルト 軟質 粘性ややあり 褐色土・黄褐色土斑状に少し含む
2. 5Y3/2 オリーブ黒色 シルト
3. 5Y3/2 オリーブ黒色 シルト やや軟質 粘性やや弱い 焼土やや強い斑状に含む
4. 5Y4/2 灰オリーブ色 シルト やや硬質 黄褐色土斑状に含む
5. 5Y5/4 オリーブ色 シルト 軟質 黄褐色土やや強い斑～流状に含む
6. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト 硬質 粘性ややあり
7. 2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト やや軟質 黒色土強い斑状に含む
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト やや軟質 黄褐色土強い斑状に含む
9. 5Y2/2 オリーブ黒色 シルト 硬質 粘性ややあり 黄褐色土斑状に含む

図 2-24 08B 区 2682SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）

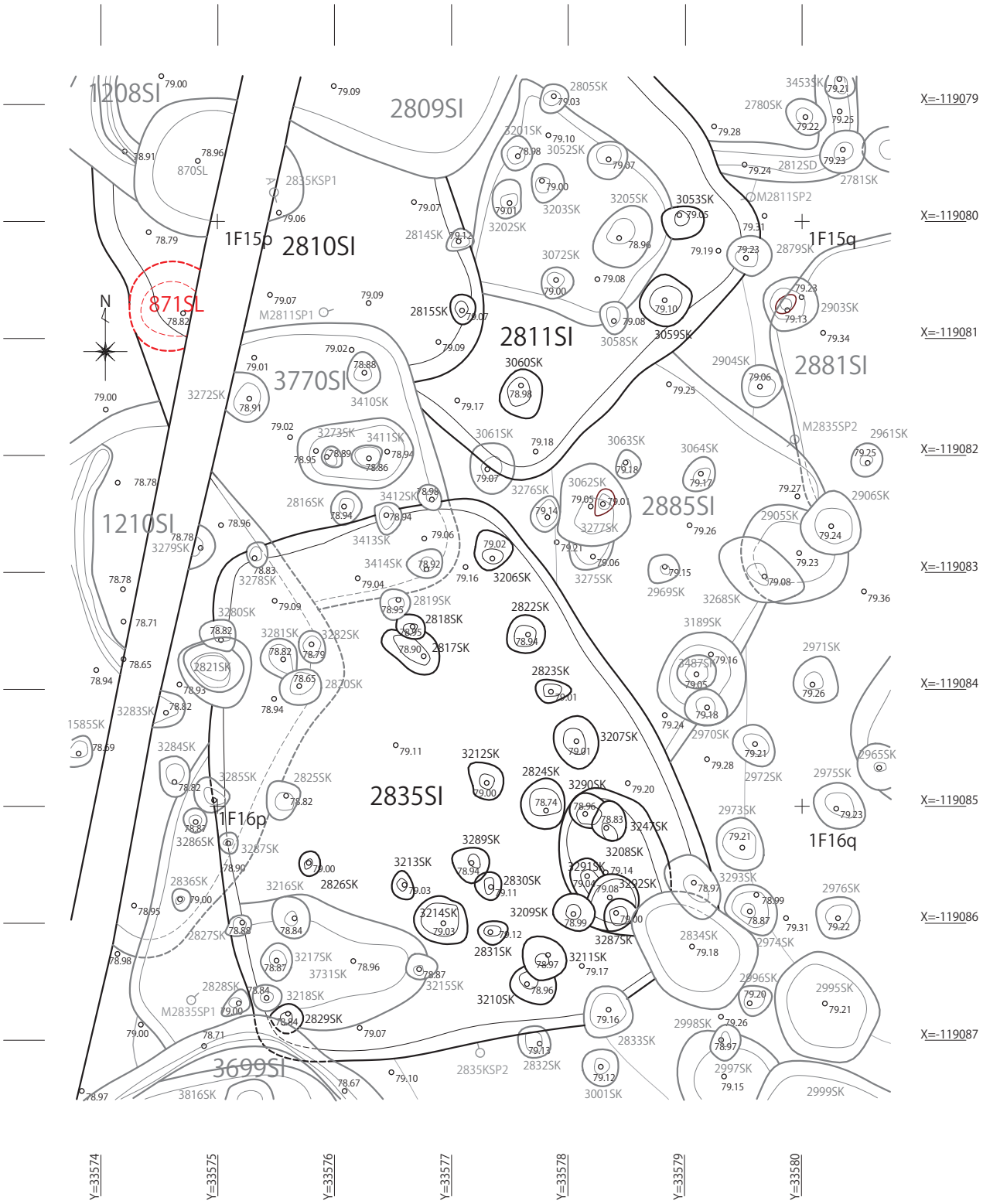
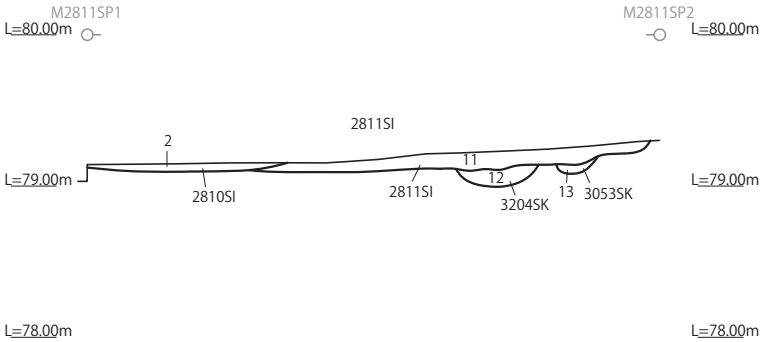


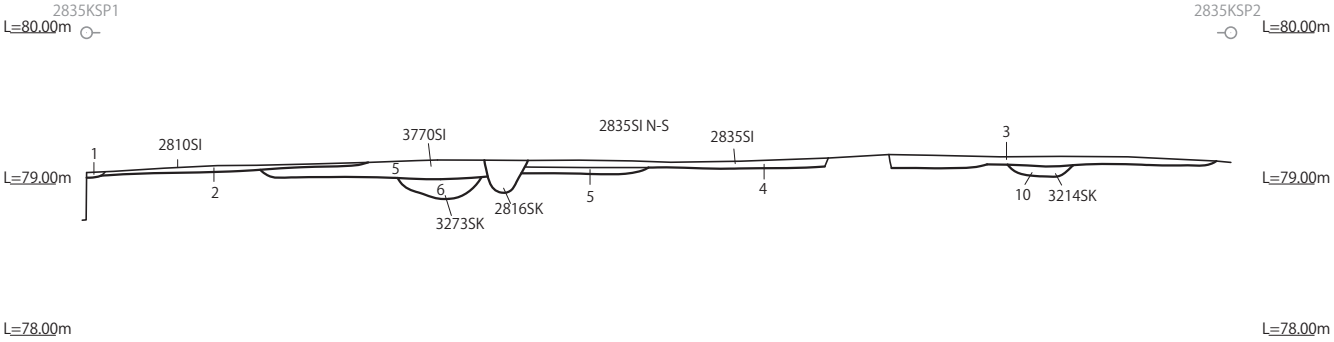
図 2-25　08B 区 2810・2811・2835SI 遺構平面図（1:50）

B区2811SI



1.	5YR4/6	赤褐色	焼土	黒色土斑状に少し含む
2.	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	褐色土斑状に少し含む
3.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	軟質　粘性やや弱い　褐色土斑状に含む
4.	5Y2/2	オリーブ黒色	シルト	褐色土斑状に少し含む
5.	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	やや軟質　褐色土斑状に少し含む
6.	5Y2/2	オリーブ黒色	シルト	褐色土斑状に少し含む
7.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	硬質　褐色土斑状に少し含む
8.	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	硬質　粘性ややあり　黒色土斑状に少し含む
9.	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト	軟質　粘性弱い　褐色土斑状に含む
10.	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	
11.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	やや軟質　褐色土斑状に含む
12.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	褐色土斑状に含む
13.	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	褐色土斑状に含む

B区2835SI南北セクション



B区2835SI東西セクション

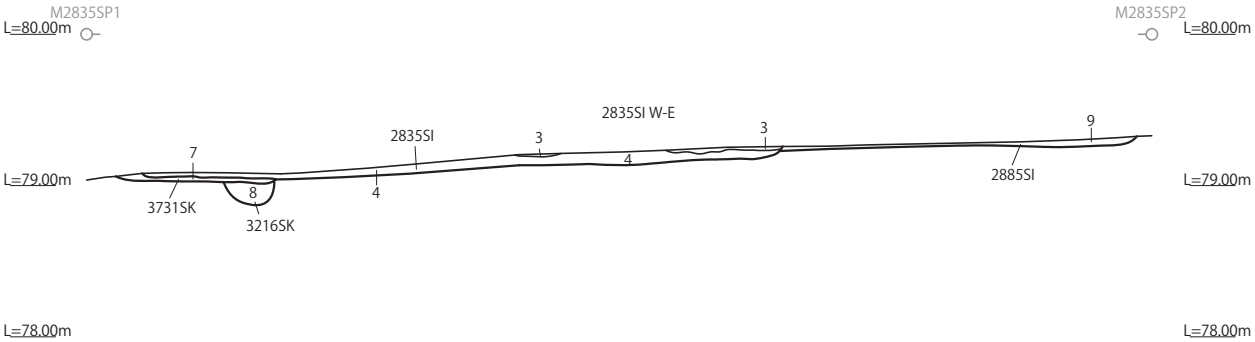
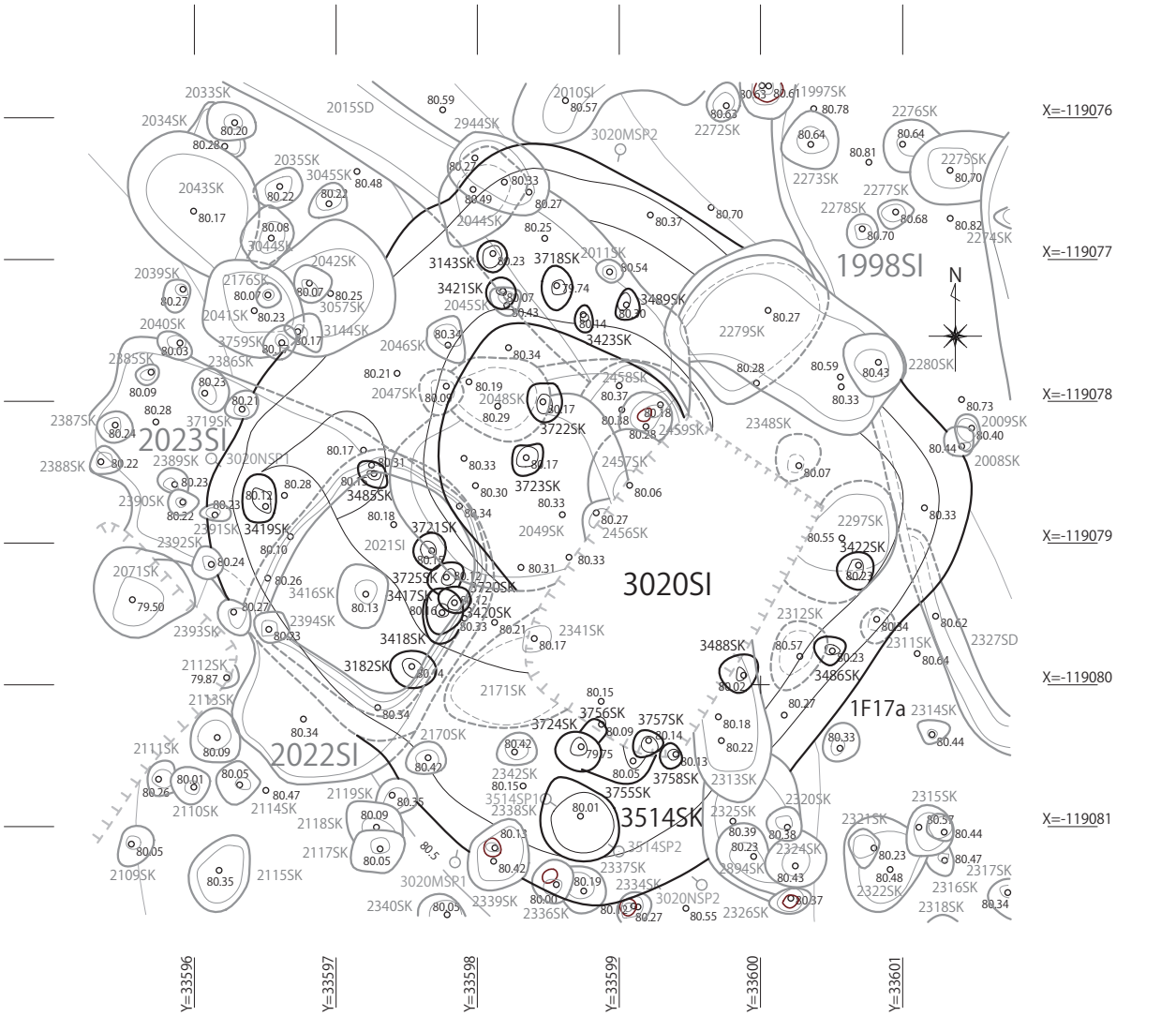
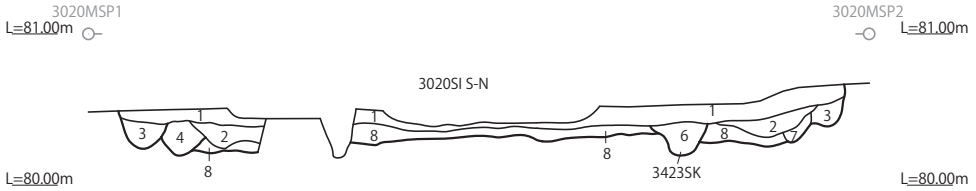


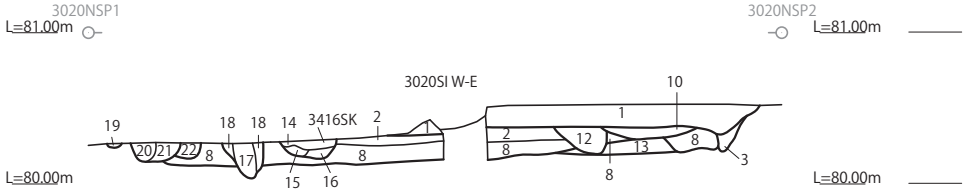
図 2-26　08B 区 2810・2811・2835SI 土層断面図（1:50）

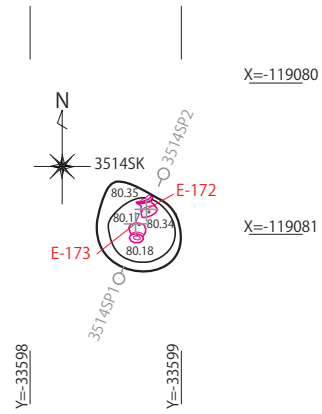


B区3020SI南北セクション

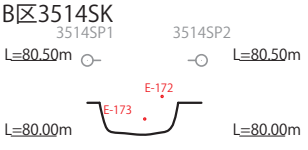


B区3020SI東西セクション



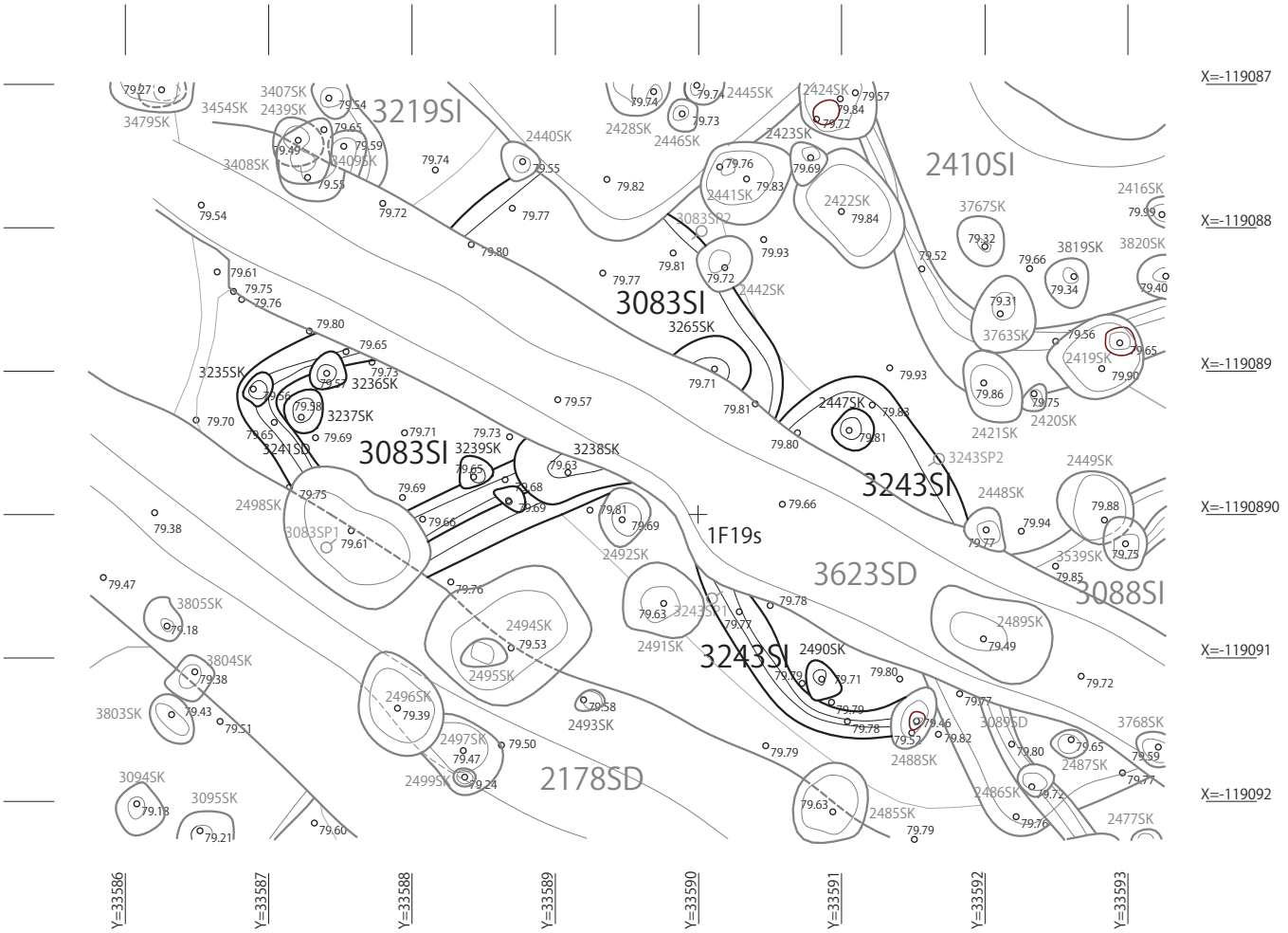


B区3514SK

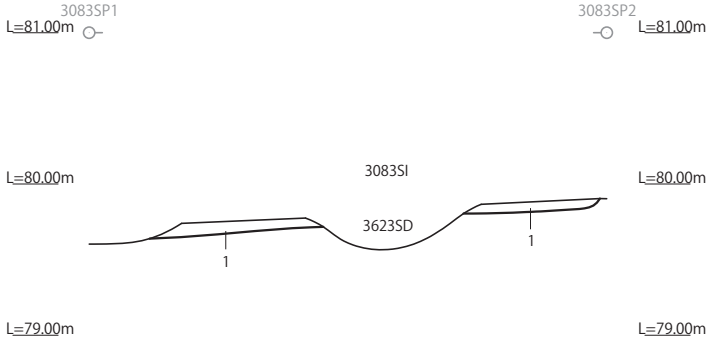


1.	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	黄褐色土・褐色土まばらに含む
2.	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	やや硬質　粘性ややあり　黄褐色土斑状に含む
3.	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	やや硬質　粘性やや弱い　黄褐色土強い流状に含む
4.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	やや硬質　黄褐色土強い斑状に含む
6.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	黄褐色土強い斑状に含む
7.	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	やや硬質　粘性ややあり　黒色土・褐色土斑状に含む
8.	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	硬質　粘性ややあり　黒色土斑状に含む
10.	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	硬質　黄褐色土強い流状に含む　炭まばらに含む
12.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	硬質　粘性ややあり　黄褐色土強い流～斑状に含む
13.	5Y5/4	オリーブ色	シルト質砂	硬質　黒色土斑状に少し含む
14.	5Y3/2	オリーブ黒色	細砂質シルト	やや硬質　焼土強い流状に含む
15.	7.5YR4/4	黄褐色	細砂質シルト	やや硬質　焼土強い流状に含む
16.	2.5Y5/6	褐色	シルト	硬質　黄褐色土強い斑状に含む
17.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	やや軟質
18.	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	硬質　黄褐色土斑状に含む
19.	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	細粒　軟質　黄褐色土流～斑状に含む
20.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	焼土まばらに含む
21.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	硬質　黄褐色土強い流～斑状に含む
22.	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	硬質　黄褐色土強い斑状に含む

図 2-27　08B 区 3020SI 遺構平面図・土層断面図・遺物出土状態図（1:50）

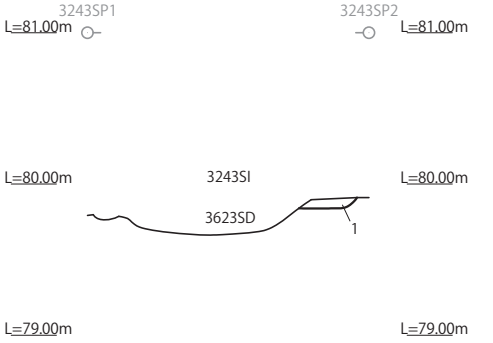


B区3083SI



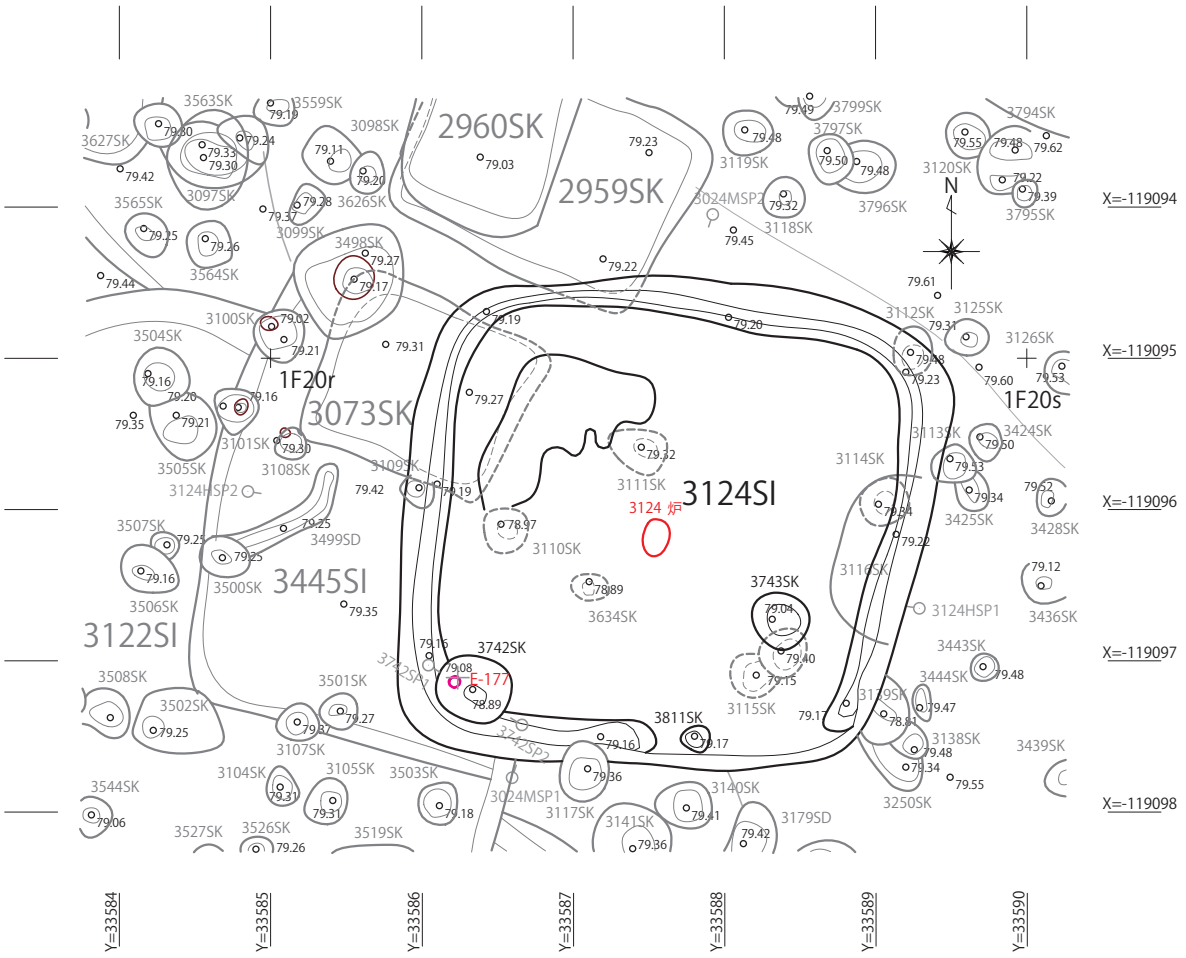
1. 5Y3/2 オリーブ黒色 シルト やや硬質 褐色土やや強い斑状に含む

B区3243SI

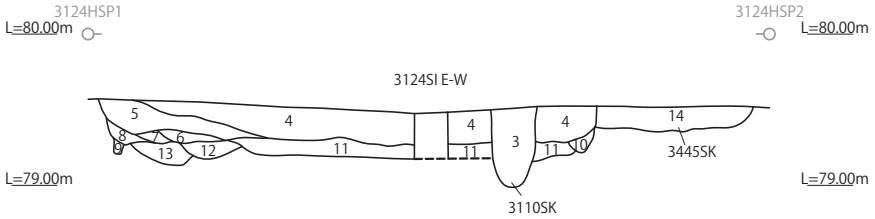


1. 5Y3/2 オリーブ黒色 シルト やや硬質 褐色土やや強い斑状に含む

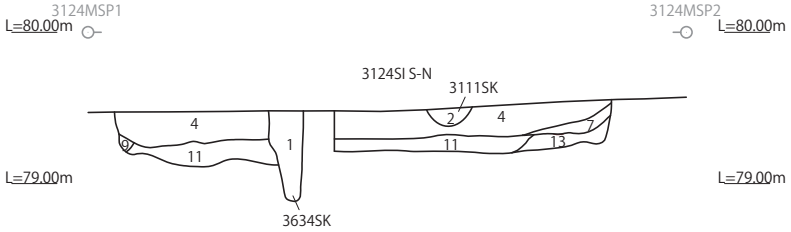
図 2-28 08B 区 3083・3243SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）



B区3124SI東西セクション



B区3124SI東西セクション



1. 10YR3/3 暗褐色 シルト やや軟質 焼土少し含む 黄褐色土まばらに含む
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト 軟質 黒褐色土少し含む
3. 7.5YR3/4 暗褐色 シルト 焼土少し含む
4. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 粘性ややあり 黄褐色土・褐色土まばらに含む
5. 5Y3/2 オリーブ黒色 シルト やや軟質 黄褐色土斑状に含む
6. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト 褐色土斑状に少し含む
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト やや軟質 粘性やや弱い 焼土強い流状に含む
8. 2.5Y4/3 オリーブ黒色 シルト 軟質 粘性やや弱い 黄褐色土強い流状に含む
9. 2.5Y4/4 オリーブ褐色 シルト 軟質 黄褐色土強い流状に含む
10. 5Y4/3 暗オリーブ色 シルト 軟質 黄褐色土強い流状に含む
11. 5Y3/2 オリーブ黒色 シルト 粘性ややあり 黄褐色土やや弱い斑状に含む
12. 5Y3/1 オリーブ黒色 シルト 粘性ややあり 黄褐色土斑～流状に含む
13. 5Y3/2 オリーブ黒色 シルト 粘性ややあり 黄褐色土やや強い流～斑状に含む
14. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト やや硬質 粘性ややあり 淡黄褐色土・褐色土斑状に含む

B区3742SK

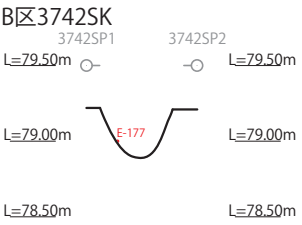
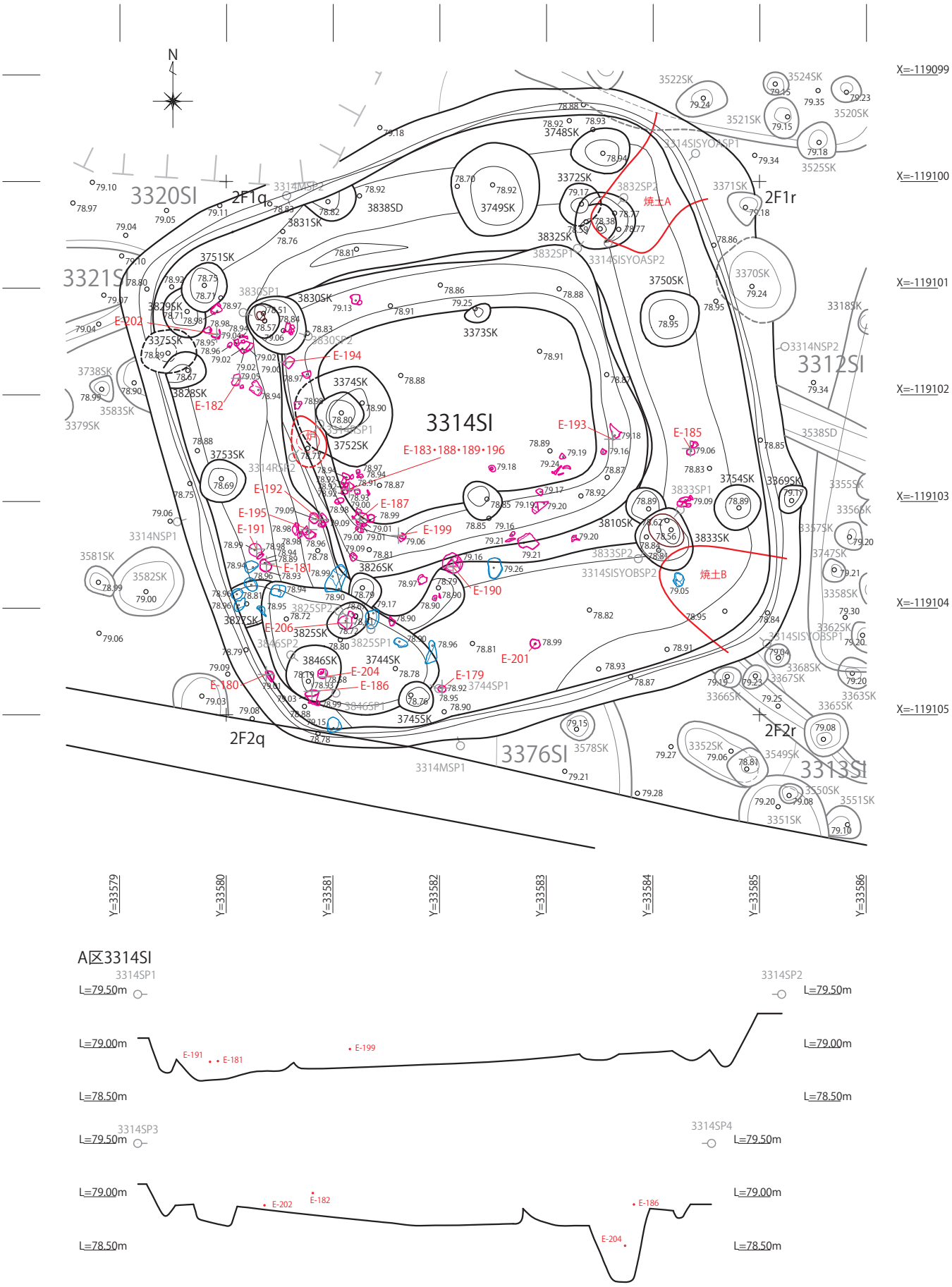


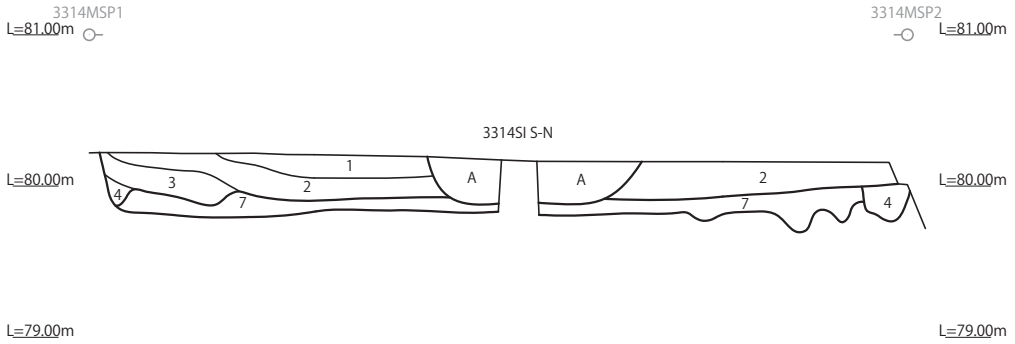
図 2-29 08B 区 3124SI・3742SK 遺構平面図・土層断面図・遺物出土状態図（1:50）



A区3314SI

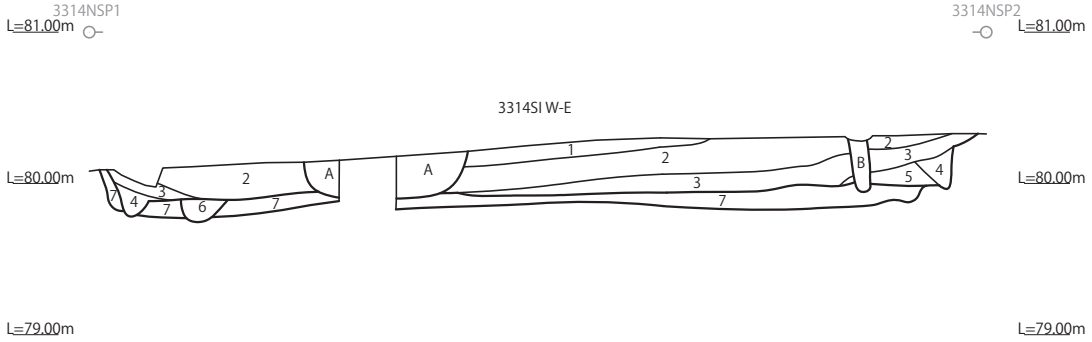
図 2-30　08B 区 3314SI 遺構平面図・遺物出土状態図（1:50）

B区3314SI南北セクション

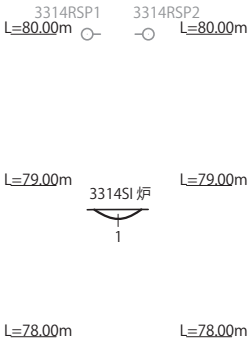


1. 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性やや弱い 褐色土斑状に含む
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト やや硬質 黄褐色土やや強い流状に含む 焼土わずかに含む
3. 5Y3/1 オリーブ黒色 シルト やや軟質 黄褐色土やや強い斑状に含む
4. 5Y3/2 オリーブ黒色 シルト やや軟質 粘性ややあり 黄褐色土強い流～斑状に含む
5. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト やや硬質 黄褐色土強い流状に含む
6. 5Y2/2 オリーブ黒色 シルト 粘性ややあり 黄褐色土強い斑状に含む
7. 2.5Y5/4 黄褐色 シルト 硬質 粘性ややあり 黒色土やや強い斑状に含む
A. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 軟質 粘性ややあり 黄褐色土・褐色土やや強い斑状に含む
B. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 黄褐色土・褐色土斑状に含む

B区3314SI東西セクション

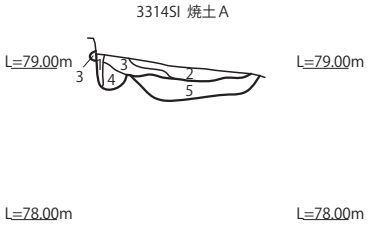


B区3314SI炉



1. 5Y5/6 オリーブ色 シルト質砂 軟質 焼土やや強い斑状に含む

B区3314SI焼土A



1. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト 軟質 粘性ややあり 黄褐色土流状に含む
2. 5YR6/6 橙色 焼土 粘性ややあり 黒～褐色土斑状に含む
3. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト やや軟質 褐色土斑状に含む
4. 5Y3/2 オリーブ黒色 シルト やや軟質 黄褐色土強い流～斑状に含む
5. 5Y3/2 オリーブ黒色 シルト 黄褐色土強い斑状に含む

B区3314SI焼土B

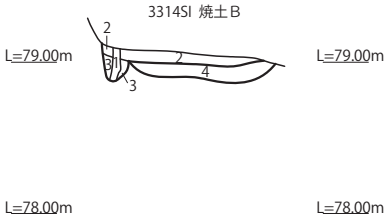
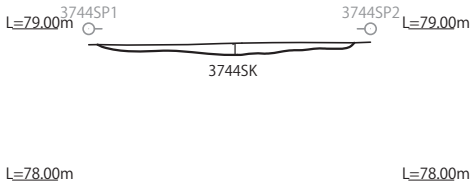


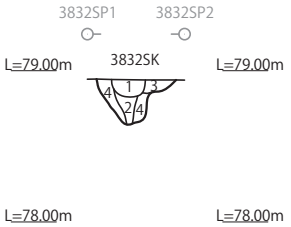
図 2-31 08B 区 3314SI 土層断面図 -1（1:50）

B区3744SK



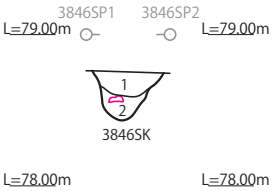
1. 2.5Y3/2　黒褐色　シルト　軟質　粘性ややあり　黄褐色土斑状に含む

B区3832SK



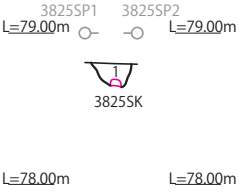
1. 5Y4/2　灰オリーブ色　シルト　黄褐色土やや強い斑状に含む
2. 5Y3/2　オリーブ黒色　シルト　軟質　黄褐色土斑状に含む
3. 5Y3/1　オリーブ黒色　シルト　やや硬質　黄褐色土斑状に含む
4. 5Y5/6　オリーブ色　シルト　やや軟質　黄褐色土斑状に含む

B区3846SK



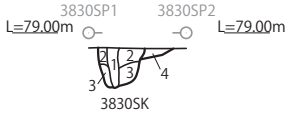
1. 5Y3/2　オリーブ黒色　シルト　黄褐色土流～斑状に含む
2. 5Y4/3　暗オリーブ色　砂質シルト　やや軟質　黄褐色土強い流～斑状に含む

B区3825SK



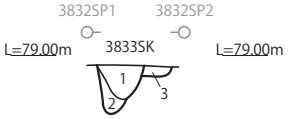
1. 2.5Y5/6　黄褐色　シルト　やや硬質　粘性ややあり　黄褐色土強い斑状に含む

B区3830SK



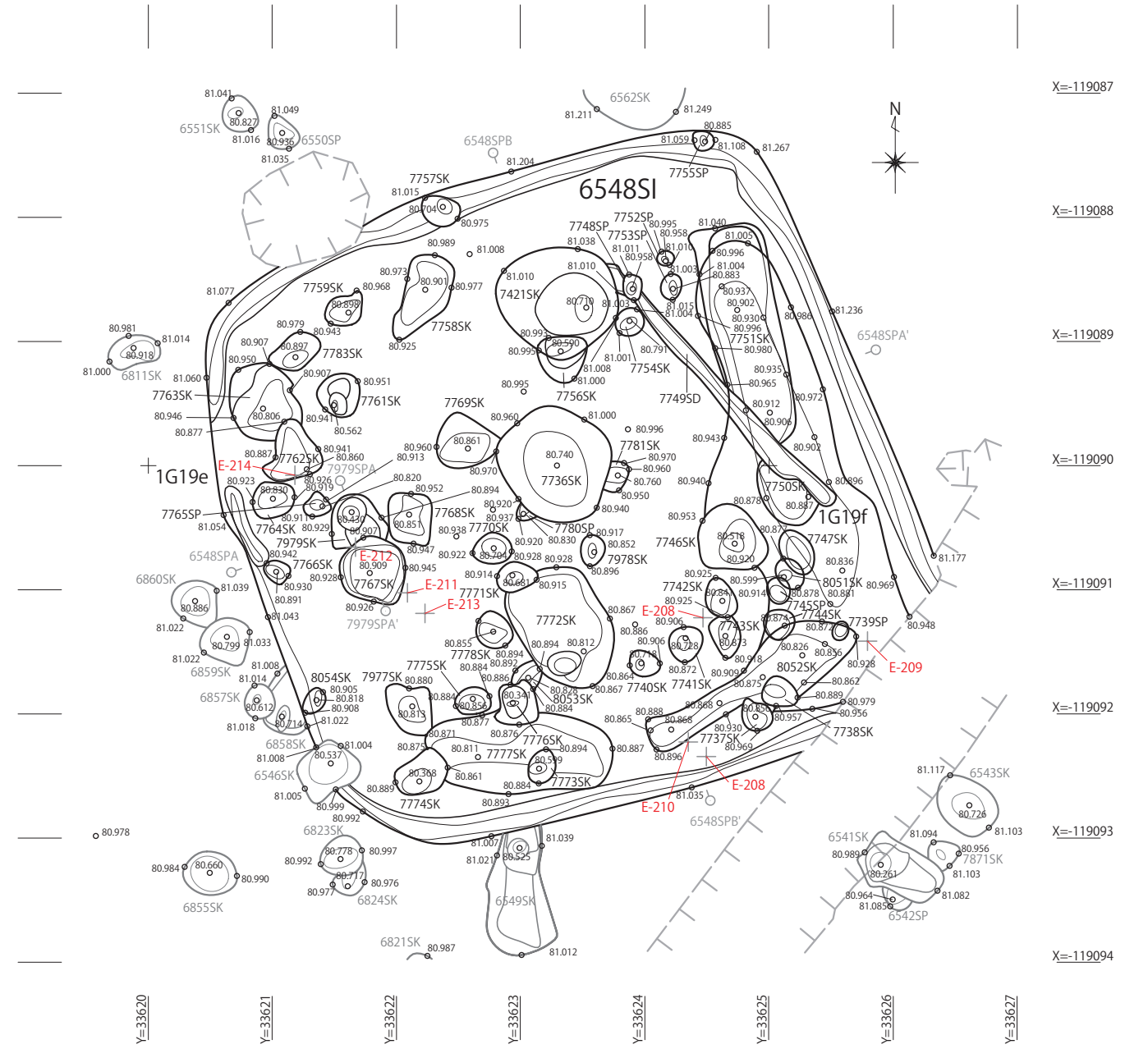
1. 2.5Y3/2　黒褐色　シルト　粘性ややあり　黄褐色土やや強い斑状に含む
2. 5Y3/2　オリーブ黒色　シルト　やや硬質　黄褐色土強い斑状に含む
3. 5Y5/6　オリーブ色　シルト　やや硬質　粘性あり　黒色土斑状に含む
4. 5Y3/1　オリーブ黒色　シルト　硬質　黄褐色土強い層状に含む

B区3832SK

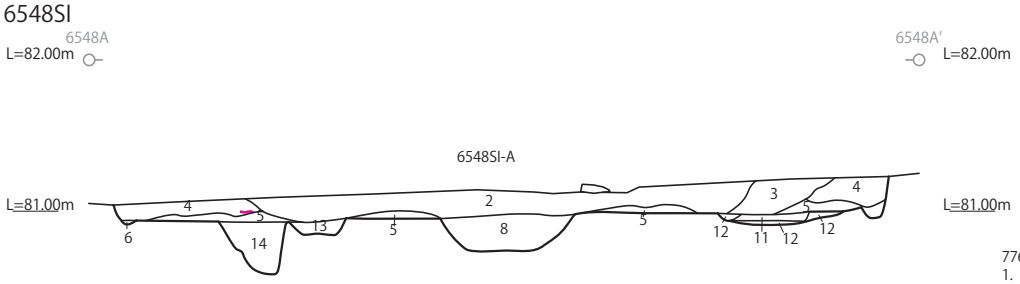


1. 2.5Y3/2　黒褐色　シルト　軟質　粘性ややあり
2. 2.5Y3/2　黒褐色　シルト　軟質　黄褐色土斑状に含む
3. 5Y3/2　オリーブ黒色　シルト　やや硬質　粘性ややあり　黄褐色土強い斑状に含む

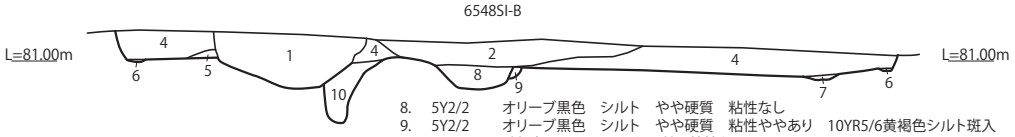
図 2-32　08B 区 3314SI 土層断面図 -2（1:50）



6548SI

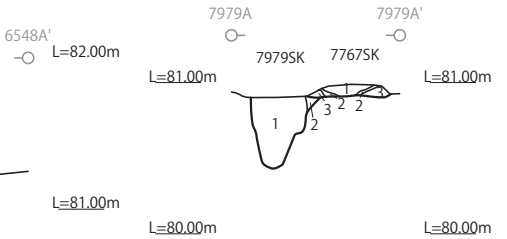


1. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし
2. 2.5Y2/1 黒色 シルト やや硬質 粘性なし
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト やや硬質 粘性なし 細粒砂含む
4. 10YR3/1 黒褐色 シルト やや硬質
5. 10YR3/3 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし 10YR5/6黄褐色シルト斑入
6. 10YR3/2 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし 10YR5/6黄褐色シルト斑入
7. 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト やや硬質 粘性ややあり 10YR5/6黄褐色シルト斑入



8. 5Y2/2 オリーブ黒色 シルト やや硬質 粘性なし
9. 5Y2/2 オリーブ黒色 シルト やや硬質 粘性ややあり 10YR5/6黄褐色シルト斑入
10. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし
11. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし
12. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし 10YR5/6黄褐色シルト斑入
13. 10YR3/1 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし 10YR5/6黄褐色シルト斑入
14. 10YR3/1 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし 10YR5/6黄褐色シルト斑入

7979・7767SK



7767SK
1. 2.5YR4/6 赤褐色 シルト 硬質 粘性なし 焼土
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト やや硬質 粘性なし
3. 10YR3/1 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし

7979SK
1. 10YR3/1 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし 10YR5/6黄褐色シルト斑入
2. 10YR3/1 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし

図 2-33 09 区 6548SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）

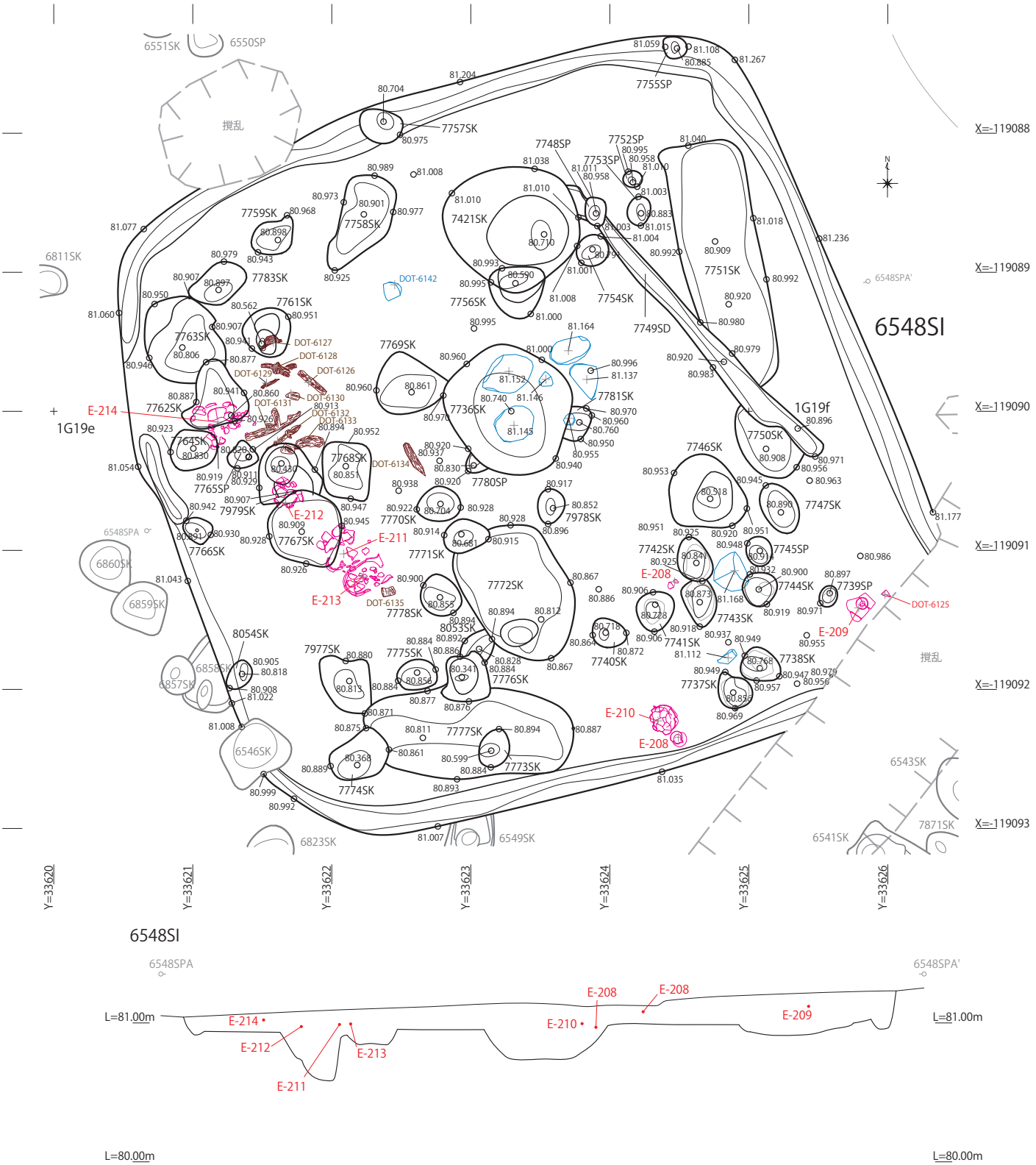
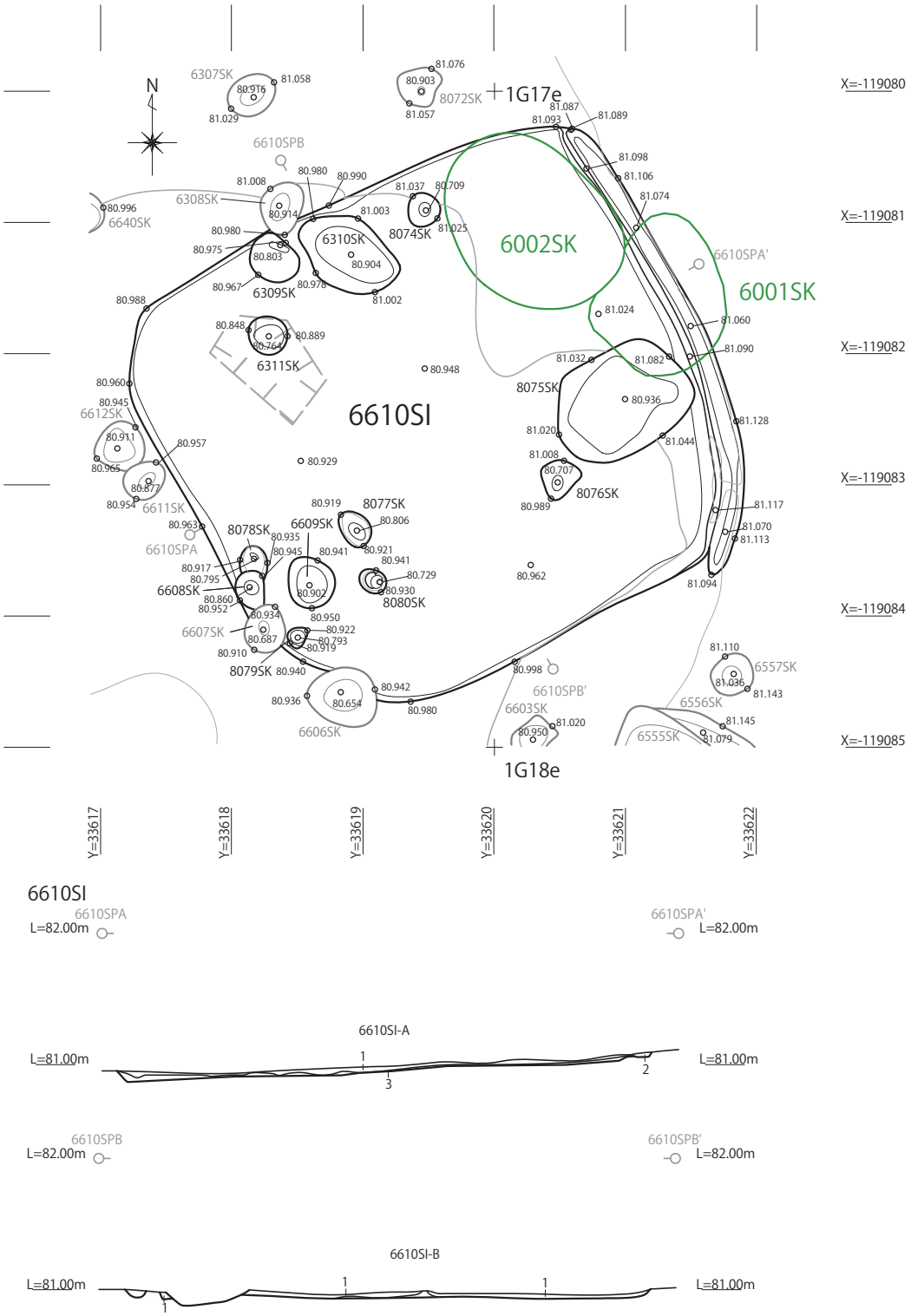
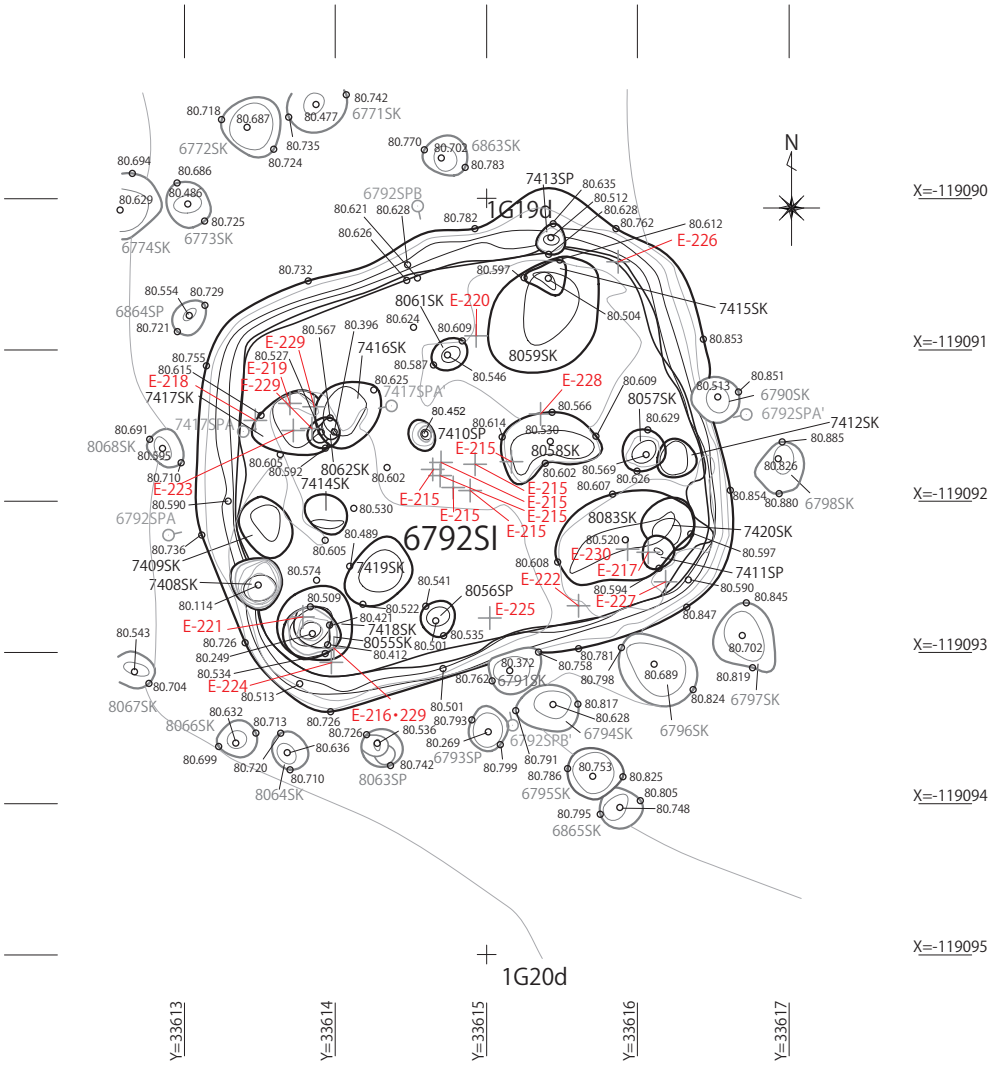


図 2-34　09 区 6548SI 遺物出土状態図（1:40）

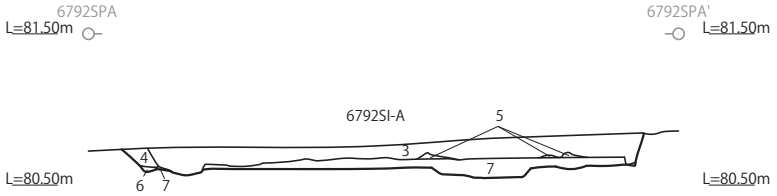


1. 7.5Y4/4　褐色　シルト　やや硬質　粘性なし　10YR5/6黄褐色シルト斑、10YR3/4暗褐色シルト斑入
2. 10Y4/3　にぶい黄褐色　シルト　やや硬質　粘性なし　10YR5/6黄褐色シルト斑入
3. 10Y5/4　にぶい黄褐色　シルト　やや硬質　粘性ややあり　10YR5/6黄褐色シルト斑入

図 2-35　09 区 6610SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）

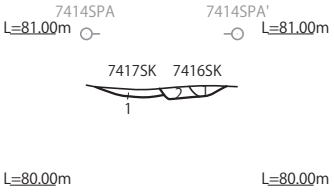


6792SI



1. 10Y3/4 暗褐色 シルト 硬質 粘性ややあり
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし 焼土塊含む
3. 5Y2/2 オリーブ黒色 シルト やや硬質 粘性なし
4. 2.5Y2/1 黒色 シルト やや硬質 粘性なし
5. 5Y2/2 オリーブ黒色 シルト やや硬質 粘性なし 10YR5/6黄褐色シルト斑入
6. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし 10YR5/6黄褐色シルト斑入
7. 10YR5/6 黄褐色 シルト やや硬質 粘性ややあり 2.5Y3/2黒褐色シルト斑入

7417・7416SK



7416SK
1. 5YR4/6 赤褐色 シルト やや硬質 粘性なし 焼土粒含む
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし

7417SK
1. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし

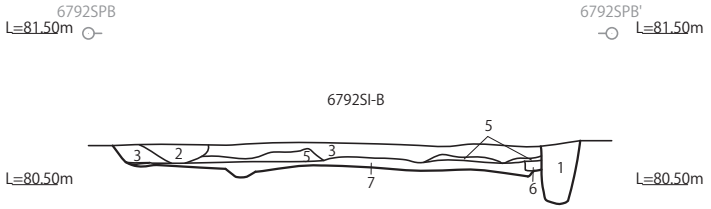


図 2-36 09 区 6792SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）

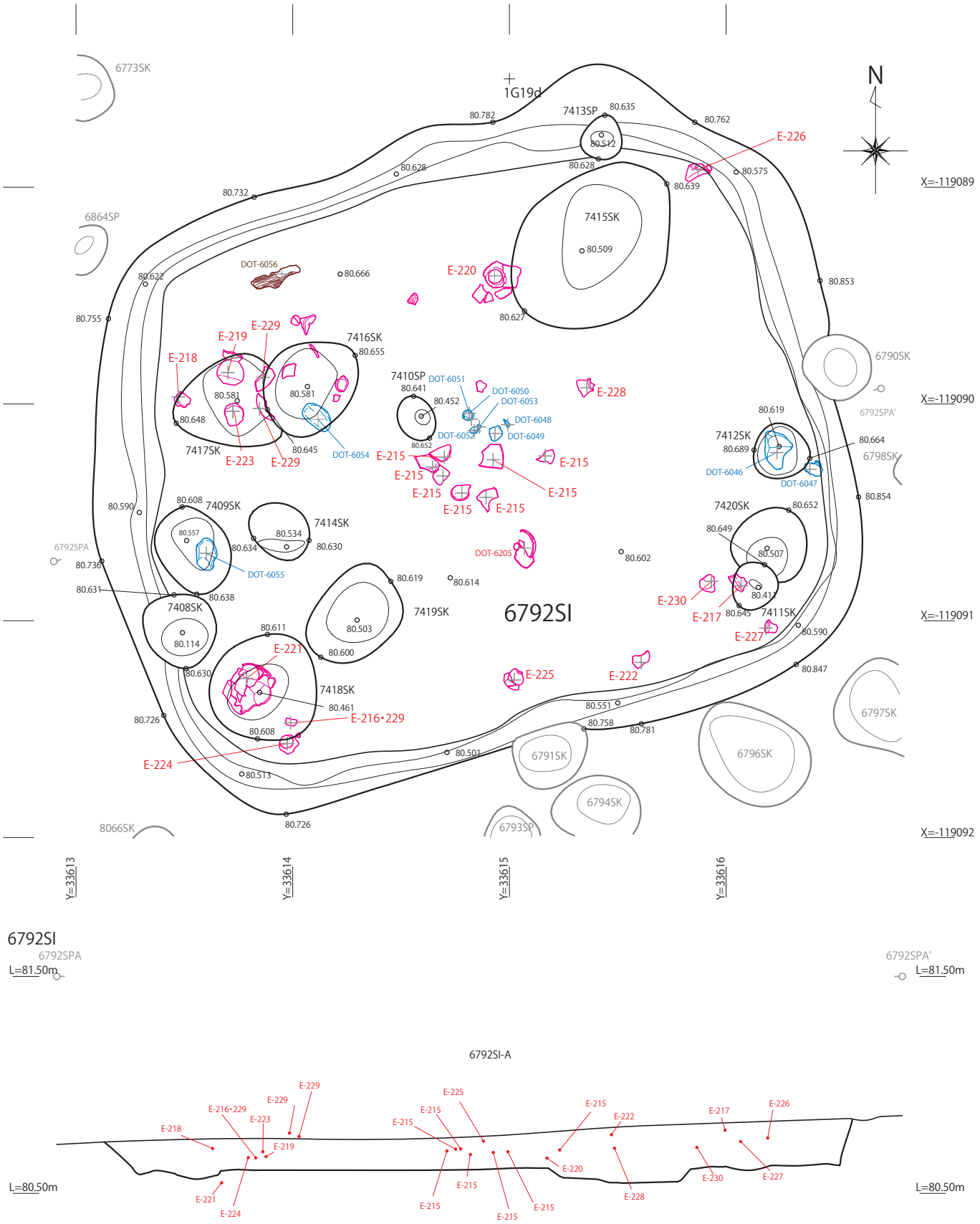


図 2-37　09 区 6792SI 遺物出土状態図（1:25）

4．3・4期の遺構

3・4期の遺構はおおむねそれぞれの調査区における上面遺構に相当するが、第一節で述べたように下面遺構として調査されたなかにも古代以降の遺物を含む遺構が多数認められる。特に本報告書で4期とした12世紀以降の遺構群は、09区を中心に区画溝で方位が著しく規制されていることから、竪穴状遺構や大型土坑に関しては出土遺物の有無にかかわらず、軸線の方位が区画溝と一致するものはこの時期に含めた。

なお、当該期も遺構の数がおびただしく多いため、ここでは主要遺構の記述にとどめる。

6001・6002SKは09区の中央やや西寄りに位置し、2期の竪穴建物6610SIの西辺を切っている。6001SKは長軸1.2m、短軸1.0m、深さは検出面から25cmを測り、折戸10号窯式期併行（8世紀末）の三河型土師器甕2点が横倒しになった状態で出土している。また、埋土は赤変した焼土を多量に含む。6002SKは長軸1.5m、短軸1.1m、深さは検出面から25cmを測り、6001SKと同じく折戸10号窯式期併行の三河型土師器甕1点を、うつ伏せにしていた。

6882SKは6001・6002SKの13m南に位置する土坑で、長軸1.0m、短軸7.0m、深さは検出面から25cmを測る。ここからは岩崎17号窯式期併行（7世紀後半）の土師器甕2点と甑1点が、丸底甕（E-286）を中心に一直線に並べて埋められていた。

このほか、08B区2503SK・2682SIからも3期の土器が出土している。

230SDは08A区西端の東西溝で、東端は直角に南に折れる。幅は0.7～1.2mで、深さは30cm。17世紀第1四半期の天目茶碗が出土している。西に接する199・987SDも一連の溝と思われる。

195・196・197・198・1203SIはいずれも08A区で確認された当該期の竪穴状遺構で、一辺が1.5～5.0mとばらつく。いずれも壁溝や主柱穴を備える。196SIには周壁に沿って小柱穴が並ぶことから、壁板を押さえる杭のあととみられ、これらには壁板がめぐらされていたことがわかる。195SIからは13世紀代の土師器皿、196SIからは14世紀代の南伊勢型鍋が出土している。

264・425・635・799・950・1032・1204・1234・1235・1236・1610SKは前述の竪穴状遺構よりも小規模な方形土坑。1204SIからは12世紀代の渥美・湖西窯の山茶碗が出土している。

08B区では平行する2178SDと3623SDが4期の区画溝。2178SDは09区で南に折れる（7264SD）。09区7264SDには先行する溝7265SDがある。一方、3623SDは09区で北に折れる（8101SD）。7264SDは幅が1m前後で深さは40cm程度。7264SDからは12～13世紀代と16世紀代の遺物が出土している。

08B区の竪穴状遺構は2013・2014・2021・2022・2023・2066・2690・3135・3813SIの9基。このうち2013・2014SIは北辺にのみ壁溝をもつやや不整形な大型の竪穴状遺構。

また2021・2022・2023・2066SIも2013・2014SIと同様に壁の立ち上がりが緩やかなのが特徴。

2690SIは壁の立ち上がりこそ直立するが、壁溝・主柱穴ともなく、方形土坑に類するものである可能性がある。

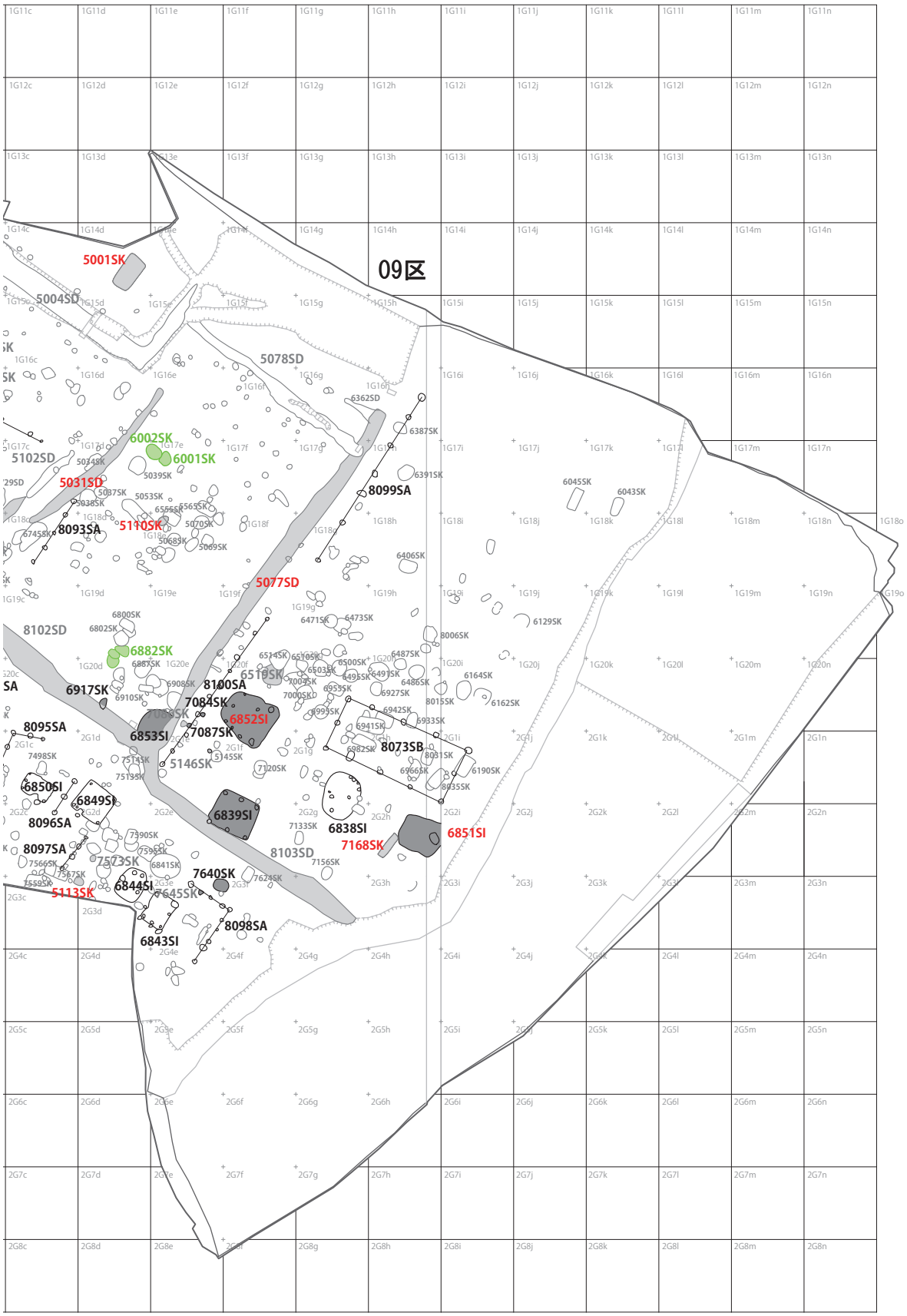
3153SIは調査区東端に位置し、東側半分は09区7275SIとして掘削している。2.5×2.2mで掘り込みは約10cmと浅い。

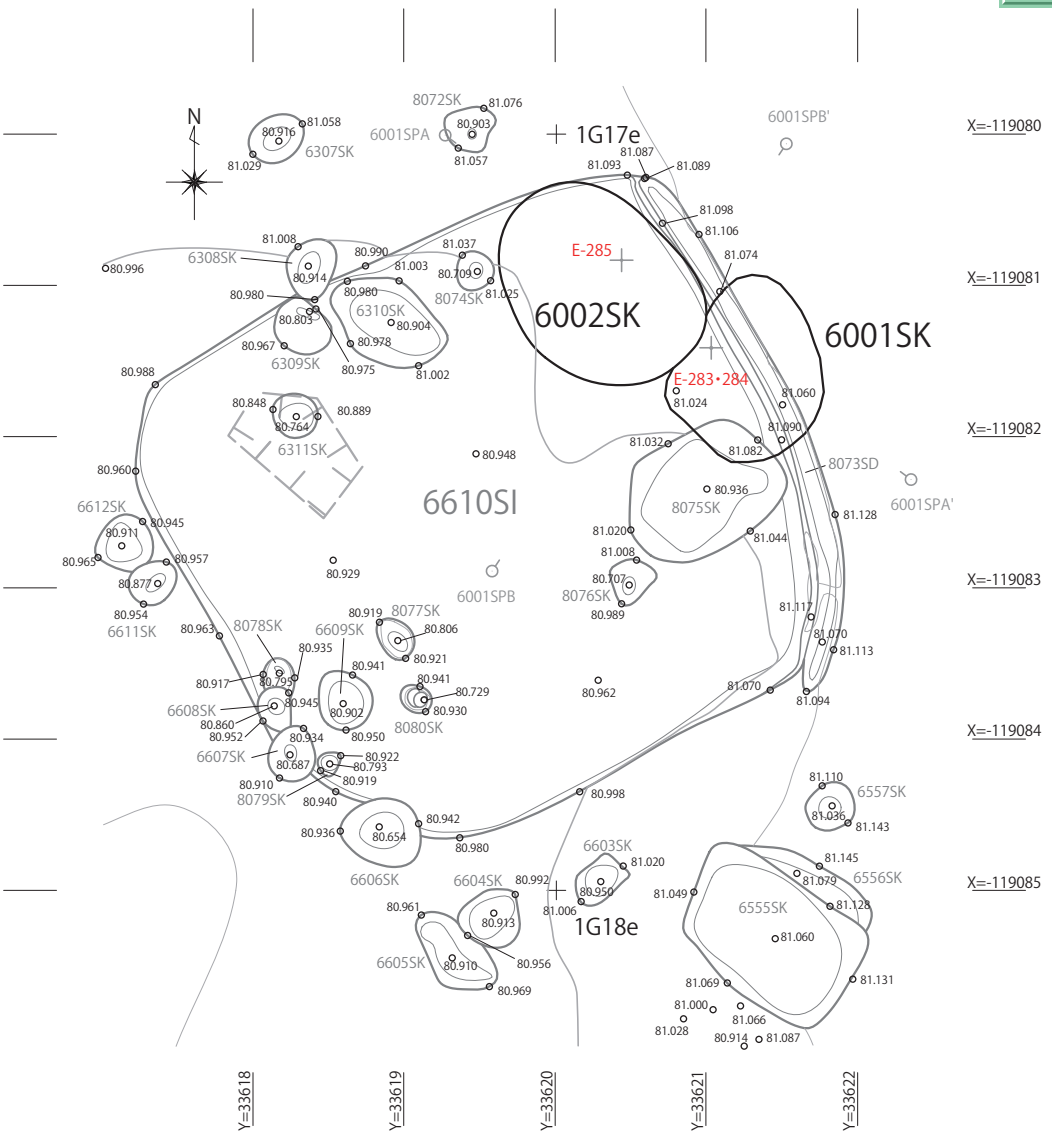
2013SIからは15or16世紀代の土師器皿、3153SIからも16世紀代の土師器皿が出土している。08A区195・196SIとは時期が異なり、区画溝と共存していた可能性が高い。

2068・2279・2959・2960・2999・3073SKは大型の方形土坑。うち、2068SIからは13世紀代の青磁碗、2959SKからは16世紀第2四半期の鉄釉丸皿、2999SKからは16世紀第1四半期の灰釉丸碗が出土している。

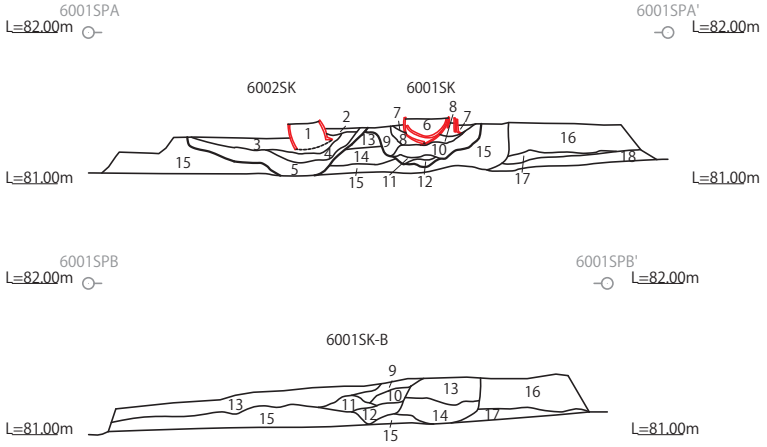
4期の遺構の大半は09区に集中している。08B区から続く5004・7264・8101SDのほか、南北溝5031・5077・5102・5144・6875SDと

図 2-38　上面（3・4 期）遺構全体図（1:400）


09区
5001SK
5004SD
5078SD
6002SK
6001SK
5102SD
5031SD
8099SA
8093SA
5110SK
5077SD
8102SD
6882SK
6917SK
8100SA
6519SK
7084SK
6852SI
7087SK
8095SA
6853SI
5146SK
8073SB
6850SI
6849SI
6839SI
8096SA
6838SI
7168SK
6851SI
8097SA
8103SD
7573SK
7640SK
6844SI
5113SK
6645SK
8098SA
6843SI

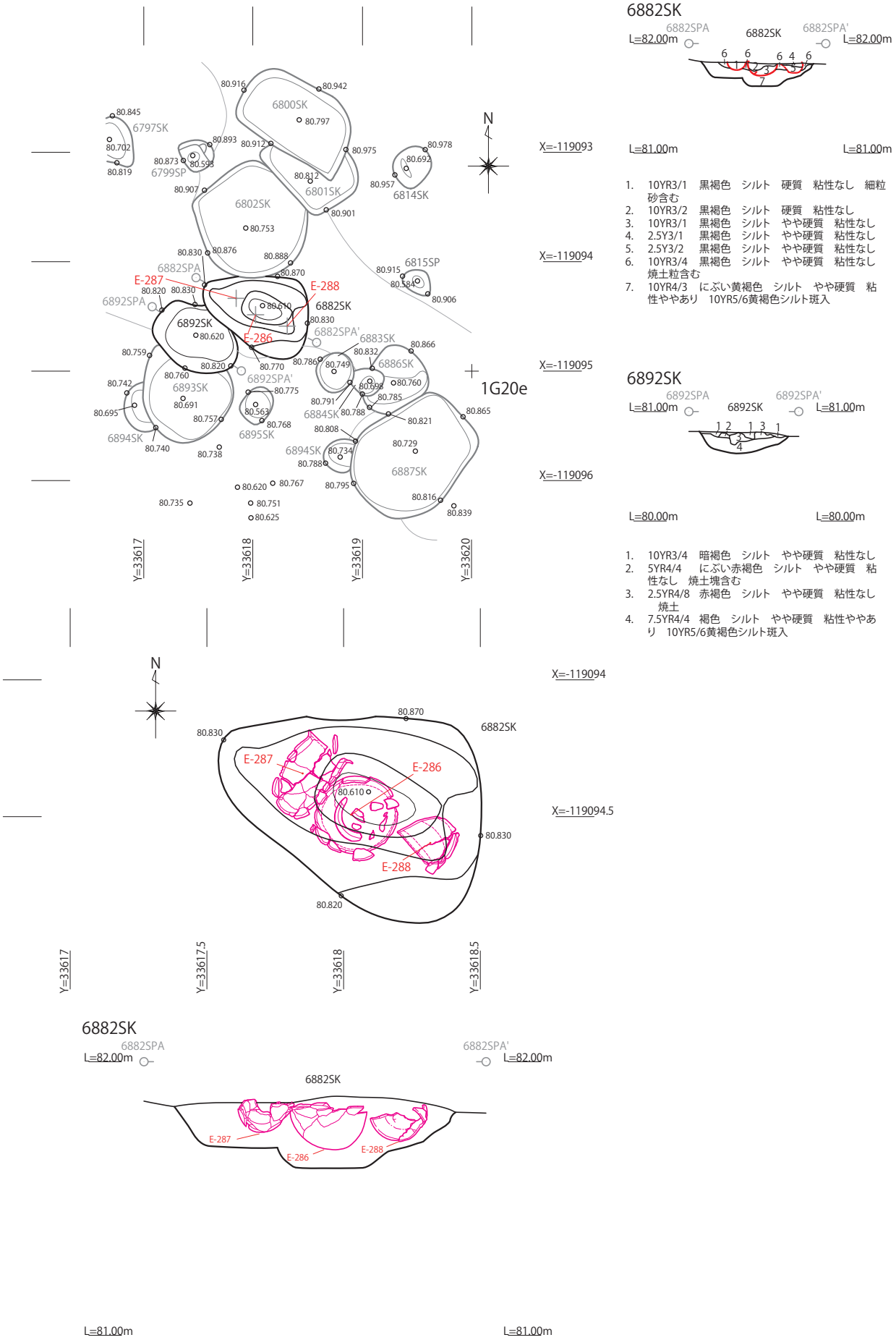


6001・6002SK



1. 2.5Y2/1 黒色 シルト やや軟質 粘性なし
2. 2.5Y6/4 にぶい黄色 砂質シルト 硬質 粘性なし
3. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし 炭化物含む
4. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし
5. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし 10YR5/6黄褐色シルト斑入
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト やや硬質 粘性なし 炭化物,焼土粒含む
7. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト やや硬質 粘性なし
8. 10YR3/3 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし
9. 5YR4/6 赤褐色 シルト やや硬質 粘性なし 5YR6/8橙色焼土塊入,炭化物含む,焼土
10. 5YR4/4 にぶい赤褐色 シルト やや硬質 粘性なし 5YR6/8橙色焼土塊入,炭化物含む,焼土
11. 5YR5/8 明赤褐色 シルト やや硬質 粘性なし 焼土
12. 5YR4/4 にぶい赤褐色 シルト やや硬質 粘性なし 5YR6/8橙色焼土塊入,炭化物含む,焼土
13. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし 炭化物,焼土粒含む
14. 10YR3/3 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし
15. 10YR3/2 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし
16. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし
17. 10YR3/2 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし
18. 10YR4/4 褐色 シルト やや硬質 粘性なし

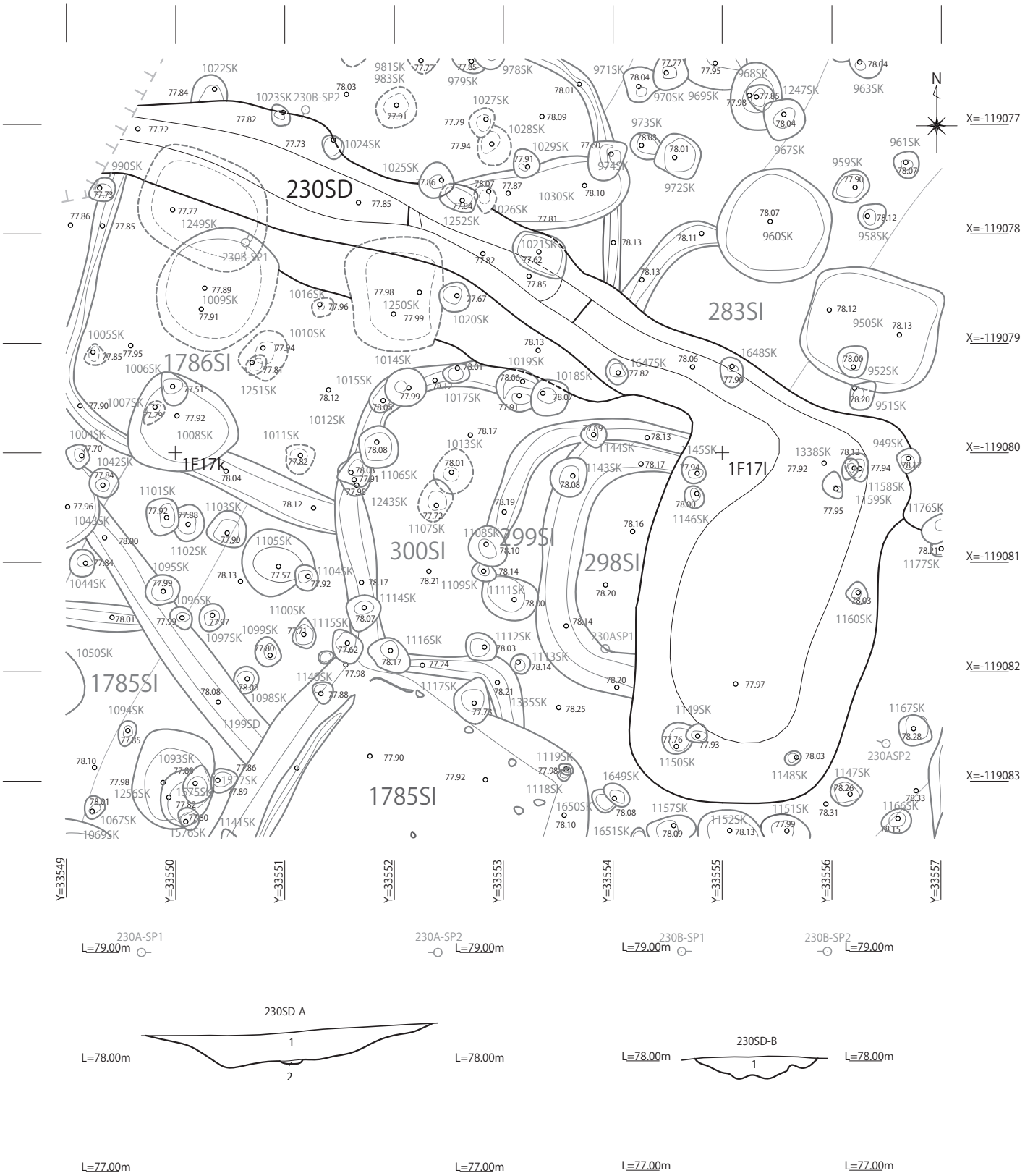
図 2-39 09 区 6001・6002SK 遺構平面図・土層断面図（1:50）



1. 10YR3/1 黒褐色 シルト 硬質 粘性なし 細粒砂含む
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト 硬質 粘性なし
3. 10YR3/1 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし
4. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし
5. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし
6. 10YR3/4 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし 焼土粒含む
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト やや硬質 粘性ややあり 10YR5/6黄褐色シルト斑入

1. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし
2. 5YR4/4 にぶい赤褐色 シルト やや硬質 粘性なし 焼土塊含む
3. 2.5YR4/8 赤褐色 シルト やや硬質 粘性なし 焼土
4. 7.5YR4/4 褐色 シルト やや硬質 粘性ややあり 10YR5/6黄褐色シルト斑入

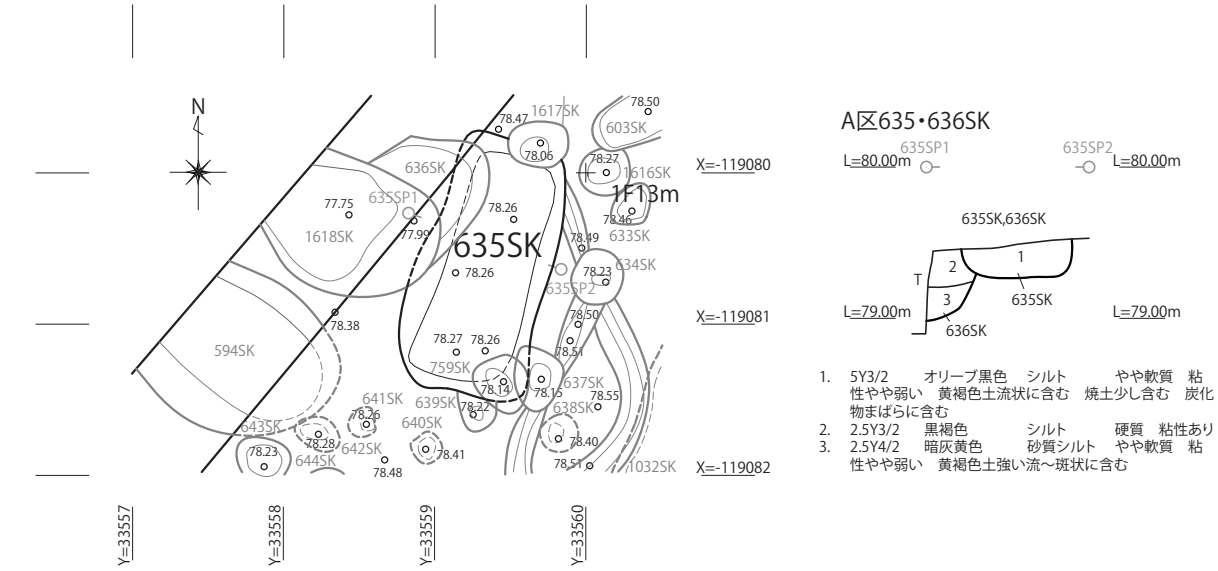
図 2-40 09 区 6882・6892SK 遺構平面図・土層断面図（1:50）/6882SK 遺物出土状態図（1:20）

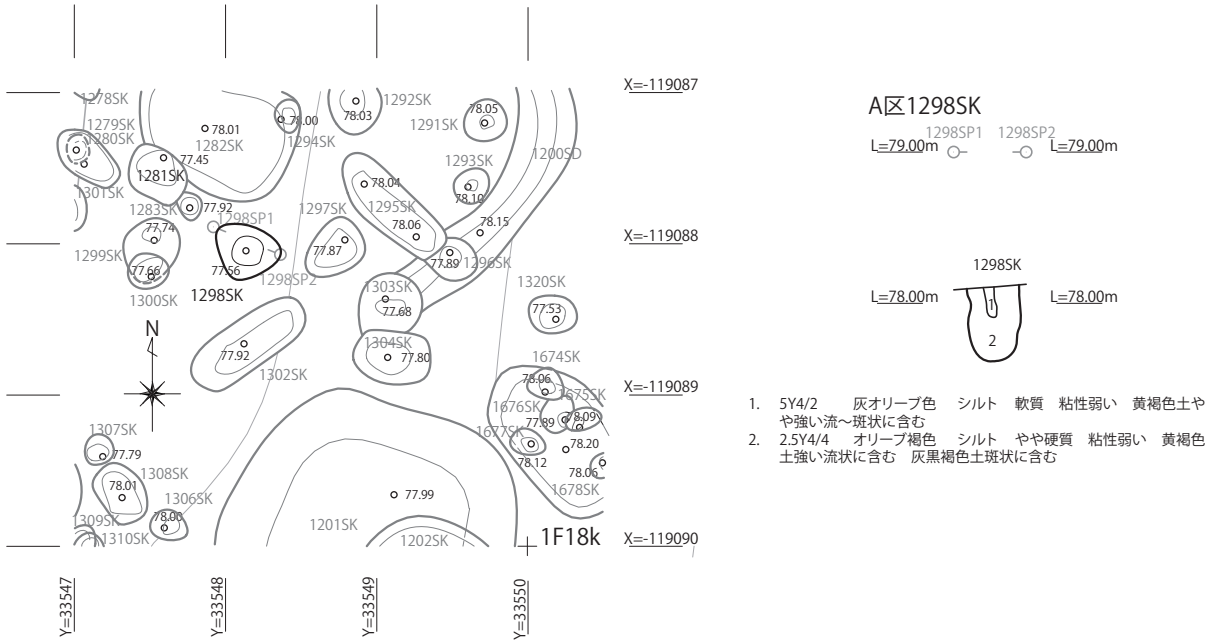


1. 5Y3/2 オリーブ黒色 シルト やや軟質 粘性やや弱い
黄褐色土所々斑状に含む 炭・焼土わずかに含む
2. 5Y3/1 オリーブ黒色 シルト やや硬質 粘性やや弱い
黄褐色土流状に含む

1. 5Y2/2 オリーブ黒色 シルト やや軟質 粘性やや弱い
黄褐色土まばらに含む 灰褐色粘質土まばらに含む

図 2-41 08A 区 230SD 遺構平面図・土層断面図（1:50）





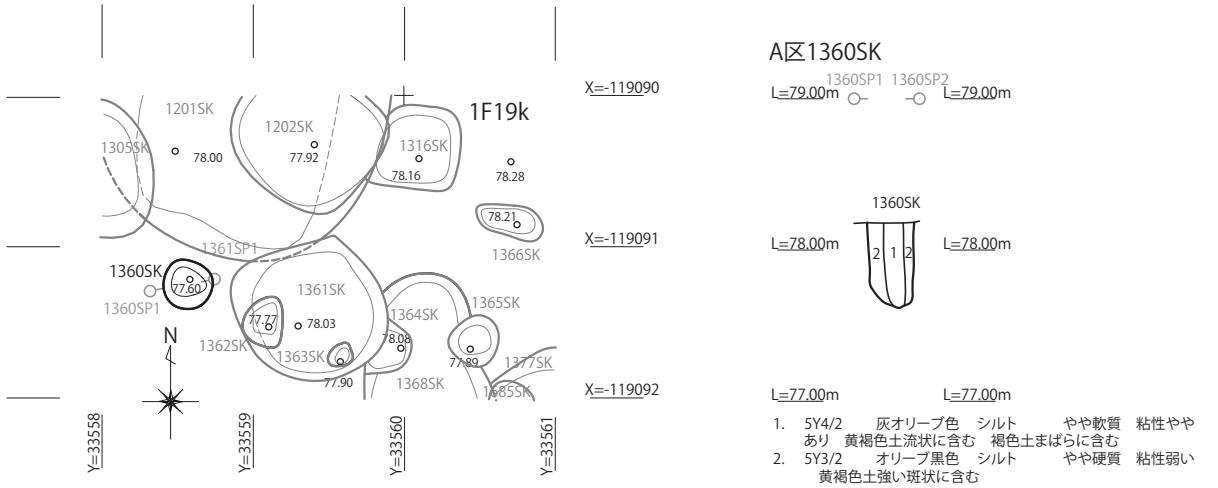
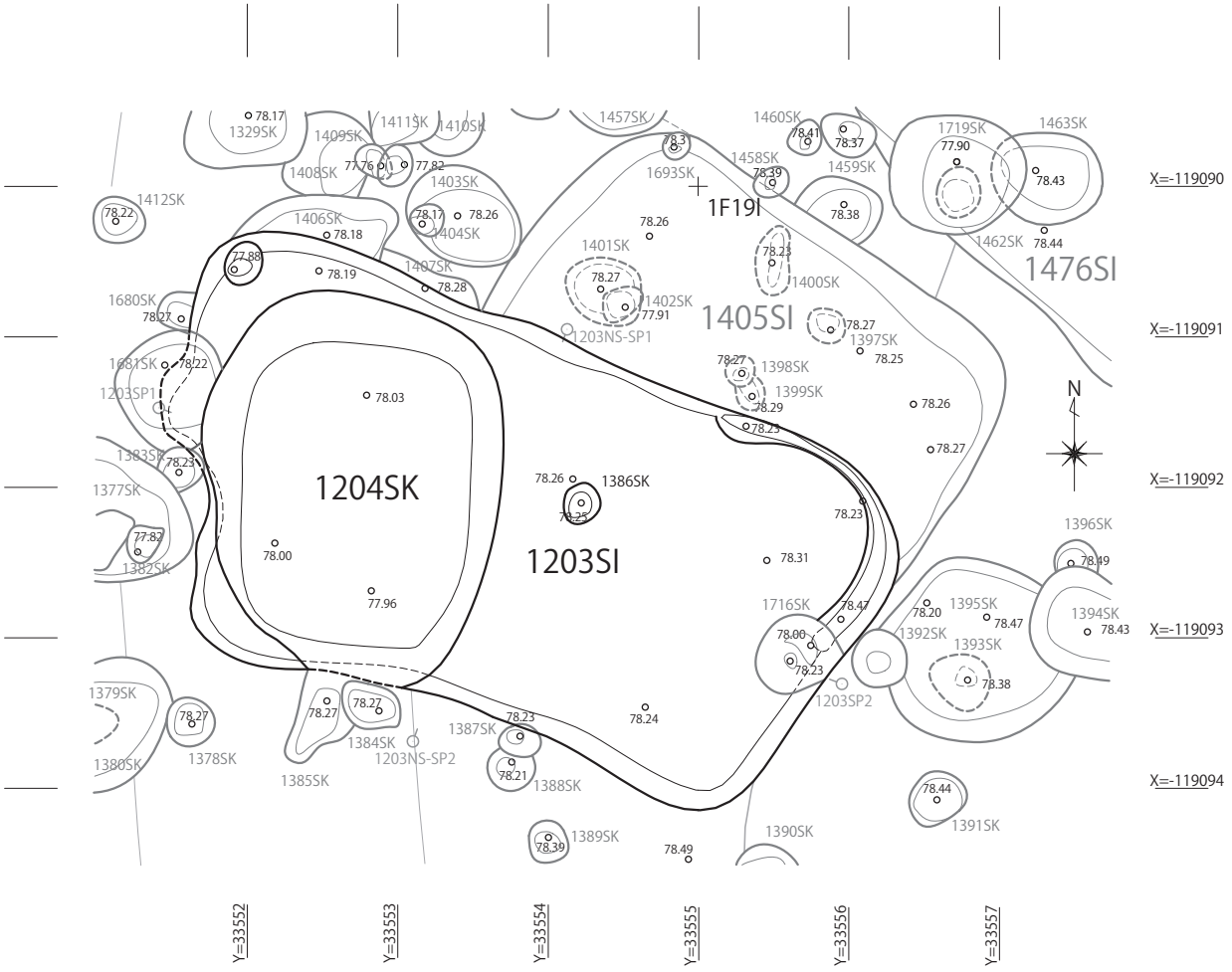
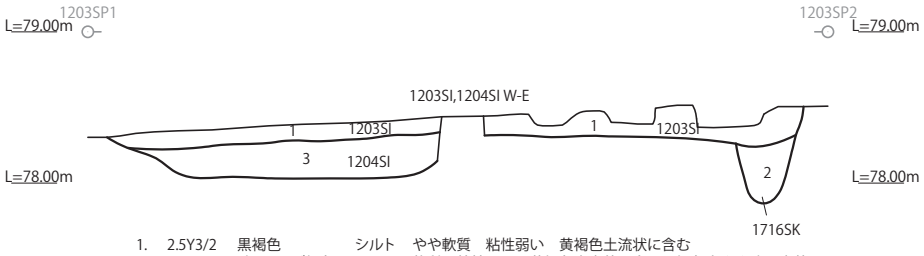


図 2-42　08A 区 635・1298・1360SK 遺構平面図・土層断面図（1:50）

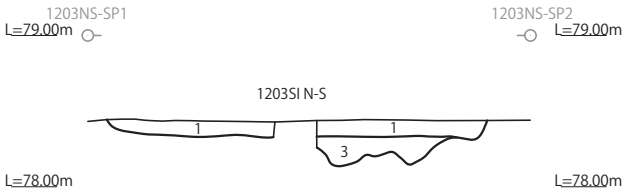


SP1区1203・1204SI東西セクション



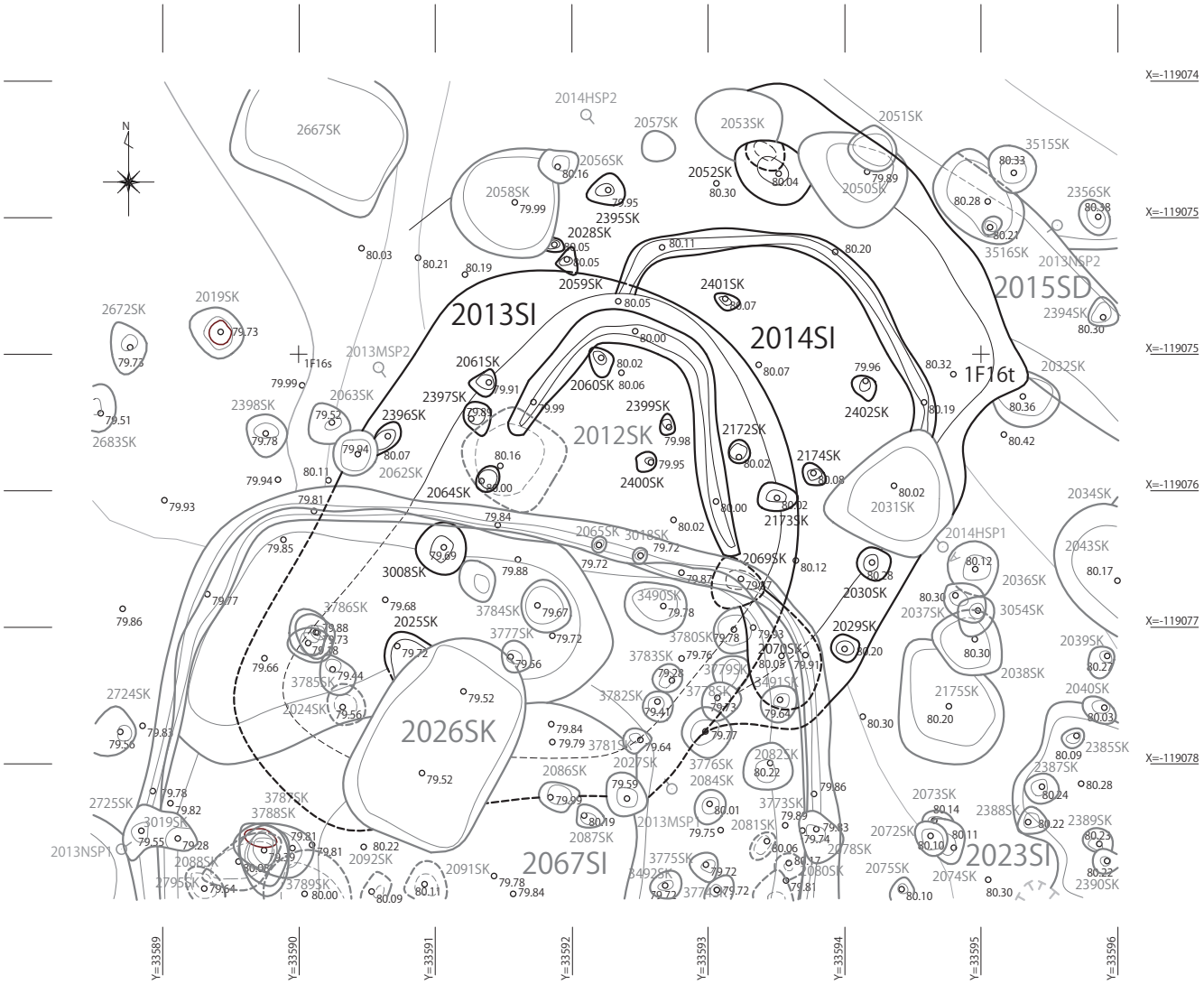
1. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト やや軟質 粘性弱い 黄褐色土流状に含む
2. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 軟質 粘性弱い 黄褐色土斑状に含む 褐色土やや強い斑状に含む
3. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 軟質 粘性弱い 褐色土やや強い流～斑状に含む 褐色土斑状に含む 焼土まばらに含む 炭化物わずかに含む

A区1203SI南北セクション

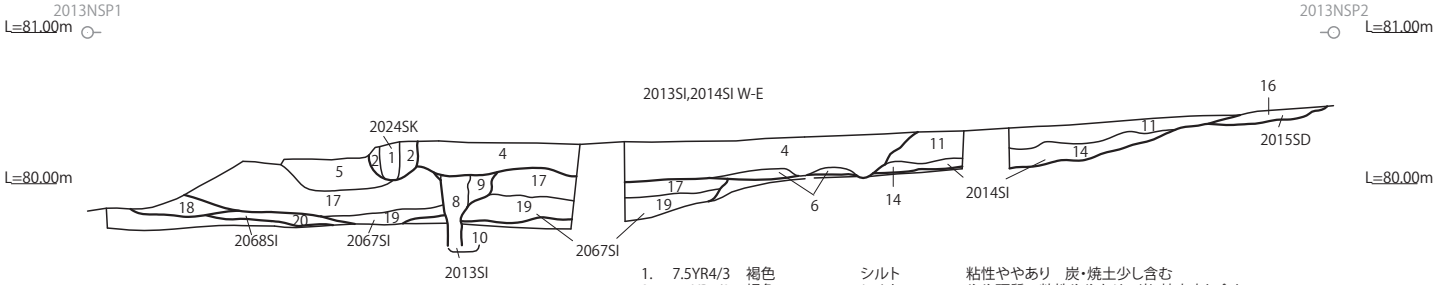


1. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト やや軟質 粘性弱い 黄褐色土流状に含む
2. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 軟質 粘性弱い 黄褐色土斑状に含む 褐色土やや強い斑状に含む
3. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 軟質 粘性弱い 褐色土やや強い流～斑状に含む 褐色土斑状に含む 焼土まばらに含む 炭化物わずかに含む

図 2-43 08A 区 1203SI・1204SK 遺構平面図・土層断面図（1:50）



B区2013・2014SI東西セクション



1. 7.5YR4/3 褐色 シルト 粘性ややあり 炭・焼土少し含む
2. 7.5YR4/3 褐色 シルト やや硬質 粘性ややあり 炭・焼土少し含む
4. 7.5YR4/3 褐色 シルト 硬質 粘性あり 焼土まばらに含む 炭少し含む
5. 7.5YR3/4 暗褐色 シルト やや軟質 粘性あり 黒褐色細砂質土斑状に含む 炭わずかに含む
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性ややあり 淡黄色砂質土やや強い斑状に含む
7. 7.5YR3/3 暗褐色 シルト 黒褐色・黄褐色砂質土斑状に含む
8. 7.5YR3/4 暗褐色 シルト 粘性ややあり 黄褐色砂質土斑状に少し含む
9. 7.5YR3/3 暗褐色 シルト 粘性ややあり 黒褐色砂質土斑状に含む
10. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト やや硬質 粘性あり
11. 7.5YR4/4 褐色 シルト 硬質 粘性ややあり 焼土・炭流状に含む 黄褐色土少し含む
12. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト やや軟質 粘性やや強い 黄褐色土斑状に含む
13. 10YR3/3 暗褐色 シルト やや硬質 粘性ややあり 黄褐色土わずかに含む
14. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 硬質 粘性ややあり 黄褐色土流状に含む 炭まばらに含む 焼土少し含む
15. 7.5YR2/3 極暗褐色 シルト やや軟質 黄褐色土少し含む 焼土少し含む
16. 10YR4/4 褐色 シルト 硬質 黄褐色土・黒色土・赤褐色土強い斑状に含む
17. 2.5Y3/1 黒褐色 細砂質シルト やや硬質 粘性弱い 焼土少し含む
18. 10YR2/3 黒褐色 細砂質シルト やや硬質
19. 2.5Y4/3 オリーブ褐色 砂質シルト やや硬質 粘性やや弱い 黄褐色土強い斑状に含む 黒色土斑状に含む
20. 5Y3/1 オリーブ黒色 細砂質シルト やや硬質 黄褐色土斑状に含む

図 2-44 08B 区 2013・2014SI 遺構平面図・土層断面図 -1（1:50）

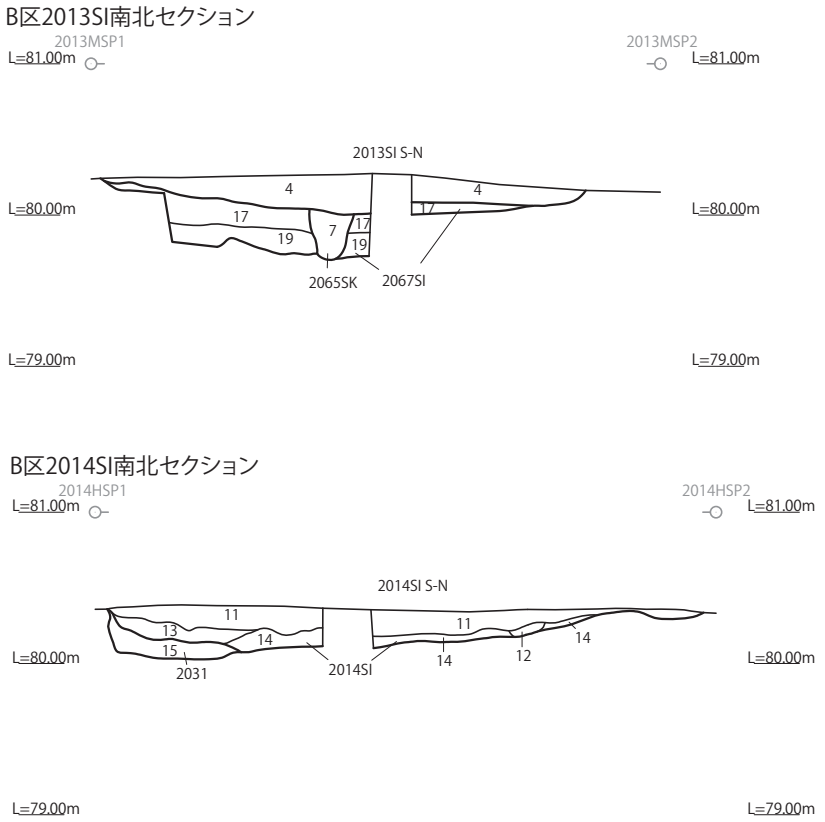


図 2-45　08B 区 2013・2014SI 土層断面図 -2（1:50）

東西溝 5078・6675・8102・8103SD によって、おおむね 5 つのブロックに区分されている。これらの溝から出土する遺物は 16 世紀代を主体とするが、5077・6875SD からは 12 世紀代の山茶碗も出土している。

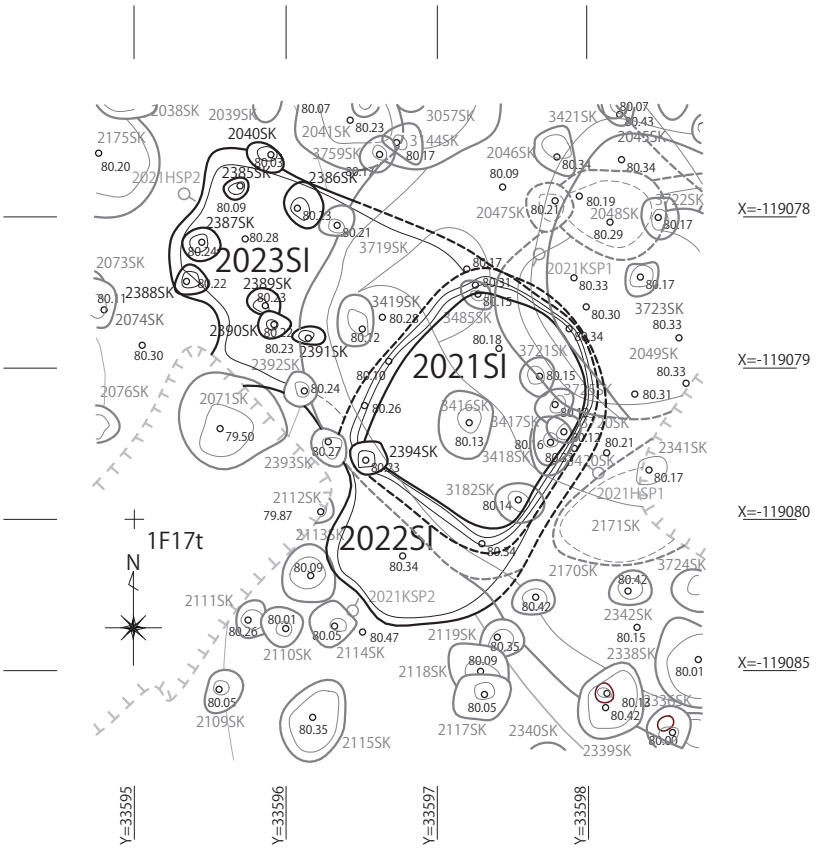
竪穴状遺構は 6838・6839・6843・6844・6849・6850・6851・6852・6853・6854SI の 10 基確認できる。うち、6839・6851・6852・6853SI からは 12 世紀代を主体とする山茶碗が出土していること、6839・6853・6854SI は前述の区画溝で破壊されていることから、少なくとも 09 区の竪穴状遺構は区画溝出現以前のものとしておく。

09 区には図面上での復元ではあるが、5071・8093・8094・8095・8096・8097・8098・8099・8100SA と、9 条の柵列が認められる。現状では区画溝と重複する箇所がほとんどないため、現状では区画溝と同時期と捉えておくが、あるいは区画溝の掘削以前は柵列で区画されていた可能性も考慮に入れていく必要があろう。

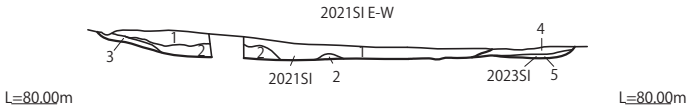
また、6849・6850SI は南辺の中央に凹みがあり、その外側には柱穴が存在するのが特徴である。出入り口か。

4 期で唯一の掘立柱建物 8073SB は 09 区の最も東側に位置している。4×2 間（8.85×3.8m）の東西棟で、柱掘り方は径 40cm の円形。深さは検出面から深いもので 75cm を測る。

09 区は大型土坑も多いが、5001・5010・5011・6680・6707・7194SK のような整ったかたちのものは 08B 区寄りに集中する。



B区2021SI東西セクション



1.	7.5YR4/3	褐色	シルト	やや硬質　炭少し含む　黄褐色土わずかに含む
2.	10YR4/4	褐色	シルト	硬質　粘性ややあり
3.	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	硬質　黄褐色土層～斑状に含む
4.	10YR4/4	褐色	シルト	やや硬質　粘性ややあり　黄褐色土やや強い斑状に含む
5.	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	硬質　粘性ややあり　黄褐色土やや強い流状に含む
6.	10YR3/3	暗褐色	シルト	硬質　粘性ややあり　黄褐色土少し含む　焼土・炭少し含む

B区2021SI南北セクション

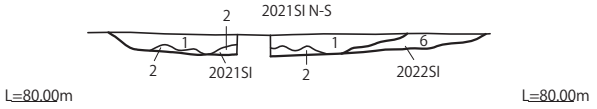
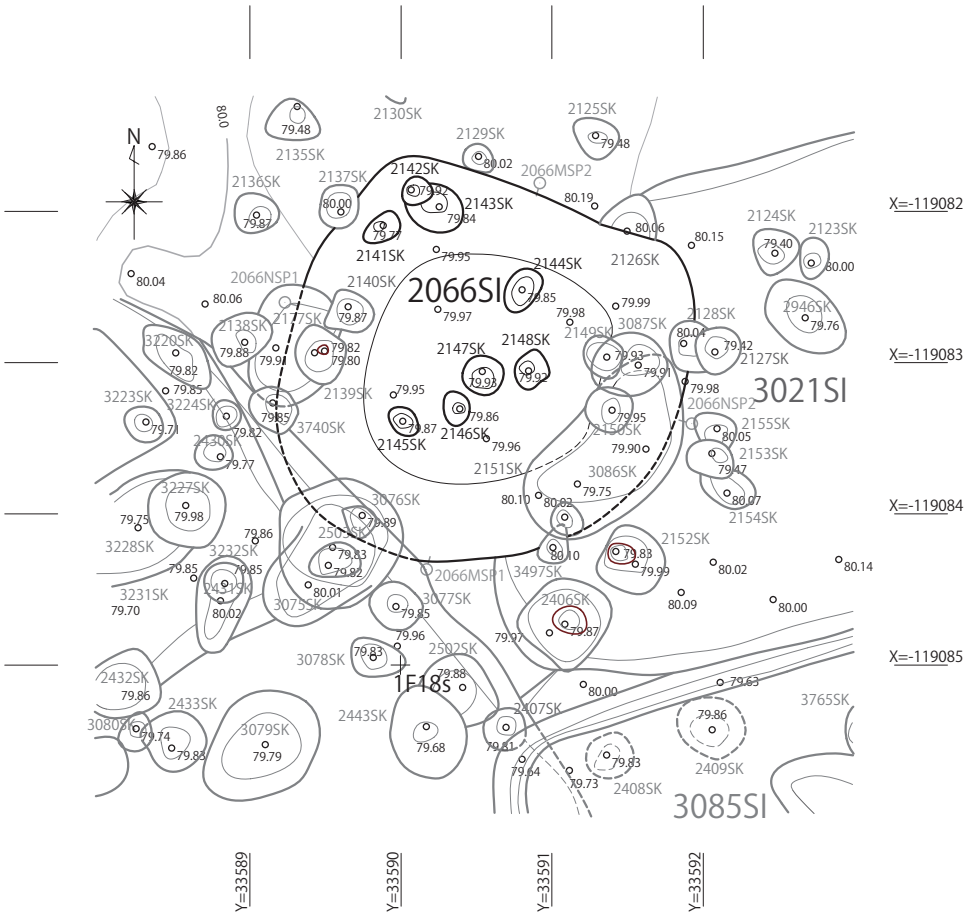
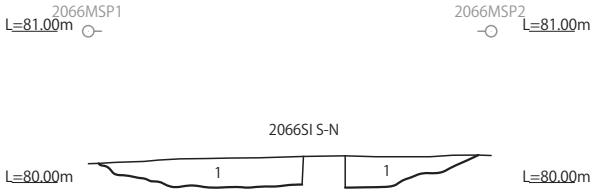


図 2-46　08B 区 2021・2022・2023SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）



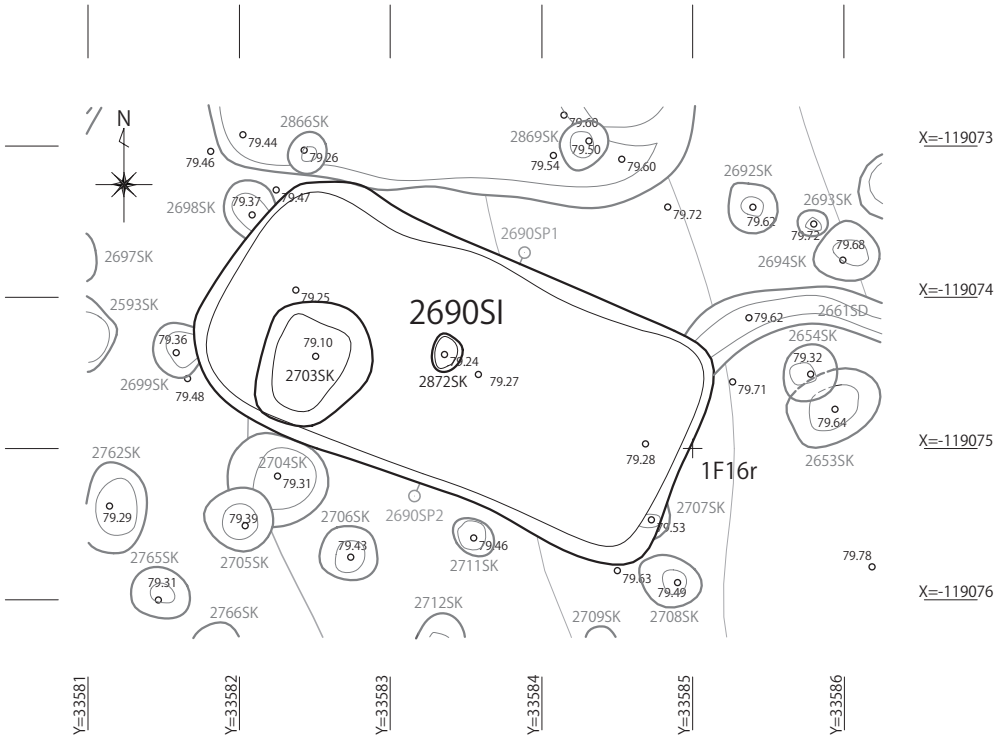
B区2066SI南北セクション



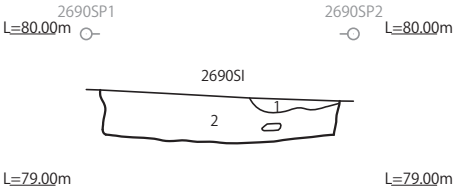
1.　7.5YR4/4　褐色　シルト　硬質　粘性ややあり　黄褐色土少し含む

B区2066SI東西セクション

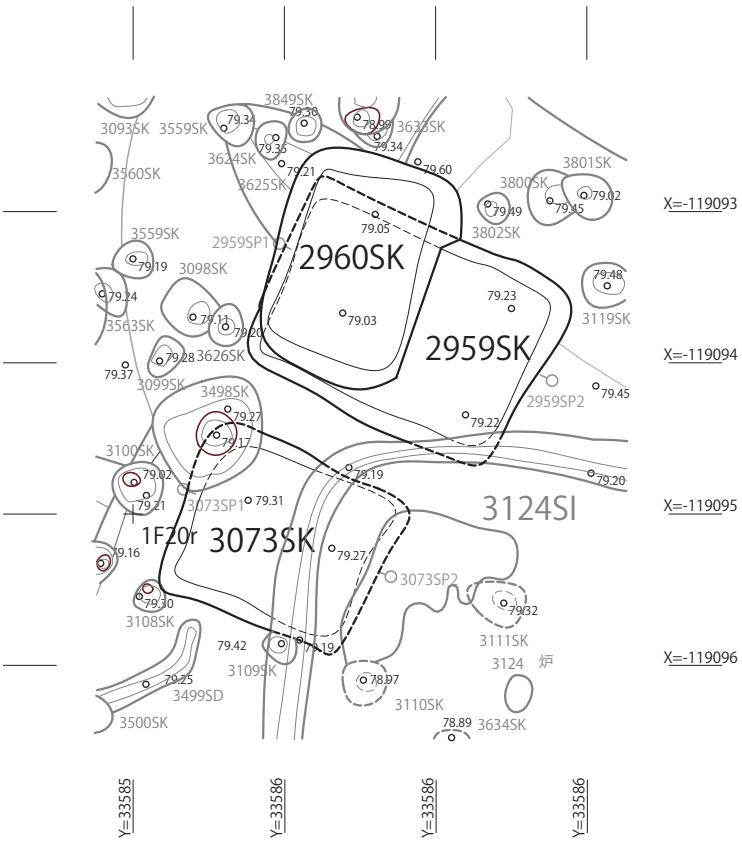
図 2-47　08B 区 2066SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）



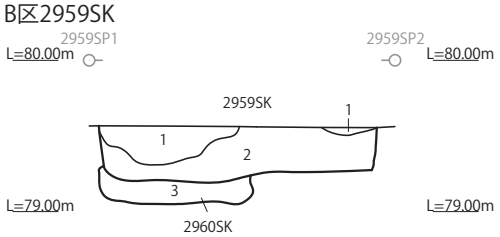
B区2690SI



1. 10YR4/4 褐色 シルト 粘性やや弱い 焼土少し含む 黄褐色土斑状に含む
2. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 黄褐色土強い斑状に含む

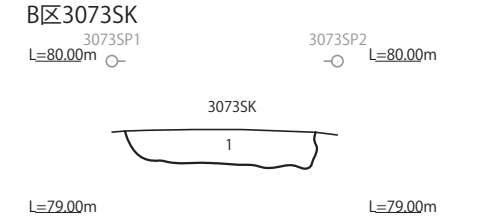


B区2959SK



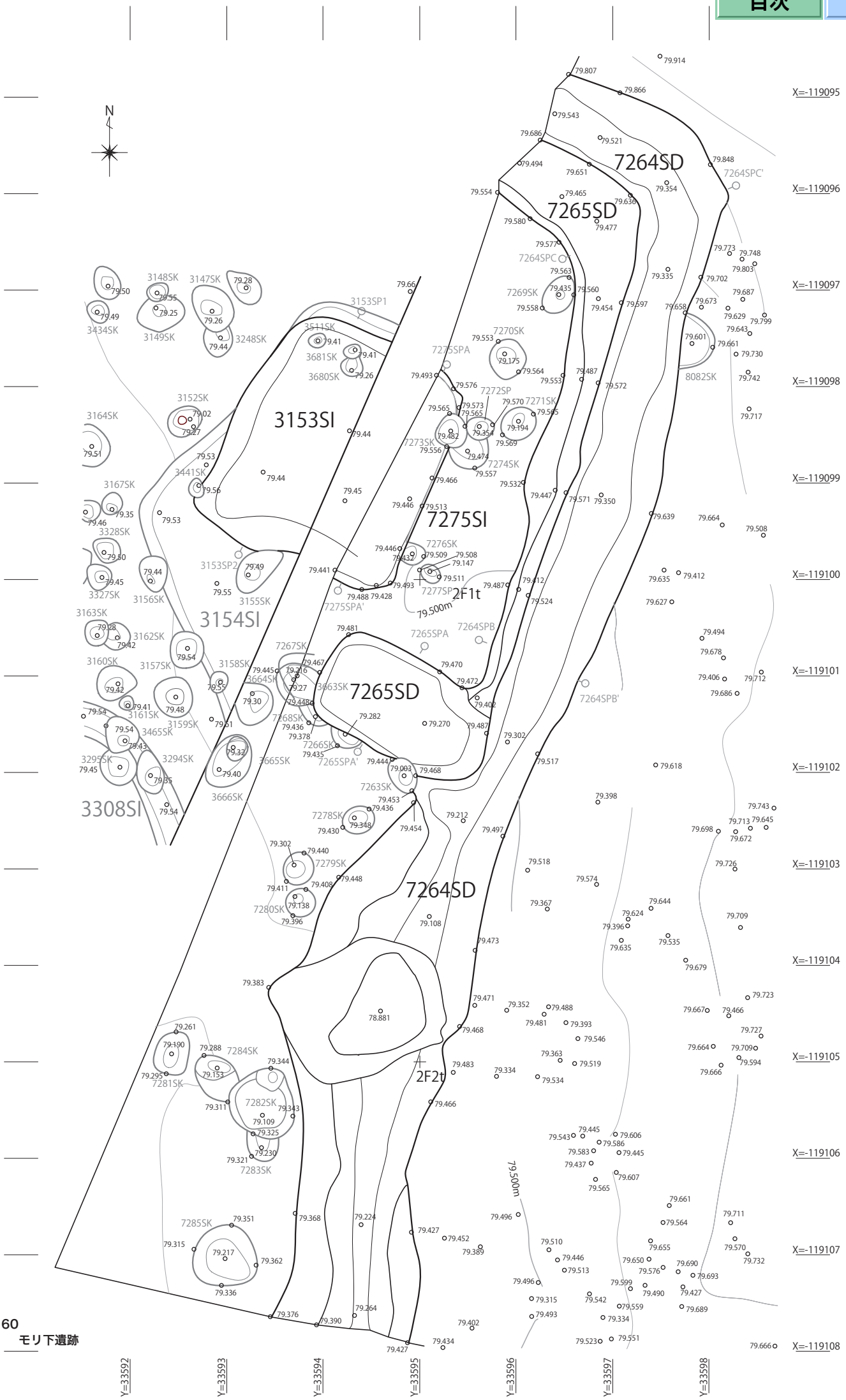
1. 10YR3/3 暗褐色 シルト 軟質 褐色土・灰質土斑状に含む
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト やや軟質 粘性ややあり 黄褐色土強い斑状に含む
3. 5Y5/6 オリーブ色 砂質シルト 暗灰色土 やや強い層～流状に含む

B区3073SK

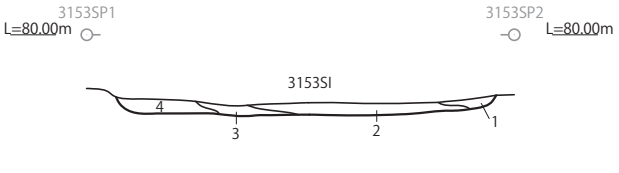


1. 5YR4/3 にぶい赤褐色 シルト 黄褐色土斑状に含む 炭質土斑状に含む

図 2-48 08B 区 2690SI・2959・2960SK 遺構平面図・土層断面図（1:50）

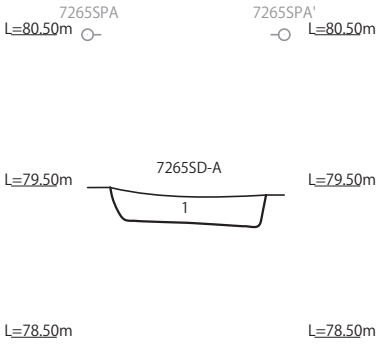

N
7264SD
7265SD
7264SPC'
7264SPC
3153SI
3154SI
3308SI
7275SI
7264SD
7265SD
2F1t
2F2t
79.500m
X=-119095
X=-119096
X=-119097
X=-119098
X=-119099
X=-119100
X=-119101
X=-119102
X=-119103
X=-119104
X=-119105
X=-119106
X=-119107
X=-119108
Y=33592
Y=33593
Y=33594
Y=33595
Y=33596
Y=33597
Y=33598

B区3153SI



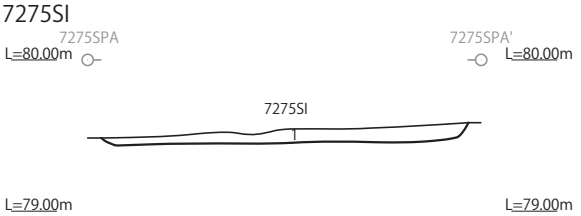
1. 2.5Y4/2 暗灰黄色 細砂質シルト やや硬質
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 細砂質シルト 粘性やや弱い 焼土流～斑状に含む
3. 5Y3/1 オリーブ黒色 シルト やや軟質 粘性やや弱い 焼土やや強い流状に含む
4. 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト 粘性ややあり 焼土・黄褐色土まばらに含む

7265SD

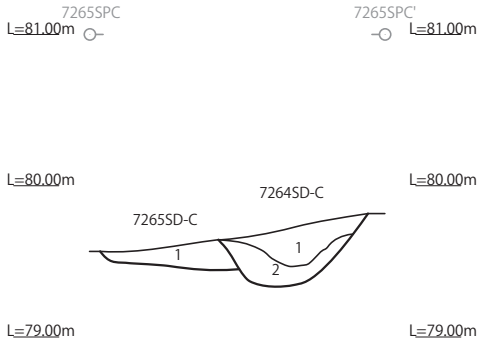


1. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし
10YR5/6黄褐色シルト斑入

7275SI

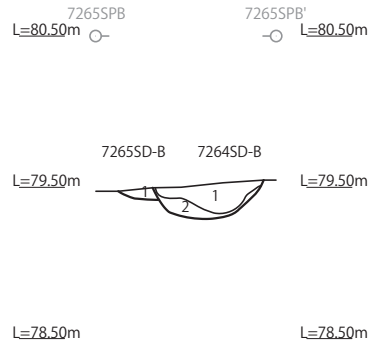


1. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし
7.5YR5/6明褐色シルト斑入



7264SD-C
1. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし
10YR5/6黄褐色シルト斑入

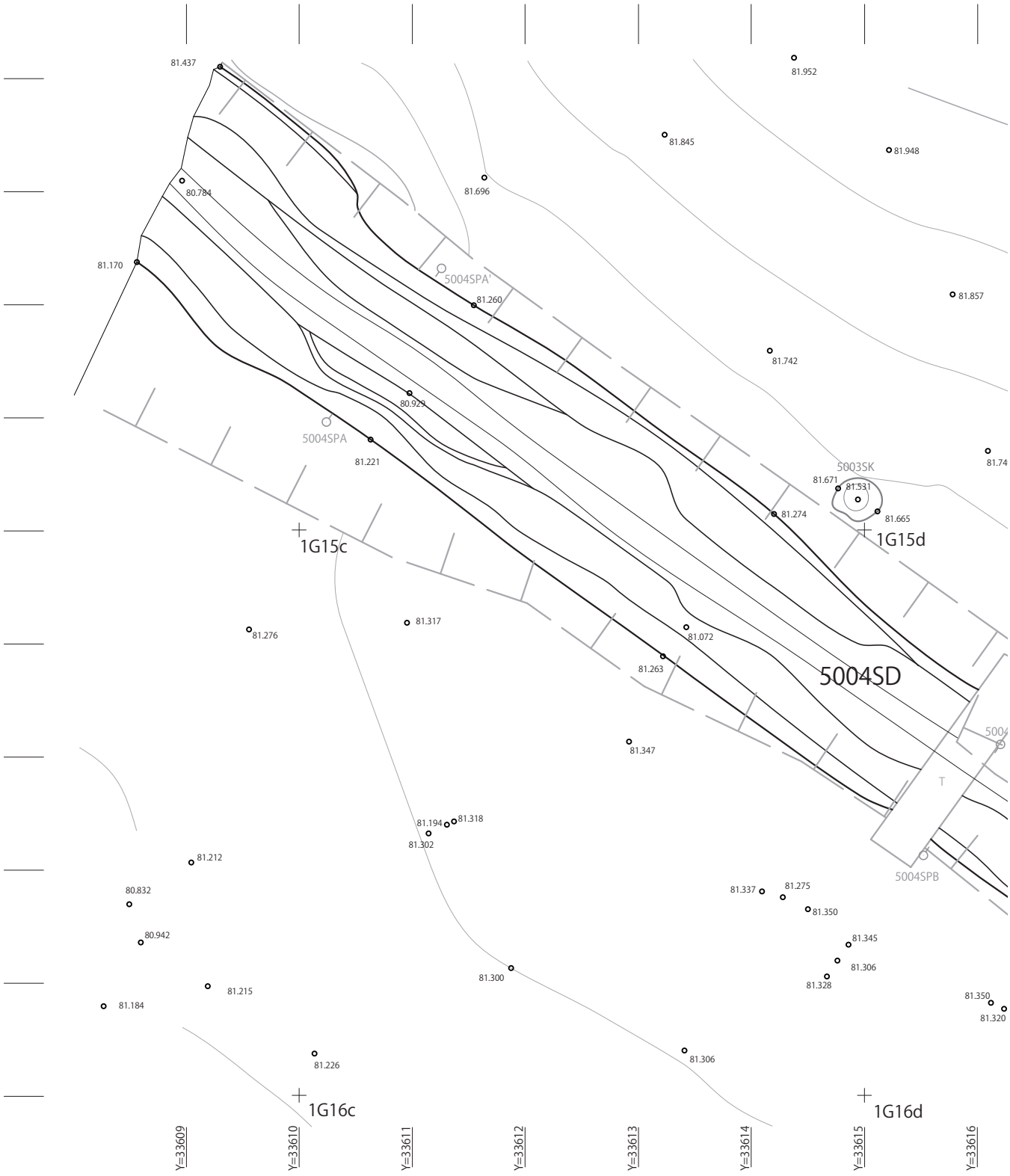
7265SD-C
1. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし
10YR5/6黄褐色シルト斑入

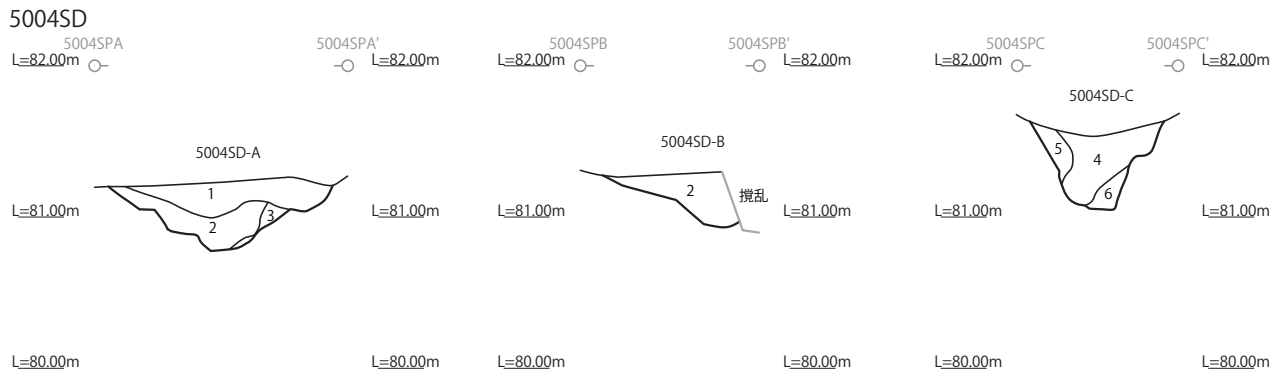


7264SD-B
1. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし
10YR5/6黄褐色シルト斑入

7265SD-B
1. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし
10YR5/6黄褐色シルト斑入

図 2-49・50 08B 区 3153SI（7275SI）・09 区 7264・7265SD 遺構平面図・土層断面図（1:50）

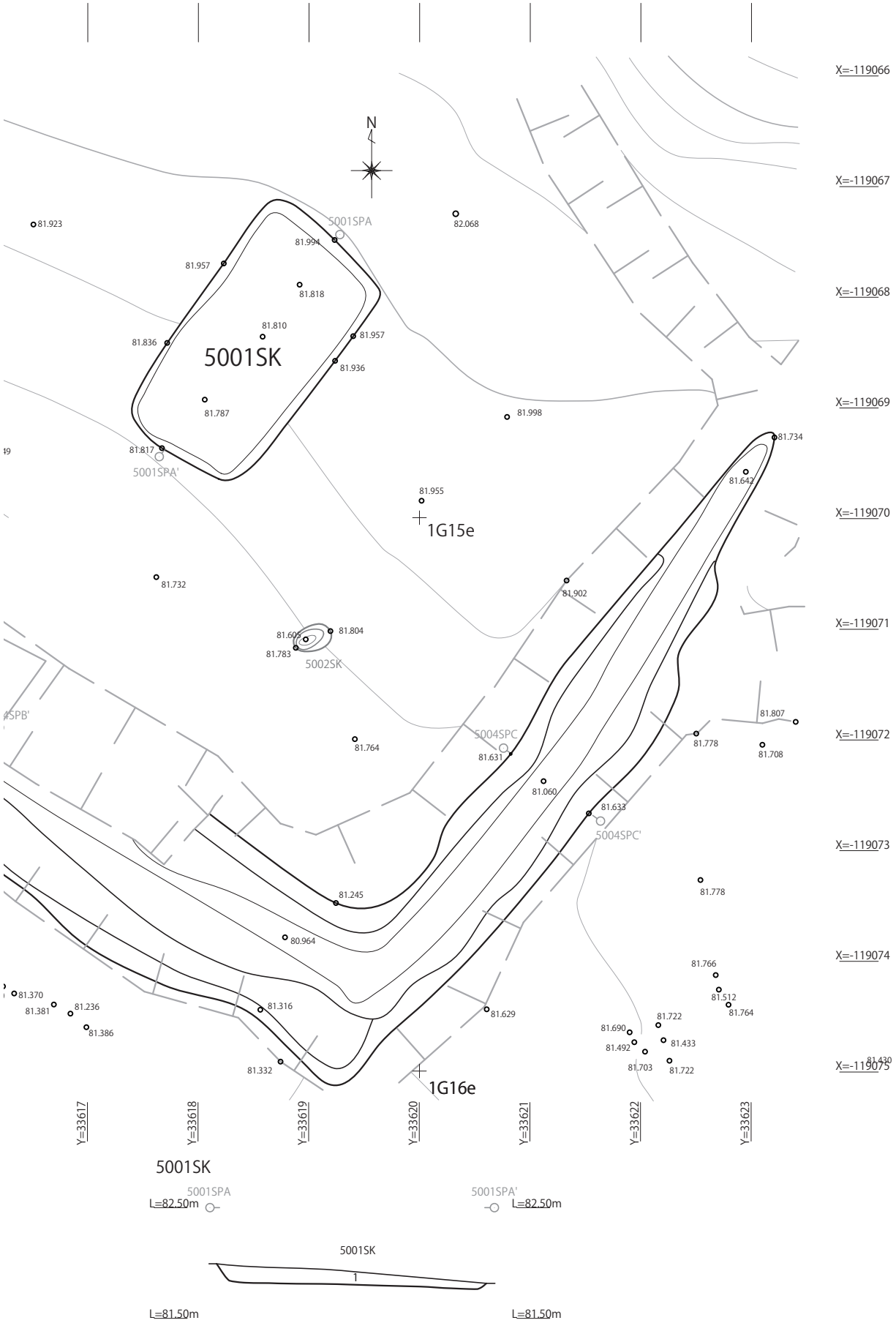




1. 10YR3/1 黒褐色 シルト硬質 粘性なし
2. 10YR3/1 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト やや硬質 粘性なし

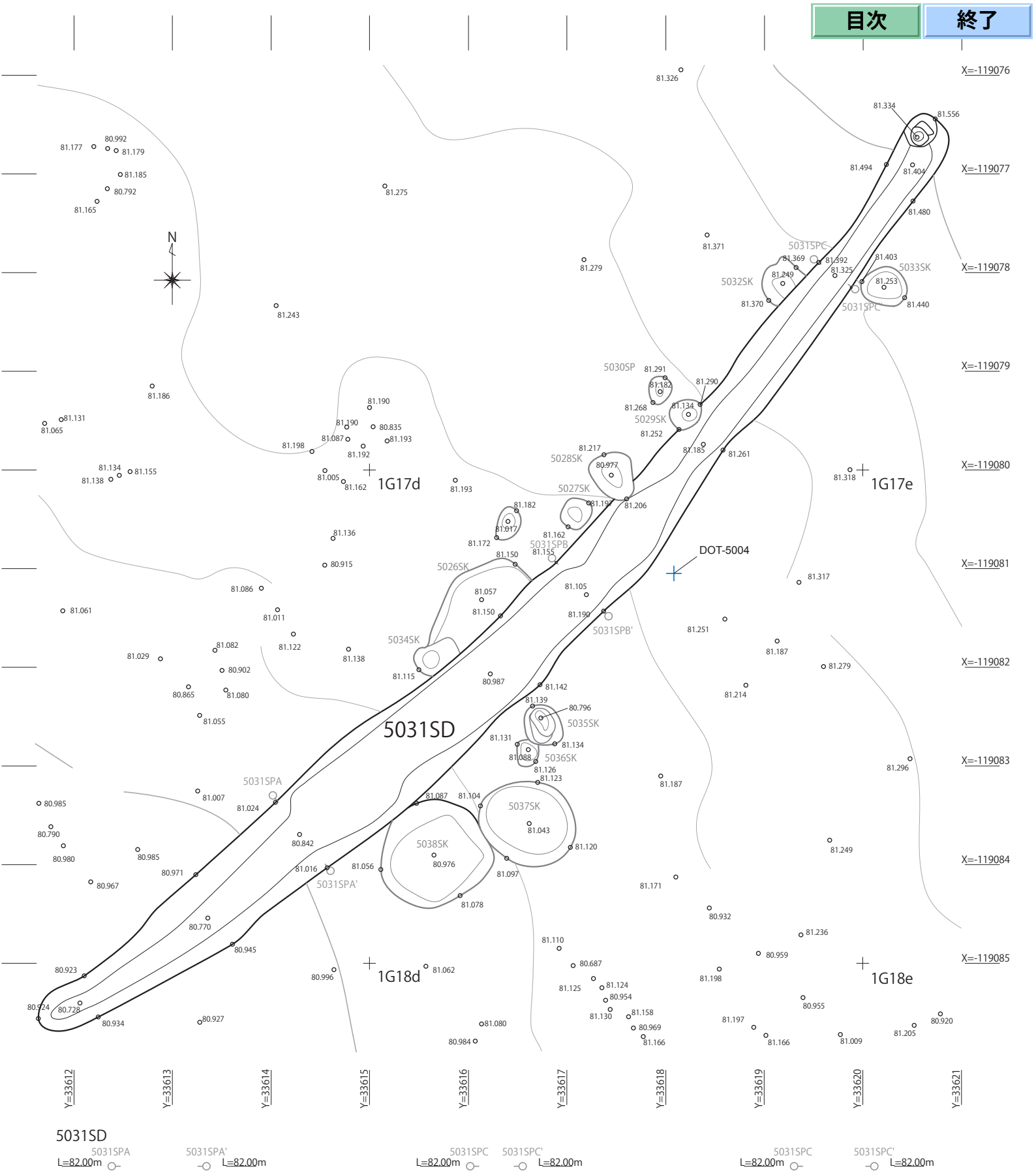
2. 10YR3/1 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし

4. 10YR3/2 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト やや硬質 粘性ややあり
6. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや軟質 粘性あり



1. 7.5YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性あり 10YR3/1 黒褐色
シルト斑、7.5YR4/4褐色シルト斑入、最大径3cmの炭化物入

図 2-51 09 区 5004SD 遺構平面図・土層断面図（1:50）



5031SD

5031SPA L=82.00m　5031SPA' L=82.00m　5031SPC L=82.00m　5031SPC' L=82.00m　5031SPC L=82.00m　5031SPC' L=82.00m

5031SD-A

L=81.00m　1　L=81.00m

1. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし
細粒砂含み、最大径10cmの円礫入

5031SD-C

L=81.00m　L=81.00m

1. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし
細粒砂含み、最大径10cmの円礫入

5031SD-B

L=81.00m　1　L=81.00m

1. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし
細粒砂含み、最大径10cmの円礫入

図 2-52　09 区 5031SD 遺構平面図・土層断面図（1:50）

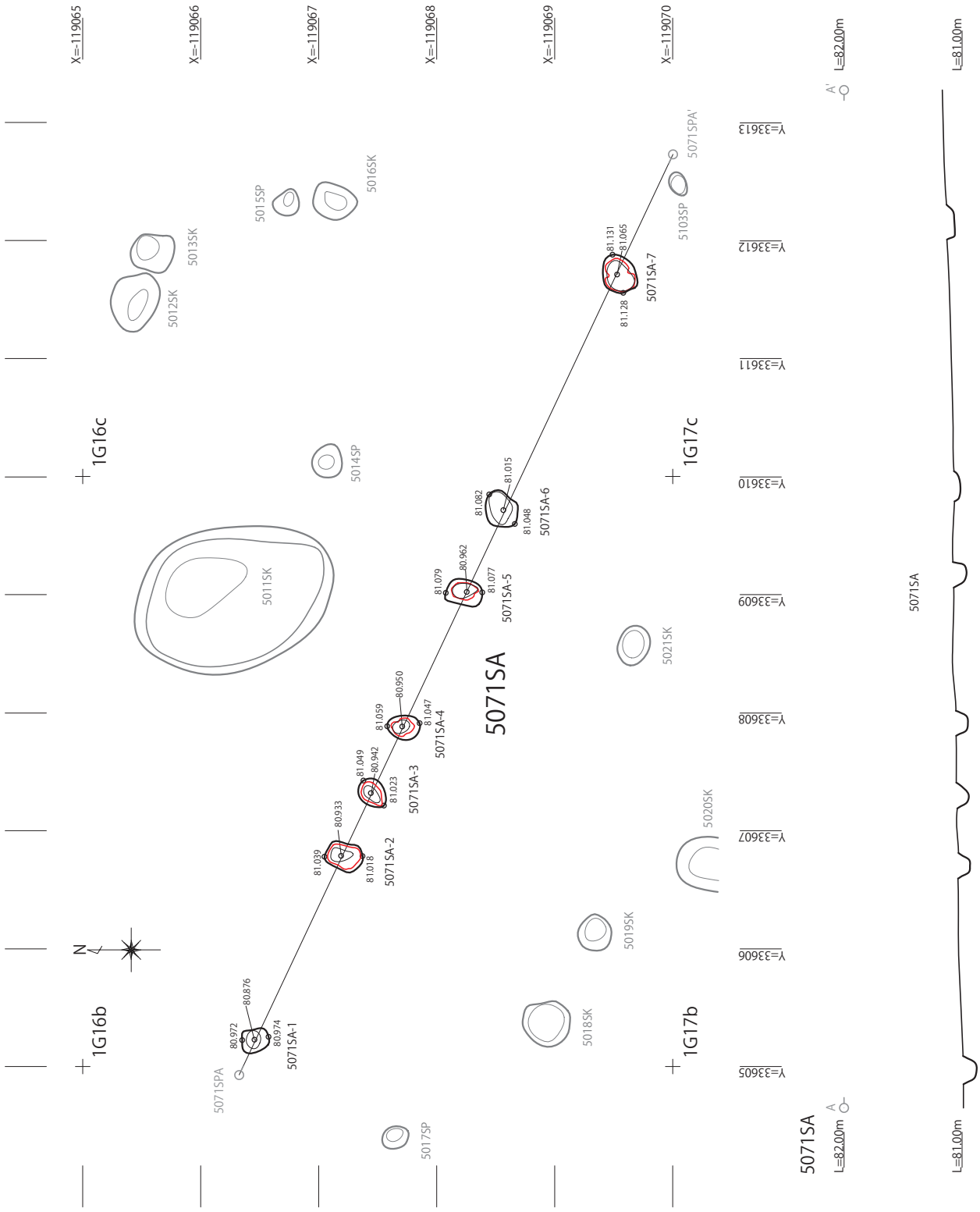


図 2-53　09 区 5071SA 遺構平面図（1:50）

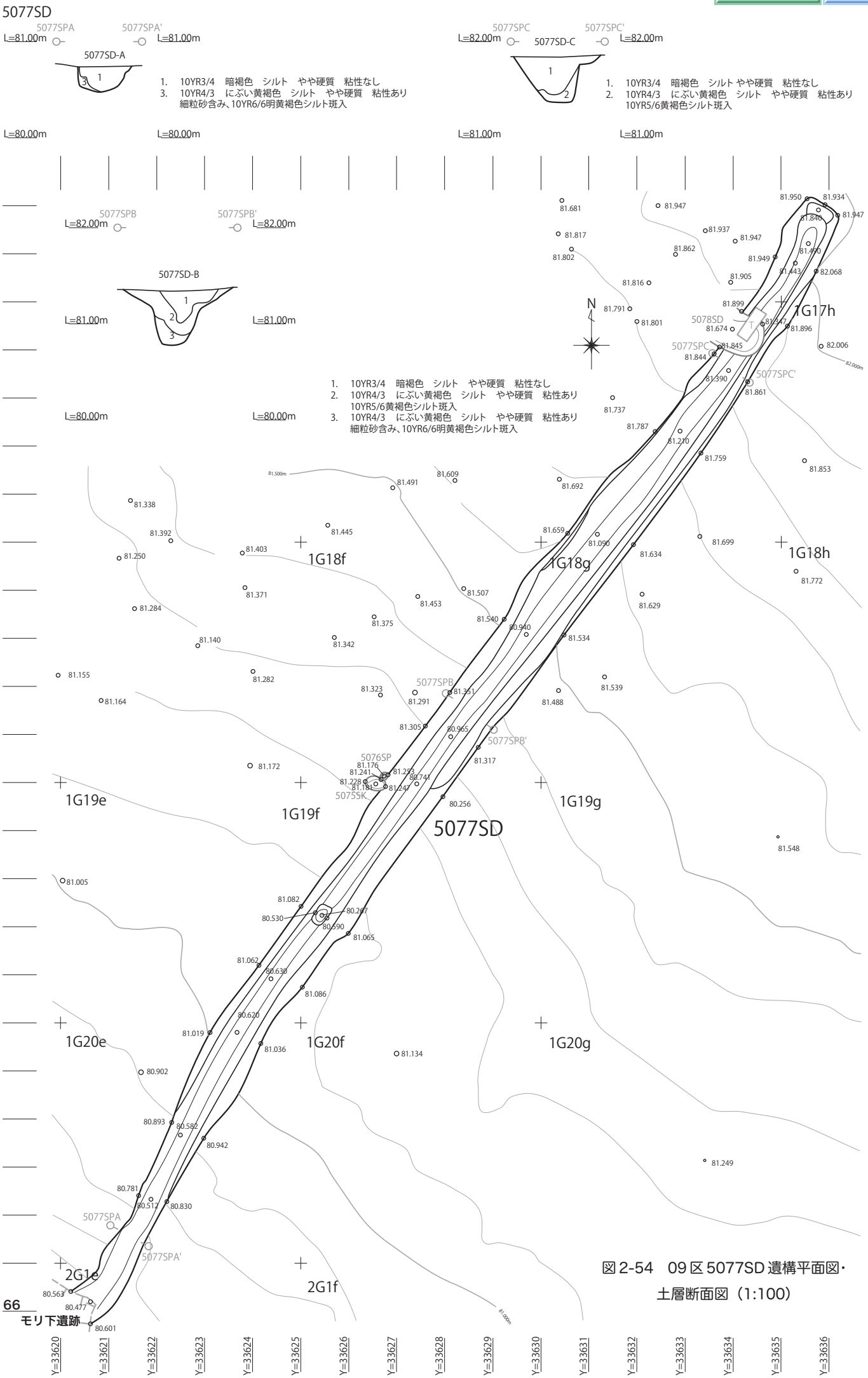


図 2-54 09 区 5077SD 遺構平面図・土層断面図（1:100）

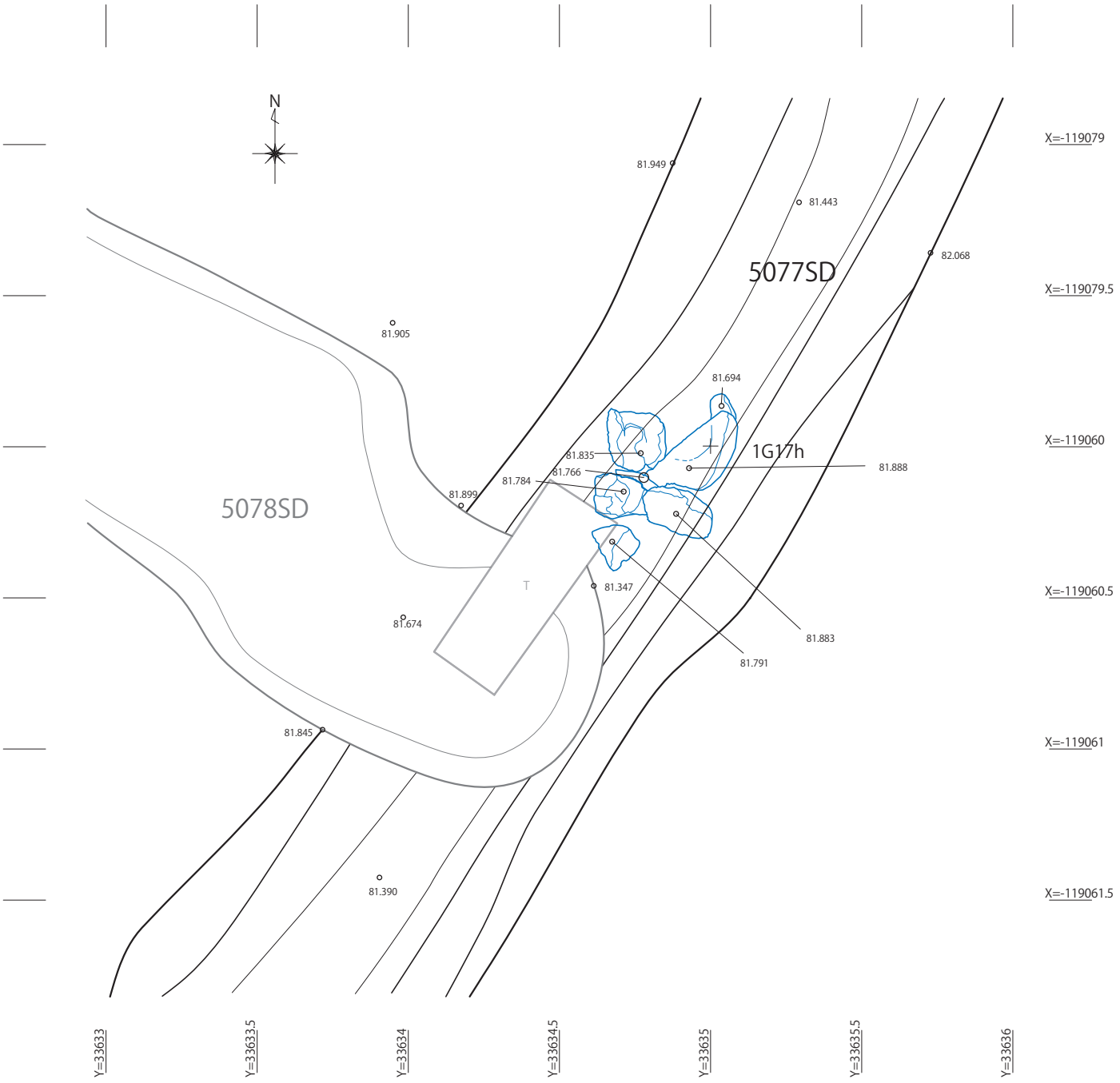
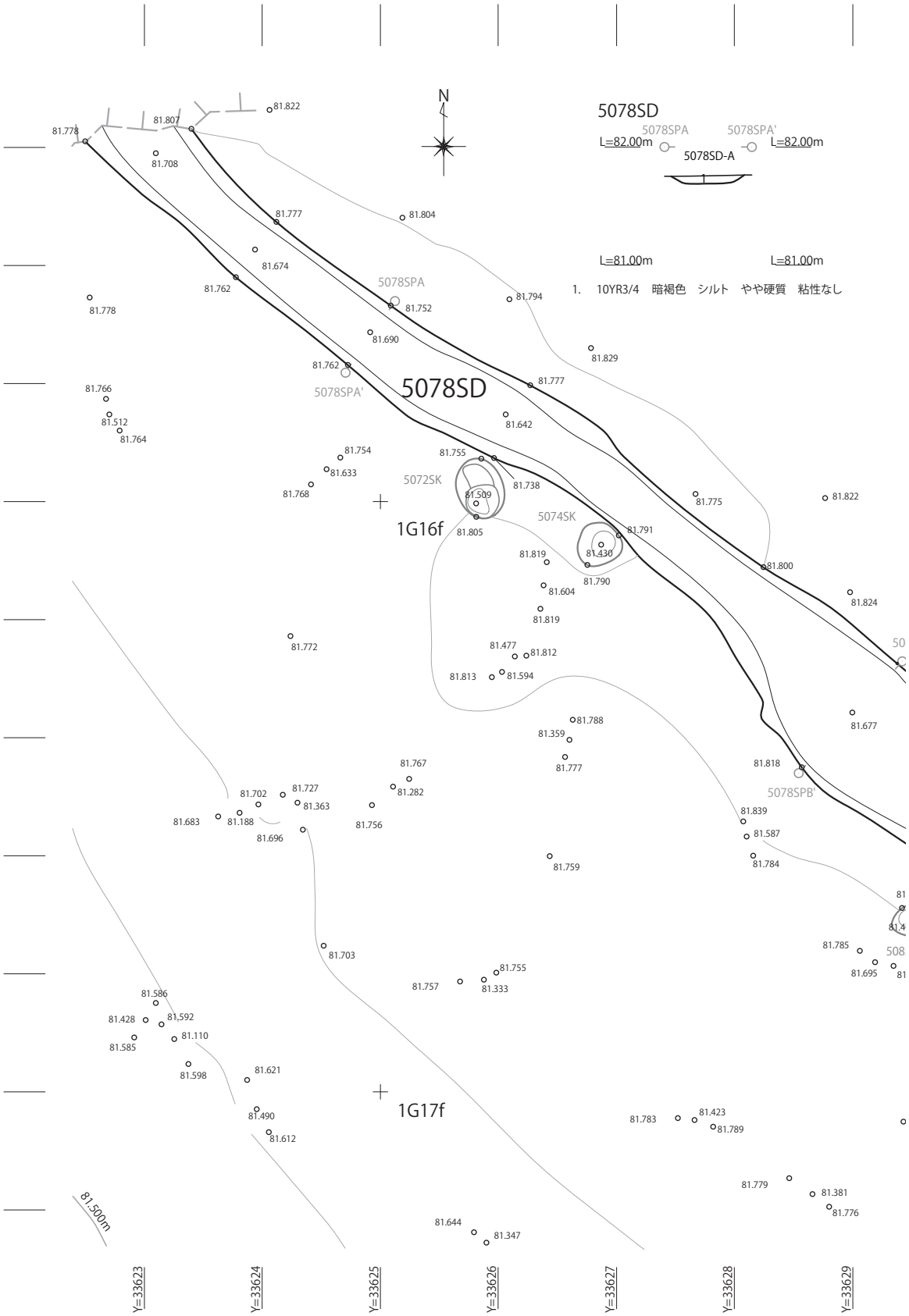


図 2-55　09 区 5077SD 遺物出土状態図（1:20）


N
5078SD
5078SPA
5078SPA'
L=82.00m
L=82.00m
5078SD-A
L=81.00m
L=81.00m
1. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし
5078SD
5078SPA
5078SPA'
5072SK
5074SK
1G16f
1G17f
5078SPB'
81.500m
Y=33623
Y=33624
Y=33625
Y=33626
Y=33627
Y=33628
Y=33629

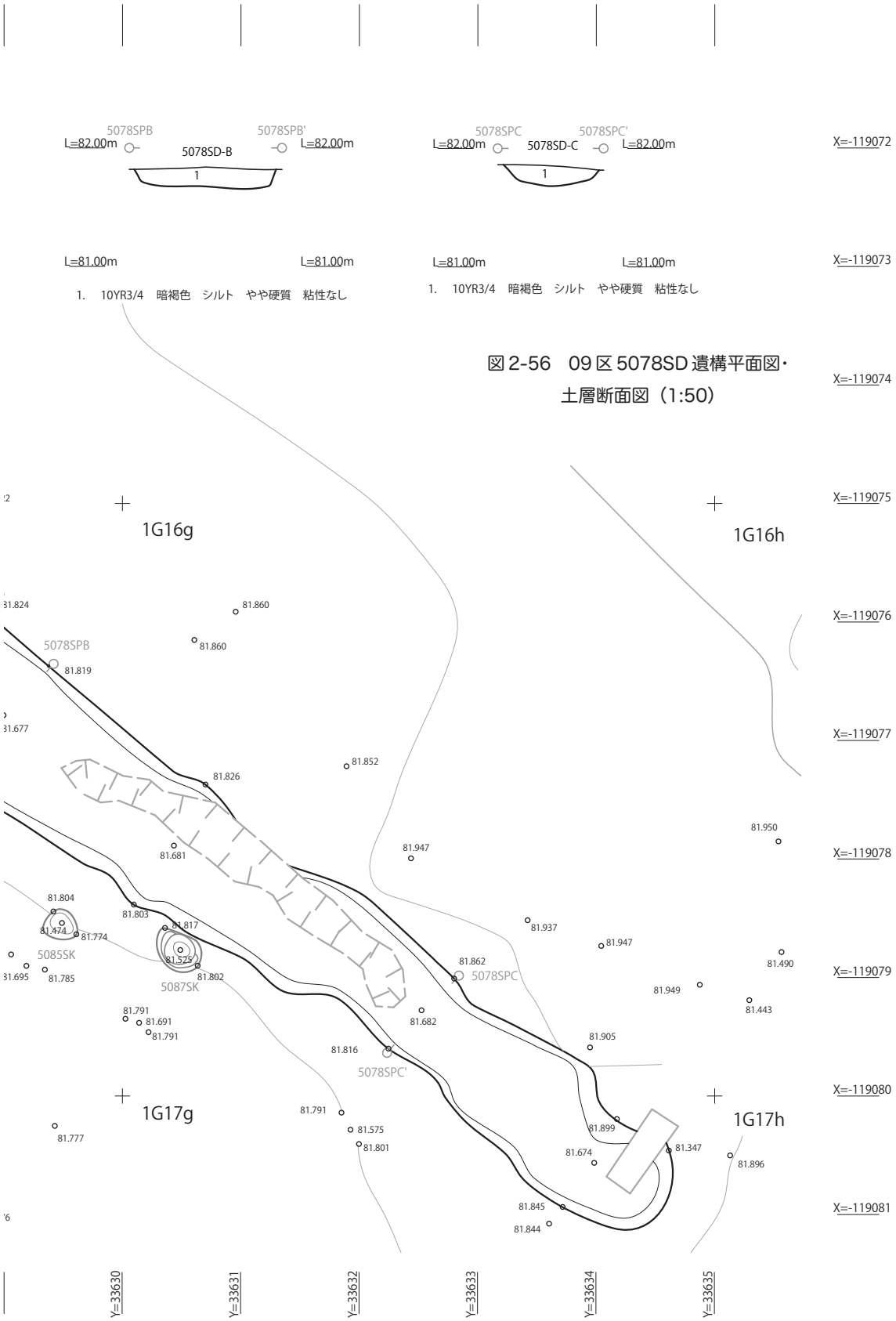


図 2-56 09 区 5078SD 遺構平面図・土層断面図（1:50）

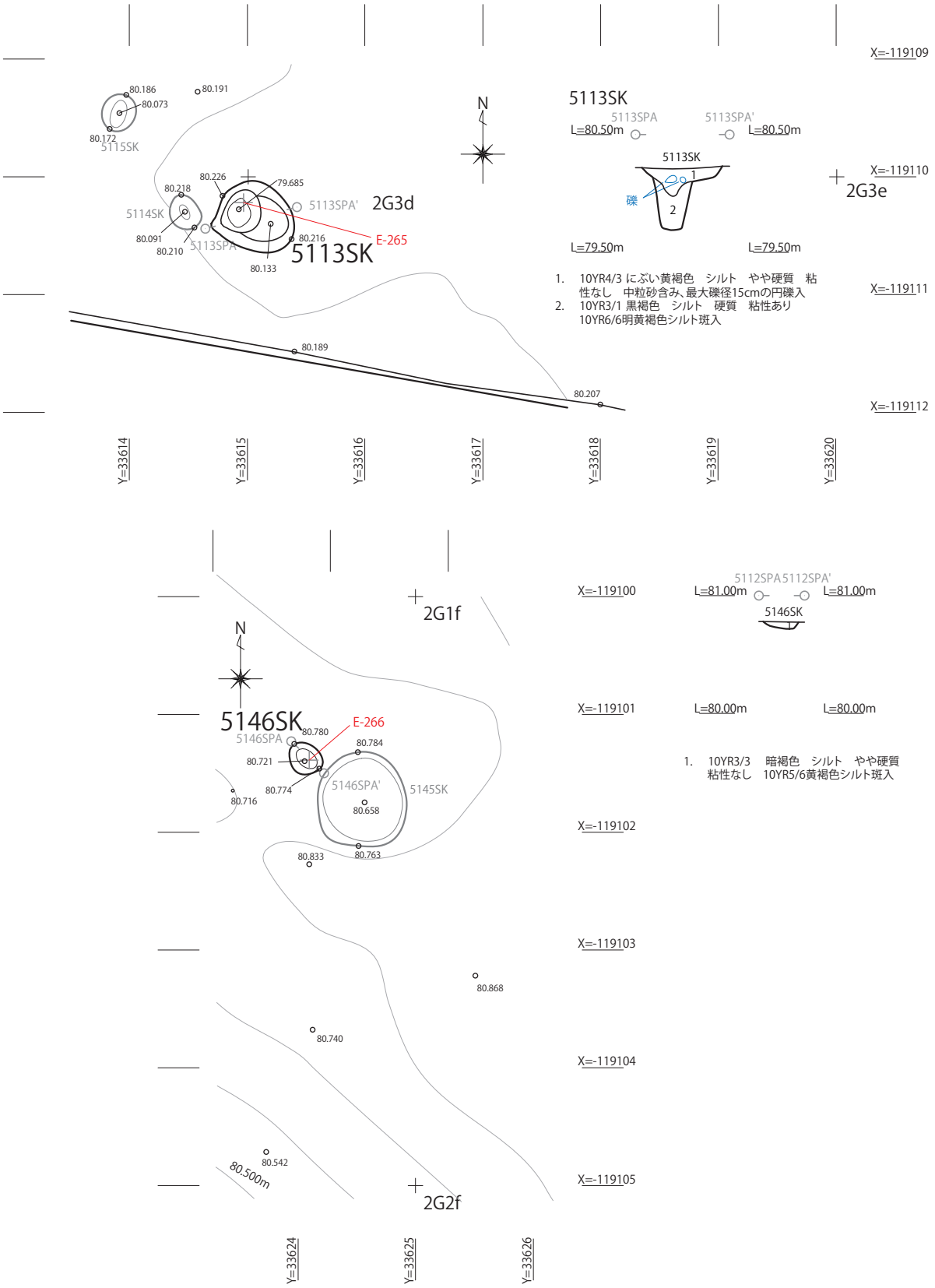


図 2-57 09 区 5113・5146SK 遺構平面図・土層断面図（1:50）

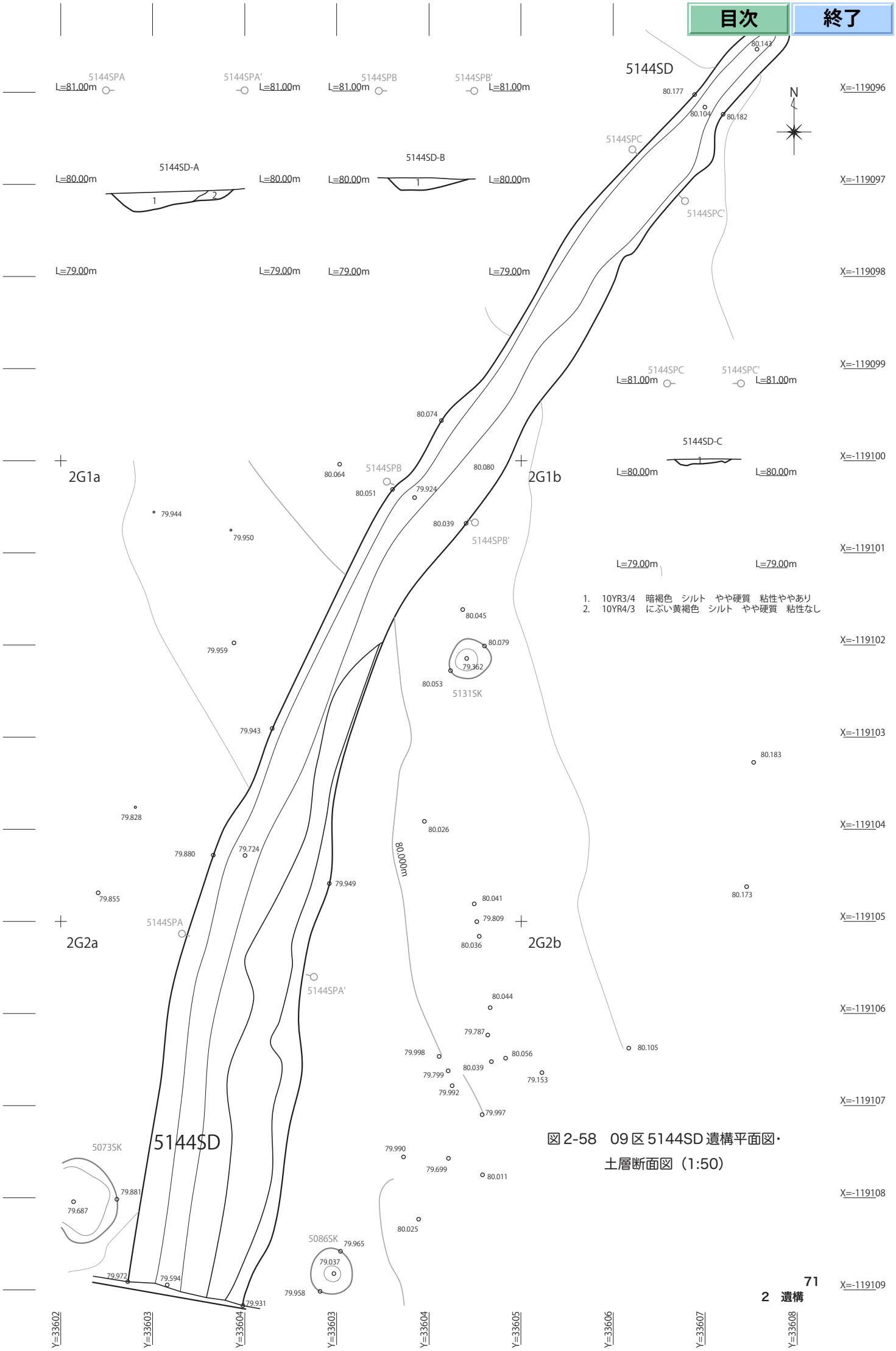


図 2-58 09 区 5144SD 遺構平面図・土層断面図（1:50）

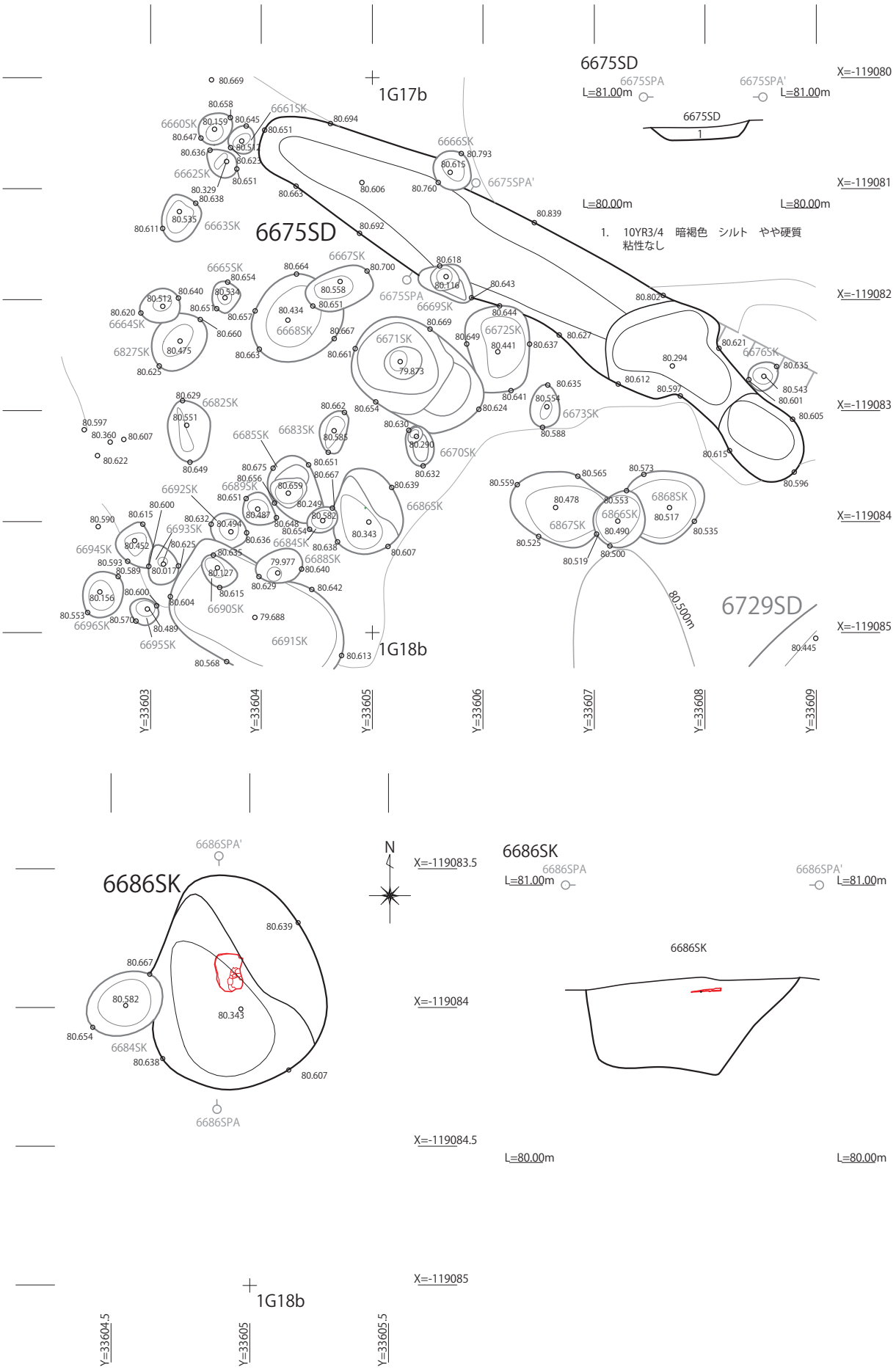
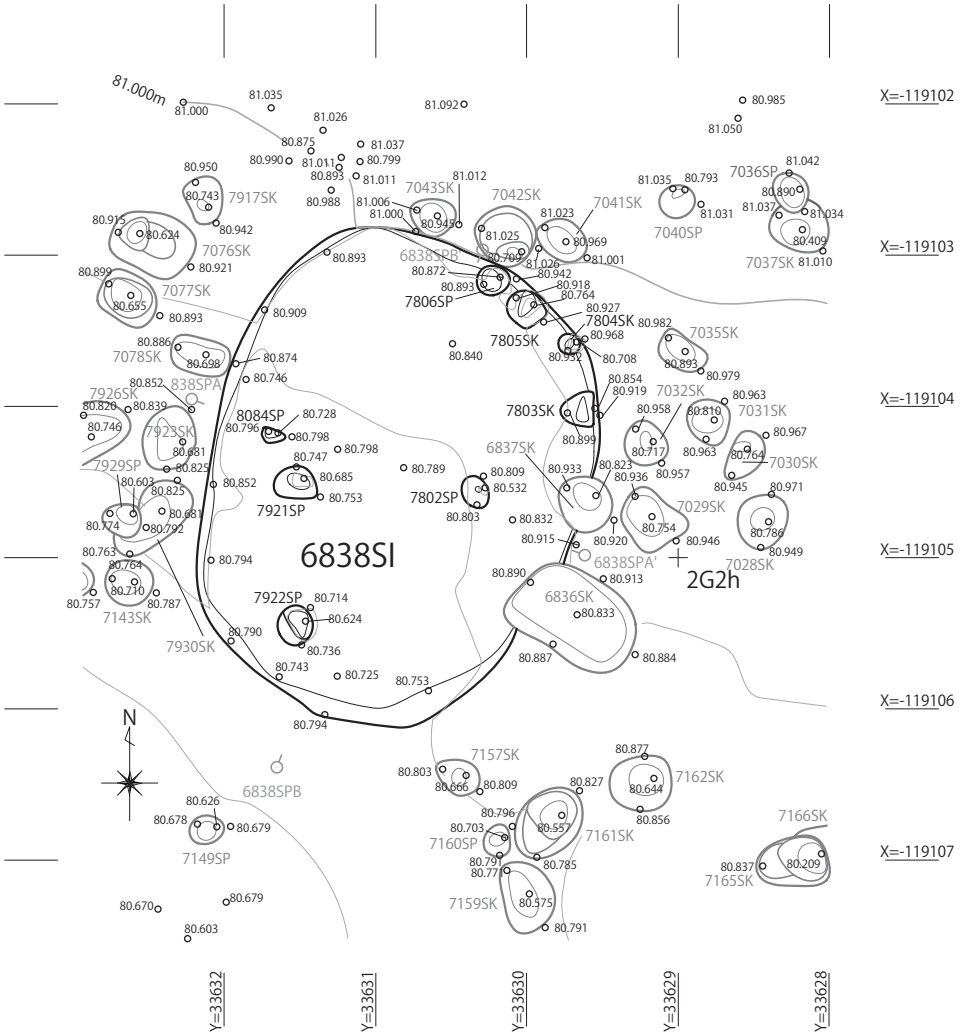
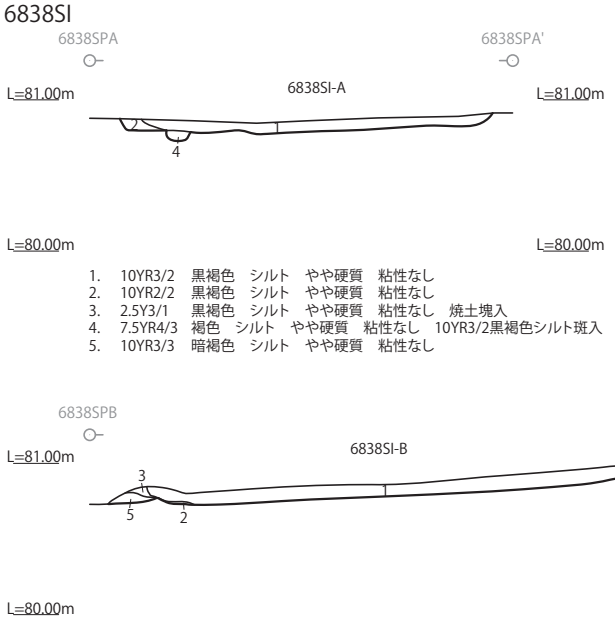


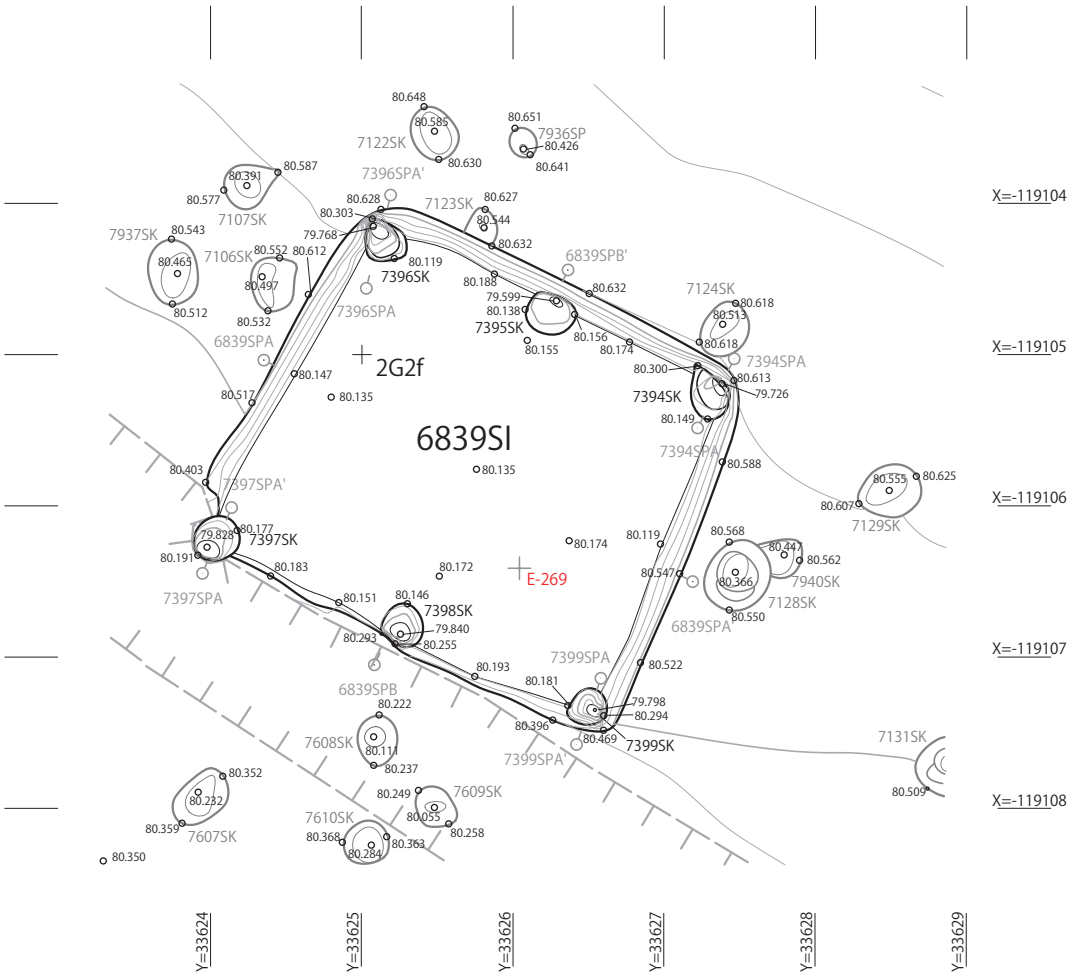
図 2-59 09 区 6675SD 遺構平面図・土層断面図（1:50）/6686SK 遺物出土状態図（1:20）



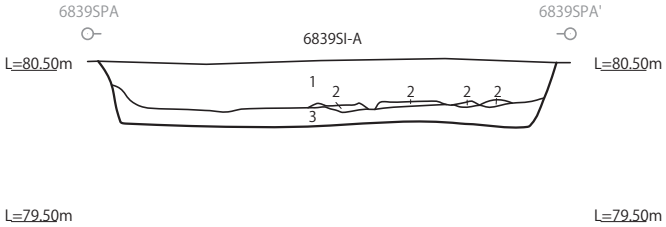


1. 10YR3/2 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし
3. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし 焼土塊入
4. 7.5YR4/3 褐色 シルト やや硬質 粘性なし 10YR3/2黒褐色シルト斑入
5. 10YR3/3 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし

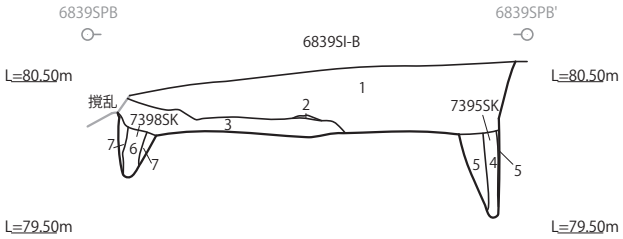
図 2-60 09 区 6838SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）



6839SI



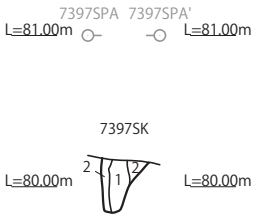
6839SI
1. 7.5YR3/2 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし 10YR5/6黄褐色シルト斑入
2. 5YR3/6 暗赤褐色 シルト 軟質 粘性なし 焼土粒含む
3. 10YR2/1 黒色 シルト やや硬質 粘性なし



7395SK
4. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性あり
5. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性あり 10YR5/6黄褐色シルト斑入

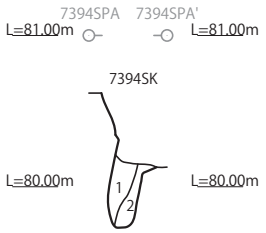
7398SK
6. 10YR3/1 黒褐色 シルト やや硬質 粘性あり
7. 10YR3/1 黒褐色 シルト やや硬質 粘性あり 10YR5/6黄褐色シルト斑入

7397SK



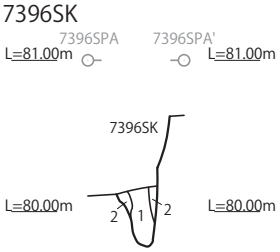
1. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性あり
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性あり 10YR5/6黄褐色シルト斑入

7394SK



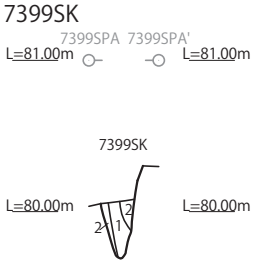
1. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性あり
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性あり 10YR5/6黄褐色シルト斑入

7396SK



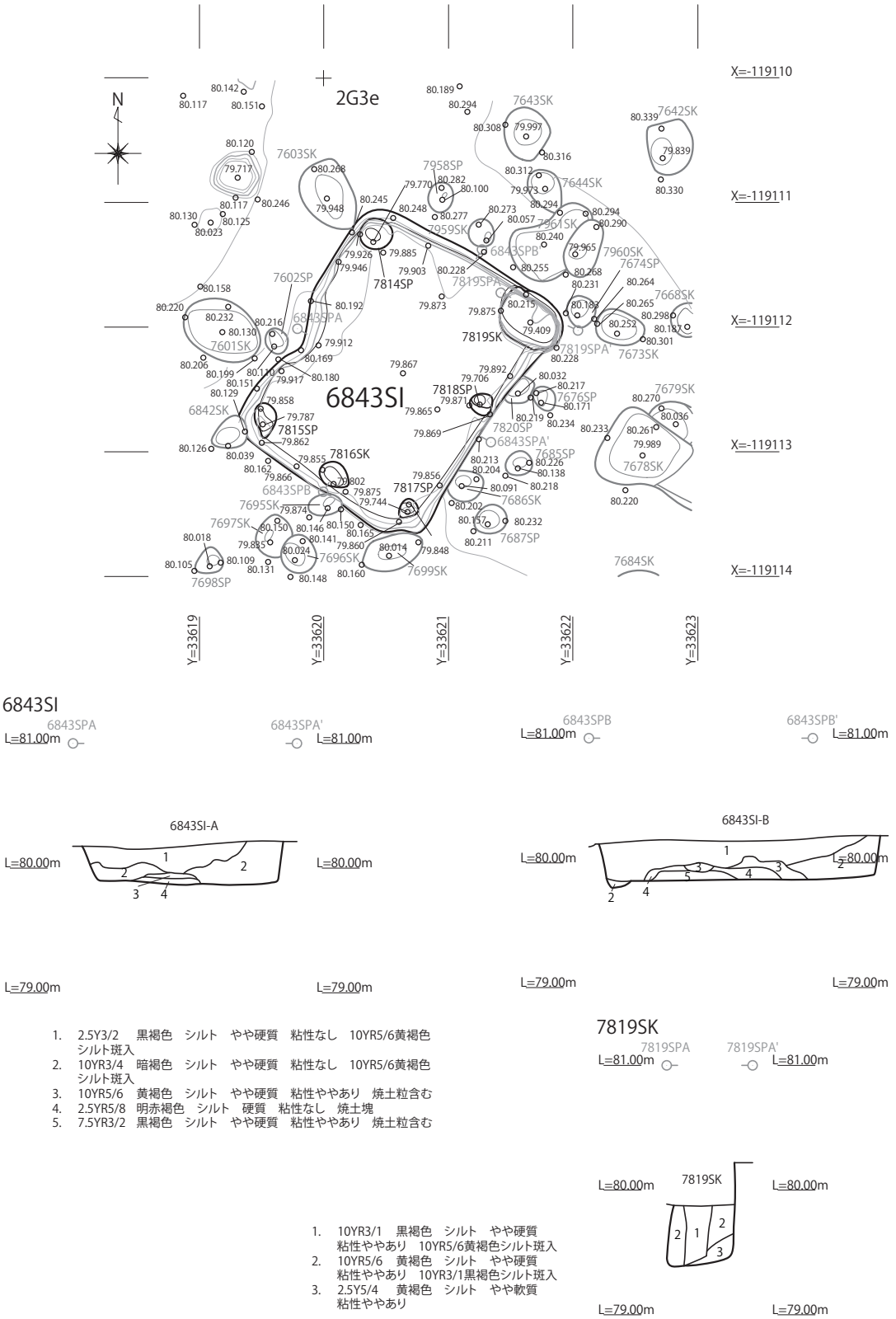
1. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性あり
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性あり 10YR5/6黄褐色シルト斑入

7399SK



1. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性ややあり
2. 0YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性ややあり 10YR5/6黄褐色シルト斑入

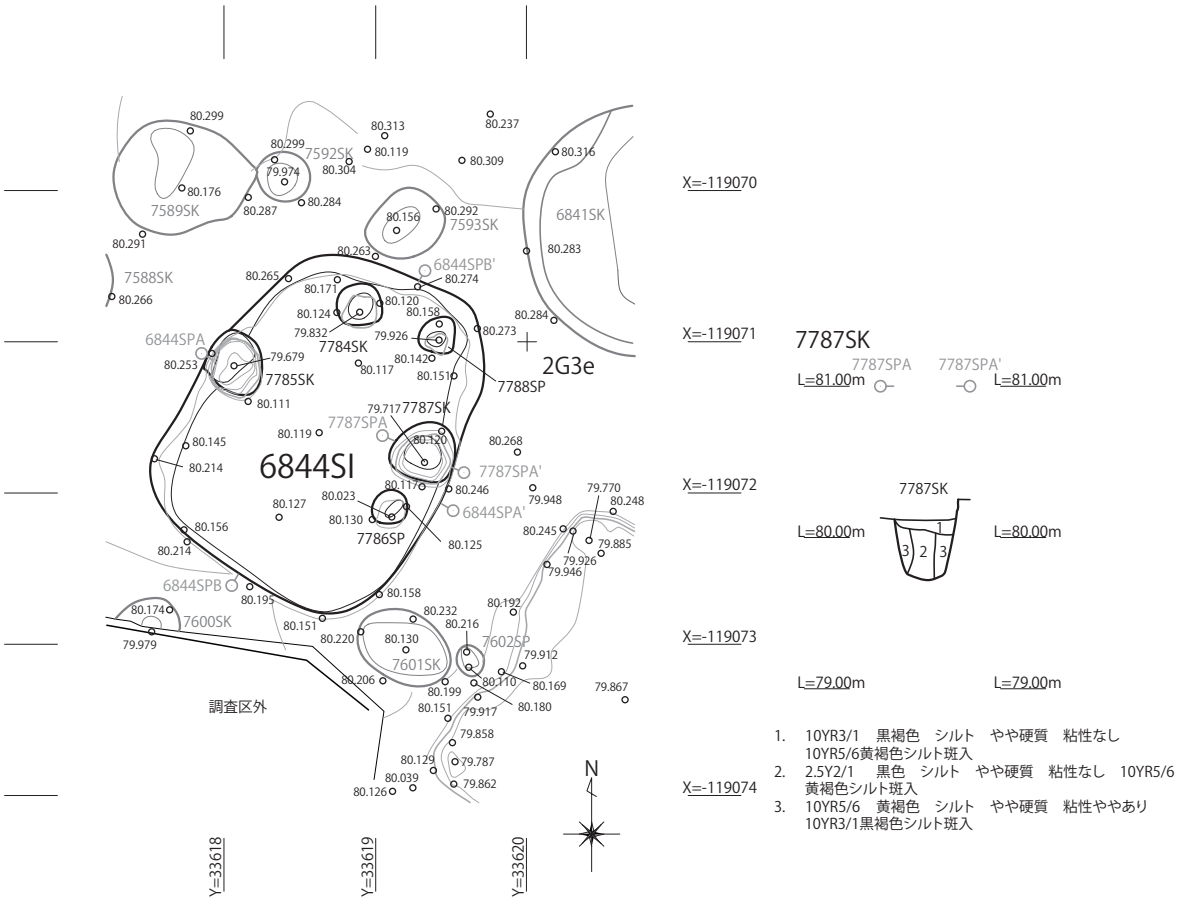
図 2-61 09 区 6839SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）



1. 2.5Y3/2　黒褐色　シルト　やや硬質　粘性なし　10YR5/6黄褐色シルト斑入
2. 10YR3/4　暗褐色　シルト　やや硬質　粘性なし　10YR5/6黄褐色シルト斑入
3. 10YR5/6　黄褐色　シルト　やや硬質　粘性ややあり　焼土粒含む
4. 2.5YR5/8　明赤褐色　シルト　硬質　粘性なし　焼土塊
5. 7.5YR3/2　黒褐色　シルト　やや硬質　粘性ややあり　焼土粒含む

1. 10YR3/1　黒褐色　シルト　やや硬質　粘性ややあり　10YR5/6黄褐色シルト斑入
2. 10YR5/6　黄褐色　シルト　やや硬質　粘性ややあり　10YR3/1黒褐色シルト斑入
3. 2.5Y5/4　黄褐色　シルト　やや軟質　粘性ややあり

図 2-62　09 区 6843SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）



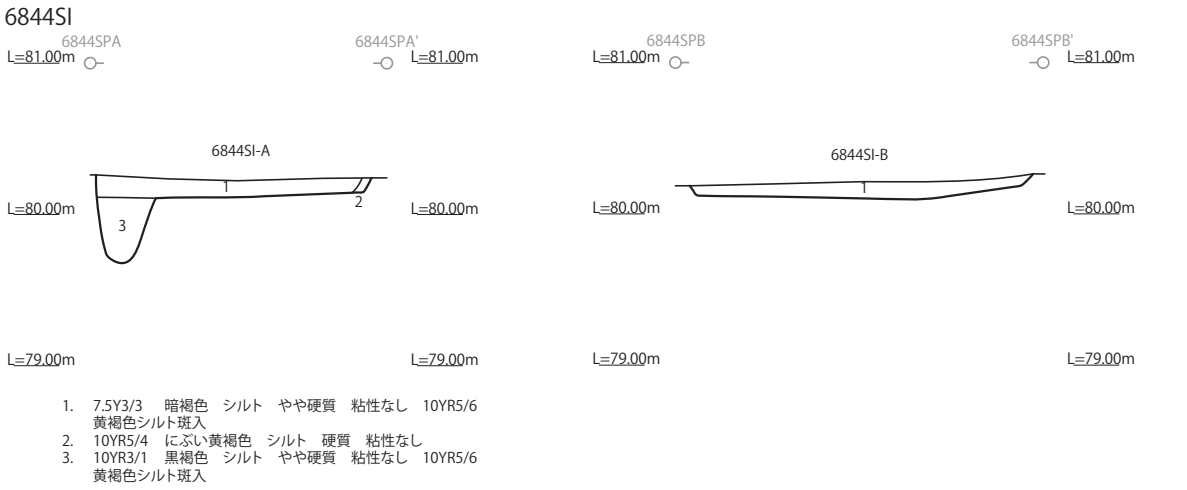
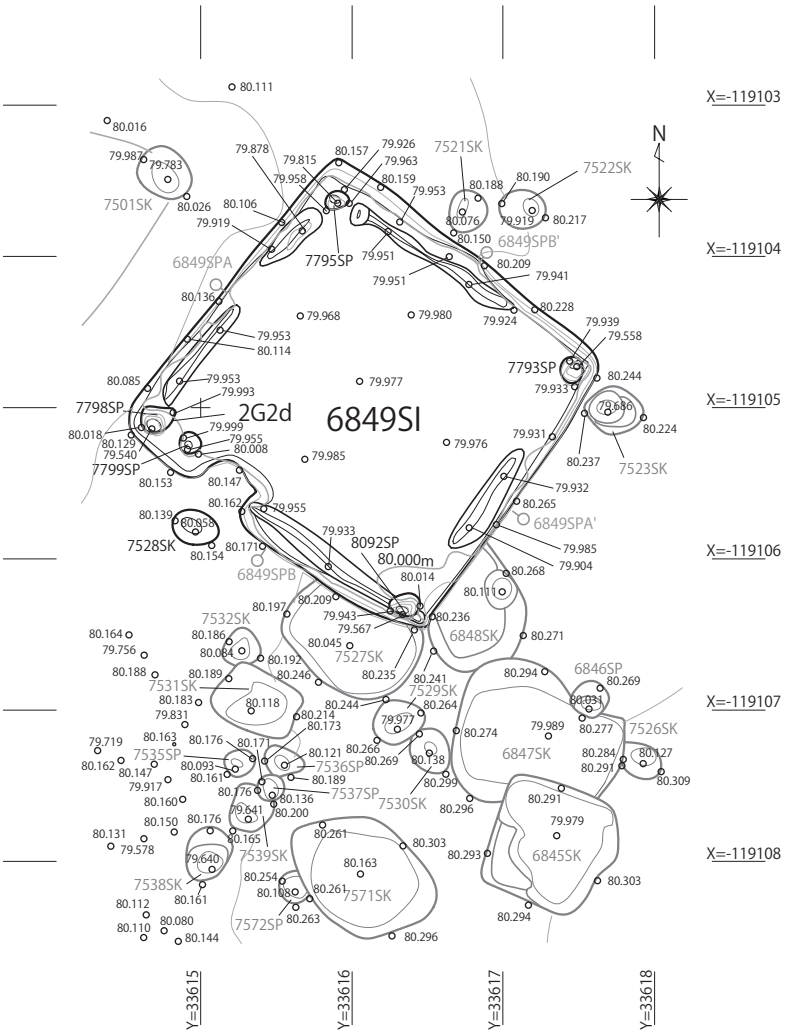
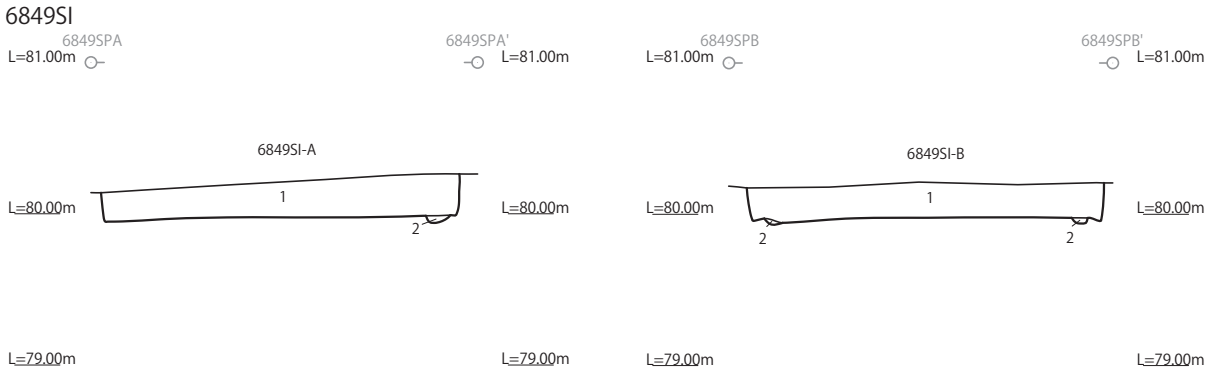


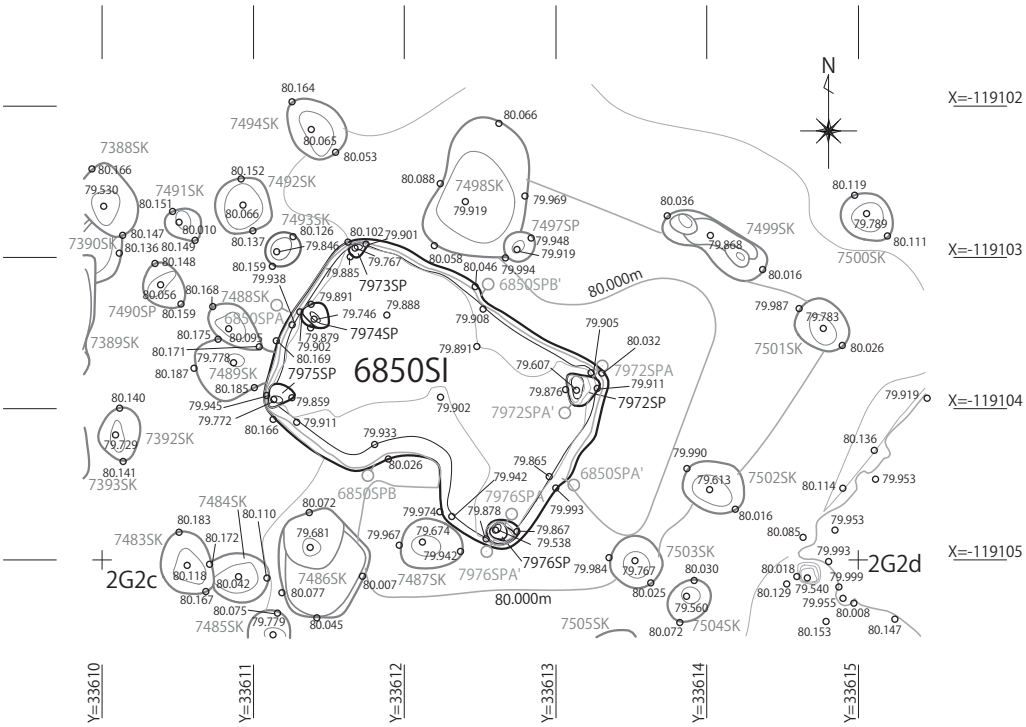
図 2-63 09 区 6844SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）





1. 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　やや硬質　粘性ややあり
   2.5Y3/1黒褐色シルト斑、10YR5/6黄褐色シルト斑入
2. 2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　やや軟質　粘性あり　10YR3/1
   黒褐色シルト斑、10YR5/6黄褐色シルト斑入

図 2-64　09 区 6849SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）



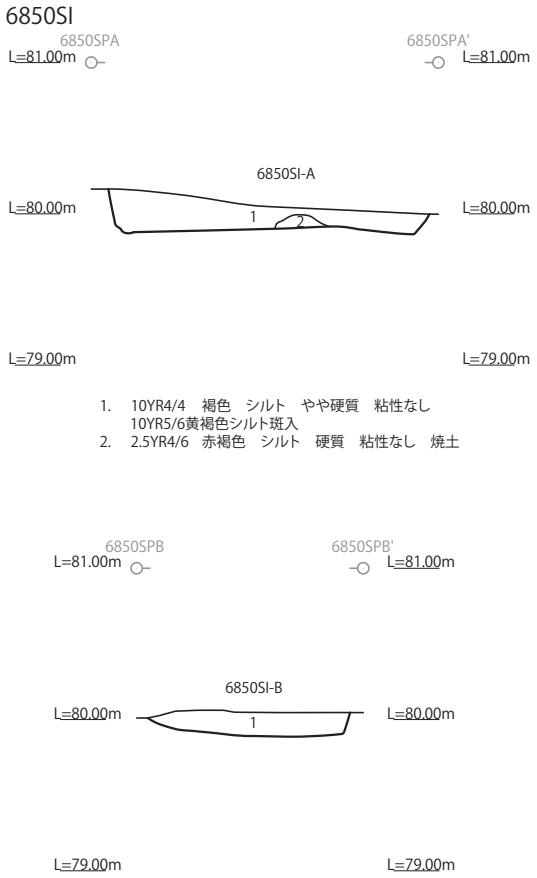
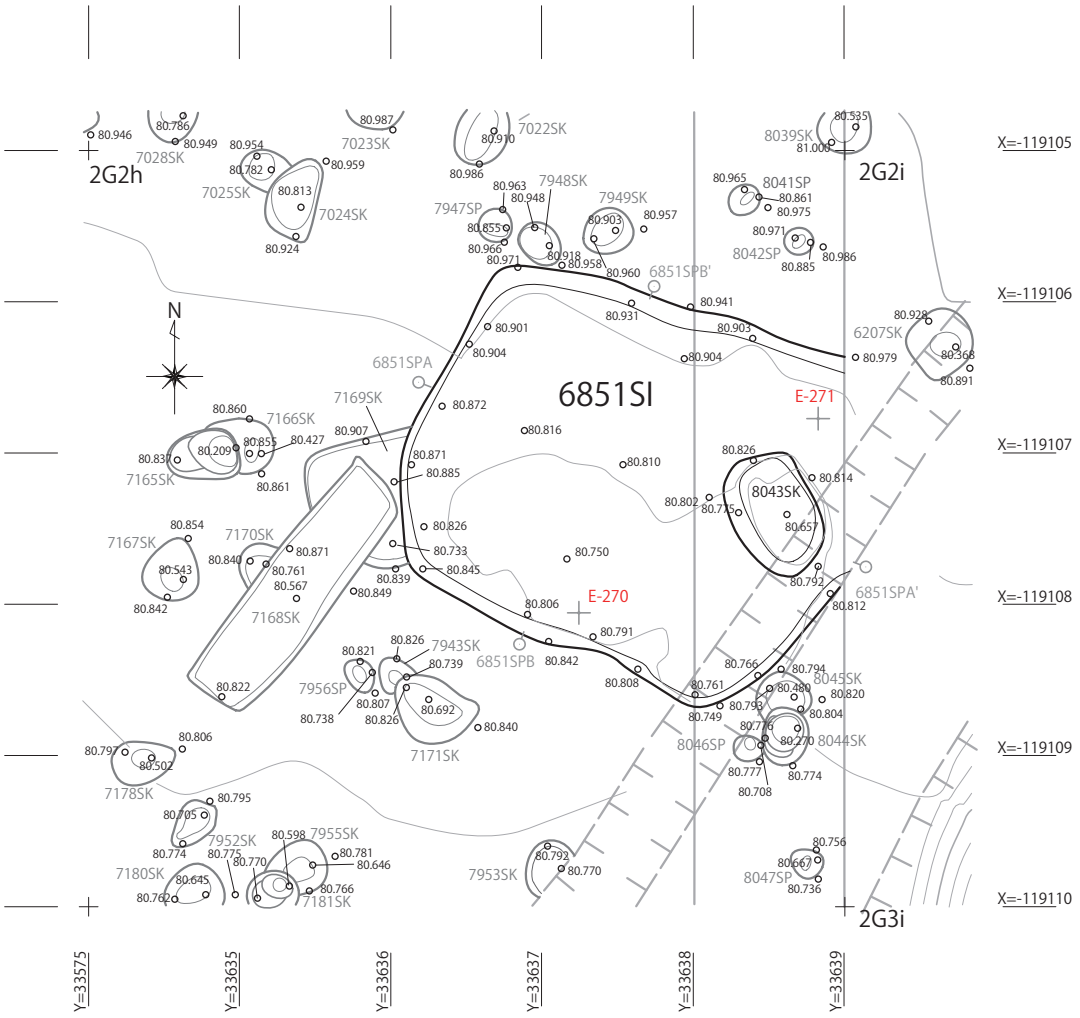
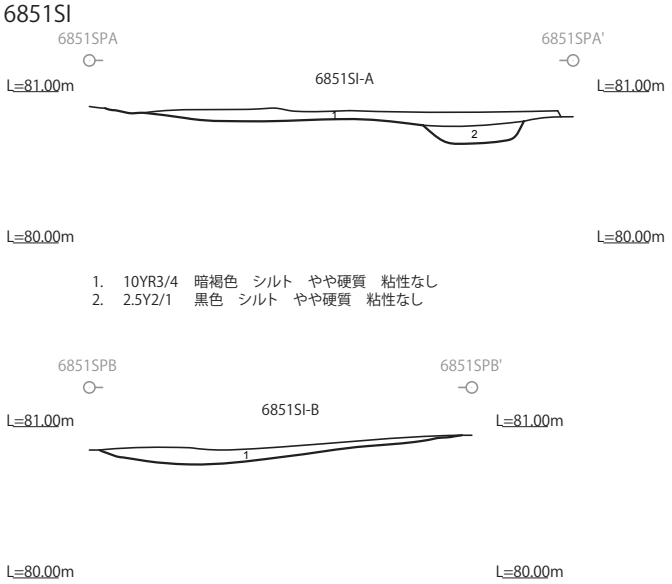


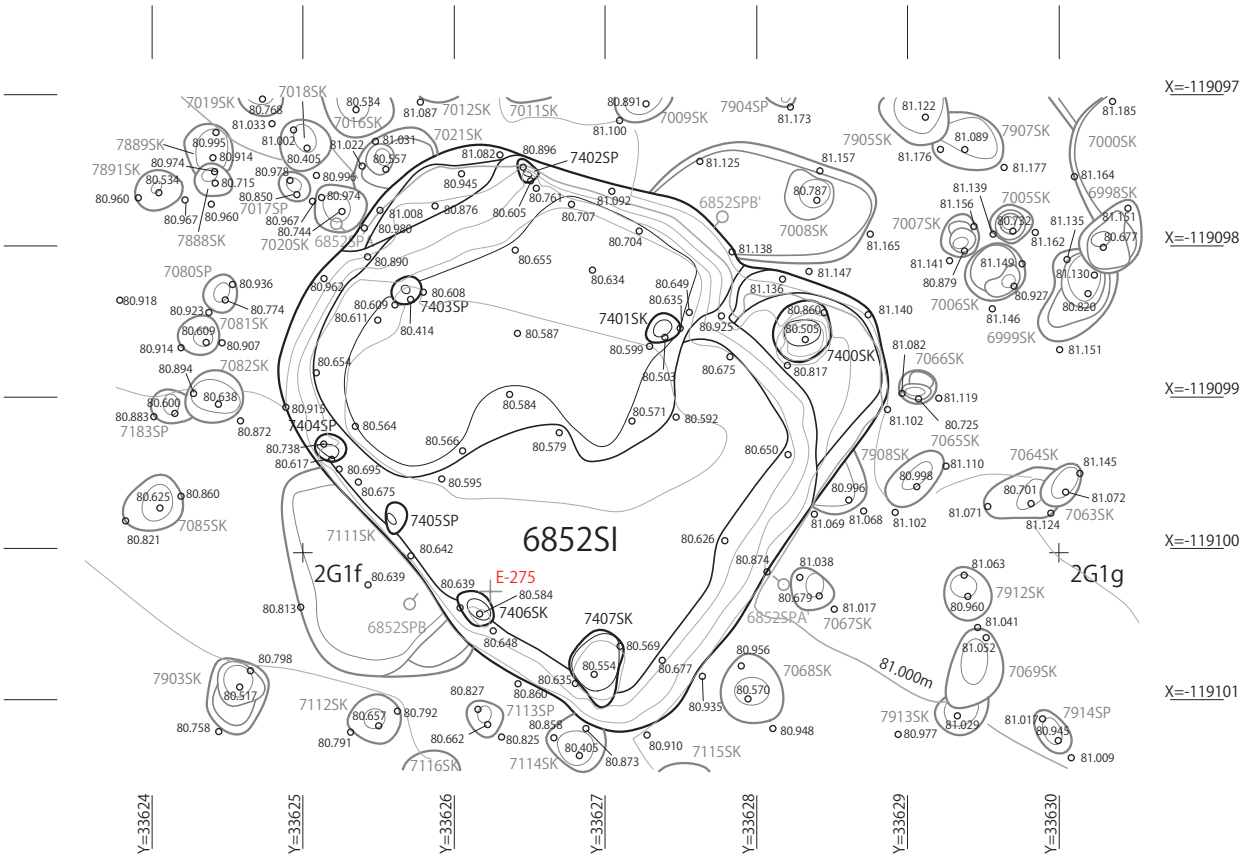
図 2-65 09 区 6850SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）

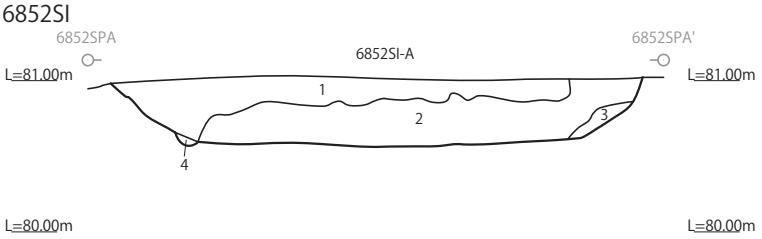




1. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし
2. 2.5Y2/1 黒色 シルト やや硬質 粘性なし

図 2-66 09 区 6851SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）





1. 10YR3/2 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし
2. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト やや硬質 粘性なし 10YR5/6黄褐色シルト斑入
3. 10YR2/2 黒褐色 シルト やや硬質 粘性なし
4. 10YR3/1 黒褐色 シルト やや軟質 粘性ややあり 10YR5/6黄褐色シルト斑入

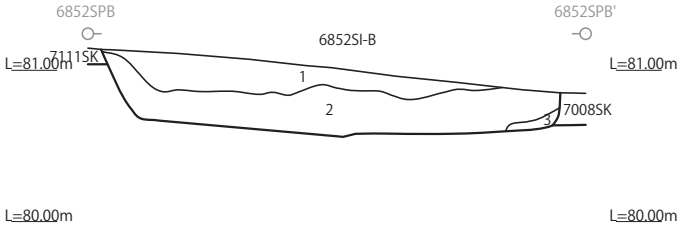
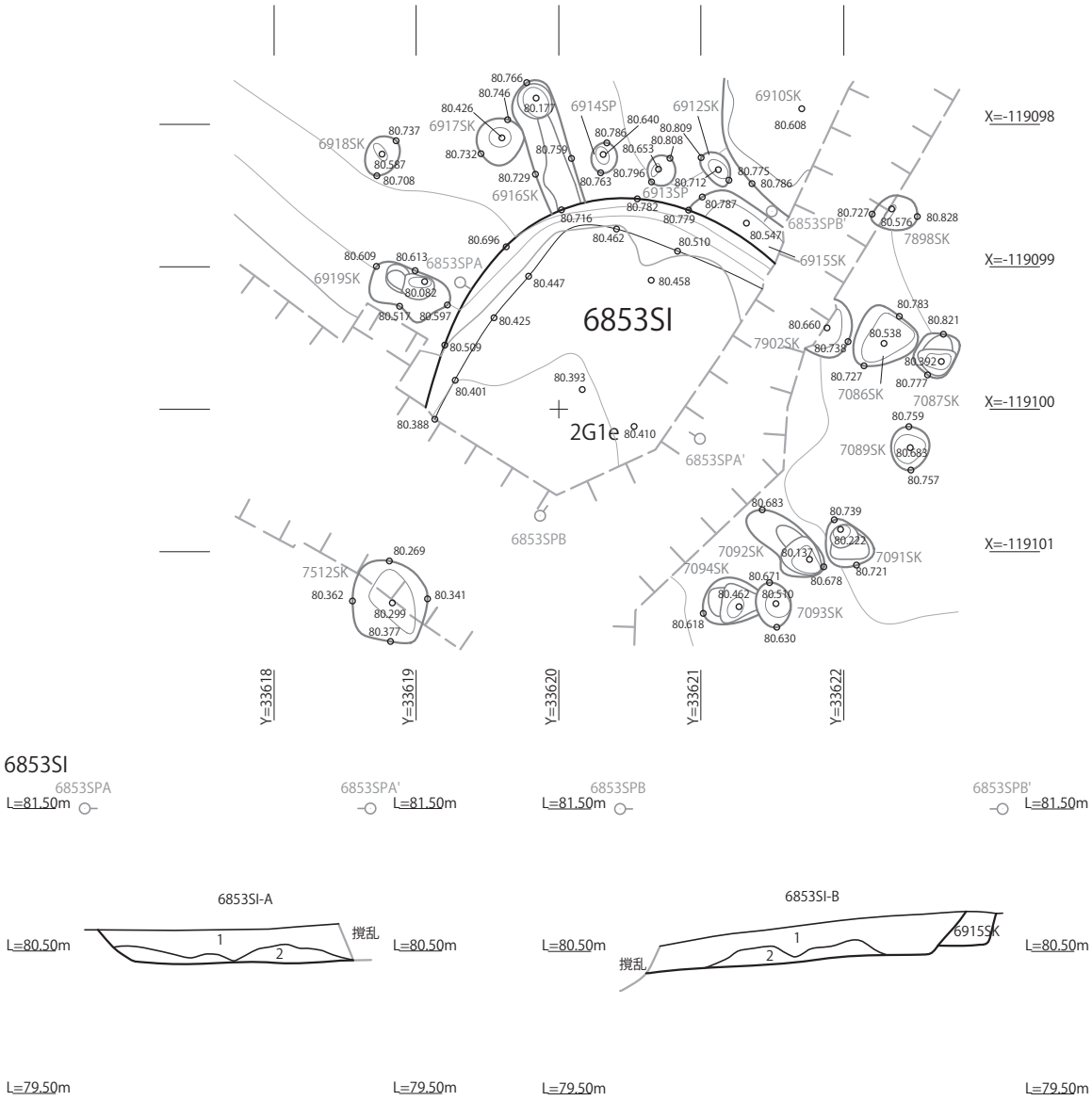


図 2-67 09 区 6852SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）



1. 10YR3/4　暗褐色　シルト　やや硬質　粘性なし　10YR5/6黄褐色シルト斑入
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　やや硬質　粘性ややあり　10YR5/6黄褐色シルト斑入

図 2-68　09 区 6853SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）

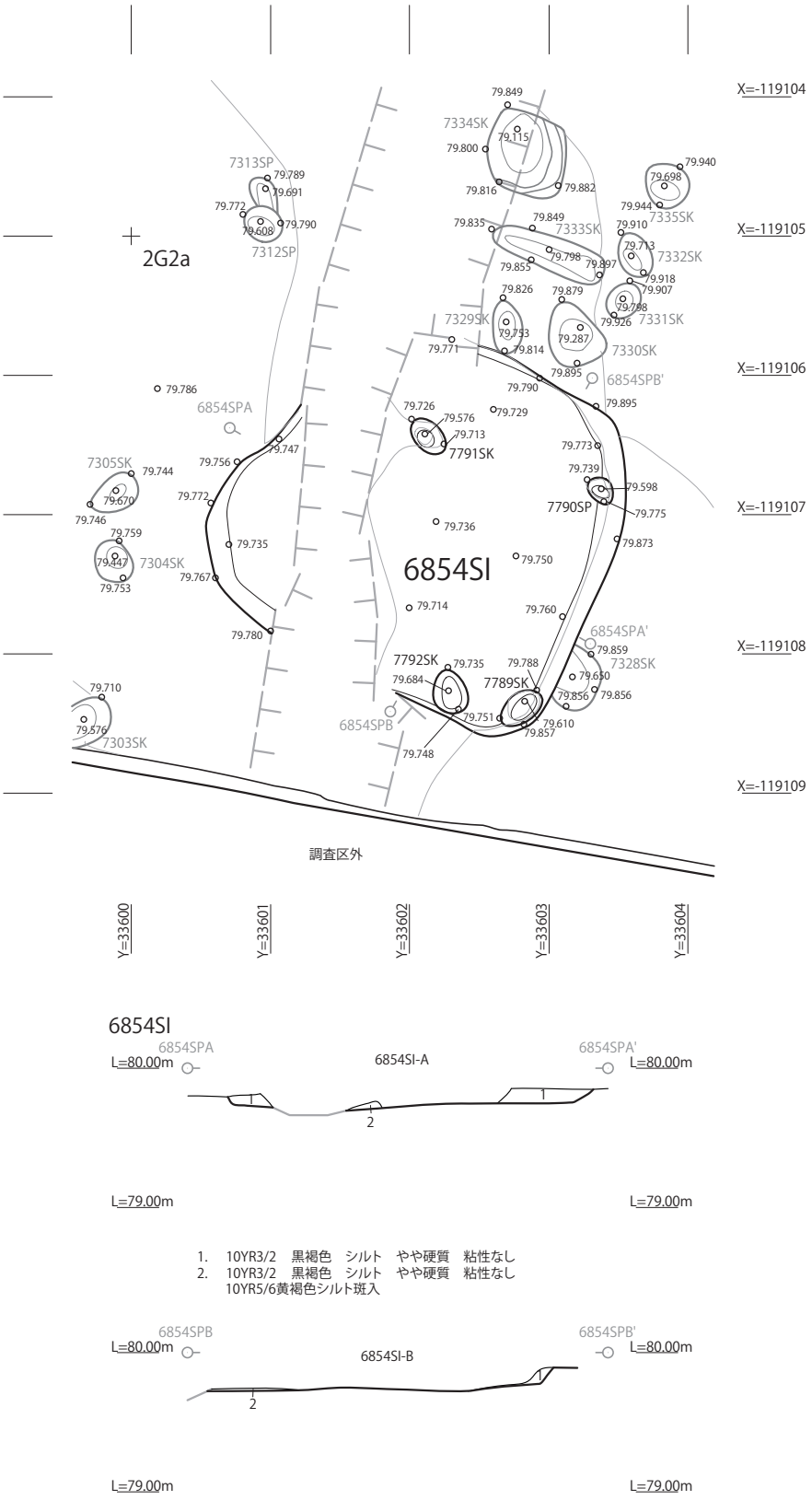


図 2-69 09 区 6854SI 遺構平面図・土層断面図（1:50）

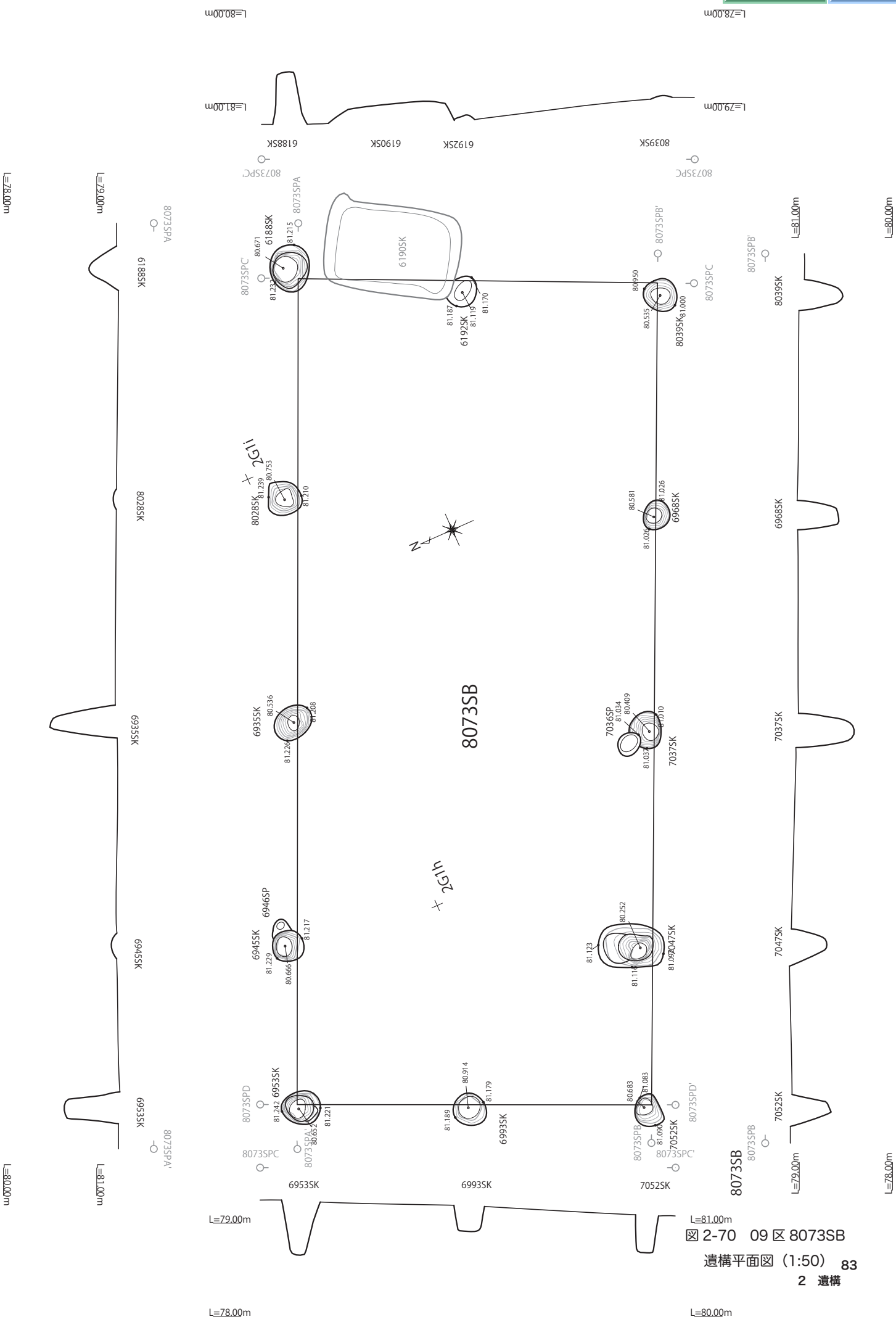


図 2-70　09 区 8073SB

遺構平面図（1:50）

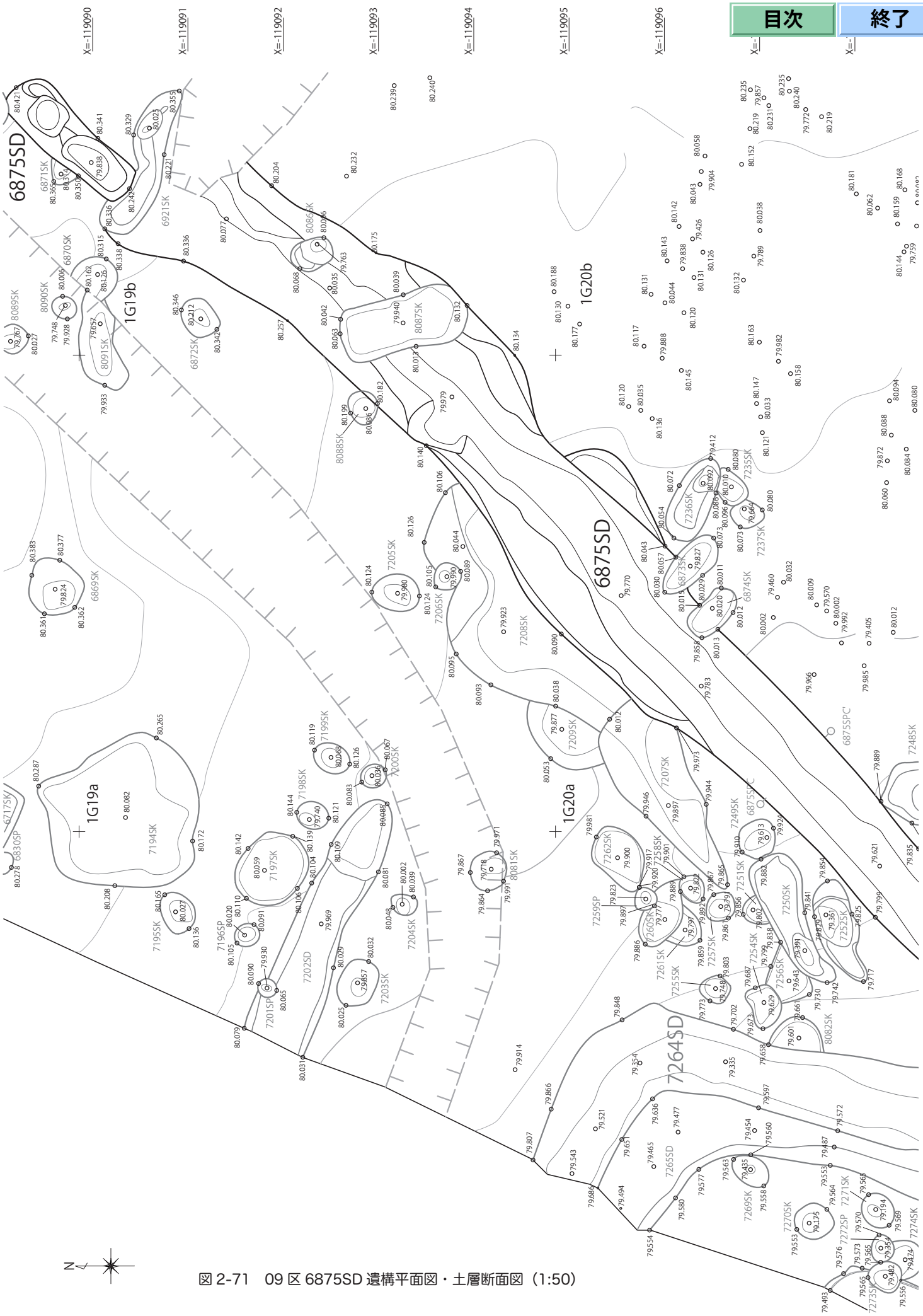
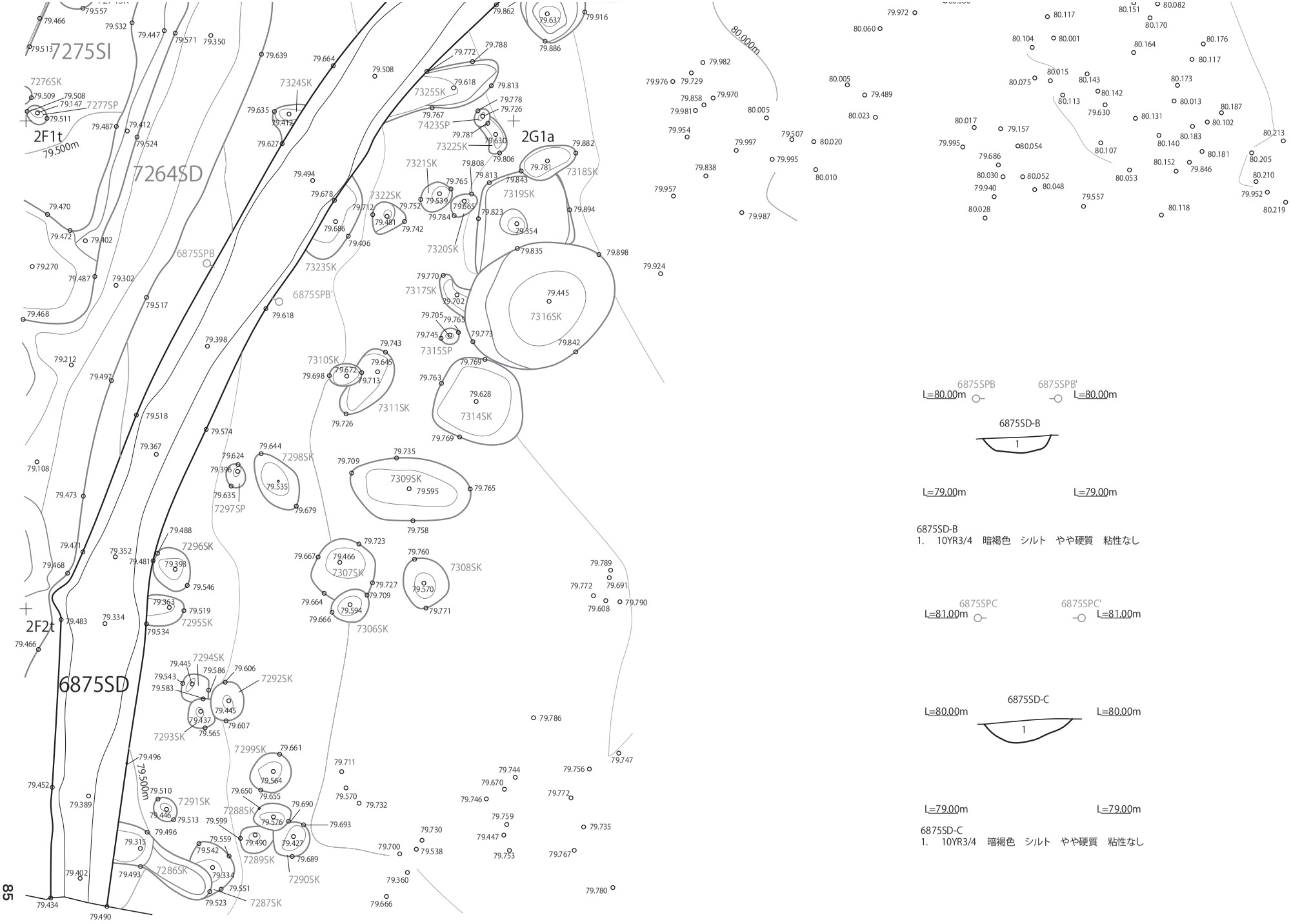


図 2-71　09 区 6875SD 遺構平面図・土層断面図（1:50）

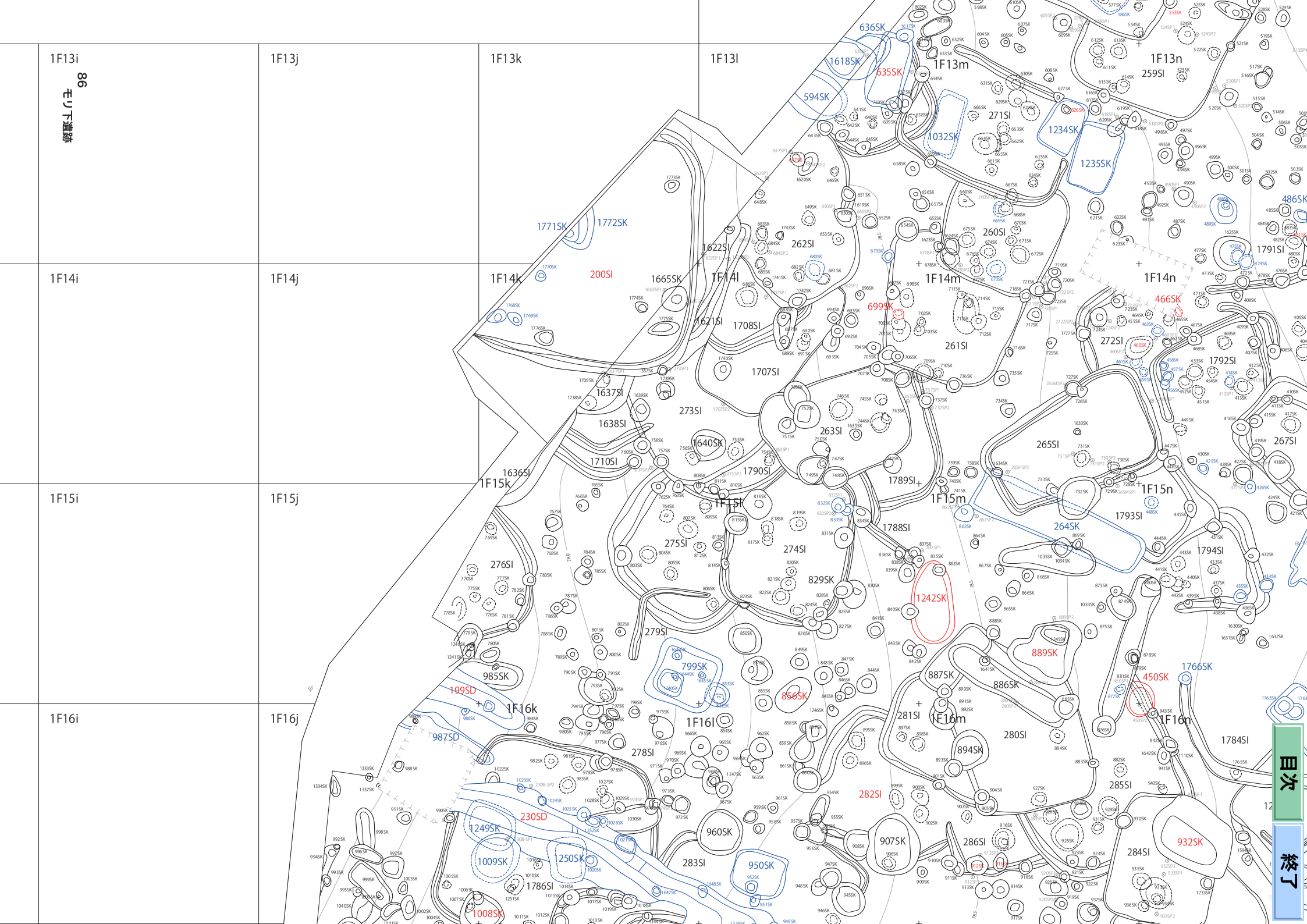


6875SD-B
1. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし

6875SD-C
1. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや硬質 粘性なし

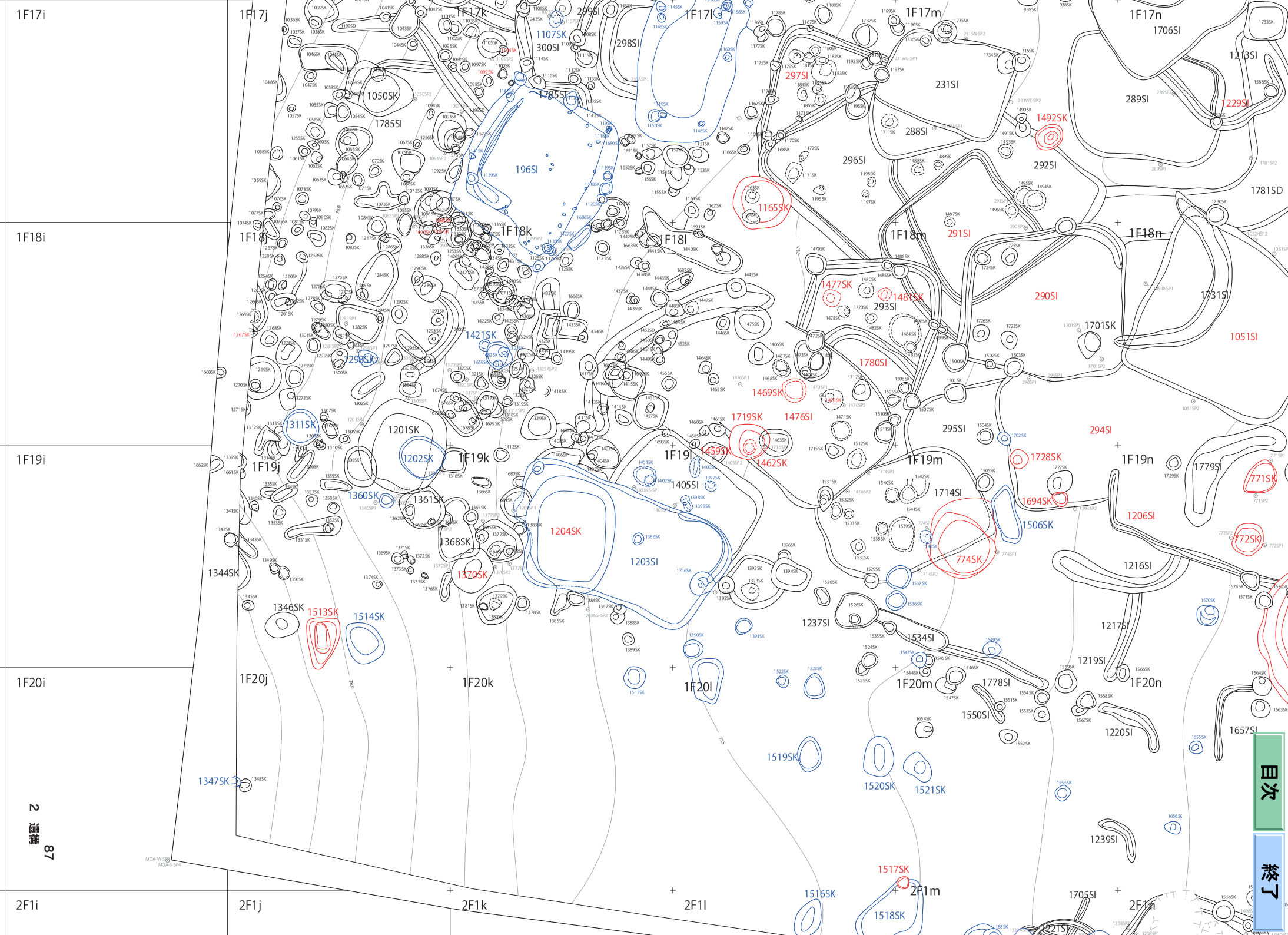
目次

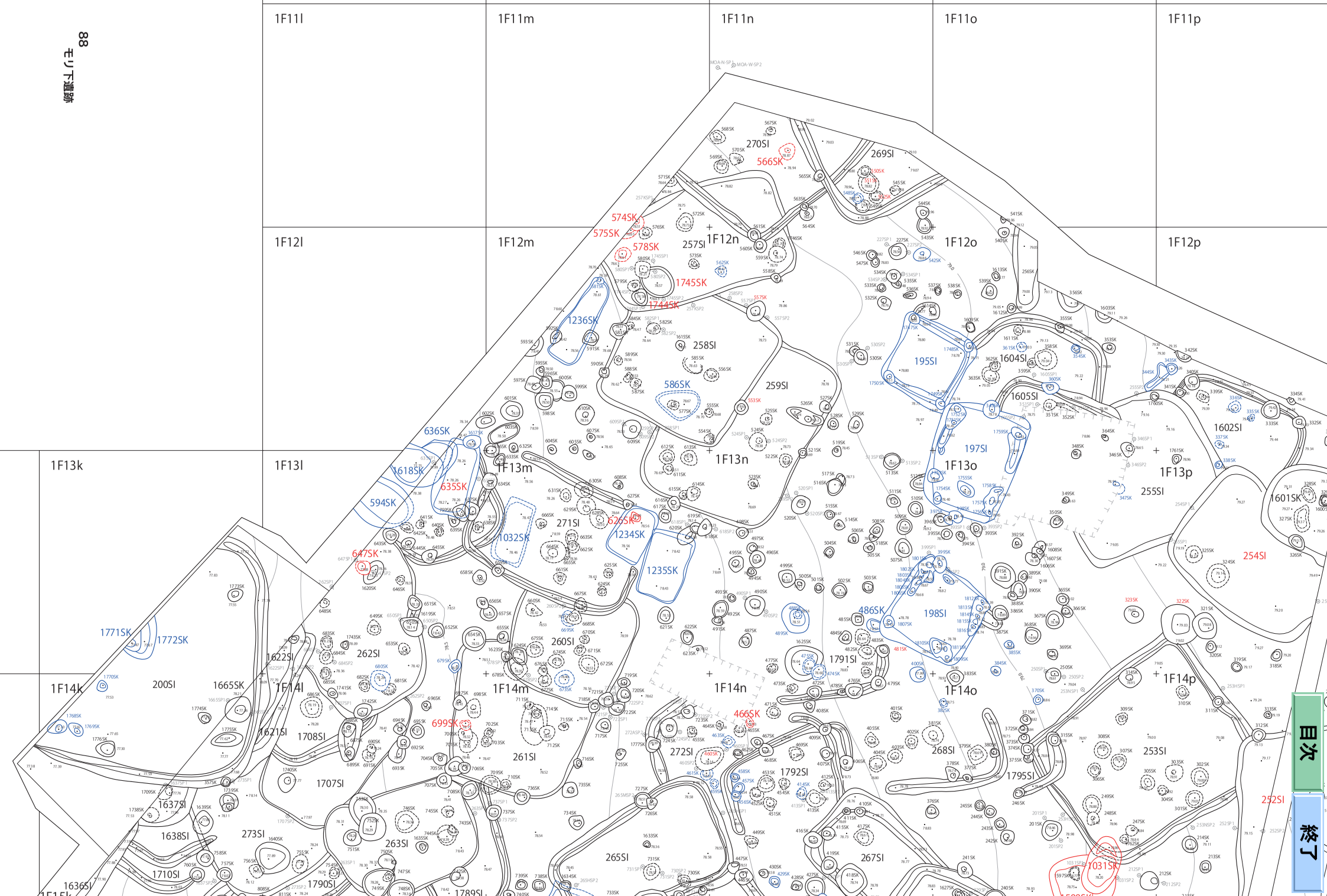
終了

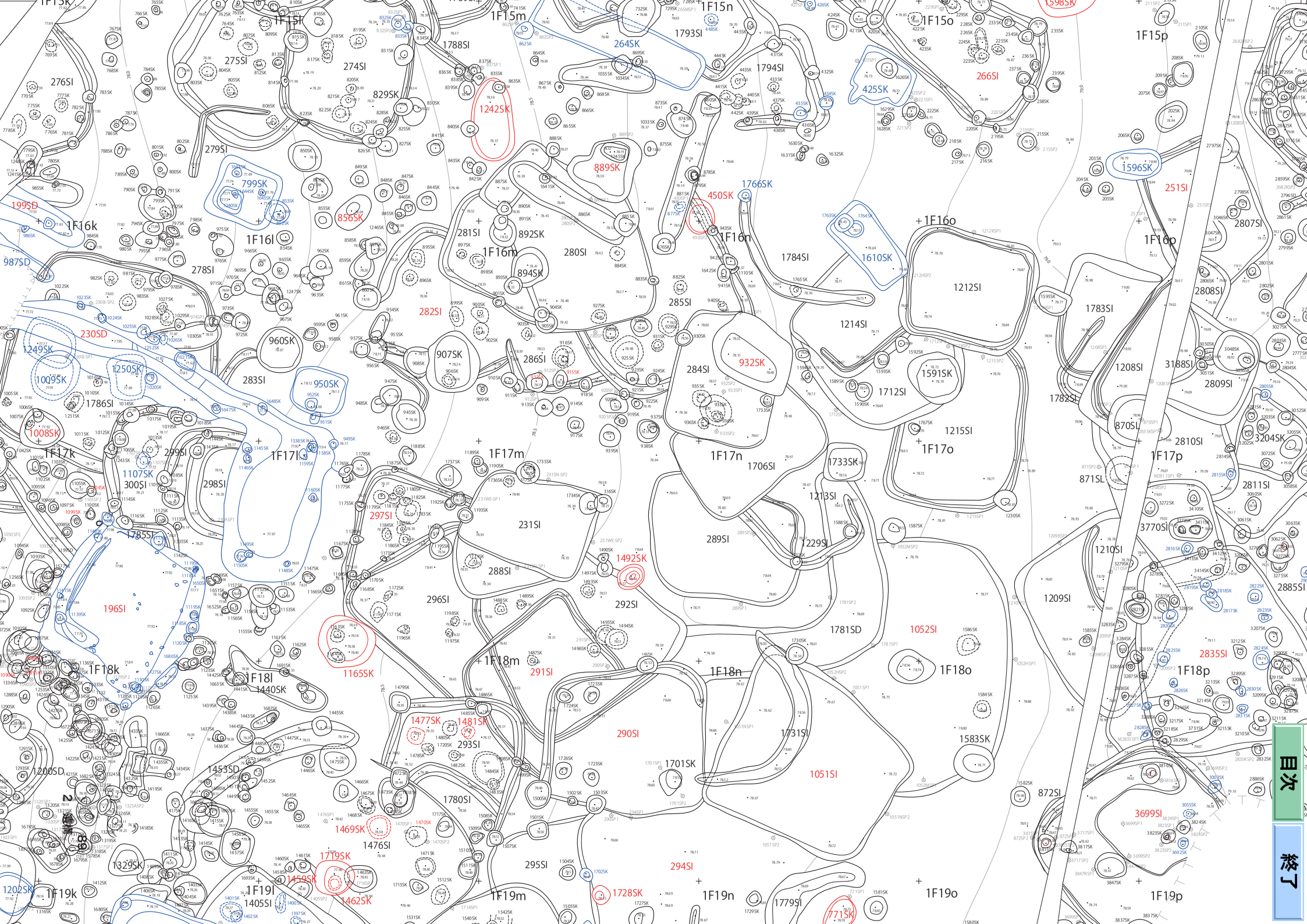

1F13i
1F13j
1F13k
1F13l
1F13m
1F13n
1F14i
1F14j
1F14k
1F14l
1F14m
1F14n
1F15i
1F15j
1F15k
1F15l
1F15m
1F15n
1F16i
1F16j
1F16k
1F16l
1F16m
1F16n
636SK
1618SK
635SK
594SK
1032SK
1234SK
1235SK
271SI
259SI
260SI
486SK
1791SI
1771SK
1772SK
262SI
1622SI
200SI
1665SK
1621SI
1708SI
1707SI
699SK
261SI
466SK
272SI
1792SI
1637SI
273SI
1638SI
263SI
1640SK
265SI
267SI
1710SI
1636SI
1790SI
1789SI
1793SI
264SK
275SI
274SI
1788SI
1794SI
276SI
829SK
1242SK
279SI
889SK
799SK
985SK
199SD
856SK
887SK
886SK
450SK
1766SK
987SD
278SI
281SI
894SK
280SI
1784SI
282SI
285SI
1249SK
230SD
960SK
907SK
286SI
284SI
932SK
1009SK
1250SK
283SI
950SK
1786SI
1008SK

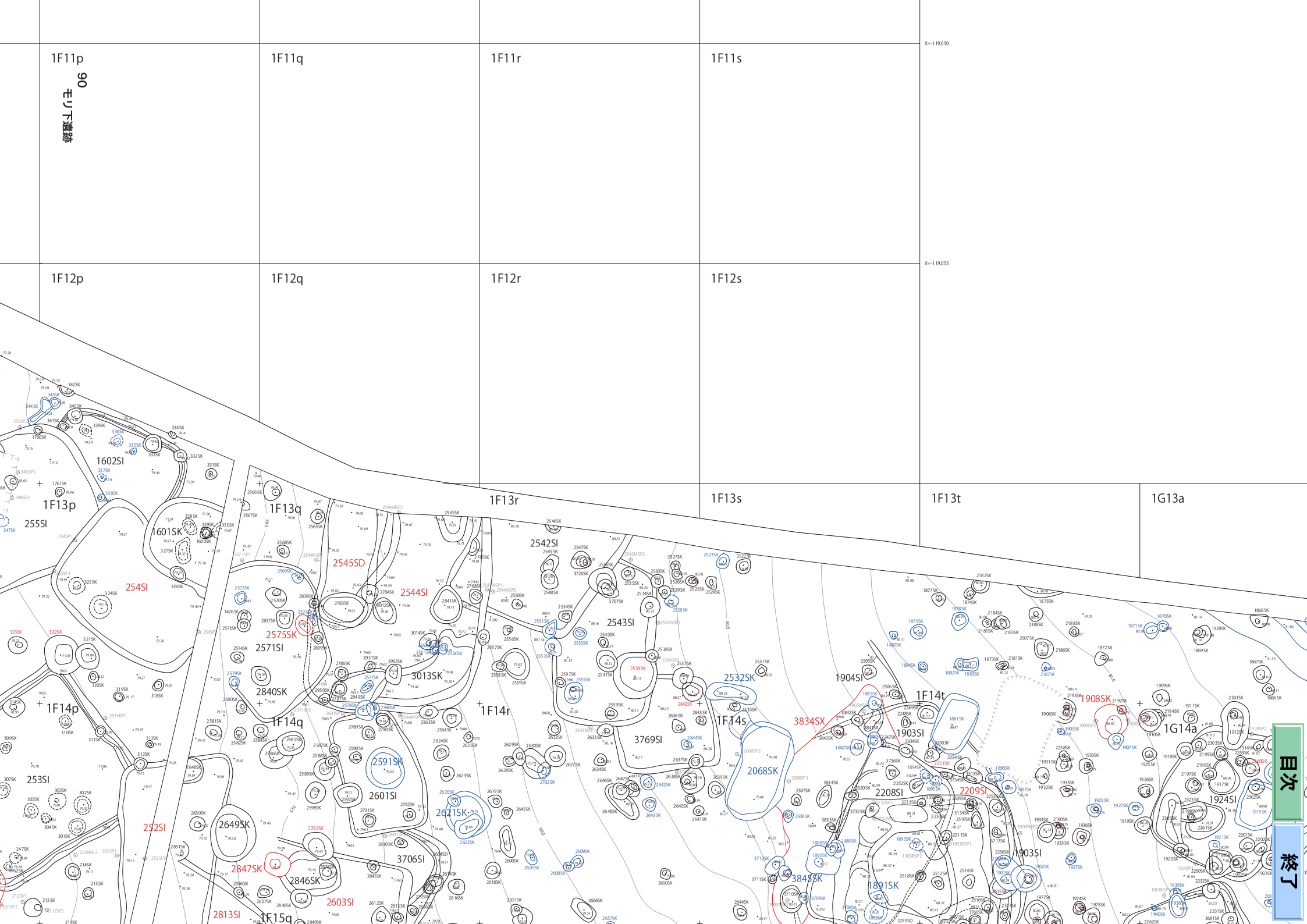
目次

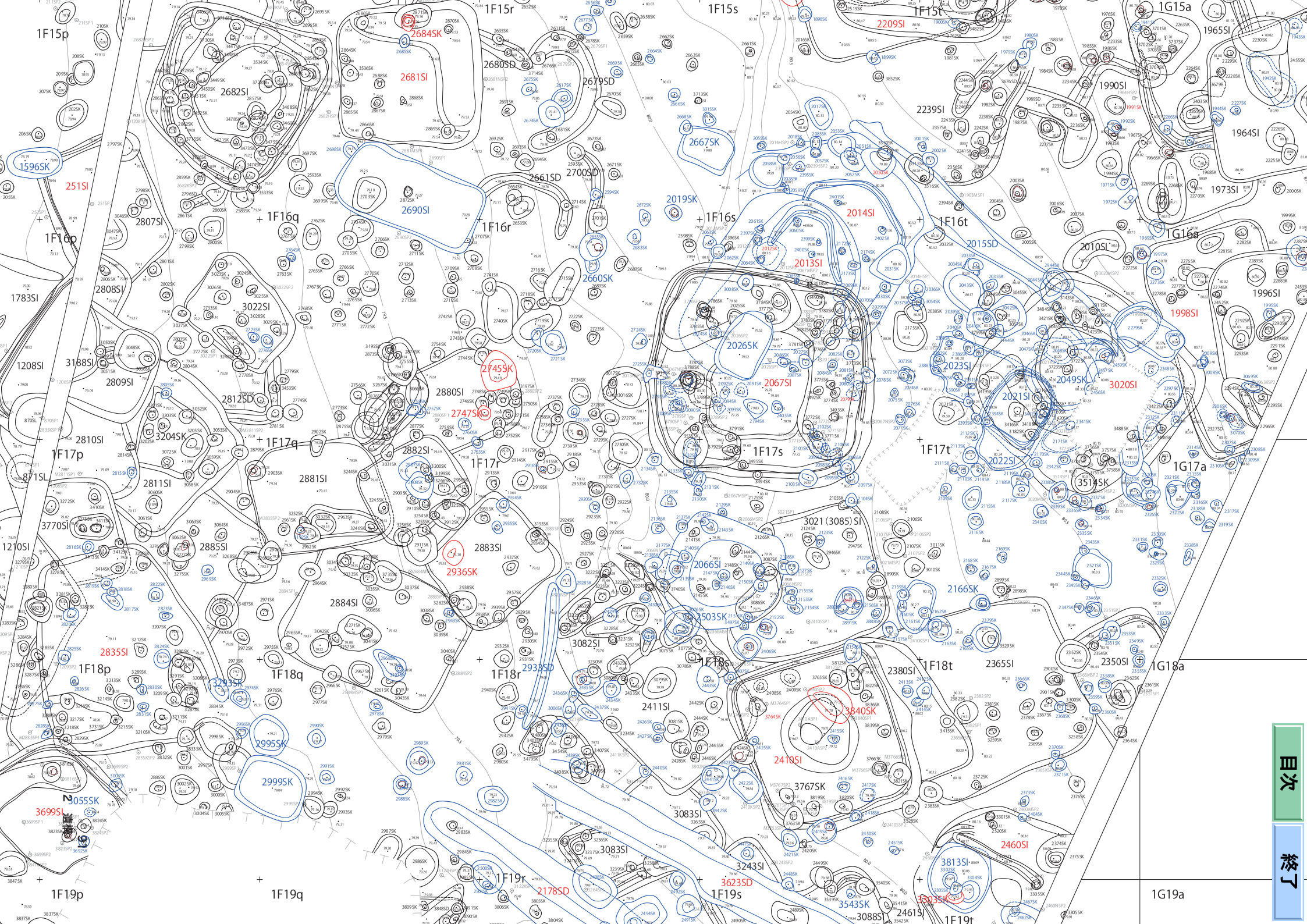
終了

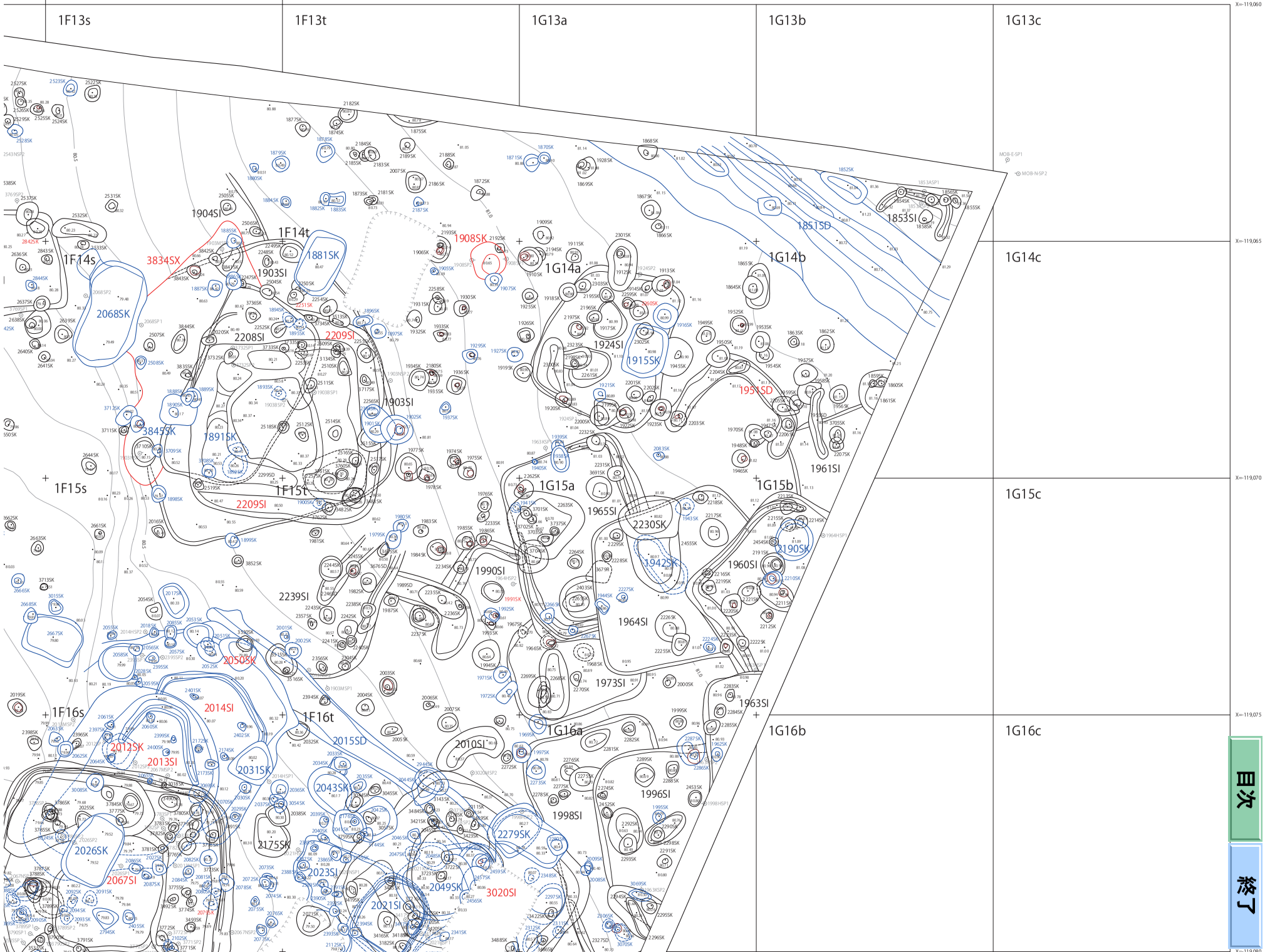

1F17i
1F17j
1F17k
1F17l
1F17m
1F17n
1F18i
1F18j
1F18k
1F18l
1F18m
1F18n
1F19i
1F19j
1F19k
1F19l
1F19m
1F19n
1F20i
1F20j
1F20k
1F20l
1F20m
1F20n
2F1i
2F1j
2F1k
2F1l
2F1m
2F1n
1107SK
300SI
298SI
299SI
1785SI
1050SK
196SI
297SI
231SI
288SI
296SI
292SI
289SI
1229SI
1492SK
1706SI
1213SI
1781SD
1165SK
291SI
1477SK
1481SK
293SI
290SI
1731SI
1701SK
1051SI
1421SK
1298SK
1780SI
1469SK
1311SK
1201SK
1202SK
1719SK
1476SI
1459SK
1462SK
295SI
294SI
1728SK
1694SK
1779SI
771SK
1360SK
1361SK
1405SI
1714SI
1506SK
1206SI
772SK
1204SK
1368SK
1370SK
1203SI
774SK
1216SI
1344SK
1346SK
1513SK
1514SK
1237SI
1534SI
1217SI
1219SI
1778SI
1550SI
1220SI
1657SI
1519SK
1520SK
1521SK
1347SK
1239SI
1517SK
1516SK
1518SK
1705SI
1221SI
目次
終了


1F11l
1F11m
1F11n
1F11o
1F11p
1F12l
1F12m
1F12n
1F12o
1F12p
1F13k
1F13l
1F13m
1F13n
1F13o
1F13p
1F14k
1F14l
1F14m
1F14n
1F14o
1F14p
270SI
269SI
257SI
258SI
259SI
195SI
1604SI
1605SI
1602SI
197SI
255SI
1601SK
254SI
252SI
253SI
268SI
1795SI
1792SI
1791SI
198SI
486SK
466SK
272SI
261SI
260SI
271SI
262SI
1622SI
1621SI
1708SI
1707SI
1637SI
1638SI
273SI
263SI
265SI
267SI
1710SI
1790SI
1789SI
1636SI
200SI
1665SK
1771SK
1772SK
594SK
636SK
1618SK
635SK
1032SK
647SK
1234SK
1235SK
1236SK
586SK
574SK
575SK
578SK
1745SK
1744SK
566SK
1031SK
699SK
目次
終了

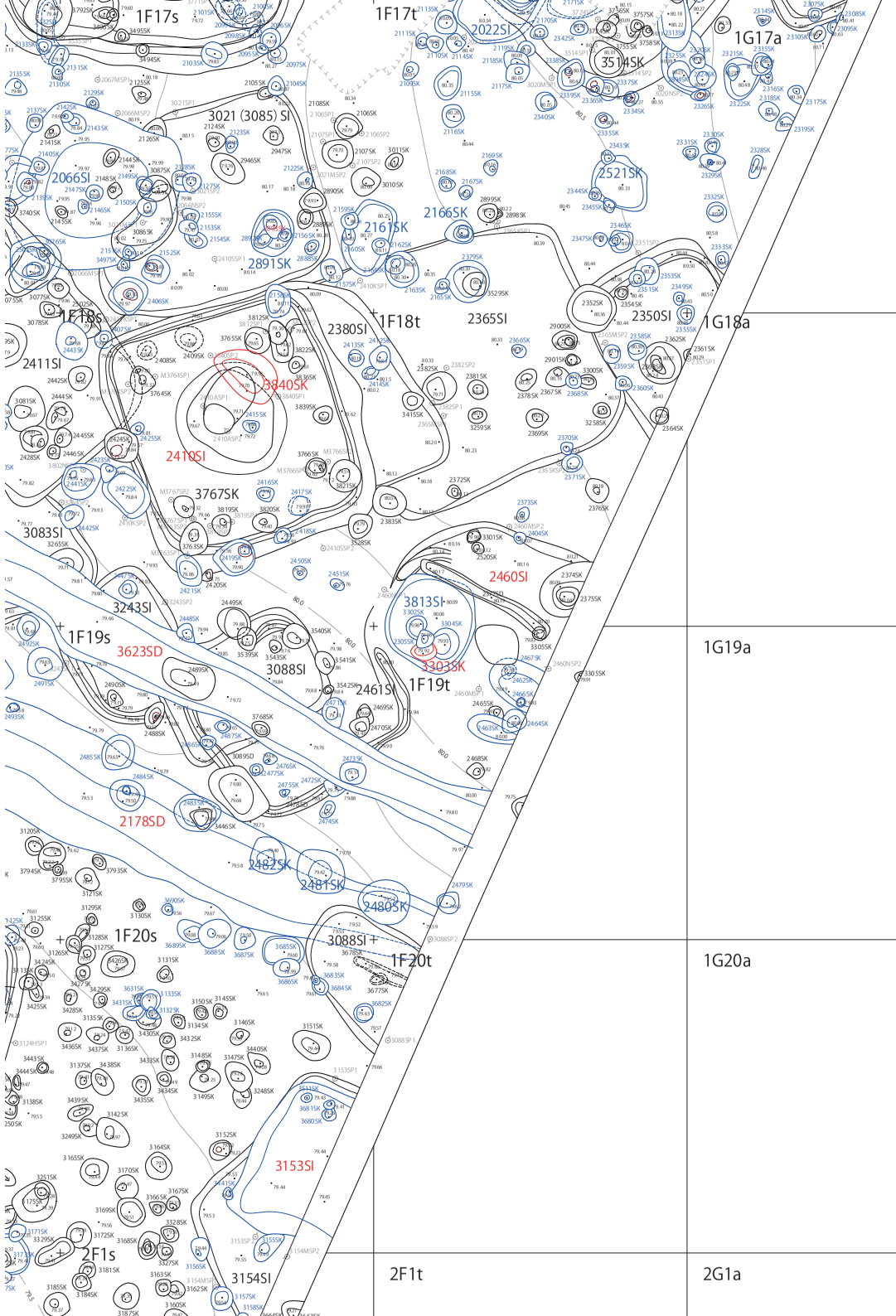

1F15k
1F15l
1F15m
1F15n
1F15o
1F15p
1F16k
1F16l
1F16m
1F16n
1F16o
1F16p
1F17k
1F17l
1F17m
1F17n
1F17o
1F17p
1F18k
1F18l
1F18m
1F18n
1F18o
1F18p
1F19k
1F19l
1F19m
1F19n
1F19o
1F19p
275SI
276SI
274SI
279SI
829SK
1242SK
1788SI
1793SI
264SK
1794SI
425SK
266SI
1598SK
1596SK
251SI
199SD
987SD
799SK
856SK
889SK
450SK
1766SK
1610SK
1784SI
1212SI
1783SI
2807SI
2808SI
2809SI
278SI
281SI
892SK
894SK
280SI
282SI
285SI
1214SI
230SD
1249SK
1250SK
1009SK
960SK
907SK
950SK
283SI
286SI
932SK
284SI
1712SI
1591SK
1208SI
3188SI
1782SI
1786SI
1008SK
1215SI
870SL
2810SI
3204SK
299SI
1107SK
300SI
298SI
1706SI
1733SK
1213SI
871SL
2811SI
1785SI
297SI
231SI
289SI
229SI
3770SI
1210SI
2885SI
196SI
288SI
1492SK
296SI
292SI
1209SI
1781SD
1052SI
2835SI
1165SK
291SI
1440SK
1477SK
1481SK
290SI
1731SI
1583SK
1453SD
293SI
1701SK
1051SI
872SI
3699SI
1200SD
1780SI
1469SK
1476SI
1719SK
1329SK
1459SK
1462SK
295SI
294SI
1202SK
1405SI
1728SK
1779SI
771SK
目次
終了


90
モリ下遺跡
1F11p
1F11q
1F11r
1F11s
X=-119,050
1F12p
1F12q
1F12r
1F12s
X=-119,055
1F13p
1F13q
1F13r
1F13s
1F13t
1G13a
1F14p
1F14q
1F14r
1F14s
1F14t
1G14a
1F15q
1602SI
255SI
1601SK
254SI
2545SD
2544SI
2542SI
2543SI
2575SK
2571SI
2840SK
3013SK
2532SK
3834SX
1904SI
1908SK
1903SI
2068SK
3769SI
2591SK
2601SI
2621SK
253SI
252SI
26495SK
3706SI
2847SK
2846SK
2603SI
2813SI
2208SI
2209SI
1924SI
1891SK
3845SK
目次
終了


1F15p
1F15r
1F15s
1F15t
1G15a
1F16p
1F16q
1F16r
1F16s
1F16t
1G16a
1F17p
1F17q
1F17r
1F17s
1F17t
1G17a
1F18p
1F18q
1F18r
1F18s
1F18t
1G18a
1F19p
1F19q
1F19r
1F19s
1F19t
1G19a
1596SK
251SI
2684SK
2681SI
2682SI
2680SD
2679SD
2667SK
2661SD
2700SD
2690SI
2660SK
2019SK
2014SI
2013SI
2015SD
2239SI
1990SI
1964SI
1965SI
1973SI
1996SI
1998SI
2010SI
1G16a
2807SI
1783SI
2808SI
3022SI
1208SI
3188SI
2809SI
2745SK
2026SK
2067SI
2023SI
2049SK
3020SI
2021SI
2812SD
2880SI
2747SK
2882SI
3204SK
2810SI
871SL
2811SI
2881SI
3770SI
1270SI
2885SI
2883SI
2936SK
2884SI
2066SI
2503SK
3021 (3085) SI
2166SK
3514SK
1G17a
2022SI
2835SI
3293SK
2938SD
3082SI
2411SI
3840SK
2410SI
2380SI
2365SI
2350SI
1G18a
2995SK
2999SK
3055SK
3699SI
3767SK
3083SI
3083SI
2460SI
3813SI
3243SI
3623SD
2178SD
3543SK
3088SI
2461SI
3603SK
目次
終了

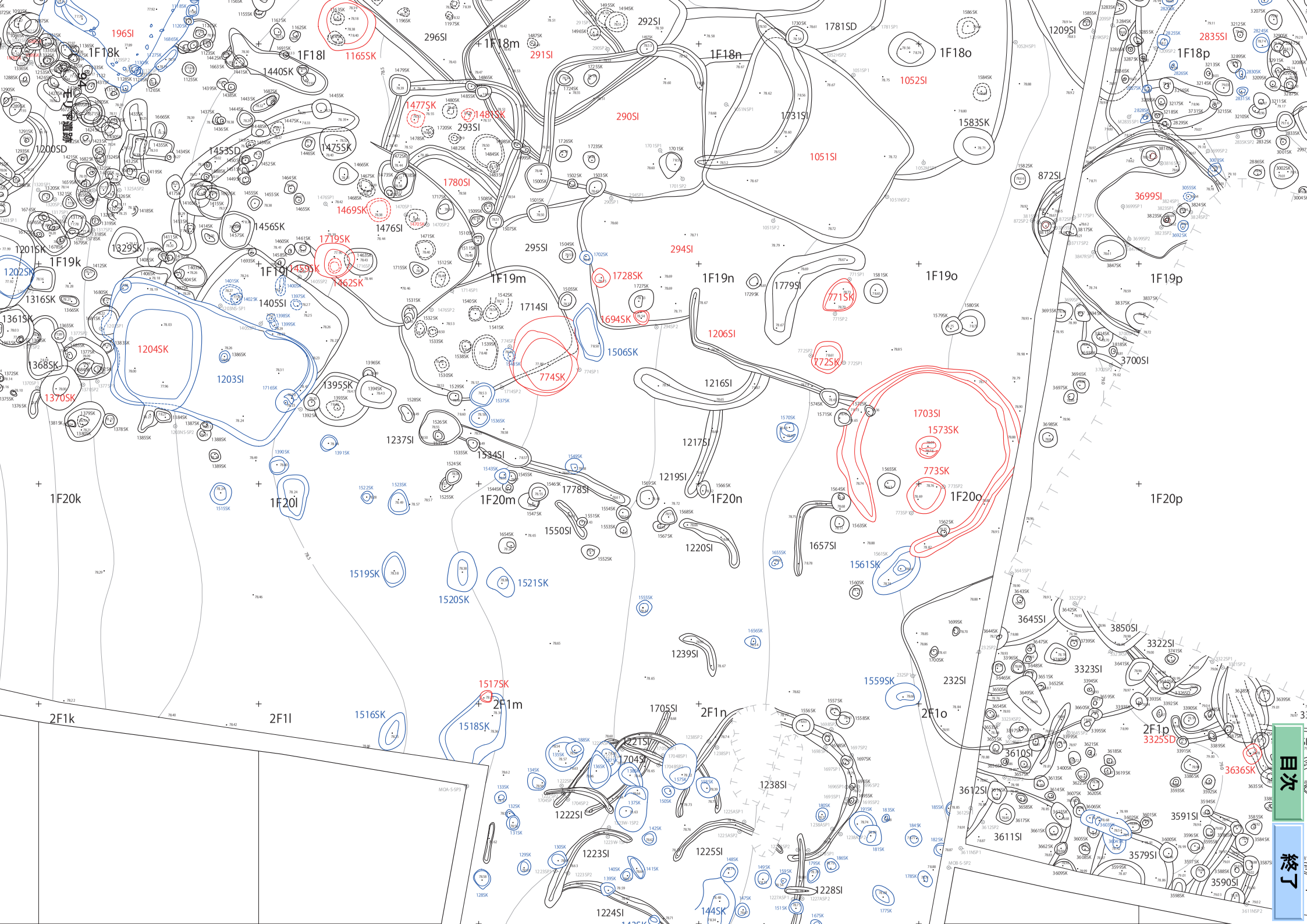

1F13s
1F13t
1G13a
1G13b
1G13c
1G14b
1G14c
1G15b
1G15c
1G16b
1G16c
1F14s
1F14t
1F15s
1F15t
1F16s
1F16t
1G14a
1G15a
1G16a
1904SI
1903SI
1881SK
1908SK
3834SX
2068SK
2208SI
2209SI
1924SI
1915SK
1951SD
1853SI
1851SD
3845SK
1891SK
1961SI
1965SI
2230SK
1942SK
2190SK
1960SI
1990SI
2239SI
1964SI
2050SK
1973SI
1963SI
2014SI
2012SK
2013SI
2015SD
2010SI
2031SK
2043SK
1998SI
1996SI
2279SK
2026SK
2067SI
2175SK
2023SI
2049SK
3020SI
2021SI
X=-119,060
X=-119,065
X=-119,070
X=-119,075
X=-119,080

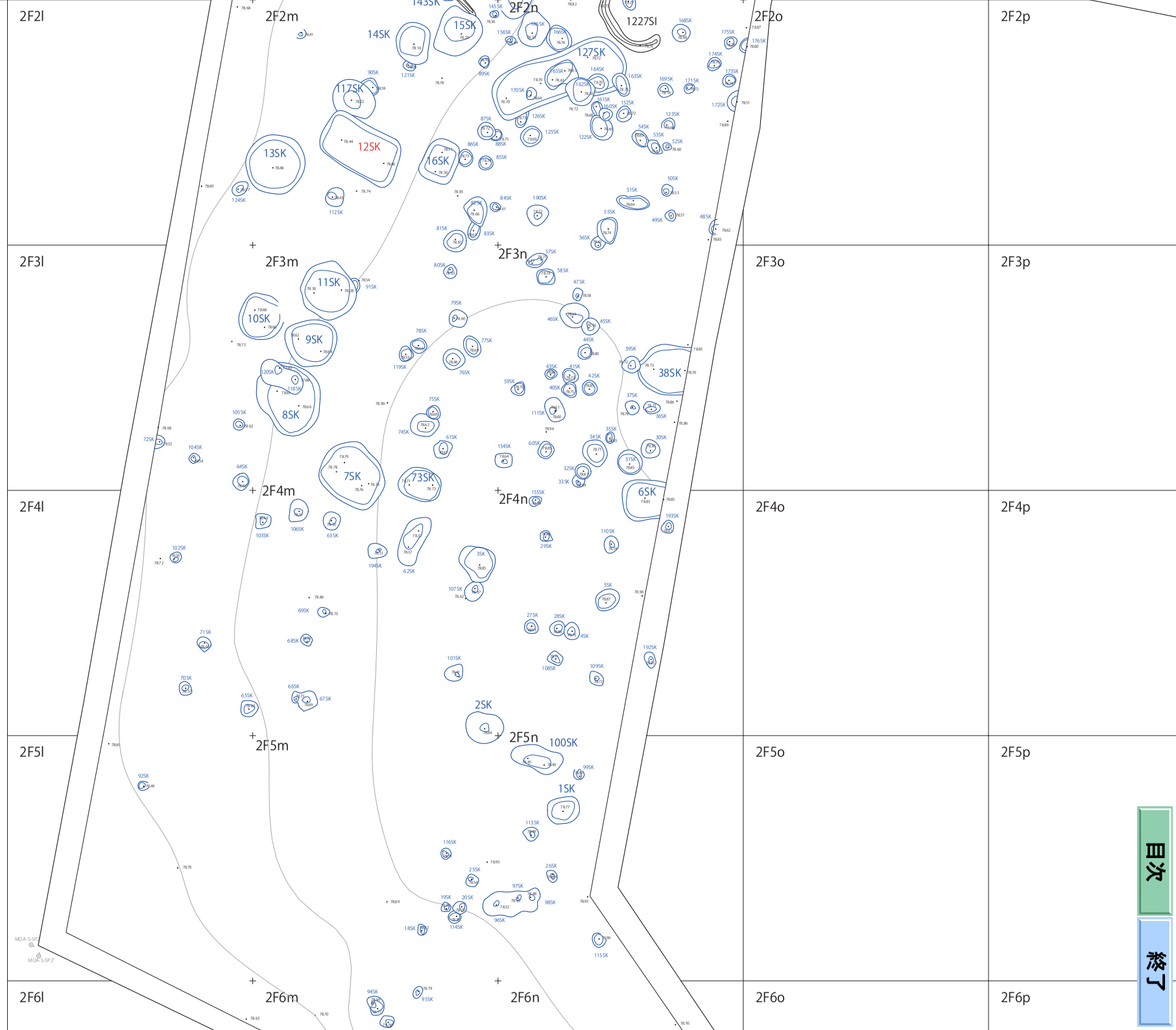
目次
終了



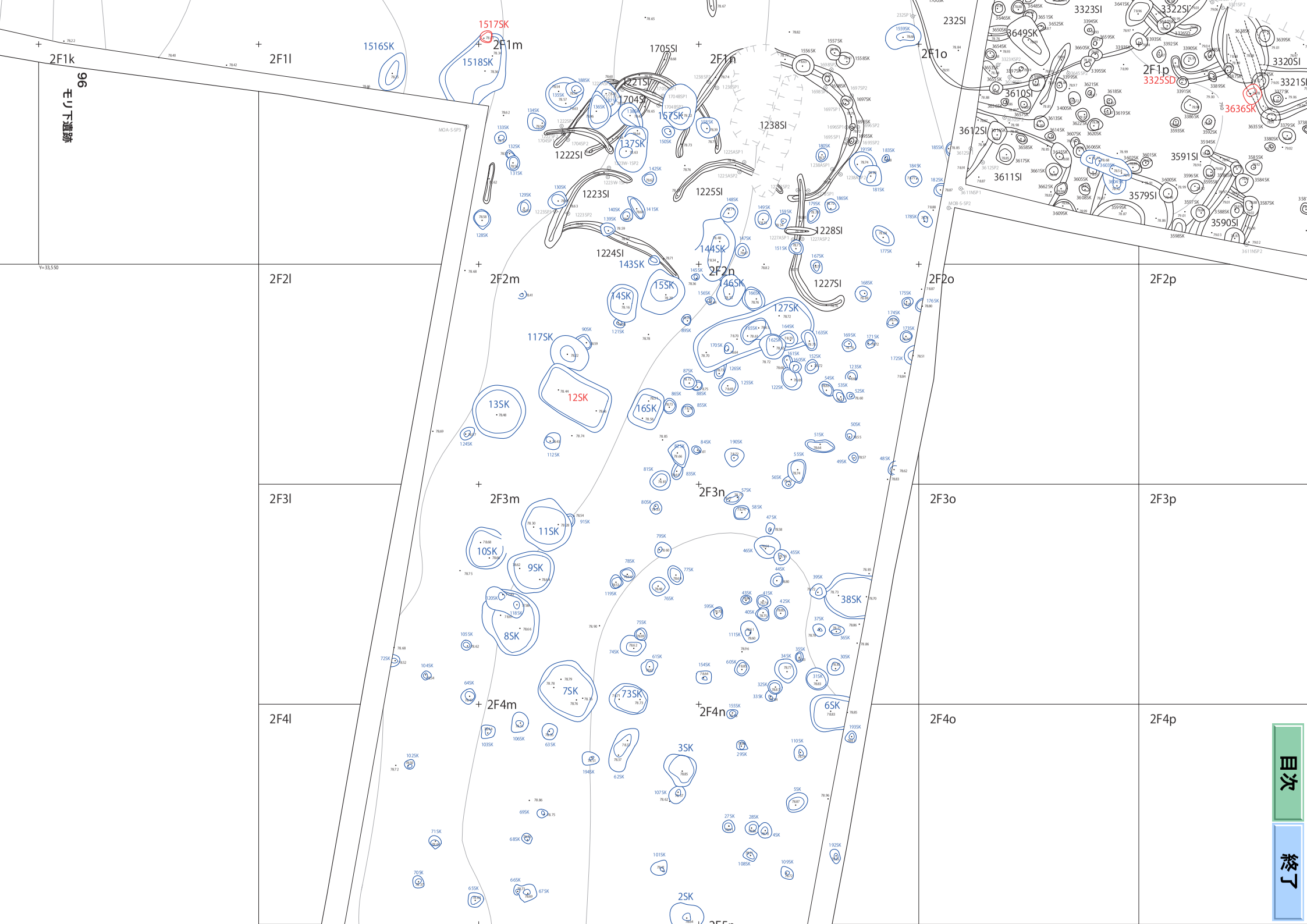
	1G17b	1G17c	X:-119,085
	1G18b	1G18c	
	1G19a	1G19b	1G19c	X:-119,090
	1G20a	1G20b	1G20c	X:-119,095
2F1t	2G1a	2G1b	2G1c

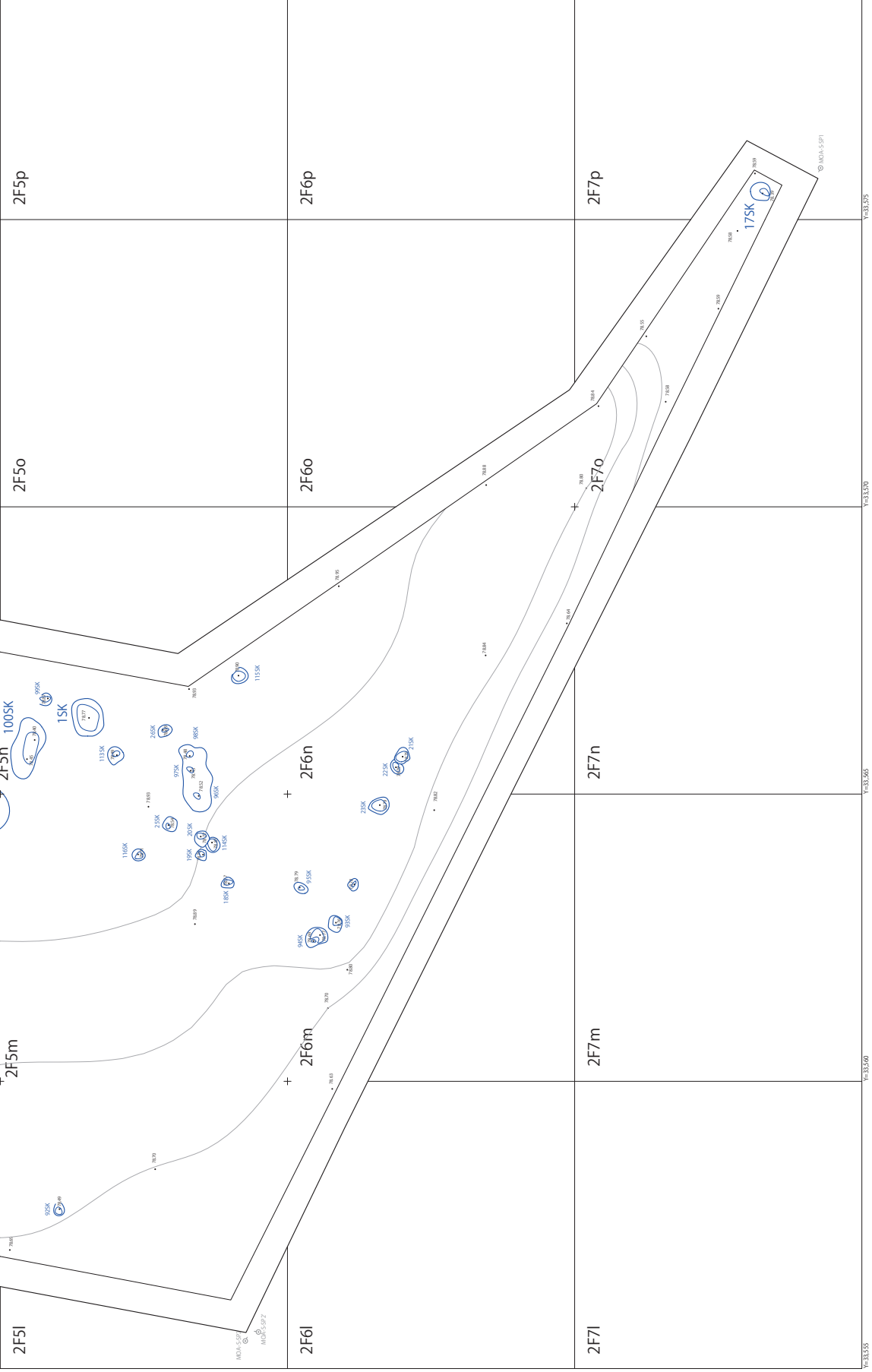
目次
終了

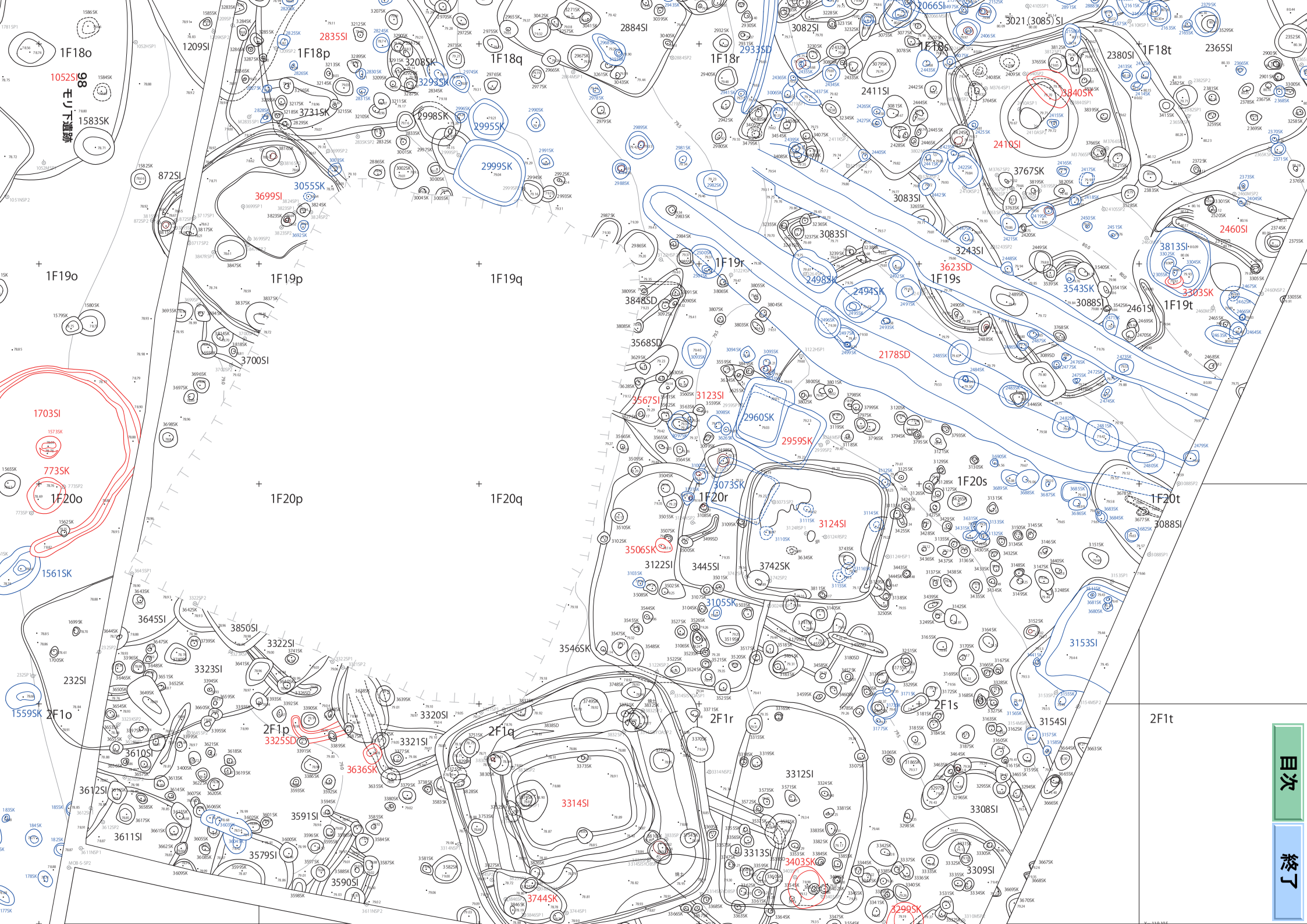

1F18k
1F18l
1F18m
1F18n
1F18o
1F18p
1F19k
1F19l
1F19m
1F19n
1F19o
1F19p
1F20k
1F20l
1F20m
1F20n
1F20o
1F20p
2F1k
2F1l
2F1m
2F1n
2F1o
2F1p
196SI
1165SK
296SI
291SI
292SI
1781SD
1209SI
2835SI
1440SK
1477SK
1481SK
293SI
290SI
1052SI
1731SI
1583SK
1200SD
1453SD
1475SK
1780SI
1051SI
872SI
3699SI
1469SK
1476SI
1456SK
1719SK
1329SK
295SI
294SI
1201SK
1202SK
1459SK
1462SK
1728SK
1779SI
771SK
1316SK
1405SI
1714SI
1694SK
1206SI
1506SK
1361SK
1204SK
1203SI
774SK
1216SI
772SK
3700SI
1368SK
1370SK
1395SK
1237SI
1534SI
1217SI
1703SI
1573SK
1219SI
1778SI
773SK
1550SI
1220SI
1657SI
1561SK
1519SK
1520SK
1521SK
1239SI
1559SK
232SI
3645SI
3850SI
3322SI
3323SI
1517SK
1516SK
1518SK
1705SI
1221SI
1704SI
1238SI
3610SI
3636SK
3612SI
3591SI
1222SI
1223SI
1225SI
3611SI
3579SI
1228SI
1224SI
144SK
3590SI
目次
終了

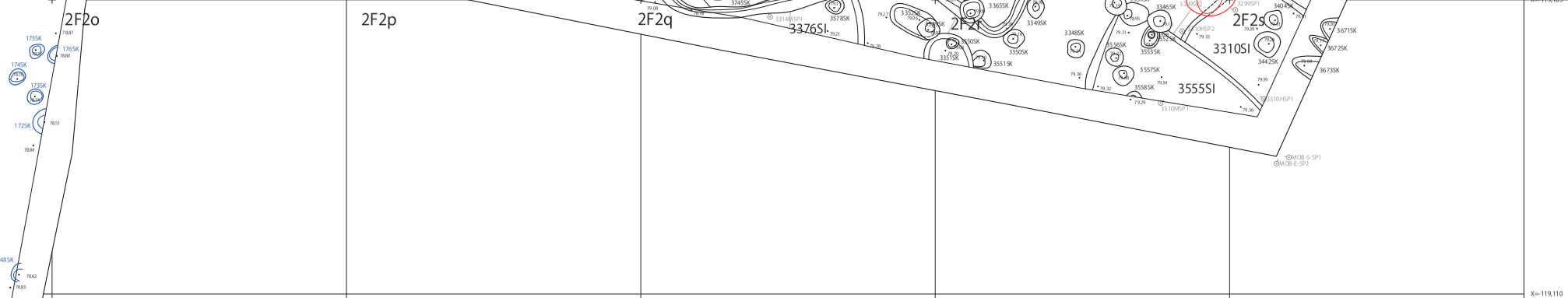

Y=33,550
2F2l
2F2m
2F2n
2F2o
2F2p
2F3l
2F3m
2F3n
2F3o
2F3p
2F4l
2F4m
2F4n
2F4o
2F4p
2F5l
2F5m
2F5n
2F5o
2F5p
2F6l
2F6m
2F6n
2F6o
2F6p
1227SI
127SK
143SK
15SK
14SK
117SK
12SK
13SK
16SK
11SK
10SK
9SK
8SK
7SK
73SK
38SK
6SK
2SK
100SK
1SK
MOA-S-SP1
MOA-S-SP2

目次
終了


96
モリ下遺跡
2F1k
2F1l
2F1m
2F1n
2F1o
2F1p
2F2l
2F2m
2F2n
2F2o
2F2p
2F3l
2F3m
2F3n
2F3o
2F3p
2F4l
2F4m
2F4n
2F4o
2F4p
1517SK
1516SK
1518SK
1705SI
1704SI
1221SI
157SK
137SK
1222SI
1223SI
1224SI
1225SI
1238SI
1228SI
1227SI
144SK
143SK
146SK
15SK
14SK
127SK
117SK
12SK
13SK
16SK
11SK
10SK
9SK
8SK
7SK
73SK
38SK
6SK
3SK
2SK
232SI
3649SK
3323SI
3322SI
3320SI
3321SI
2F1p
3325SD
3636SK
3610SI
3612SI
3611SI
3591SI
3579SI
3590SI
目次
終了


2F5p
2F6p
2F7p
2F5o
2F6o
2F7o
2F5n
2F6n
2F7n
2F5m
2F6m
2F7m
2F5l
2F6l
2F7l
100SK
1SK
175K
MOA-S-SP1
MOA-S-SP2
MOA-S-SP3
Y=33,575
Y=33,570
Y=33,565
Y=33,560
Y=33,555


98
モリ下遺跡
1F18o
1F18p
1F18q
1F18r
1F18s
1F18t
1F19o
1F19p
1F19q
1F19r
1F19s
1F19t
1F20o
1F20p
1F20q
1F20r
1F20s
1F20t
2F1o
2F1p
2F1q
2F1r
2F1s
2F1t
1052SI
1209SI
2835SI
2884SI
3082SI
3021(3085)SI
2380SI
2365SI
2411SI
2410SI
3767SK
3840SK
1583SK
872SI
3699SI
3055SK
3083SI
3243SI
3623SD
2460SI
3813SI
3303SK
3543SK
3088S
2461SI
2178SD
3848SD
3568SD
3700SI
1703SI
773SK
1561SK
1559SK
3567SI
3123SI
2960SK
2959SK
3073SK
3124SI
3506SK
3122SI
3445SI
3742SK
3105SK
3088SI
3153SI
3154SI
3546SK
3645SI
3850SI
3322SI
3323SI
232SI
3325SD
3636SK
3320SI
3321SI
3610SI
3612SI
3611SI
3591SI
3579SI
3590SI
3744SK
3314SI
3312SI
3308SI
3313SI
3403SK
3309SI
3299SK
目次
終了



	2F2o	2F2p	2F2q	2F2r	2F2s
	2F3o	2F3p	2F3q	2F3r	2F3s
	2F4o	2F4p	2F4q	2F4r	2F4s
	2F5o	2F5p	2F5q	2F5r	2F5s
	2F6o	2F6p	2F6q	2F6r	2F6s

X=-119,110

X=-119,115

X=-119,120

X=-119,125

目次
終了

100

モリ下遺跡

1F16s

1F16t

1F17s

1F17t

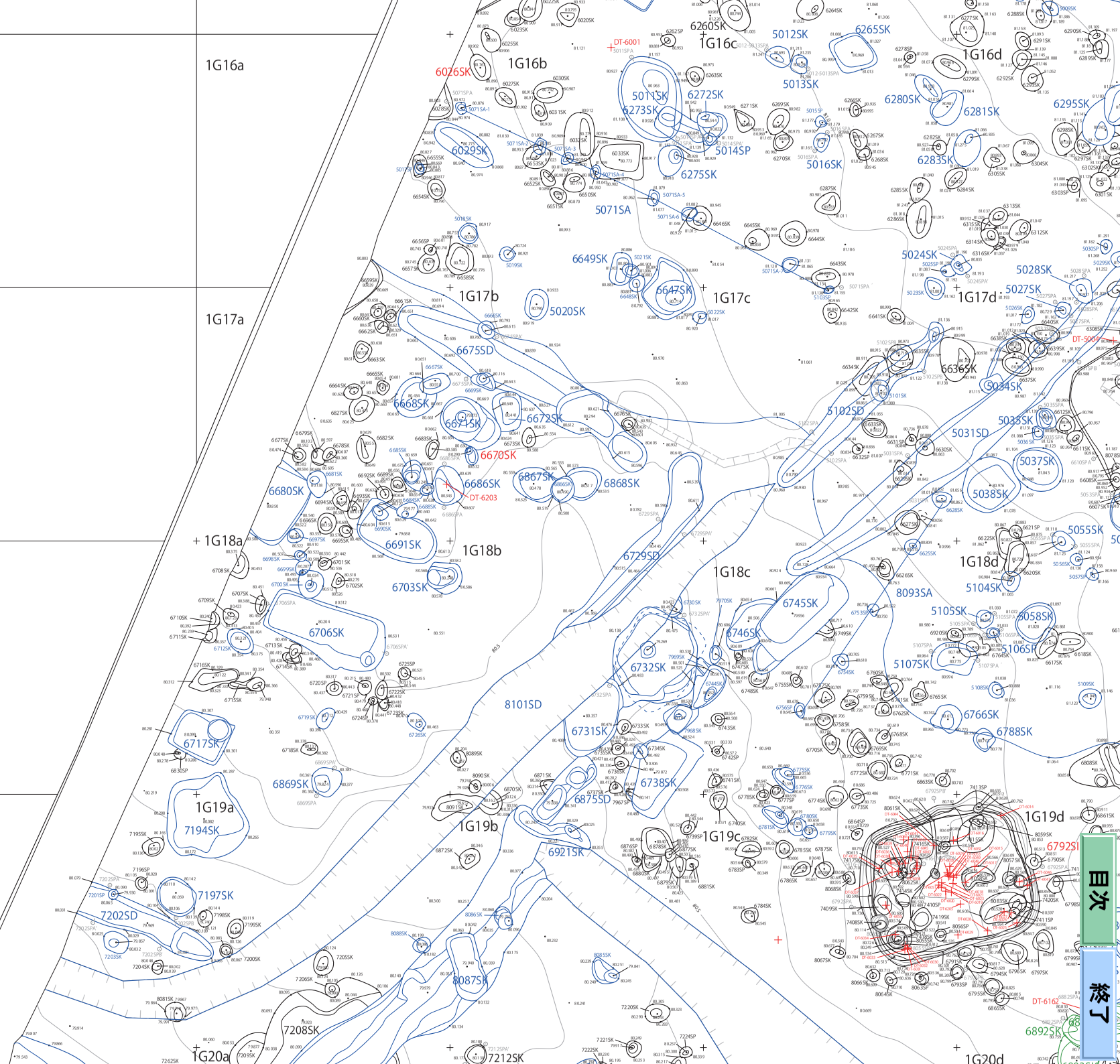
1F18s

1F18t

1F19s

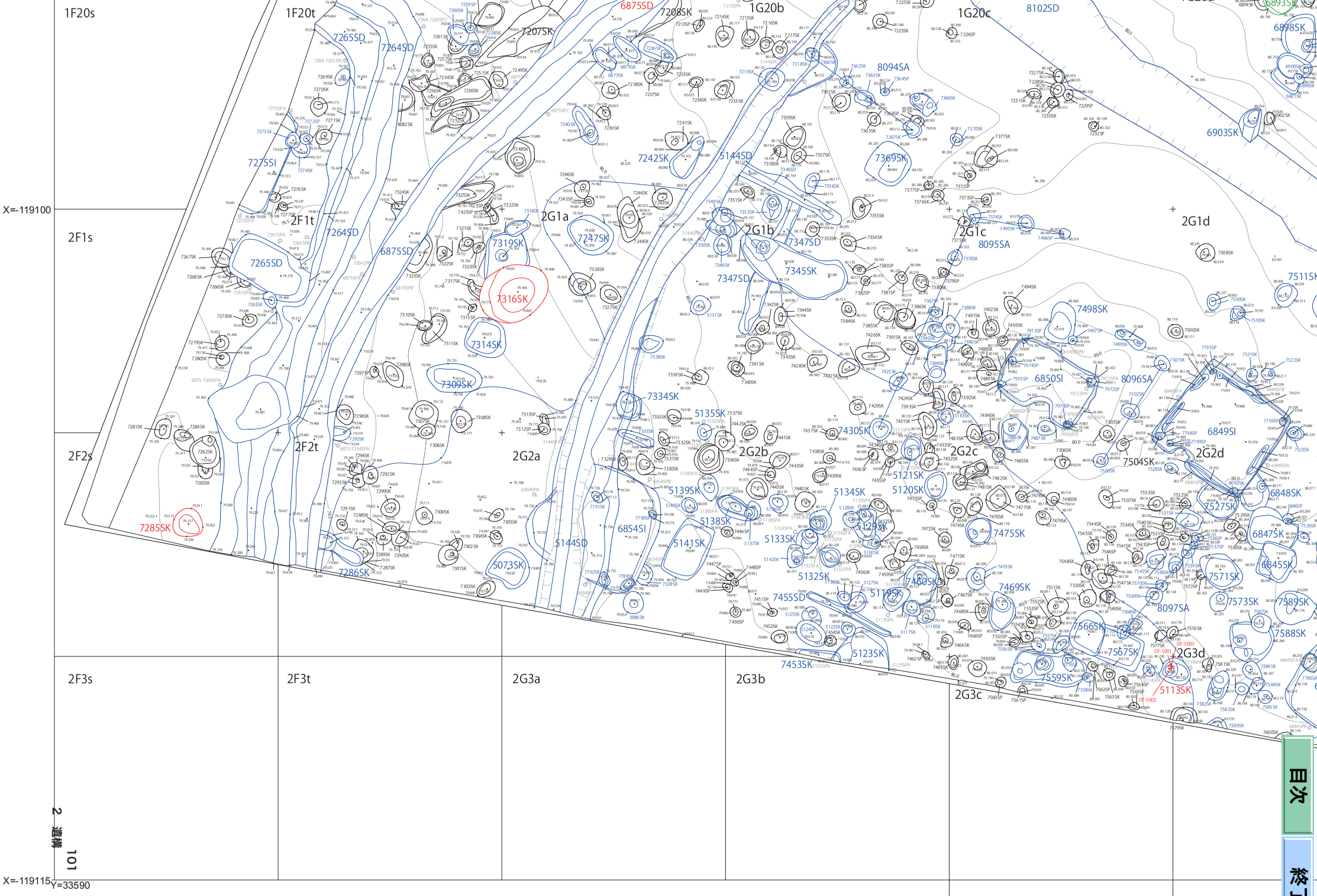
1F19t

X=-119085



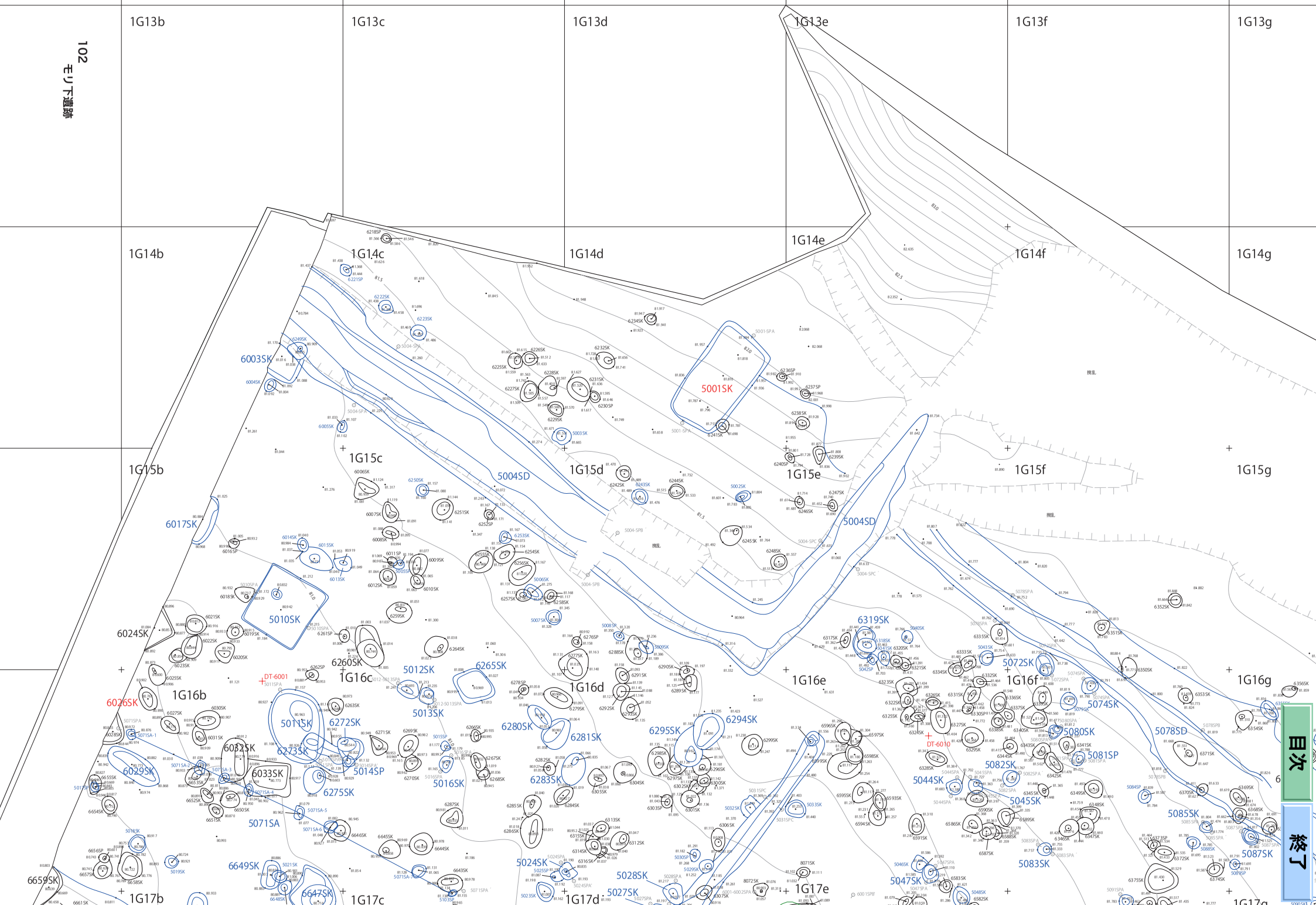
目次

終了


1F20s
1F20t
1G20b
1G20c
2F1s
2F1t
2G1a
2G1b
2G1c
2G1d
2F2s
2F2t
2G2a
2G2b
2G2c
2G2d
2F3s
2F3t
2G3a
2G3b
2G3c
2G3d
2G4c
2G4d
X=-119100
X=-119115
Y=33590
6875SD
7208SK
7265SD
7264SD
7207SK
8102SD
6893SK
6898SK
8094SA
6903SK
7275SI
7242SK
5144SD
7369SK
7319SK
7316SK
7247SK
7347SD
7345SK
8095SA
7511SK
7498SK
7314SK
7309SK
7334SK
5135SK
7430SK
6850SI
8096SA
6849SI
7504SK
5121SK
5120SK
5139SK
5134SK
6848SK
7527SK
5138SK
5129SK
7475SK
6847SK
6854SI
5141SK
5133SK
7285SK
7286SK
5073SK
5132SK
7460SK
6845SK
7571SK
7455SD
5119SK
7469SK
8097SA
7573SK
7589SK
7566SK
7588SK
7567SK
7453SK
5123SK
7559SK
5113SK
DF-5001
DF-5002
DF-5003

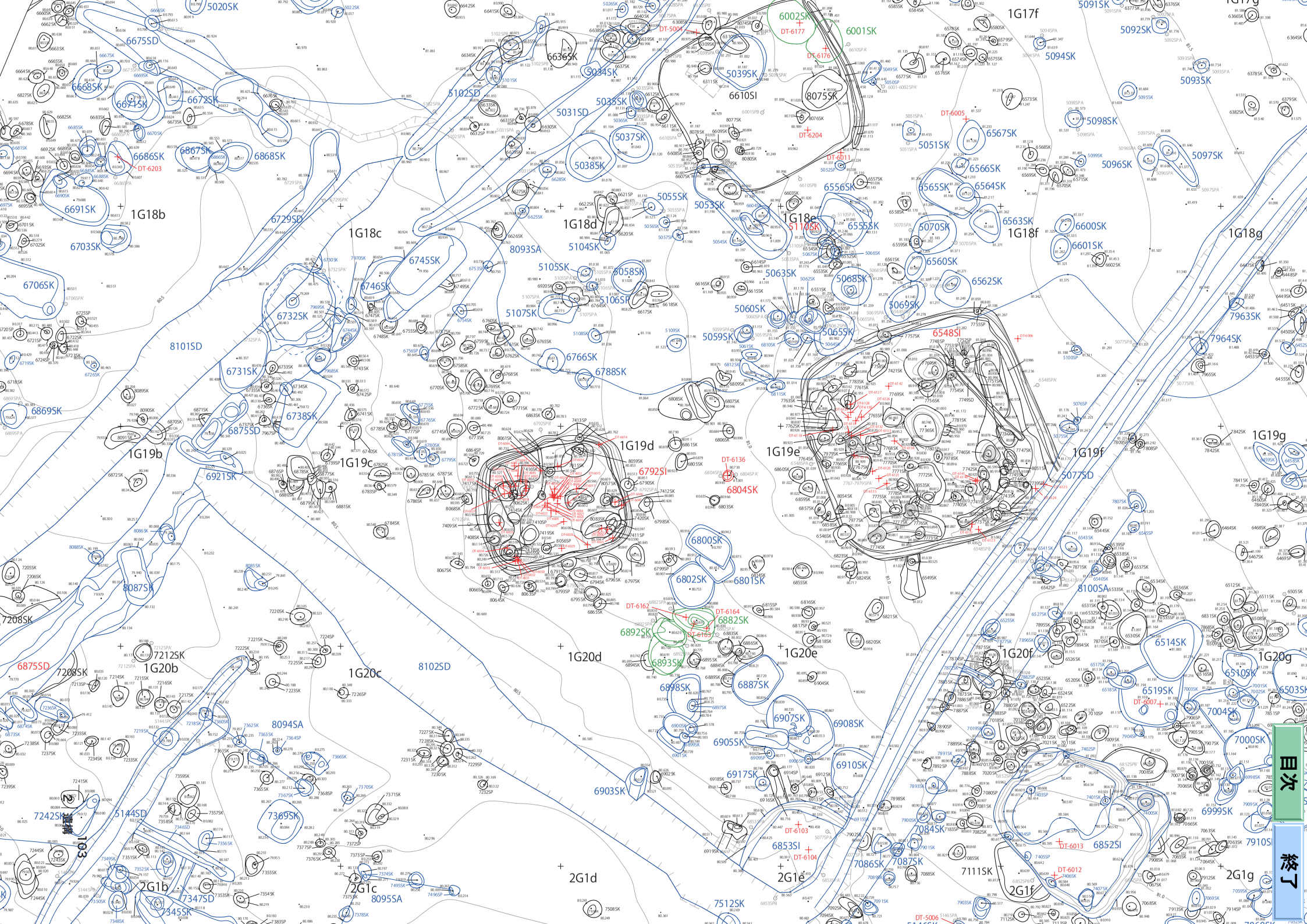
目次

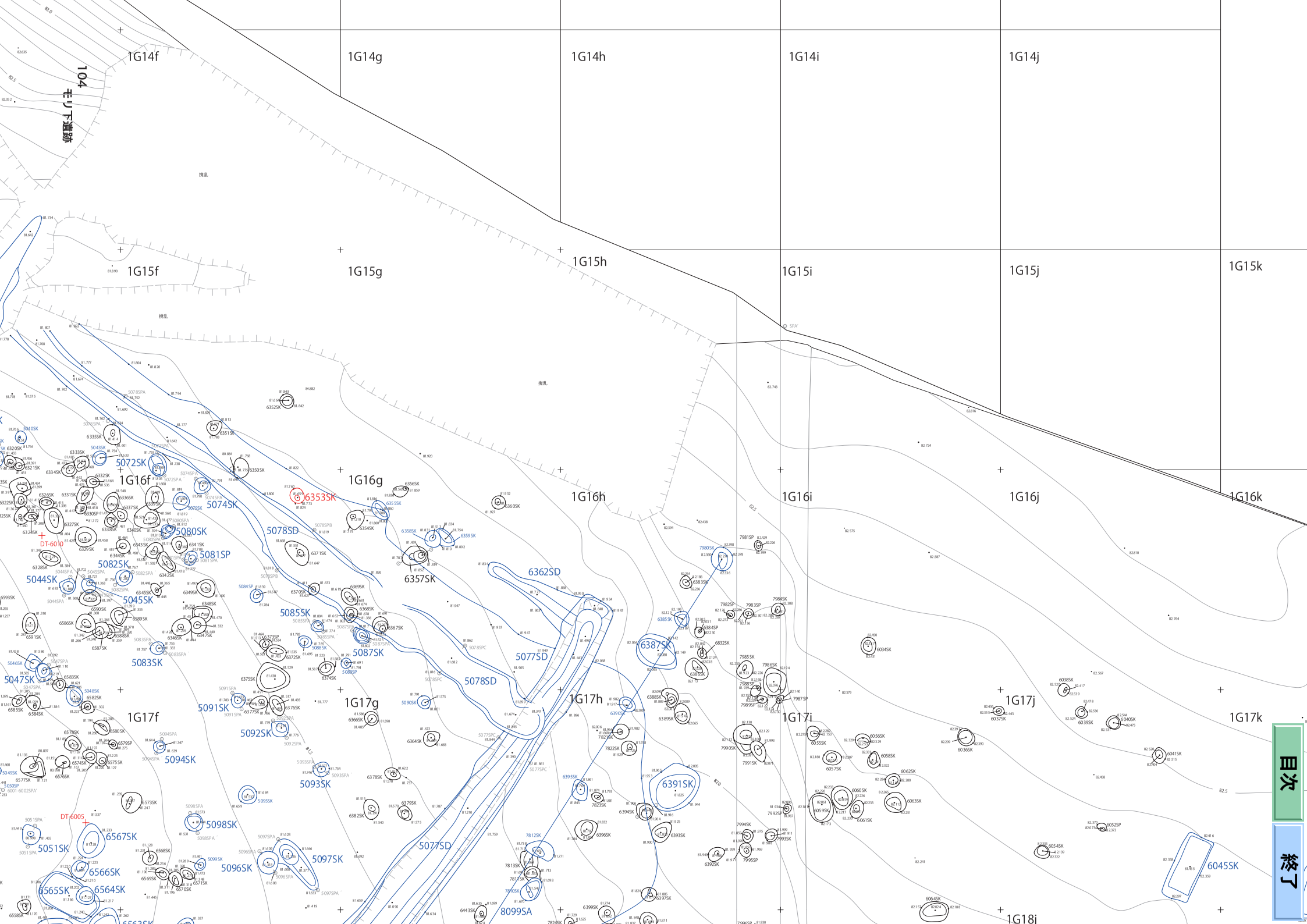
終了


1G13b
1G13c
1G13d
1G13e
1G13f
1G13g
1G14b
1G14c
1G14d
1G14e
1G14f
1G14g
1G15b
1G15c
1G15d
1G15e
1G15f
1G15g
1G16b
1G16c
1G16d
1G16e
1G16f
1G16g
1G17b
1G17c
1G17d
1G17e
1G17g
5001SK
5004SD
6003SK
6017SK
6024SK
6026SK
6059SK
6260SK
6265SK
6272SK
6273SK
6275SK
6280SK
6281SK
6283SK
6294SK
6295SK
6319SK
5010SK
5011SK
5012SK
5013SK
5014SP
5016SK
5071SA
5072SK
5074SK
5078SD
5080SK
5081SP
5082SK
5044SK
5045SK
5083SK
5085SK
5087SK
5024SK
5027SK
5028SK
5047SK
6649SK
6647SK
6659SK
6032SK
6033SK
DT-6001
DT-6010

目次

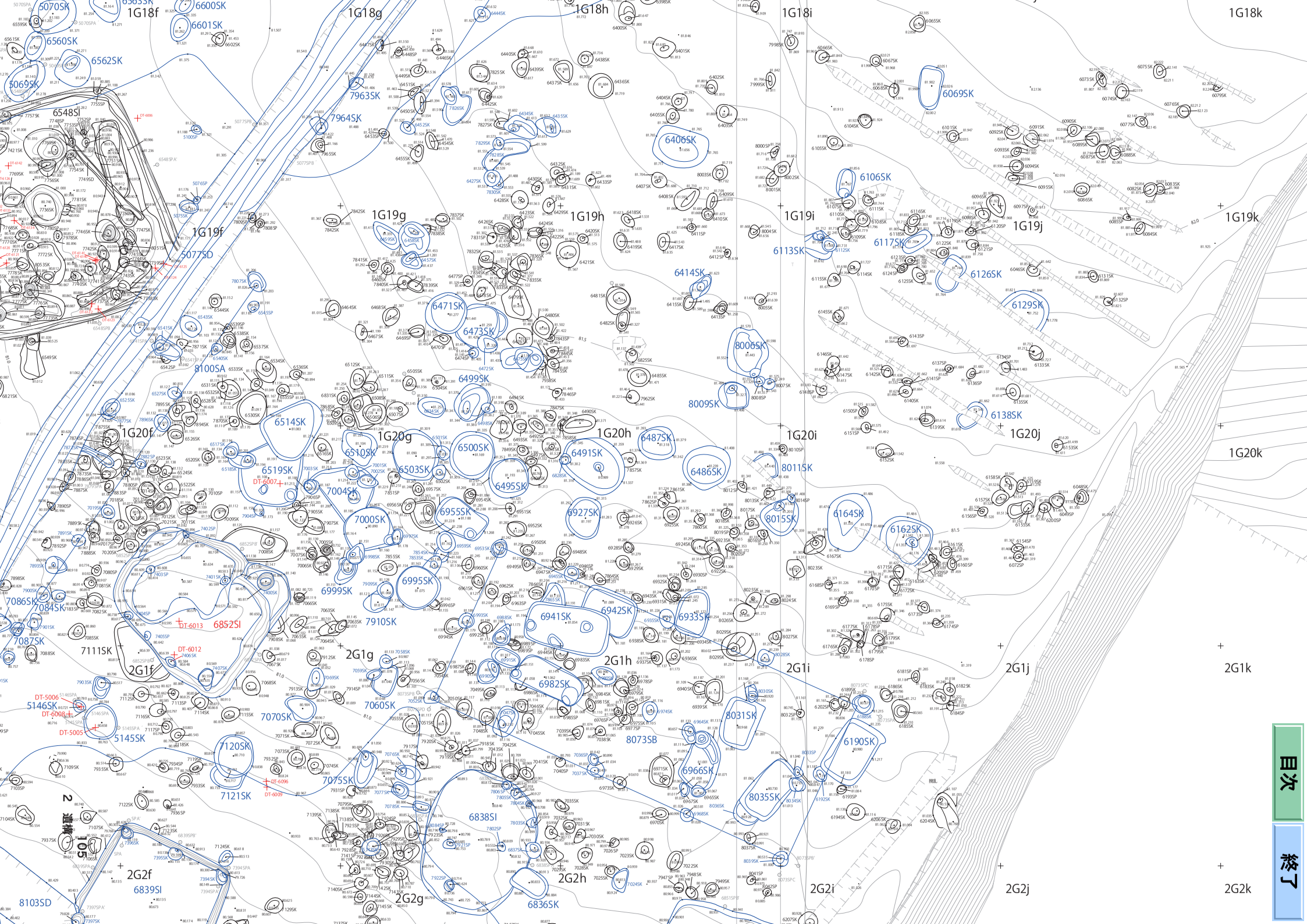
終了

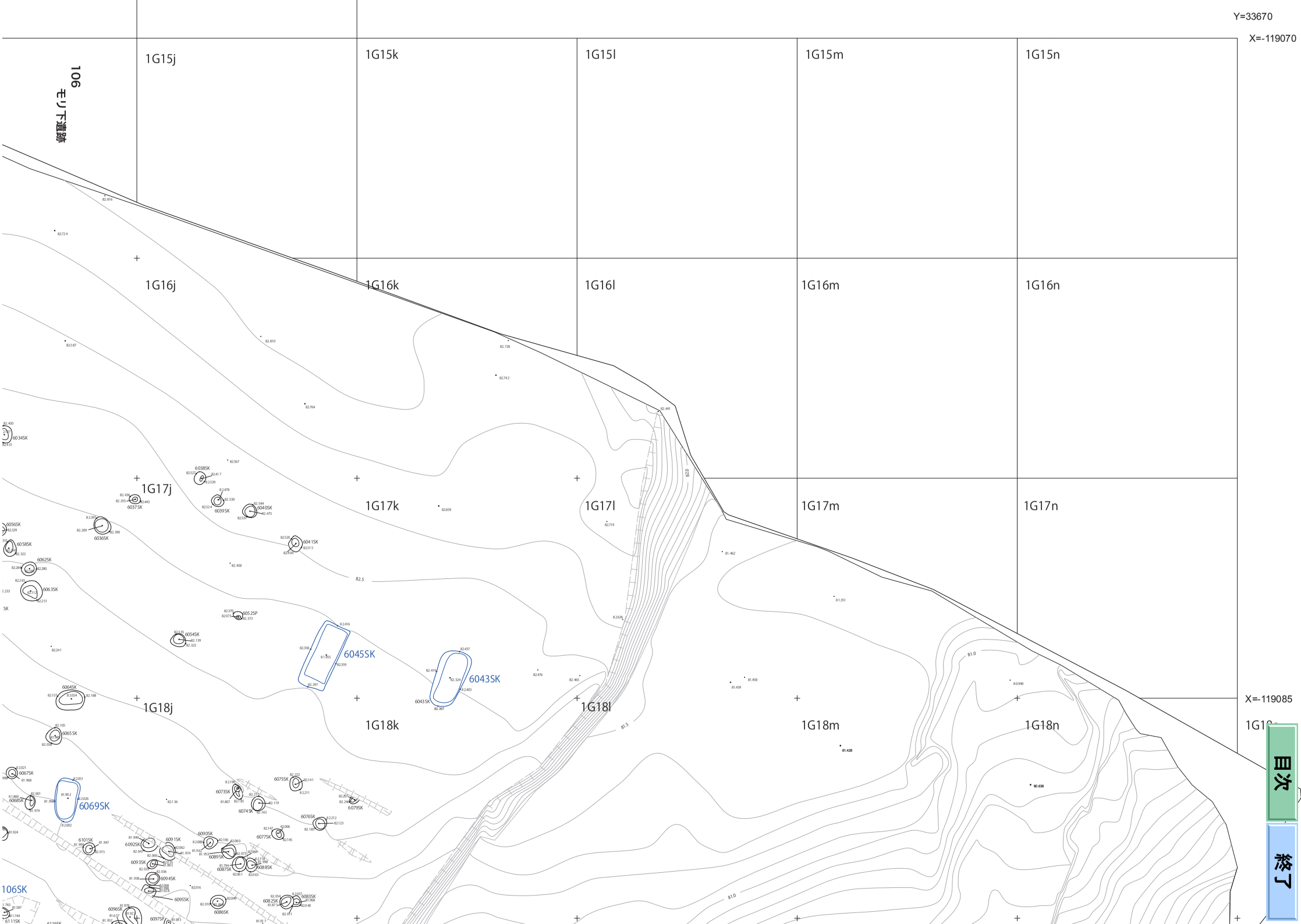

1G17f
1G18b
1G18c
1G18d
1G18e
1G18f
1G18g
1G19b
1G19c
1G19d
1G19e
1G19f
1G19g
1G20b
1G20c
1G20d
1G20e
1G20f
1G20g
2G1b
2G1c
2G1d
2G1e
2G1f
2G1g
8101SD
8102SD
8093SA
8094SA
8095SA
5144SD
7242SK
7347SD
7345SK
7208SK
7212SK
6875SD
6921SK
6869SK
6706SK
6703SK
6691SK
6686SK
6668SK
6675SD
6672SK
6671SK
6867SK
6868SK
6729SD
6745SK
6746SK
6732SK
6731SK
6738SK
6766SK
6788SK
5020SK
5034SK
5039SK
5102SD
5031SD
5038SK
5037SK
5055SK
5053SK
5104SK
5105SK
5058SK
5106SK
5107SK
5060SK
5063SK
5068SK
5069SK
5065SK
5059SK
6002SK
6001SK
6610SI
8075SK
6636SK
6556SK
6552SK
5110SK
6560SK
6562SK
6563SK
6600SK
6601SK
6567SK
6566SK
6564SK
5565SK
5070SK
5051SK
5091SK
5092SK
5094SK
5093SK
5098SK
5096SK
5097SK
7963SK
7964SK
6548SI
6792SI
6804SK
6800SK
6802SK
6801SK
6882SK
6892SK
6893SK
6887SK
6898SK
6907SK
6908SK
6905SK
6910SK
6917SK
6903SK
6853SI
7084SK
7086SK
7087SK
7111SK
6852SI
7512SK
8100SA
6514SK
6519SK
6510SK
6503SK
7004SK
7000SK
6999SK
7910SI
5077SD
DT-6177
DT-6176
DT-6204
DT-6203
DT-6005
DT-6011
DT-6136
DT-6162
DT-6164
DT-6163
DT-6103
DT-6104
DT-6007
DT-6013
DT-6012
DT-5006
目次
終了


104 モリ下遺跡
1G14f
1G14g
1G14h
1G14i
1G14j
1G15f
1G15g
1G15h
1G15i
1G15j
1G15k
1G16f
1G16g
1G16h
1G16i
1G16j
1G16k
1G17f
1G17g
1G17h
1G17i
1G17j
1G17k
1G18i
撹乱
5072SK
5074SK
5080SK
5081SP
5082SK
5044SK
5045SK
5083SK
5047SK
5078SD
6353SK
6357SK
6362SD
5085SK
5087SK
5077SD
5078SD
6387SK
5091SK
5092SK
5094SK
5093SK
5098SK
5051SK
6567SK
6566SK
6565SK
6564SK
5096SK
5097SK
5077SD
6391SK
8099SA
6045SK
DT-6010
DT-6005

目次

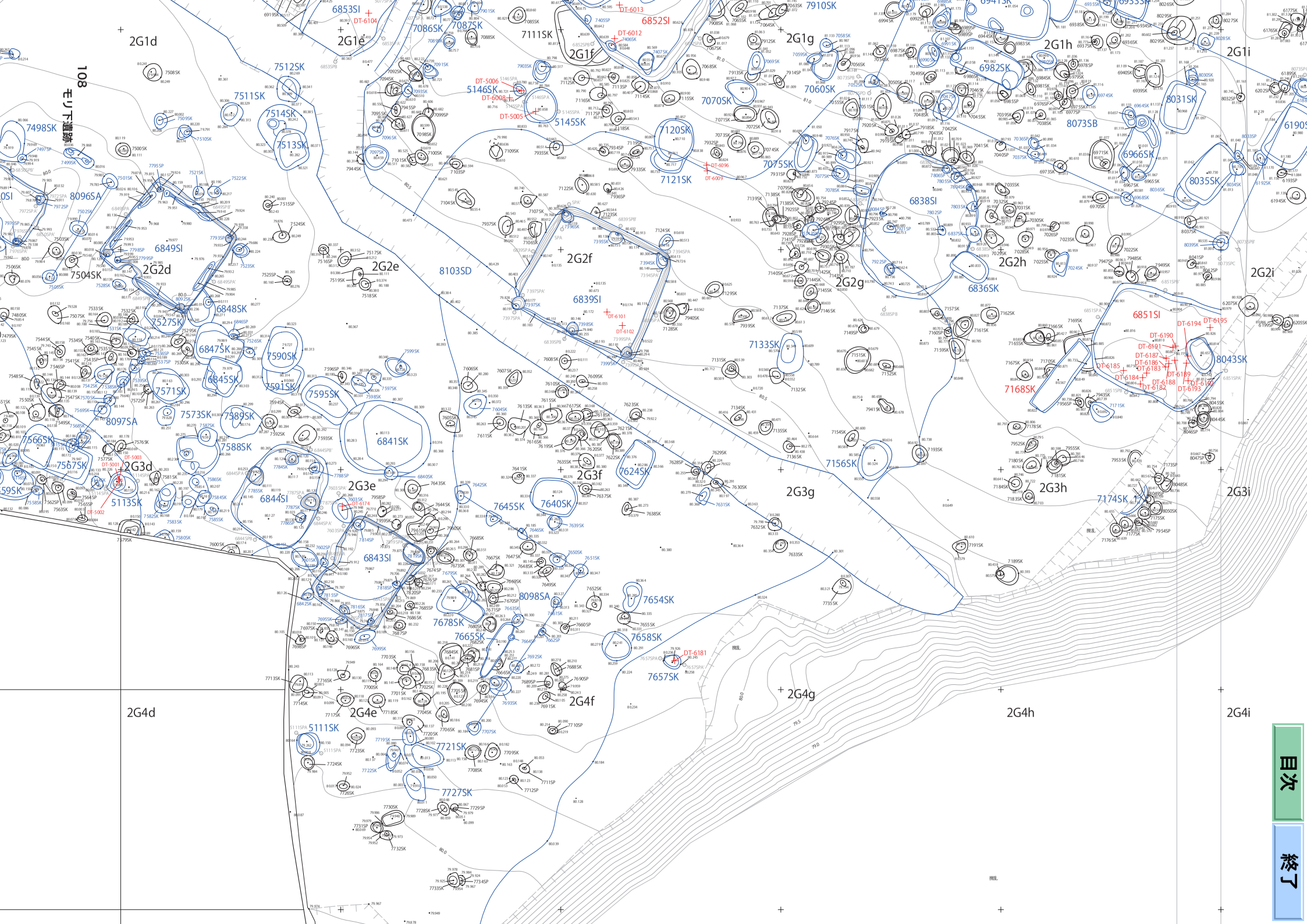
終了


1G18f
1G18g
1G18h
1G18i
1G18k
1G19f
1G19g
1G19h
1G19i
1G19j
1G19k
1G20f
1G20g
1G20h
1G20i
1G20j
1G20k
2G1f
2G1g
2G1h
2G1i
2G1j
2G1k
2G2f
2G2g
2G2h
2G2i
2G2j
2G2k
5070SK
6600SK
6601SK
6560SK
6562SK
5069SK
6548SI
7963SK
7964SK
6406SK
6069SK
6106SK
6113SK
6117SK
6126SK
6129SK
6414SK
6471SK
6473SK
5077SD
8100SA
6499SK
8006SK
8009SK
6138SK
6514SK
6519SK
6510SK
6500SK
6503SK
6487SK
6491SK
6486SK
8011SK
8015SK
6164SK
6162SK
7004SK
7000SK
6955SK
6927SK
6999SK
6995SK
6941SK
6942SK
6933SK
7086SK
7084SK
6852SI
7087SK
7111SK
7910SK
7060SK
6982SK
8031SK
8073SB
6190SK
5146SK
5145SK
7070SK
7120SK
7121SK
7075SK
6838SI
6966SK
8035SK
6839SI
8103SD
6836SK
DT-6006
DT-6142
DT-6125
DT-6124
DT-6007
DT-6013
DT-6012
DT-5006
DT-6008
DT-5005
DT-6096
DT-6097
2 論議 05
目次
終了


Y=33670
X=-119070
X=-119085
106
モリ下遺跡
1G15j
1G15k
1G15l
1G15m
1G15n
1G16j
1G16k
1G16l
1G16m
1G16n
1G17j
1G17k
1G17l
1G17m
1G17n
1G18j
1G18k
1G18l
1G18m
1G18n
6045SK
6043SK
6069SK
106SK
目次
終了

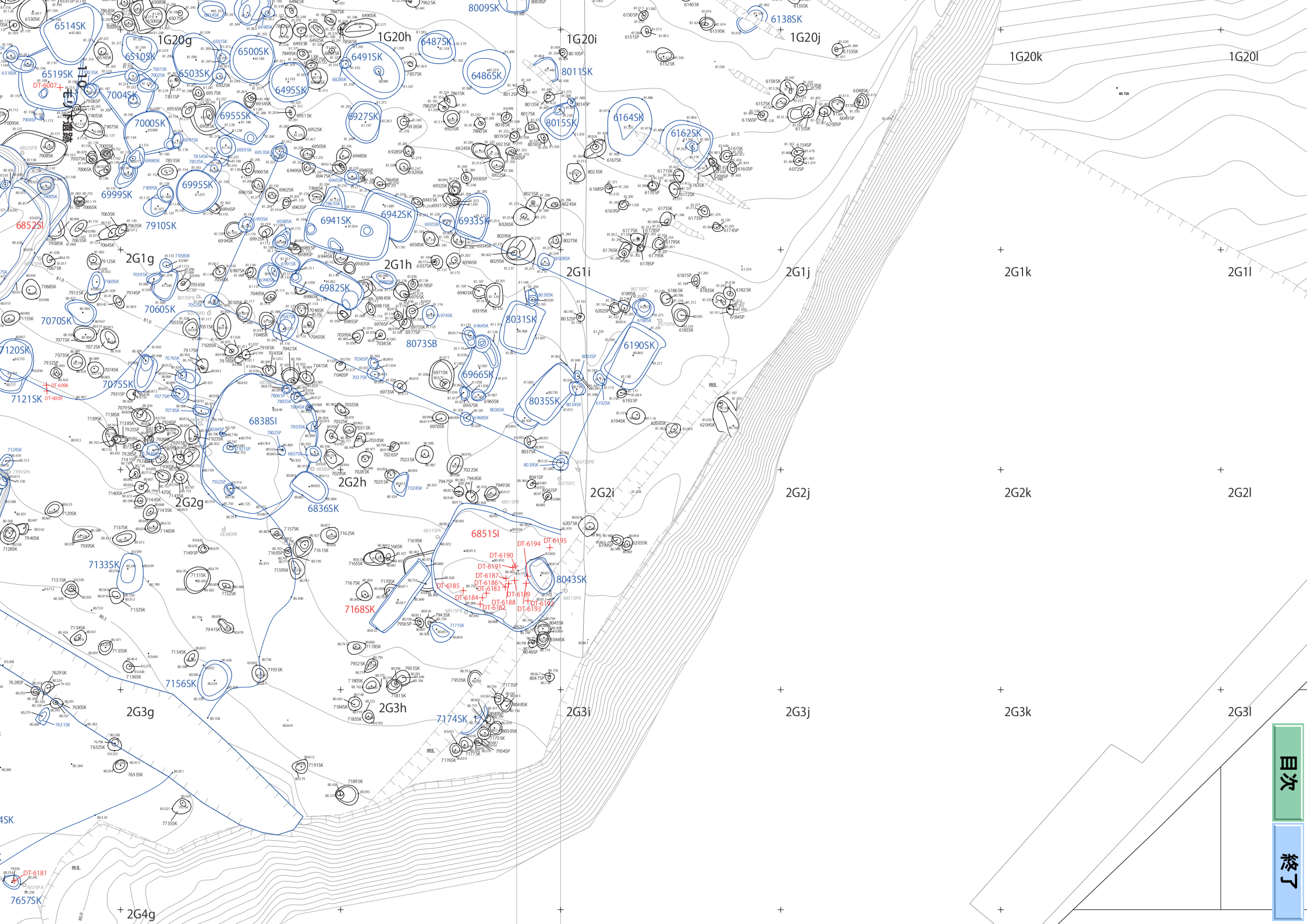

1G19j
1G19k
1G19l
1G19m
1G19n
1G19o
6117SK
6126SK
6129SK
6138SK
6162SK
1G20j
1G20k
1G20l
1G20m
1G20n
X=-119100
2G1j
2G1k
2G1l
2G1m
2G1n
2G2j
2G2k
2G2l
2G2m
2G2n
2G3j
2G3k
2G3l
2G3m
2G3n

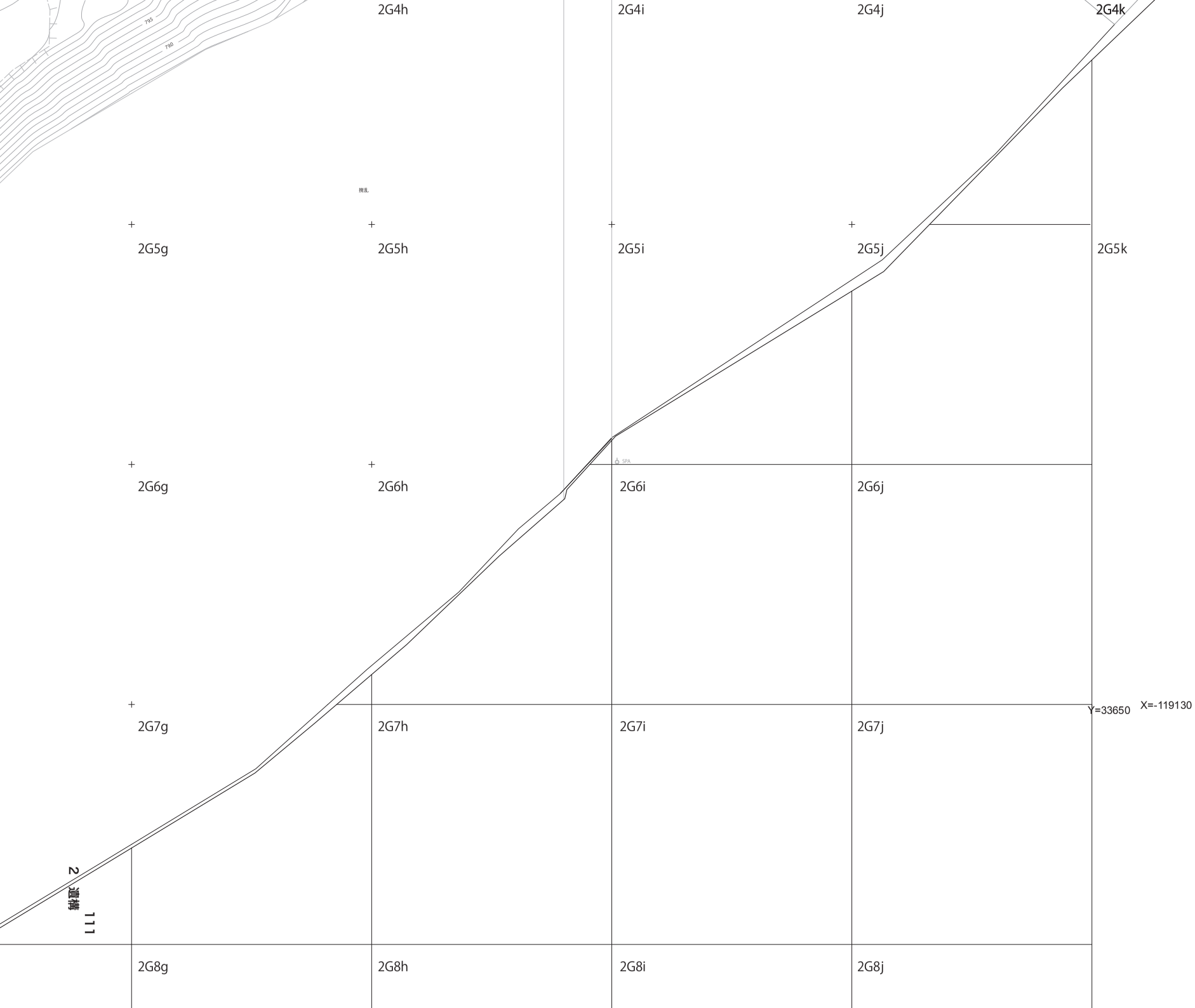
目次
終了


108
モリ下層部
2G1d
2G1e
2G1f
2G1g
2G1h
2G1i
2G2d
2G2e
2G2f
2G2g
2G2h
2G2i
2G3d
2G3e
2G3f
2G3g
2G3h
2G3i
2G4d
2G4e
2G4f
2G4g
2G4h
2G4i
6853SI
DT-6104
7086SK
7087SK
7111SK
DT-6013
6852SI
DT-6012
7910SK
6941SK
6935SK
6934SK
6982SK
7060SK
7070SK
8031SK
8073SB
6966SK
8035SK
7512SK
7511SK
7514SK
7513SK
7498SK
8096SA
6849SI
7504SK
DT-5006
5146SK
DT-6008
DT-5005
5145SK
7120SK
7121SK
DT-6096
DT-6009
7075SK
6838SI
6836SK
8103SD
6839SI
DT-6101
DT-6102
7133SK
6851SI
DT-6194
DT-6195
DT-6190
DT-6191
DT-6187
DT-6186
DT-6185
DT-6183
DT-6184
DT-6189
DT-6188
DT-6182
DT-6193
DT-6192
8043SK
7168SK
7527SK
6848SK
6847SK
6845SK
7590SK
7591SK
7595SK
7571SK
8097SA
7573SK
7589SK
7588SK
7566SK
7567SK
DT-5001
DT-5003
5113SK
DT-5002
6844SI
DT-6174
6841SK
7624SK
7156SK
7174SK
7645SK
7640SK
6843SI
8098SA
7654SK
7678SK
7655SK
7658SK
DT-6181
7657SK
7721SK
7727SK
5111SK
撤収
目次
終了


2G5d
2G5e
2G5f
2G5g
2G5h
2G5i
79.919
79.540
79.5
79.0
SPA
2G6d
2G6e
2G6f
2G6g
2G6h
2G6i
撹乱
2G7d
2G7e
2G7f
2G7g
2G7h
2G7i
2G8d
2G8e
2G8f
2G8g
2G8h
2G8i
2G9d
2G9e
2G9f
2G9g
2G9h
2G9i

目次
終了


1G20g
1G20h
1G20i
1G20j
1G20k
1G20l
2G1g
2G1h
2G1i
2G1j
2G1k
2G1l
2G2g
2G2h
2G2i
2G2j
2G2k
2G2l
2G3g
2G3h
2G3i
2G3j
2G3k
2G3l
2G4g
6514SK
6510SK
6519SK
6503SK
6500SK
6495SK
6487SK
6491SK
6486SK
8009SK
6138SK
8011SK
8015SK
6164SK
6162SK
7004SK
7000SK
6955SK
6927SK
6999SK
6995SK
7910SK
6852SI
6941SK
6942SK
6933SK
6982SK
7060SK
7070SK
7120SK
7075SK
7121SK
8031SK
8073SB
6190SK
6966SK
8035SK
6838SI
6836SK
6851SI
8043SK
7168SK
7133SK
7156SK
7174SK
7657SK
DT-6007
DT-6096
DT-6009
DT-6194
DT-6195
DT-6190
DT-6191
DT-6187
DT-6186
DT-6183
DT-6185
DT-6189
DT-6184
DT-6188
DT-6182
DT-6193
DT-6192
DT-6181
撤収
目次
終了


2G4h
2G4i
2G4j
2G4k
2G5g
2G5h
2G5i
2G5j
2G5k
2G6g
2G6h
2G6i
2G6j
2G7g
2G7h
2G7i
2G7j
2G8g
2G8h
2G8i
2G8j
Y=33650
X=-119130
2 道構 111

目次

終了

第３章　遺物

1. 土器・土製品

(1)　1 期の土器

モリ下遺跡から出土した縄文土器は、170 点ほどで、その中で 109 点を図化した。109 点の中でも、接合できなかった同一個体を別個で図化したものもあるため、最小個体数はより少なくなると思われる。一部弥生土器と思われるものも含めて、以下、出土土器の報告を行う。

08A 区 771SK 出土土器（1 ～ 5）

いずれも深鉢である。1 は口縁部から底部まで残存している。口縁部は 4 単位の突起状の波状が巡り、胴部中程で一旦すぼまり、平底の底部へとつながる。口縁部から胴部上半にかけて、沈線による J 字あるいはつの字がくずれた区画が横方向に展開し、その中外に縄文 LR が施される。器面調整は、胴部上半では文様区画に沿った方向、胴部下半分は縦方向にナデが行われており、胴部上半では縄文が擦り消されている部分が観察できる。2 は口縁部から胴部下半までの残存である。口縁は平縁で、底部に向かって屈曲することなく緩やかにつながる器形である。口縁部端から胴部下半まで、10 本程度を一単位とする縦方向の条線が等間隔に施されている。器面調整は外面にはユビナデ・オサエで、内面には工具による横方向の削痕が認められるか。3 ～ 5 は同一個体の土器口縁部片と考えられる。平縁を呈するもので、口縁端部に向かってやや内湾する器形である。器面には 5 本から 10 本 1 単位の条線があり、口縁端部直下では横方向に、そこから垂下するようにも条線が施されている。

これらの土器はいずれも後期初頭の、称名寺・中津式に相当すると考えられる。

08A 区 450SK 出土土器（6）

口縁部から底部まで残存する深鉢である。口縁部は平縁で、胴部上半と下半との間に若干のくびれを持ち、平底の底部へとつながるものである。文様は、口縁部から胴部下半まで認められ、縄文の施されている部分と無文部分が入り組んでいる。縄文部分に起点を置くと、沈線内に縄文 LR が充填されていると考えられ、口縁部端直下は無文帯を挟み横方向に、さらに上下に連結した J 字文を形成している。器面調整はユビナデと考えられる。

底部には編組製品圧痕が残されている。緯の太い材に対して、細い経の材が斜方向に絡むようにみえる。縄目編みの可能性もあるが、判然とはしない。

この土器は、後期初頭の称名寺・中津 I 式に相当すると考えられる。

08A 区 774SK 出土土器（10 ～ 27）

10 は、や接合部分が欠失しているものの、文様の配置および胎土などから同一個体と考えられるものである。山形を呈する浅い波状口縁を呈するもので、波頂部は内側に強く屈曲する。口縁部から胴部上半にかけてはすぼまるものの、胴部中程で垂直気味に屈曲し、再度外側に膨らみ底部につながる深鉢である。波頂部を巡るように二条の沈線が巡る。波頂部から波状口縁に沿って 2 条の沈線が横方向に展開し、加えて各波頂部から J 字文が垂下する。この J 字文の下端からは、さらにもう一段、2 条の沈線が横方向に展開する。沈線内には縄文 RL が充填されている。波頂部付近では 2 条の沈線外にも縄文が及んだり、沈線が部分的に 3 条一単位となっているところもある。器面調整はナデである。後期初頭の称名寺・中津

Ⅱ式に相当すると考えられる。11 は別個体の胴部片で、沈線区画の中に縄文 LR が施されている。12 は無文深鉢口縁部、13 は底部片である。

14 ～ 23 が上層出土土器で、いずれも深鉢である。14 ～ 19・22・23 は口縁部片で、いずれも波状を呈する。14 は器面表に間隔のまばらな条線が縦方向に認められる。15 は突起状の波頂部が杯状を呈するもので、直下には横方向の沈線が認められる。16 は器面に縄文 LR が施されているものである。17 は、沈線で区切られた口縁端部に縄文 LR が施されるもので、端部上面にも工具痕が確認されるか。18・19・22 は同一個体の可能性があるもので、沈線の区画に縄文 r が施されている。20 もこの同一個体の胴部かもしれない。21 は胴部中位の破片で、沈線区画の中に縄文 RL が充填されている。

24 ～ 27 は中層出土土器で、いずれも深鉢口縁部片である。24 は平縁を呈する。口縁端部よりやや下位で、縄文 LR が充填された沈線区画が横方向に展開する。区画自体は、口縁部上端にも伸びており、J 字文様の曲線の区画は下位に展開する。25 は半截竹管状工具による 3 状の沈線が垂下するもので、真ん中の 1 本を中心に、両側二本はやや斜方向に垂下するかもしれない。26 は沈線内に縄文 r が施されているもの、27 は浅い条線が、口縁に平行あるいは垂下しているものである。

これらは、後期初頭から前葉の、称名寺・中津段階から福田 K2 式に相当あるいは併行する。

08A 区　1476SI 出土遺物（28 ～ 33）

いずれも深鉢で、28 のみ口縁、29 ～ 33 は胴部片である。28・29 は同一個体と考えられる。器面表には縄文 LR(r・l) が施されている。31 ～ 33 も同一個体の可能性がある。沈線区画の中に縄文が施されている。

08A 区 1719SK 出土遺物（34 ～ 36）

図示したものはいずれも深鉢口縁部である。36 は沈線内に縄文が施されている。36 は口縁が直立する器形で、平縁である。口縁端部の横方向に 10 本程度を 1 単位とする条線が施され、屈曲下の胴部には同じ条線が連続して垂下している。器面調整はナデである。35 は内湾する器形で、波状を呈する。器面表には削り様の工具痕が認められる。

08A 区　その他遺構内出土土器（7 ～ 9・37 ～ 54・109）

これらの土器には後期初頭から前葉に属するもの（7 ～ 9・37 ～ 48・54・109）と早期前半に属するもの（49 ～ 53）がある。いずれも深鉢である。

7 は胴部下半のくびれた部分の破片で、沈線区画内に縄文 RL が充填されている。8 は、平縁を呈する口縁部片で、横方向に条線が、そこから同じ条線が垂下して施されている。9 も同様の土器片胴部片である。37 は胴部の大型破片である。調整にはナデが認められる。38 は無文の平縁の深鉢で、器面調整はナデ、口縁部側に補修孔が認められる。39 は波状を呈する口縁部片で、沈線区画内に縄文 RL が施されている。40 は、深鉢口縁部片で、端部に細いヘラ状工具による連続刺突が施されている。41 も深鉢口縁部で、表面におよび端部上に縄文 RL が施されている。43 は縄文 LR（r・l）が施されている口縁部片、44 ～ 46 は沈線区画内に縄文 RL が充填されているものである。48・54・109 は底部片で平底ある。48・109 のようにナデおよびオサエが調整の中心であるものの、54 のように条痕様の痕跡が認められるものもある。

49 ～ 53 は押型文土器胴部片で、49 ～ 51・53 はネガティブな押型文ある。49・50 は大きな長方形あるいは菱形を、51・53 は小さな方形あるいは楕円を、52 も格子目状の押型文ではあるが、ポジティブであろうか。大川式古段階に併行する萩平タイプと言われるものに相当するものと考えられる。

08A 区　遺構外出土土器（55 ～ 66）

55 ～ 58 は検出 1 段階の出土土器である。55・56 は後期初頭から前葉の深鉢胴部片で、いずれも 10 本程度を 1 単位とする条線が垂下している。57・58 はネガティブな押型文土器である。

59 ～ 63 は検出 2 段階の出土土器である。59 ～ 61 は深鉢口縁部で、59・60 は波状を呈し、器面調整はナデが主体のものである。61 は深鉢口縁部で、横方向に条線が施されているものである。62 は深鉢胴部片で、文様として沈線が認められる。63 は胴部下半から底部である。器面調整は、内外面ともハケ目状にみえる。弥生時代の甕になる可能性がある。底部は平底で、径は小さい。

64 ～ 66 は表土から出土したもので、いずれも後期初頭から前葉に属するものである。64 は波状を呈する深鉢口縁部片で、口縁に沿って条線が施さているか。65・66 は深鉢胴部片で、沈線区画内に縄文が施されているものである。

08B 区 3299SK 出土土器（67 ～ 71）

いずれも深鉢片で、同一個体になると考えられる。67 ～ 69 は口縁部、70 は胴部上半、71 は胴部下半である。胴部上半から後円部にかけて著しく内湾する、いわゆるキャリパー形を呈する器形になる。口縁端部には 3 条の太沈線が横走し、横方向への区画内に縄文 r が施されている。また、区画に沿って、太い弧状沈線が 2 条、横方向に並走する。文様のない部分の器面調整は丁寧なナデである。

時期は、中期後半の中富Ⅴ式に相当するものと考えられる。

08B 区　2061SI 出土土器（72）

器面表に縦方向の条線が認められる深鉢胴部片である。

08B 区　3403SK 出土土器（73）

深鉢完形で、突起状の波頂部を持ち、胴部中程でくびれをもつ平底の土器である。器面調整は全面にナデである。突起状の波頂部には透かし穴が施され、それを巡るように対向する短弧線が施されている。口縁部下に縄文 RL が充填されており、J 字文が崩れて上下段が連続したような様相を呈する。部分的に沈線区画の中にも平行する沈線が施され、3 本沈線となっている部分がある。

時期は、後期前葉の福田 K2 式古段階に併行するものと考えられる。

08B 区　3834SX 出土土器（74）

深鉢口縁部から胴部上半の破片が残存しているが､接合部分が極めて限定的な状態となっている。口縁部が外反するラッパ形を呈する深鉢である。器面表全体には格子目状あるいは長菱形のネガティブな押型文が施されており、 口縁端部上面にも同様な押型文が施されている。内面の調整はナデであり、胎土には繊維を含まない。

時期は、大川式古段階の萩平タイプに相当すると考えられる。

08B 区　その他以降出土土器および遺構外出土土器（75 ～ 85）

これらはいずれもネガティブな押型文が施された深鉢であり、75・83 が口縁部の他は、胴部片である。長楕円形・長菱形・やや円形に近い押型文などがある。75 は口縁端部上面にも押型文が施されている。

時期は、大川式古段階の萩平タイプに相当すると考えられる。

09 区　7316SK 出土時期（86 ～ 89）

いずれも深鉢で、86 ～ 88 は口縁部、89 は胴部片である。86・87 は波状を呈する器形で、86 は沈線区画内に縄文 LR の充填が認められ、87 は 2 条の平行沈線で区切られた口縁端部側に縄文 LR が充填されている。88・89 は条線が施されている土器である。

時期は、後期初頭から前葉に属するものと考えられる。

09 区　7285SK 出土土器（90）

深鉢胴部中位付近の大型破片である。沈線内に縄文 LR が施されている。横方向に展開する縄文帯は、弧状に垂れる部分で若干クランクする。器面調整はナデである。

時期は、後期前葉の福田 K2 式に併行するものと考えられる。

09 区　遺構外出土土器（91 ～ 108）

91 は縦方向の貼付隆帯区画内に縄文 LR が施されているもので、中期後半に属するか。93 はつまみ出るような貼り付け区画内に爪形状の刺突列が施されているもので、中期中葉の北屋敷式に属するものである。94 は沈線区画内に縄文 LR が施されているもので、後期初頭から前葉に属するものか。92・96 ～ 108 は早期前半に属するものである。107 は本資料で確認された唯一の撚糸文土器である。その他はネガティブな押型文土器である。長楕円形あるいは菱形を呈するものが多い。97 は口縁端部上面にも文様が施されている。時期は、大川式古段階の萩平タイプに相当すると考えられる。

調査区内での分布

各時期の土器出土傾向を概観すると、時期的な変化を見ることができる。早期前半は、08A 区・08B 区・09 区北半分の、比較的広範囲に分布が認められるが、08B 区 3834SX 以外は、土器細片の出土にとどまる。中期後半がまとまって出土した 08B 区 3299SK は、08B 区の南端付近に位置している。さらに、後期初頭から前葉にかけては、中期の分布地点に加えて、08A 区西側の一帯に分布が認められ、土器埋設遺構や大型破片の出土が認められる。（川添和暁）

図 3-1　1 期 出土土器実測図 -1（1:3）

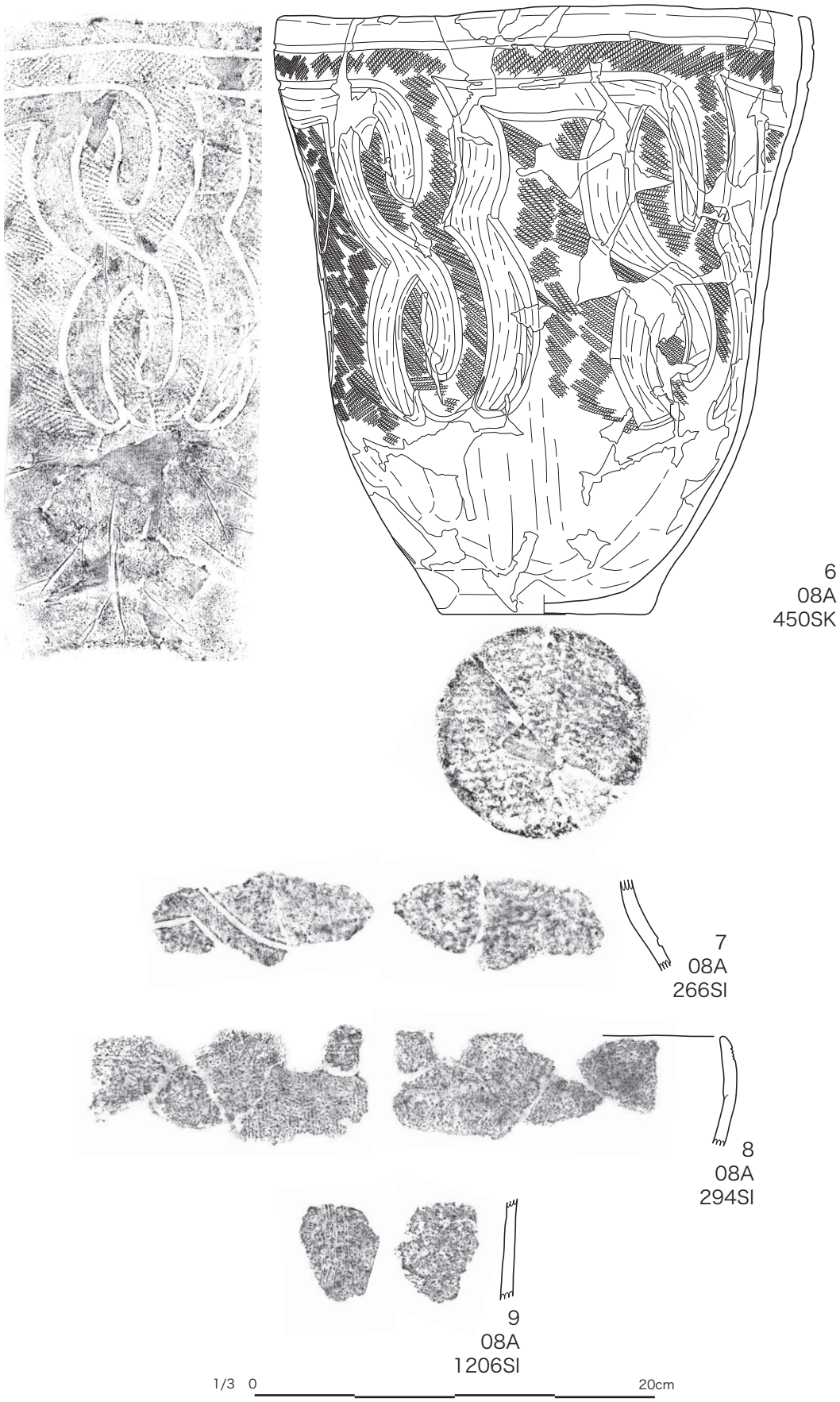


図 3-2　1 期 出土土器実測図 -2（1:3）

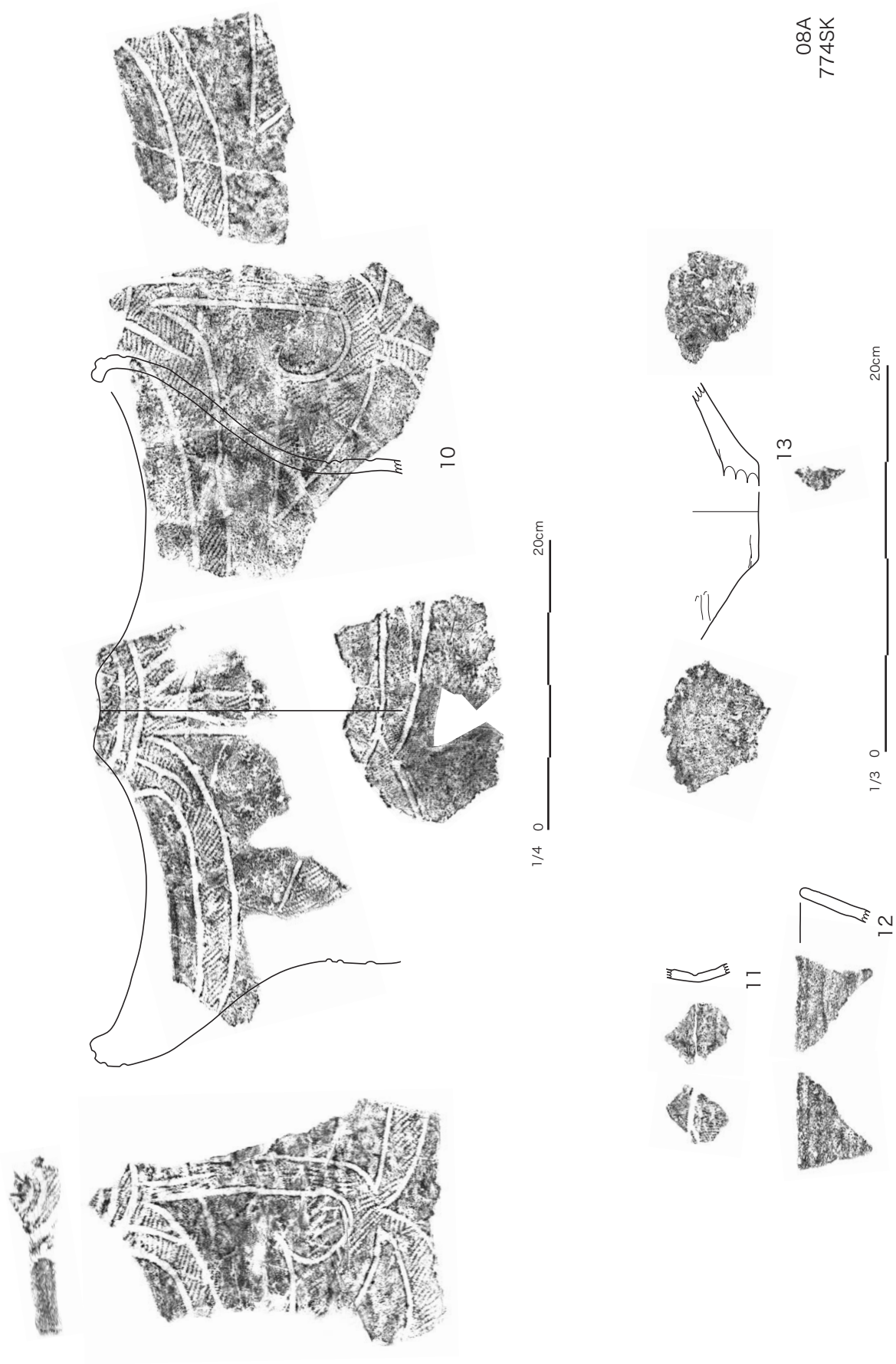


図 3-3　1 期 出土土器実測図 -3（1:3/1:4）

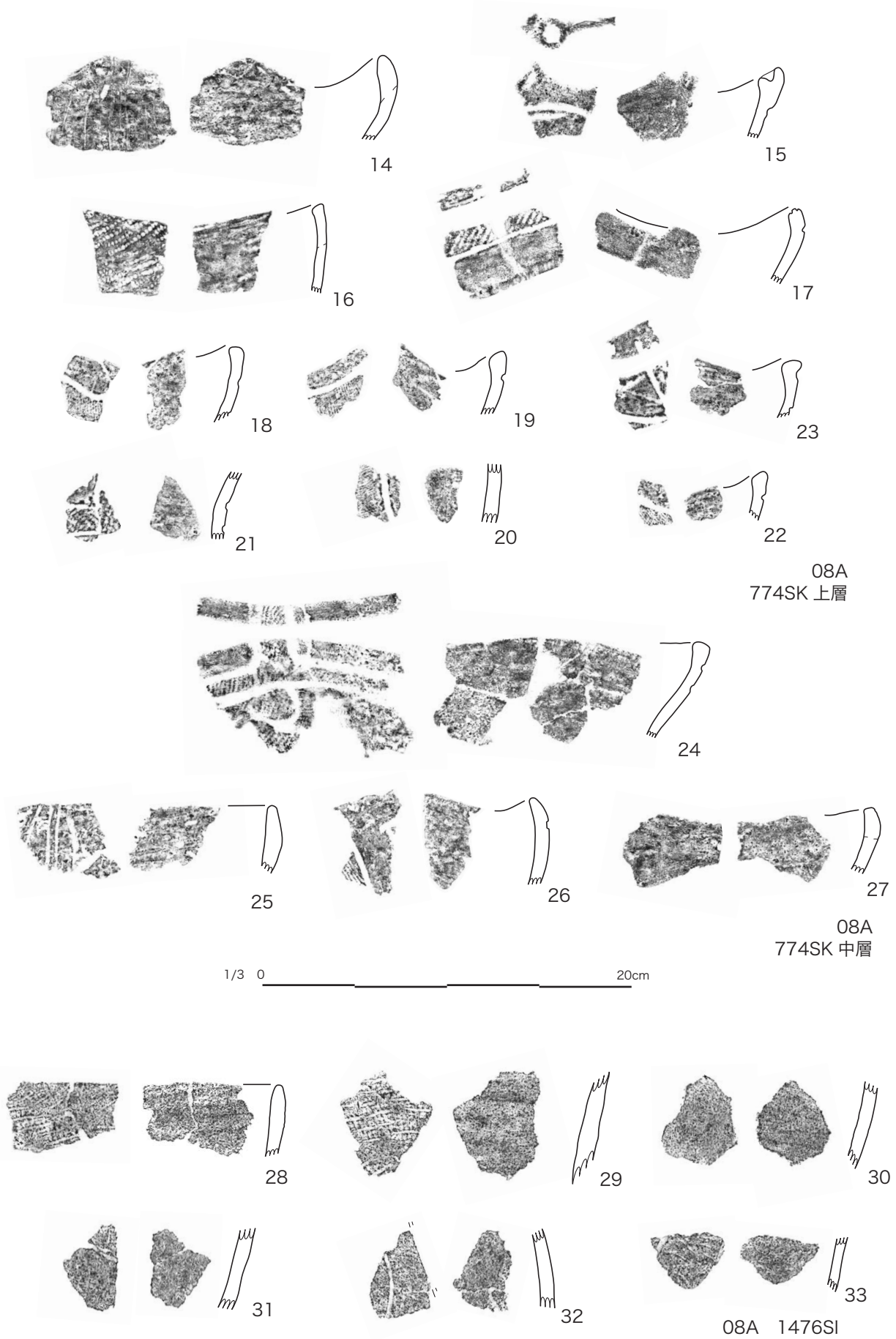


図 3-4 1 期 出土土器実測図 -4（1:3）

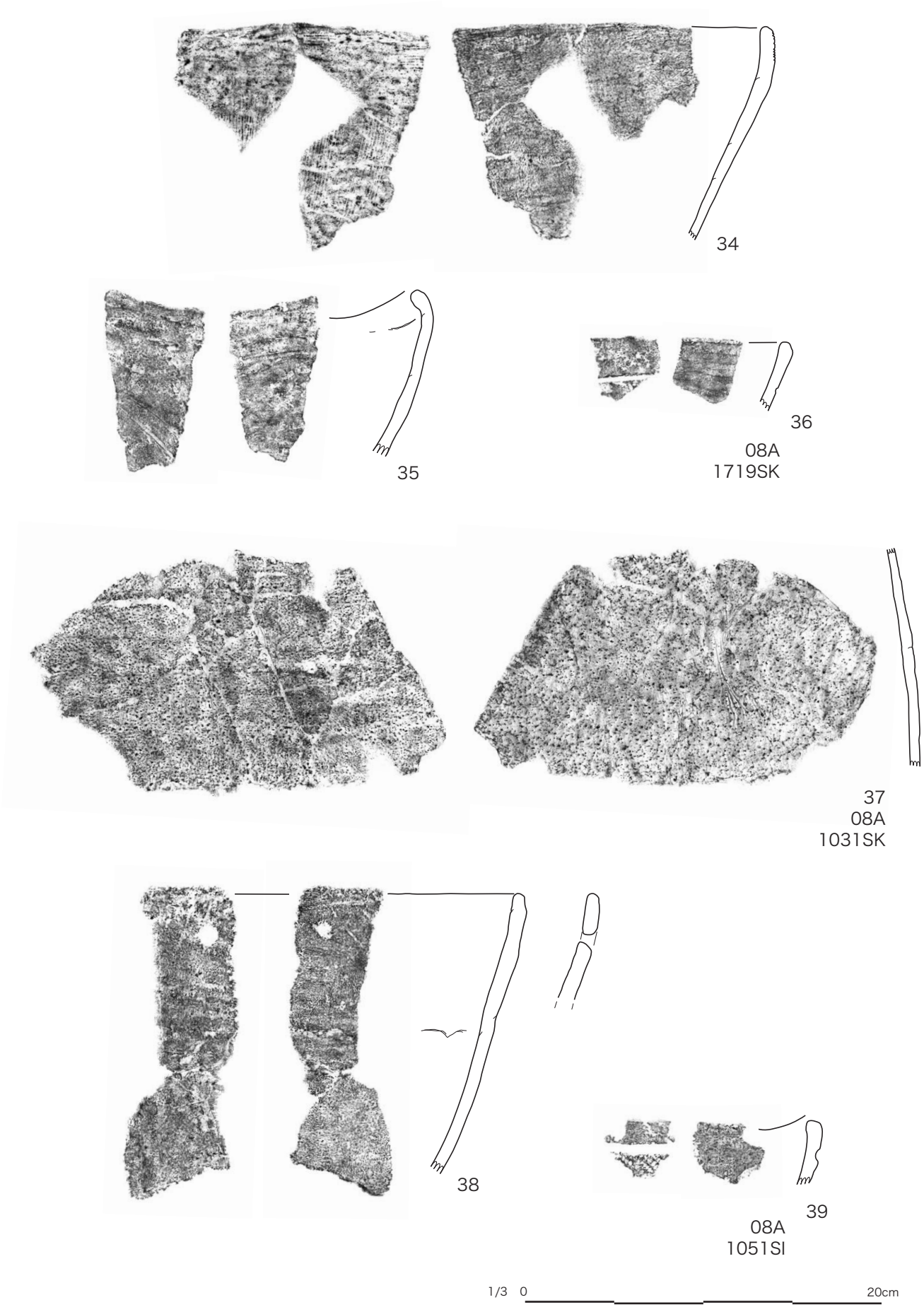


図 3-5　1 期 出土土器実測図 -5（1:3）

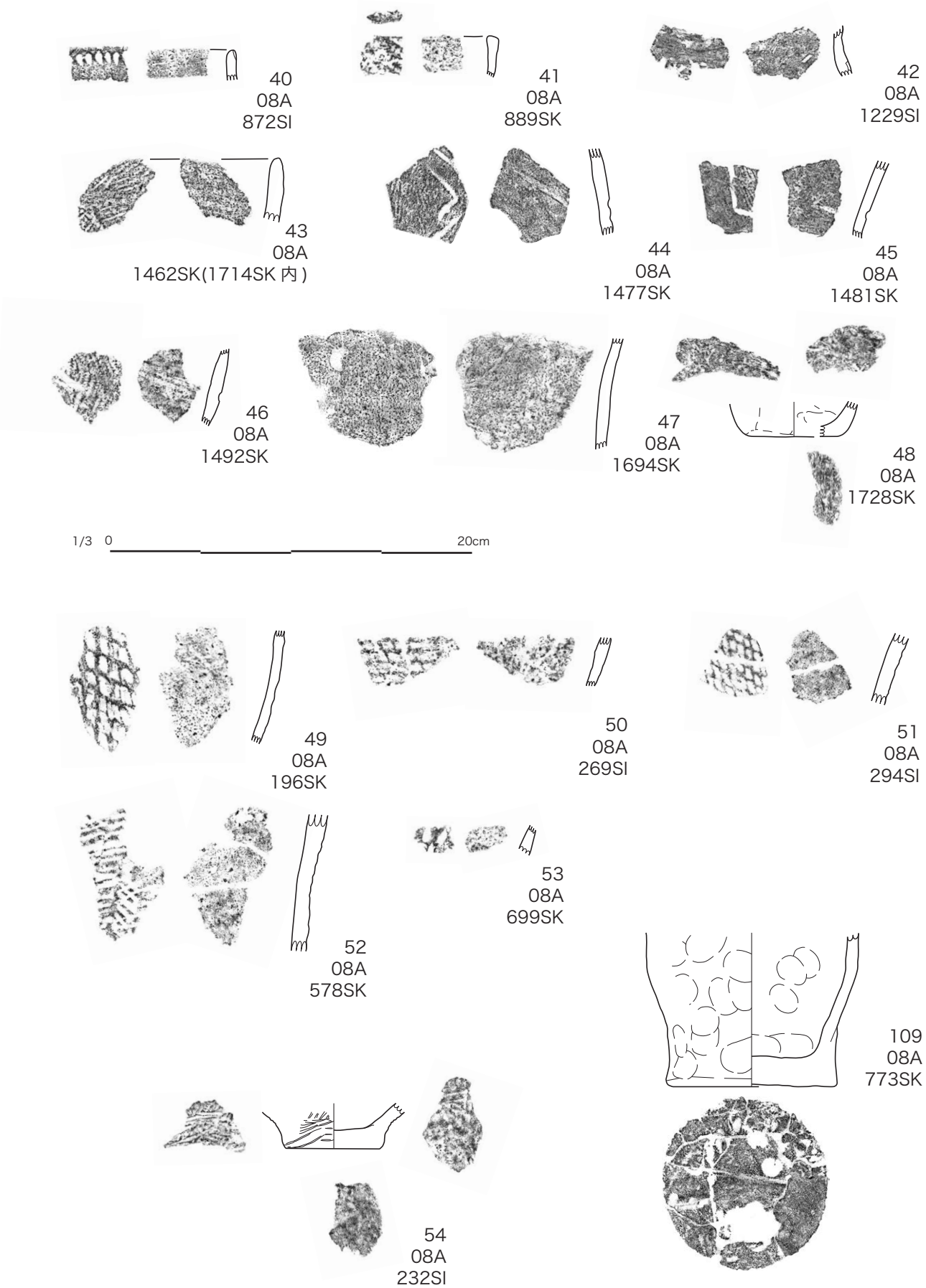


図 3-6　1 期 出土土器実測図 -6（1:3）

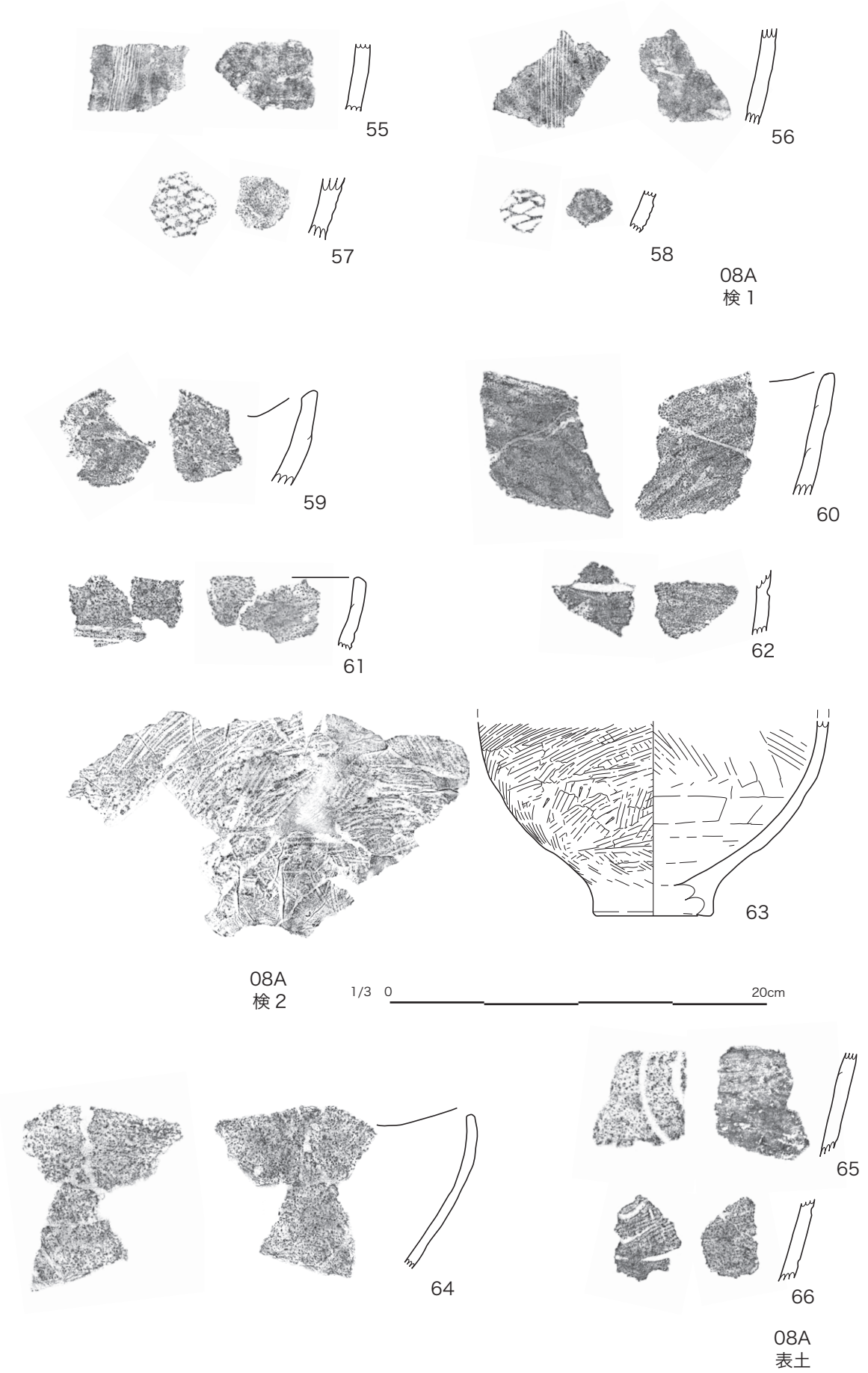


図 3-7　1 期 出土土器実測図 -7（1:3）

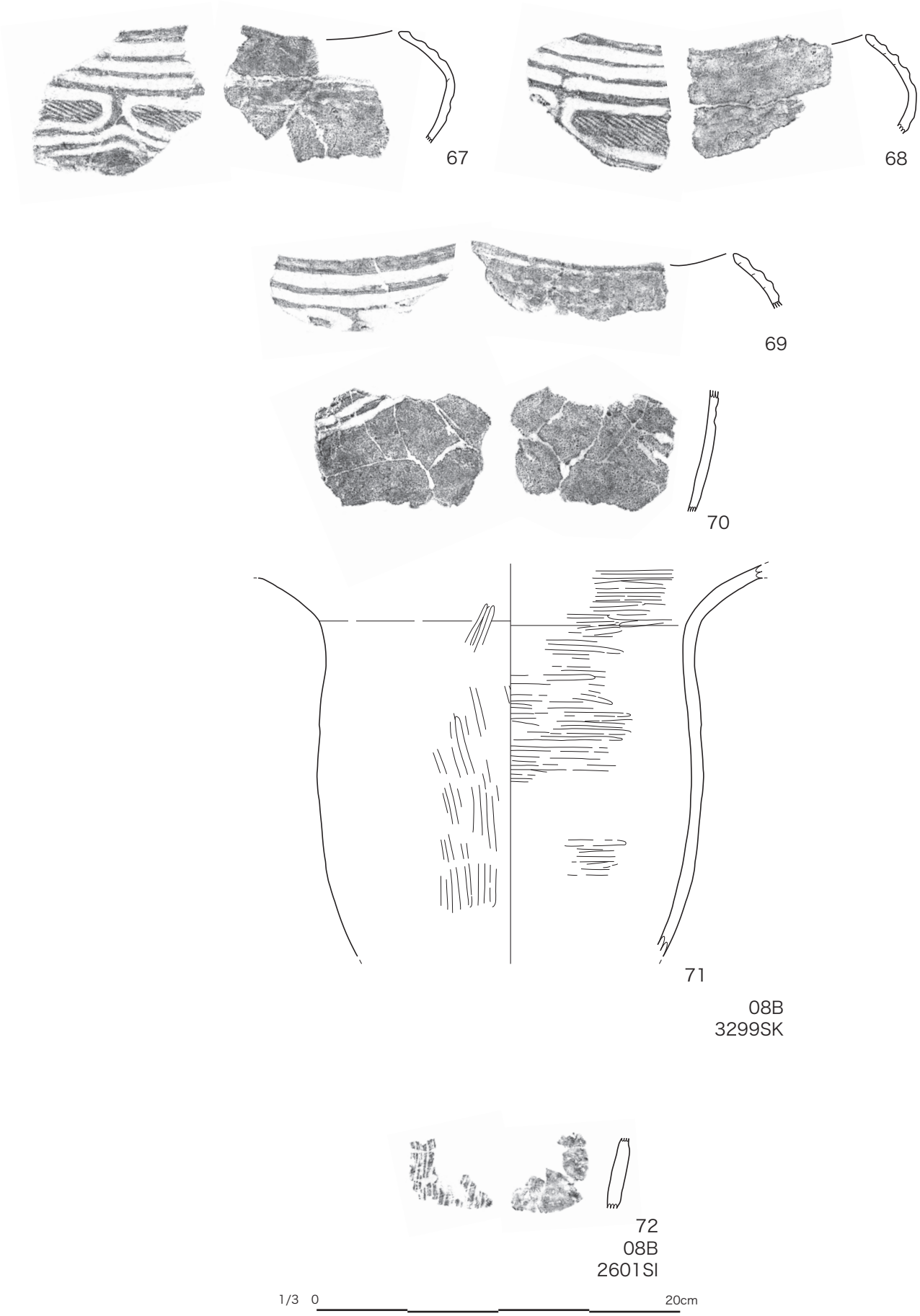


図 3-8　1 期 出土土器実測図 -8（1:3）

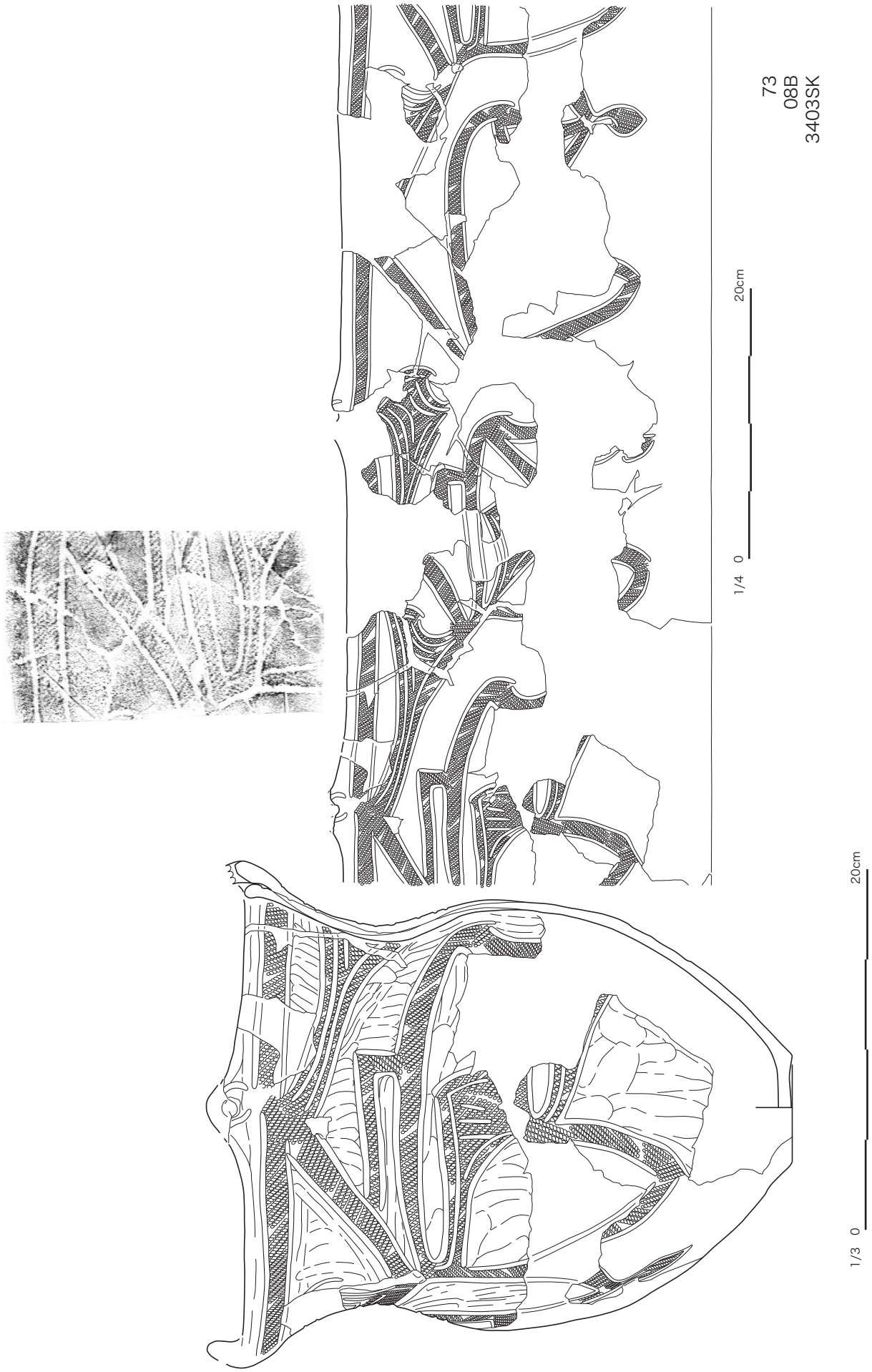


図 3-9　1 期 出土土器実測図 -9（1:3/1:4）

図 3-10　1 期 出土土器実測図 -10（1:3）

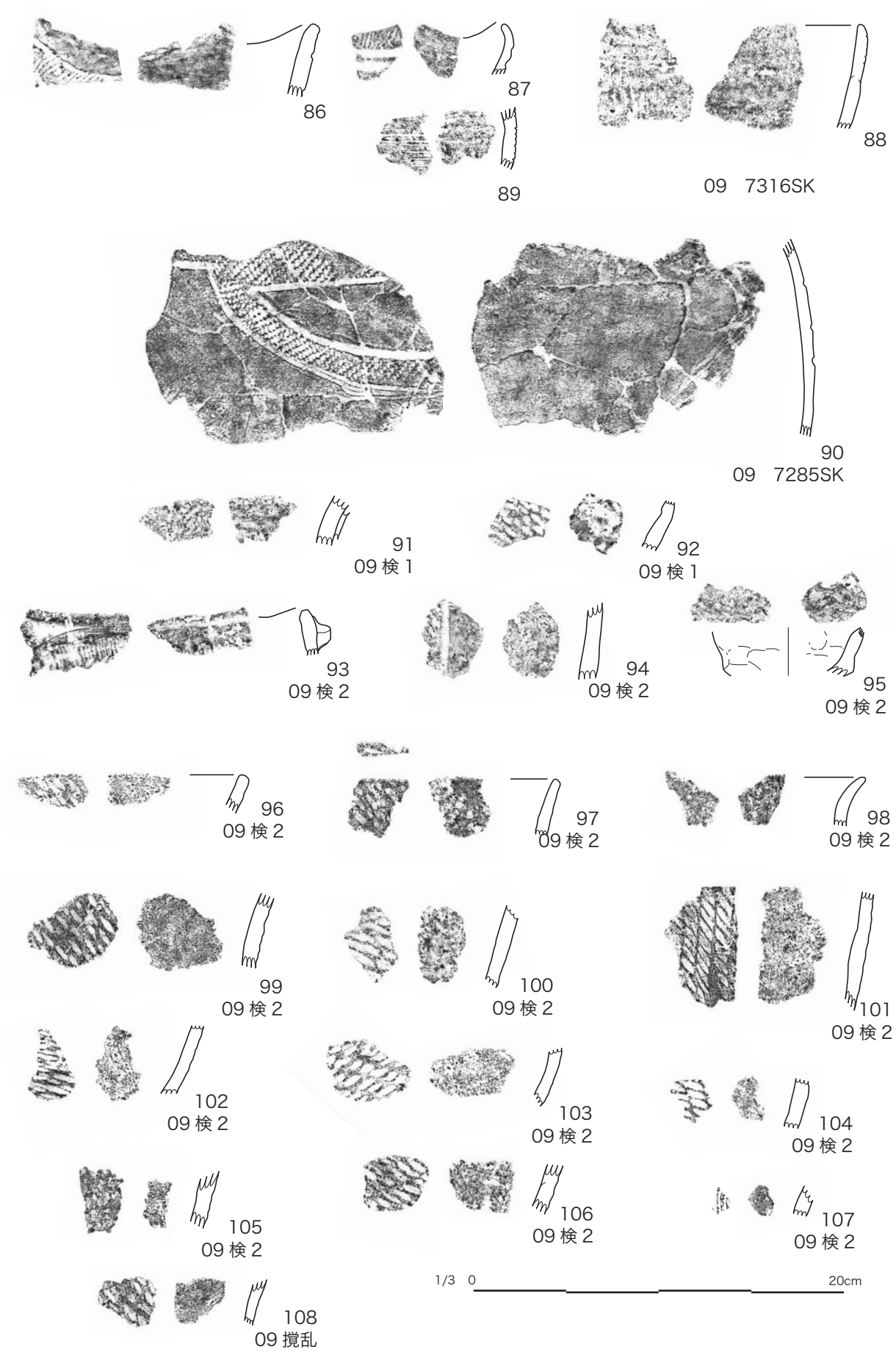


図 3-11　1 期 出土土器実測図 -11（1:3）

(2) 2期の土師器

モリ下遺跡からは、多量の古墳時代前期前半の土師器が出土している。出土遺構の多くは竪穴建物とその内部に掘削された貯蔵穴である。なかには弥生土器や古代の土師器も同一遺構内から出土しているが、それについても本節で述べることとする。

08A区　200SI出土土器（109）

109は脚付壺で、脚には3方向に上下2箇所ずつの穿孔と、その上位に櫛描直線紋を施す。廻間Ⅲ式期併行。

08A区　1665SK出土土器（110・111）

200SIの貯蔵穴にあたる。110は逆ハの字状に開く高杯の口縁部。111は鉢で、口頸部の屈曲は緩い。

08A区　232SI出土土器（112・113）

112は低脚の高杯で、6方向に1箇所ずつの穿孔を施す。廻間Ⅲ式期前半～中葉に併行する時期。113は弥生土器の壺口縁部。

08A区　252SI出土土器（114）

114は壺の底部。外面は縦ハケの後、ミガキを施す。

08A区　829SK出土土器（115）

115は小型の壺で、肩部に列点紋を入れる。

08A区　889SK出土土器（116）

116は弥生時代中期の三河型台付甕の脚部。

08A区　1051SI出土土器（117～119）

117は高杯脚部。118は無頸壺。119は大型の壺底部。いずれも廻間Ⅲ式期前半併行。

08A区　1208SI出土土器（120）

120は台付甕の脚部。

08A区1701SK出土土器（121・122）

290SIの貯蔵穴。121は大型壺の底部。122は台付甕で、脚部を欠損する。いずれも廻間Ⅲ式期前半併行。

08A区　2067SI出土土器（123～138）

123～127は高杯。128～130は鉢。131・133は壺。134は蓋。135～138は台付甕。いずれも廻間Ⅱ式期後半～廻間Ⅲ式期前半併行に属する。

08A区　2410SI出土土器（139～163）

139～142は高杯。143～146は鉢。147は二重口縁壺で、外面の4箇所に棒状浮紋を貼り付ける。148は単純口縁の壺。149･150は壺底部。151も小型の壺。152～162は台付甕。163は砥土器。いずれも廻間Ⅱ式期後半併行。

08A区　3767SK出土土器（164）

2410SIの貯蔵穴からの出土で、台付甕の脚部。

08B区　2571SI出土土器（165）

壺の底部と思われるが、内面に赤彩が遺る。

08B区　2840SK出土土器（166）

2571SIの貯蔵穴からの出土で、器高の低い鉢。

08B区　2681SI出土土器（167）

台付甕で、胴部下半を欠損する。

08B区　2810SI出土土器（168）

甕の胴部上半。

08B区　871SL出土土器（169）

2810SIの炉跡からの出土で、高杯の脚部。

08B区　2881SI出土土器（170）

二重口縁壺の口縁部で、外面4箇所に棒状浮紋4本を貼り付ける。廻間Ⅱ式期後半併行。

08B 区　3020SI 出土土器（171）

171 は台付甕の脚部。

08B 区　3514SK 出土土器（172・173）

3020SI の貯蔵穴からの出土で、いずれも台付甕の脚部。

08B 区　3124SI 出土土器（174 ～ 176）

174 は高杯の脚部で、3 方向に 1 箇所ずつの穿孔、その上位には櫛描紋を施す。175・176 は台付甕の脚部。いずれも時期は廻間Ⅱ式期の後半に併行する。

08B 区　3742SK 出土土器（177）

3124SI の貯蔵穴からの出土で、頸部の締まりの緩い鉢。

08B 区　3699SI 出土土器（178）

加飾壺の胴部で、肩に鋸歯紋を施す。胴部中央には焼成後穿孔あり。

08B 区　3314SI 出土土器（179 ～ 202）

179 ～ 181 は鉢で、181 は内面にミガキを施す。182 ～ 187 は高杯。188 ～ 196 は壺で、うち 196 は弥生時代中期の細頸壺。197 ～ 202 は台付甕。いずれも所属時期は廻間Ⅲ式期前半～中葉併行。

08B 区　3744SK 出土土器（203）

3314SI の貯蔵穴からの出土で、小型の壺。口縁部を欠損する。

08B 区　3846SK 出土土器（204）

3314SI の貯蔵穴からの出土で、口縁部に比べて脚の広い高杯。

08B 区　3825SK 出土土器（206）

3314SI の貯蔵穴からの出土で、頸部のくびれがほとんど無い台付甕。

09 区　6548SI 出土土器（208 ～ 214）

このうち 208 ～ 210 が本来のこの竪穴建物の遺物で、211 ～ 214 はその上層から出土した古代の土師器。

208・209 は壺で 210 は台付甕。

211 ～ 214 は甕で、うち 211 のみ平底。岩崎 17 窯式期併行の三河型甕。

09 区　6792SI 出土土器（215 ～ 230）

このうち 215 ～ 228 が本来のこの竪穴建物の遺物で、229・230 はその上層から出土した古代の土師器。

215 ～ 218 は高杯。219 ～ 224 は壺。225 ～ 228 は台付甕。いずれも時期は廻間Ⅲ式期前半～中葉併行に属する。

229 は古代の甕で、230 は清郷型甕。

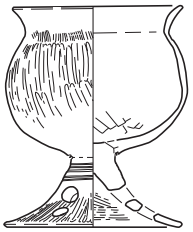
09 区　7504SK 出土土器（205）

205 は台付甕の底部。

09 区　包含層出土土器（207）

207 は台付甕。（樋上　昇）

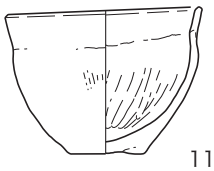
08A 200SI



109

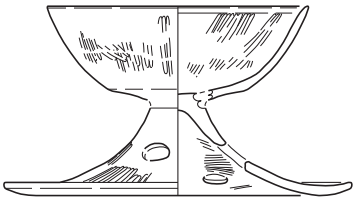
08A 1665SK（200SI 貯蔵穴）

110

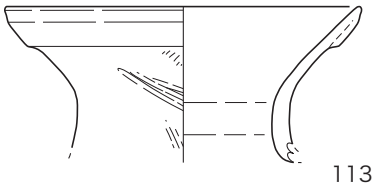


111

08A 232SI

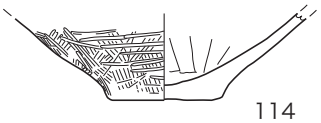


112



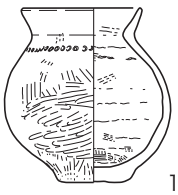
113

08A 252SI



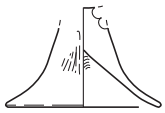
114

08A 829SK

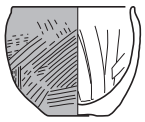


115

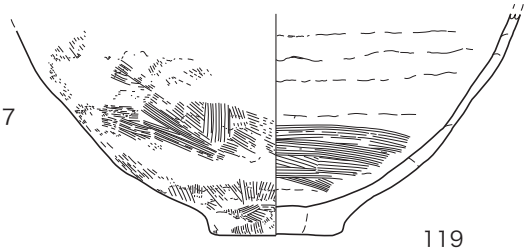
08A 1051SI



117



118

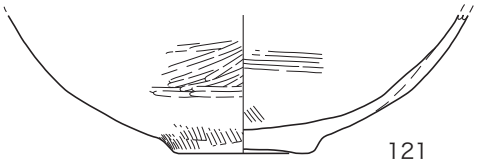


119

08A 889SK

116

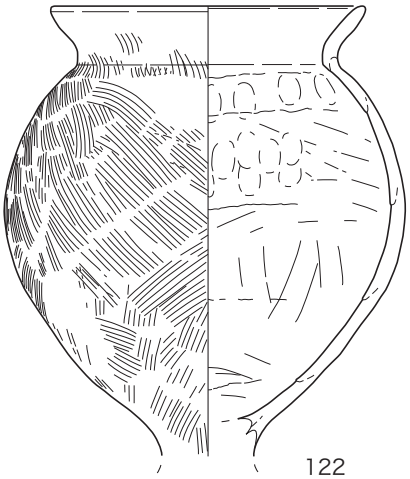
08A 1701SK（290SI 貯蔵穴）



121

08A 1208SI

120



122

1/4 0 20cm

図 3-12　2 期 出土土器実測図 -1（1:4）

08B 2067SI

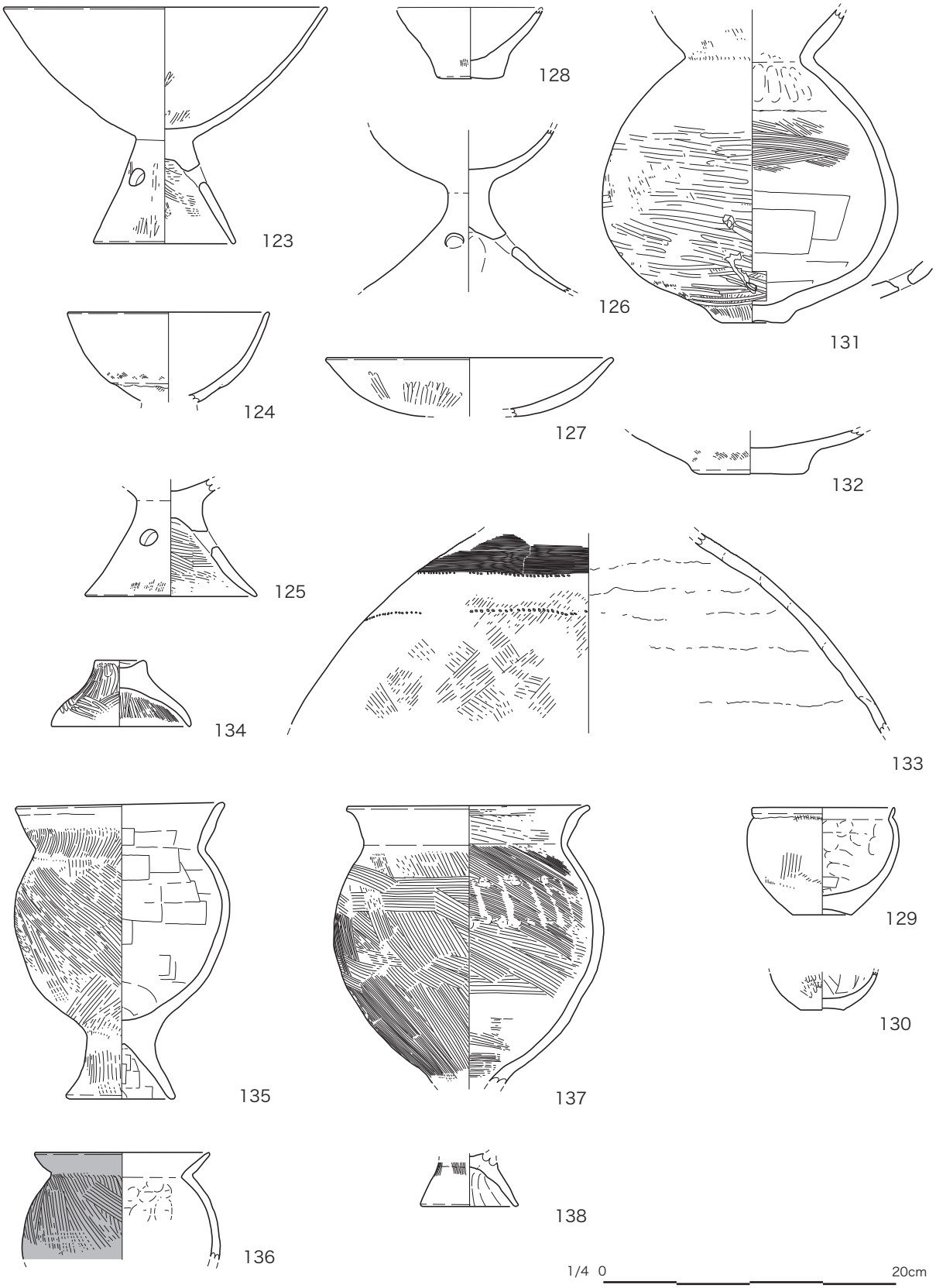


図 3-13　2 期 出土土器実測図 -2（1:4）

08B 2410SI

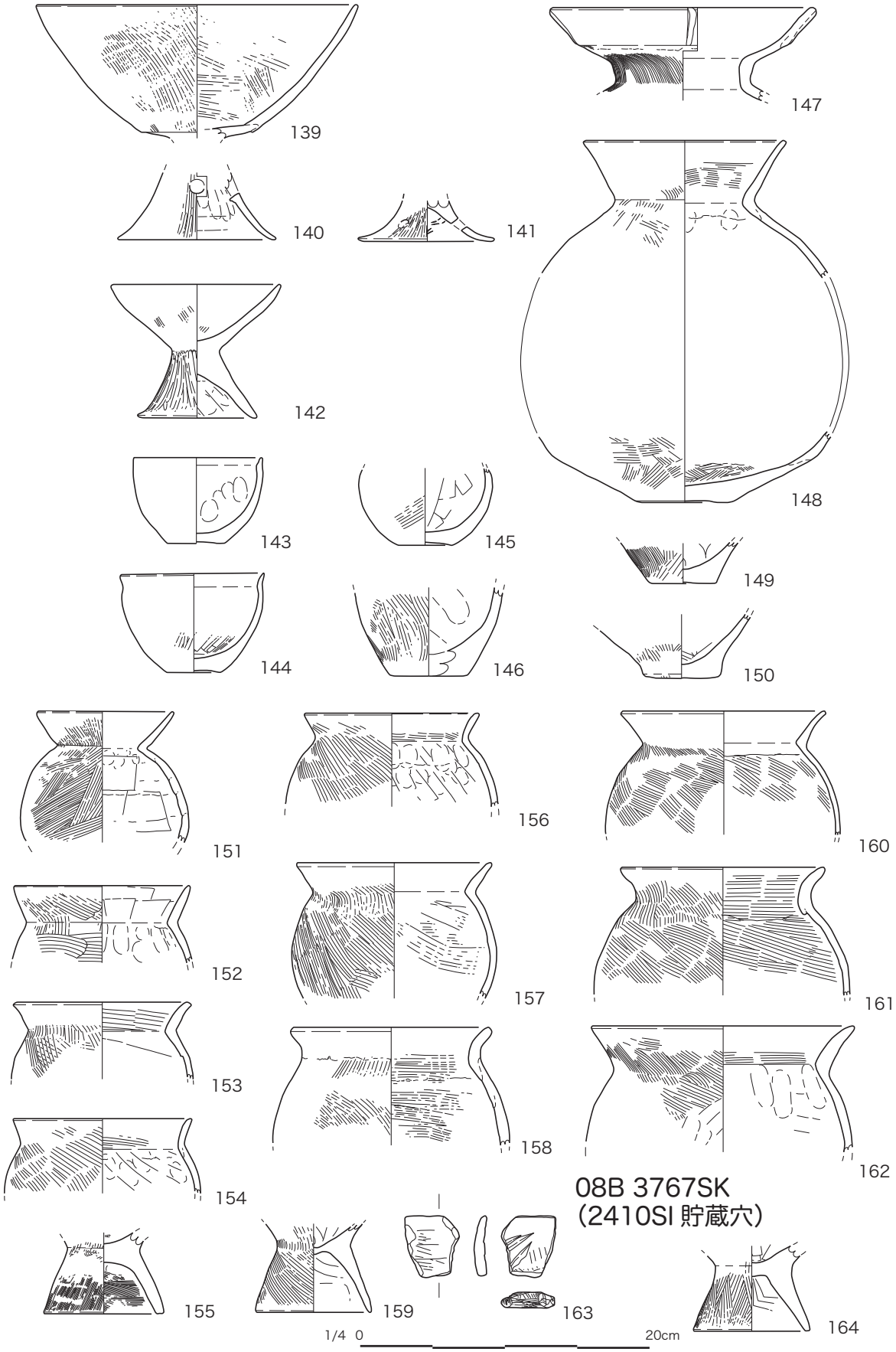
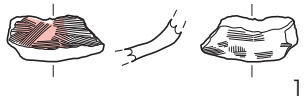


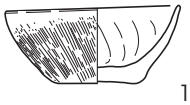
図 3-14　2 期 出土土器実測図 -3（1:4）

08B 2571SI



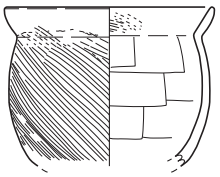
165

08B 2840SK
（2571SI 貯蔵穴）



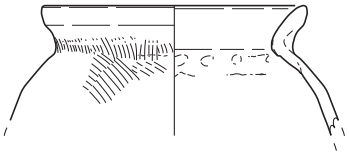
166

08B 2681SI



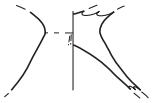
167

08B 2810SI



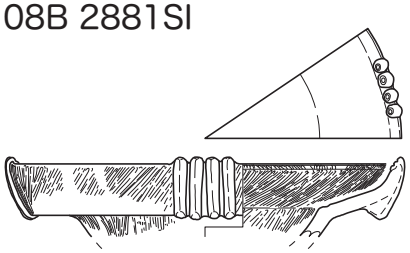
168

08A 871SL（2810SI 炉）



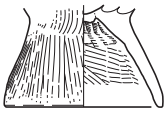
169

08B 2881SI



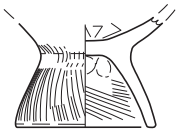
170

08B 3020SI

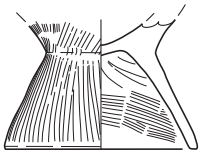


171

08B 3514SK（3020SI 貯蔵穴）

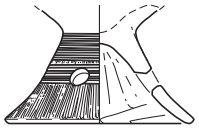


172

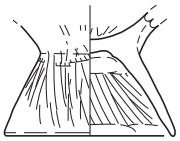


173

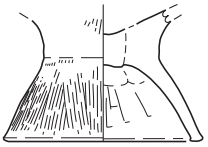
08B 3124SI



174

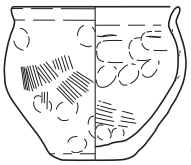


175



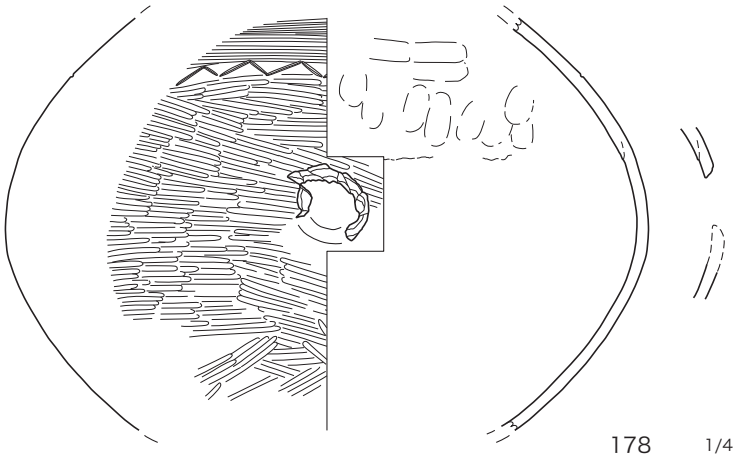
176

08B 3742SK
（3124SI 貯蔵穴）



177

08B 3699SI



178

1/4 0 20cm

図 3-15　2 期 出土土器実測図 -4（1:4）

08B 3314SI-1

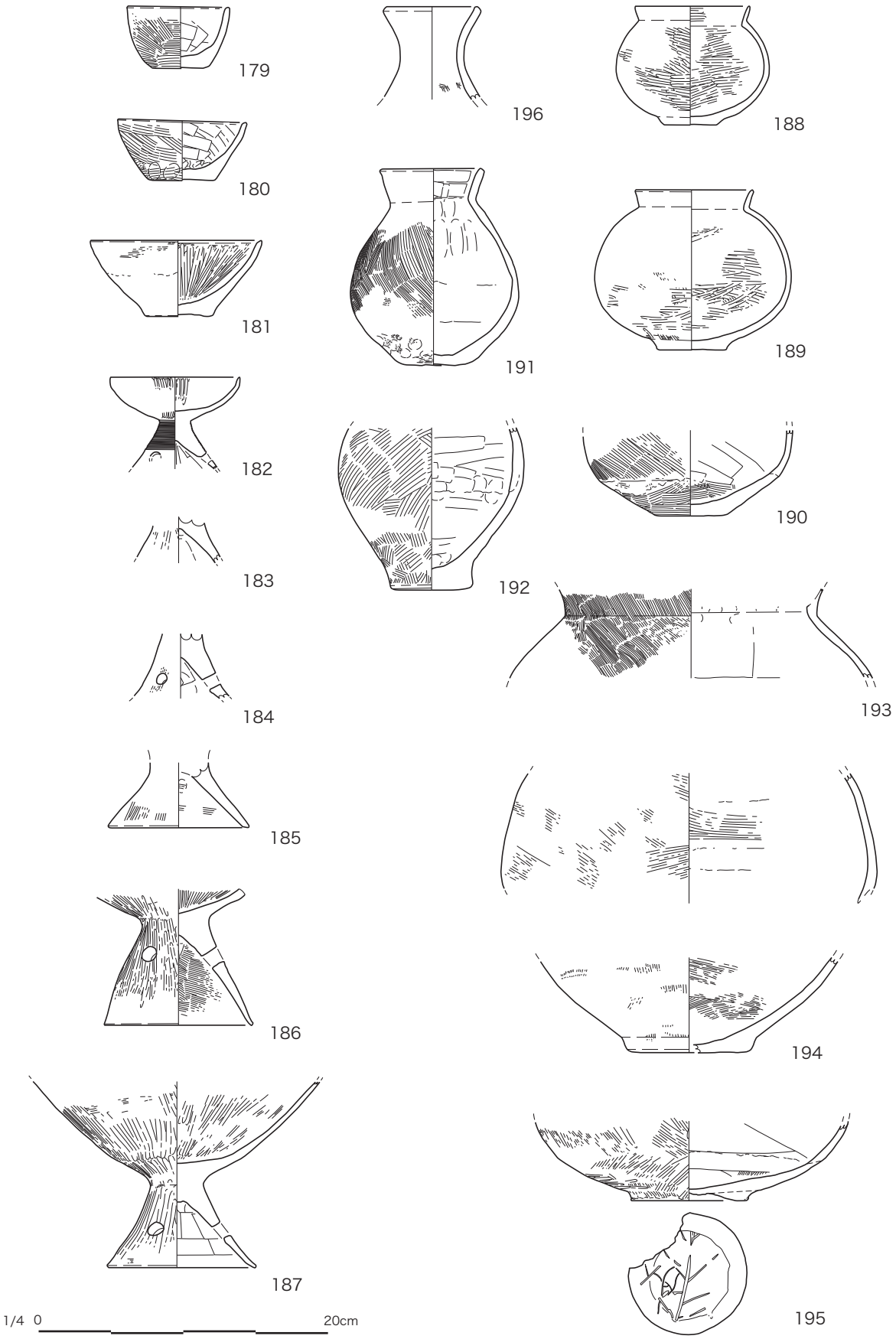
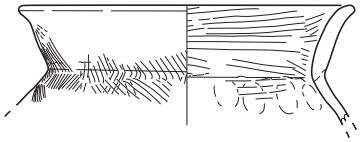
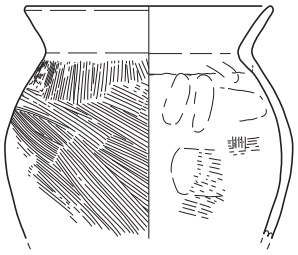


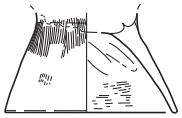
図 3-16　2 期 出土土器実測図 -5（1:4）

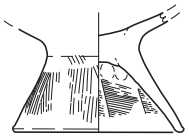
08B 3314SI-2

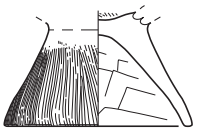

197


198

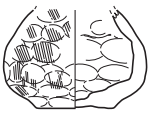

199


200

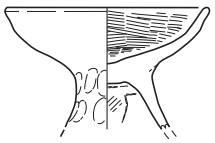

201


202

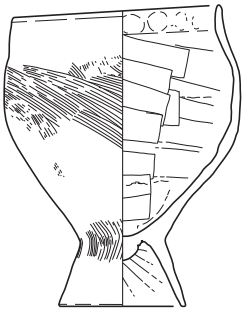
08B 3744SK
（3314SI 貯蔵穴？）


203

08B 3846SK
（3314SI 貯蔵穴？）


204

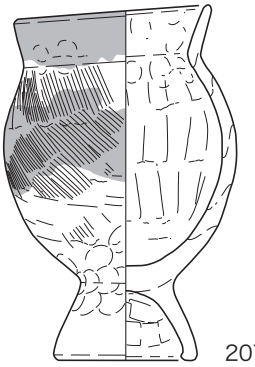
08B 3825SK
（3314SI 貯蔵穴？）


206

09 7504SK


205

09 包含層


207

1/4 0 20cm

図 3-17　2 期 出土土器実測図 -6（1:4）

09 6548SI

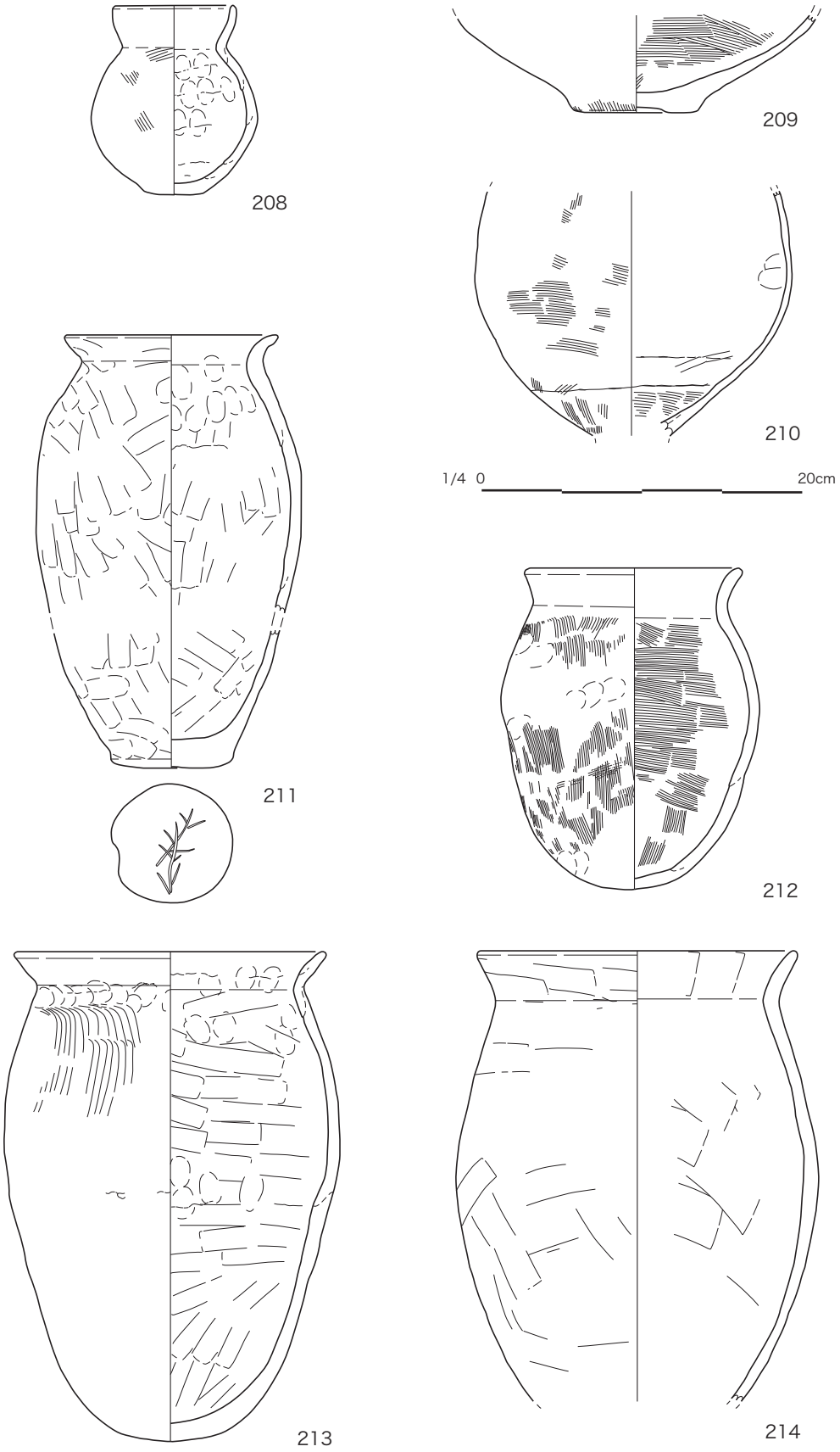


図 3-18　2 期 出土土器実測図 -7（1:4）

09 6792SI

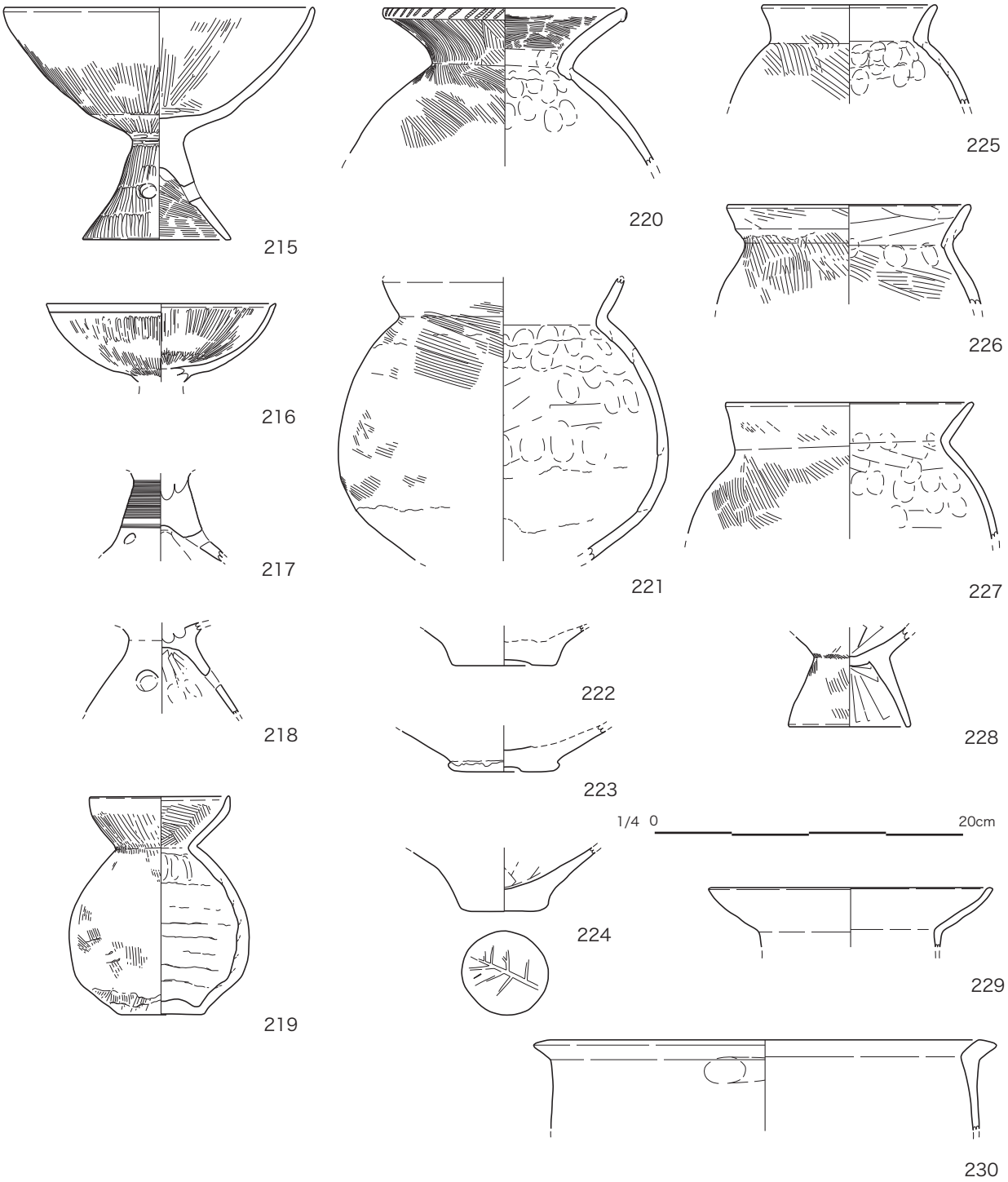


図 3-19　2 期 出土土器実測図 -8（1:4）

(3) 3・4 期の土器・陶磁器

09 区　6001SK 出土土器（283・284）

283・284 はいずれも三河型の丸底甕で 283 は内外面ともに板ナデ､284 は外面底部をハケ調整。折戸 10 号窯式期併行。

09 区　6002SK 出土土器（285）

283・284 と同じく三河型丸底甕。折戸 10 号窯式期併行。

09 区　6882SK 出土土器（286 ～ 288）

286 は体部が球状の土器で、肩部を欠損する。287 は三河型の丸底甕。188 は甑で把手を欠損。いずれも岩崎 17 号窯式期併行。

08A 区　12SK 出土土器（231）

231 は渥美・湖西産の山茶碗で所属時期は 12 世紀代。

08A 区　14SK 出土土器（232）

232 も同じく渥美・湖西産の山茶碗で 12 世紀。

08A 区　17SK 出土土器（233）

233 は尾張型山茶碗の第 5or6 型式で、所属時期は 12 世紀第 4 四半期～ 13 世紀第 2 四半期。

08A 区　143SK 出土土器（234）

234 も尾張型山茶碗で第 5 型式。12 世紀代 4 四半期～ 13 世紀代 1 四半期。

08A 区　195SI 出土土器（235）

235 は東三河型の土師器皿で 13 世紀代のもの。

08A 区　196SI 出土土器（236）

236 は南伊勢型鍋で 14 世紀代。

08A 区　230SD 出土陶器（237）

237 は瀬戸・美濃の天目茶碗の底部で登窯 1。17 世紀代 1 四半期に属する。

08A 区　486SK 出土土器（238）

238 はくの字型内耳鍋で、16 ～ 17 世紀代のもの。

08A 区　1107SK 出土土器（239）

239 は折戸 53 号窯式期の灰釉陶器椀で、10 世紀前半の所属。

08A 区　1204SK 出土土器（240）

240 は渥美・湖西産の山茶碗で 12 世紀。

08A 区　1347SK 出土土器（241）

241 は土師器の羽釜で 14 世紀代。

08A 区　1516SK 出土土器（242）

242 は渥美・湖西産の山茶碗で 12 世紀。

08A 区　1766SK 出土土器（243）

243 も渥美・湖西産の山茶碗で 12 世紀。

08B 区　2013SI 出土土器（244）

244 は東三河型の土師器皿で 15or16 世紀代。

08B 区　2019SK 出土土器（245）

245 は渥美・湖西産の山茶碗で 12 世紀。

08B 区　2068SK 出土磁器（246）

246 は青磁花弁碗で 13 世紀のもの。

08B 区　2166SK 出土土器（247・248）

247・248 はくの字型内耳鍋で 16or17 世紀代のもの。

08B 区　2178SD 出土土器（249）

249 は東三河型の土師器皿で 16 世紀代。

08B 区　2503SK（250）

250 は須恵器杯 H 身で岩崎 17 号窯式期に所属。時期は 7 世紀後半。

08B 区　2532SK 出土土器（251）
251 は渥美・湖西産の山茶碗。

08B 区　2682SI 出土土器（252）
252 は鳴海 32 号窯式期の須恵器杯 B 身で、時期は 8 世紀後半。内面に漆が付着する。

08B 区　2959SK 出土陶器（253）
253 は瀬戸・美濃の鉄釉丸皿で大窯 2 期。時期は 16 世紀第 2 四半期。

08B 区　2999SK 出土陶器（254）
254 は瀬戸・美濃の灰釉丸碗で大窯 1 期。時期は 16 世紀第 1 四半期。

08B 区　3055SK 出土土器（255）
255 は東三河型の土師器皿で 16 世紀代のもの。

08B 区　3105SK 出土土器（256）
256 は渥美・湖西産の山茶碗で 12 世紀代。

08B 区　3153SI 出土土器（257）
257 は東三河型の土師器皿で 16 世紀代。

08B 区　3293SK 出土土器（258）
258 は渥美・湖西産の山茶碗で 12 世紀代。

08B 区　3543SK 出土土器（259）
259 も渥美・湖西産の山茶碗で 12 世紀代。

09 区　5031SD 出土陶器（260）
260 は古瀬戸後期の仏具で 15 世紀代。

09 区　5077SD 出土土器・陶器・瓦（261 ～ 264）
261 は瀬戸・美濃の広東茶碗で 19 世紀代。262・263 は渥美・湖西産の山茶碗で 12 世紀。264 は丸瓦で内面に布目の圧痕をとどめる。古代の瓦か。

09 区　5113SK 出土土器（265）
265 はくの字型内耳鍋で 16 世紀代のもの。

09 区　5146SK 出土土器（266）
266 は山茶碗の底部で 12 世紀代。

09 区　6519SK 出土土器（267）
267 は東三河型の土師器皿で 16 世紀代。

09 区　6686SK 出土土器（268）
268 はくの字型内耳鍋で 16or17 世紀代。

09 区　6839SI 出土土器（269）
269 は渥美・湖西産の山茶碗で 12 世紀。

09 区　6851SI 出土土器・陶器（270・271）
270 は渥美・湖西産の壺口縁部で 12 世紀代。271 は常滑の甕底部。

09 区　6852SI 出土土器（272 ～ 275）
272・273 は渥美・湖西産の山茶碗。274・275 は同じく渥美・湖西産の捏ね鉢。いずれも 12 世紀代のもの。

09 区　6853SI 出土土器（276・277）
276・277 は渥美・湖西産の山茶碗。276 が 12 世紀、277 は 13 世紀代のもの。

09 区　6875SD 出土土器（278・279）
278 は渥美・湖西産の山茶碗で 12 世紀。279 は東三河型の土師器皿で 15or16 世紀代。

09 区　6917SK 出土土器（280）
280 は山茶碗の小皿で 13 世紀代。

09 区　7084SK 出土土器（281）
281 は伊勢型鍋で 14 世紀代。

09 区　7087SK 出土土器（282）
282 は渥美・湖西産の山茶碗底部。

09 区　7264SD 出土土器（289 ～ 295）

289・291・292 は半球型内耳鍋で 16 世紀代。290・293 はくの字型内耳鍋で同じく 16 世紀代。294 は擂鉢で中世前半。295 は渥美・湖西産の甕底部で 12or13 世紀代。

09 区　7573SK 出土陶器（296）

296 は古瀬戸の擂鉢で後Ⅳ期古段階。15 世紀第 2 四半期頃。

09 区　7640SK 出土土器（297）

297 は渥美・湖西産の山茶碗で 12 世紀。

09 区　7645SK 出土土器（298）

298 は東三河型の土師器皿で 15or16 世紀代。

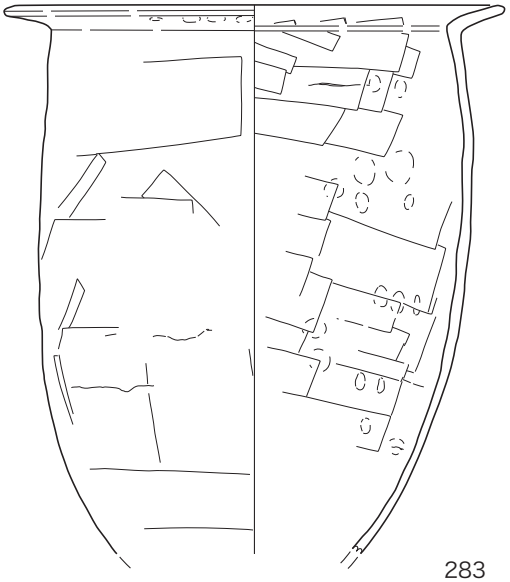
09 区　検出Ⅰ出土土器・磁器（299 ～ 301）

299 は白磁小皿で 15or16 世紀代。300 は青磁花弁碗で 13 世紀。301 は須恵器高杯の脚部で岩崎 17 号窯式期併行。7 世紀後半に属する。

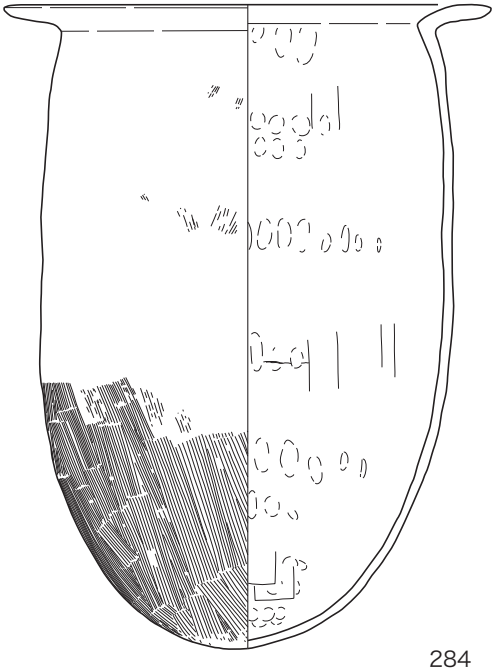
09 区　検出Ⅱ出土土器（302）

302 は鳴海 32 号窯式期併行の須恵器杯 B 蓋で 8 世紀後半代。（樋上　昇）

09 6001SK

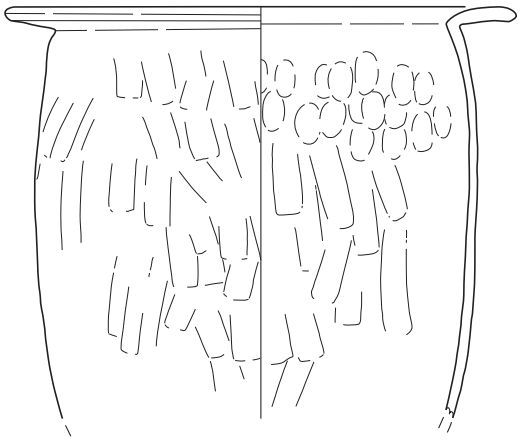


283



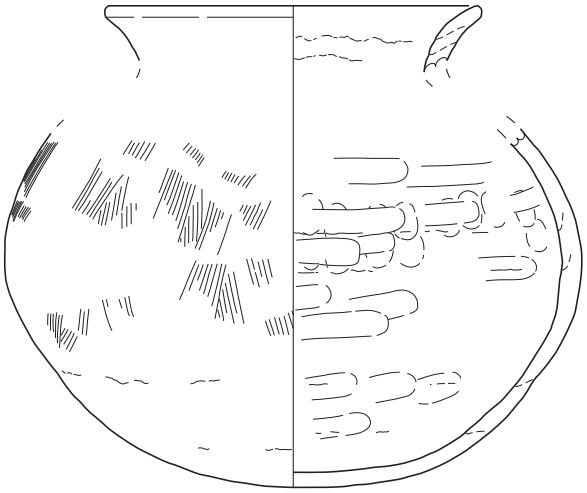
284

09 6002SK



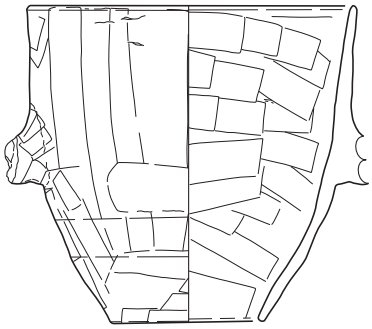
285

09 6882SK



286

287

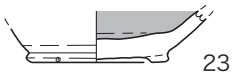


288

1/4 0 20cm

図 3-20　3 期 出土土器実測図（1:4）

08A 12SK



231

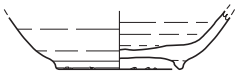
08A 14SK

232

08A 17SK

233

08A 143SK



234

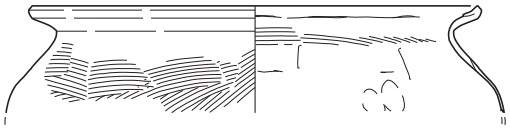
08A 195SK

235

08A 230SD

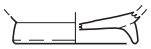
237

08A 196SI



236

08A 1107SK

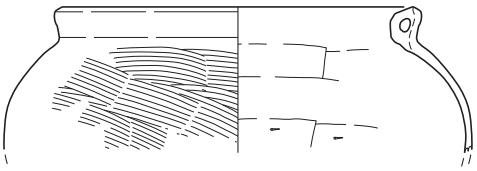


239

08A 1204SK

240

08A 486SK

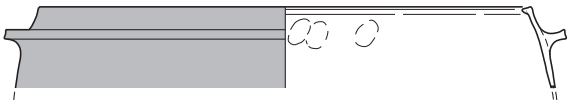


238

08A 1516SK

242

08A 1347SK



241

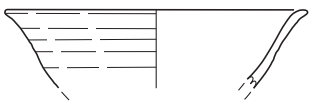
08A 1766SK

243

08B 2013SI

244

08B 2019SK



245

08B 2068SK

246

1/4 0 20cm

図 3-21　4 期 出土土器実測図 -1（1:4）

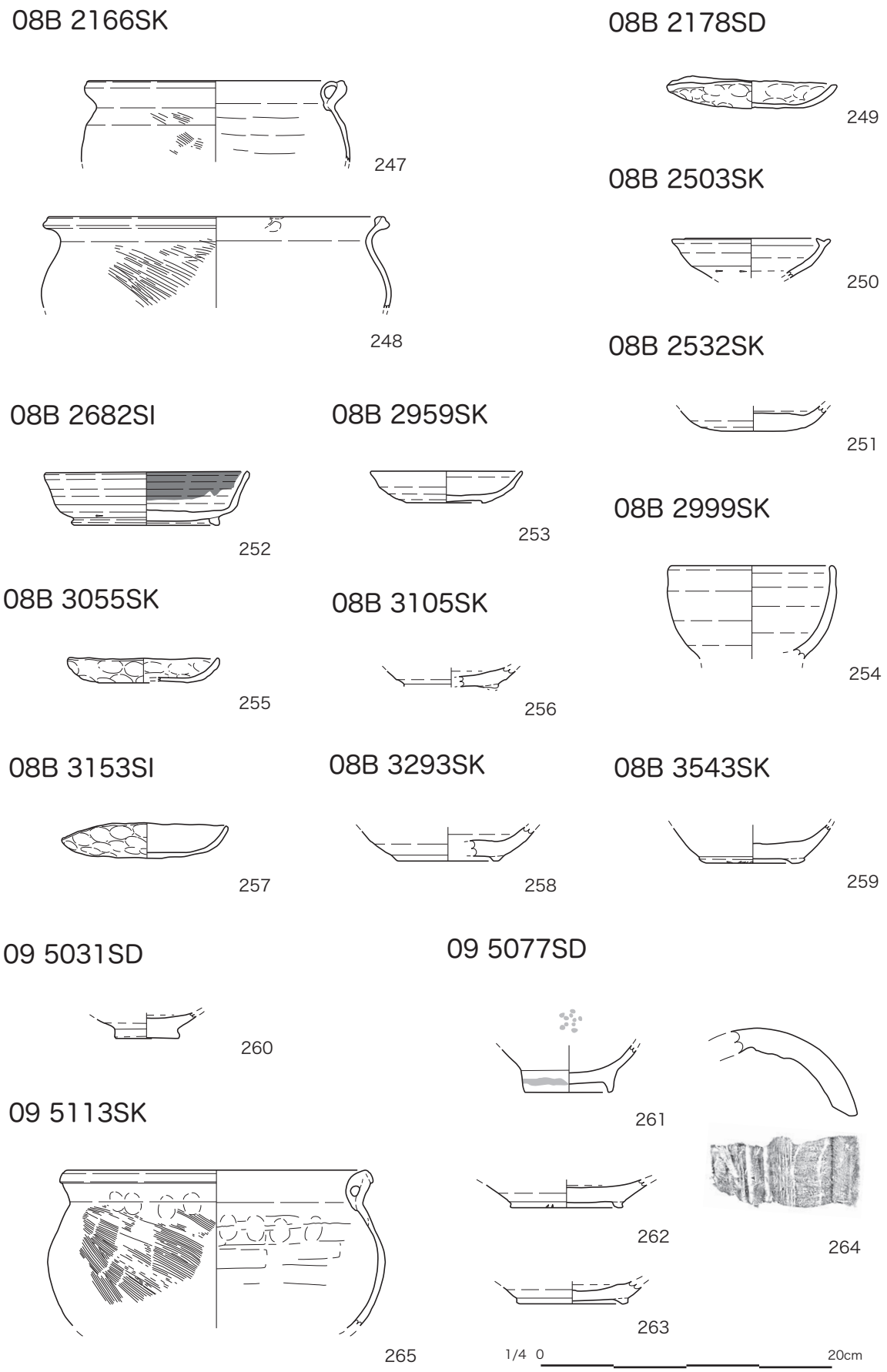
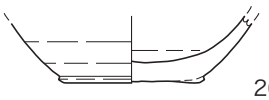


図 3-22　4 期 出土土器実測図 -2（1:4）

09 5146SK

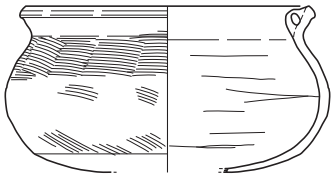


266

09 6519SK

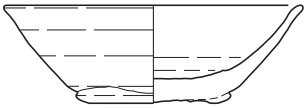
267

09 6686SK



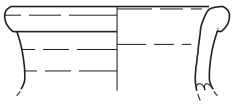
268

09 6839SI

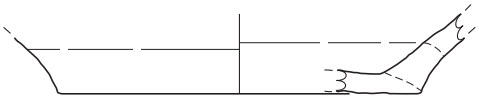


269

09 6851SI



270

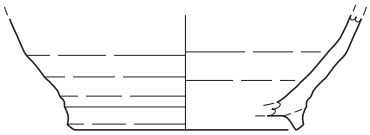


271

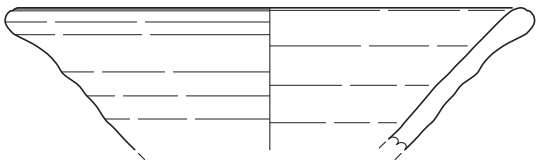
09 6852SI

272

273



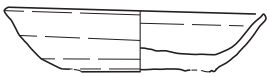
274



275

09 6853SI

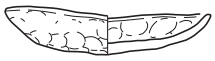
276



277

09 6875SD

278

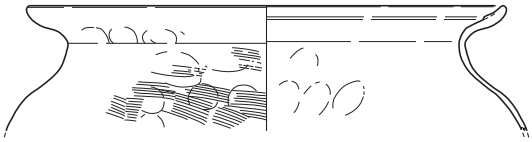


279

09 6917SK

280

09 7084SK



281

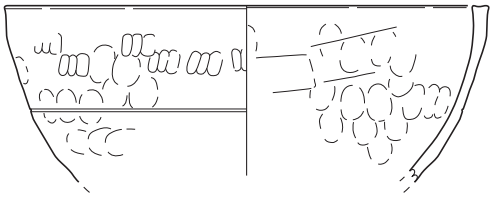
09 7087SK

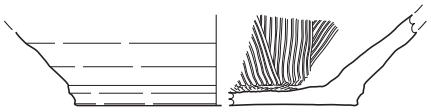
282

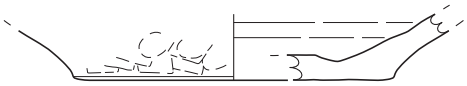
1/4 0 20cm

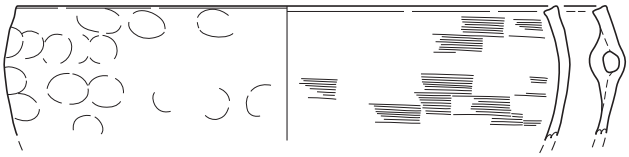
図 3-23　4 期 出土土器実測図 -3（1:4）

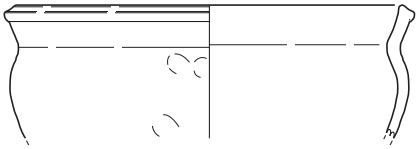
09 7264SD

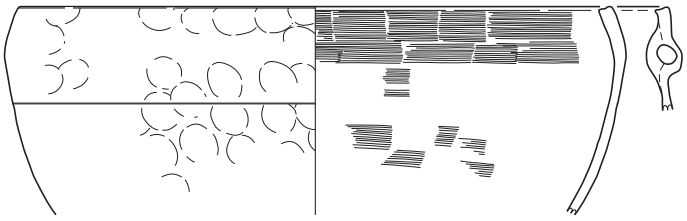

289

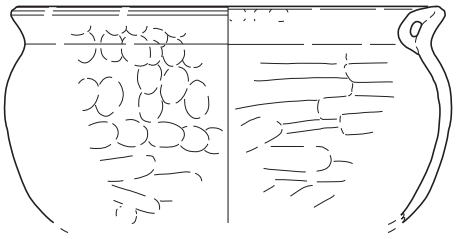

294


295

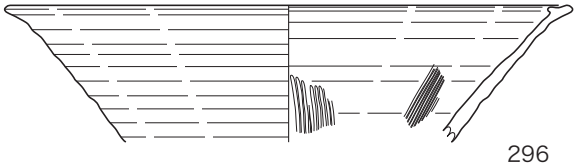

291


290


292


293

09 7573SK


296

09 7640SK

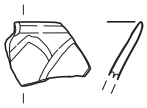

297

09 7645SK


298

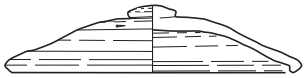
09 検 1


299


300


301

09 検 2


302

1/4 0 20cm

図 3-24　4 期 出土土器実測図 -4（1:4）

2. 石器・石製品

モリ下遺跡から出土した石器・石製品器種および点数を表3-1・2にまとめた。後期旧石器時代から縄文時代までに属するものは28器種516点、古代から近世に属するものは2器種28点である。第1節で報告した良好な状態での縄文土器出土遺構から石器が共伴出土する事例は、08A区774SK・1719SK・2684SK、08B区3403SK・3834SXと、極めて限定的であるが、これらの資料の帰属時期は出土土器の時期に想定することができる。

(1) 後期旧石器～縄文時代

この報告では、保存状態の良い77点を図示する。

図3-25には、全調査区を通じて後期旧石器時代～縄文時代草創期にかけての石器群を集めた。1・2はナイフ形石器である。いずれも縦長剥片の打点側を基部に置き、一側辺に刃潰し加工が施されているものである。使用石材は、1は下呂石・2はチャートである。3は縦長剥片の側辺に微細剥離が認められるもので、サイドスクレイパーあるいは使用痕のある剥片である。剥片の作出に際して、事前に打点側の調整が行われている。4も同様な縦長剥片であるが、微細剥離などが認められないものである。いずれも熔結凝灰岩製である。5は有舌尖頭器で、表裏両面に斜行剥離が認められる。チャート製である。6は槍先形の尖頭器で、身部中央まで達する剥離調整のあと、側辺部を中心に押圧剥離で最終調整している様子を観察できる。下呂石角礫製である。7～9には、後期旧石器時代に属する可能性のある石核を集めた。7・8は打面調整を行ってから、連続して縦長剥片を作出している様子を観察することができる。9は打面転移をしながら剥離調整を行っており、縄文時代に下る資料かもしれない。いずれも熔結凝灰岩製である。

図3-26および3-27は、縄文時代以降の石鏃・スクレイパーなどの剥片石器に対応するものを掲載した。図3-26は08A・B区出土資料、図3-27は09区出土資料である。

石鏃（10・18～21）

6点出土したうち、5点を図化した。10・18は凹基、19・20は平基の無茎鏃である。21も無茎鏃と考えられるもので、鏃身部両面に研磨が施されている局部磨製石鏃あるいは部分磨製石鏃である。使用石材は10・18・19が熔結凝灰岩、20・21が黒曜石である。

石錐（22・23）

2点出土し、すべて図化した。両者とも平面形状が柳葉形を呈するもので、一端に作り出しが認められるものである。使用石材は22が安山岩、23がチャートである。

石匙（24）

1点のみの出土である。縦長状の素材剥片の端部に摘み部を、側辺表面に刃部の調整・使用痕が認められるものである。使用石材はサヌカイトか。

スクレイパー・使用痕剥片（11～14・16・17・25～29）

合わせて21確認し、11点を図化した。11は、水滴状の平面形状を呈するものである。横長の貝殻状剥片の側辺表面に刃部加工が施されている。使用痕と思われる微細剥離は、表面のみならず裏面にも若干認められるか。16は、両面に同等の剥離調整が行われているもので、やや湾曲する形状である。一端に微細剥離が集中する部分が認められるため、スクレイパーと考えたが、別器種かもしれない。熔結凝灰岩製。その他は、縦長状の剥片・貝殻状の剥片・菱形状の剥片の端辺および側辺に刃部加工や使用痕などによる微細剥離が認められる。使用石材は、熔結凝灰岩が8点、凝灰岩が5点、チャートが5点、安山岩が2点、黒色片岩が1点である。

楔形石器（30・31）

2点出土し、すべて図化した。対抗する両辺に階段状剥離が認められる。石材は、30は松脂岩、31が凝灰岩である。

剥片・石核など

石核は20点、剥片および二次加工のある剥片は214点を数えた。石核の石材は、熔結凝灰岩が10点（50%）・重さ計299.3g、凝灰岩が7点・重さ計314.4g、安山岩が2点・重さ計503.2g、砂質凝灰岩が1点・重さ163.5gである。15は石核で、打面転位をしながら各面で剥片作出が行われているものである。

石材は、熔結凝灰岩74点（34.58%）・重さ計447.3g、凝灰岩74点（34.58%）・重さ計329.0g、安山岩35点（16.36%）・重さ計343.3g、黒曜石9点（4,20%）・重さ計10.0g、チャート7点（3.27%）・重さ計24.0g、砂質凝灰岩7点（3.27%）・重さ計78.1g、凝灰質泥岩2点（0.93%）・重さ計3.1g、長石（重さ136.2g）・片麻岩（重さ127.7g）・結晶片岩（重さ2.1g）・緑色片岩（重さ1.6g）・下呂石（重さ5.6g）は各1点ずつ（各0.47%）である。

打製石斧（32・41～43・47・51・52）

10点出土したうち7点を図化した。32は両面に同等の剥離調整が施されているもので、短冊形になるか。緑色片岩製である。41・42は刃部と想定される位置に摩滅痕あるいは線状痕が確認できるもので、これらは使用痕であろう。41はやや厚手で、刃部側が幅狭になる短冊形である。42は打面を転移して連続して作出された横長の大型剥片の一つを用いたものと考えられる。43の平面形状は41に類似するものであるが、使用痕などは顕著ではない。使用時は天地逆であった可能性もある。47は細身の形状を呈するもので、両面ともに入念な剥離調整が施されている。51は、礫面を全面に残す縦長状剥片の縁辺に剥離調整が施されているもので、短冊形か。52は両面同等の剥離が施されているもので、短冊形か。使用石材は、緑色片岩3点、塩基性岩2点、凝灰岩・安山岩・結晶片岩・閃緑岩・砂岩が各1点ずつである。

刃器（37・45・55）　5点出土しているうち、3点を図化した。37は三角形状になった、横長の貝殻状剥片の縁辺部に使用によると考えられる不連続な剥離が認められるものである。45は湾曲した方形状の横長剥片の縁辺に不連続な剥離が認められる。全体的に板状かつ薄手である。55は横長剥片の表側縁辺部に不連続な剥離が認められる。使用石材は、砂質凝灰岩2点、凝灰質砂岩1点、泥質片岩1点、安山岩1点である。

礫器・大型剥片石核（34・35・38～40・44・49・54）

29点出土ししたうち、8点を図化した。一部礫面を残して全面に敲打あるいは剥離の痕跡が認められるものが多いなか、44のみはチョッピング・ツール様に礫端部のみ敲打・剥離の痕跡が認められる。使用石材は、安山岩が25点と圧倒的に多く、熔結凝灰岩・凝灰質砂岩・凝灰岩・アプライトが各1点ずつである。

大型剥片石器（33・36・46・48）

6点出土したうち、4点を図化した。33は端部に潰れたような敲打痕様の痕跡が認められることから、打製石斧かもしれない。その他は、貝殻状の横長剥片を用いたものが多いといえる。使用石材は安山岩3点の他は、凝灰岩・閃緑岩・緑色片岩が各1点ずつである。

磨製石斧（50）

1点のみの出土である。胴部には面を形成しないもので、現状では刃部側が欠失している。ハンレイ岩製である。

打欠石錘（56・59～61・63～65）　10点のうち、7点を図化した。対向する両辺に敲打あるいは剥離によって凹められたもので、扁平礫の長

軸側（60・61・64・65）、短軸側（56・59）、両軸方向（63）に施されている。61・65 はともに 16.7g と最も軽く、63 が 29.6g、59 が 37.4g、56 が 37.5g、60 が 48.1g、64 が 60.0g を量る。使用石材は、凝灰岩 3 点、砂質凝灰岩が 2 点、凝灰質砂岩・片麻岩・緑色片岩・緑色岩・塩基性岩が各 1 点ずつである。

切目石錘（57・58・62・82）

4 点出土しすべてを図化した。いずれも扁平礫の長軸方向の両端に切目が施されている。57 は切目間の平面部分にやや荒れた部分がある。62 は全体が被熱によって黒色化したものである。切目間の一平面に帯状に黒色化をしていない部分があり、これが紐の結縛痕となると考えられる。反対側の平面には敲打状の痕跡がある。使用石材は、57・58・62 が緑色岩、82 のみ塩基性岩である。

磨石敲石類（66 ～ 71）

34 点確認し、6 点を図化した。敲打痕と磨痕がともに認められるものが多いなか、敲打痕のみのもの（66･69）、磨痕のみのもの（71）もある。敲打痕は礫平面および側面中央部付近に認められるものが多いが、69 は礫の稜線に集中して認められる。使用石材は、花こう岩 13 点、凝灰岩 7 点、閃緑岩 5 点、凝灰質砂岩 3 点、安山岩 2 点、砂質凝灰岩 1 点、片麻岩 2 点、塩基性岩 1 点である。

石皿台石類（72 ～ 77）

16 点出土し、6 点を図化した。扁平になった大型礫を使用しているが、端部が敲打などによって打ち割られているものもある（73・74・76）。76・77 は土器埋設遺構（08B 区 3403SK）から出土したもので、構造物であった可能性もあるか。使用石材は花こう岩が 5 点、角閃石 3 点、安山岩が 2 点、結晶片岩・凝灰岩・凝灰質砂岩・砂質凝灰岩・片麻岩・アプライトが各 1 点である。

大型石棒（78）

大型石棒に関連するものを 1 点確認した。横長に作出されたもので、長さ 20cm を測る三角柱状の形状を呈するものである。一部稜線を中心に敲打調整が認められる。また、被熱による赤色化も確認できる。使用石材は凝灰岩である。

(2) 古代～近世

この時期に属するものとして、砥石 27 点と石臼 1 点がある。ここでは砥石 3 点のみを図示した（79 ～ 81）。いずれも直方体全面に研磨痕が残るものである。研磨痕の範囲内には金属製利器による鋭い溝状の痕跡が認められる。使用石材は、凝灰岩が 9 点、安山岩が 4 点、凝灰質砂岩が 3 点、泥質凝灰岩が 3 点、砂質凝灰岩･片麻岩が各 2 点、アプライト・泥岩・熔結凝灰岩・緑色片岩が各 1 点である。（川添和暁）

表 3-1　石器遺構など別出土点数表 -1

調査区	遺構名など	遺構帰属時期	ナイフ形石器	サイドスクレイパー	エンドスクレイパー	縦長剥片	後期旧石器などの石核	槍先形尖頭器	有舌尖頭器	石鏃	石錐	石匙	スクレイパー	使用痕剥片	二次加工のある剥片	剥片	楔形石器	石核	打製石斧	刃器	礫器 or 大型剥片石核	大型剥片石器	大型剥片	大型剥片石器原石	磨製石斧	打欠石錘	切目石錘	磨石敲石類	石皿台石類	大型石棒	砥石（古代・中世か）	石臼	備考
08A	196SI															1							1						1		1		
08A	199SD															1																	
08A	200SI																		1				2								1		
08A	230SD																						3								1		
08A	254SI																																
08A	282SI					1																									1		
08A	290SI															2																	
08A	291SI																			1			1					1					
08A	322SK																						1										
08A	323SK																	1															
08A	450SK																						1						1	1			
08A	481SK																						1										
08A	550SK															1																	
08A	552SK															1																	
08A	553SK												1			1																	
08A	557SK																																
08A	635SK															1																	
08A	647SK																	1															
08A	772SK																											1	1				
08A	773SK																											1	1				
08A	774SK	後期初頭～前葉														1					4		6	1			1						
08A	856SK															1																	
08A	889SK															1												1					
08A	912SK																					1											
08A	915SK															1																	
08A	987SK																														1		
08A	1031SK																											1					
08A	1051SI														1						1							1					
08A	1052SI																	1					1						2				
08A	1088SK																							1									
08A	1204SK																				1		1								1		
08A	1206SI																					1											
08A	1298SK																														1		
08A	1311SK																														1		
08A	1360SK																														1		
08A	1370SK												1																				
08A	1394SK															1																	
08A	1400SK																											1					
08A	1405SK																						1										
08A	1421SK																														1		
08A	1459SK				1																												
08A	1469SK														1																		
08A	1470SK												1																				
08A	1475SK															1																	
08A	1511SK															1																	
08A	1514SK																							1									
08A	1518SK															1																	
08A	1580SK																				1												
08A	1583SK															1																	
08A	1600SK															1																	
08A	1719SK	後期初頭～前葉																						1									
08A	1744SK																											2					
08A	1745SK																				1								1		1		
08A	1780SI																										1						
08A	1860SK															1																	
08A	1887SK												1																				
08A	1998SI															2																	
08A	検出1														2	7		1	2		1		11			1		1	1		1		
08A	検出2												1			4					1		5			1		1					
08A	検出									1														1					1				
08A	西トレンチ													1																			
08A	北西トレンチ															1					2		1					1					
08A	表土・撹乱												1			1		2			5	1	5					1			2		
08B	1891SK																														1		
08B	1893SK															1																	
08B	1912SK															1																	
08B	1915SK															1																	
08B	1940SK															1																	
08B	1941SK																						1										
08B	1951SD															2																	
08B	1991SK												1																				
08B	2013SI															1															1		
08B	2014SI															1							1										
08B	2029SK												1																				
08B	2050SK												1			1																	
08B	2067SI															6					1		2	1					2				
08B	2078SK														1																		
08B	2079SK																			1													
08B	2087SK																									1							
08B	2113SK															1																	
08B	2178SD																						1								1		
08B	2209SI															3																	
08B	2229SK															1																	
08B	2251SK																									1							
08B	2260SK																						1										
08B	2410SI															8																	
08B	2411SI																						1										
08B	2460SI																						1					1					
08B	2498SK																						1										
08B	252SI															1																	
08B	2539SK																											2					
08B	2544SI															2					1		3										
08B	2545SD															3							1										

表 3-2　石器遺構など別出土点数表 -2

調査区	遺構名など	遺構帰属時期	ナイフ形石器	サイドスクレイパー	エンドスクレイパー	縦長剥片	後期旧石器などの石核	槍先形尖頭器	有舌尖頭器	石鏃	石錐	石匙	スクレイパー	使用痕剥片	二次加工のある剥片	剥片	楔形石器	石核	打製石斧	刃器	礫器or大型剥片石核	大型剥片石器	大型剥片	大型剥片石器原石	磨製石斧	打欠石錘	切目石錘	磨石敲石類	石皿台石類	大型石棒	砥石（古代・中世か）	石臼	備考
08B	2549SK															1																	
08B	2571SI																											1					
08B	2575SK																						1										
08B	2577SI															1																	
08B	2603SI															4							1										
08B	2648SK																						1										
08B	2660SK																														1		
08B	2681SI															1					1								1				
08B	2682SI																	1															
08B	2684SK	早期前半																										1					
08B	2745SK																											1					
08B	2747SK															3					1		4										
08B	2748SK																						1										
08B	2749SK																						1										
08B	2782SK															1							2						1				
08B	2803SK																		1														
08B	2809SI																						1										
08B	2813SI																				1												
08B	2835SI																		1				1										
08B	2842SK															2																	
08B	2847SK																			1													
08B	2878SK																	1															
08B	2893SK																								1								
08B	3019SK															2																	
08B	3022SI															1																	
08B	3073SK																						1										
08B	3123SI																		1														
08B	3124SI															3						1	2										
08B	3126SK															1																	
08B	3153SI																			1													
08B	3297SK																											1					
08B	3314SI															2		1			1		4			2							
08B	3315SK																						1										
08B	3370SK															1																	
08B	3403SK	後期初頭～前葉								1													1	1					2				
08B	3518SK																						1										
08B	3567SI																											1					
08B	3263SD															1		1				1	1			1							
08B	3636SK															1																	
08B	3699SI															1							1								1		
08B	3744SK																												1				
08B	3764SK																											1					
08B	3810SK															1																	
08B	3831SK															1																	
08B	3834SX	早期前半																					1										
08B	3840SK																		1														
08B	検出1															1					1		1										
08B	北壁トレンチ		1																														
08B	東壁トレンチ															3		1	1		1		1					1					
08B	表土・攪乱															6		3		1	2	1	12				1	1			2		
09	5001SK															2																	
09	5004SD																	1															
09	5031SD																									1							
09	5077SD															2																	
09	5078SD																						1										
09	5102SD															1																	
09	5107SK															1																	
09	5110SK												1			1																	
09	5113SK																							2									
09	6024SK															2		1															
09	6084SK																											1					
09	6636SK															1																	
09	6645SK															1																	
09	6647SK															1																	
09	6670SK										1																						
09	6681SK															1																	
09	6703SK																	1															
09	6717SK															1																	
09	6728SD																		1									1					
09	6792SI																				1							1					
09	6838SI															1																	
09	6851SI																											1			1		
09	6853SI																											1					
09	6875SD															3																	
09	6882SK															1																	
09	7004SK															1																	
09	7021SK															1																	
09	7086SK																														1		
09	7156SK															1																	
09	7168SK															2																	
09	7208SK															1																	
09	7241SK															1																	
09	7657SK																															1	
09	7777SK															1																	
09	7979SK															1																	
09	検出1		1				1			2			2	1		12							3			1		1			2		石鏃の1点は局部or部分磨製石鏃
09	検出2			1			1	1		2		1	1	5	4	49	2	2	1		1		17			1		4					
09	検出など								1		1					1															1		
09	表土・攪乱						1						1		2	7		1				1					1				1		
	合計		2	1	1	1	3	1	1	6	2	1	14	7	11	##	2	20	10	5	29	7	##	9	1	10	4	34	16	1	27	1	

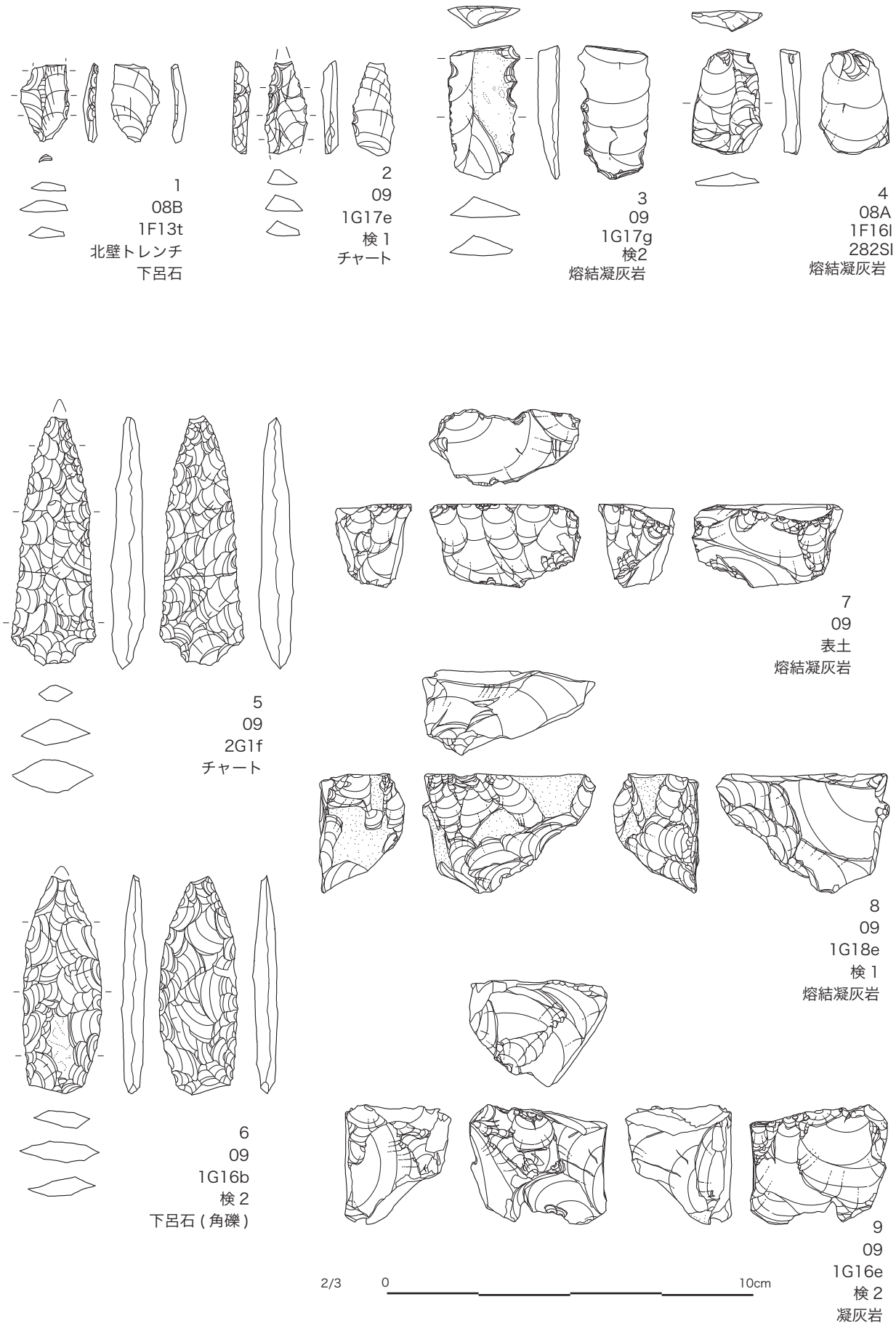


図 3-25　1 期 出土石器・石製品実測図 -1（2:3）

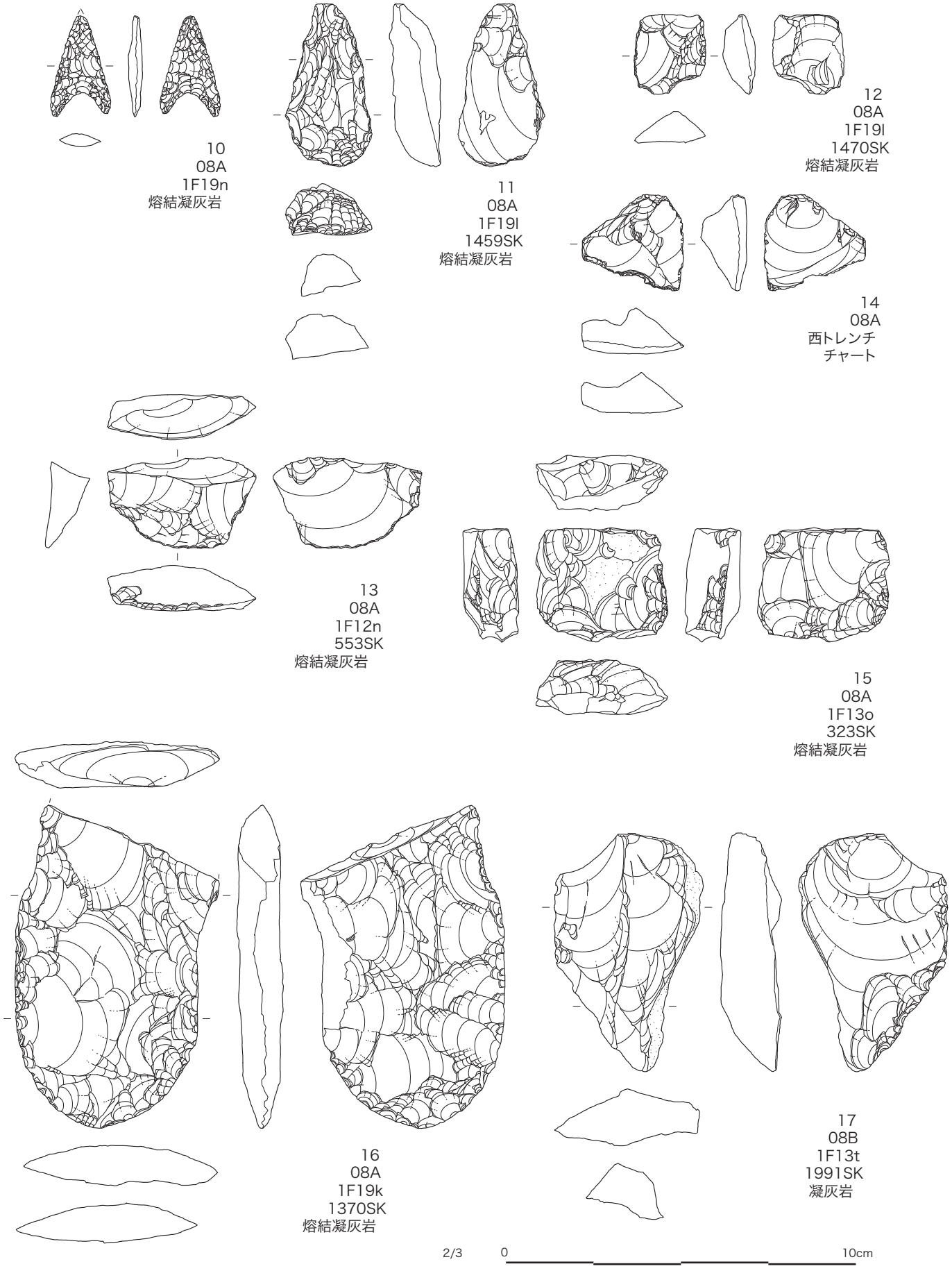


図 3-26　1 期 出土石器・石製品実測図 -2（2:3）

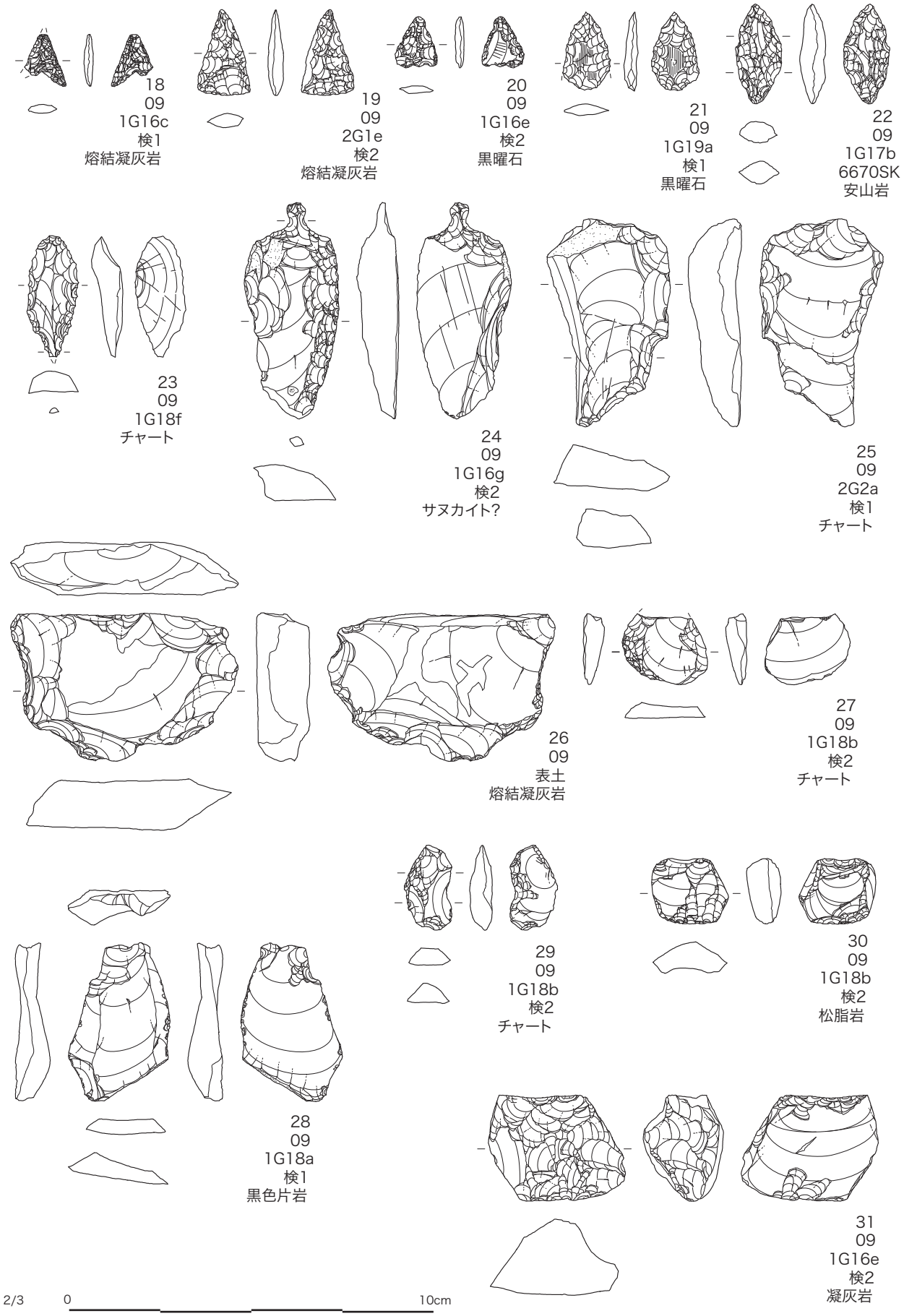


図 3-27　1 期 出土石器・石製品実測図 -3（2:3）

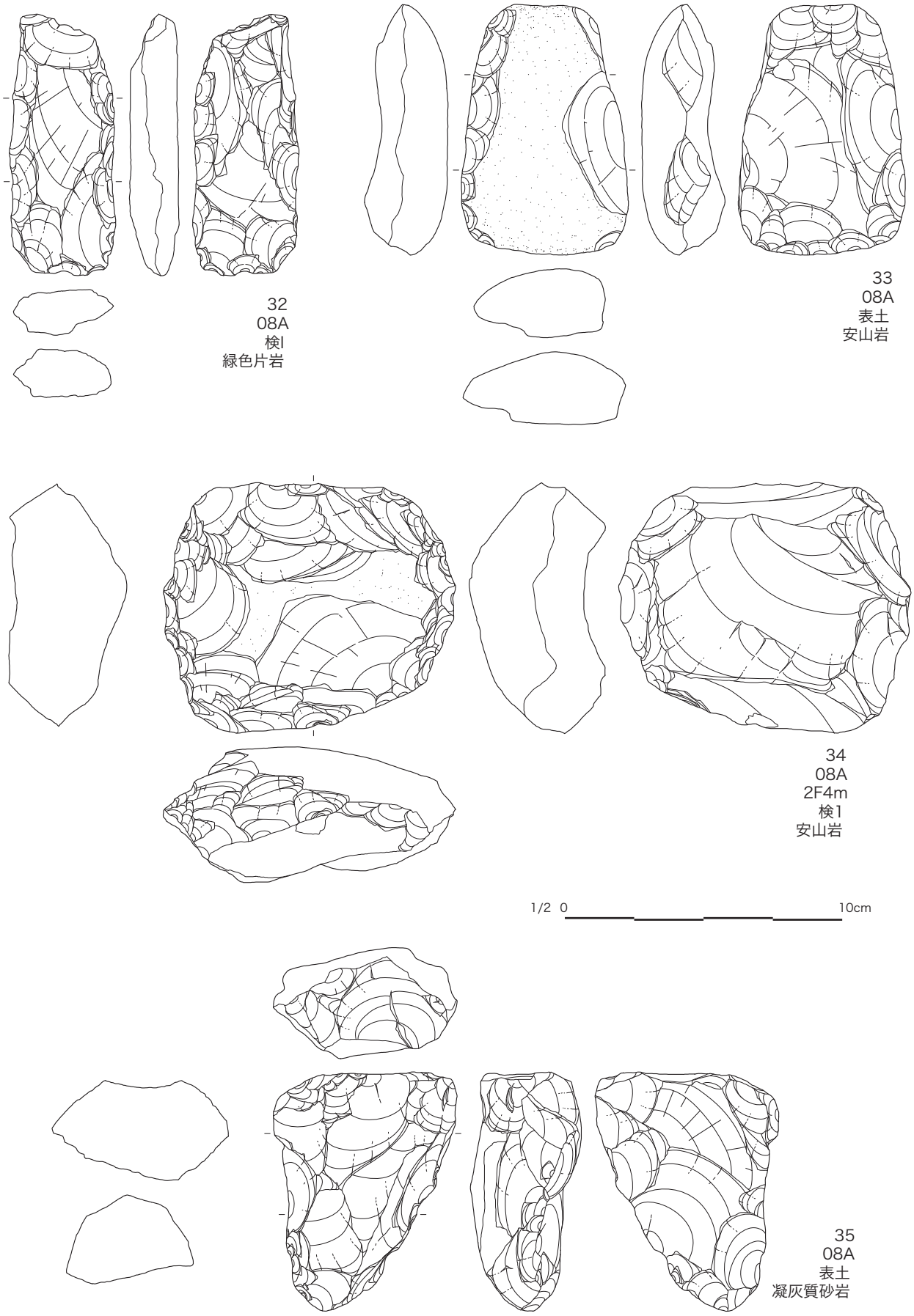


図 3-28　1 期 出土石器・石製品実測図 -4（1:2）

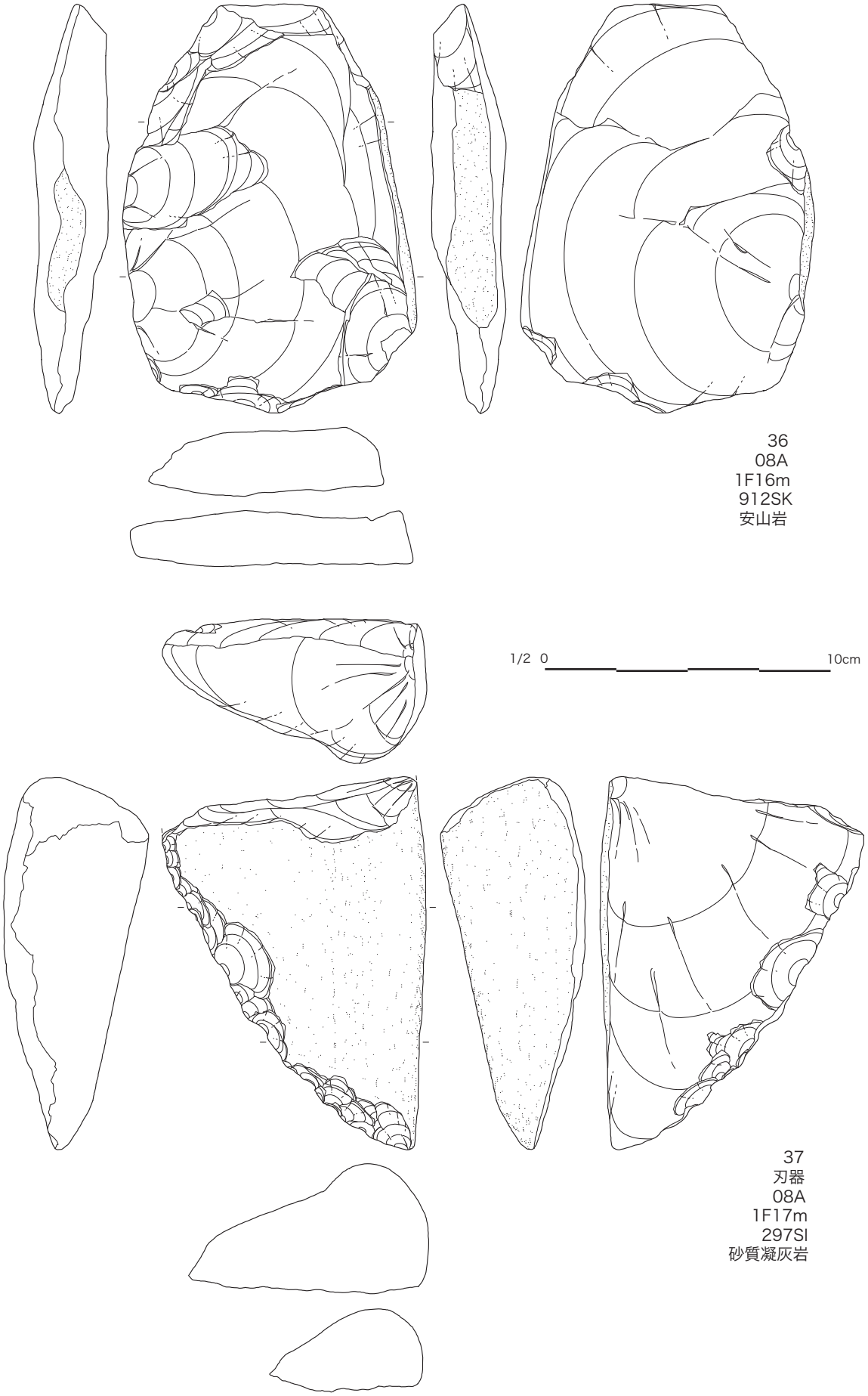
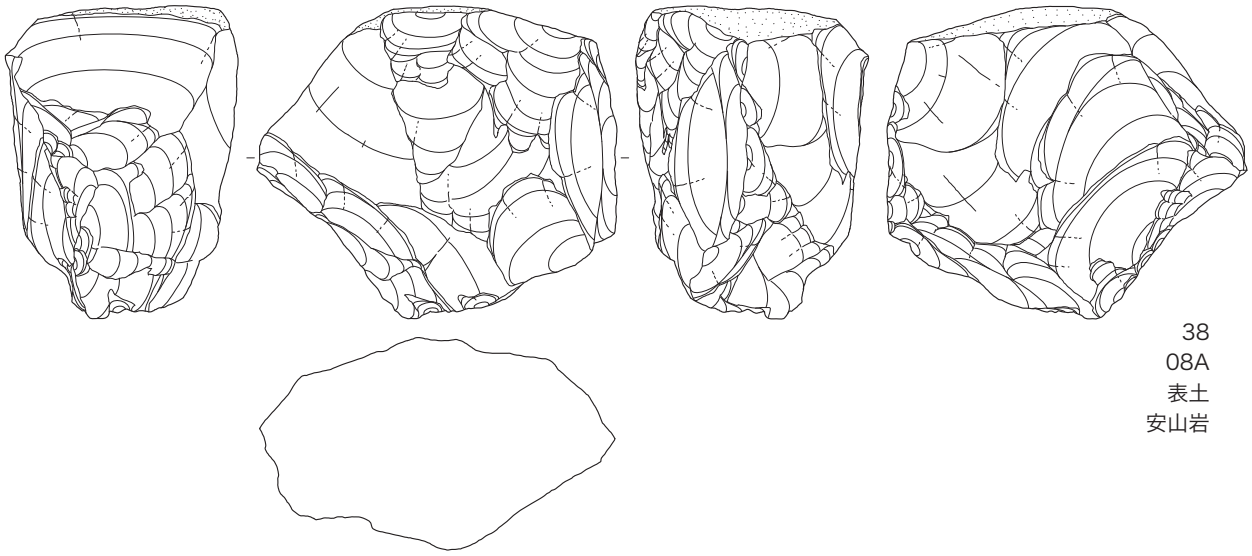
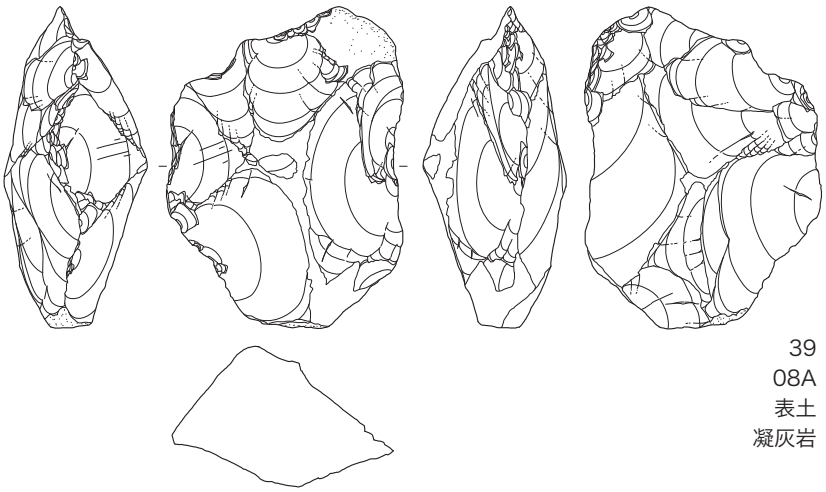


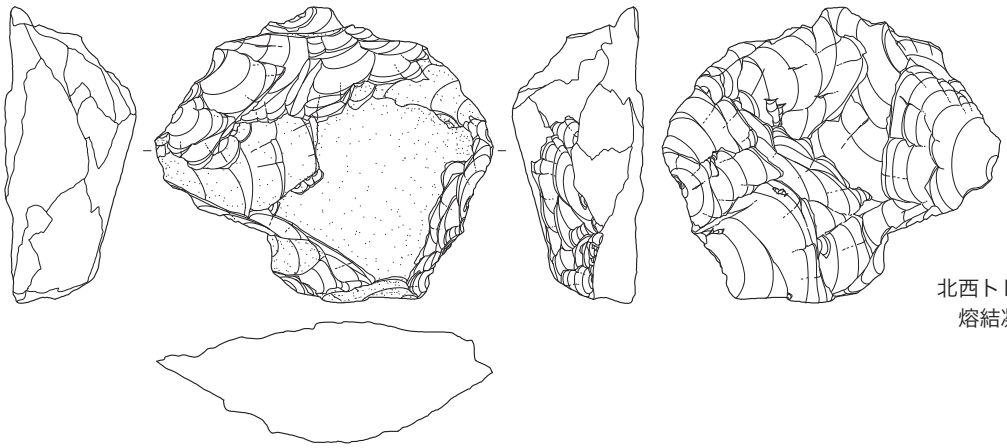
図 3-29　1 期 出土石器・石製品実測図 -5（1:2）



38
08A
表土
安山岩



39
08A
表土
凝灰岩



40
08A
北西トレンチ
熔結凝灰岩

1/2 0 10cm

図 3-30　1 期 出土石器・石製品実測図 -6（1:2）

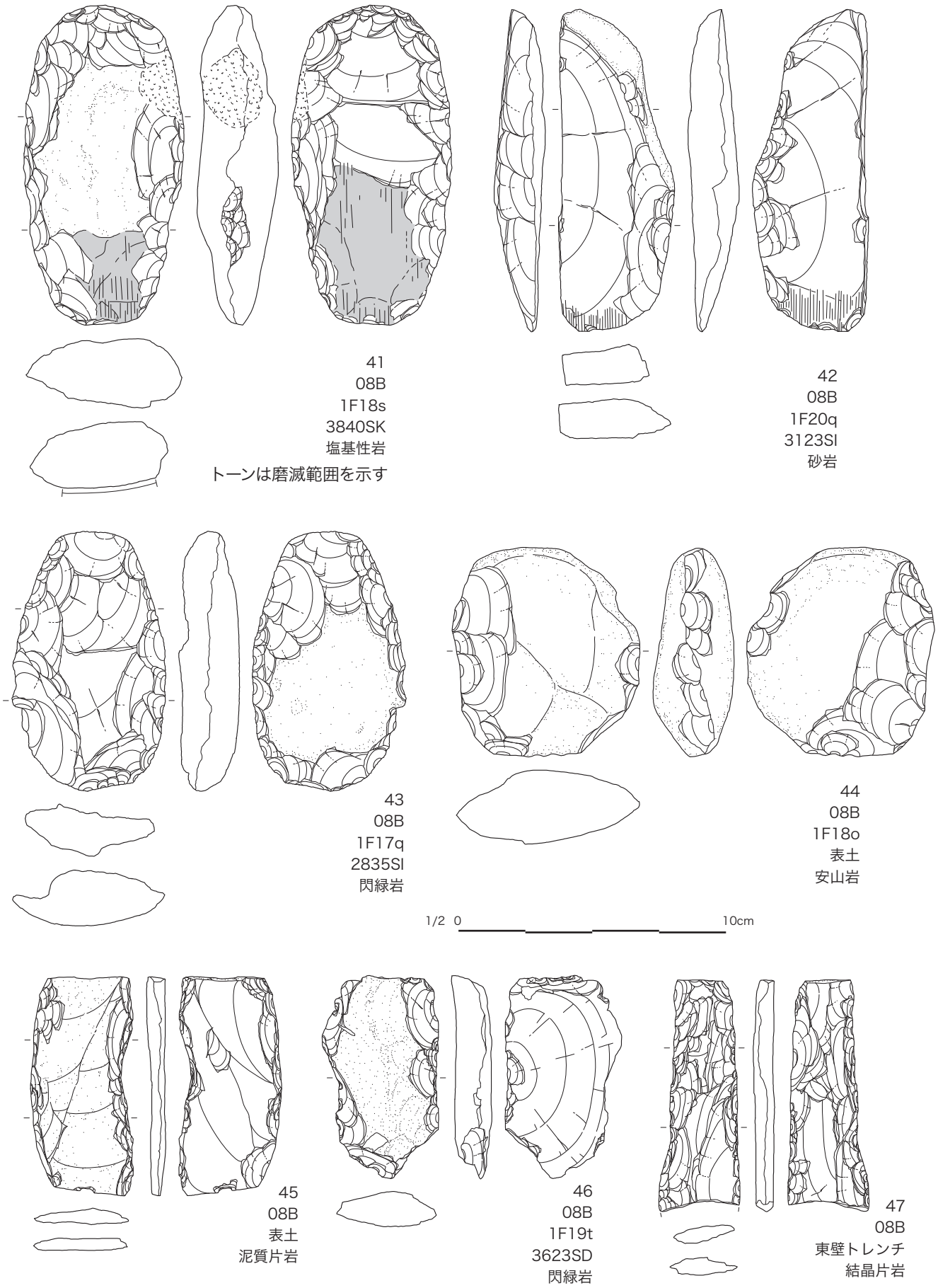
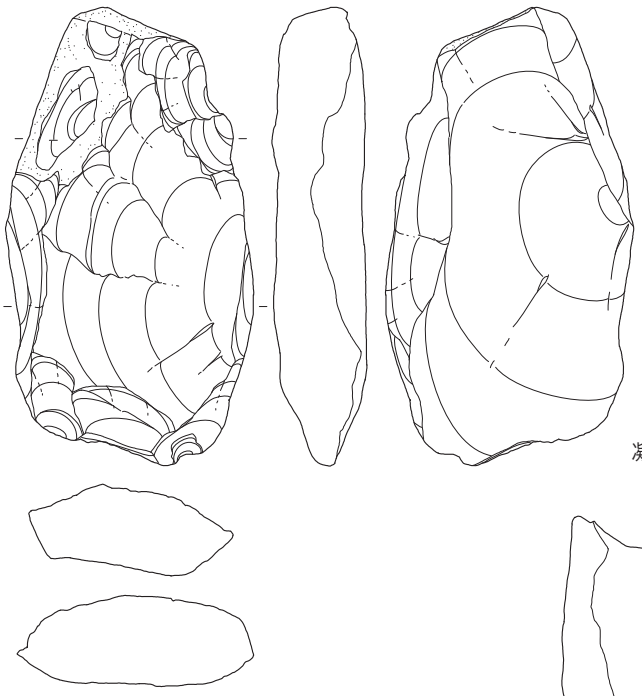
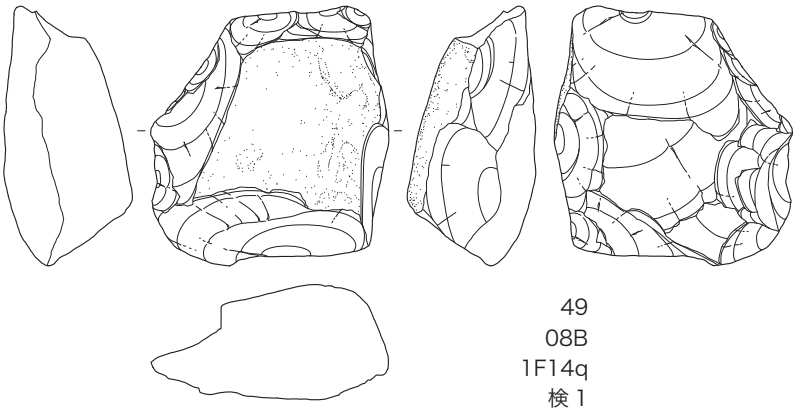


図 3-31　1 期 出土石器・石製品実測図 -7（1:2）

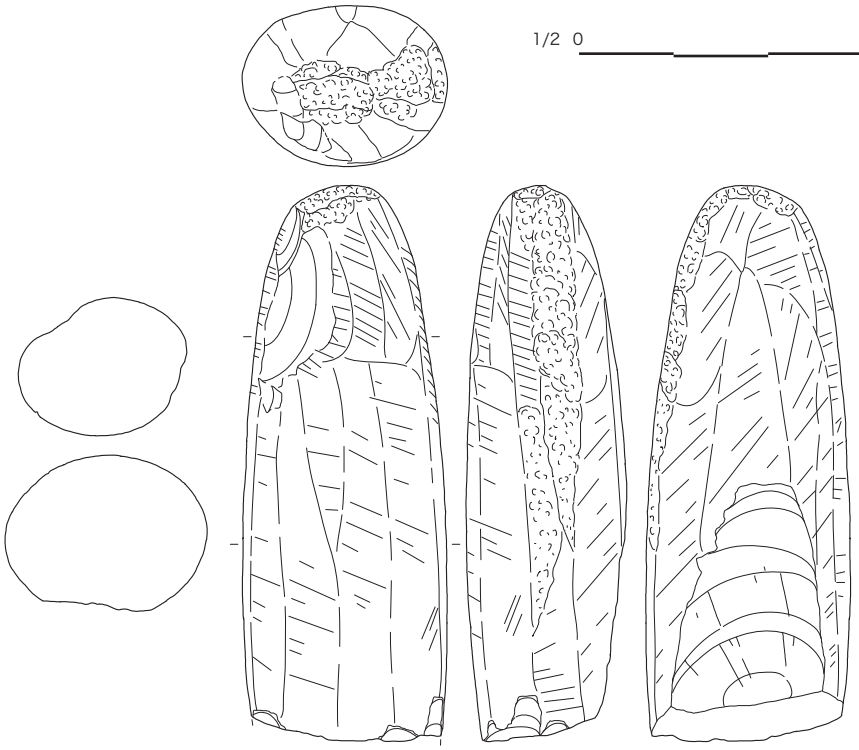


48
08B
表土
凝灰岩



49
08B
1F14q
検 1
安山岩

1/2 0 10cm



50
08B
1F17s
2893SK
ハンレイ岩

図 3-32　1 期 出土石器・石製品実測図 -8（1:2）

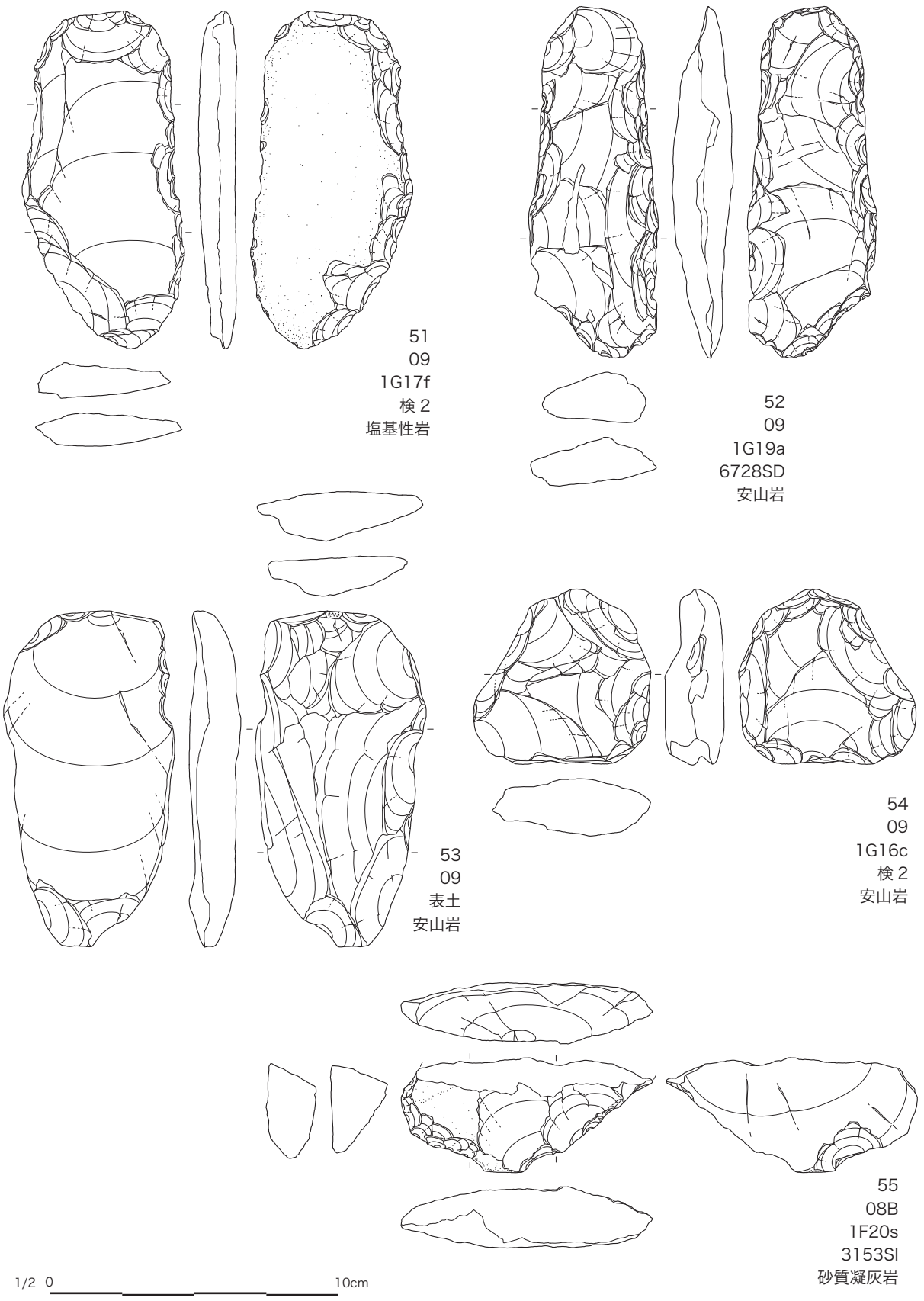


図 3-33　1 期 出土石器・石製品実測図 -9（1:2）

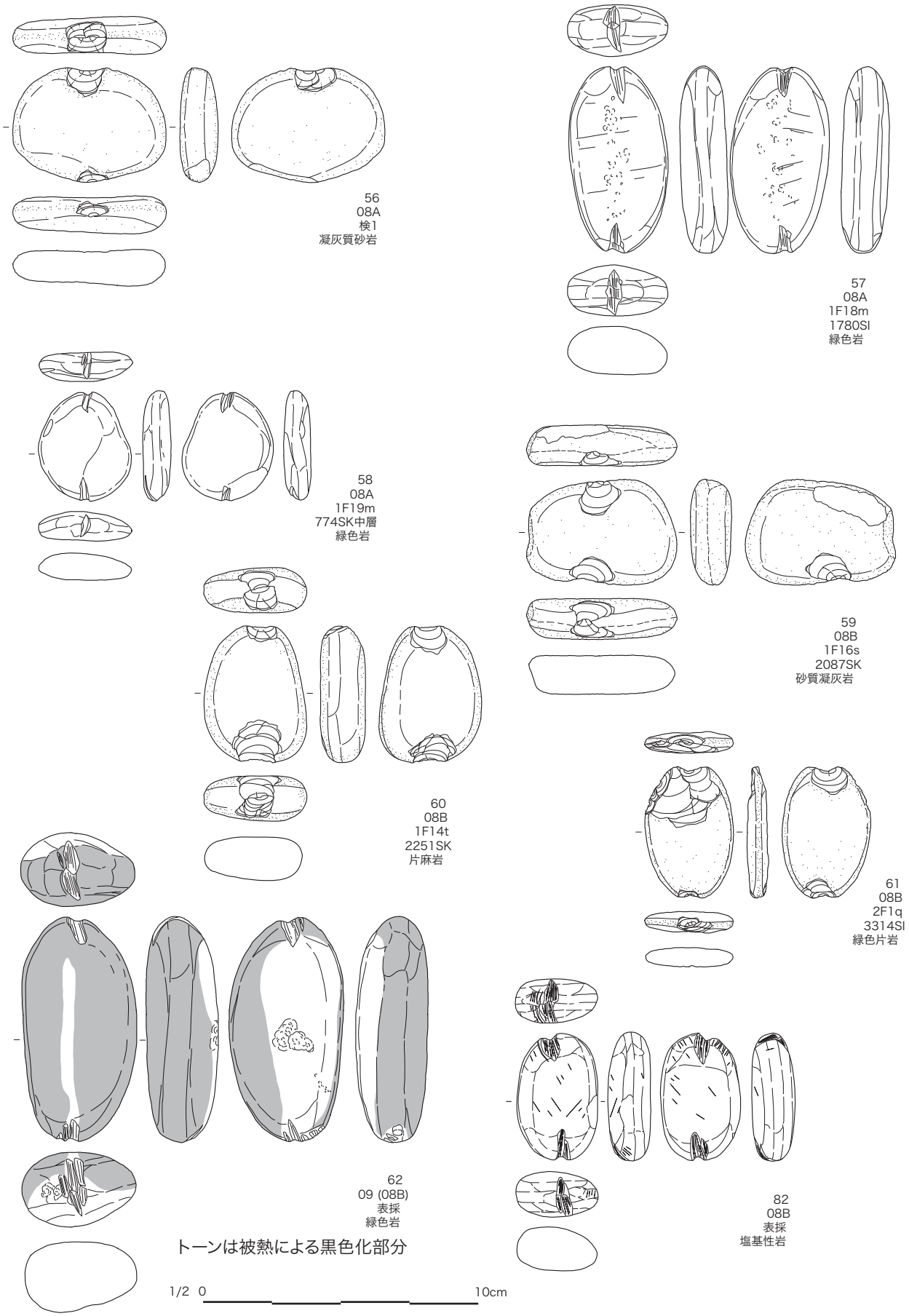


図 3-34　1 期 出土石器・石製品実測図 -10（1:2）

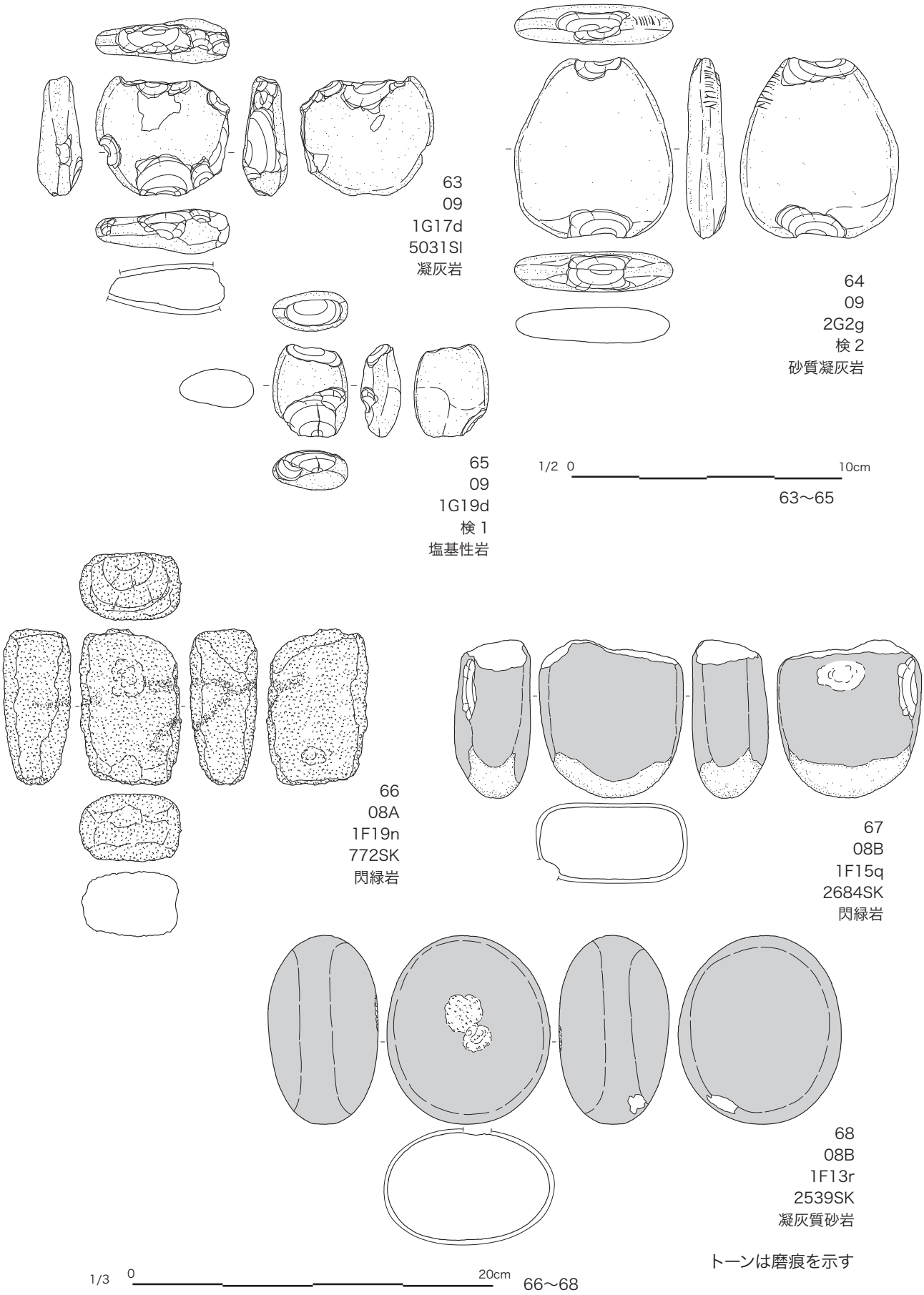


図 3-35　1 期 出土石器・石製品実測図 -11（1:2/1:3）

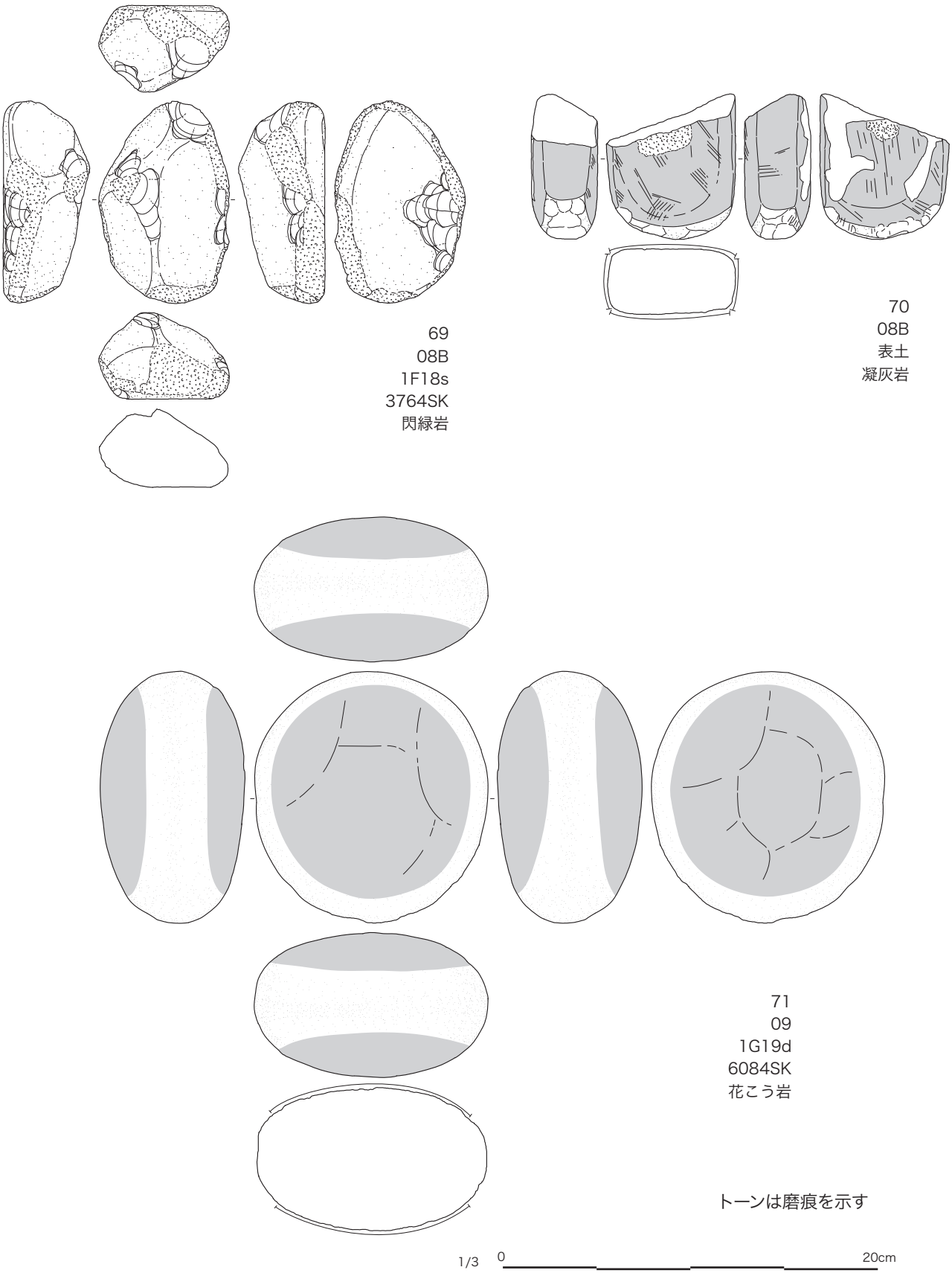


図 3-36　1 期 出土石器・石製品実測図 -12（1:3）

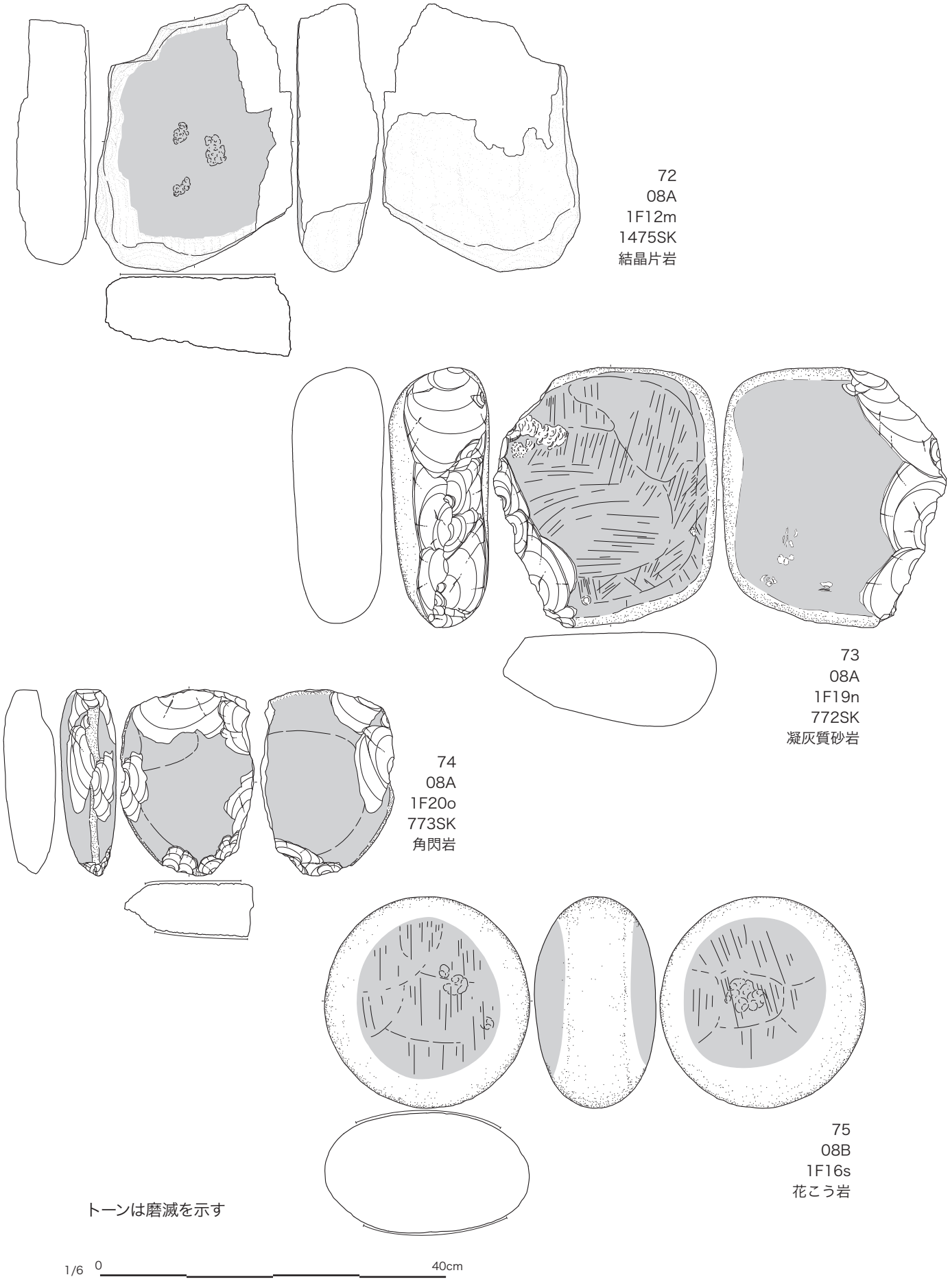
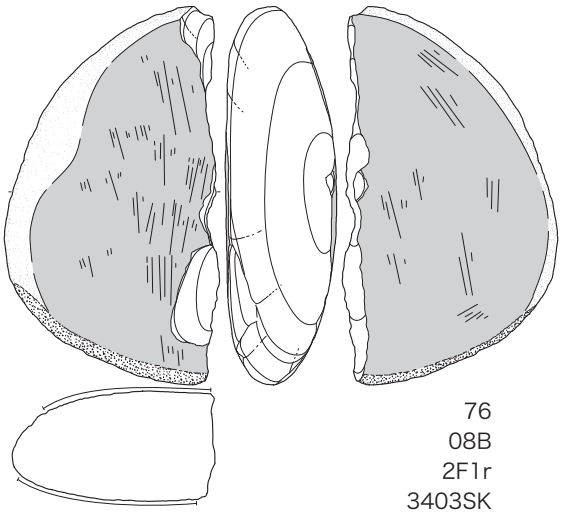
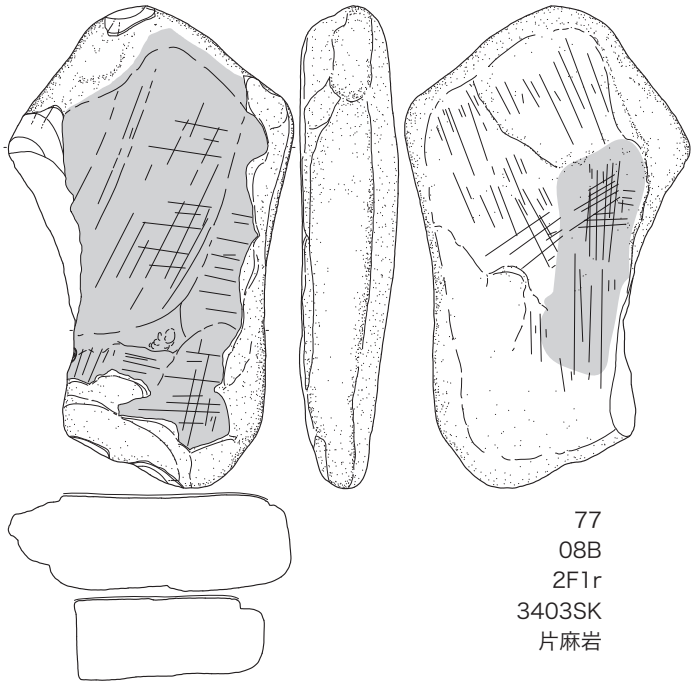


図 3-37　1 期 出土石器・石製品実測図 -13（1:6）



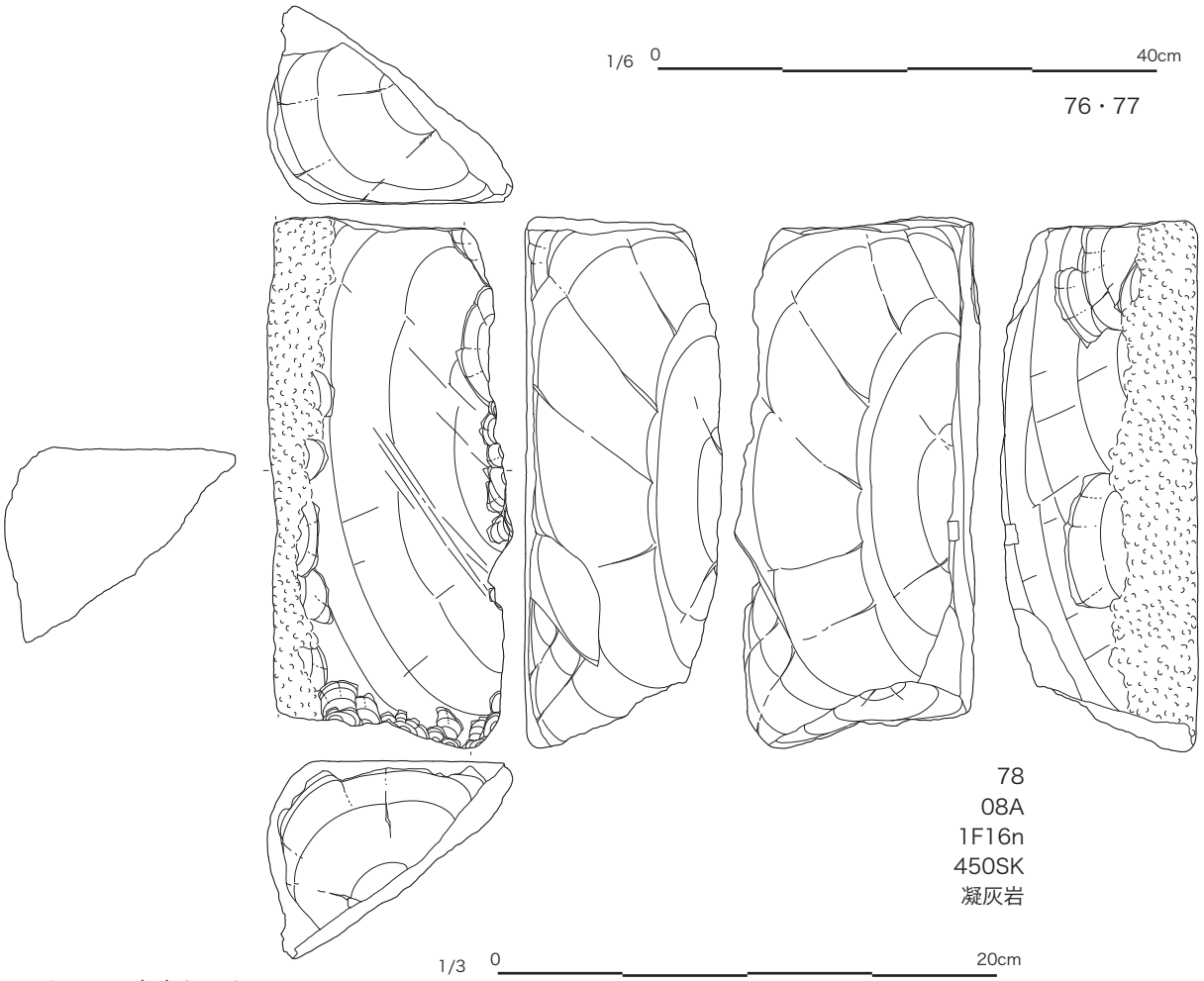
76
08B
2F1r
3403SK
花こう岩



77
08B
2F1r
3403SK
片麻岩

1/6 0 40cm

76・77



78
08A
1F16n
450SK
凝灰岩

1/3 0 20cm

78

トーンは磨痕を示す

図 3-38　1 期 出土石器・石製品実測図 -14（1:3/1:6）

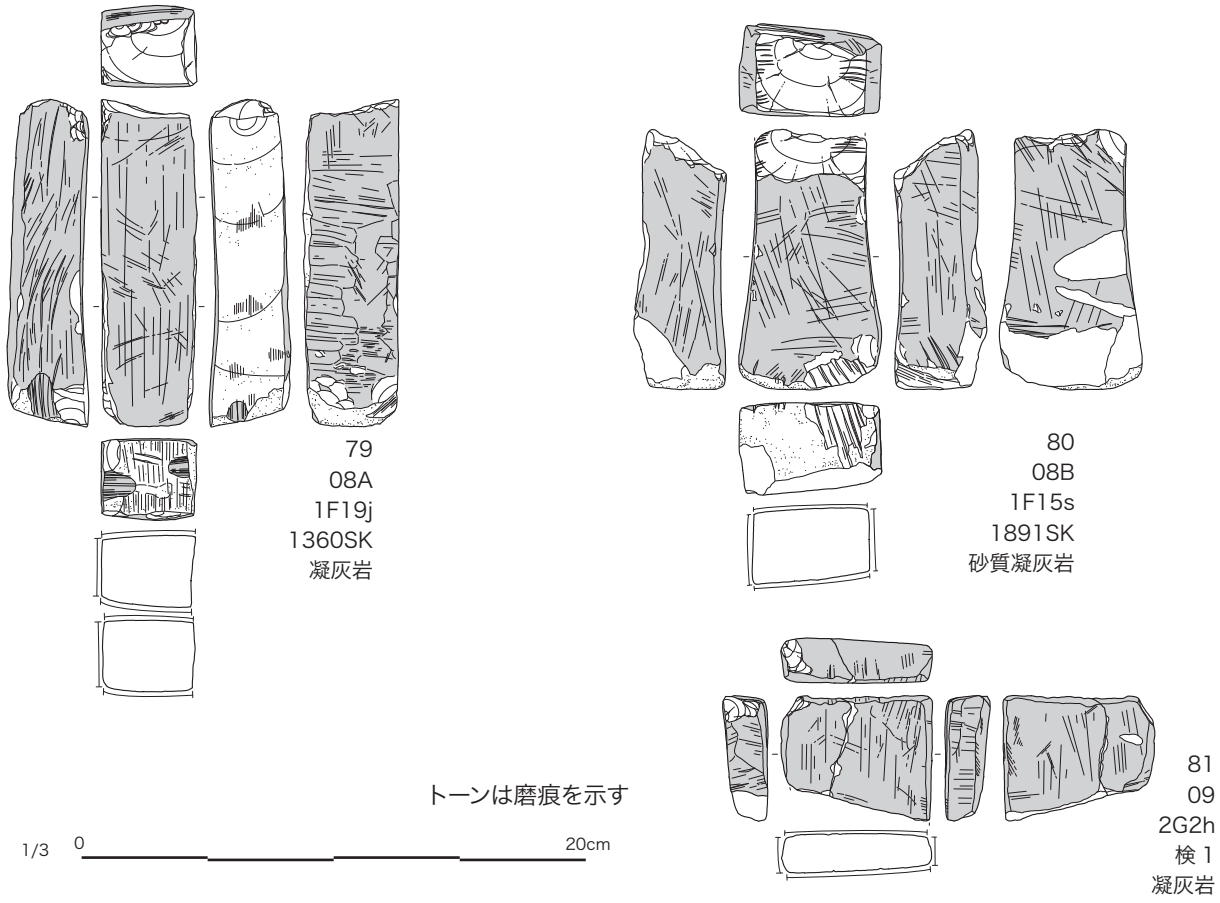


図 3-39　3・4 期 出土石器・石製品実測図（1:3）

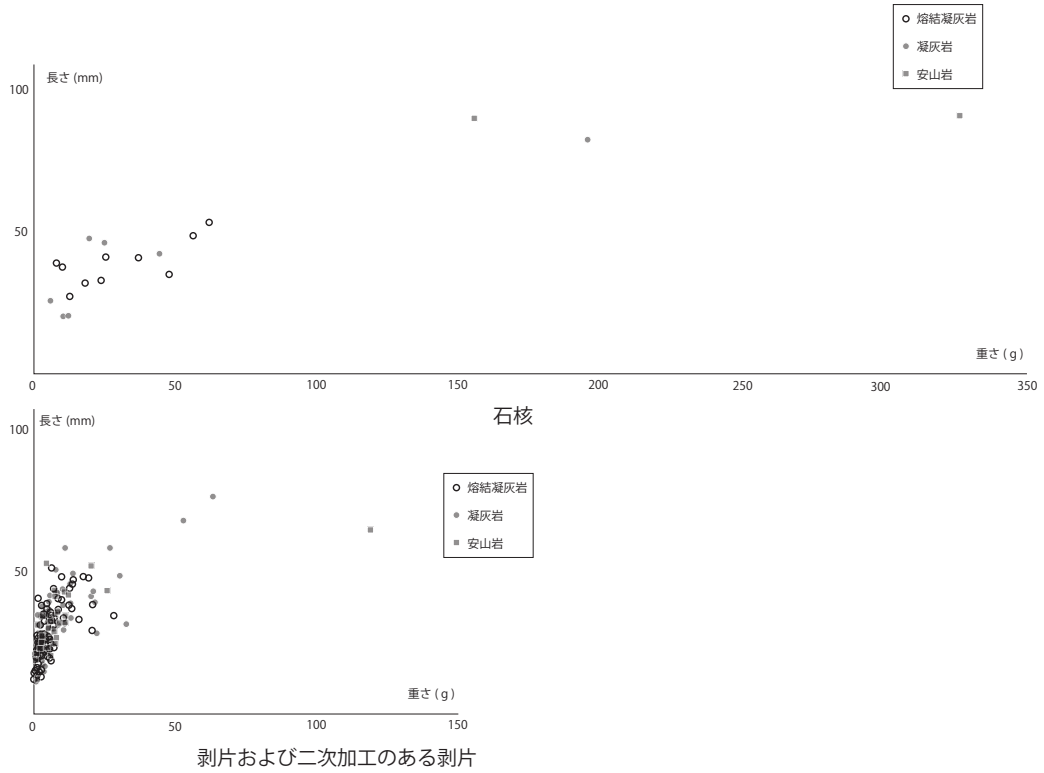
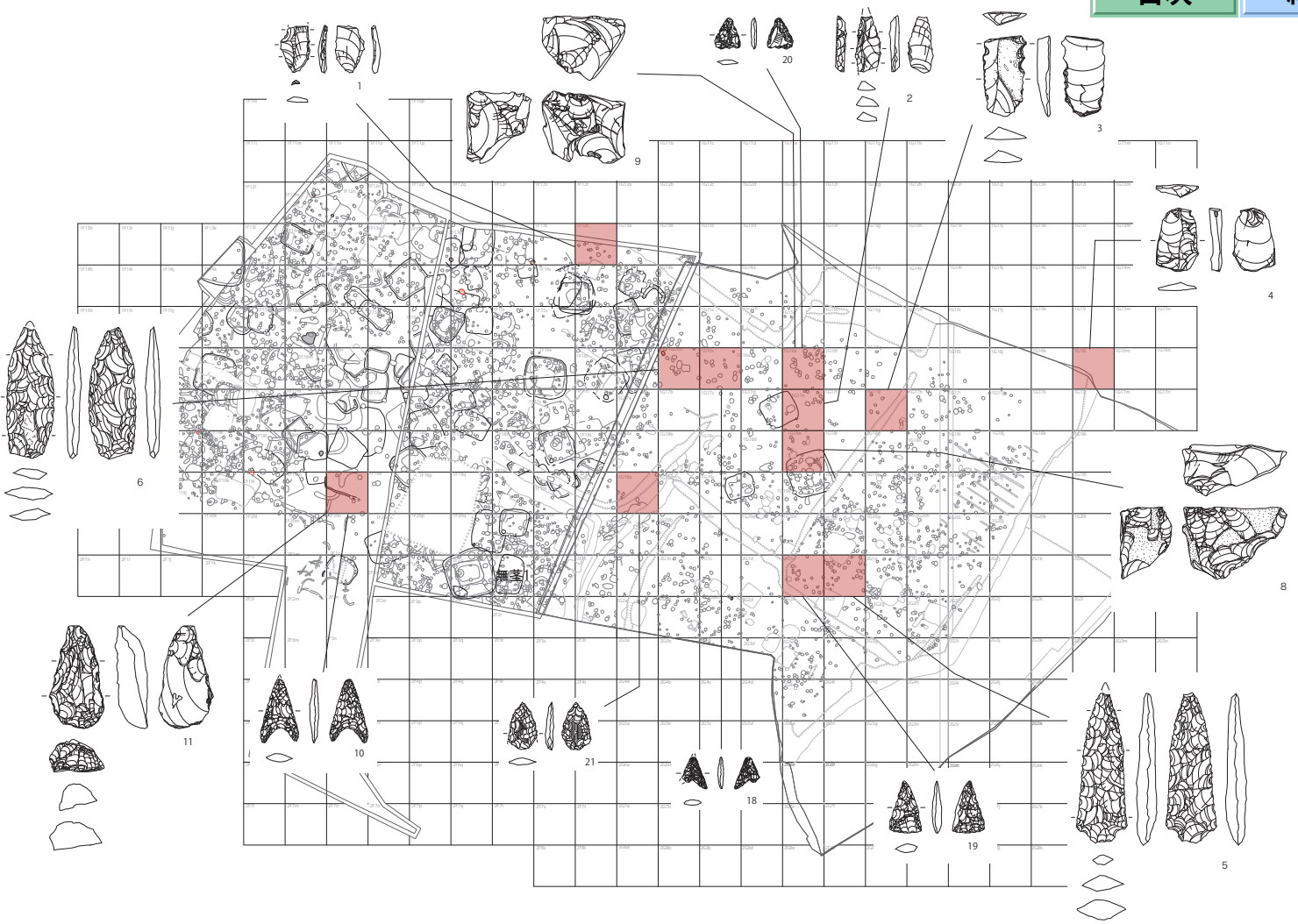


図 3-40　剥片・石核 法量散布図



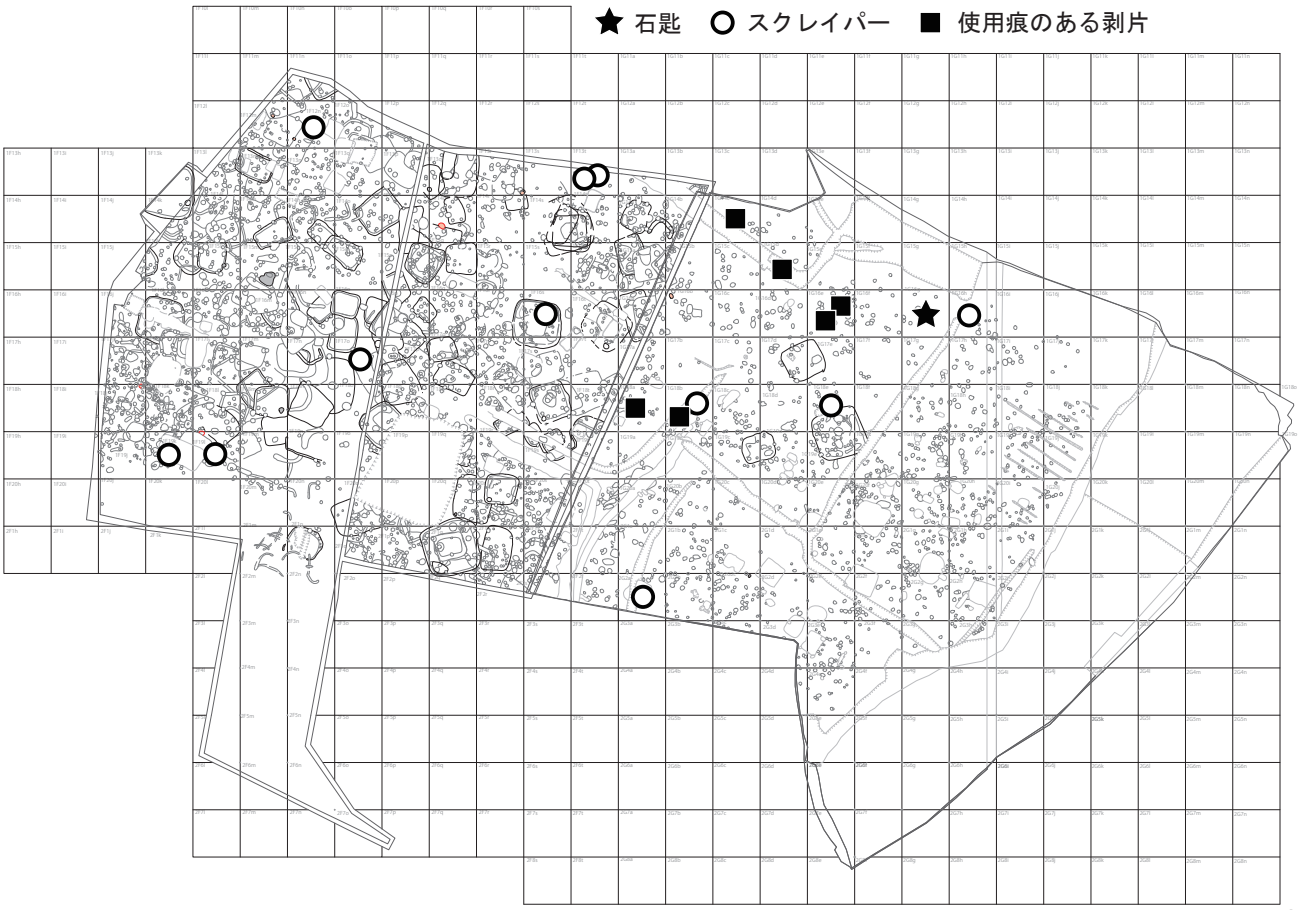
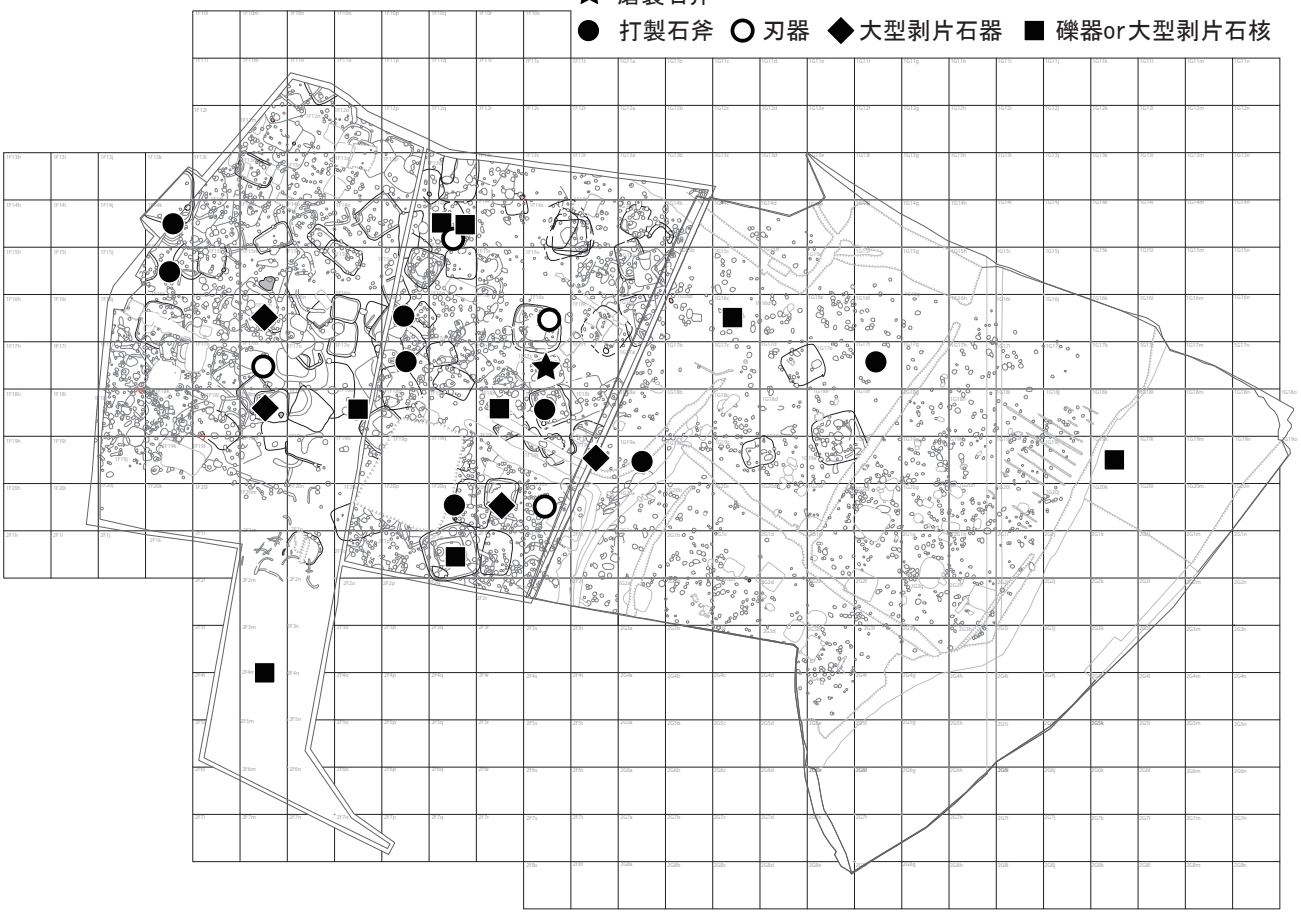


図 3-41　下面平面図 _1-800(遺物出土分布) -1

★ 磨製石斧
● 打製石斧 ○ 刃器 ◆ 大型剥片石器 ■ 礫器or大型剥片石核



● 打欠石錘 ■ 切目石錘

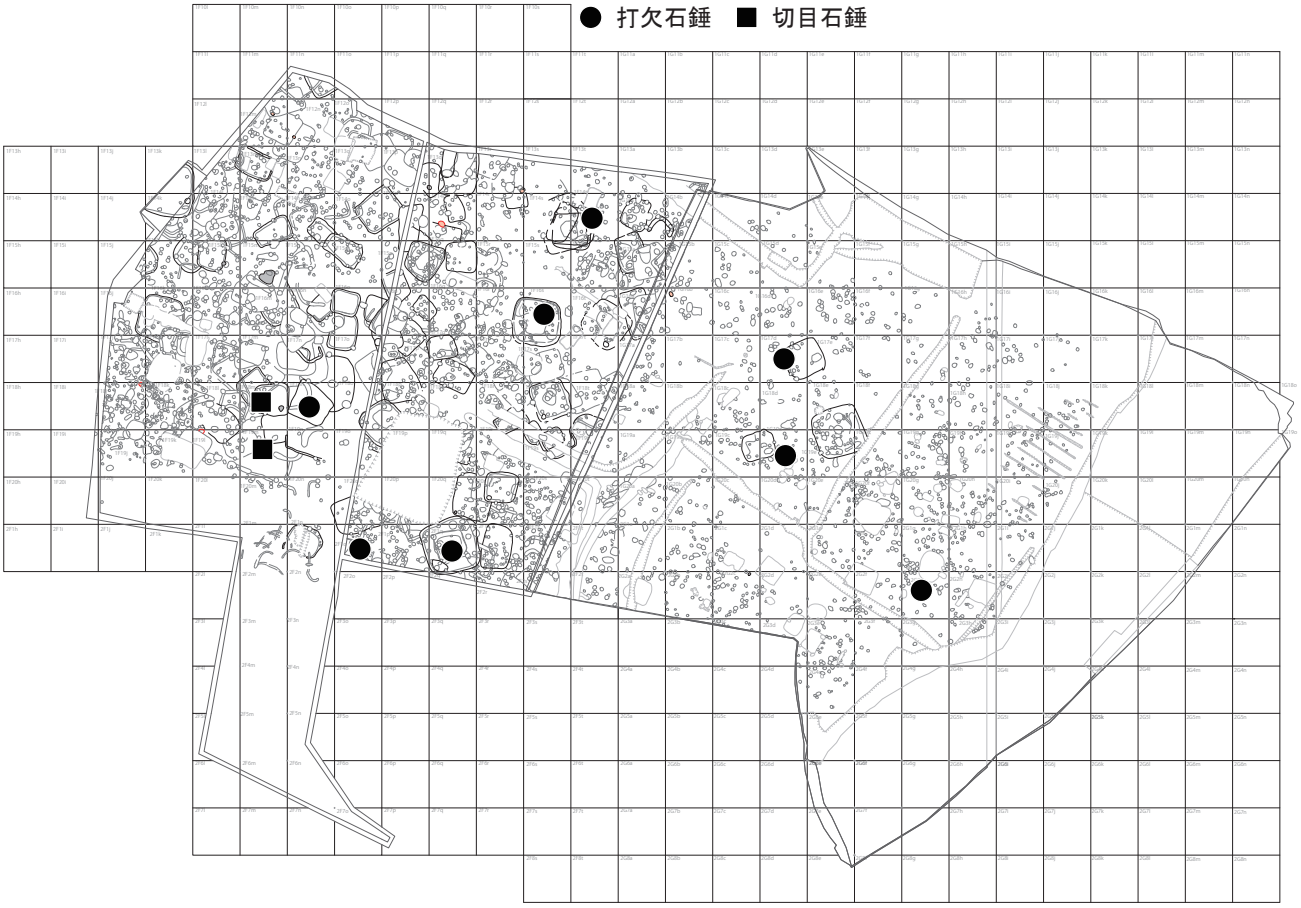
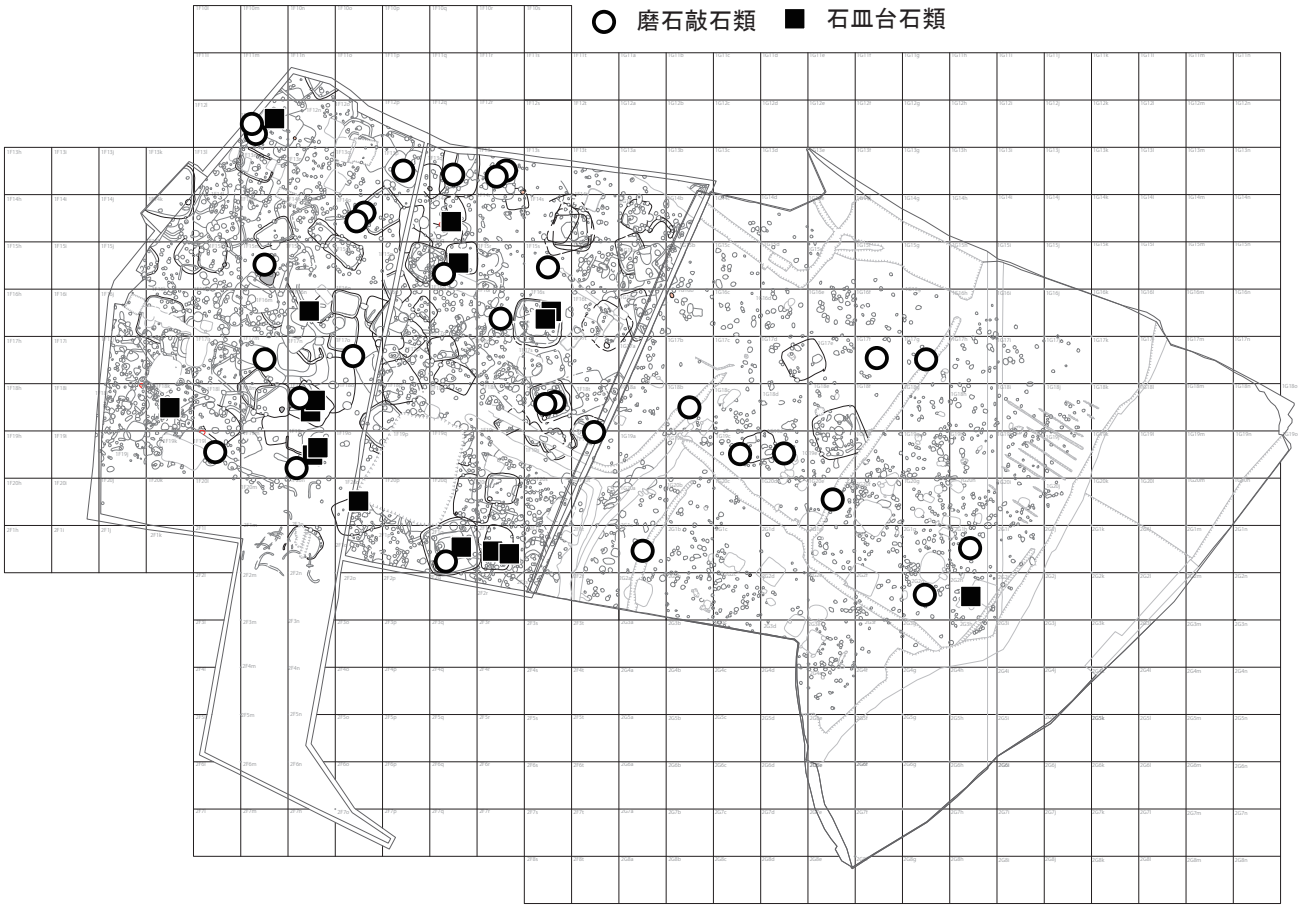


図 3-42　下面平面図 _1-800(遺物出土分布) -2



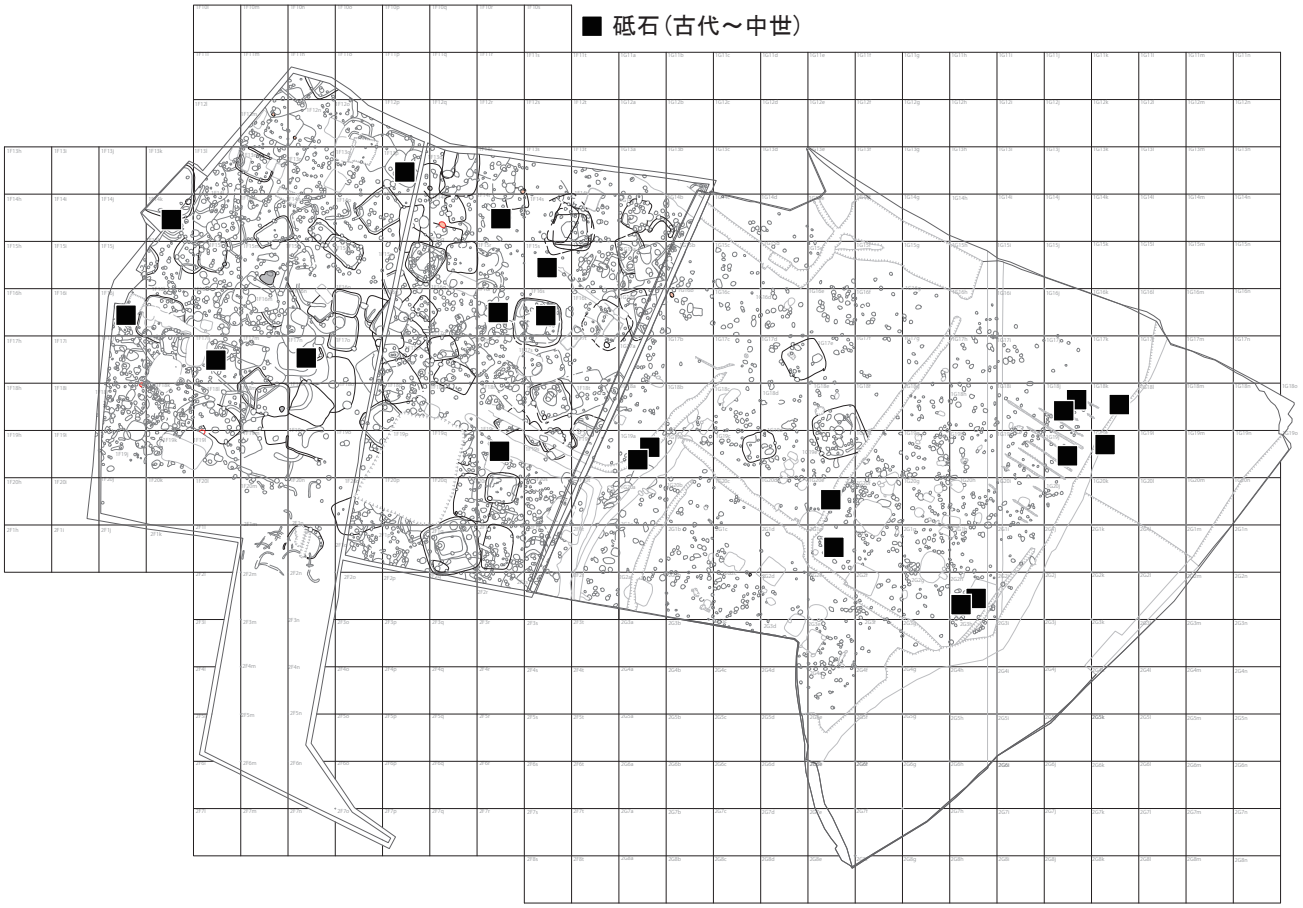


図 3-43　下面平面図 _1-800(遺物出土分布) -3

3．金属製品

鉄製品７点、鉄滓６点、鞴の羽口３点、粘土塊４点を図化した（M01 ～ M20）。

鉄製品では、M01・M02 が刀子で横断面形が板状の片側が薄くなる形である。M01 は先端部と柄側部を欠損しており、M02 は先端部分のみである。M03 は小型の釘と思われるもので、先端部分を欠損する。M04 は先端部を欠損するが、頭部から比較的残りが良いもので、横断面形は方形状になる。M05 は弧状になる板状製品で、器種は不明である。M06 は鎌で、全体の形が残る。板状の製品で基部の片隅が柄に固定するために折れており、刃部が身部から緩く弧状を描く。M07 は隅丸の菱形板状の製品で、機種は不明であるが、留金具のようなものであろうか。

M08 ～ M13 は椀型鉄滓で、全体には鉄分のある比較的密度の多いものである。M08 は４分の１分割椀型滓、厚さ 1.1cm の比較的薄いタイプのもの、M09 は小型の完形に残る椀型滓で、上・下面に小粒の白色石材が付着する。長径 3.0cm、短径 1.9cm、厚さ 1.5cm をはかる。M10 は重量 150.6g をはかる大型のもので、長径 8.5cm、短径 5.9cm、厚さ 2.2cm である。M11 は８分の１分割椀型滓で、厚さ 1.7cm をはかるので、中型の椀型滓になるものと思われる。M12 は長径 3.4cm、短径 2.4cm、厚み 1.1cm の小型の椀型滓で、扁平な形で流動鉄滓に近い形状である。M13 は長径 5.0cm、短径 2.8cm、厚さ 2.0cm の中型で細長い椀型滓で、上・下面に小粒の白色石材が付着している。

M14 ～ M16 は鞴の羽口で、孔径は 2.0cm 前後になるものである。M14 と M16 の先端部には流動鉄滓 B が付着しており、M14 には白色石材が流動鉄滓とともに付着している。鍛冶作業の際に小粒石が投入された可能性がある。全て被熱しているが、M14・M16 の色調は黒色～暗灰色、M15 は粗い橙黄色の胎土である。

M17 ～ M20 は、スサと思われる植物質痕が表面や内部に残る粘土塊であるが、M17・M19・M20 は礫状のもの、M18 は板状のものである。この４点の粘土塊には面取りした部分がみられるが、厚さは M18 の 1.4cm から M17 の 3.4cm まで幅がある。色調は褐色から橙色である。

(蔭山誠一)

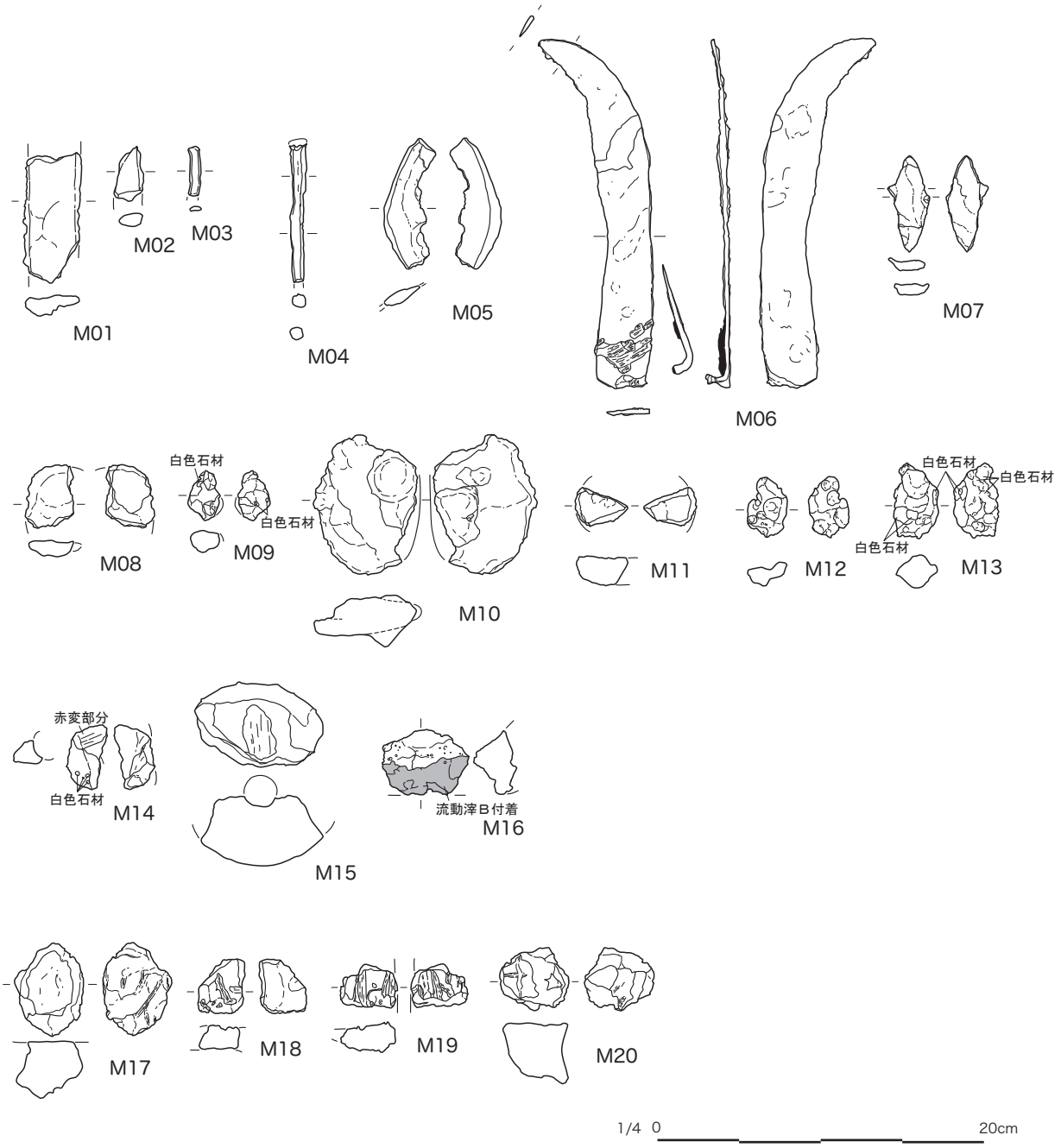


図 3-44　出土金属製品実測図（1:4）

第４章　自然科学分析

１．新城市中央部、モリ下遺跡における地下層序と堆積年代

鬼頭　剛

はじめに

新城市中央部に位置するモリ下遺跡にて地下層序を観察する機会を得た。その層序解析、火山灰分析、放射性炭素年代測定の結果を報告する。

試料および分析方法

地下層序解析のため、調査区において地表面や遺構検出面からバックホーにより掘削し層序断面を露出させ、層序断面図の作成と試料採取を行なった。層序断面図の作成にあたり、層相･粒度･色調・堆積構造・化石の有無などの特徴を詳細に記載した。層序断面からは放射性炭素年代測定用試料を採取した。

テフラ分析の試料は古澤（2003）の方法を基本に前処理を行なった。はじめにナイロン製＃255 メッシュシート（糸径 43μm、オープニングワイド 57μm）を用い、流水中で洗浄した。残渣を＃ 125 メッシュシート（糸径 70μm､オープニングワイド 133μm）を用い水中で篩い分けした。これにより極細粒砂サイズ（1/8 ～ 1/16）に粒度調整した試料を超音波洗浄器を用いて洗浄し、表面に付着した粘土分などを洗い流した。薄片作成は、鉱物観察用スライドグラスの上に硬化後屈折率が 1.545 程度となる光硬化樹脂をのせ、この樹脂に洗浄･篩い分けを行なった試料を撹拌･封入させ、カバーガラスで覆い粒子組成観察用薄片を作成した。樹脂の屈折率を 1.545 とする目的は石英や長石類の識別にある。前処理・プレパラート封入した粒子を偏光顕微鏡（100 倍）を用いて観察し、テフラ純層の場合 300 粒子（1000 粒子の平均値）を古澤 (2003) の区別手法にしたがって区分した。また、テフラ固有で含有率の低い粒子の産出層準を特定するため 3000 粒子（10000 粒子の平均値）の粒子組成分析も行なった。屈折率の測定には、浸液の温度を直接測定しつつ屈折率を測定する温度変化型測定装置 "MAIOT" を使用した。測定精度は火山ガラスで ± 0.0001、斜方輝石および角閃石で ±0.0002 程度である（古澤 , 1995）. 火山ガラスの主成分分析について SEM は HITACHI 製 SU1510 を使用し、エネルギー分散型 X 線マイクロアナライザー (EDX) は HORIBA 製 EMAX ENERGY EX-270 を用いた。分析は古澤地質株式会社に依頼した。

放射性炭素年代測定は加速器質量分析（AMS）法により測定を行なった。加速器質量分析法は 125μm の篩により湿式篩別を行ない、篩を通過したものを酸洗浄し不純物を除去した。石墨（グラファイト）に調整後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH）にて測定した。測定された ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した ^{14}C 濃度を用いて ^{14}C 年代を算出した。^{14}C 年代値の算出には､^{14}C の半減期として Libby の半減期 5,568 年を使用した。^{14}C 年代の暦年代への較正には OxCal4.1（較正曲線データ：IntCal13）を使用した。なお、2σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して産出された放射性炭素年代誤差に相当する 95.4% 信頼限界の暦年代範囲であり、カッコ内の百分率の値は、その範囲内に歴年代が入る

確率を意味する。測定は株式会社パレオ・ラボ（Code No.; PLD）に依頼した。

分析結果

深掘層序

08B 区の中央部で 1 地点（地点 1）、09 区で 1 地点（地点 2）の計 2 地点でバックホーによる深掘を実施した（図 4-1）。各地点の層序の特徴を以下に述べる。

08 区の地点 1 では深度約 4.4m の層序断面を得た（図 4-2）。下位層より、標高 75.34 ～ 75.54m は黒褐色を呈する粘土層である。塊状で固結度は高く、堆積構造は認められない。層内には砂粒子を含み、植物片が混じる。本層の下部（標高 75.36m）で火山灰分析および放射性炭素年代測定用の土壌試料を採取した。標高 75.54 ～ 75.74m は褐色を呈する粘土層である。本層も下位層と同様に塊状で、固結度は高く、堆積構造は認められない。標高 75.74 ～ 75.94m は黒褐色を呈する粘土層である。塊状で固結度が高く、堆積構造は認められない。本層の下部（標高 75.76m）で火山灰分析と放射性炭素年代測定用の土壌試料を採取した。標高 75.94 ～ 79.42m は層厚 3m を超える黄灰色、褐色～赤褐色を呈する粘土層からなる。後背地の花崗岩類に由来する長石類を主体とする鉱物粒の風化砕屑物からなり、堆積後に二次的に生じた堆積物の色調の変化が著しい地層である。長石類の鉱物粒子には鉱物の形状を残したものもみられるが、そのようなものは指先で押すと簡単に崩れる。本層の下部およそ 1m は粘土化の程度が高く塊状であり、固結度も高い。上部になるほど次第に鉱物粒子の形状を残す部分が多くなり、それに伴って堆積粒子間の間隙は粗となり、固結度が低くなる。標高 79.42 ～ 79.62m は褐色～黒褐色を呈する粘土層である。塊状で、堆積構造はみられない。砂粒子を含み、固結度は下位層に比べると高い。本層は考古学的に縄文時代の遺物包含層となっている。本層の最下部（標高 79.44m）で火山灰分析および放射性炭素年代測定用の土壌試料を採取した。標高

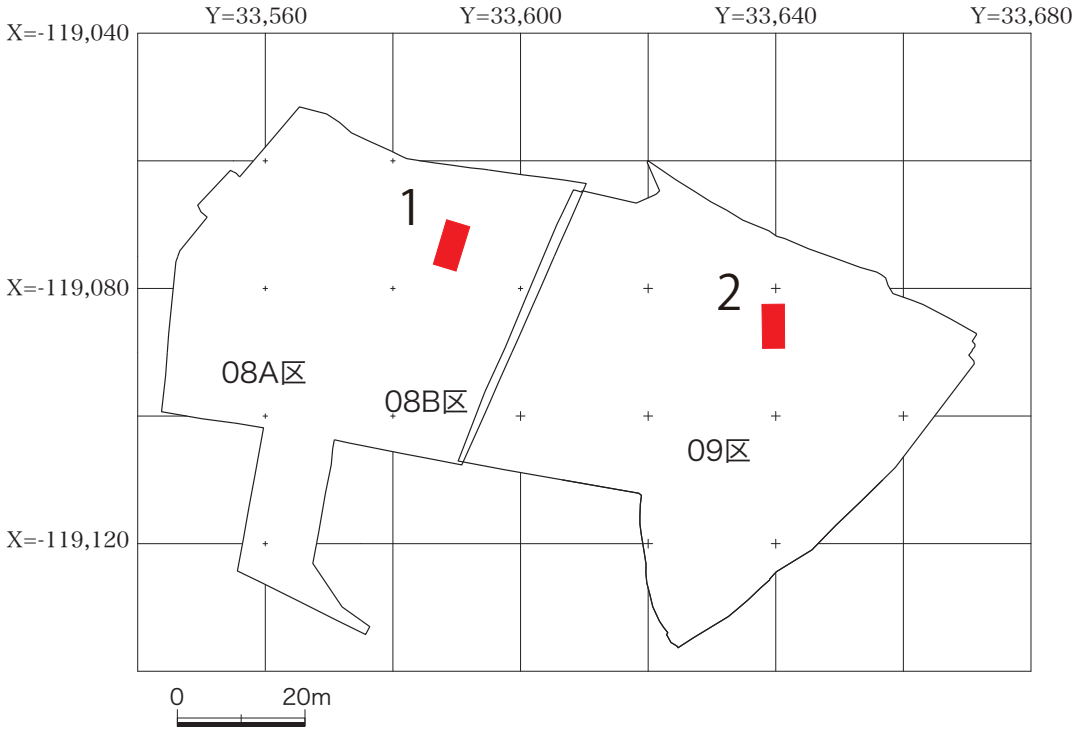


図 4-1　モリ下遺跡における深掘地点（数字は地点番号）

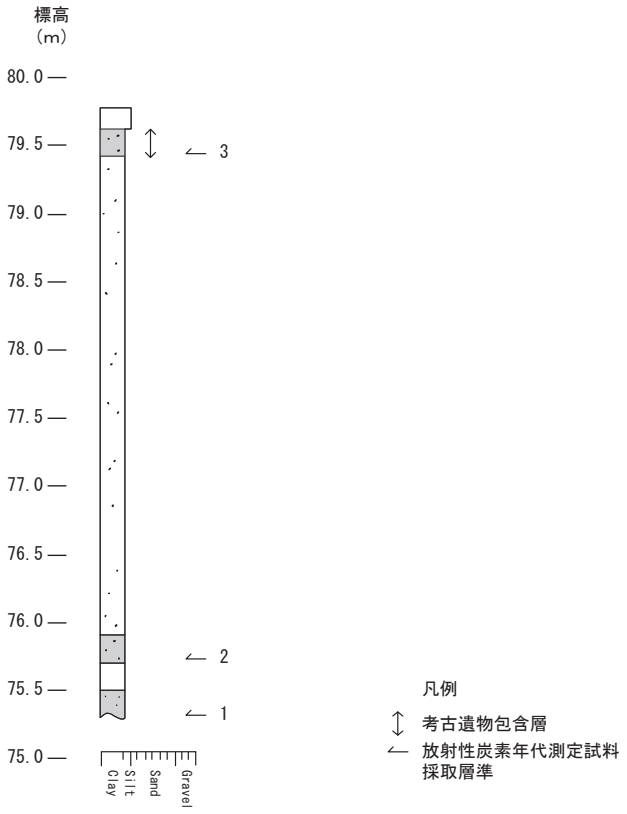


図 4-2　モリ下遺跡 08B 区における深掘層序断面

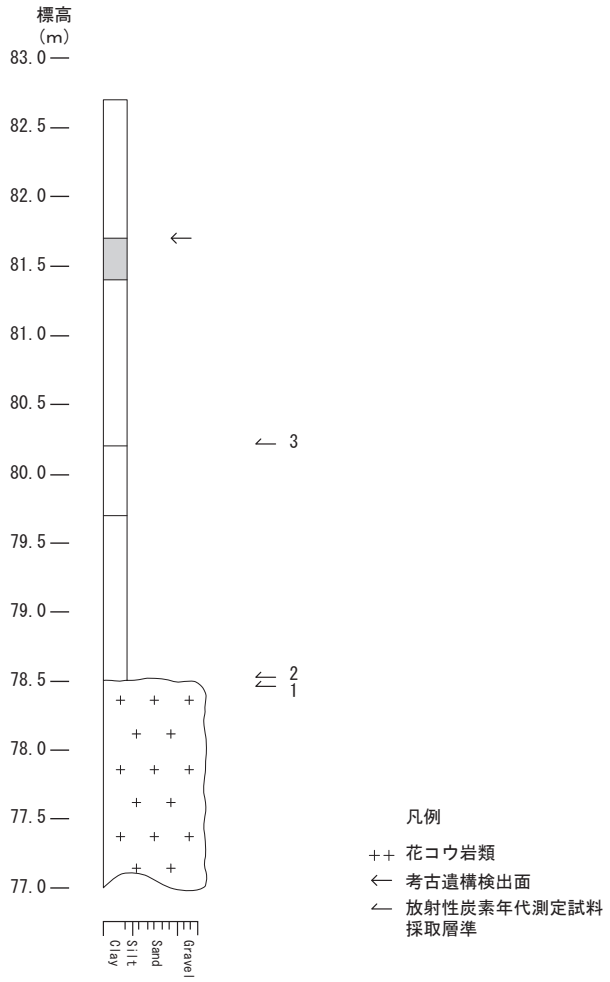


図 4-3　モリ下遺跡 09 区における深掘層序断面

79.62 ～ 79.78m は黄灰色のシルト層からなる。本層は現代の表土であり、頂部（標高 79.78m）が地表である。

09 区の地点 2 では深度約 5.7m の層序断面を得た（図 4-3）。下位層より、標高 77.00 ～ 78.50m は強風化の花崗岩類である。岩構造はみられない。固結度は極めて低く風化が進んでおり、手ガリによりひっかくと簡単に崩れ、含まれる長石類の鉱物も指先で簡単に押しつぶすことができる。電力中央研究所のダム基礎基盤分類によれば D ランクにあたる。本層と本層を覆う上位の粘土層との境界付近で、花崗岩類の風化部分に含まれていた土壌（標高 78.46m）を放射性炭素年代測定用の試料とした。標高 78.50 ～ 79.70m は黄色～黄灰色を呈する粘土層である。塊状で固結度が高く、堆積構造は認められない。本層の最下部（標高 78.52m）で放射性炭素年代測定用の試料を採取した。標高 79.70 ～ 80.20m は灰色を呈する粘土層である。本層も塊状で、堆積構造はみられない。標高 80.20 ～ 81.40m は黄褐色を呈する粘土層である。塊状で、堆積構造はみられない。本層の最下部（標高 80.22m）で放射性炭素年代測定用の試料を採取した。標高 81.40 ～ 81.70m は黒褐色の粘土層からなる。砂粒子が混じり、堆積構造はみられない。考古学的には、本層と本層を覆う粘土層との層理面付近が考古遺構の検出面となる。標高 81.70 ～ 82.70m は赤褐色を呈する粘土層である。本層の頂部（標高 82.70m）が現代の地表面である。

火山灰分析

モリ下遺跡 08B 区 (地点 1) において計 3 試

表 4-1　モリ下遺跡 08B 区における放射性炭素年代測定結果

地点	試料 No.	調査区 (区)	標高 (m)	堆積物	試料の種類	^{14}C年代 (yrs BP)	δ^{13}C PDB (‰)	2σ暦年代範囲 (AD/BC, probability)	2σ暦年代範囲 (cal yrs BP, probability)	Lab code No.(method)
1	1	08B	75.36	黒褐色粘土層	植物遺体（草本類）	31146 ± 93	-28.59 ± 0.12	33353 - 32773 BC (95.4 %)	35302 - 34722 (95.4 %)	PLD - 26632 (AMS)
1	2	08B	75.76	黒褐色粘土層	生材 最終形成年輪	29617 ± 85	-32.66 ± 0.14	32050 - 31639 BC (95.4 %)	33999 - 33588 (95.4 %)	PLD - 26631 (AMS)
1	3	08B	79.44	褐色砂混じり粘土層	土壌	6574 ± 19	-25.49 ± 0.11	5560 - 5481 BC (93.8 %) 5603 - 5597 BC (1.6 %)	7509 - 7430 (93.8 %) 7552 - 7546 (1.6 %)	PLD - 26633 (AMS)

表 4-2　モリ下遺跡 09 区における放射性炭素年代測定結果

地点	試料 No.	調査区 (区)	標高 (m)	堆積物	試料の種類	^{14}C年代 (yrs BP)	δ^{13}C PDB (‰)	2σ暦年代範囲 (AD/BC, probability)	2σ暦年代範囲 (cal yrs BP, probability)	Lab code No.(method)
2	1	09	78.46	花崗岩類	土壌	測定不能	—	—	—	—
2	2	09	78.52	黄色粘土層	土壌	測定不能	—	—	—	—
2	3	09	80.22	黄褐色粘土層	土壌	22372 ± 64	-22.29 ± 0.14	25071 - 24418 BC (95.4%)	27020 - 26367 (95.4%)	PLD - 16196 (AMS)

料の火山灰分析を行なった。標高 75.34 ～ 75.54m の黒褐色粘土層から採取した土壌（標高 75.36m）の試料 1、標高 75.74 ～ 75.94m の黒褐色粘土層から採取した土壌（標高 75.76m）の試料 2 からは火山ガラスは認められず、緑色普通角閃石（Gho）が 3000 粒子（10000 粒子の平均値）中に試料 1 で 178 粒子、試料 2 で 212 粒子が確認されたのみである。標高 79.42 ～ 79.62m の褐色～黒褐色粘土層の下部（標高 79.44m）から採取した土壌の試料 3 からはバブルウォールタイプ（Bw）の火山ガラスが 3000 粒子中に 14 粒子認められるとともに、斜方輝石（Opx）が 6 粒子、緑色普通角閃石（Gho）が 626 粒子確認された。また、鉱物粒子の中には大山倉吉火山灰 (DKP) タイプの斜方輝石（Opx）が含まれることも特徴である。以上の結果から、試料 1 および試料 2 からは火山ガラスが認められなかったため堆積年代は不明であるが、試料 3 からは火山ガラスが確認されたことや特徴的な鉱物組成がみられること、また同時に行なった火山ガラスの主成分分析により試料 3 には姶良 Tn 火山灰（AT）と鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）が混在しているのがわかった。

放射性炭素年代測定

モリ下遺跡では 08B 区の地点 1 で 3 試料、09 区の地点 2 で 3 試料の計 6 試料について放射性炭素年代測定を行ない、それらのうち計 4 試料から放射性炭素年代値が得られた（表 4-1・表 4-2）。08B 区の地点 1 では、標高 75.34 ～ 75.54m の黒褐色粘土層から採取した土壌（標高 75.36m）が 35302 - 34722 cal yrs BP(PLD-26632) を、標高 75.74 ～ 75.94m の黒褐色粘土層から採取した土壌（標高 75.76m）が 33999 - 33588 cal yrs BP(PLD-26631）と 3 万年前の数値年代を示した。いっぽう、層序断面の上部である、考古学的に縄文時代の遺物包含層とされる標高 79.42 ～ 79.62m の褐色～黒褐色粘土層の下部（標高 79.44m）から採取した土壌は 7509 - 7430 cal yrs BP(PLD-26633）と約 7500 ～ 7400 年前代の年代値であった。09 区の地点 2 では 3 試料を採取したが、肉眼で土壌や有機物試料と予想された試料 1 と試料 2 については、詳細な検討後、黒色を呈する鉱物粒子の集合体であることがわかり測定ができなかった。唯一測定のできた標高 80.20 ～ 81.40m の黄褐色粘土層の標高 80.22m から採取した土壌試料では 27020 - 26367 cal yrs BP(PLD-16196）と 2 万年前の数値年代であった。

考察

モリ下遺跡調査地点における地下層序と堆積年代

モリ下遺跡の地理的な位置を概説すると、調査地点は豊橋平野の最奥部（北東端）にあたる。調査地点の西およそ 85m には五反田川が南流している。調査地点周辺域は北東 - 南西方向の豊川の流下方向に平行に地質学的には領家深成岩類から構成された、西から徳定雁峰（標高 655m）、片

山雁峰（標高 608m）、須長雁峰（標高 688m）を頂とする山地がそびえている。これらのうち、五反田川は須長雁峰を頂とし北から南へ新城市谷下、浅谷、宮脇を通り、調査地点のある八束穂にいたる。八束穂の五反田川周辺の水田の標高が約 73m、モリ下遺跡調査地点における地表の標高が 79 ～ 82m ほどなので、河川流路と調査地点とには約 6 ～ 9m の標高差がある。五反田川は調査地点の約 740m 南において北東から南西方向に流下してくる宮下川と合流し、さらに調査地点から約 2km 南では豊川と合流する。豊川との合流地点における五反田川の水面付近は標高 25.6m なので、豊川とモリ下遺跡の調査地点との標高差は 54 ～ 57m におよぶ。調査地点は、北に神明神社が位置する山頂の標高 103.3m の山、東には山頂標高 99.0m の山、南には南端に諏訪神社のある山頂標高 103.5m の山といった、標高 80 から標高 110m までの小丘状を呈する山地に北および東、南の三方を囲まれている。三方を囲む山地をひとつの谷が北東から開析し、東からもひとつの谷が西方向に開析しており、ちょうど調査地点の東側でそれらの谷が合流し、ひとつの谷地形となって南西方向の標高 71m 付近まで標高を減じている。調査地点は北および東、南の三方を標高 80 ～ 110m の小丘状を呈する山地に囲まれ、その南西縁辺に北東 - 南西方向に舌状にのびた地形の上にある。

モリ下遺跡にて深掘を実施した。それらの地下層序を観察すると、西側の 08B 区の地点 1 および東側の 09 区の地点 2 のどちらも、粘土層を主体とした細粒な堆積物が卓越した。調査地点は北と東、南を山地に囲まれており、さらにそれらの山地を開析する北東から南西方向に開析する谷と、東から西へ開析する 2 つの谷が合流する場所にあたっているため、調査地点の堆積物はそれらの谷が上流部から削剥してきた礫や砂などの粗粒な堆積物により構成されているものと予想された。ところが、調査においてモリ下遺跡の地下層序を確認すると、細粒な粘土層のみからなり、砂や礫といった粗粒な堆積物がみられなかった。また、これらの粘土層の堆積年代として、08B 区の地点 1 では、標高 75.34 ～ 75.54m の黒褐色粘土層から採取した土壌（標高 75.36m）が 35302 - 34722 cal yrs BP(PLD-26632)、標高 75.74 ～ 75.94m の黒褐色粘土層から採取した土壌（標高 75.76m）が 33999 - 33588 cal yrs BP(PLD-26631）と 3 万年前代の数値年代を示した。また、09 区の地点 2 では、標高 80.20 ～ 81.40m の黄褐色粘土層の標高 80.22m から採取した土壌試料で 27020 - 26367 cal yrs BP(PLD-16196）と 2 万年前代の数値年代であった。これらの放射性炭素年代値について、火山灰分析の結果では 08B 区の地点 1 において標高 79.42 ～ 79.62m の褐色～黒褐色粘土層の下部（標高 79.44m）から採取した土壌からバブルウォールタイプ（Bw）の火山ガラスが認められただけで、その層準よりも下位層で採取した試料からは有効な火山灰を検出できなかった。ところで、08B 区の地点 1 の 3 万年前～ 2 万年前代を示す粘土層について、放射性炭素年代測定に供した試料が上流から二次的に運ばれてきたとも考えられる。もしそうであれば、3 万年前～ 2 万年前よりも新しい火山灰、例えば、標高 79.42 ～ 79.62m の褐色～黒褐色粘土層で検出されたような約 2 万 6000 年前～ 2 万 9000 年前の姶良 Tn 火山灰（AT）（町田・新井 , 2003）や約 7300 年前の鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）が検出される可能性がある。ところが、その層相から低エネルギー環境下で堆積したと考えられる粘土層からは火山ガラスはまったく検出されず、新しい時代による二次的な堆積作用は行なわれていないと言える。よって、モリ下遺跡の地下層序に認められる 3 万年前～ 2 万年前代を示す数値年代は堆積時当時の年代を示しており、調査区内の地下には更新統上部の堆積物が分布していることがわかった。調査地を含めた豊川流域の地形や地質については土 (1960)、町田・大倉 (1960)、木村ほか (1981, 1982)、木村 (1988) など、豊川中流～下流域の段丘区分と堆積物に関する多くの研究がなされている。木村 (1988) によれば豊川の右岸側に分布

する後期更新統〜完新統は、中生代白亜紀の領家深成岩類や領家変成コンプレックスを不整合に覆って下位層より、高師原礫層、豊橋礫層および小坂井泥層・小坂井礫層、低位段丘層、沖積層に分けられる。これらのうち今回の調査地点には領家深成岩類を覆う中位段丘構成層である小坂井泥層・小坂井礫層と沖積層が分布する場所にあたっている。今回の調査において確認された地下層序には約３万年前〜２万年前の数値年代を示す更新統堆積物が分布していることがわかり、木村ほか (1981, 1982) や木村 (1988) の地質区分を追認することができ、具体的な数値年代により地下での更新統堆積物の分布が捉えられた。

謝辞

本論を作成するにあたり、火山灰分析では古澤地質株式会社の古澤明氏に、放射性炭素年代測定では株式会社パレオ・ラボ AMS 年代測定グループの伊藤　茂氏・安昭炫氏・佐藤正教氏・廣田正史氏・山形秀樹氏・小林紘一氏・Zaur Lomatatidze 氏・Ineza Jorjoliani 氏・小林克也氏にお世話になった。分析試料の整理・保管と原図の作成では整理補助員の前田弘子氏・鈴木好美氏にお手伝いいただいた。記して厚くお礼申し上げます。

文献

古澤　明 , 1995, 火山ガラスの屈折率測定・形態分類とその統計的な解析 , 地質学雑誌 , 101, 123-133.

古澤　明 , 2003, 洞爺火山灰降下以降の岩手火山のテフラの識別 , 地質雑 , 109, 1-19.

木村一朗 , 1988, 第５章　第四系 (5) 豊橋平野地域 , (6) 渥美半島地域 , 日本の地質５　中部地方Ⅱ , 共立出版 , 171-174

木村一朗・荒巻敏夫・大澤正吾・池田芳雄 , 1981, 豊川中流および下流の段丘と更新統（その 1, 段丘面）, 愛知教育大学研究報告（自然科学編）, vol. 30, 221-232

木村一朗・荒巻敏夫・大澤正吾・池田芳雄 , 1982, 豊川中流および下流の段丘と更新統（その 2, 段丘堆積層）, 愛知教育大学研究報告（自然科学編), vol. 31, 195-210

町田　貞・大倉陽子 , 1960, 豊川中・下流の段丘地形 , 地理学評論 , 33, 551-563

土　隆一 , 1960, 渥美半島周辺の第四系の地史学的問題 , 第四紀研究 , vol.1, 193-211

2．放射性炭素年代測定（その 1）

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤　茂・尾嵜大真・廣田正史・山形秀樹・小林紘一
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・小林克也

1．はじめに

愛知県新城市に位置するモリ下遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

2．試料と方法

測定試料の情報、調製データは表 4-3 のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3．結果

表 4-4 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲を、図 4-4 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C 年代（yrBP）の算出には、^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2％であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

表 4-3　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-16196	調査区：3SMS09 位置：深掘 試料No.1	試料の種類：土壌 状態：wet	湿式篩分106μm 酸洗浄(塩酸:1.2N)

表 4-4　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	δ^{13}C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-16196	-22.29±0.14	22372±64	22370±60	27523BP(26.1%)27257BP 27057BP(42.1%)26709BP	27705BP(94.4%)26574BP 26376BP(1.0%)26316BP

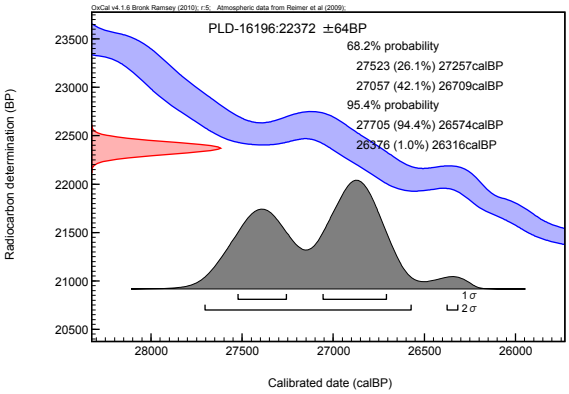


図 4-4　暦年較正結果

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}C の半減期 5730±40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.1（較正曲線データ：Intcal09）を使用した。なお、1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

参考文献

Bronk Ramsey, C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. Radiocarbon, 37, 425-430.

Bronk Ramsey, C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon, 43, 355-363.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎 . 日本先史時代の ^{14}C 年代 , 3-20.

Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 51, 1111-1150.

3．放射性炭素年代測定（その 2）

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤　茂・尾嵜大真・廣田正史・山形秀樹・小林紘一
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・小林克也・中村賢太郎

1．はじめに

愛知県新城市に位置するモリ下遺跡の 2009 年度調査で検出された試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

2．試料と方法

測定試料の情報、調製データは表 4-5 のとおりである。

PLD-16200 は弥生～古墳時代とされる竪穴建物跡 6792SI から出土した部位不明の炭化材、PLD-16203 は弥生～古墳時代とされる竪穴建物跡 6548SI から出土した部位不明の炭化材である。PLD-16197 ～ 16199、16201、16202、16204 は竪穴建物跡以外からの出土である。試料の種類は、PLD-16197 が炭化材（最外年輪？）、PLD-16198、16199、16201 が炭化材（最外年輪）、PLD-16202、16204 が炭化種実である。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C 年代、暦年代を算出した。

表 4-5　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-16197	調査区：3SMS09 グリッド：1G17e 遺物No.DT-6002	試料の種類：炭化材 試料の性状：最外年輪? 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-16198	調査区：3SMS09 グリッド：1G17e 遺物No.DT-6003	試料の種類：炭化材 試料の性状：最外年輪 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-16199	調査区：3SMS09 グリッド：1G17e 遺物No.DT-6004	試料の種類：炭化材 試料の性状：最外年輪 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-16200	調査区：3SMS09 グリッド：1G19d 遺構：6792SI 遺物No.DT-6025内埋土	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明,小片複数 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-16201	調査区：3SMS09 グリッド：1G19c 遺物No.DT-6056	試料の種類：炭化材 試料の性状：最外年輪 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-16202	調査区：3SMS09 グリッド：1G17e 遺物No.DT-6113	試料の種類：炭化種実 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-16203	調査区：3SMS09 グリッド：1G19e 遺構：6548SI 遺物No.DT-6126	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明,残っている中で一番外側 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-16204	調査区：3SMS09 グリッド：1G17e 遺物No.DT-6146	試料の種類：炭化種実 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)

表 4-6　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-16197 (遺物No.DT-6002)	-26.79±0.19	1300±18	1300±20	669AD(38.7%)694AD 702AD(4.9%)707AD 748AD(24.6%)765AD	663AD(63.4%)722AD 740AD(32.0%)771AD
PLD-16198 (遺物No.DT-6003)	-26.46±0.21	1291±19	1290±20	675AD(42.0%)710AD 747AD(26.2%)766AD	667AD(58.9%)728AD 736AD(36.5%)772AD
PLD-16199 (遺物No.DT-6004)	-25.52±0.14	1308±17	1310±15	666AD(50.0%)692AD 750AD(18.2%)763AD	660AD(69.6%)718AD 742AD(25.8%)769AD
PLD-16200 (遺物No.DT-6025内埋土)	-27.21±0.19	1971±19	1970±20	5AD(68.2%)59AD	37BC(2.0%)30BC 22BC(4.2%)11BC 2BC(89.1%)73AD
PLD-16201 (遺物No.DT-6056)	-24.57±0.20	1832±18	1830±20	136AD(68.2%)215AD	130AD(95.4%)235AD
PLD-16202 (遺物No.DT-6113)	-26.33±0.13	1276±18	1275±20	686AD(37.8%)721AD 741AD(30.4%)770AD	678AD(95.4%)773AD
PLD-16203 (遺物No.DT-6126)	-27.40±0.19	1449±18	1450±20	601AD(68.2%)639AD	577AD(95.4%)646AD
PLD-16204 (遺物No.DT-6146)	-25.39±0.22	1280±21	1280±20	683AD(38.6%)718AD 743AD(29.6%)769AD	674AD(95.4%)773AD

3.　結果

表 4-6 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（$\delta^{13}C$）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲を、図 4-5 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C 年代（yrBP）の算出には、^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}C の半減期 5730±40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.1（較正曲線データ：Intcal09）を使用した。なお、1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

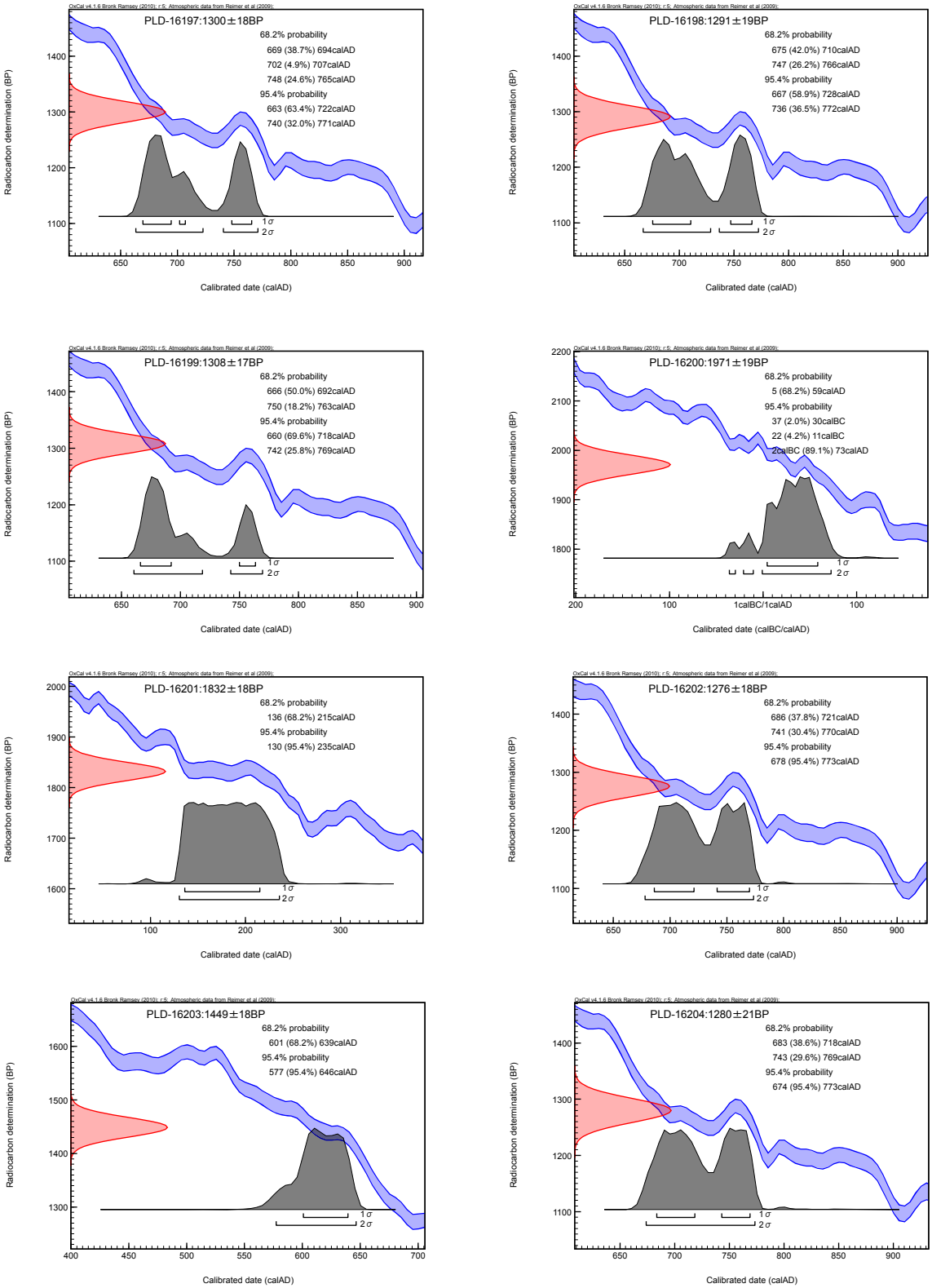

OxCal v4.1.6 Bronk Ramsey (2010); r:5; Atmospheric data from Reimer et al (2009);
PLD-16197:1300±18BP
68.2% probability
669 (38.7%) 694calAD
702 (4.9%) 707calAD
748 (24.6%) 765calAD
95.4% probability
663 (63.4%) 722calAD
740 (32.0%) 771calAD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)
PLD-16198:1291±19BP
68.2% probability
675 (42.0%) 710calAD
747 (26.2%) 766calAD
95.4% probability
667 (58.9%) 728calAD
736 (36.5%) 772calAD
PLD-16199:1308±17BP
68.2% probability
666 (50.0%) 692calAD
750 (18.2%) 763calAD
95.4% probability
660 (69.6%) 718calAD
742 (25.8%) 769calAD
PLD-16200:1971±19BP
68.2% probability
5 (68.2%) 59calAD
95.4% probability
37 (2.0%) 30calBC
22 (4.2%) 11calBC
2calBC (89.1%) 73calAD
Calibrated date (calBC/calAD)
PLD-16201:1832±18BP
68.2% probability
136 (68.2%) 215calAD
95.4% probability
130 (95.4%) 235calAD
PLD-16202:1276±18BP
68.2% probability
686 (37.8%) 721calAD
741 (30.4%) 770calAD
95.4% probability
678 (95.4%) 773calAD
PLD-16203:1449±18BP
68.2% probability
601 (68.2%) 639calAD
95.4% probability
577 (95.4%) 646calAD
PLD-16204:1280±21BP
68.2% probability
683 (38.6%) 718calAD
743 (29.6%) 769calAD
95.4% probability
674 (95.4%) 773calAD

図 4-5　暦年較正結果

4. 考察

以下、2σ 暦年代範囲に着目して結果を整理する。

弥生～古墳時代の竪穴建物跡 6792SI から出土した炭化材（PLD-16200）は、37-30 cal BC (2.0%)、22-11 cal BC (4.2%)、2 cal BC-73 cal AD (89.1%) の範囲を示した。特に紀元前 1 世紀末～紀元後 1 世紀後半の確率が高く、これは弥生時代後期に相当する。なお、Sakamoto et al.（2003）や尾嵜大真（2009）で示されているように、紀元後 1 ～ 3 世紀は欧米産樹木で作られた較正曲線 IntCal と日本産樹木との間に ^{14}C 年代の違いが認められており、日本産樹木は IntCal よりも系統的に数十年古い ^{14}C 年代を示す。また、朝日遺跡から出土した土器付着炭化物の年代学的調査でも、弥生時代中期後半から末では 50 年、弥生時代後期は 100 年ほど IntCal による較正結果が古く出る可能性が示されている（藤尾・尾嵜，2009）。6792SI 出土炭化材（PLD-16200）の暦年代範囲も、この問題を反映して真の年代より古くなっている可能性がある。その他に、古木効果についても考慮する必要がある。木材は内側の年輪であればあるほど、古い ^{14}C 年代を示す。6792SI 出土炭化材（PLD-16200）は最外年輪が確認できていないため、古木効果を考慮する必要がある。

弥生～古墳時代の竪穴建物跡 6548SI から出土した炭化材（PLD-16203）は、577-646 cal AD (95.4%) の範囲を示した。これは古墳時代後期に相当する。なお、6548SI 出土炭化材（PLD-16203）も部位不明のため、古木効果を考慮する必要がある。

竪穴建物跡以外の試料については、PLD-16201 の炭化材が、130-235 cal AD (95.4%) の範囲を示し、弥生時代後期に相当する。ただし、日本産樹木と IntCal の系統的な ^{14}C 年代の違いを考慮すると、この年代範囲も真の年代より数十年古い年代値を示している可能性がある。PLD-16197 ～ 16199（炭化材）、16202（炭化種実）、16204（炭化種実）は、いずれも 7 世紀後半～ 8 世紀後半の範囲を示し、古墳時代後期～奈良時代に相当する。

参考文献

Bronk Ramsey, C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. Radiocarbon, 37, 425-430.

Bronk Ramsey, C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon, 43, 355-363.

藤尾慎一郎・尾嵜大真（2009）朝日遺跡出土土器に付着した炭化物の年代学的調査.「朝日遺跡Ⅷ　愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 154 集総集編」：138-148, 愛知県埋蔵文化財センター.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎 . 日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」：3-20, 日本第四紀学会 .

尾嵜大真（2009）日本版較正曲線の作成と新たなる課題．西本豊弘編「新弥生時代のはじまり 第 4 巻　弥生農耕のはじまりとその年代」：4-8，雄山閣 .

Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 51, 1111-1150.

Sakamoto, M., Imamura, M., van der Plicht, J., Mitsutani, T. and Sahara, M. (2003) Radiocarbon Calibration for Japanese Wood Samples. Radiocarbon, 45(1), 81-89.

4．放射性炭素年代測定（その3）

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤　茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・小林克也

1．はじめに

愛知県新城市に位置するモリ下遺跡で出土した試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。なお、一部の試料については種実同定も行われている（種実同定の項参照）

2．試料と方法

試料は、09 区の 6548SI から出土した炭化植物遺体 1 点（DT-6131：PLD-26634）と炭化材 4 点（DT-6132：PLD-26635、DT-6133：PLD-26636、DT-6134：PLD-26637、DT-6135：PLD-26638）、6851SI から出土した炭化材 7 点（DT-6196：PLD-26639、DT-6197：PLD-26640、DT-6198：PLD-26641、DT-6199：PLD-26642、DT-6200：PLD-26643、DT-6201：PLD-26644、DT-6202：PLD-26645）、09 区の検出面 2 から出土した炭化種実 4 点（DT-6057：PLD-27221、DT-6090：PLD-27222、DT-6110：PLD-27223、DT-6171：PLD-27224）の、計 16 点である。炭化材 11 点のうち、DT-6132 と DT-6133、DT-6198、DT-6201 の 4 点は最終形成年輪が残っていたが、他の 7 点炭化材は最終形成年輪が残っていなかった。種実同定の結果、DT-6057（PLD-27221）はイチイガシ炭化子葉、DT-6090（PLD-27222）はコナラ属クヌギ節炭化子葉、DT-6110（PLD-27223）はコナラ属コナラ節炭化子葉、DT-6171（PLD-27224）はイチイガシ炭化子葉であった。測定試料の情報、調製データは表 4-7 のとおりである。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3．結果

表 4-8 に同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代を、図 4-7 ～ 8 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C 年代（yrBP）の算出には、^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（±1 σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2％であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い（^{14}C の半減期 5730±40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.1（較正曲線データ：IntCal13）を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2 σ 暦年代範囲は 95.4

表 4-7　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-26634	調査区：09区 グリッド：1G19e 遺構：6548SI 遺物No.DT-6131	種類：炭化植物遺体（イネ科） 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-26635	調査区：09区 グリッド：1G19e 遺構：6548SI 遺物No.DT-6132	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-26636	調査区：09区 グリッド：1G19e 遺構：6548SI 遺物No.DT-6133	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-26637	調査区：09区 グリッド：1G19e 遺構：6548SI 遺物No.DT-6134	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-26638	調査区：09区 グリッド：1G19e 遺構：6548SI 遺物No.DT-6135	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-26639	調査区：09区 グリッド：2G2h 遺構：6851SI 遺物No.DT-6196	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-26640	調査区：09区 グリッド：2G2h 遺構：6851SI 遺物No.DT-6197	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-26641	調査区：09区 グリッド：2G2h 遺構：6851SI 遺物No.DT-6198	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-26642	調査区：09区 グリッド：2G2h 遺構：6851SI 遺物No.DT-6199	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-26643	調査区：09区 グリッド：2G2h 遺構：6851SI 遺物No.DT-6200	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-26644	調査区：09区 グリッド：2G2h 遺構：6851SI 遺物No.DT-6201	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-26645	調査区：09区 グリッド：2G2h 遺構：6851SI 遺物No.DT-6202	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-27221	調査区：09区 グリッド：1G17e 遺構：検出面2 試料No.1 遺物No.DT-6057	種類：炭化種実（イチイガシ子葉） 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-27222	調査区：09区 グリッド：1G17e 遺構：検出面2 試料No.34 遺物No.DT-6090	種類：炭化種実（コナラ属クヌギ節子葉） 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-27223	調査区：09区 グリッド：1G17e 遺構：検出面2 試料No.49 遺物No.DT-6110	種類：炭化種実（コナラ属コナラ節子葉） 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-27224	調査区：09区 グリッド：1G17e 遺構：検出面2 試料No.81 遺物No.DT-6171	種類：炭化種実（イチイガシ子葉） 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）

表 4-8　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	δ 13C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	14C 年代 (yrBP±1σ)	14C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-26634 6548SI DT-6131	-12.35±0.15	1434±14	1435±15	614AD(68.2%)642AD	599AD(95.4%)650AD
PLD-26635 6548SI DT-6132	-28.49±0.19	1416±15	1415±15	625AD(68.2%)650AD	607AD(95.4%)655AD
PLD-26636 6548SI DT-6133	-27.95±0.16	1404±15	1405±15	635AD(68.2%)656AD	613AD(95.4%)659AD
PLD-26637 6548SI DT-6134	-26.74±0.12	1448±14	1450±15	605AD(68.2%)635AD	584AD(95.4%)645AD
PLD-26638 6548SI DT-6135	-28.61±0.13	1438±16	1440±15	611AD(68.4%)641AD	592AD(95.4%)650AD
PLD-26639 6851SI DT-6196	-27.45±0.18	1269±16	1270±15	690AD(45.1%)723AD 740AD(14.9%)751AD 761AD(8.2%)767AD	681AD(95.4%)770AD
PLD-26640 6851SI DT-6197	-27.60±0.18	1297±16	1295±15	671AD(44.7%)710AD 746AD(23.5%)764AD	666AD(62.2%)721AD 741AD(33.2%)768AD
PLD-26641 6851SI DT-6198	-28.64±0.16	1275±15	1275±15	690AD(38.6%)717AD 743AD(29.6%)766AD	677AD(95.4%)770AD
PLD-26642 6851SI DT-6199	-27.19±0.17	1272±15	1270±15	690AD(41.8%)720AD 741AD(15.3%)753AD 758AD(11.1%)767AD	680AD(95.4%)770AD
PLD-26643 6851SI DT-6200	-28.05±0.15	1272±15	1270±15	690AD(41.8%)720AD 741AD(15.3%)753AD 758AD(11.1%)767AD	680AD(95.4%)770AD
PLD-26644 6851SI DT-6201	-29.01±0.14	1285±15	1285±15	683AD(37.8%)711AD 745AD(30.4%)764AD	672AD(57.0%)725AD 738AD(38.4%)769AD
PLD-26645 6851SI DT-6202	-26.98±0.15	1260±14	1260±15	694AD(47.5%)730AD 736AD(15.0%)747AD 763AD(5.8%)768AD	687AD(95.4%)772AD
PLD-27221 検出面2 DT-6057	-23.17±0.14	1286±18	1285±20	681AD(39.0%)713AD 744AD(29.2%)765AD	670AD(58.5%)727AD 738AD(36.9%)769AD
PLD-27222 検出面2 DT-6090	-23.41±0.14	1303±18	1305±20	667AD(43.1%)695AD 704AD(2.7%)707AD 747AD(22.4%)763AD	663AD(66.3%)719AD 742AD(29.1%)767AD
PLD-27223 検出面2 DT-6110	-26.01±0.19	1284±22	1285±20	682AD(39.4%)715AD 744AD(28.8%)766AD	669AD(95.4%)770AD
PLD-27224 検出面2 DT-6171	-25.27±0.14	1268±18	1270±20	690AD(44.2%)725AD 739AD(15.4%)751AD 760AD(8.6%)767AD	682AD(95.4%)771AD

%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

4. 考察

以下、2σ 暦年代範囲（確率 95.4%）に着目して結果を整理する。各試料の測定結果のマルチプロット図を図 4-6 に示す。

6548SI の DT-6131（PLD-26634） は 599-650 cal AD(95.4%)、DT-6132（PLD-26635）は 607-655 cal AD(95.4%)、DT-6133（PLD-26636） は 613-659 cal AD(95.4%)、DT-6134（PLD-26637）は 584-645 cal AD(95.4%)、DT-6135（PLD-26638）は 592-650 cal AD(95.4%)で、いずれも 6 世紀後半～7 世紀中頃におさまる暦年代を示した。これは、飛鳥時代に相当する。DT-6131（PLD-26634）は炭化植物遺体で、測定結果は枯死または採取年代を示す。炭化材試料については、DT-6132（PLD-26635）と DT-6133（PLD-26636）の 2 点は最終形成年輪が残っており、DT-6134（PLD-26637）と DT-6135（PLD-26638）は最終形成年輪が残っていなかった。木材の場合、最終形成年年輪を測定すれば枯死もしくは伐採年代が得られるが、最終形成年輪よりも内側の年輪を測定すると、より内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。DT-6134（PLD-26637） と DT-6135（PLD-26638） の測定結果が DT-6131 や DT-6132、DT-6133 よりも古い年代を含んでいるのは、古木効果の影響と考えられる。

6851SI の DT-6196（PLD-26639） は 681-770 cal AD(95.4%)、DT-6197（PLD-26640）は 666-721 cal AD(62.2%) および 741-768 cal AD(33.2%)、DT-6198（PLD-26641） は 677-770 cal AD(95.4%)、DT-6199（PLD-26642）は 680-770 cal AD(95.4%)、DT-6200（PLD-26643） は 680-770 cal AD(95.4%)、DT-6201（PLD-26644） は 672-725 cal AD(57.0%) および 738-769 cal AD(38.4%)、DT-6202（PLD-26645）は 687-772 cal AD(95.4%) で、7 世紀後半～8 世紀後半の暦年代を示した。これは、飛鳥時代から奈良時代に相当する。

なお、DT-6198 と DT-6201 は最終形成年輪が残っており、測定結果は枯死もしくは伐採年代を示すが、他の 5 点については最終形成年輪が残っておらず、測定結果は古木効果の影響を受けている可能性がある。ただし、暦年較正の結果、年代に大きな差は生じていない。

検出面 2 の DT-6057（PLD-27221） は 670-727 cal AD(58.5%) および 738-769 cal AD(36.9%)、DT-6090（PLD-27222） は 663-719 cal AD(66.3%) および 742-767 cal AD(29.1%)、DT-6110（PLD-27223） は 669-770 cal AD(95.4%)、DT-6171（PLD-27224）は 682-771 cal AD(95.4%) で、7 世紀後半～8 世紀後半の暦年代を示した。これは、飛鳥時代から奈良時代に相当する。試料はいずれも種実であり、測定結果は結実年代を示す。

参考文献

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」：3-20, 日本第四紀学会.

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

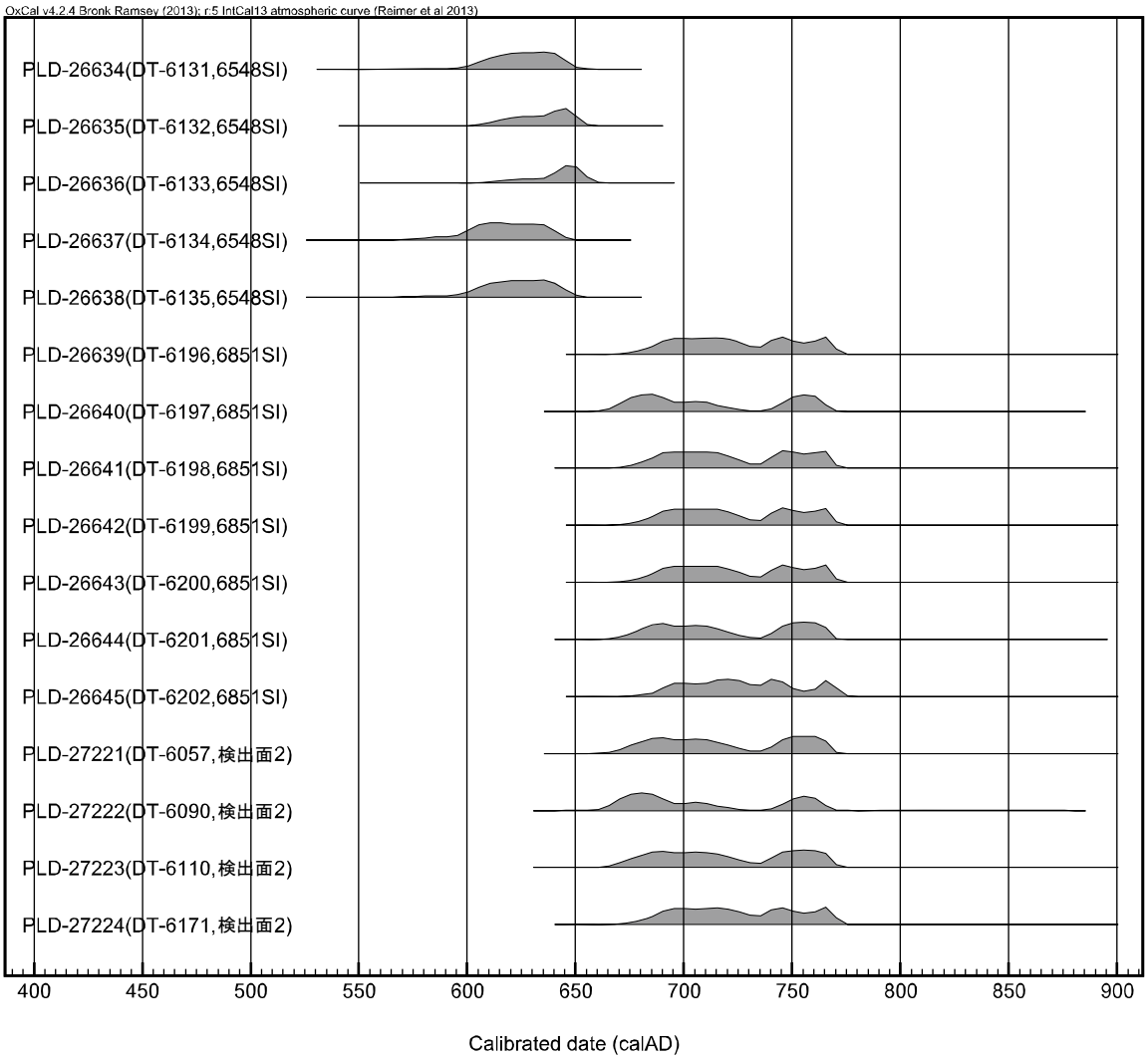


図 4-6　マルチプロット図

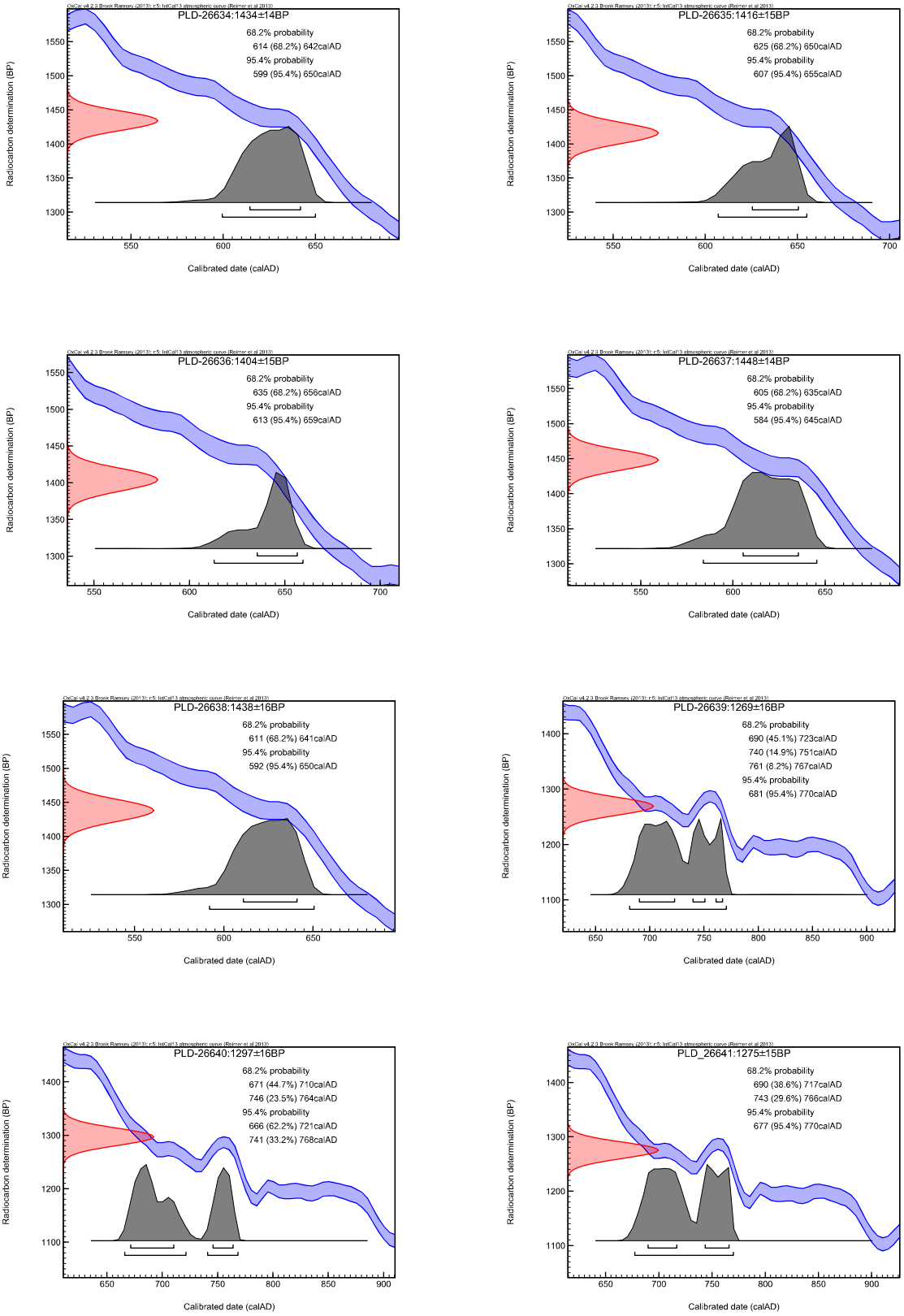

PLD-26634:1434±14BP
68.2% probability
614 (68.2%) 642calAD
95.4% probability
599 (95.4%) 650calAD
PLD-26635:1416±15BP
68.2% probability
625 (68.2%) 650calAD
95.4% probability
607 (95.4%) 655calAD
PLD-26636:1404±15BP
68.2% probability
635 (68.2%) 656calAD
95.4% probability
613 (95.4%) 659calAD
PLD-26637:1448±14BP
68.2% probability
605 (68.2%) 635calAD
95.4% probability
584 (95.4%) 645calAD
PLD-26638:1438±16BP
68.2% probability
611 (68.2%) 641calAD
95.4% probability
592 (95.4%) 650calAD
PLD-26639:1269±16BP
68.2% probability
690 (45.1%) 723calAD
740 (14.9%) 751calAD
761 (8.2%) 767calAD
95.4% probability
681 (95.4%) 770calAD
PLD-26640:1297±16BP
68.2% probability
671 (44.7%) 710calAD
746 (23.5%) 764calAD
95.4% probability
666 (62.2%) 721calAD
741 (33.2%) 768calAD
PLD_26641:1275±15BP
68.2% probability
690 (38.6%) 717calAD
743 (29.6%) 766calAD
95.4% probability
677 (95.4%) 770calAD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)

図 4-7　暦年較正結果

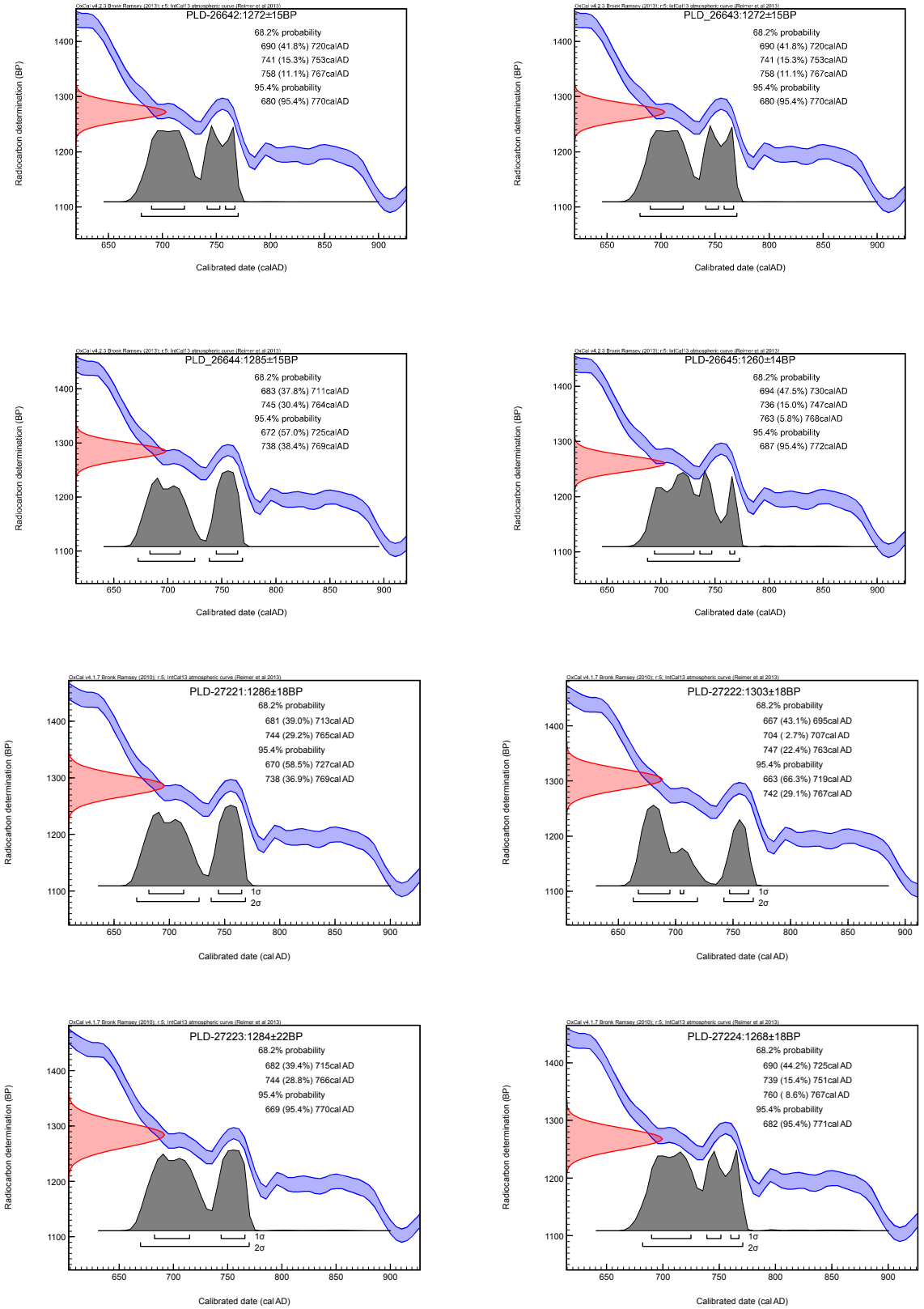

PLD-26642:1272±15BP
68.2% probability
690 (41.8%) 720calAD
741 (15.3%) 753calAD
758 (11.1%) 767calAD
95.4% probability
680 (95.4%) 770calAD
PLD_26643:1272±15BP
68.2% probability
690 (41.8%) 720calAD
741 (15.3%) 753calAD
758 (11.1%) 767calAD
95.4% probability
680 (95.4%) 770calAD
PLD_26644:1285±15BP
68.2% probability
683 (37.8%) 711calAD
745 (30.4%) 764calAD
95.4% probability
672 (57.0%) 725calAD
738 (38.4%) 769calAD
PLD-26645:1260±14BP
68.2% probability
694 (47.5%) 730calAD
736 (15.0%) 747calAD
763 (5.8%) 768calAD
95.4% probability
687 (95.4%) 772calAD
PLD-27221:1286±18BP
68.2% probability
681 (39.0%) 713cal AD
744 (29.2%) 765cal AD
95.4% probability
670 (58.5%) 727cal AD
738 (36.9%) 769cal AD
PLD-27222:1303±18BP
68.2% probability
667 (43.1%) 695cal AD
704 (2.7%) 707cal AD
747 (22.4%) 763cal AD
95.4% probability
663 (66.3%) 719cal AD
742 (29.1%) 767cal AD
PLD-27223:1284±22BP
68.2% probability
682 (39.4%) 715cal AD
744 (28.8%) 766cal AD
95.4% probability
669 (95.4%) 770cal AD
PLD-27224:1268±18BP
68.2% probability
690 (44.2%) 725cal AD
739 (15.4%) 751cal AD
760 (8.6%) 767cal AD
95.4% probability
682 (95.4%) 771cal AD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)
Calibrated date (cal AD)
1σ
2σ

図 4-8　暦年較正結果

5．モリ下遺跡の炭化種実

佐々木由香・バンダリ スダルシャン（パレオ・ラボ）

1.　はじめに

モリ下遺跡は愛知県新城市に位置する縄文時代から戦国時代の複合遺跡である。ここでは検出面から得られた炭化種実の同定を行い、利用植物や古植生について検討した。なお、一部の種実を用いて放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

2.　試料と方法

試料は、09 区の 1G17e グリッドの検出面 2 から出土した 83 試料と、柱穴である 6174SP から出土した 1 試料の計 84 試料である。このうち 4 試料について、放射性炭素年代測定を行った結果、飛鳥時代から奈良時代に相当する 7 世紀後半～ 8 世紀後半の暦年代が得られた。

計数の方法は、完形または一部が破損しても 1 個体とみなせるものは完形として数え、1 個体に満たないものは破片とした。試料は、愛知県埋蔵文化財センターに保管されている。

3.　結果

同定した結果、木本植物では広葉樹のコナラ属クヌギ節（以下クヌギ節）炭化子葉と、コナラ属コナラ節（以下コナラ節）炭化果実・炭化子葉、イチイガシ（？を含む）炭化果実・炭化子葉、コナラ属炭化果実・炭化子葉の 4 分類群が見いだされた（表 4-9）。

以下、炭化種実の出土傾向を取り上げ単位ごとに記載する。

検出面 2 からは、イチイガシ（イチイガシ？とした一群を含む）が最も多く得られた。次いで、属以上の詳細な分類ができなかったコナラ属がやや多く、コナラ節とクヌギ節がわずかに得られた。

6174SP からは、同定可能な種実は得られなかった。

表 4-9　モリ下遺跡から出土した炭化種実（括弧内は破片数）

	地区	09区	
	グリッド	1G17e	
	出土遺構	検出面2	6174SP
分類群	時期	不明	
コナラ属クヌギ節	炭化子葉	(1)	
コナラ属コナラ節	炭化果実	(9)	
	炭化子葉	2 (2)	
イチイガシ	炭化果実	6 (102)	
	炭化子葉	39 (30)	
イチイガシ？	炭化果実	(10)	
	炭化子葉	2 (6)	
コナラ属	炭化果実	(16)	
	炭化子葉	1 (55)	

次に、炭化種実の記載を行い、図版 4-1 に写真を示して同定の根拠とする。

(1) コナラ属クヌギ節　*Quercus* sect. *Aegilops*　炭化子葉　ブナ科

半分のみの残存であるが、完形ならば球形に近い円柱形。上下端は平坦。下端中央に浅い窪みがある。縦方向に浅い皺がある。臍の形状が観察できずクヌギかアベマキかの識別ができなかったため、クヌギ節の同定に留めた。高さ 13.1mm、幅 12.5mm。

(2) コナラ属コナラ節　*Quercus* sect. *Prinus*　炭化果実・炭化子葉　ブナ科

果実の残存状況は悪いが、コナラ節子葉と共伴して産出しており、かつ子葉と同一個体と判断できたものをコナラ節とした。子葉は U 字形に近い長卵体。下端部は平坦で、中央に浅い窪みがある。ほぼ中央が最大幅となる。縦方向に浅い皺がある。左右非対称の個体がある。割れると、小畑（2011）の分類でいう、中心の軸に沿って割れず（a 型）、斜め方向に割れる（a’ 型）個体がある。残

存高 15.9mm、幅 9.2mm。

(3) イチイガシ　*Quercus gilva Blume*　炭化果実・炭化子葉　ブナ科

果実の側面観は、完形ならば楕円形～長楕円形である。柱頭は突出し、細長い特徴があるが、残存していない。着点も残存していない。イチイガシの子葉に付着した果実または同一番号からイチイガシ子葉が産出している個体をイチイガシ果実とした。残存高 13.8mm、幅 11.1mm。子葉は、上面観が円形で、側面観が俵形。先端の突出はほとんどない。縦方向に明瞭な溝が 1 本確認できる。溝が浅いものや複数あるものなど、変異の幅が大きい。左右非対称になる個体がある。割れると、小畑（2011）の分類でいう、中心の軸に沿って割れず（a 型）、斜め方向に割れる（a’ 型）個体がある。図版に示した炭化子葉の大きさは、高さ 12.2mm、幅 11.3mm と高さ 14.9mm、幅 9.8mm。溝が不明瞭であるが、イチイガシと形状が似た個体をイチイガシ？とした。高さ 14.2mm、幅 9.8mm。

(4) コナラ属　Quercus spp.　炭化果実・炭化子葉　ブナ科

全体形が不明な破片であるが、完形ならば卵形ないし広卵形、円柱状を呈すると考えられる子葉の破片をコナラ属とした。高さ 16.5mm、残存幅 9.2mm。

4. 考察

7 世紀後半～ 8 世紀後半と推定される検出面 2 から出土した炭化種実を同定した結果、少なくともクヌギ節とココナラ節、イチイガシ（？を含む）の 3 種が確認できた。このうち、イチイガシは生食可能なドングリ類で、クヌギ節とコナラ節は食用とするにあたってアク抜きが必要な種である。産出した 3 種のうち、コナラ節とイチイガシは果実と食用部位である子葉が産出した。詳しい産出状況が不明のため、どのように炭化したかは推測しにくいが、果実片が一部に付いた個体が多いため、1 点しか産出していないクヌギ節を含めて、果実の状態で堆積した可能性が大きい。イチイガシは常緑樹、クヌギ節とコナラ節は落葉樹であり、当時の遺跡周辺に生育していたと考えられる。炭化しており、人が利用した可能性もあるが、産出状況や他の出土遺物とあわせて総合的に判断する必要があろう。

引用文献

小畑弘己（2011）東北アジア古民族植物学と縄文農耕．309p，同成社．

表 4-10　モリ下遺跡から出土した炭化種実（括弧内は破片数）

試料No.	地区	グリッド	出土遺構	遺物No.	分類群	部位	現状の産出数	本来の個体数	その他	年代測定番号
1	09区	1G17e	検出面2	DT-6057	イチイガシ	炭化子葉	1		溝あり	PLD-27221
2				DT-6058	イチイガシ	炭化子葉	1		溝あり	
3				DT-6059	イチイガシ	炭化果実	1			
4				DT-6060	イチイガシ	炭化子葉	(3)	1	溝あり	
5				DT-6061	イチイガシ	炭化子葉	(2)	1	溝あり	
6				DT-6062	イチイガシ	炭化子葉	(2)	1	溝あり	
					コナラ属	炭化子葉	(1)			
7				DT-6063	コナラ属	炭化子葉	(4)			
8				DT-6064	コナラ属	炭化果実	(4)			
						炭化子葉	(1)			
9				DT-6065	イチイガシ	炭化果実	1			
10				DT-6066	イチイガシ	炭化子葉	(2)	1	a'型、溝あり	
11				DT-6067	コナラ属	炭化子葉	(1)			
12				DT-6068	イチイガシ	炭化果実	1			
13				DT-6069	イチイガシ	炭化果実	2			
14				DT-6070	イチイガシ	炭化果実	(2)			
						炭化子葉	(2)	1	溝あり	
15				DT-6071	イチイガシ	炭化子葉	(2)	1	溝あり	PLD-27224
16				DT-6072	イチイガシ	炭化子葉	(2)	1	溝あり	
17				DT-6073	イチイガシ	炭化子葉	(1)		溝あり	
18				DT-6074	イチイガシ	炭化子葉	1		溝あり	
19				DT-6075	イチイガシ	炭化果実	(1)			
20				DT-6076	イチイガシ	炭化子葉	(2)	1	溝あり	
21				DT-6077	コナラ属	炭化子葉	(3)			
22				DT-6078	イチイガシ	炭化子葉	(4)		溝あり	
23				DT-6079	コナラ属	炭化子葉	(3)			
24				DT-6080	イチイガシ	炭化子葉	1		溝あり	
25				DT-6081	イチイガシ	炭化子葉	(2)	1	溝あり	
26				DT-6082	コナラ属	炭化果実	(5)			
						炭化子葉	(3)	1	a'型、非対称、長楕円形	
27				DT-6083	イチイガシ	炭化果実	(6)			
						炭化子葉	(2)	1	溝あり	
					コナラ属	炭化子葉	(8)			
28				DT-6084	イチイガシ	炭化果実	(5)			
						炭化子葉	(2)	1	溝あり	
29				DT-6085	イチイガシ	炭化子葉	(2)	1	溝あり	
30				DT-6086	イチイガシ	炭化子葉	(4)	1	溝あり	
31				DT-6087	イチイガシ	炭化果実	1			
32				DT-6088	イチイガシ？	炭化子葉	(1)		溝なし	
33				DT-6089	イチイガシ？	炭化子葉	(1)		溝なし	
34				DT-6090	コナラ属クヌギ節	炭化子葉	(1)			PLD-27222
35				DT-6091	イチイガシ	炭化子葉	(2)	1	溝あり	
36				DT-6092	コナラ属	炭化子葉	(4)			
37				DT-6093	イチイガシ？	炭化子葉	(2)	1	溝なし	
38				DT-6094	イチイガシ？	炭化子葉	(1)		a'型、溝なし	
39				DT-6095	イチイガシ	炭化子葉	(2)	1	溝あり	
40				DT-6097	イチイガシ	炭化果実	(1)			
						炭化子葉	(2)	1	溝あり	
41				DT-6098	コナラ属	炭化子葉	(1)			
42				DT-6099	イチイガシ	炭化子葉	(2)	1	溝あり	
43				DT-6100	イチイガシ	炭化子葉	1			
44				DT-6105	コナラ属	炭化子葉	(3)			
45				DT-6106	イチイガシ？	炭化子葉	(3)		溝なし	
46				DT-6107	コナラ属	炭化子葉	(7)			
47				DT-6108	イチイガシ	炭化子葉	(3)			
48				DT-6109	イチイガシ	炭化子葉	(1)		溝あり	
49				DT-6110	イチイガシ	炭化子葉	(1)		溝あり	
					コナラ属コナラ節	炭化子葉	(1)		a'型	PLD-27223
50				DT-6111	イチイガシ	炭化子葉	1		溝あり	
51				DT-6112	コナラ属	炭化子葉	(3)			
52				DT-6114	イチイガシ	炭化子葉	(2)		溝あり	
					コナラ属	炭化果実	(7)			
						炭化子葉	(4)			
53				DT-6115	イチイガシ？	炭化果実	(10)			
						炭化子葉	(2)	1	溝なし	
54				DT-6116	イチイガシ	炭化子葉	(1)		溝あり	
55				DT-6117	イチイガシ	炭化子葉	(2)	1	a'型、溝あり	
56				DT-6137	イチイガシ	炭化果実	(6)			
						炭化子葉	(2)	1	溝あり	
57				DT-6138	イチイガシ	炭化果実	(6)			
						炭化子葉	(4)	1	溝あり	
58				DT-6139	イチイガシ	炭化果実	(8)			
						炭化子葉	(2)	1	溝あり	
59				DT-6143	イチイガシ	炭化果実	(6)			
						炭化子葉	1		溝あり	
60				DT-6144	イチイガシ	炭化子葉	1		溝あり	
61				DT-6145	イチイガシ	炭化果実	(8)			
						炭化子葉	(2)	1	a'型、溝あり	
62				DT-6147	イチイガシ	炭化子葉	(2)	1	溝あり	
63				DT-6148	イチイガシ	炭化子葉	(4)		溝あり	
64				DT-6149	イチイガシ	炭化子葉	(4)	1	溝あり	
65				DT-6150	イチイガシ	炭化子葉	(2)	1	溝あり	
66				DT-6151	イチイガシ	炭化果実	(12)			
						炭化子葉	(3)		溝あり	
67				DT-6152	イチイガシ	炭化子葉	(3)	1	溝あり	
68				DT-6153	コナラ属	炭化子葉	(2)			
69				DT-6154	イチイガシ	炭化果実	(6)			
						炭化子葉	(2)	1	溝あり	
70				DT-6155	イチイガシ	炭化果実	(24)			
						炭化子葉	1		a'型、溝あり、左右非対称	
71				DT-6156	イチイガシ	炭化子葉	1		溝あり	
72				DT-6157	コナラ属コナラ節	炭化子葉	(1)	1	a'型	
73				DT-6159	イチイガシ	炭化果実	(6)			
						炭化子葉	(3)	1	溝あり	
74				DT-6160	コナラ属コナラ節	炭化果実	(9)			
						炭化子葉	(2)	1	a'型、左右非対称	
75				DT-6165	イチイガシ	炭化子葉	(2)	1	a'型、左右非対称	
76				DT-6166	イチイガシ	炭化子葉	(2)	1	溝あり	
77				DT-6167	イチイガシ	炭化果実	(5)			
						炭化子葉	(2)	1	溝あり	
78				DT-6168	イチイガシ	炭化子葉	(2)			
79				DT-6169	コナラ属コナラ節	炭化子葉	(1)		a'型	
80				DT-6170	イチイガシ	炭化子葉	(3)		溝あり	
81				DT-6171	イチイガシ	炭化子葉	(2)	1	a'型、溝あり	
82				DT-6172	コナラ属	炭化子葉	(5)			
83				DT-6173	コナラ属	炭化子葉	(5)			
84			6174SP	-	なし					

現状は割れているが、接合関係が判断可能な個体のみ本来の個体数を入れた。

図版 4-1　モリ下遺跡から出土した炭化種実

1，コナラ属クヌギ節炭化子葉（DT-6090、No.34：PLD-27222）、 2．コナラ属コナラ節炭化子葉（DT-6110、No.49：PLD-27223）、 3．イチイガシ炭化果実（DT-6065、No.9）、 4．イチイガシ炭化子葉（DT-6057、No.1：PLD-27221）、 5．イチイガシ炭化子葉（DT-6171、No.81：PLD-27224）、 6．イチイガシ？炭化子葉（DT-6115、No.53：）、 7．コナラ属炭化子葉（DT-6082、No.26）

6．モリ下遺跡の黒曜石原産地同定

井上　巌 (第四紀　地質研究所)

1．実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置（日本電子製 JSX-3200）で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（FP 法）による自動定量計算システムが採用されており、6C ～ 92U までの元素分析ができ、ハイパワー X 線源 (最大 30kV、4mA）の採用で微量試料～最大 290mm φ ×80mmH までの大型試料の測定が可能である。小形試料では 16 試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルク FP 法でおこなった。FP 法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X 線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

実験条件はバルク FP 法（スタンダードレス方式）、分析雰囲気＝真空、X 線管ターゲット素材＝ Rh、加速電圧＝ 30kV、管電流＝自動制御、分析時間＝ 200 秒（有効分析時間）である。

分析対象元素は Si, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K,　P,　Rb, Sr, Y, Zr の 14 元素、分析値は黒曜石の含水量＝ 0 と仮定し、酸化物の重量％を 100％にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量％は小数点以下２桁で表示することになっているが、微量元素の Rb, Sr, Y, Zr は重量％では小数点以下３～４桁の微量となり、小数点以下２桁では 0 と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下４桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素と微量元素の酸化物濃度（重量％）で SiO2-Al2O3,Fe2O3-TiO2,K2O-CaO の各相関図、Rb-Sr は積分強度の相関図の４組の組み合わせで図を作成した。

2―1．関東・中部・東海の黒曜石

2－1・1　長野県

長野県内に分布する黒曜石は、和田峠周辺の西餅屋、東餅屋、小深沢地区をあわせた和田峠系―1、男女倉５～７地区と星ケ塔地区をあわせた和田峠系―2、北八ケ岳の麦草峠周辺と冷山地区をあわせた蓼科系の３地域に分かれる。和田峠系の黒曜石はフォッサマグナ中央部の大規模流紋岩中に産する。高松山―虫倉山の南斜面を北西―南東方向に走る鷹山断層の南側での黒曜石はガスの抜けた気泡痕がなく、均質で、ハンマーでうち欠くと貝殻状に割れ、鋭利な刃先が打ち出される黒曜石である。この黒曜石を産する流紋岩は新生代第四紀の約 70 ～ 130 万年前に噴出、あるいは貫入したものである（手島、1994)。麦草峠と冷山の黒曜石は第四紀に噴出した八ヶ岳火山群の丸山溶岩流に被覆された同じ流紋岩の中に形成されたもので、26 ～ 27 万年前とされている（河内、1974、1998)。

A）　和田峠系―1

a　長野県和田村西餅屋

西餅屋の黒曜石は和田峠の西側に隣接する標高 1657 mの山体を取り囲んでリング状に分布する。この黒曜石は現在、芙蓉パーライト（株）によって採石されている。試料は同社の採掘現場である坑道内で採取した。　坑道内の黒曜石岩体は全体として亀裂が多く、10 ～ 15cm の角礫状であるが一部に 30 ～ 50cm 大のものもある。黒曜石は黒色で気泡跡に乏しく、小片にすると透明性が高く、貝殻状に割れる。

b　長野県和田村東餅屋

和田峠東の東餅屋の黒曜石は標高 1500m 付近の採石場跡の露頭に分布し、厚さ 1 ～ 2cm の薄い黒曜石脈が流紋岩と互層して産する。黒曜石脈の厚いところでは 15 ～ 20cm、黒色で気泡跡と亀裂が多く 3 ～ 5cm の小角礫に分離する。

c　長野県和田村小深沢

小深沢の黒曜石は和田峠北のビーナスラインの道路沿い標高 1600m 付近に分布する。現在黒曜石はほとんど採掘されつくされその規模は定かではない。試料はこの採石場跡の法面から採取した。法面は高さ約 30m、幅 80 ～ 100m と広い。顆粒状の 5mm± の黒曜石が厚さ約 1 ～ 2cm の縞状の流紋岩中に互層して挟まっている。本来の黒曜石岩体はもっと大きいと推察される。その痕跡として段切りした法面で 10 ～ 15cm の角礫状のものが採取される。この黒曜石は黒色で気泡跡に乏しく、貝殻状に割れる。

B）　和田峠系―２

a　長野県和田村男女倉

男女倉地区の黒曜石は男女倉川の東側、標高 1300 ～ 1350m の斜面に分布し、北から男女倉―5、6、7 とほぼ南北に分類されている（和田村教育委員会、1993）。

男女倉―5 の黒曜石は標高 1350m の山腹の南側斜面から沢に至る地すべり地内で採取される。この地すべり地末端を横断する林道の切通し法面（高さ約 15m）に斜面上部から移動し、堆積した多量の黒曜石岩塊が露出している。黒曜石は黒色で 50 ～ 60cm の亜円礫で気泡跡が点在する。

男女倉―6 は黒曜石の採石が行われた跡地で、黒曜石の岩塊は黒色でジョイントが多く、5 ～ 7cm の角礫状を呈し、気泡跡が多い。

男女倉―7 は林道路盤に露出するもので、男女倉―6 と連続する黒曜石である。

b　長野県和田村星ケ塔

星ケ塔の黒曜石は和田峠東方、新和田トンネル諏訪側出口の東を流下する御料沢の上流域、標高 1576m の山体にリング状に分布する。現在は山体北側斜面の標高 1350 ～ 1400m で芙蓉パーライト（株）によって黒曜石が採石されている。黒曜石の試料採取は現在稼働中の採石場の岩体で行なった。黒曜石は幅 20 ～ 25m、高さ約 10 ～ 15m の岩体で、ジョイントが多く入り、10 × 5cm 程度の角礫となるが大きなものでは 50× 30cm のものもある。黒曜石は黒色で気泡跡に乏しく、均質で、貝殻状に割れる。薄く割ると透明となる。

c　長野県長門町鷹山

鷹山の黒曜石は標高 1350 ～ 1400m の鷹山部落の鷹山川沿いに河床堆積物として分布する。大きなものでは人頭大のものが採取されたといわれているが、現在はペンション脇の支流の小さな法面と支流の河床中で採取される。黒曜石は黒色、硬質で、打ち欠いた薄い断面では透明で、気泡跡に乏しく、均質で、貝殻状に割れる。

C）　蓼科系

麦草峠と冷山との間には丸山溶岩が広く分布し、両地域の黒曜石は異なる時期に生成したように見えるが冷山と麦草峠の黒曜石は同時期の流紋岩の中に生成したものである（河内、1974、1998）。冷山の黒曜石はサカサ川の上流域の標高約 1800m 付近に広く分布し、麦草峠の黒曜石は麦草峠（標高 2120m）から白駒池駐車場の東側、国道 299 号の道路法面にかけての広い地域に分布する。両者の距離は直線距離で、約 3.0km である。

a　長野県茅野市冷山

冷山の黒曜石は麦草峠の西斜面で、サカサ川の上流域の標高約1800m付近に広く分布している。露頭は高さ 10 ～ 15m、幅 50 ～ 70m の広い範

囲で急崖をなす。露頭の下部では黒曜石は厚さ１～2cm、３～5mm の顆粒状を呈し、黒曜石と流紋岩との間で厚さ２～3cm の互層をなす。黒曜石は上部にむかって厚くなり、最上部では 1m ＋の厚さを有し、黒色で気泡跡に乏しく、透明性が高い。岩塊では黒色であるが、貝殻状細片では透明となる。

b　長野県八千穂村麦草峠

麦草峠の黒曜石は麦草峠（標高 2120m）から白駒池駐車場の東側、国道 299 号の道路法面にかけての広い地域に分布する。白駒池駐車場の東側、道路法面両側に露頭する黒曜石の岩体は 30×50m と大きく、黒曜石は黒色で気泡跡が点在し、露頭ではジョイントが多く５～8cm 程度の角礫に分離する。この岩体を中心として斜面上部と下部では黒曜石は貧弱となり、流紋岩の中に３～5mm の顆粒状の黒曜石として互層する。

3.　分析結果

表 4-11 化学分析表には分析結果、表 4-12 原産地対比表には分析結果に基づいて原産地も記載してある。

１）図 4-9 Rb － Sr 図に示すように、和田峠系―1 は 1 個も検出されず、和田峠系―2 が中心となる。

２）最も多く検出されたのは弱被熱・和田峠系―2 で、13 個のうち 7 個が該当する。強被熱・和田峠系―2 は 1 個、弱被熱・和田峠系―2Ca タイプが 5 個である。

３）弱被熱・和田峠系―2Ca タイプとは焼成の際に小枝など木類の火に当たったもので、弱被熱・和田峠系―2 の Ka タイプとは火の種類が異なると推察される。

４）和田峠系―2 のうち男女倉 5 は黒色でガスの抜けた小さな跡があり均質ではなく、透明感のある材質からするといしモリ下遺跡の遺物は均質な星ヶ塔に近い。

引用文献

井上　巖（2000）東北・北陸北部における原産地黒曜石の蛍光Ｘ線分析（ＸＲＦ）北越考古学、第１１号、23-38/

井上　巖（2001）テフラ中の火山ガラスの同定に関する一提言、軽石学雑誌、第７号　23-51.

井上　巖(2008)東北日本の原産地黒曜石　関東・中部・東海編

井上　巖(2008)東北日本の原産地黒曜石　東北・北陸編

井上　巖（2008）東北日本の原産地黒曜石　北海道編

井上　巖（2008）東北日本の原産地黒曜石写真集

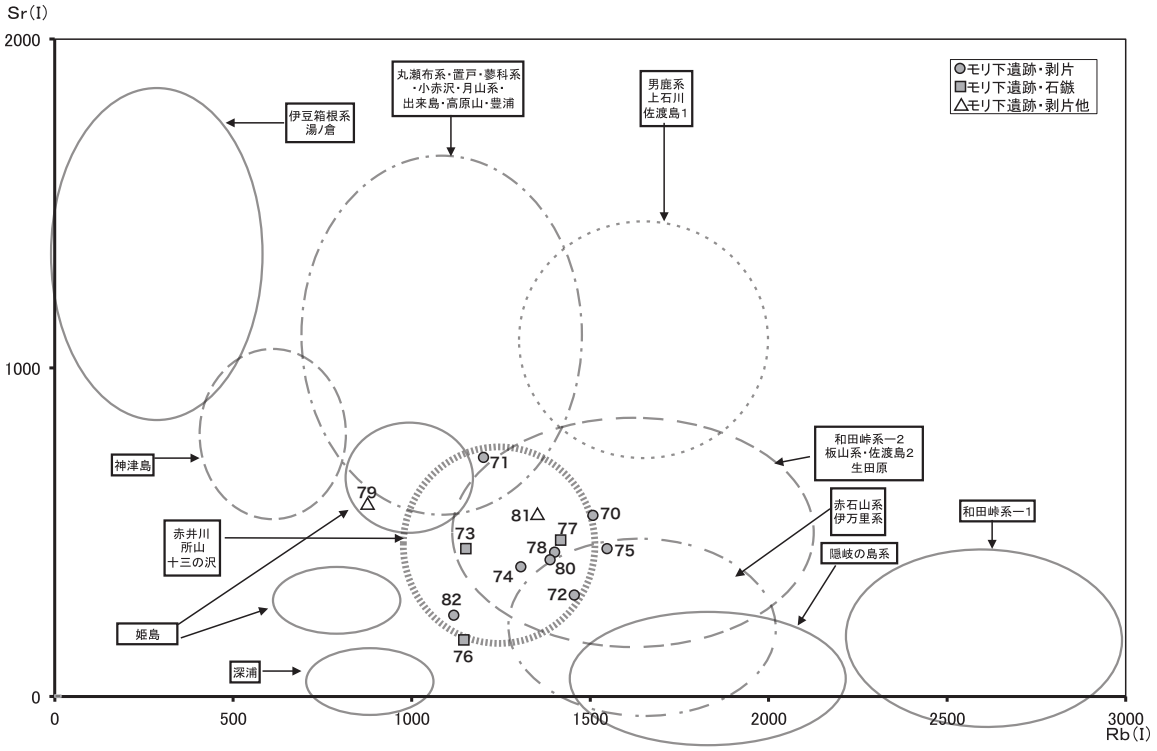


図 4-9　モリ下遺跡 Rb − Sr 図

表 4-11　化学分析表

試料名	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	P2O5	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	Rb2O	SrO	Y2O3	ZrO2	Total	Rb(I)	Sr(I)	原産地	器　種	整理番号	登録番号
IS-70	2.5686	0.0000	11.8477	78.3273	0.5854	4.8195	0.5752	0.1471	0.1097	0.9616	0.0267	0.0100	0.0078	0.0134	100.0000	1508	552	弱被熱・和田峠系ー２	剥片	6	
IS-71	3.1456	0.0000	10.9400	78.9802	0.5941	4.5498	0.5469	0.1420	0.0838	0.9488	0.0240	0.0149	0.0093	0.0207	100.0001	1201	727	弱被熱・和田峠系ー２	剥片	254	
IS-72	3.1145	0.0000	11.3255	78.7408	0.5589	4.6177	0.4713	0.1336	0.1074	0.8780	0.0238	0.0052	0.0065	0.0170	100.0002	1457	309	弱被熱・和田峠系ー２	剥片	495	
IS-73	3.2087	0.0000	12.0198	77.5361	0.5636	4.9032	0.6465	0.1233	0.0996	0.8428	0.0195	0.0078	0.0110	0.0181	100.0000	1150	451	弱被熱・和田峠系ー２	石鏃	544	
IS-74	3.2850	0.0000	13.0019	76.6314	0.6171	4.3949	0.5125	0.2004	0.1082	1.1922	0.0237	0.0073	0.0071	0.0182	99.9999	1308	394	弱被熱・和田峠系ー２　Ｃａ	剥片	587	
IS-75	1.4993	0.0000	15.4129	73.7558	0.5515	6.7489	0.4700	0.2067	0.1196	1.1733	0.0281	0.0083	0.0063	0.0194	100.0001	1548	449	強被熱・和田峠系ー２　Ｃａ	剥片	704	
IS-76	2.8337	0.0000	12.2922	77.2430	0.6372	4.7088	0.8704	0.1892	0.1148	1.0444	0.0230	0.0036	0.0131	0.0266	100.0000	1147	173	弱被熱・和田峠系ー２　Ｃａ	石鏃	730	21
IS-77	2.9532	0.0000	11.5042	78.4035	0.6115	4.7756	0.5766	0.1703	0.0931	0.8660	0.0238	0.0082	0.0068	0.0072	100.0000	1418	477	弱被熱・和田峠系ー２　Ｃａ	石鏃	796	20
IS-78	3.0651	0.0000	11.2634	78.5388	0.5756	4.7335	0.5632	0.1292	0.1093	0.9708	0.0243	0.0078	0.0071	0.0119	100.0000	1402	440	弱被熱・和田峠系ー２	剥片	834	
IS-79	2.9037	0.0000	11.3315	78.9860	0.5692	4.6233	0.5420	0.1262	0.0884	0.7930	0.0136	0.0093	0.0049	0.0090	100.0001	877	589	弱被熱・和田峠系ー２	微細剥片	852	
IS-80	3.3928	0.0000	11.9677	77.6566	0.5711	4.6903	0.5596	0.1405	0.1027	0.8747	0.0225	0.0069	0.0000	0.0146	100.0000	1387	415	弱被熱・和田峠系ー２	剥片	860	
IS-81	3.4543	0.0000	10.9307	78.3581	0.5804	4.8246	0.5263	0.1452	0.1137	1.0019	0.0259	0.0110	0.0036	0.0243	100.0000	1351	559	弱被熱・和田峠系ー２	二次加工のある剥片	862	
IS-82	2.6246	0.0000	12.0698	77.9568	0.6079	4.7700	0.6188	0.1708	0.1032	1.0305	0.0187	0.0042	0.0081	0.0164	99.9998	1119	248	弱被熱・和田峠系ー２　Ｃａ	剥片	867	

表 4-12　原産地対比表

試料名	原産地	器　種	整理番号	登録番号
IS-70	弱被熱・和田峠系ー２	剥片	6	
IS-71	弱被熱・和田峠系ー２	剥片	254	
IS-72	弱被熱・和田峠系ー２	剥片	495	
IS-73	弱被熱・和田峠系ー２	石鏃	544	
IS-78	弱被熱・和田峠系ー２	剥片	834	
IS-79	弱被熱・和田峠系ー２	微細剥片	852	
IS-80	弱被熱・和田峠系ー２	剥片	860	
IS-81	弱被熱・和田峠系ー２	二次加工のある剥片	862	
IS-75	強被熱・和田峠系ー２　Ｃａ	剥片	704	
IS-74	弱被熱・和田峠系ー２　Ｃａ	剥片	587	
IS-76	弱被熱・和田峠系ー２　Ｃａ	石鏃	730	21
IS-77	弱被熱・和田峠系ー２　Ｃａ	石鏃	796	20
IS-82	弱被熱・和田峠系ー２　Ｃａ	剥片	867	

第５章　総括

モリ下遺跡は第２章で述べたように、縄文時代早期（大川式古段階）から 19 世紀代におよぶ時期幅の遺物が出土している。以下、時期を追って纏める。

１期：縄文時代早期～後期（図 5-1）

縄文時代の遺物の多くは、第２章の図 2-1・38 でもわかるように、古墳時代以降の遺構より出土している。図 5-1 はそれらを除き、縄文時代の遺物のみ出土している遺構をプロットしたものである。一見してわかるように、遺構は 08A・B 区に集中しており、09 区は西半部に遺構がまばらに分布するのみである。

このなかで、08B 区の不整形の遺構 3834SX には早期に属する大川式古段階の押型文土器が認められる。

また、同じく 08B 区の南東隅にある土坑 3299SK からは中期後葉の中富式に属する深鉢が出土している。

本遺跡の縄文時代で最も活動が活発化するのは後期初頭～前葉の称名寺・中津式から福田 K2 式の段階で、08A 区 450・771・774SK、08B 区 3403SK、09 区 7285・7316SK よりこの時期の遺物が多数出土している。また、径約 4.2m を測る円形の溝状遺構 1703SI は当該期の竪穴建物であった可能性を有する。

２期：古墳時代前期前半（図 5-2）

平面プランや壁溝を確認した竪穴建物はおよそ 150 棟におよぶが、出土遺物によって明確に時期を確定し得たものは、わずか 12 棟を数えるに過ぎない。

この 12 棟は 2-1 期～ 2-4 期に細分することが可能である。

2-1 期（廻間Ⅱ式期後半併行）：2410・2881・3124SI
2-2 期（廻間Ⅱ式期後半～Ⅲ式期前半併行）：872（3699）・2067SI
2-3 期（廻間Ⅲ式期前半併行）：200・290・1051SI
2-4 期（廻間Ⅲ式期前半～中葉併行）：232（3323）・2810・3314・6792SI

おおまかに分布をみると、2-1 ～ 2-2 期は 08B 区に集中し、2-3 期には 08A 区に移動、次いで 2-4 期には 08B 区から 09 区に広がる。

本遺跡で確認した竪穴建物のうちのいくつかには、当該期の三河地方に特徴的にみられる幅広周溝を有するものが認められる。これらを子細に検討すると、５つのタイプに分けられることがわかった。

L 字状の幅広周溝を有するタイプ（図 5-3）：2618SI がこれにあたる。北辺と東辺の壁際に幅約 1m、深さ約 10cm の幅広周溝を掘削し、これを埋め立てて床面を形成している。主柱穴も幅広周溝を埋め立てたのちに柱掘り方を掘削する。

コの字状の幅広周溝と壁溝を有するタイプ（図 5-4）：3699（872）SI がこのタイプ。北東辺のみ無く、北西・南西・南東辺に幅 0.7 ～ 1.8m、深さ 10cm の幅広周溝をめぐらす。この幅広周溝を埋め立て、さらに 10 ～ 20cm の貼り床をほどこしたのち、壁溝を掘削する。この 3699SI では壁溝に壁板の痕跡が遺存していた。壁板は最大厚 7cm ほどで、壁面に密着している。このことから、既に指摘されていることではあるが、壁溝は竪穴建物の周壁の崩落を木質の壁板で防ぐことを目的として、壁板を据え付けるための掘り方として掘削された溝であることを改めて確認した。本遺跡においては、3124SI でも壁板の痕跡を確

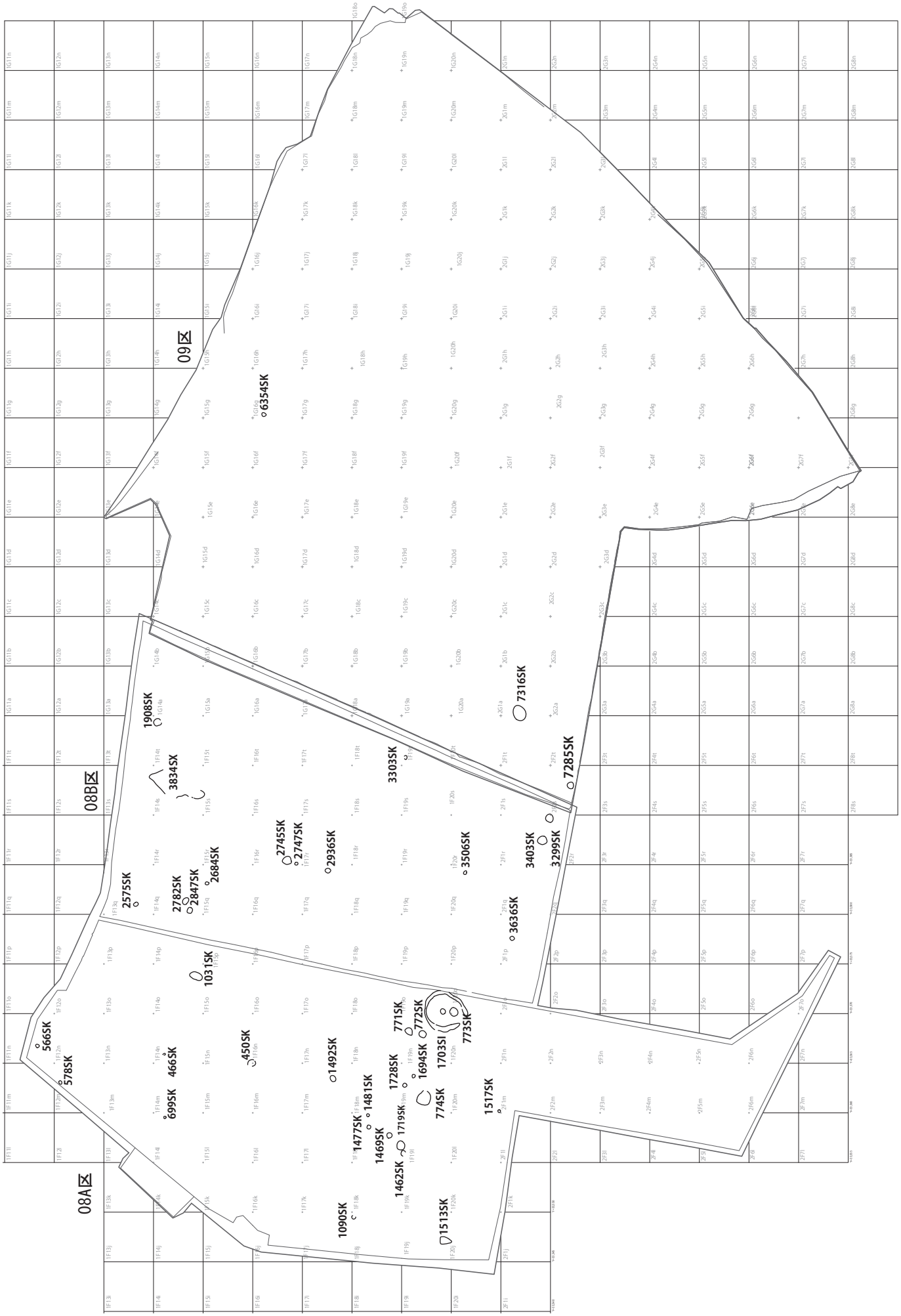


図 5-1　1 期の遺構（1:500）

図 5-2　2 期の遺構（1:500）

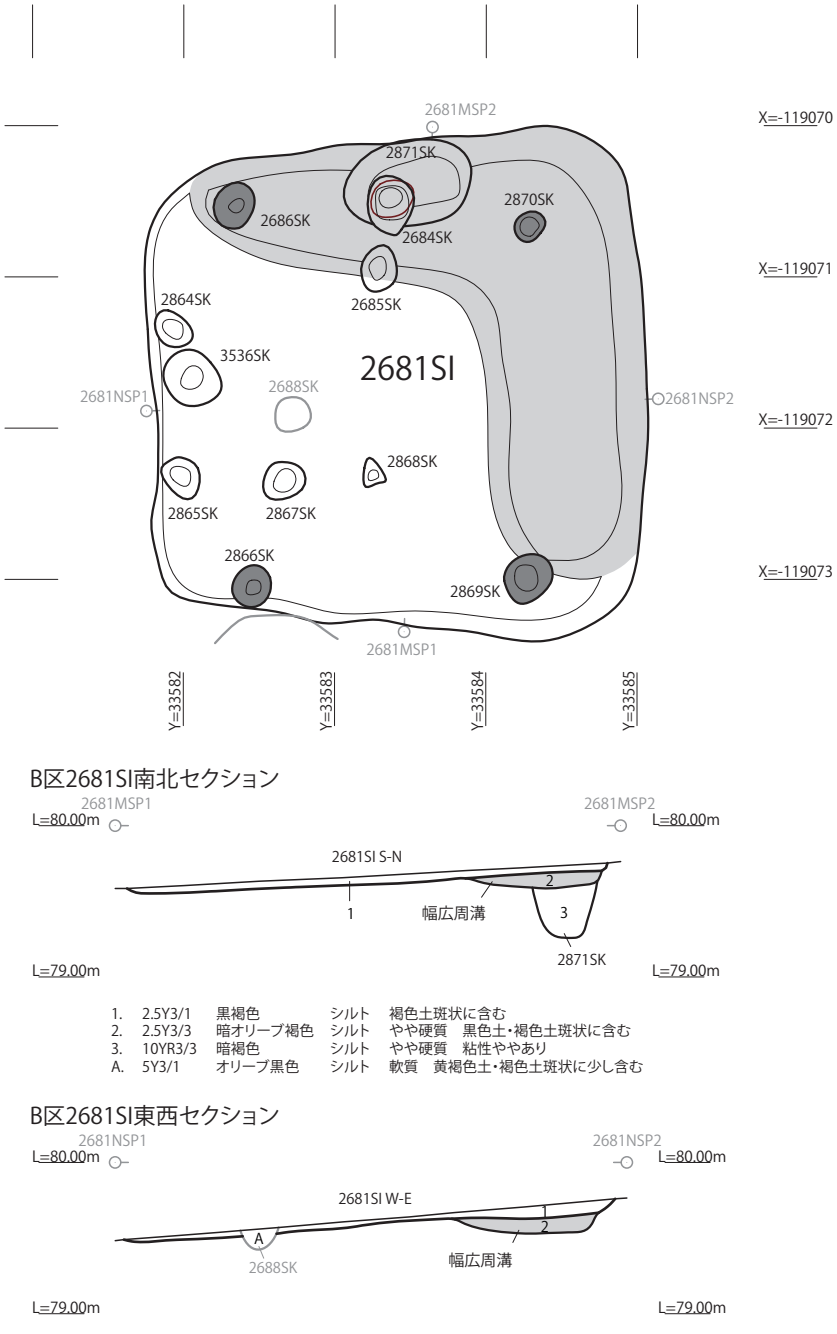


図 5-3 L 字状の幅広周溝をもつ竪穴建物（2681SI 1:50）

認している。

そして、3699SI では西隅の主柱穴 3815SK が壁溝を切って掘削されていることから、主柱穴は壁板構築後に掘削されていることがわかる。すなわち竪穴建物の構築には、全体の掘り方の掘削→幅広周溝の掘削→幅広周溝の埋め立て→貼り床→壁溝の掘削→壁板の構築→壁溝の埋め立て→主柱穴の掘り方掘削→立柱→柱掘り方の埋め立て、という手順を踏んでいたことがわかった。

ロの字状の幅広周溝を有するタイプ（図 5-5）：2209SI がこのタイプ。図 5-5 の幅広周溝をよくみると、下端の深さが一定していないことがわかる。これはおそらく掘削単位の問題で、同様の掘り方は 2067SI においても認められる。この 2209SI は幅広周溝を埋め立てたのち、中央部分にのみ貼り床をし、さらに主柱穴の掘り方を掘削している。

この竪穴建物には壁溝が無く、しかも西辺を除けば幅広周溝の外側と周壁の間に 30 ～ 60cm もの空閑地を設けるのが特徴的である。

ロの字状の幅広周溝と壁溝を有するタイプ（図 5-6・7）：2067・2682SI がこのタイプである。前述のように、2067SI の幅広周溝にも掘削時の単位が認められる。そして、幅広周溝の埋め立て後に壁溝を掘削するという手順もまた、これまでのタイプと同様である。ただ、この 2067SI に関しては主柱穴の位置がはっきりとしていない。

2682SI もまた幅広周溝が全周し、かつ壁溝をめぐらしている。この竪穴建物の特色は、まず建

物全体の掘り方がいびつな台形であり、幅広周溝も掘り方に対して著しく東に偏っている。さらに壁溝が掘り方との間(北東隅と南西隅)に約30cmもの隙間を有している。前述の3699SIの例によるならば、壁溝に沿って壁板が立てられていたはずであり、その仮説が正しければ、この空閑地は壁板の裏込めとして埋め立てられていた可能性が高い。

そうすると、主柱穴に想定した4箇所の柱掘り方のいずれもが既に立っているはずの壁板を破壊することとなるため、はたしてこれらが主柱穴の位置としてふさわしいのかという点に問題を残している。

また、炉跡が北壁付近に位置しており、これまた壁板との位置関係に課題を残す。

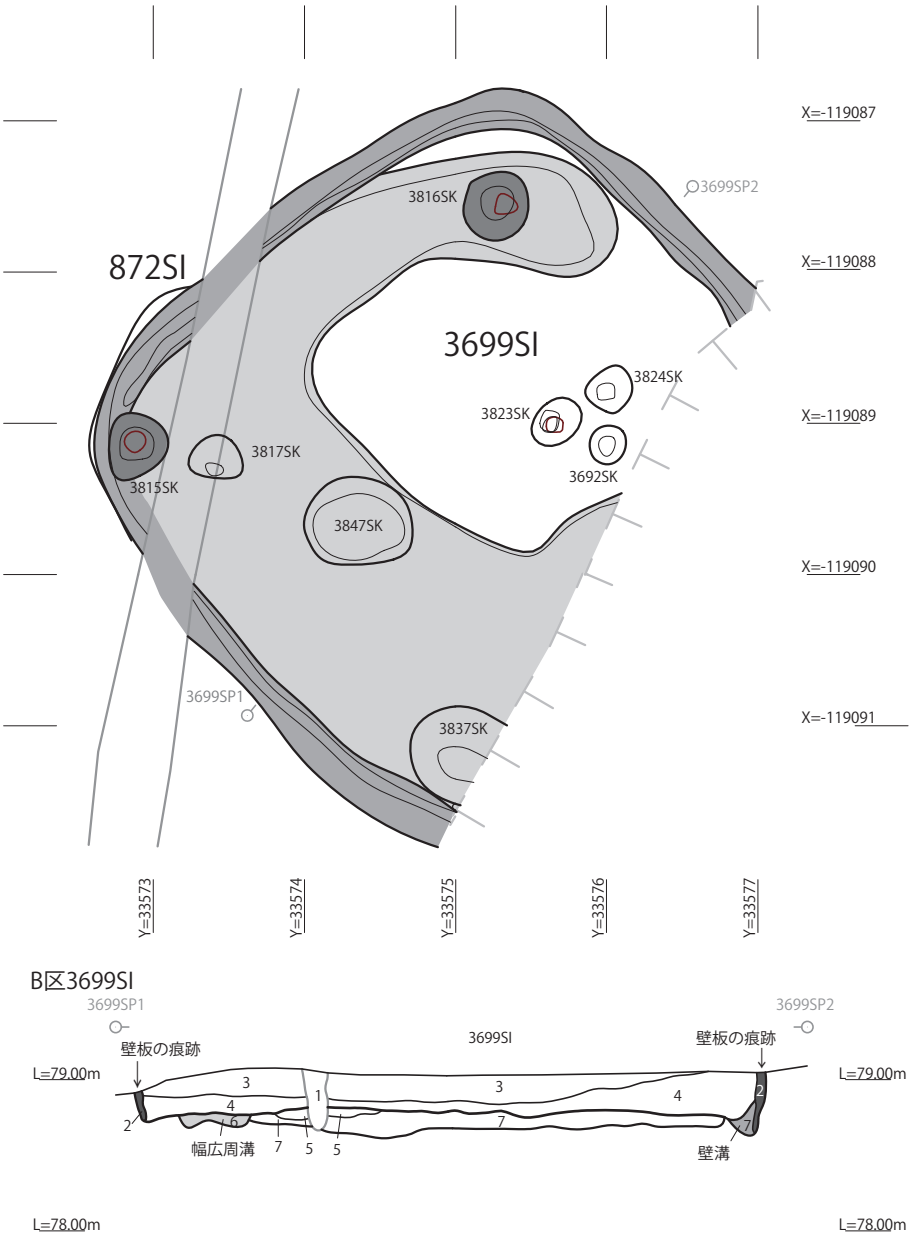
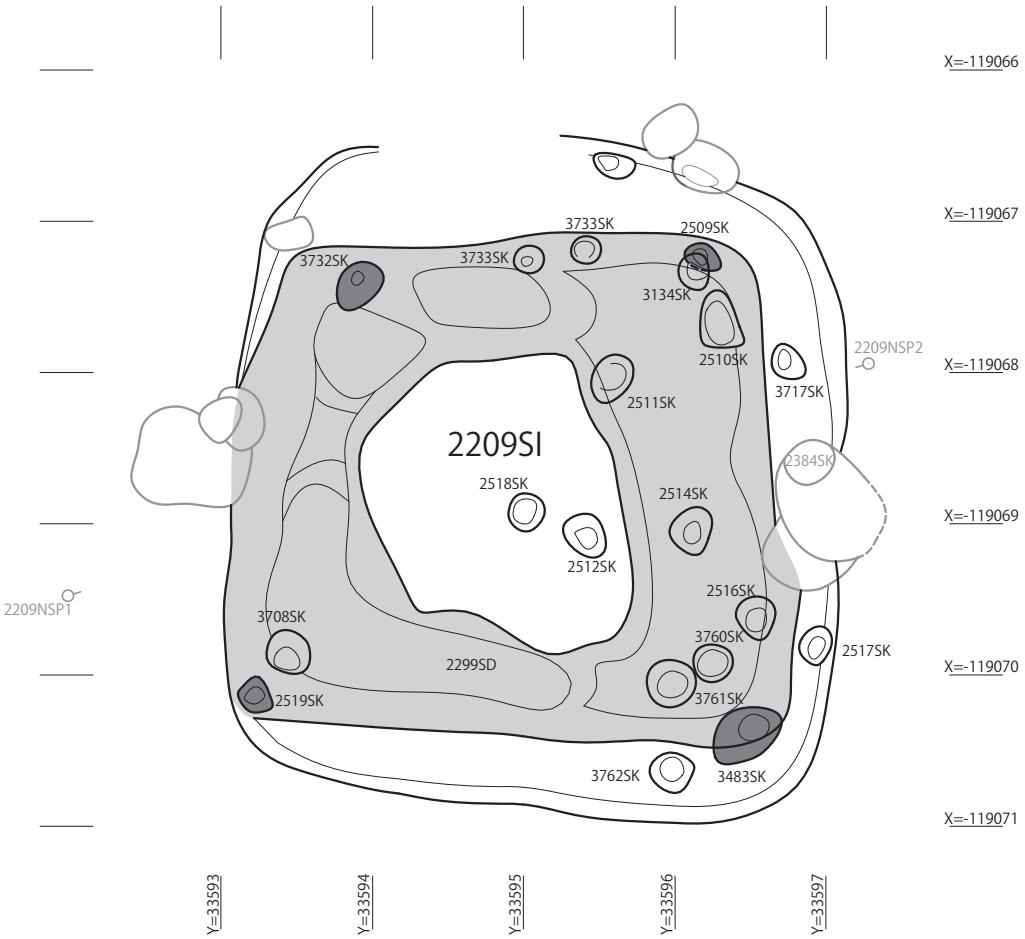


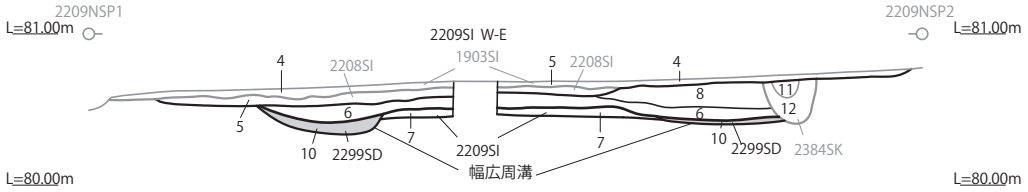
図5-4 コの字状の幅広周溝と壁板痕跡をもつ竪穴建物（3699SI 1:50）

二重にロの字状の幅広周溝を有し、かつ壁溝をめぐらすタイプ（図5-8）：このタイプに属するのは3314SIのみである。

幅広周溝は、溝芯々間で2.8×2.3m、幅30～50cm、深さ10cmほどの内溝と、、溝芯々間で4.3m四方、幅1.0～1.5m、深さ10cmほどの外溝からなっており、これを埋め立てて床面を形成したのち、壁溝を掘って壁板を立て、その後主柱穴の掘り方を掘削して柱を立てている。床面には内側の幅広周溝の西辺中央に炉を設け、さら

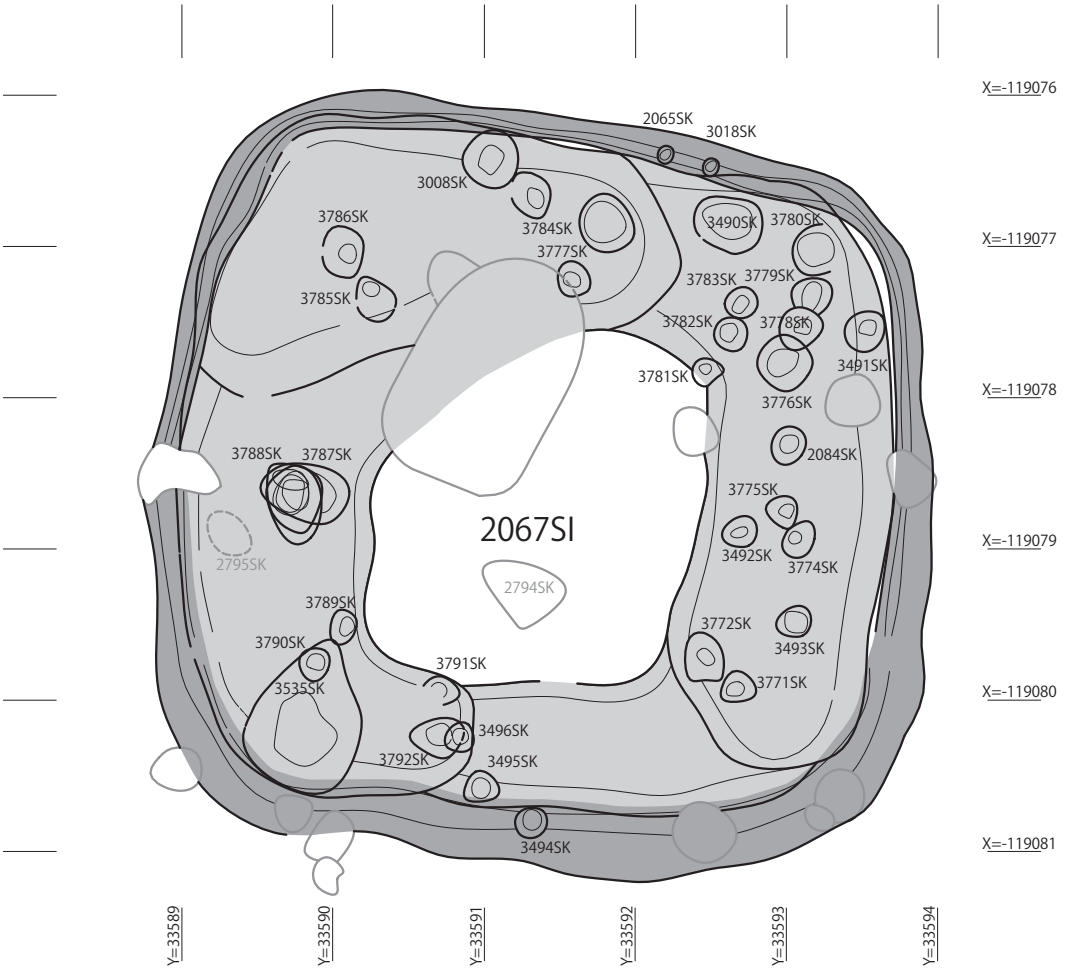


2209SI東西セクション

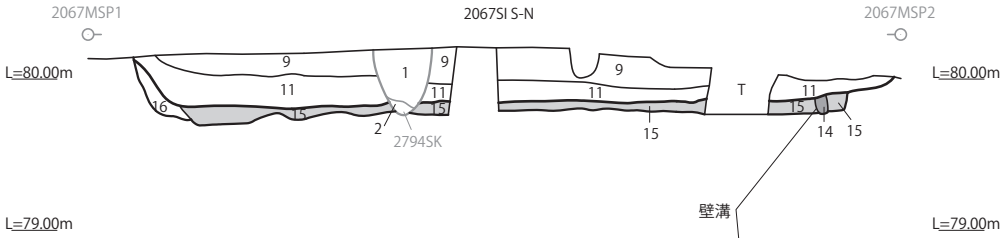


1.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	粘性ややあり　黄褐色土斑状に含む
2.	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	やや硬質　粘性やや弱い
3.	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	軟質　粘性弱い　焼土わずかに含む　黄褐色土強い流状に含む
4.	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト	やや軟質　粘性弱い　黄褐色土斑状に含む
5.	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト	黄褐色土斑状に含む
6.	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト	やや硬質　黄褐色土やや強い流状に含む
7.	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	やや硬質　粘性ややあり　黄褐色土強い流～斑状に含む
8.	10YR3/2	黒褐色	シルト	やや硬質　褐色土少し含む
9.	5Y4/2	灰オリーブ色	シルト	やや硬質　黄褐色土やや強い流状に含む
10.	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト	やや軟質　黄褐色土下半にやや強い斑状に含む
11.	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	やや硬質　淡桃灰黄灰質土強い流状に含む
12.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	灰質土少し含む　炭少し含む

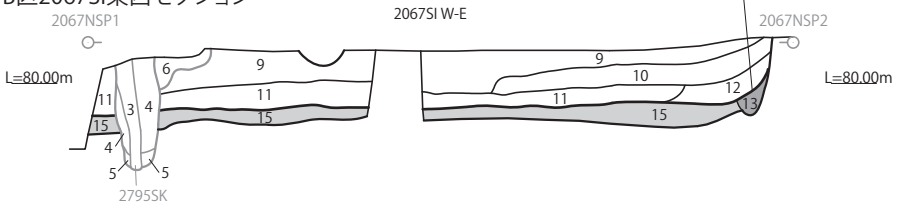
図 5-5　ロの字状の幅広周溝をもつ竪穴建物（2208SI　1:50）



B区2067SI南北セクション



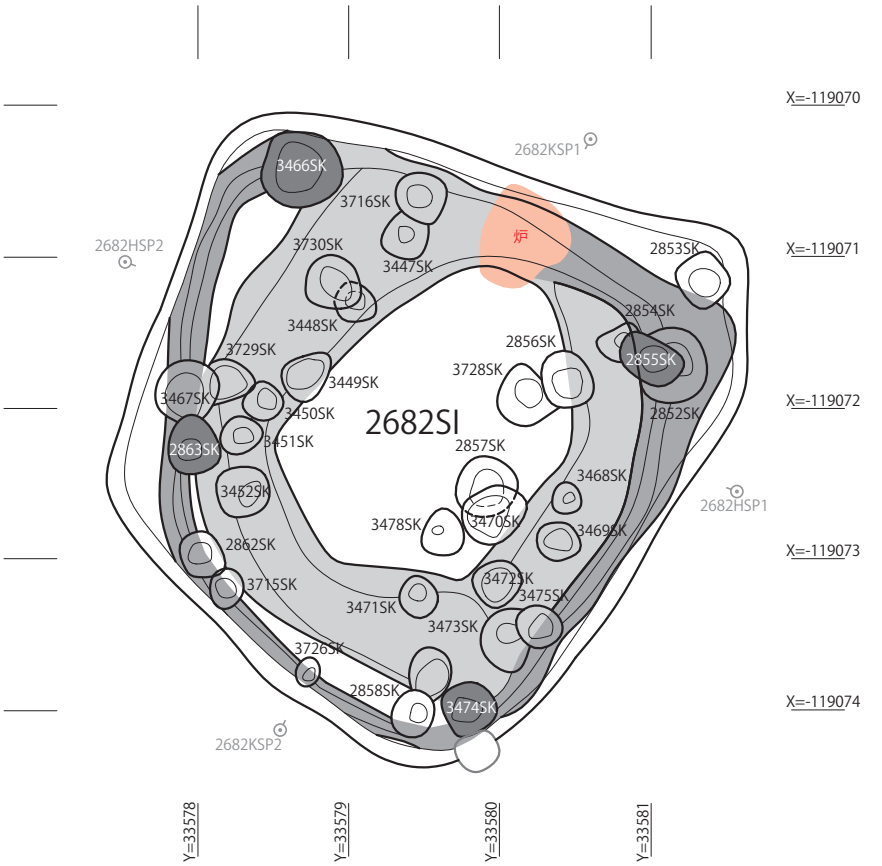
B区2067SI東西セクション



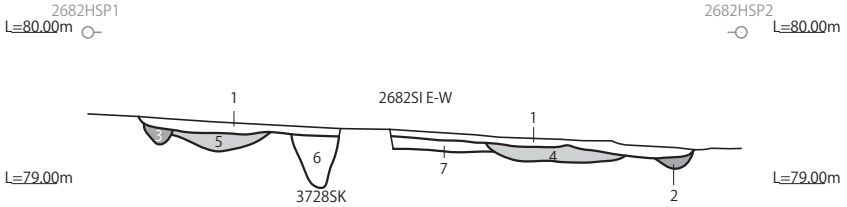
L=79.00m　L=79.00m

1.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	軟質　粘性ややあり
2.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	粘性あり　黄褐色土斑状に含む
3.	10YR4/4	褐色	シルト	軟質　粘性弱い　炭まばらに含む　黄褐色土斑状に含む　炭質土やや強い斑状に含む
4.	10YR4/4	褐色	シルト	硬質　粘性弱い　黄褐色土やや強い流状に含む　焼土・炭わずかに含む
5.	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	硬質　粘性あり　黄褐色土強い流状に含む
6.	10YR4/4	褐色	シルト	硬質　焼土まばらに含む　炭質土やや強い斑状に含む
9.	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	黄褐色土流状に含む
10.	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	やや硬質　黄褐色土強い流状に含む
11.	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	黄褐色土強い流状に含む
12.	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト	やや軟質　粘性ややあり　黄褐色土やや強い流状に含む
13.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	軟質　粘性ややあり　黄褐色土強い流状に含む
14.	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト	軟質　粘性あり　黄褐色土流～斑状に含む
15.	5Y4/3	暗オリーブ色	シルト	やや硬質　粘性あり　黄褐色所々強い斑状に含む
16.	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト	軟質　粘性ややあり　黄褐色土強い流状に含む

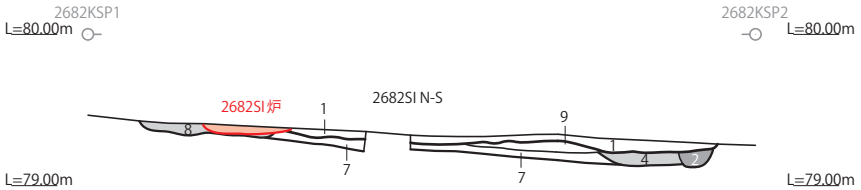
図 5-6　ロの字状の幅広周溝と壁溝をもつ竪穴建物 -1（2067SI　1:50）



B区2682東西セクション

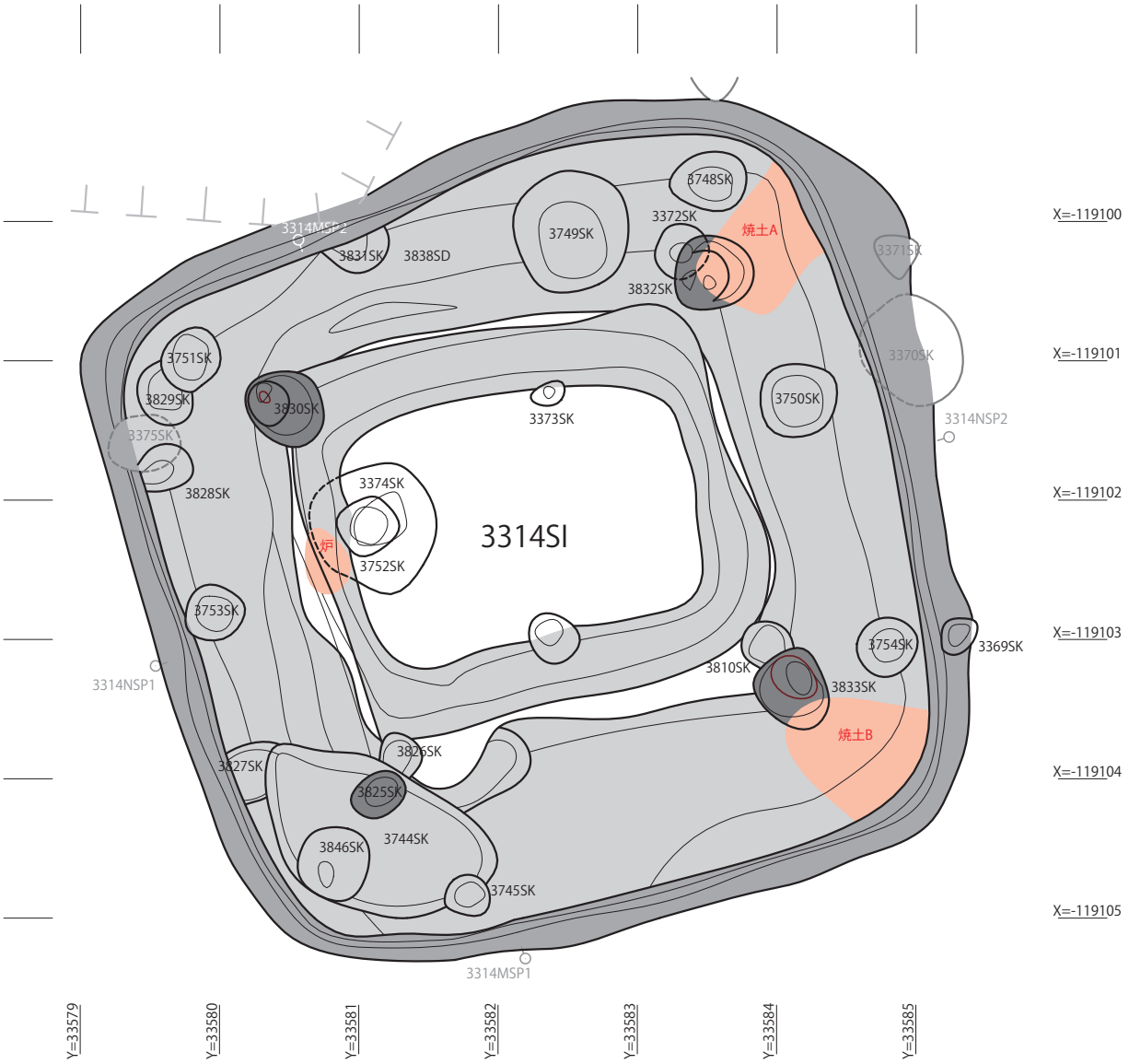


B区2682南北セクション

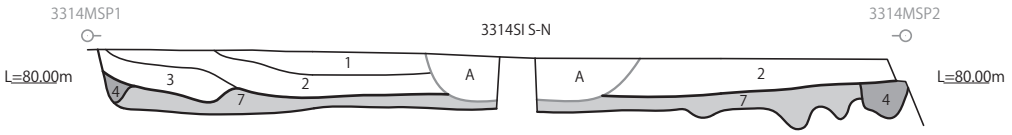


1.	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	軟質　粘性ややあり　褐色土・黄褐色土斑状に少し含む
2.	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト	
3.	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト	やや軟質　粘性やや弱い　焼土やや強い斑状に含む
4.	5Y4/2	灰オリーブ色	シルト	やや硬質　黄褐色土斑状に含む
5.	5Y5/4	オリーブ色	シルト	軟質　黄褐色土やや強い斑～流状に含む
6.	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	硬質　粘性ややあり
7.	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	やや軟質　黒色土強い斑状に含む
8.	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	やや軟質　黄褐色土強い斑状に含む
9.	5Y2/2	オリーブ黒色	シルト	硬質　粘性ややあり　黄褐色土斑状に含む

図 5-7　ロの字状の幅広周溝と壁溝をもつ竪穴建物 -2（2682SI　1:50）



B区3314SI南北セクション



1.	10YR2/3	黒褐色	シルト	粘性やや弱い　褐色土斑状に含む	
2.	10YR3/2	黒褐色	シルト	やや硬質　黄褐色土やや強い流状に含む　焼土わずかに含む	
3.	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	やや軟質　黄褐色土やや強い斑状に含む	
4.	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト	やや軟質　粘性ややあり　黄褐色土強い流～斑状に含む	
5.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	やや硬質　黄褐色土強い流状に含む	
6.	5Y2/2	オリーブ黒色	シルト	粘性ややあり　黄褐色土強い斑状に含む	
7.	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	硬質　粘性ややあり　黒色土やや強い斑状に含む	
A.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	軟質　粘性ややあり　黄褐色土・褐色土やや強い斑状に含む	
B.	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	黄褐色土・褐色土斑状に含む	

L=79.00m　　L=79.00m

B区3314SI東西セクション

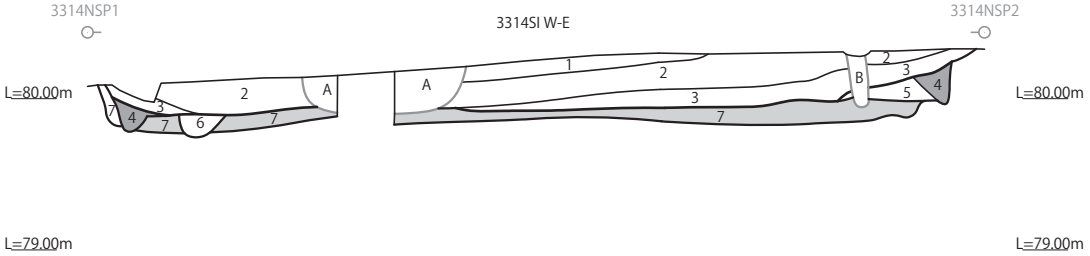


図 5-8　二重にロの字状の幅広周溝と壁溝をもつ竪穴建物（3314SI　1:50）

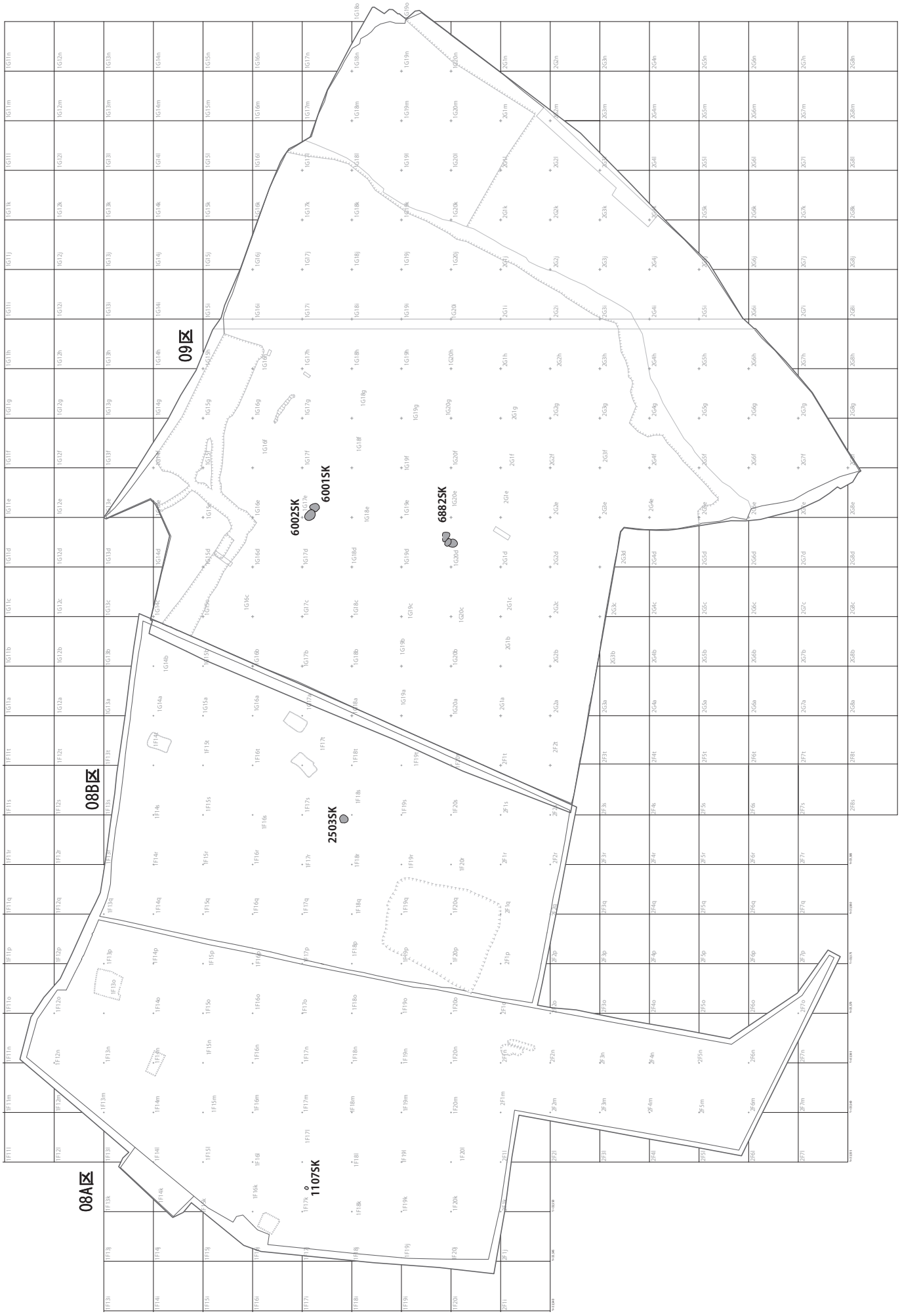


図 5-9　3 期の遺構（1:500）

図 5-10　4-1 期の遺構（1:500）

図 5-11　4-2 期の遺構（1:500）

に北東隅と南東隅には焼土が広がる。また南西コーナーと北東コーナーのやや西寄りには貯蔵穴（3744・2749SK）を有する。

以上のように、一概に幅広周溝を有する竪穴建物といっても、その形態にはかなりのバラエティーがある。今後は同じ東三河の例の他、西三河のそれも含めて比較研究し、その機能を探っていく必要性があろう。

また、本遺跡の竪穴建物では、最大規模でも掘り方の一辺が6m程度であり、逆に最も小規模なものでは長辺が2.5mを切るもの（3243SIなど）もあるなど、全体的に竪穴建物のサイズが小さいのが特徴的である。これはおそらく本遺跡の性格そのものに関わってくるであろう問題であり、この新城地区における当該期の他の集落（例えば石座神社遺跡など）と比較して検討していく必要があると思われる。

3期：古代（図5-9）

本遺跡において確実に古代の遺構とみられるものは、08A区の1107SK、08B区の2503SK、09区の6001・6002・6882SKとごくわずかである。

時期は2503・6882SKが岩崎17号窯式期併行（7世紀後半）、6001・6002SKが折戸10号窯式期併行（8世紀末）、1107SKが折戸53号窯式期併行（10世紀前半）に属する。

現状においては生活の痕跡とは認めがたいが、4期の遺構群によって破壊されたとも考えられる。上記の3時期はいずれも本遺跡の西約800mに所在する石岸遺跡の存続期間中である。特に7世紀後半は石岸遺跡の東にある丘陵上に須長10号墳が築かれた時期でもあるので、2期と同様に、周辺の遺跡との関連でその性格を考えていく必要があろう。

4期：中世（図5-10・11）

中世の遺構群は、おおまかに12･13世紀代（図5-10）と15・16世紀代（図5-11）に分けられるようである。

両時期ともに遺構群の軸線が北に対して30～40°東に振れるという点では同じだが、遺構の集中する箇所が4-1期は08A区と09区であるのに対して、4-2期は08B区に移る。

建物に関しては、両時期とも竪穴状遺構が主体だが、4-1期の竪穴状遺構がほぼ正方形ないし台形の精美な平面形をもち、かつ周壁がほぼ垂直に立ち上がるのに対し、4-2期のそれは平面が不整形な円形ないしは楕円形で、周壁の立ち上がりも緩やかである。

一方、4-2期は幅1mを超える溝で細かく区画されているのに対し、4-1期の区画方法は良くわからない。ただ、09区南方では竪穴状遺構に合わせたとみられる柵列が複数存在する（8094～8098SA）ことから、時期の決め手に欠ける5071・8099・8100SAなども4-1期の区画施設である可能性が高いと思われる。

また、本遺跡で現況において認識できる唯一の掘立柱建物8073SB自体も時期の決め手はないが、周辺遺構との関わりを考慮すれば、4-1期としておくのが妥当と考える。

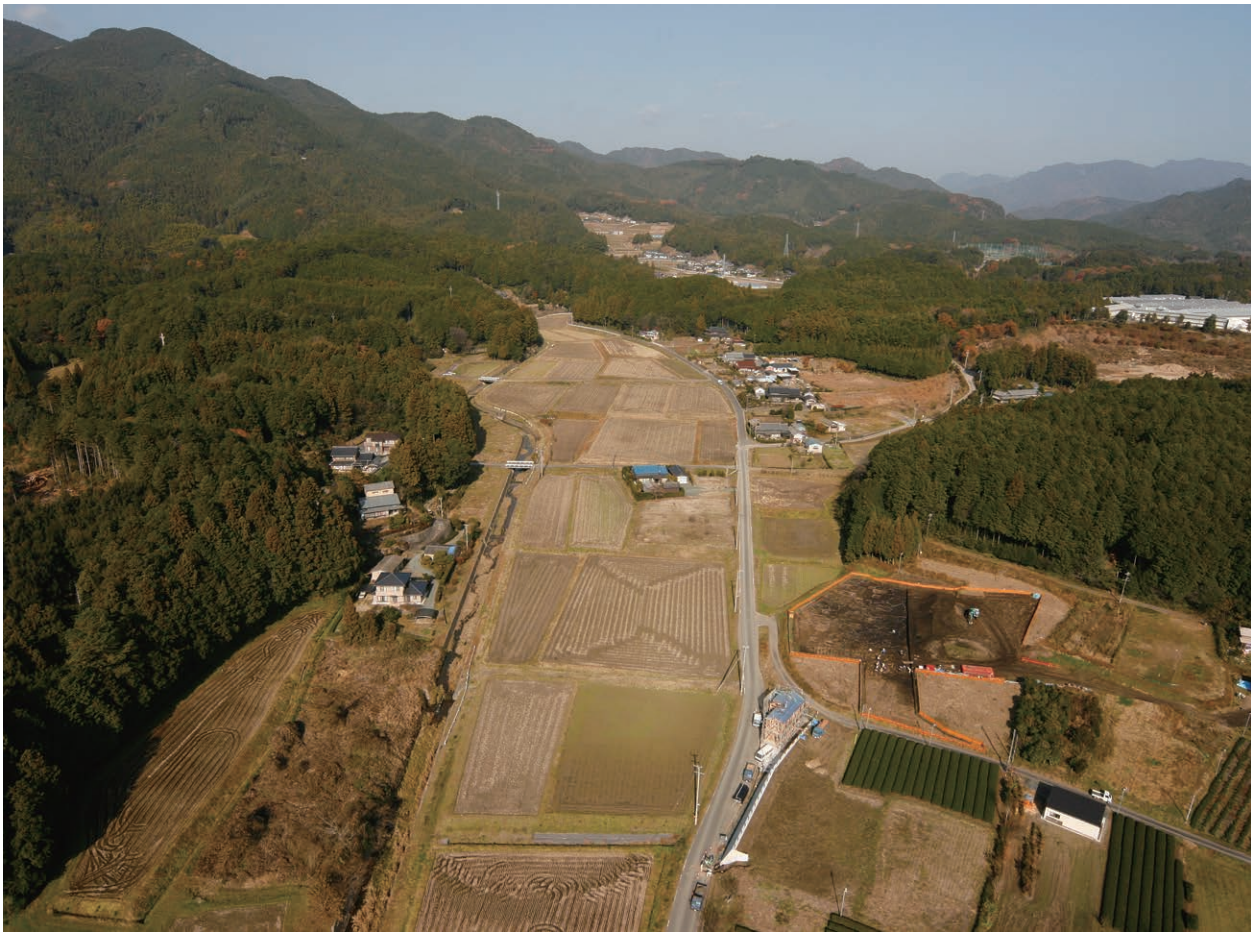
ふりがな	もりしたいせき
書　　名	モリ下遺跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第 196 集
編著者名	樋上　昇・鬼頭　剛・蔭山誠一・川添和暁・佐々木由香・伊藤　茂・安　昭炫・佐藤正教・丹生越子・廣田正史・山形秀樹・小林紘一・バンダリ スダルジャン・Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjliani・小林克也・中村賢太郎・井上　巌
編集機関	公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦 2015 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
もりした モリ下	あいちけんしんしろし 愛知県新城市 やつかほ 八束穂	23221	760286	34 度 55 分 33 秒	137 度 32 分 4 秒	2008.9.16 ～ 2009.3.18 2009.6.2 ～ 2009.12.4	6,600	第二東海自動車道横浜名古屋線建設

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
モリ下遺跡	集落跡	縄文時代早期～後期	竪穴建物、土坑	縄文土器、石器	押型文土器
		古墳時代前期	竪穴建物、溝、土坑	土師器	幅広周溝をもつ竪穴建物
		飛鳥～平安時代		須恵器	
		鎌倉～戦国時代	掘立柱建物、竪穴状遺構、溝、土坑	山茶碗、陶磁器、土師器皿金属製品	溝で区画された居住域

文書番号	発掘届出：埋文（20 埋セ第 48 号）・埋文（21 埋セ第 18 号） 発掘届出：県教委（20 教生第 1201 号）・県教委（21 教生第 349 号） 完了報告：(20 埋セ第 122 号)・(21 埋セ第 90 号) 文化財認定：(21 教生第 2175 号)・(21 教生第 314 号)

要　　約	豊川中流域の右岸に位置する古墳時代前期の集落。150 棟を超える竪穴建物を検出。なかでも数棟は床下施設としての幅広周溝や、周壁を保護する壁板の痕跡を確認。縄文時代早期の遺跡としても貴重な事例。中世は区画溝をめぐらす集落。



08A 区遠景 南西から

08A 区全景 西北から

08A 区全景 北から

08A 区全景 東南上から 1

08A 区全景 東南上から 2

08A 区 3 面 450SK
遺物出土状況 北から

08A 区 3 面 450SK
遺物出土状況 西から 1

08A 区 3 面 450SK
遺物出土状況 西から 2

08A 区 3 面 773SK
遺物分布状況 北上から

08A 区 3 面 774SK
遺物分布状況 北東から

遺構写真図版4

08A区 3面

08A 区 3 面 774SK 遺物分布状況 北から

08A 区 3 面 774SK 完掘状況 北東から

08A 区 3 面 1694SK セクション 北西から

08A 区 3 面 1694SK 遺物出土状況 南から

08A 区 3 面 1703SI 全景 東から

08A 区 2 面遺構検出状況 西から

08A 区 2 面遺構検出状況 南西から

遺構写真図版6

08A区 2面

08A 区 2 面 200SI 床面検出状況 東から

08A 区 2 面 200SI 土器出土状況 東から

08A区2面200SI 南側周溝内遺物出土状況 北から

08A 区 2 面 232SI 遺物出土状況 東南から

08A 区 2 面 200SI 掘り方完掘状況 北東から

08A 区 2 面 257SI 床面検出状況 西南から

08A 区 2 面 290SI 床面検出状況 東南から

08A 区 2 面 290SI 遺物出土状況 南西から

08A 区 2 面 829SK 遺物出土状況 西から 1

08A 区 2 面 829SK 遺物出土状況 西から 2

08A 区 2 面 1051SI 遺物出土状況 1 東南から

08A 区 2 面 1051SI 遺物出土状況 2 西から

08A 区 2 面 1052SI 検出状況 東から

遺構写真図版8

08A区 2面

08A 区 2 面 1052SI 炉南 - 北セクション 東から

08A 区 2 面 1476SI 床面検出状況 東南から

08A 区 2 面 1238SI 完掘状況 東から

08A 区 2 面 1665SK 遺物出土状況 西北から 1

08A 区 2 面 1665SK 遺物出土状況 2 西北から

08A 区 1・2 面遺構検出状況 南から

08A 区 1・2 面遺構検出状況 南東から

08A 区 1・2 面遺構検出状況 北から

遺構写真図版10

08A区 1面

08A 区 1 面遺構検出作業風景 南から

08A 区 1 面 195SI 完掘状況 1 西から

08A 区 1 面 195SI 完掘状況 2 北から

08A 区 1 面 196SI 床面検出状況 1 東から

08A 区 1 面 196SI 床面検出状況 2 北から

遺構写真図版12

08A区 1面

08A 区 1 面 196SI 完掘状況 北東から

08A 区 1 面 197SI 完掘状況 北から

08A 区 1 面 198SI 完掘状況 北から

08A 区 1 面 230・199SD・196SI 全景 東南から

08A 区 1 面 1203・1405SI 全景 東から

遺構写真図版14

08A区 1面

08A 区 1 面南部完掘状況 北から

08A 区 1 面最南部完掘状況 西から

08B 区遠景 南東から

08B 区全景 東南から

遺構写真図版16

08B区

08B 区全景 東南上から

08B 区北部西 東南上から

08B 区北部中央 東南上から

08B 区北部東 東南上から

08B 区中央部東 東南上から

08B 区北部東 南から

遺構写真図版18

08B区 3面


08B 区 3 面 2745SK 礫出土状況 北から


08B区3 面 3299SK 上面遺物出土状況 北東から


08B 区 3 面 3299SK 上面セクション 北東から


08B 区 3 面 3299SK 下面土器出土状況 北から


08B 区 3 面 3403SK 遺物出土状況 南東から


08B 区 3 面 3403SK 遺物出土状況 南西から

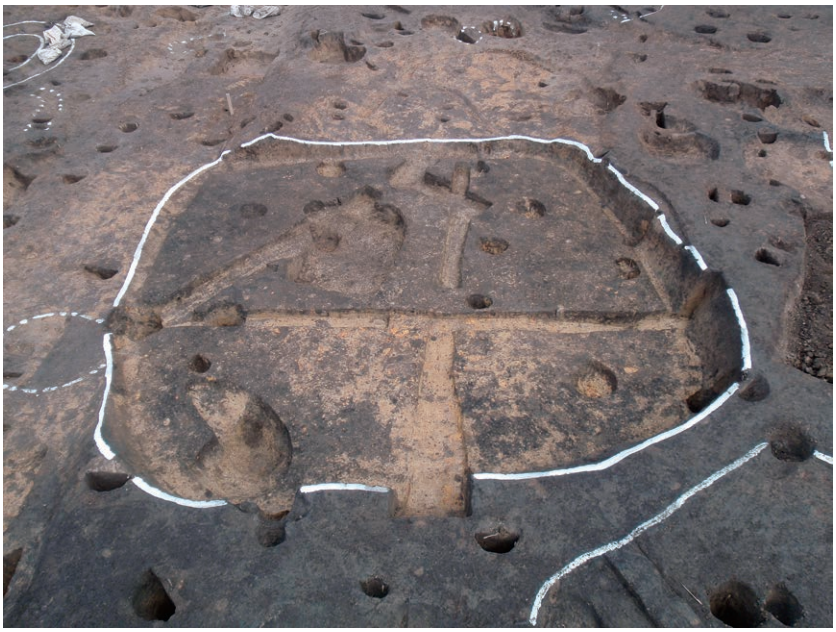

08B 区 3 面 3403SK 礫出土状況 東から


08B 区 3 面 3403SK 礫出土状況 北から

08B 区 2 面 2067SI 遺物分布状況 東から

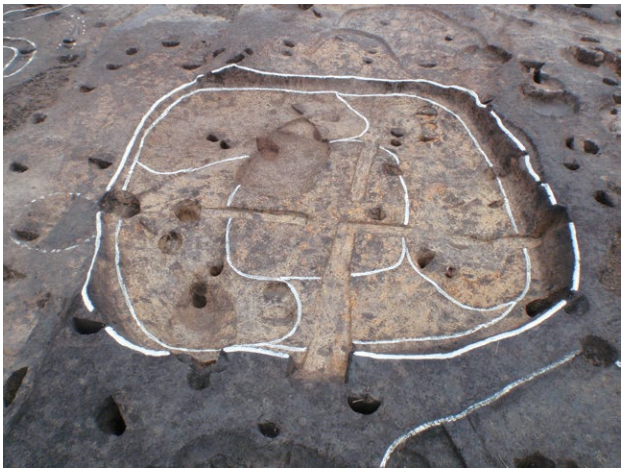
08B 区 2 面 2067SI
遺物出土状況 1

08B 区 2 面 2067SI
遺物出土状況 2



08B 区 2 面 2067SI 床面検出状況 南から

08B 区 2 面 2067SI
遺物出土状況 3



08B 区 2 面 2067SI 掘り方完掘状況 南から

08B 区 2 面 2067SI
南西 - 北東セクション 南東から

遺構写真図版20

08B区 2面

08B 区 2 面 2209SI 掘り方完掘状況 西から

08B 区 2 面 3771SK
(2067SI 柱穴) 遺物出土状況 南上から

08B 区 2 面 2410SI 遺物出土状況 1 北東から

08B 区 2 面 2410SI 遺物出土状況 2 北東から

08B 区 2 面 2410SI 床面検出状況 北東から

遺構写真図版21

08B区 2面

08B 区 2 面 2410SI 掘り方完掘状況 南西から

08B 区 2 面 2410SI 炉 A
北西 - 南東セクション 西南から

08B 区 2 面 2410SI 炉 B
北西 - 南東セクション 西南から

08B 区 2 面 2410SI 炉 B 炉石出土状況 北東から

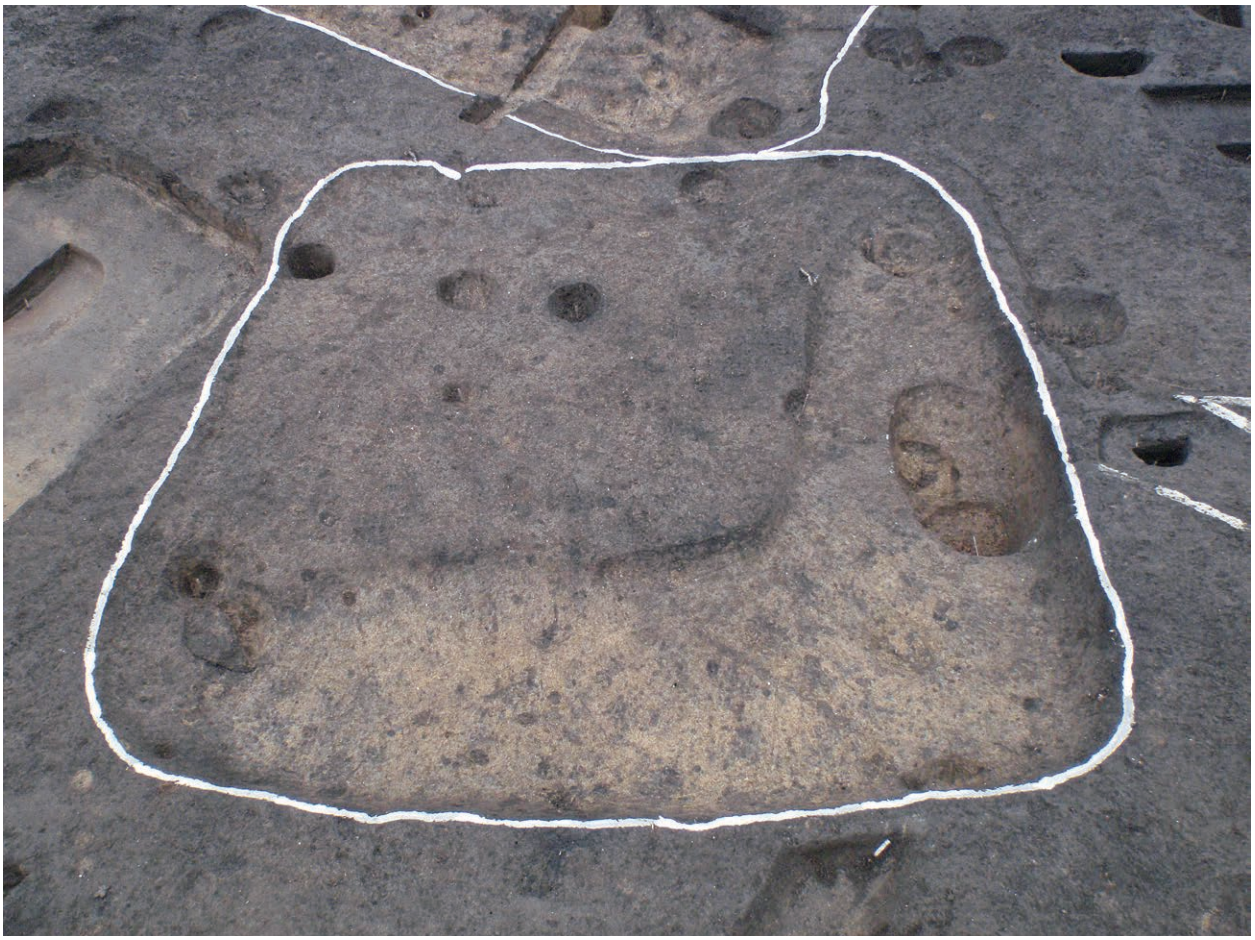
08B 区 2 面 2460SI セクション 南から

遺構写真図版22

08B区 2面

08B 区 2 面 2681SI セクション 南東から

08B 区 2 面 2681SI 西 - 東セクション 西南から



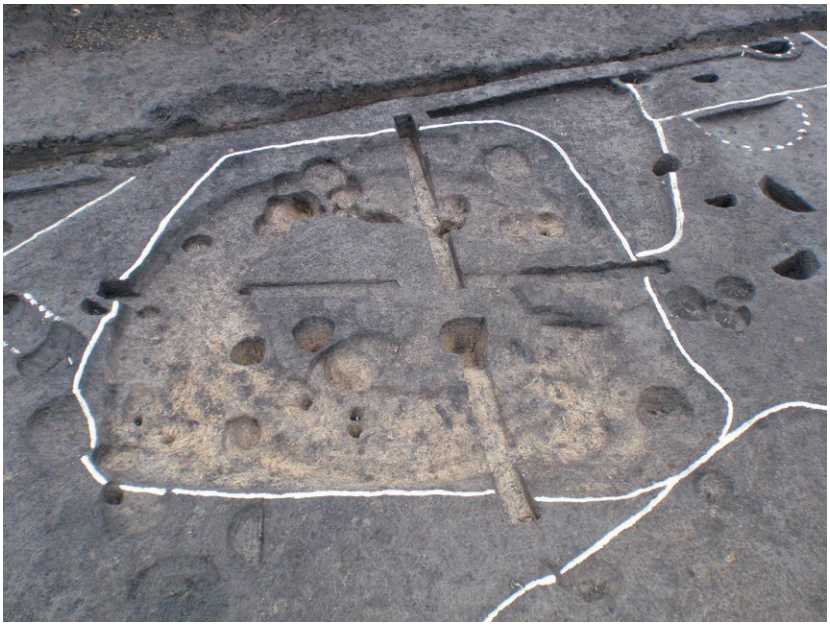
08B 区 2 面 2681SI 掘り方完掘状況 東から

08B 区 2 面 2682SI 床面検出状況 北東から

08B区2面2682SI 北西-南東セクション 西南から

遺構写真図版23

08B区 2面



08B 区 2 面 2682SI 掘り方完掘状況 東南から

08B 区 2 面 2810SI
土器出土状況 西から

08B 区 2 面 2840SK
(2571SI貯蔵穴)セクション 西から

08B 区 2 面 3020SI 床面検出状況 北東から

08B 区 2 面 3020SI
西北 - 東南セクション 南西から

08B 区 2 面 3020SI 東 - 西セクション 南から

遺構写真図版24

08B区 2面

08B 区 2 面 3020SI 掘り方完掘状況 南西から

08B 区 2面3122・3445・3124SI 全景 東から

08B 区 2 面 3124SI 焼土検出状況 東から

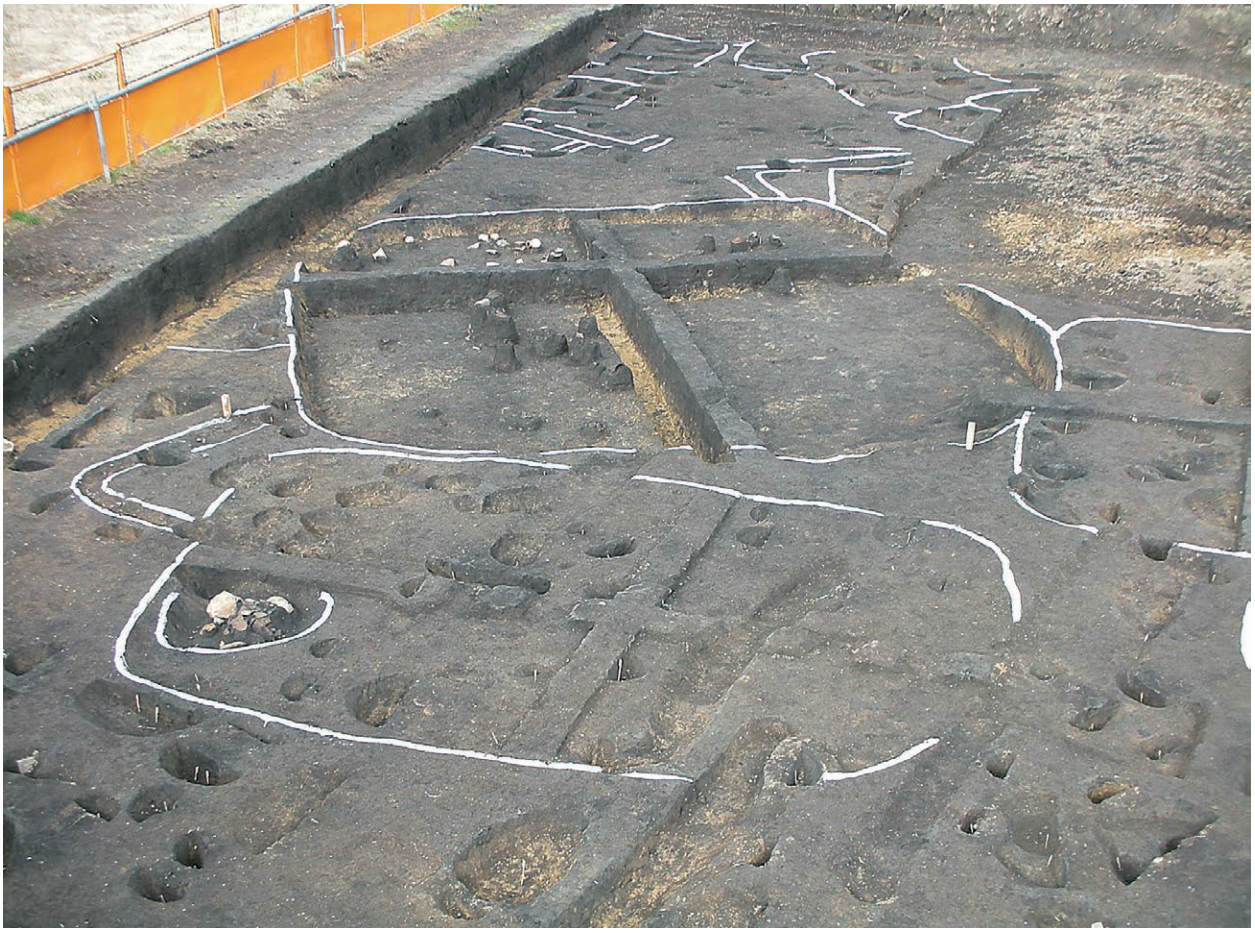
08B 区 2 面 3124SI セクション 北東から

08B 区 2 面 3124SI 東 - 西セクション 北から

08B 区 2 面 3124SI 床面検出状況 1 東から

08B 区 2 面 3124SI 床面検出状況 2 東から

08B 区 2 面 3124SI 掘り方完掘状況 東から



08B 区 2 面 3312・3314SI 全景 東から

08B 区 2 面 3314SI 遺物分布状況 西から

遺構写真図版28

08B区 2面

08B 区 2 面 3314SI
遺物出土状況(南西側)1 北西から

08B 区 2 面 3314SI
遺物出土状況 (南西側) 2 北西から

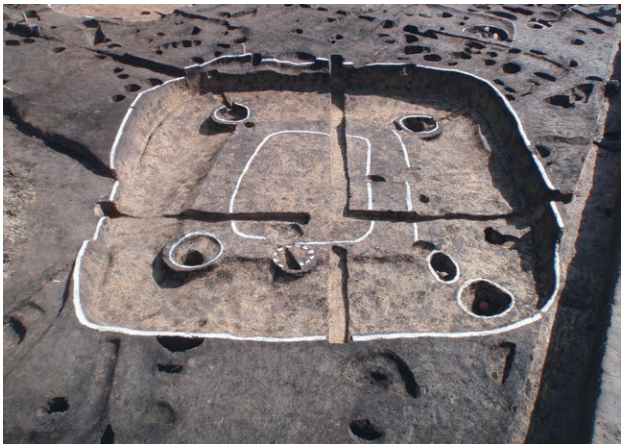
08B 区 2 面 3314SI
遺物出土状況(南西側) 3 北から

08B 区 2 面 3314SI 床面検出状況 東から

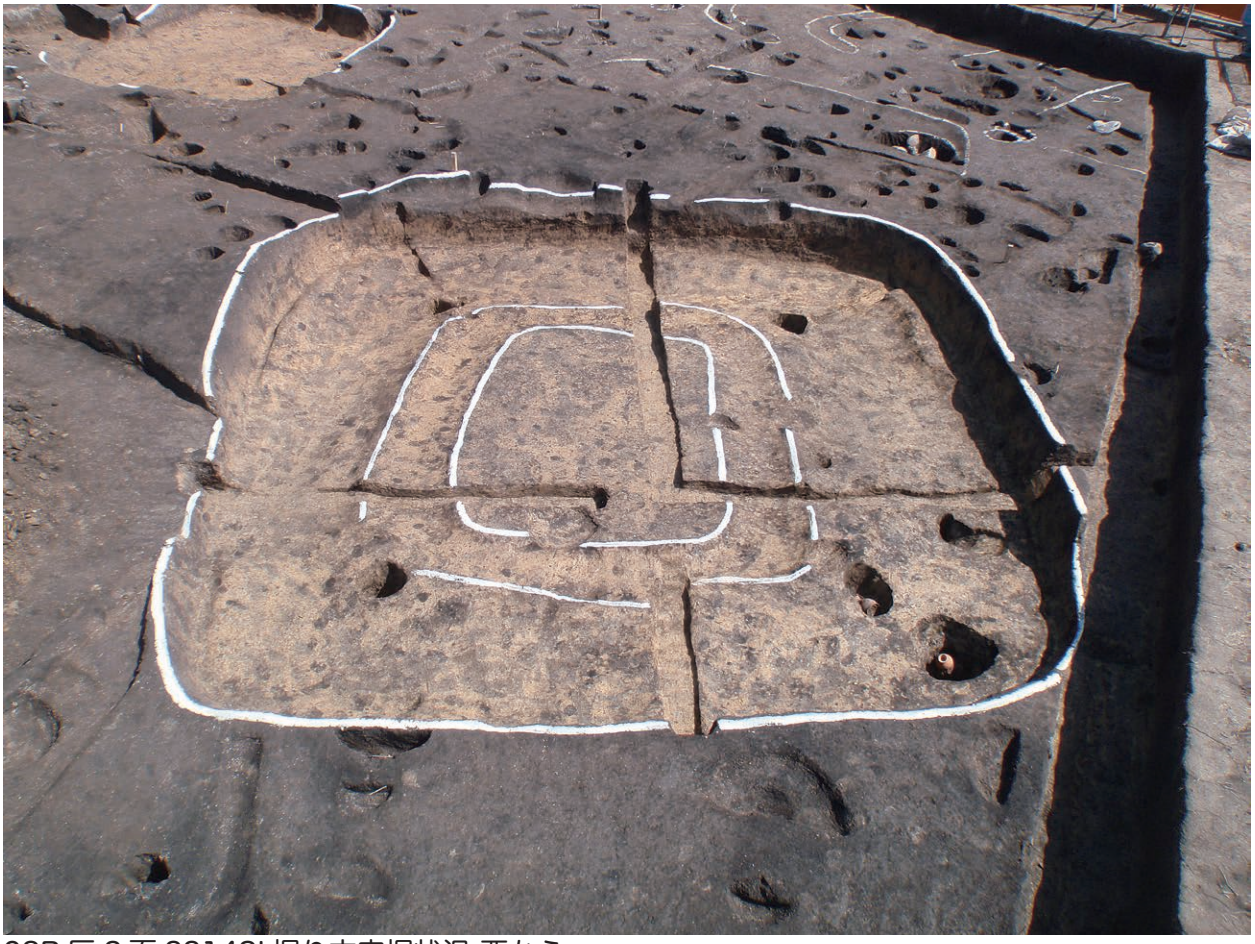
08B 区 2 面 3314SI 東 - 西セクション 南から

08B 区 2 面 3314SI 壁溝壁板痕跡 南から

08B 区 2 面 3314SI 掘り方検出状況 1 東から



08B 区 2 面 3314SI 掘り方検出状況 2 西から



08B 区 2 面 3314SI 掘り方完掘状況 西から

08B 区 2 面 3825SK(3314SI 貯蔵穴)
遺物出土状況 北東から

08B 区 2 面 3846SK(3314SI 貯蔵穴)
セクション 北東から

08B 区 2 面 3699SI(872SI)
床面検出状況 南東から

08B 区 2 面 3699SI
西南 - 東北セクション 東から

遺構写真図版30

08B区 2面

08B 区 2 面 3699SI
南西 - 北東セクション壁板痕跡 南東から

08B 区 2 面 3699SI 遺物出土状況 北から

08B 区 2 面 3699SI 掘り方完掘状況 西南から

08B 区 2 面 3699SI 炉
検出状況 東北から

08B 区 2 面 3699SI 炉
西北 - 東南セクション 南西から

08B 区 2 面 3699SI 炉
完掘状況 南西から

08B 区 1 面 1851SD 完掘状況 東南から

08B 区 1 面 2013・2014SI
南西 - 北東セクション 東南から

08B 区 1 面 2013・2014SI
南西 - 北東セクション 北東から

08B 区 1 面 2066SI セクション 南東から

08B 区 1 面 2068SK セクション 北東から

08B区1 面 2960・2959SK 完掘状況 南西から

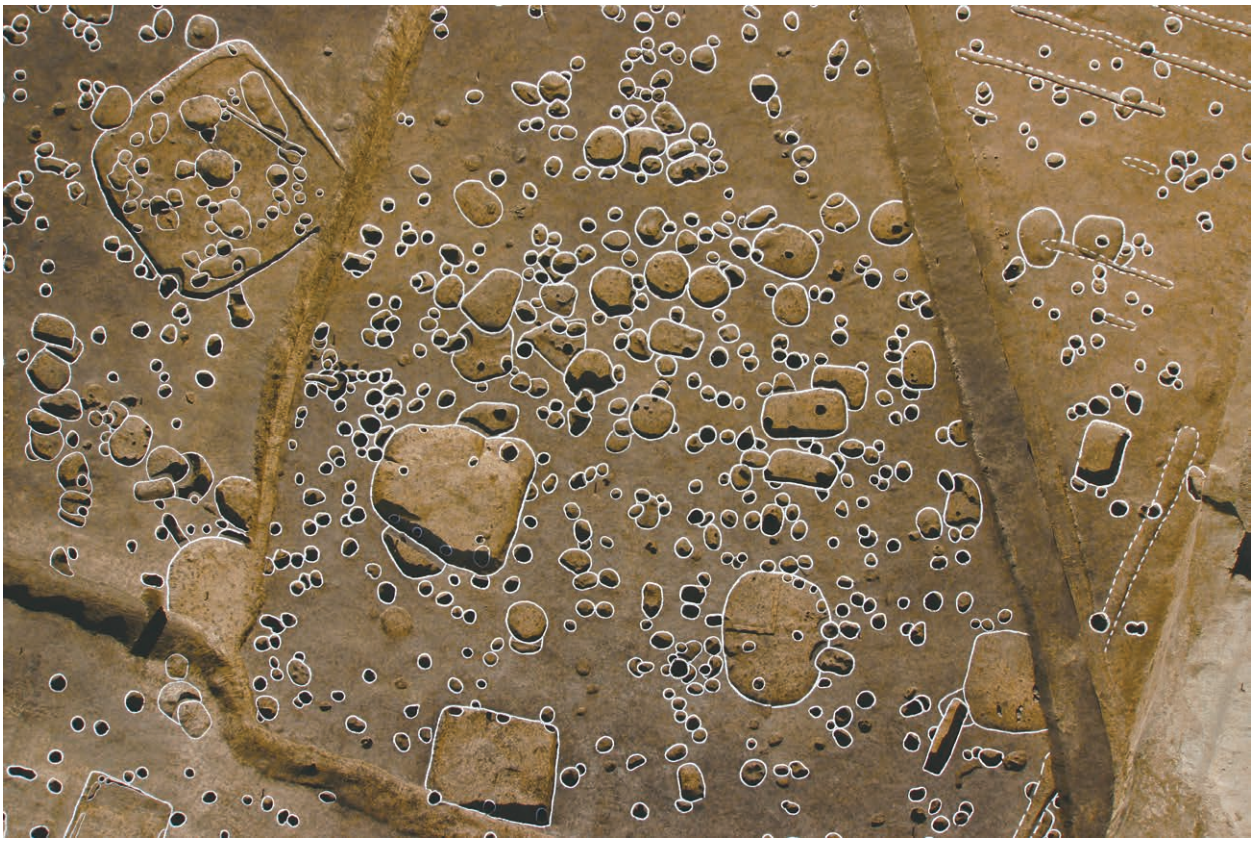
08B 区 1 面 3073SK セクション 南西から

08B 区 1 面 3073SK 完掘状況 南西から

09 区遠景 東から

09 区遠景 北から

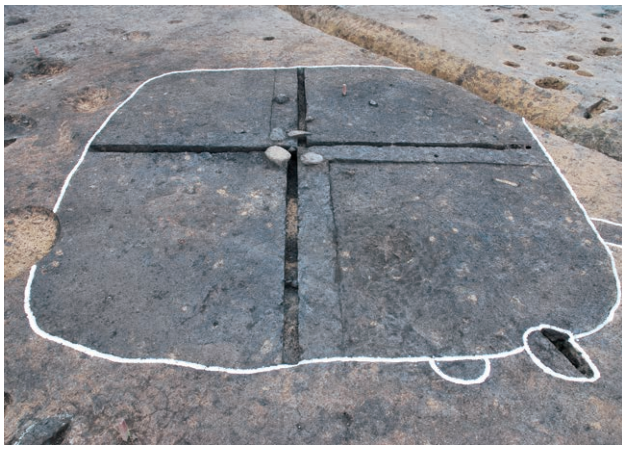
09 区全景 北上から



09 区中央部 北上から

遺構写真図版34

09区 2面


09 区 2 面 6548SI 検出状況 南から


09 区 2 面 6548SI 遺物分布状況 西から


09 区 2 面 6548SI 検出状況 西から


09区2 面 6548SI 東 - 西セクション西側 北から


09区2 面 6548SI 東 - 西セクション東側 南から


09区2 面 6548SI 南 - 北セクション南側 東から


09区2 面 6548SI 南 - 北セクション北側 西から


09 区 2 面 6548SI 床面検出状態 西から

09 区 2 面 6548SI 焼土検出状況 南から

09 区 2 面 6548SI 掘り方完掘状況 2 西から

09区2 面 6548SI 掘り方完掘状況 1 北西上から

09 区 2 面 6610SI 床面検出状況 西から

09区2面6610SI掘り方完掘状況(ベルト残) 北から

09 区 2 面 6610SI 掘り方完掘状況 西から

09 区 2 面 6792SI 検出状況 北から

09 区 2 面 6792SI 遺物分布状況 1 南から

09 区 2 面 6792SI 遺物分布状況 2 北から

09 区 2 面 6792SI 遺物出土状況 1 南から

09 区 2 面 6792SI 遺物出土状況 2 南から

09 区 2 面 6792SI 遺物出土状況 3 南から

09 区 2 面 6792SI 遺物出土状況 4 北から

09 区 2 面 6792SI 遺物出土状況 5 南から

09 区 2 面 6792SI 遺物出土状況 6 北から

09区2面6792SI床面検出状況（ベルト残） 北から

09 区 2 面 6792SI 床面検出状況 北から

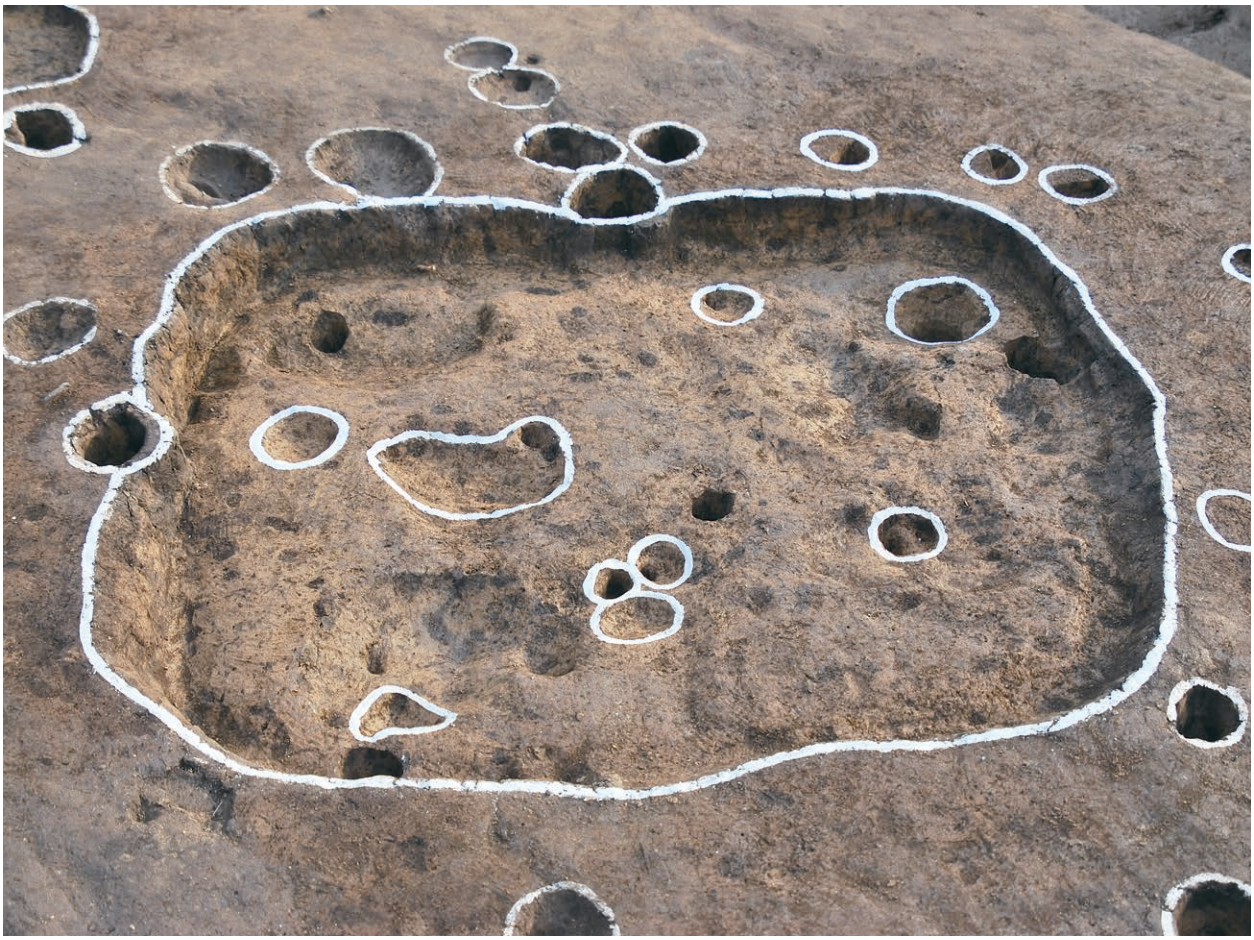
09区2 面 6792SI 東 - 西セクション西側 北から

遺構写真図版38

09区 2面

09区2面 6792SI 南 - 北セクション北側 西から

09 区 2 面 6792SI 掘り方完掘状況 2 南から

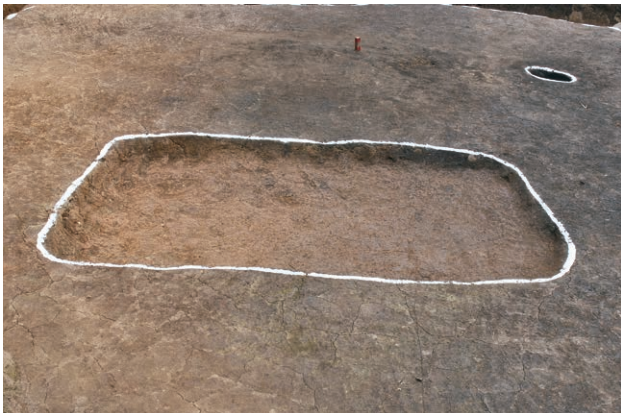


09 区 2 面 6792SI 掘り方完掘状況 1 西から

09 区 2 面 7418SK（6792SI 内）遺物出土状況 南から

09 区 1 面遺構全体垂直（北上）

09 区 1 面遺構調査区北側スポット垂直（北上）



09 区 1 面 5001SK 完掘状況 西から

09 区 1 面 5010SK 完掘状況 南から

09 区 1 面 6001・6002SK 検出状況 南西から

09 区 1 面 6001SK、6002SK
東 - 西セクション 南から

09 区 1 面 6001SK、6002SK
南北セクション 東から

09 区 1 面 6001SK 遺物出土状況 1 東から

09 区 1 面 6001SK 遺物出土状況 2 南から

09 区 1 面 6001SK 東 - 西セクション 1 南から

09 区 1 面 6001SK
東 - 西セクション 2 南から

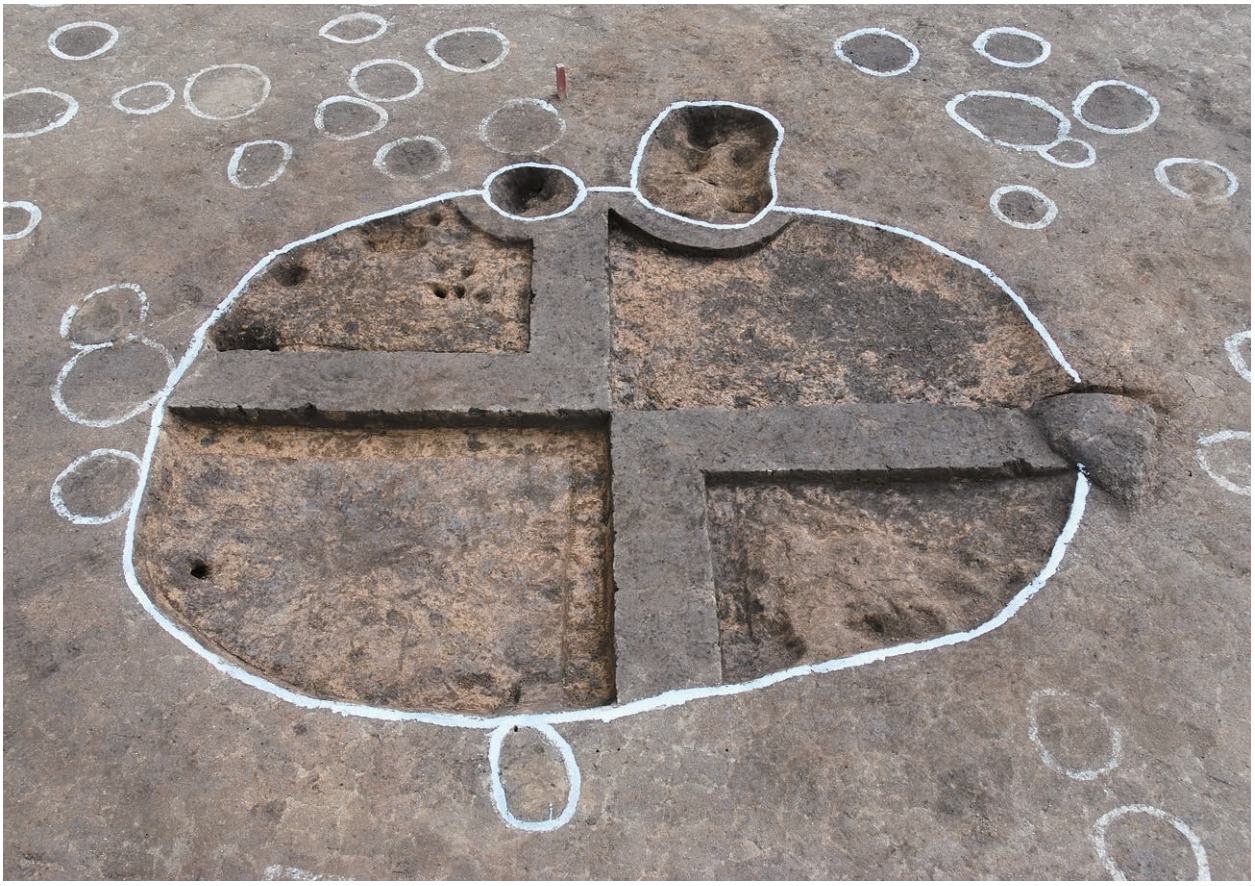
09 区 1 面 6001SK
東西セクション 3 南から

09 区 1 面 6001SK
甕埋土セクション 南から

09 区 1 面 6002SK
東 - 西セクション 1 南から

09 区 1 面 6838SI 検出状況 西から

09 区 1 面 6002SK 東 - 西セクション 2 南から



09 区 1 面 6838SI 床面検出状況（ベルト残）西から

09 区 1 面 6838SI 完掘状況 南から

09 区 1 面 6839SI 完掘状況 西から

09 区 1 面 6839SI 検出状況 南から

09 区 1 面 6843SI 検出状況 北から

09区1 面 6843SI 南 - 北セクション南側 西から

09 区 1 面 6843SI 焼土検出状況 南から

09 区 1 面 6843SI 完掘状況 南から

09 区 1 面 6843SI 柱穴検出状況 南から

09区1面6844SI床面検出状況（ベルト残） 西から

09 区 1 面 6844SI 柱穴検出状況 西から

09 区 1 面 6849SI 検出状況 東から

09 区 1 面 6849SI 完掘状況 南から

09区1面6849SI床面検出状況（ベルト残）南から

09 区 1 面 6850SI 検出状況 西から

09 区 1 面 6850SI 完掘状況 東から

09 区 1 面 6850SI 焼土検出状況 南から

09 区 1 面 6851SI 検出状況 西から

09 区 1 面 6851SI 遺物出土状況 1 西から

09 区 1 面 6851SI 遺物出土状況 2 西から

09 区 1 面 6851SI 遺物出土状況 3 南から

09 区 1 面 6851SI 床面状況 西から

09 区 1 面 6851SI 完掘状況 西から

09 区 1 面 6852SI 完掘状況 西から

09 区 1 面 6852SI 検出状況 西から

09 区 1 面 6853SI 検出状況 南から

09 区 1 面 6853SI 完掘状況 東から

遺構写真図版48

09区 1面

09区1面6854SI床面検出状況（ベルト残） 西から

09 区 1 面 6882SK 東 - 西セクション 1 南から

09 区 1 面 6854SI 柱穴検出状況 西から

09 区 1 面 6882SK 東 - 西セクション 2 南から

09 区 1 面 6882SK 遺物出土状況 1 西から

09 区 1 面 6882SK 遺物出土状況 2 北から

09 区 1 面 6882SK 遺物出土状態 E-286 北から

09 区 1 面 6882SK 遺物出土状態 E-287 北から

09 区 1 面 6882SK 遺物出土状態 E-288 北から

09 区 1 面 7275SI 完掘状況 西から

09 区 1 面 8073SB 完掘状況 西から

09 区 1 面 8073SB 完掘状況スケール入 西から

遺物写真図版1


1


6


2


3 4 5


10

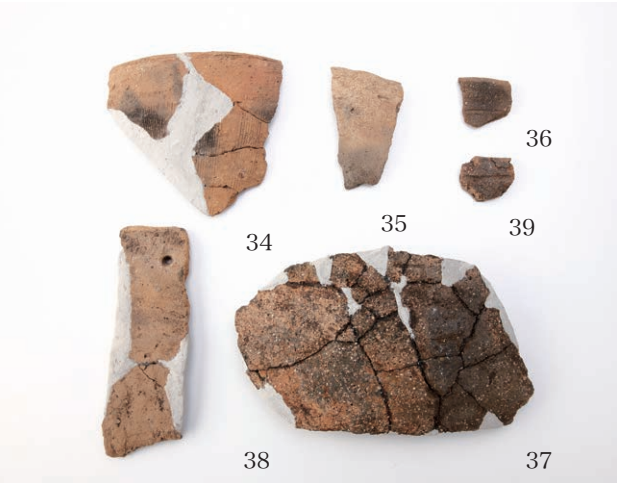

7 9 8


11 12 13 14 15 16 17 18 19 23 21 20 22


24 25 26 27

遺物写真図版2


28
29
30
31
32
33


36
34
35
39
38
37


40
41
42
43
45
46
44
47
48


55
56
57
58
61
59
60
62


50
51
49
53
52
54


63


66
65
64


67
68
69
70

遺物写真図版3


71

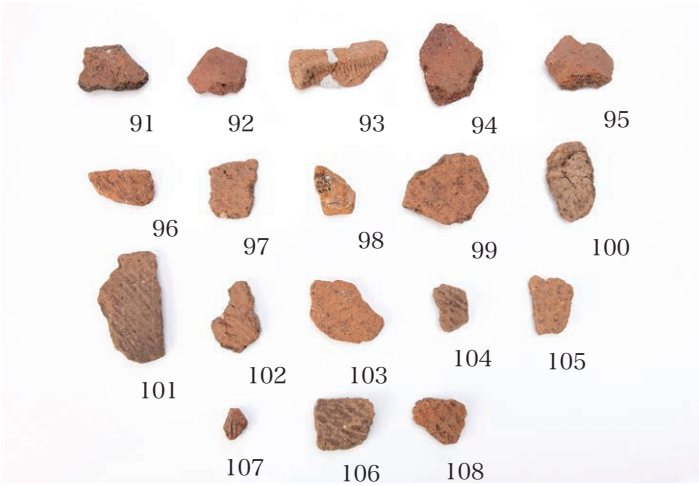

73


74


75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
72


86
87
88
89
90


109


91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
107
106
108

遺物写真図版4

2067SI 集合写真

109

111

112

115

遺物写真図版5

118

119

122

123

126

129

130

131

遺物写真図版6

135

136

137

142

144

147

151

160

遺物写真図版7

166

167

170

177

179

180

181

187

遺物写真図版8

188

191

206

207

208

209

210

211

遺物写真図版9

212

213

214

215

219

220

221

227

遺物写真図版10


235


236


238


241


249


252


253


257

遺物写真図版11


261


265


268


277


279


280


283


284

遺物写真図版12

285

286

287

288

302

遺物写真図版13


1
2
3
4
5
6
7
8
9


10
11
12
13
14
15
16
17


18
19
20
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31


21 表
21 裏


32
33
34
35
36
37


38
39
40


41
42
43
44
45
46
47
48
49


50

遺物写真図版14


51
52
53
54
55


56
59
65
60
61
63
64
58
62
57


62 表
62 裏


66
67
71
69
70
68


72


73


74


75

遺物写真図版15

76

77

78

81 79 80

82 83

遺物写真図版16

1

2

3

4

5

6

7

8

遺物写真図版17


9


10


11


12


13


14


15


16

遺物写真図版18

17

18

19

20

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第 196 集

モリ下遺跡

2015 年 3 月 31 日

編集・発行　公益財団法人　愛知県教育・
スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印刷　サンメッセ株式会社